

茨城県教育財団文化財調査報告第285集

うえ の ふる や しき
上野古屋敷遺跡1

中根・金田台特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ

中 卷

平成 19 年 3 月

独立行政法人 都市再生機構茨城地域支社
財団法人 茨城県教育財団

目 次

— 中 卷 —

第3章 調査の成果	
第3節 遺構と遺物	
7 中世の遺構と遺物	
(7) 溝跡	373
(8) 道路跡	572
(9) 方形堅穴遺構	574
(00) 地下式坑	583
(01) 墓坑	600
(02) 火葬土坑	617
(03) 土坑	622
(04) 土坑群	635
8 近世の遺構と遺物	644
墓坑	644
9 その他の遺構と遺物	655
(1) 溝跡	655
(2) 道路跡	658
(3) 土坑	659
(4) 埴跡	668
(5) 炭焼遺構	669
(6) 不明遺構	669
(7) 遺物包含層	673
(8) 遺構外出土遺物	679
第4節 まとめ	684

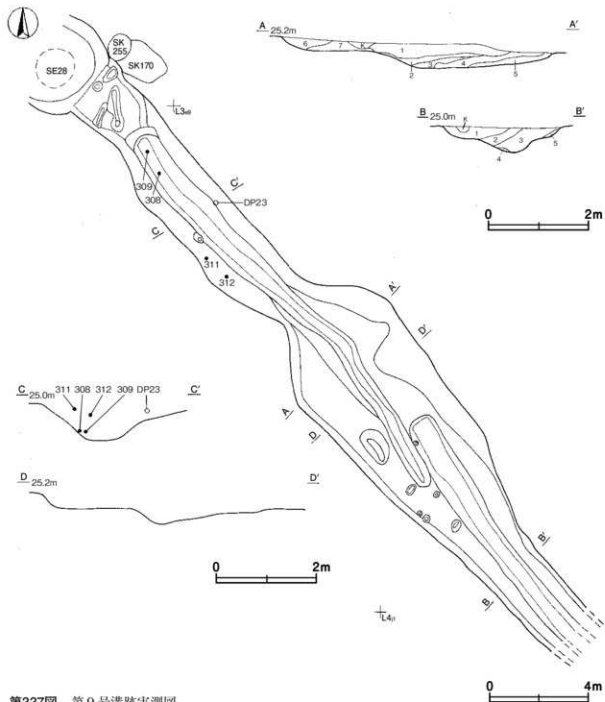
付図

(7) 溝跡

中世の溝跡は、200条が確認されている。ここでは、当遺跡の性格を考察するうえで重要な溝跡は図版と文章で説明し、それらと重複する主な溝跡については簡潔な説明とした。なお、重複関係については、同時期に機能していたと判断できる遺構については切り合い関係を記述した。その他は、一覧表と全測図で紹介し、あわせて土層断面図または断面図と遺物実測図を記載する。また、図示した遺物については、出土遺物観察表で記載した。

第9号溝跡 (第337・338図)

位置 調査区南西部のL3 d8～L4 j2区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。



第337図 第9号溝跡実測図

重複関係 第28号井戸を切り、第1号土坑群の一部に掘り込まれている。

規模と形状 L3d8区から南東方向(N-38°-W)へ直線的に延びている。確認された長さは28mほどで、上幅2.0～5.4m、下幅0.4～0.8m、深さ38～62cmである。断面形は逆台形状と浅いU字状の部分が見られ、壁は緩やかに立ち上がっている。

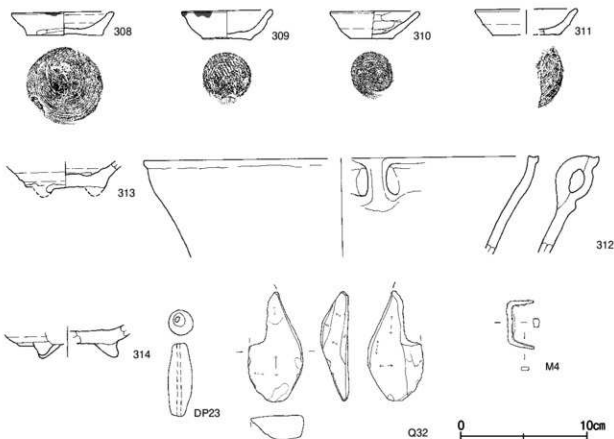
覆土 7層に分層される。含有物と遺物の出土状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------|--------|----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | 6 極暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック多量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片407点(皿34、内耳鍋類357、香炉2、掃鉢14)、陶器片3点(皿1、常滑系甕2)、土製品1点(管状土錘)、石器1点(砥石)、鉄製品1点(鏡カ)、鉄滓8点と、流れ込んだ縄文土器片2点、礫8点及び混入した磁器片1点が出土している。308・309・311・312、DP23を含めた遺物の大部分は、第28号井戸に近い北部の覆土中層から下層にかけて投棄されたように出土している。310・313・314・Q32・M4は覆土中から出土している。

所見 掘り方の形状と第28号井戸を上端で掘り込んでいることから、井戸に溜まった水を利用した洗い場のような水場遺構と推測される。また、西から東に向かって底面の高さが傾斜していることから、調査区南部で標高の最も低い位置にある第41号井戸の方向に水を流し込んでいたとも推測されるが、削平のため東端の掘り方は確認されていない。さらに、第3号道路と共に、屋敷跡と考えられる第7～10号獨立柱建物と土坑群域とを区画する機能をもっていたもので、時期は、出土土器から16世紀代と考えられる。



第338図 第9号溝跡出土遺物実測図

第9号溝跡出土遺物観察表 (第338図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
308	土師質土器	皿	8.1	1.9	6.1	雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部同 転糸切ナデ	底面	95%11層部遺構付帯 PL108
309	土師質土器	皿	7.0	2.4	3.8	赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部同 転糸切ナデ	覆土下層	95%11層部遺構付帯 PL108
310	土師質土器	皿	6.9	2.3	3.3	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部同 転糸切ナデ	覆土中層	95%
311	土師質土器	皿	[8.0]	2.1	[5.4]	赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部同 転糸切ナデ	覆土中層	30%
312	土師質土器	内耳罎	[31.6]	(7.8)	—	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	1内耳残存 内面から口縁部外面後ナデ	覆土上層・中層	10%
313	土師質土器	香炉	—	(2.4)	6.3	雲母・赤色粒子	橙	普通	3足脚 脚部欠損の体部破片 内・外面	覆土中層	10%
314	土師質土器	香炉	—	(2.6)	(7.5)	雲母・赤色粒子	橙	普通	3足脚 底部と1脚部の破片 内・外面	覆土中層	

番号	器種	径	口径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP23	管状土師	5.8	0.4	1.9	21.4	土製	全面ナデ 一方からの穿孔	覆土中層	100%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q32	灰石	(8.8)	4.4	2.2	(72.6)	凝灰岩	端部欠損 縦面3面	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M4	皿	3.9	2.2	0.5	(15)	鉄	両端部欠損	覆土中層	PL123

第19B号溝跡 (第339～341図)

位置 調査区南東部のL5e9～M6b4区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第120・131A溝、第39号井戸、第9号水溜遺構を切り、第144・170号溝に切られている。

規模と形状 L5e9区から南東方向(N-35°-W)へ直線的に延び、第39号井戸に連結している。確認できた長さは33mほどで、上幅0.76～1.72m、下幅0.2～0.6m、深さ24～56cmである。断面形は、深い部分は逆台形状、比較的浅い部分は緩やかなU字状で、壁は深い部分は外傾、浅い部分は緩やかに立ち上がっている。

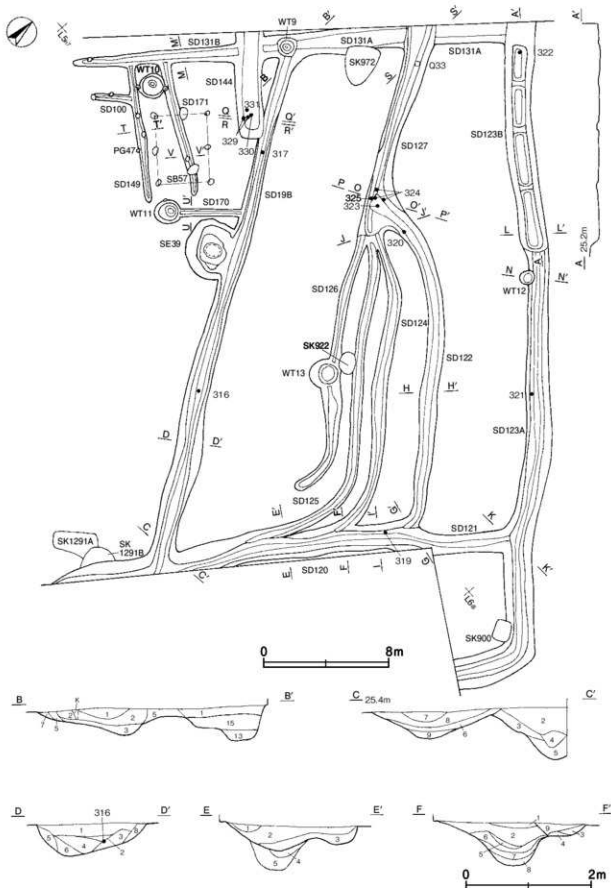
覆土 9層に分層される。一部第120号溝との重複部(C-C')は含有物から人為堆積と考えられるが、その他は、含有物とレンズ状の堆積状況を呈していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説 (B-B', D-D', Q-Q')

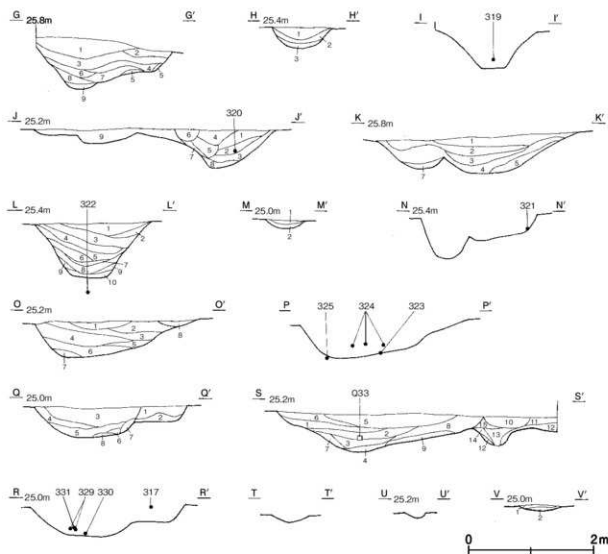
1 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	6 黒褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・粘土粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
3 黒褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子微量	8 黒褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量	9 暗褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師質土器片75点(皿44、内耳罎30、搦鉢1)が出土している。これらの土器片は、第47・48号ビット群をはじめとする周囲の遺構から流れ込んだものと考えられる。316・317は底面、315・318・DP24は覆土中からそれぞれ出土している。この他、流れ込んだ縄文土器片2点、土師器片11点、須恵器片2点、礫1点も出土している。

所見 形状と覆土から、L5e9区から調査区域外を挟んで北西方向へ直線的に延びている第19A号溝と同一の溝と考えられ、調査区南部と南東部を斜めに横断している。また、第120号溝に連結して排水していたと想定でき、区画と排水の機能をもっていたものと考えられる。なお、覆土の第1層が硬化していることから、一時期道路として使用されていたものと推測される。時期は、出土土器から16世紀代と考えられる。



第339图 第19B·100·120~122·123A·123B·124~127·131A·131B·144·149·170·171号溝跡実測图(1)



第340図 第19B・100・120～122・123A・123B・124～127・131A・131B・144・149・170・171号溝跡実測図(2)

第100号溝跡 (第339～340図)

位置と規模 調査区東部のL 5 g8～L 5 h8区に位置している。L 5 h8区から、北東方向(N-47°-E)へ直線的に延び、L 5 g8区で第149号溝に連結している。長さは2.7mで、上幅0.31～0.47m、下幅0.1～0.25m、深さ9～21cmである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 単一層。ローム粒子と炭化粒子を少量含む暗褐色土である。含有物から自然堆積である。

所見 覆土と方向性から、雨水等を第149号溝に排水する機能があったものと推測される。時期は、重複関係から第149号溝とはほぼ同時期の16世紀後半と考えられる。

第120号溝跡 (第339～341図)

位置 調査区南東部のM 6 c3～L 6 i6区で、標高26mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第1291B号土坑を掘り込み、第19B・121・122・124・125号溝に切られている。

規模と形状 L 6 g7区から東部の調査区域外との地境に沿って、南西方向(N-147°-W)へ直線的に延び、M 6 b3区で調査区域外へと向かっている。確認された長さは24.6mで、上幅1.20～1.25m、下幅0.20～0.45m、

深さ60～66cm、断面形は逆台形状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 8層に分層される。第1・2層は含有物から人為堆積であり、その他は含有物とレンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説 (C-C', E-E', F-F')

1 暗褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子中量、炭化粒子微量	4 黒褐色	粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
2 暗褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子微量	5 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量
3 黒褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子微量	6 黒褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
		7 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量
		8 黒褐色	粘土ブロック・ローム粒子少量

遺物出土状況 土師質土器片45点(皿2、内耳鍋42、播鉢1)と、流れ込んだ土師器片1点、須恵器片1点、礫1点が出土している。319は、第122号溝と連結する南部の底面から出土している。

所見 第19B・122～125号溝と連結し、本跡に雨水を排水されていたと考えられる。東方向には谷津があり、溜まった水を排水するとともに、地境に沿っていることから区画の機能もあったと推測される。時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。

第121号溝跡 (第339・340図)

位置と規模 調査区南東部のL6g7～L6i6区に位置している。L6g7区から、南西方向(N-140°-W)へ直線的に延び、L6i6区で第120号溝に連結している。長さは6.8mで、上幅1.14～1.36m、下幅0.22～0.36m、深さ48cm、断面形は逆台形で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 第122・123A号溝との接続部の土層から、人為堆積と判断できる。

所見 第120号溝と第123A号溝を連結することにより、第123号溝からの雨水を第120号溝に流し、水量を調整したと考えられる。時期は、重複関係から16世紀後半と考えられる。

第122号溝跡 (第339～341図)

位置 調査区南東部のL6e2～L6i6区で、標高26mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第127号溝を切り、第120・121号溝に切られている。

規模と形状 L6e2区から、南東方向(N-135°-E)へは直線的に延び、L6i6区で第120・121号溝に連結している。長さは22mほどで、上幅0.82～1.26m、下幅0.3～0.5m、深さ36～58cm、断面形は緩やかなU字状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 中央部(H-H')は3層に分層され、含有物と堆積状況から自然堆積である。連結部分(J-J')では8層に分層され、含有物は人為堆積の状況を示している。第9層は第124～126号溝と共通する覆土である。

土層解説 (H-H')

1 黒褐色	ロームブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量	3 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック微量
2 黒褐色	粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量		

土層解説 (J-J')

1 黒褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック・炭化物微量	6 黒褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量	7 灰黄褐色	粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
4 黒褐色	粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量	8 灰褐色	粘土粒子多量、ローム粒子微量
		9 黒褐色	ローム粒子・粘土粒子・炭化粒子微量 (第124～126号溝跡と共通の覆土)

遺物出土状況 土師質土器片9点(皿4、内耳鍋2、播鉢3)、陶器片1点(皿)が出土している。320は、第127号溝に近い西部底面から出土している。その他、縄文土器片1点、石器1点(磨石)、礫2点も出土し

ている。

所見 第127号溝からの雨水等を、第120号溝へ排水していたと考えられ、第124・125号溝のバイパスとして掘削された溝と推測される。時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。

第123A号溝跡（第339～341図）

位置 調査区南東部のL6d4～L6j9区で、標高26mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第121・123B号溝、第12号水溜遺構を切り、第900号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 L6d4区で第123B号溝から派生し、南東方向（N-136°-E）へ直線的に延び、L6i0区で南西方向（N-155°-W）へ屈曲して、L6j9区で調査区域外へ延びている。確認できた長さは30mほどで、上幅1.24～2.12m、下幅0.18～0.54m、深さ40～62cm。断面形は深い部分が逆台形で浅い部分が緩やかなU字状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 第121号溝との重複部（K-K'）の覆土は7層に分層される。レンズ状の堆積状況を呈しているが、含有物から人為堆積の状況を示し、第121号溝と同時期に埋められたと考えられる。

土層解説（K-K'）

1 暗褐色	ロームブロック多量、粘土ブロック少量、炭化粒子微量	4 黒褐色	ローム粒子中量、粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量	5 暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、炭化物微量
3 暗褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック少量	6 褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量
		7 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片1点（皿）の321は、ほぼ中央部の底面から出土している。その他、礫1点も出土している。

所見 第121号溝と第123B号溝とを連結して、雨水を調整していたと考えられる。南東方向70mの地点には谷津が入り込んでおり、溜まった水を谷津の方向に排水していたと推測される。時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。

第123B号溝跡（第339～341図）

位置 調査区南東部のL6b1～L6d4区で、標高26mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第123A・131A号溝に切られている。

規模と形状 L6d4区で第123A号溝と連結し、北西方向（N-53°-W）へ直線的に延び、L6b1区で第131A号溝と連結している。長さは14.4mで、上幅1.7～1.96m、下幅0.36～0.56m、深さ88cmで、断面形は逆台形状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

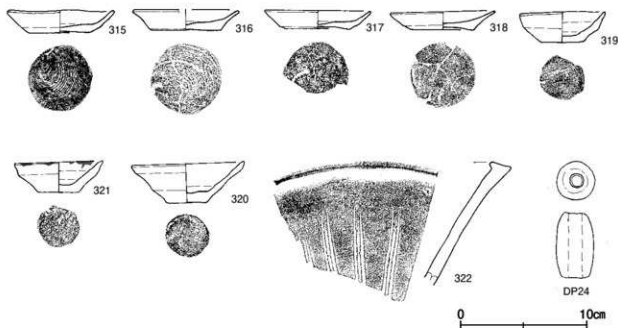
覆土 10層に分層される。第1～3層は含有物から人為堆積、第4層以下は含有物とレンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説（L-L'）

1 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子微量	5 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量、粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
2 暗褐色	粘土ブロック・ローム粒子中量	7 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子微量	8 黒褐色	ローム粒子中量、粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック中量、炭化粒子微量	9 にぶい黄褐色	ローム粒子・粘土粒子中量
		10 灰黄褐色	粘土粒子多量、ローム粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片4点（皿2、内耳鍋1、鉢鉢1）が出土している。322は、第131号溝との連結部付近の底面から出土している。その他、流れ込んだ縄文土器片1点も出土している。

所見 底面が障子堀状に区画されていることから、一定量の水を溜めておく機能をもっていたと推測される。また、第123A号溝と第131号溝とを連結することで、雨水等の流れを調整したと考えられる。時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。



第341図 第19B・120・122・123A・123B号溝跡出土遺物実測図

第19B号溝跡出土遺物観察表 (第341図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
315	土器	甕	8.5	1.8	5.0	雲母・赤色砂子	に濃い黄褐色	普通	体部内・外面口クロナデくぼむ。底部回転糸切り	底面中央部が覆土中	70% 11号溝にゆがみ Pt.108
316	土器	甕	[8.4]	1.6	5.6	長石・石黒・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデくぼむ。底部回転糸切り	底面中央部が	70%
317	土器	甕	8.4	1.4	5.1	石黒・赤色砂子	に濃い黄褐色	普通	体部内・外面口クロナデくぼむ。底部回転糸切り	底面中央部が	55%
318	土器	甕	8.4	1.6	5.0	長石・赤色砂子	に濃い黄褐色	普通	体部内・外面口クロナデくぼむ。底部回転糸切り	底面中央部が	60%
DP24	管状土師		5.2	1.1	3.0	47.0	土製	彫形	全面ナデ	覆土中	

第120号溝跡出土遺物観察表 (第341図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
319	土器	甕	6.8	2.4	3.6	雲母・赤色砂子	に濃い黄褐色	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ。底部回転糸切り	底面	80%

第122号溝跡出土遺物観察表 (第341図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
320	土器	甕	9.0	3.3	3.3	雲母・赤色砂子	に濃い黄褐色	普通	体部内・外面口クロナデ。底部回転糸切り	底面	100% Pt.109

第123A号溝跡出土遺物観察表 (第341図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
321	土器	甕	6.9	2.4	3.4	赤色砂子	浅黄褐色	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデくぼむ。底部回転糸切り	底面が覆土中	85% 11号溝にゆがみ

第123B号溝跡出土遺物観察表 (第341図)

番号	種類	器種	1径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
322	土師器土器	腰鉢	〔37.8〕	(9.7)	—	長石・石英・雲母	に灰い橙	普通	口唇部内側につまみ出し、内面2条1單位の掘り目、外側7字	底面	10%

第124号溝跡 (第339・340図)

位置と形状 調査区南東部のL6f2～L6j5区に位置している。L6f2区で第127号溝から分派し、南東方向(N-160°-E)へU字状に延び、L6j5区で第120号溝と連結している。長さは23.3mで、上幅0.4～1.04m、下幅0.12～0.44m、深さ16～20cm、断面形は逆台形状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 第120号溝との接続部土層(F-F')では3層の人為堆積状況を呈し、第124～126号溝との重複部土層(J-J')では、単一層の自然堆積の状況を示している。

所見 第120号溝と第127号溝に連結し、南東方向へ雨水等を排水したと考えられ、第120号溝と第127号溝を連結している溝の中では、第125号溝に次いで掘削されたと判断できる。時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。

第125号溝跡 (第339・340図)

位置と規模 調査区南東部のL6f2～M6a5区。L6f2区で第127号溝と連結し、南東方向(N-157°-E)へ緩やかなU字状に延び、M6a5区で第120号溝と連結している。

覆土 第120号溝との重複部土層(E-E')から、第1～3層が相当し3層に分層される。レンズ状の堆積状況を呈しているが、含有物から人為堆積である。

所見 第120号溝と第127号溝とを連結しており、第122・124号溝とは並行して、北西方向と南東方向へ雨水等を排水していたと考えられる。時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。

第126号溝跡 (第339・340図)

位置と規模 調査区南東部のL6f2～L6j5区に位置している。L6j5区から、北西方向(N-40°-W)へ曲線状に延び、L6j4区で屈曲しL6f2区まで直線的に延び第127号溝と連結している。長さは24mほどで、上幅0.5～0.68m、下幅0.18～0.38m、深さ20～30cm、断面形は逆台形または緩やかなU字形で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 第122・124～126号溝との接続部土層(J-J')は単一層で、自然堆積の状況を示している。

所見 第127号溝から分岐し、雨水等を排水していたと考えられる。また、第13号水道遺構と同時期に機能し、雨水の水量調整をしていたと推測される。時期は、重複関係から16世紀後半と考えられる。

第127号溝跡 (第339・340・342図)

位置 調査区南東部のL5c0～L6f2区で、標高26mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第131A号溝を切り、第122・124～126号溝に切られている。

規模と形状 L6f2区から、北西方向(N-34°-W)へ直線的に延び、L5c02区で第131号溝に連結している。長さは14mほどで、上幅0.92～1.8m、下幅0.18～0.9m、深さ44～60cm、断面形は緩やかなU字状または台形状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

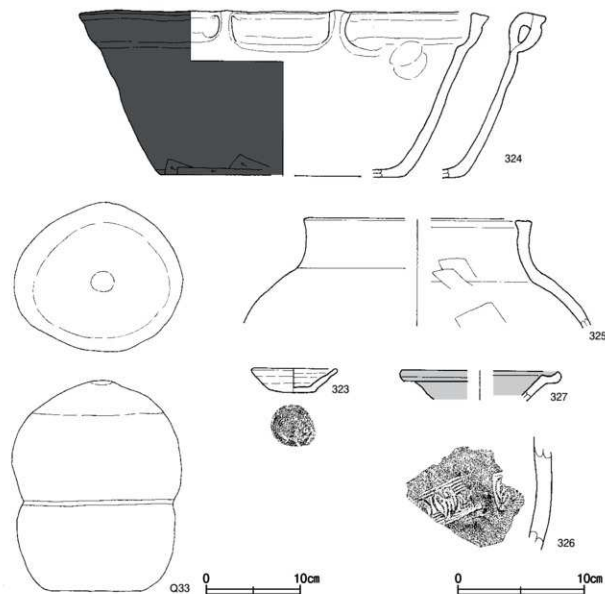
覆土 第131A号溝との接続部土層（S-S'）は、9層に分層され、レンズ状の堆積状況を呈しているが、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説（S-S'）

1 黒 褐色	粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	7 灰 黄 褐色	粘土ブロック少量、ロームブロック微量
2 暗 褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子微量	8 暗 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
3 黒 褐色	ローム粒子・粘土粒子・炭化粒子微量	9 暗 褐色	粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒 褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子微量		
5 に近い黄褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック少量		
6 暗 褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量		

遺物出土状況 土師質土器片78点（皿7、内耳銅65、甕3、指鉢3）、陶器片1点（常滑系甕）、青磁片1点（坏）、石塔1点（五輪塔）、木片1点は、第122号溝と重複するくぼんだ地点を中心に出土している。323～326はくぼんだ地点の底面、327は覆土中からそれぞれ出土しており、投げ込まれたと考えられるQ33は、北西部の底面から出土している。その他、流れ込んだ須恵器片3点、礫2点も出土している。

所見 第131A号溝と第122・124～126号溝が連結しており、雨水等の排水を調整したと考えられる。時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。



第342図 第127号溝跡出土遺物実測図

第127号溝跡出土遺物観察表（第342回）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
323	土師質土器	皿	6.8	2.0	3.5	長石・雲母・赤色 粒子	橙	普通	体部内・外面ロケロナテ 底部回転糸切り	底面	100% PL109
324	土師質土器	内耳鍋	30.6	13.1	[19.6]	長石・石英・雲母	明褐色	普通	2内耳残存 耳筋を付け 内・外面ナテ 普通肌 外面下縁へウツリ	底面	30%外面残存者
325	土師質土器	壺	[18.2]	(8.5)	—	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	口辺部から体部上位の破片 内面へウツ リ後ナテ 外面ナテ	底面	—
326	陶器	壺	—	(9.1)	—	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	体部上位の破片 内・外面ナテ 外面に 長クズ文様付	覆土中	常滑系ヨ PL125
327	青磁	坏	[12.8]	(2.4)	—	精良 青磁釉	明緑坑口・ 明緑灰	良好	口辺部片 内・外面陶輪	覆土中	—

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q33	五輪塔 (空風輪)	(22.2)	17.8	15.7	(8280)	花崗岩	風化により表面が脆い。空輪と風輪のくびれ不明瞭。空輪 の頂部部分欠損	底面	PL118

第131A号溝跡（第339・340・343回）

位置と規模 調査区南東部のL 6 b1～L 5 f9区に位置している。L 6 b1区から、直線的に南西方向（N-142°-W）のL 6 b1区まで延びている。調査できたのは調査区域外との境界の長さ13.35mだけで、上幅1.18～1.56m、下幅0.64～1.22m、深さ30～58cm、断面形は逆台形状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 第127号溝跡との重複部土層は6層に分層され、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説（S-S'）

- | | | | |
|--------|---------------------|--------|-----------------------|
| 10 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 13 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 11 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 14 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 12 暗褐色 | ローム粒子中量、砂粒微量 | 15 暗褐色 | ロームブロック中量、粘土粒子微量 |

遺物出土状況 師質土器片18点（皿7、内耳鍋10、搦鉢1）、礫1点が出土している。確認された土器片はいずれも小片で、覆土中や底面から散在して出土している。328は、割れて覆土中から出土している。

所見 調査区域外となっている農道に沿って、一部が確認されているだけである。掘り方の形状から、第19B・123B・127号溝跡からの排水された雨水を調整していた大規模な区画溝と推測される。重複する第972号土坑は調査区域外を挟んだ第26号溝の東部の突端部の可能性がある。また、重複する第9号水溜遺構は井戸状で深く、水量調整のための土坑と考えられる。時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。

第131B号溝跡（第339・340回）

位置と規模 調査区南東部のL 5 h7～L 5 f9区に位置している。L 5 f9区から、南西方向（N-142°-W）へ直線的にL 5 b1区まで延び、第144号溝に連結している。長さは10.6mで、上幅0.42～0.74m、下幅0.12～0.42m、深さ6～10cm、断面形は緩やかなU字形で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。レンズ状の堆積状況を呈し、含有物は自然堆積の状況を示している。

土層解説（M-M'）

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子・砂粒微量 | 2 暗褐色 | ローム粒子少量、粘土粒子微量 |
|-------|-------------------|-------|----------------|

所見 第149・171号溝からの雨水等を、第144号溝に排水していたと溝考えられる。時期は、重複関係から16世紀後半と考えられる。

第144号溝跡（第339・340・343回）

位置 調査区南東部のL 5 e9～L 5 f0区で、標高26mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第19B号溝を切り、第131B号溝に切られている。

規模と形状 L5f0区から、北西方向(N-54°W)へ直線的に延び、さらにL5e9区で調査区域外へ延びている。確認できた長さは6.5mで、上幅1.6～1.96m、下幅0.72～1.16m、深さ46cm、断面形は逆台形状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

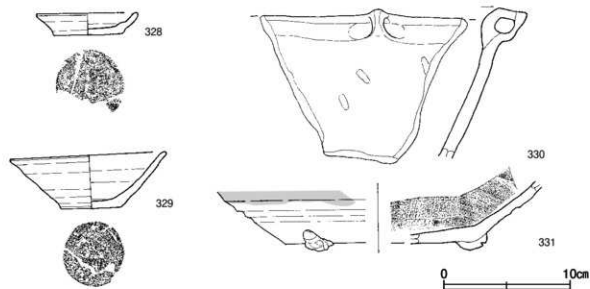
覆土 第19B号溝との重複部(Q-Q')の覆土は、6層に分層される。含有物とレンズ状の堆積状況は、自然堆積の状況を示している。

土層解説 (Q-Q')

- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|-----------------------|
| 3 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子・砂粒・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片24点(皿6、内耳鍋18)、陶器片1点(卸目付皿)、石器1点(四石)、礫1点が出土している。329～331は、覆土下層から底面にかけて集中して出土している。

所見 規模と形状から、第131B号溝から排水された雨水を溜めた洗い場のような水場の可能性が考えられる。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。



第343図 第131A・144号溝跡出土遺物実測図

第131A号溝跡出土遺物観察表 (第343図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
328	土師質土器	皿	8.2	1.7	5.5	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	縁部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切りナデ	覆土中	80%

第144号溝跡出土遺物観察表 (第343図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
329	土師質土器	皿	12.5	4.5	4.9	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	縁部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切りナデ	覆土下層	70% PL109
330	土師質土器	内耳鍋	—	(12.0)	—	長石・石英・赤色・炭化粒子微量	暗・明褐	普通	1内耳残存 耳縁り付け 内面圧痕を残すナデ 外面ナデ	底面	10%外面覆行着
331	陶器	卸目付皿	—	(5.4)	(15.0)	緑島 長石・灰釉	灰白・淡黄	普通	ロクロ成形 新緑 内面に卸目 底部糸切り残すナデ 脚部胎台に少量残存	覆土下層	瀬戸・美濃系

第149号溝跡 (第339・340図)

位置と規模 調査区東部のL5g8～L5h9区に位置している。L5h9区から、北西方向(N-55°W)へ直線的に延び、L5g8区で第131B号溝に連結している。長さは8.9mで、上幅0.29～0.57m、下幅0.15～0.29m、深さ8～24cm、断面形は緩やかなU字形で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 単一層で、ローム粒子を少量含む黒褐色土である。

遺物出土状況 土師質土器片3点(皿)が、覆土中から出土している。

所見 第100・131B号溝をそれぞれ連結している。覆土と方向から、第100号溝からの雨水等を第131B号溝に排水する機能をもっていたと考えられる。時期は、重複関係から16世紀後半と考えられる。

第170号溝跡 (第339・340図)

位置と規模 調査区南東部のL 6 g1～L 5 h0区に位置している。L 5 h0区で第11号水溜遺構と連結し、南西方向(N-44°-E)へ直線的に延び、L 5 g1区で第19B号溝に連結している。長さは4mほどで、上幅0.25～0.41m、下幅0.07～0.2m、深さ5cmほど、断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 単一層で、ローム粒子と粘土粒子を微量含む黒褐色土である。

所見 第19B号溝と第11号水溜遺構とを連結しており、第11号水溜遺構の水量を調整する機能をもっていたと推測される。時期は、重複関係から16世紀後半と考えられる。

第171号溝跡 (第339・340図)

位置と規模 調査区南東部のL 5 g8～L 5 h0区に位置している。L 5 h0区から、北西方向(N-62°-W)へ直線的にL 5 g8区まで延びている。長さは8.7mで、上幅0.4～0.74m、下幅0.15～0.32m、深さ5～8cm、断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。レンズ状の堆積状況と含有物から、自然堆積と考えられる。

土層解説 (V-V')

1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 2 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量

所見 溝の西側で第10号水溜遺構を掘り込んで第131B号溝に連結し、第10号水溜遺構の水量を調整する機能をもっていたと考えられる。第57号掘立柱建物掘り込んで重複しているが、詳細は不明である。時期は、重複関係から16世紀代と考えられる。

第20号溝跡 (第344～349図)

位置 調査区南西部のJ 5 a9～K 6 b2区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

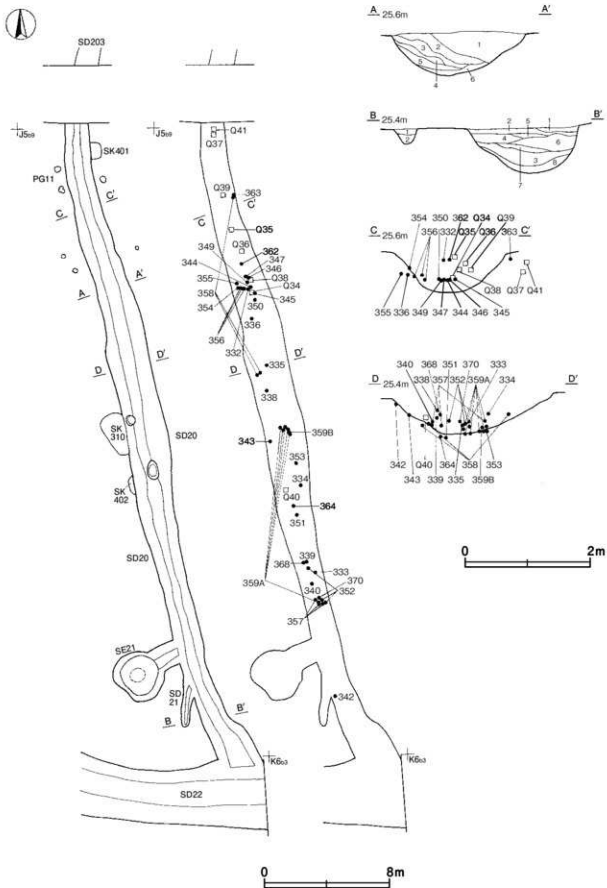
重複関係 第401・402号土坑を掘り込んでいる。第21号井戸、第21・22号溝、第11号ピット群に切られているが、ほぼ同時期に機能していたと考えられる。また、期間をおいて第300・301・308・310号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 J 5 a9区から南方向(N-15°-E)へ直線的に延び、第22号溝に連結している。北部は調査区域外に延びており、確認できた長さは41mほどである。上幅1.47～2.71m、下幅0.42～1.29m、深さ60～74cmで、断面形はU字状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 8層に分層される。遺物の出土状況から人為堆積と考えられる。北部では、西側の壁際から人為的に埋められた形跡が認められ、南部では不規則な堆積状況を呈している。第1層は含有物から自然堆積である。

土層解説 (A-A', B-B')

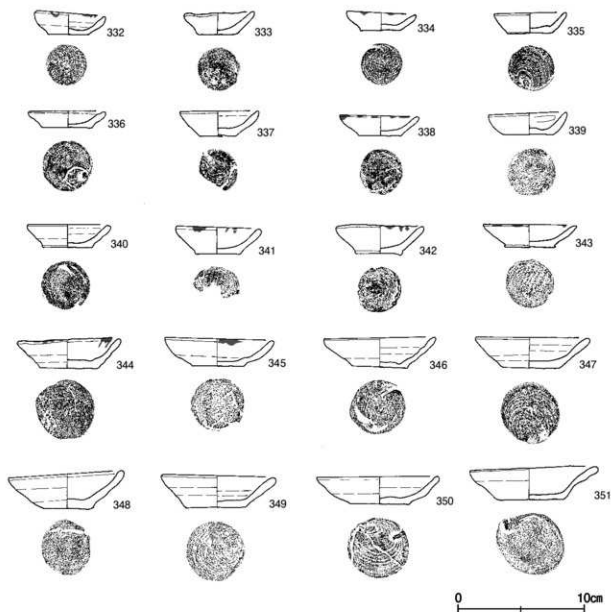
1 褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック微量 5 褐色 褐鉄色粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土
2 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量、下部褐鉄色(微 6 黒褐色 ローム粒子微量(第一次底面)
化による第二次底面) 7 褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
3 褐色 褐鉄色粘土ブロック少量、ロームブロック・ 7 褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
焼土粒子・炭化粒子微量 8 にぶい赤褐色 褐鉄色粘土粒子多量、炭化粒子微量(第一次
4 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、褐鉄 底面)
色粘土ブロック微量



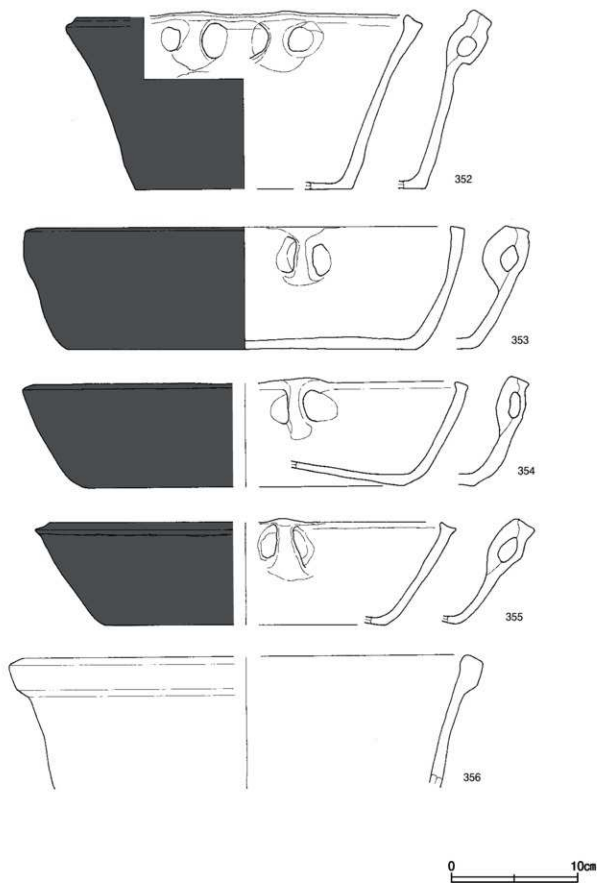
第344图 第20·21号沟迹实测图

遺物出土状況 土師質土器片868点(皿180, 内耳鍋類527, 甕8, 香炉2, 摺鉢149, 火鉢2), 瓦質土器片5点(火鉢), 陶器片14点(志野皿2, 天目茶碗4, 灰釉碗1, 常滑甕4, 瓶2, 香炉1), 石器・石製品16点(磨石1, 石臼4, 砥石10, 不明1), 石塔6点(五輪塔5, 宝篋印塔1), 鉄製品1点(不明), 木片5点, 鉄滓4点, 重さ0.74～4.72kgの雲母片岩7点が出土している。332～371, Q34～Q41, M5は, 北部から中央部にかけて集中して出土した多くの遺物に含まれるものであり, 西側の屋敷域の廃絶に伴って廃棄または流れ込んだものと考えられる。この他, 縄文土器片25点, 軽石1点, 円礫54点も確認されている。

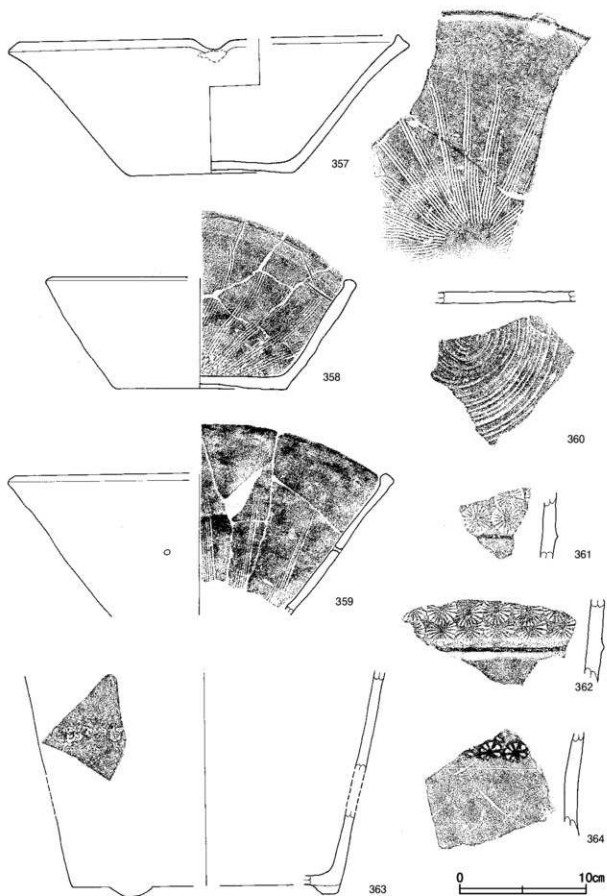
所見 覆土と底面の堆積状況から大きく2期にわたり使用されていたものと考えられる。方向と底面の高さから, 雨水を南東部で連結する第22号溝に排水する機能と, 屋敷のまとまりと考えられる第1～4号掘立柱建物, 第11号ピット群を区画する区画溝としての機能が考えられる。また, 本跡は第203号溝と調査区域外を挟んで連結していると想定される。時期は, 出土土器から16世紀後半と考えられる。



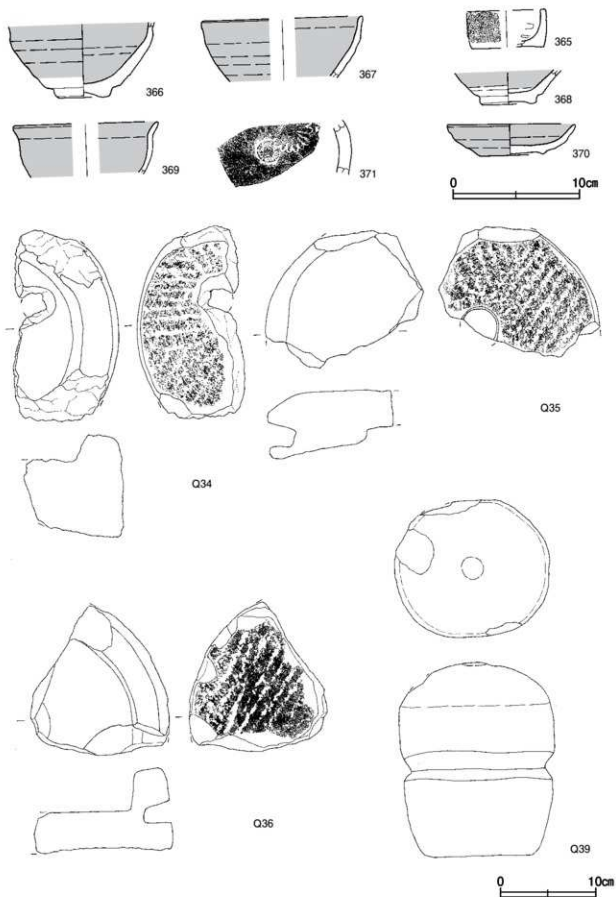
第345図 第20号溝跡出土遺物実測図(1)



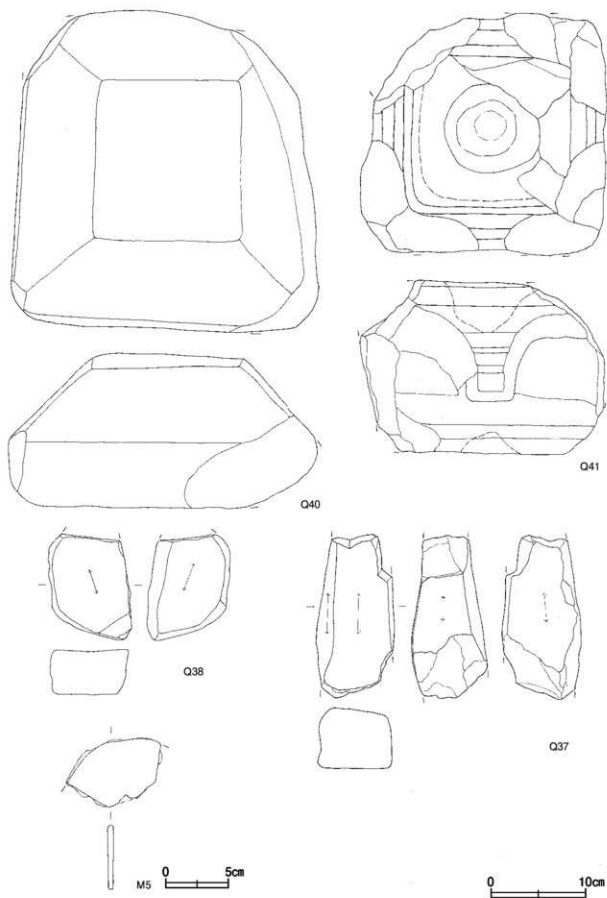
第346图 第20号沟迹出土物实测图(2)



第347图 第20号沟跡出土遺物実測图(3)



第348图 第20号溝跡出土遺物実測図(4)



第349图 第20号沟跡出土遺物実測图(5)

第20号溝跡出土遺物観察表 (第345～349頁)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・胎色	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
332	土質土器	甕	5.5	1.9	3.2	長石・雲母	明赤陶	普通	体部内・外面口ロナテ 底部回転糸切り後ナテ	覆土下層	100%成形に準ずる [1]部は胎色付
333	土質土器	甕	3.6	1.8	3.4	雲母・赤色粒土	橙	普通	体部内・外面ナテ 底部回転糸切り後ナテ	覆土下層	100%成形に準ずる [1]部は胎色付
334	土質土器	甕	5.6	1.6	3.2	雲母・赤色粒土	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ナテ 底部回転糸切り	底面	99%成形に準ずる [1]部は胎色付
335	土質土器	甕	5.7	1.7	3.6	長石・砂粒	橙	普通	体部内・外面ナテ 底部回転糸切り	底面	100%
336	土質土器	甕	6.0	1.4	4.0	雲母・赤色粒土	橙	普通	体部内・外面ナテ [1]部内側に沈積 底部回転糸切り	覆土下層	100%
337	土質土器	甕	6.2	2.0	3.0	長石・雲母・赤色粒土	橙	普通	体部内・外面ナテ 底部回転糸切り	覆土中	90%
338	土質土器	甕	6.2	1.7	3.4	赤色粒土・砂粒	にぶい橙	普通	体部内・外面ナテ 底部回転糸切り	覆土下層	100% [1]部は胎色 付者 PL108
339	土質土器	甕	6.3	1.8	4.0	長石・雲母・赤色粒土	橙	普通	体部内・外面ナテ 底部回転糸切り後ナテ	覆土下層	95%
340	土質土器	甕	6.5	1.9	4.0	長石・雲母	にぶい赤陶	普通	体部内・外面口ロナテ 底部回転糸切り	底面	90%
341	土質土器	甕	6.8	2.2	3.6	長石・赤色粒土	にぶい橙	普通	体部内・外面ナテ 底部回転糸切り後ナテ	覆土中	60% [1]部は胎色 付者 PL108
342	土質土器	甕	6.9	2.2	3.6	石・雲母・赤色粒土	にぶい黄橙	普通	体部内・外面口ロナテ後ナテ 底部回転糸切り	覆土下層	93% [1]部は胎色 付者 PL108
343	土質土器	甕	7.3	1.8	4.0	雲母・赤色粒土	にぶい橙	普通	体部内・外面口ロナテ後ナテ 底部回転糸切り	覆土下層	99% [1]部は胎色 付者 PL108
344	土質土器	甕	8.1	2.5	4.6	長石・雲母・赤色粒土	浅黄橙	普通	体部内・外面口ロナテ後ナテ 底部回転糸切り	覆土下層	95% [1]部は胎色 付者 PL108
345	土質土器	甕	8.5	2.3	4.2	赤色粒土	浅黄橙	普通	体部内・外面口ロナテ後ナテ 底部回転糸切り	覆土下層	100%成形に準ずる 胎色付者 PL108
346	土質土器	甕	8.8	2.6	4.3	雲母・赤色粒土	にぶい黄橙	普通	体部内・外面口ロナテ後内面ナテ 底部回転糸切り後ナテ	底面	100%成形に準ずる 胎色付者 PL108
347	土質土器	甕	9.0	2.5	4.4	長石・雲母	にぶい橙・一部焼成	普通	体部内・外面口ロナテ 底面糸切り	底面	100% PL108
348	土質土器	甕	9.0	3.1	4.0	赤色粒土	橙	普通	体部内・外面口ロナテ後ナテ 底部回転糸切り	覆土中	100%成形に準ずる 胎色付者 PL108
349	土質土器	甕	9.1	2.7	4.8	長石・雲母・赤色粒土	橙	普通	体部内・外面口ロナテ後ナテ 底部回転糸切り	底面	100%成形に準ずる 胎色付者 PL108
350	土質土器	甕	9.6	2.3	4.7	赤色粒土・砂粒	にぶい橙	普通	体部内・外面口ロナテ 底部回転糸切り後ナテ	底面	100% PL108
351	土質土器	甕	9.9	2.7	5.4	長石・石・雲母	明赤陶	普通	体部内・外面口ロナテ後内面ナテ 底部回転糸切り後ナテ	底面	70%成形に準ずる 胎色付者 PL111
352	土質土器	内耳罐	[266]	14.1	[17.4]	長石・雲母	灰黄	普通	2内耳縁付 耳縁り付け 内面から[1]部は胎色付	覆土下層	20% 体部外面 胎色付者 PL111
353	土質土器	内耳罐	[331]	9.9	27.8	長石・石・雲母・赤色粒土・砂	にぶい橙	普通	3内耳縁付 耳縁り付け 内面から[1]部は胎色付	覆土下層	20% 体部外面 胎色付者 PL111
354	土質土器	内耳罐	[256]	8.7	[25.6]	長石・石・雲母・赤色粒土	橙	普通	1内耳縁付 耳縁り付け 内面から[1]部は胎色付	覆土下層	20% 体部外面 胎色付者 PL111
355	土質土器	内耳罐	[31.4]	(8.5)	22.0	雲母・赤色粒土	灰黄	普通	1内耳縁付 耳縁り付け 内面から[1]部は胎色付	覆土下層	15% 体部外面 胎色付者 PL111
356	土質土器	甕	[35.0]	(10.5)	—	長石・石・雲母・赤色粒土	陶	普通	[1]部破片付 内・外面胎色付	底面	—
357	土質土器	漆鉢	[30.0]	10.8	13.0	長石・雲母	にぶい橙	普通	[1]部唇部につまみ出し 断面丁字状 5条1單位の盛り目	底面	30%
358	土質土器	漆鉢	[21.0]	8.8	13.8	長石・雲母	にぶい陶	普通	[1]部唇部丸み 5条1單位の盛り目	底面	30%
359	土質土器	漆鉢	[28.4]	(11.3)	—	長石・雲母	にぶい陶	普通	[1]部唇部内側につまみ出し 6条1單位の盛り目 体部に穿孔1ヶ所	覆土下層	30%
360	土質土器	漆鉢	—	(11.2)	—	石・雲母・赤色粒土	赤陶	普通	底面の破片 底面の外面に同心円状の溝	覆土中	—
361	土質土器	火鉢	—	(5.2)	—	長石・石・雲母・赤色粒土・砂	にぶい陶	普通	体部破片 外面に菊花のスタンプ文押印	覆土中	—
362	土質土器	火鉢	—	(6.5)	—	長石・石・雲母・赤色粒土・砂	灰黄	普通	体部破片 外面に菊花のスタンプ文押印	覆土下層	—
363	瓦質土器	火鉢	—	[17.7]	[21.6]	長石・雲母	灰黄	普通	内・外面ナテ 外面スタンプ文押印 [3]足取のうち一足取付	底面	15%
364	瓦質土器	火鉢	—	(8.3)	—	長石・石・雲母・赤色粒土	にぶい黄橙	普通	内・外面ナテ 外面スタンプ文押印	底面	—
365	瓦質土器	香炉	[6.4]	3.0	[5.8]	石英	暗灰	普通	内・外面ナテ 外面に渦巻3状スタンプ文押印 外面黒色	覆土中層	65% PL114
366	陶器	天目茶碗	—	(5.7)	4.1	精良 鉄輪	灰黄陶・灰黄	良好	筒形出し高台 内・外面鉄輪 蓋体は無し 蓋付に蓋紐付者 見込に赤瓦貼	覆土中	50% 胎色・美濃系 PL114
367	陶器	天目茶碗	[126]	(4.0)	—	精良 鉄輪	灰黄陶・灰黄	良好	内・外面鉄輪	覆土中	10% 胎色・美濃系
368	陶器	天目茶碗	—	(2.6)	4.4	精良 鉄輪	灰黄陶・灰黄	良好	筒形出し高台 内・外面鉄輪 蓋体に溝あり	底面	50% 胎色・美濃系
369	陶器	茶碗	[11.4]	(4.2)	—	精良 鉄輪	明灰陶・灰黄	良好	[1]部唇部外反 ロク口成形 内・外面オリツの底面に鉄輪	底面	胎色・美濃系
370	陶器	丸皿	10.1	2.7	5.3	精良 鉄輪	白・ツルテア黄	良好	筒形出し高台 高台内面にトナシ痕 全体に施釉 志野黒	覆土中層	95% 胎色・美濃系 PL115
371	陶器	香炉	—	(4.4)	—	精良 鉄輪	灰土・ツルテア黄	普通	外面に菊花のスタンプ文押印 輪漉滑	覆土中	胎色・美濃系

番号	器種	径・長さ (上・下)	口径・ 底径	高さ・ 器高	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q34	石(上)	[28.0]	[4.0]	10.8	(28.2)	安山岩	8条1單位の盛り目	底面	PL117
Q35	石(上)	[23.1]	[3.8]	7.0	(18.8)	安山岩	上層5条1單位の盛り目 輪受け横打込孔残存 真鍮蓋り目あり	底面	白の転用*
Q36	石(上)	[29.2]	—	8.9	(16.9)	安山岩	上層5条1單位の盛り目 磨滅した変形物残存	覆土下層	—
Q37	磁石	(17.2)	8.2	8.0	(15.3)	砂岩	両端部欠損 底面3面	覆土中層	—

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q38	砥石	11.1	8.9	4.7	7834	砂岩	端部欠損 砥面2面	覆土中層	
Q39	五輪形(空風輪)	20.5	16.3	(14.5)	(7.20)	花崗岩	空輪と風輪のぐり明瞭 空輪の前面部一部欠損	覆土下層	PL118
Q40	五輪形(火輪)	(24.0)	(32.5)	16.2	(2480)	花崗岩	ほぼ直線的な輪 輪先欠損	覆土中層	
Q41	空風形(石)	(25.4)	(25.8)	18.1	(17700)	花崗岩	風化のため輪縁が不明瞭 側縁突起四方とも欠損	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M5	不明	(5.5)	(7.4)	0.4	(42.5)	鉄	両端部欠損 板状の破片	覆土中	PL123

第21号溝跡 (第344図)

位置 調査区南西部のJ 6j1～K 6a1区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第20号溝を切り、同時期に機能していたと考えられる。

規模と形状 K 6a1区から北方向(N-7°-E)へ直線的に延び、第20号溝に連結している。確認された長さは3.4mで、上幅0.54～0.69m、下幅0.19～0.22m、深さ26cmである。断面形はU字状で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。壁際からレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

土層解説 (B-B')

1 暗 褐色 粘土粒子中量、炭化物・ローム粒子微量 2 黄 褐色 粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量

所見 方向と底面の高さから、雨水等を第20号溝に排水していた溝と考えられる。時期は、重複関係から第20号溝と同時期の16世紀後半と考えられる。

第25号溝跡 (第350・351図)

位置 調査区南西部のK 5d3～K 5h1区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 ほぼ同時期に第11・57号溝を切り、第19A・56号溝に切られ、第372号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 K 5c2区で第11号溝に連結し、さらに南西方向(N-150°-W)へ直線状に延びて、第56・57号溝と連結している。確認された長さは21mほどで、上幅1.4～2.04m、下幅0.16～0.42m、深さ46～56cmである。断面形は浅い部分が浅いU字状、深い部分では逆台形状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

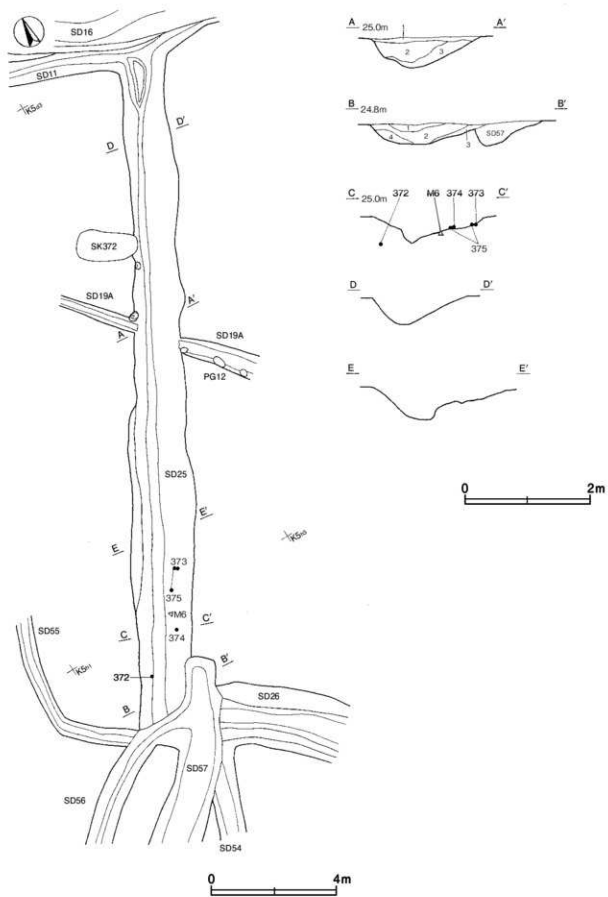
覆土 4層に分層される。壁際から流入したような堆積状況を示しているが、遺物の出土状況から人為堆積と考えられる。第1層は硬化しており、道路として使用されていたと推測される。

土層解説

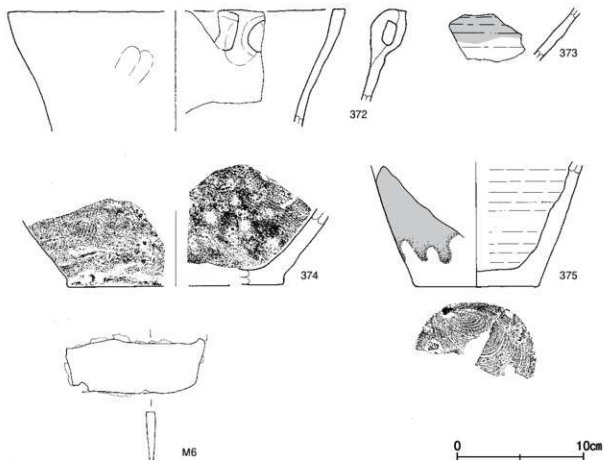
1 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗 褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量
2 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 4 暗 褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片47点(皿10、内耳鍋37)、陶器片11点(緑釉皿1、常滑系甕7、瓶3)、磁器片1点(碗)、瓦片1点、石器3点(石臼2、砥石1)、鉄製品1点(火打金カ)、軽石1点、円礫78点が出土している。372～375は、南部の重複部に近い部分に多くの遺物とともにまとまって出土しており、東側の居住区域と考えられる第12号ピット群から投棄されたものと考えられる。

所見 第56・57号溝と第11号溝を南北に連結している。底面の高低差から考えると第11号溝を経て、北の第16号溝へと雨水等を排水していた溝と考えられ、当集落の終末期までその機能を果たしていたと推測される。時期は、出土土器から16世紀末と考えられる。



第350图 第25号沟跡実測图



第351図 第25号溝跡出土遺物実測図

第25号溝跡出土遺物観察表(第351図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
372	土師質土器	内耳罎	[27.0]	(9.6)	—	石灰・雲母・赤色 粒子	明赤陶	普通	土内耳縁有 耳部隔り打け 基部外面擦ナゲ	内面から11 底面	
373	陶器	縁輪大皿	—	(4.3)	—	精良 灰輪	灰白・浅黄	良好	外面上位灰輪	覆土中層	瀬戸・美濃系
374	陶器	甕	—	(6.0)	[17.0]	精良 石英	にぶい澄	良好	内・外面ナゲ	覆土中層	常滑系
375	陶器	灰輪瓶	—	(10.6)	[10.0]	長石・黒色粒子・ 灰輪	灰白・オマリ 一ツ黄	良好	ロクロ成形 外面上位から中位まで磨削 け 底部回転系切り 破断面縁紫き板	覆土下層	2%重厚・長巻土 50%重厚から1%重 厚重厚土 PL115

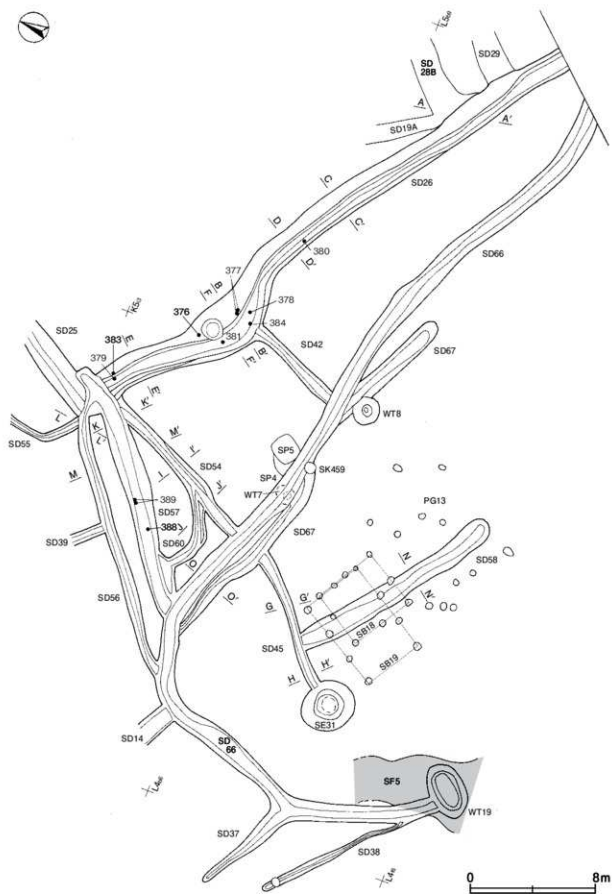
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M.6	火打金 <small>さ</small>	(11.1)	(4.4)	0.7	(8.39)	鉄	端部欠損 板状破片	底面	PL123

第26号溝跡(第352～354図)

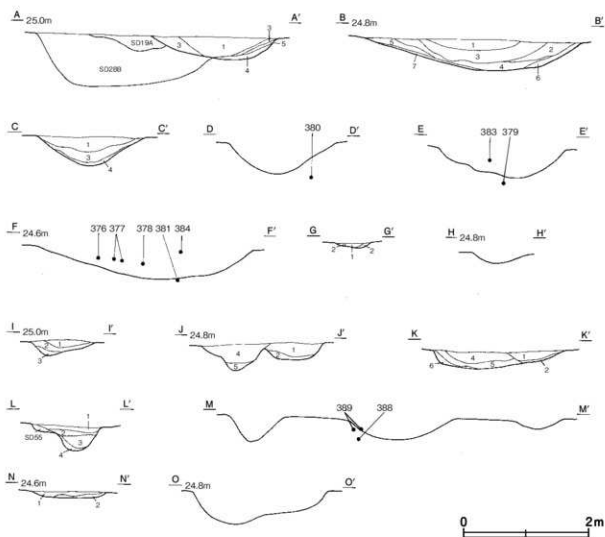
位置 調査区南部のK 5 h1～L 5 d9区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第19A・28B・29号溝跡を掘り込み、第54号溝を切り、第42・57号溝に切られている。

規模と形状 L 5 d9区の調査区域外から北西方向(N-59°-W)へ延び、K 5 h1区で第56・57号溝と連結している。形状は、一部緩やかに蛇行しているがほぼ直線的であり、確認できた長さは36mほどで、上幅1.7～3.45m、下幅0.2～1.0m、深さ40～59cmである。断面形は弧状を呈し、壁は緩やかに立ち上っている。



第352图 第26·42·45·54·56~58·60·66·67号沟迹实测图(1)



第353図 第26・42・45・54・56～58・60・66・67号溝跡実測図(2)

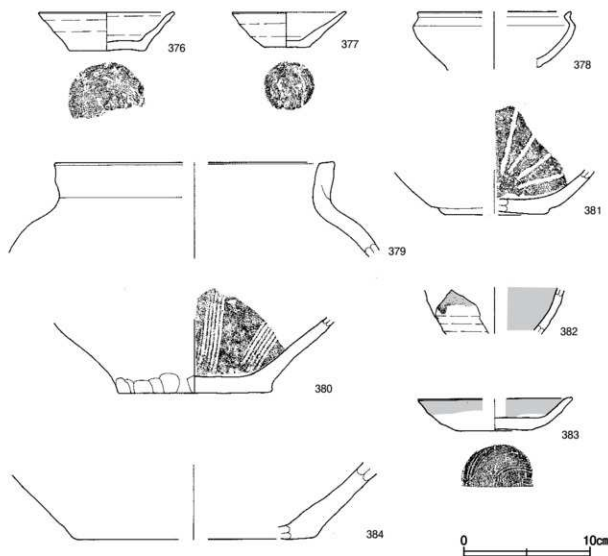
覆土 7層に分層される。レンズ状の堆積状況を呈した自然堆積と考えられる。

土層解説 (A-A', B-B', C-C')

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、埴土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量、埴土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 7 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片407点(皿90、内耳鍋類304、香炉1、甕2、搦鉢10)、陶器片15点(天目茶碗1、緑釉皿1、常滑系甕9、常滑系片口鉢3、瓶1)、土製品1点(不明)、石器6点(磨石2、石臼1、砥石3)、鉄滓3点が出土している。376～384を含む土器片の多くは破片であり、中央部の第42号溝と重複する掘り方が深い部分の覆土中及び底面を中心に出土している。これらは、北側の屋敷域と想定される第14・15掘立柱建物、第12号ピット群の廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。その他、流れ込みによる土師器片52点、須恵器片3点が細片で出土し、礫3点も確認されている。

所見 第66号溝に並行して、ほぼ東西に延びる溝で、東西に位置して南北に延びる第25号溝と連結する区画溝と推測される。連結により、雨水等を東西に排水する機能をもっていたと推測される。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。



第354図 第26号溝跡出土遺物実測図

第26号溝跡出土遺物観察表 (第354図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・胎差	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
376	土加貫土器	皿	10.8	3.0	6.2	雲母・赤色砂子	にぶい黄緑	普通	体部内・外面口クロナテ 底部回転糸切り	覆土中層	60%
377	土加貫土器	皿	9.1	2.8	3.8	長石・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナテ 底部回転糸切り 与後ナテ	底面	70% PL108
378	土加貫土器	香炉	[12.2]	(4.6)	—	長石・赤色砂子	橙	普通	底部欠損 体部内・外面ナテ	底面	20%
379	土加貫土器	羹	[22.4]	(7.6)	—	長石・石英・雲母 雲母・赤色砂子	明赤陶	良好	口辺部残片 体部内・外面ナテ 輪積痕	底面	
380	土加貫土器	椀鉢	—	(6.0)	[12.0]	長石・石英・雲母	灰陶	普通	内面厚減6条1単位の摺り目 外面下端 横位のヘラナテ	底面	20%
381	土加貫土器	椀鉢	—	(3.5)	(8.4)	長石・石英・雲母	にぶい橙・ 灰陶	普通	内面1条1単位の摺り目 外面ナテ	底面	
382	陶器	天目茶碗	—	(3.7)	—	精良 黒色砂子	灰白・黒陶	良好	内・外面中位鉄軸	覆土中	瀬戸・美濃系
383	陶器	緑釉盤	[12.4]	2.5	5.4	精良 灰軸	にぶい橙・ 灰オリーフ	良好	底面糸切り 足込にトナリ痕 掛け軸	覆土下層	30%瀬戸・美濃系
384	陶器	羹	—	(6.0)	[19.2]	精良 石英	黄陶	良好	内・外面ナテ	覆土下層	常滑系

第42号溝跡 (第352・353・355図)

位置と規模 調査区南部のK5j3～L5b2区に位置している。L5b2区で第66号溝から分派し、北東方向(N-20°-E)へ直線的に伸び、K5j3区で第26号溝に連結している。確認された長さは17mほどで、上幅0.65～

1.03m, 下幅0.12～0.6m, 深さ20～22cmである。断面形は弧状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 暗褐色と黒褐色の覆土からなる。含有物とレンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師質土器片42点(皿8, 内耳鍋類32, 播鉢2), 瓦質土器1点(火鉢カ), 陶器片2点(常滑系甕), 磁器片2点(碗), 糠3点が出土している。385は、第26号溝近くの覆土中から出土している。

所見 第26号溝と第66号溝を連結し、雨水の水量を調整していたと推測される。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。

第45号溝跡 (第352・353・355図)

位置と規模 調査区南部のL4b0～L4c8区に位置している。L4c8区で第31号井戸から派生し、北東方向(N-49°-E)へ直線的に延び、第67号溝に連結している。長さは8.8mで、上幅0.6～0.9m, 下幅0.18～0.62m, 深さ7～15cmである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。レンズ状の堆積状況を呈していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説 (G-G')

- | | |
|----------------------------|-------------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量 | 2 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
|----------------------------|-------------------------------------|

遺物出土状況 土師質土器片3点(内耳鍋2, 播鉢1), 白磁片1点(小杯), 須恵器片1点が出土している。386・387は、ともに覆土中から出土している。

所見 第31号井戸と第67号溝を連結し、水量調整の機能をもっていたと考えられる。また、第58号溝からの雨水が流れ込んでおり、第54号溝との接続も推測される。時期は、出土土器と重複関係から、16世紀代と考えられる。

第54号溝跡 (第352・353図)

位置と規模 調査区南西部のK5i1～L4a0区に位置している。K5i1区で第57号溝から派生し、南西方向(N-150°-W)へ直線的に延び、L4a0区で第66号溝と連結している。長さは11.6mで、上幅0.74～0.92m, 下幅0.21～0.48m, 深さ14～20cmである。断面形は弧形で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。レンズ状の堆積状況を呈している自然堆積である。

土層解説 (I-I', J-J', K-K')

- | | |
|-------------------------|---------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 3 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師質土器片26点(皿9, 内耳鍋12, 外耳鍋(茶釜カ)1, 甕3, 鈎カ1), 瓦片2点(平瓦)が出土しているが、細片である。

所見 第57号溝から派生し、第60・66号溝とも連結しており、延びる方向と形状から第45号溝とも連結する可能性が推測される。時期は、出土土器の傾向と重複関係から16世紀後半と考えられる。

第56号溝跡 (第352・353・355図)

位置 調査区南部のK5h1～L4a7区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第25・55・57・66号溝を切り、第39号溝に切られている。

規模と形状 L4a7区で第66号溝と連結して、北東方向(N-55°-E)へ弓状に延び、K5h1区で第25・55・57号溝を切っている。長さは19mほどで、上幅0.5～1.2m, 下幅0.1～0.9m, 深さ36～40cmである。断面形はU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 4層に分層される。含有物とレンズ状の堆積状況を呈している自然堆積である。

土層解説 (L-L')

1 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	3 暗褐色	ローム粒子中量、粘土粒子少量、炭化粒子微量
2 褐色	ローム粒子少量、炭化物・粘土粒子少量	4 にがい黄褐色	粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量

遺物出土状況 土師質土器片35点（皿6、内耳鍋27、甕2）、陶器片1点（灰釉皿）と、流れ込んだ縄文土器片4点が出土している。

所見 第66号溝から派生し、第25・26・55・57号溝が重複するところを掘り込むかたちで連結しているが、本来第26号溝と同一溝の可能性も考えられる。また、並行している第57号溝も第25号溝と第66号溝を連結しており、本溝跡は延びる方向と形状から第57号溝の補助的な機能をもっていたと推測される。時期は、出土土器の傾向と重複関係から16世紀代後半と考えられる。

第57号溝跡 (第352・353・355図)

位置 調査区南部のK5h1～L4a8区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第26・54・66号溝を切り、第25・56・60号溝に切られている。

規模と形状 K5h1区で第26号溝から派生し、南西方向（N-127°-W）へ直線的に伸び、L4a8区で第66号溝に連結している。長さは16.4mで、上幅0.95～1.66m、下幅0.5～0.9m、深さ18～35cmである。断面形は逆台形状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。含有物とレンズ状の堆積状況を呈していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説 (K-K')

4 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	6 褐色	ローム粒子中量、粘土粒子・酸化鉄粒子少量、炭化粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子少量		

遺物出土状況 土師質土器片122点（皿12、内耳鍋105、香炉1、搦鉢4）、陶器片3点（常滑系甕2、渥美系壺1）、石器5点（磨石1、砥石3、石臼1）、鉄製品1点（不明）が出土している。388～390の土器は、中央部の覆土下層から底面にかけて出土している。その他、流れ込んだ縄文土器片1点、須恵器片4点、礫3点も出土している。

所見 第26号溝から派生し、第66号溝に連結している。延びる方向と形状から雨水等を低地の谷津方向へ排水する機能をもっていたと推測される。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。

第58号溝跡 (第352・353図)

位置と規模 調査区南部のL4c9～L5e1区に位置している。L5e1区から北西方向（N-55°-W）へ直線的に伸び、L4c9区で第45号溝に流れ込んでいる。長さは14mほどで、上幅1.18～1.54m、下幅0.44～0.98m、深さ10cmほどである。断面形は皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。レンズ状の堆積状況を呈していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説 (N-N')

1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量	2 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
-------	------------------------	-------	----------------

所見 第45号溝に雨水等を排水していたと考えられる。第31号井戸に隣接し、第18・19号掘立柱建物や第13号ピット群と重複しているが、詳細は不明である。なお、調査区南東部の第171号溝も掘立柱建物と重複する同様の溝である。時期は、重複関係から16世紀代と考えられる。

第60号溝跡 (第352・353・355区)

位置と規模 調査区南西部のL 4 j9～L 4 j0区に位置している。L 4 j0区で第54号溝から派生し、南西方向(N-114°-W)へ曲線的に延び、L 4 j9区で第57号溝に流れ込んでいる。長さは4.2mで、上幅0.7～0.8m、下幅0.38～0.62m、深さ40cmほどである。断面形は逆台形で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。レンズ状の堆積状況を呈している自然堆積である。

土層解説 (J-J')

4 層 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

5 層 褐色 ローム粒子中量、粘土粒子少量

遺物出土状況 土師質土器片21点(皿5、内耳鍋15、搦鉢1)、陶器片1点(常滑系甕)が覆土中から細片で出土している。391も覆土中からの出土である。

所見 第54号溝と第57号溝を掘り込んで連結し、水量調整の機能をもっていたと推測される。時期は、重複関係から16世紀後半と考えられる。

第66号溝跡 (第352・353・355区)

位置 調査区南部のL 4 f7～L 5 d8区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第4・5号方形竪穴遺構、第7号水溜遺構を掘り込み、第5号道路、第459号土坑に掘り込まれている。また、第67号溝、第19号水溜遺構を切り、第14・37・38・42・54・56・57号溝に切られている。

規模と形状 調査区域外に接するL 5 d8区から、西方向(N-75°-W)へ直線的に延び、L 4 a8区付近で大きく南西方向(N-20°-W)へ弯曲し、その後L 4 f7区まで緩やかな曲線を描いて第19号水溜遺構に連結する。確認された長さは67mほどで、上幅0.85～1.6m、下幅0.2～1.05m、深さ50～65cmである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 ローム粒子と粘土粒子をわずかに含んだ黒褐色土と暗褐色土からなり、含有物とレンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師質土器片18点(皿6、鍋類11、搦鉢1)、陶器片5点(緑釉皿、常滑甕、瓶カ、渥美系瓶カ、鉢カ)と、流れ込んだ須恵器片1点が覆土中からいずれも小片で出土している。392も覆土中からの出土である。

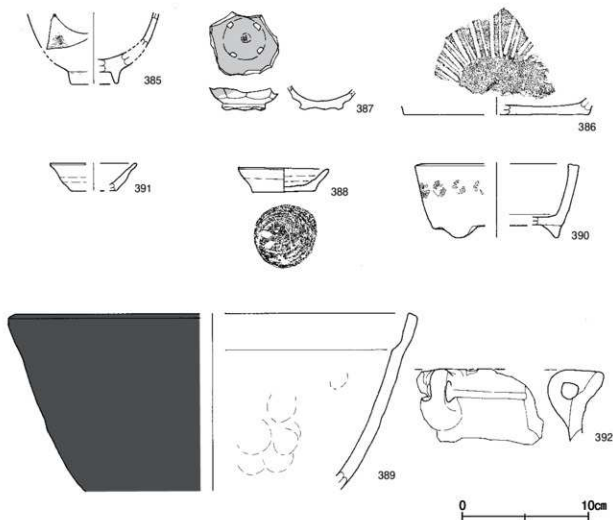
所見 調査区南部の中央を大きく彎曲するように掘られており、8条の比較的小規模の溝と連結している。雨水等を効率よく排水する機能をもっていたものと推測できる。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。

第67号溝跡 (第352・353区)

位置と規模 調査区南部のL 4 a8～L 5 c4区に位置している。第66号溝と重複しているL 5 c4区から、北西方向(N-75°-W)へほぼ直線的に延び、L 4 b1とL 4 a8区で再び第66号溝と重複している。確認された長さは23mほどで、上幅0.98～1.3m、下幅0.2～0.35m、深さ35～45cmである。断面形は緩やかなU字形で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 ローム粒子を、少量または微量含んだ黒褐色土と暗褐色土からなり、レンズ状の堆積状況を呈した自然堆積である。

所見 大きく第66号溝に切られ、切られる以前は第66号溝と同様に雨水等を効率よく排水する機能をもっていたものと推測される。時期は、重複関係から16世紀代と考えられる。



第355図 第42・45・57・60・66号溝跡出土遺物実測図

第42号溝跡出土遺物観察表 (第355図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
385	磁器	丸瓶	—	[5.6]	[3.8]	精良・透明釉	灰白・明黄灰	良好	折り出し高台 砂目高台 發付無輪 青絞	甕土中	10%伊万里系

第45号溝跡出土遺物観察表 (第355図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
386	土加貫土器	摺鉢	—	(1.3)	[14.4]	長石・雲母	にじい赤黒	普通	腕部片 2条1單位の揃り目か	甕土中	
387	白磁	小杯	—	1.8	2.9	精良・透明釉	灰白・灰白	良好	折り出し高台 骨付筒形底取 外面下端各面の面取 見込みに輪文x4の所のトタン痕と摺痕 内・外面貫入	甕土中	40%中国産 J1.125

第57号溝跡出土遺物観察表 (第355図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
388	土加貫土器	皿	7.1	2.0	5.0	赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナテ 腕部回転糸切り	甕面	80%
389	土加貫土器	内耳罎	[33.4]	(14.1)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にじい橙	普通	内面指面痕を残すナテ 外面ナテ	甕土下層	10%体部外面極付着
390	土加貫土器	香炉	[11.6]	5.8	(10.5)	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	腕部1足残存 体部内・外面ナテ 外面に唇文のスタンプ文	甕土中	20%

第60号溝跡出土遺物観察表 (第355図)

番号	種類	器種	1径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
391	土師質土器	皿	(6.8)	2.2	(3.7)	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	手法の特徴 体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底縁部 転裏切り後ナデ	覆土中	25%

第66号溝跡出土遺物観察表 (第355図)

番号	種類	器種	1径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
392	土師質土器	内耳鍋	(22.4)	5.8	—	長石・雲母・赤色粒子	にがい赤褐色	普通	1内耳縁有 耳道部打付後ナデ 底縁部転裏切り後ナデ 外面ナデ	内面 覆土中	10%体部外面 保存者

第31号溝跡 (第356～358図)

位置 調査区南部のM4e2～M4h5区で、標高24mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第41・43号井戸を切っている。

規模と形状 M4h5区で第43号井戸から、西方向(N-115°-W)、さらに北西方向(N-40°-W)へ鉤の手状に延び、第41号井戸に連結している。長さは19.4mで、上幅1.26～2.14m、下幅0.36～0.72m、深さ24～46cm。断面形は緩やかなU字状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 4層に分層される。レンズ状の堆積状況を呈している自然堆積である。

土層解説(A-A')

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 3 黒褐色 ローム粒子少量
2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 4 黒褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック微量

遺物出土状況 土師質土器片15点(皿4、内耳鍋10、壺ヶ1)、礫1点がいずれも小破片で出土している。442は、覆土中から出土している。

所見 井戸と井戸を繋ぐ溝で、第43号井戸から第41号井戸への水量調整の機能をもっていたと考えられる。第41・43号井戸は、当遺跡調査区域南端の最も低い位置に立地しており、南部の雨水の水量調整及び排水の機能を果たしていたと推測される。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。

第32号溝跡 (第356・357図)

位置 調査区南部のM4d2～M4g5区で、標高24mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第41・43号井戸を切り、同時期に機能していたと考えられる。

規模と形状 M4g6区で第43号井戸から、西方向(N-150°-W)、さらに(N-54°-W)へ鉤の手状に延び、第41号井戸に連結している。長さは17mほどで、上幅0.40～1.74m、下幅0.19～0.62m、深さ9～16cm。断面形はU字状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

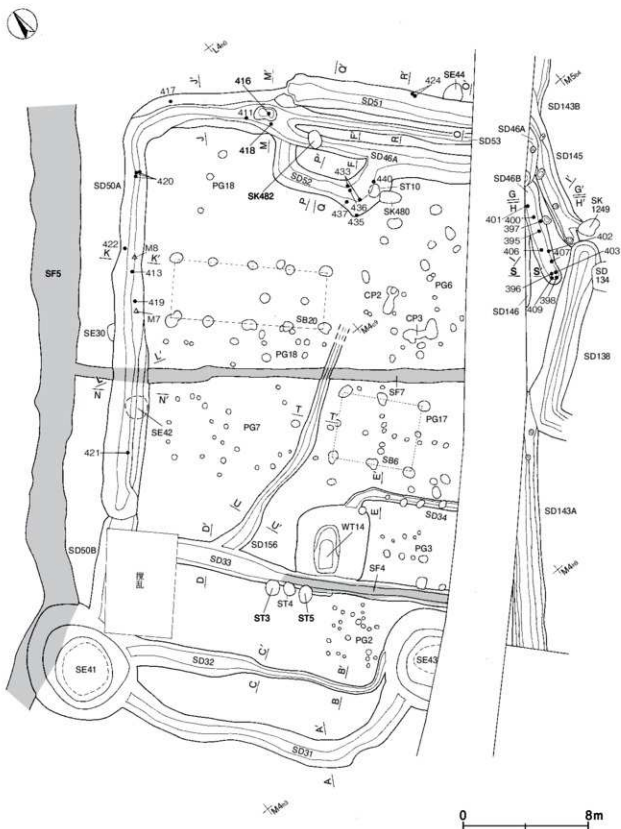
覆土 2層に分層される。レンズ状に堆積している自然堆積である。

土層解説(B-B')

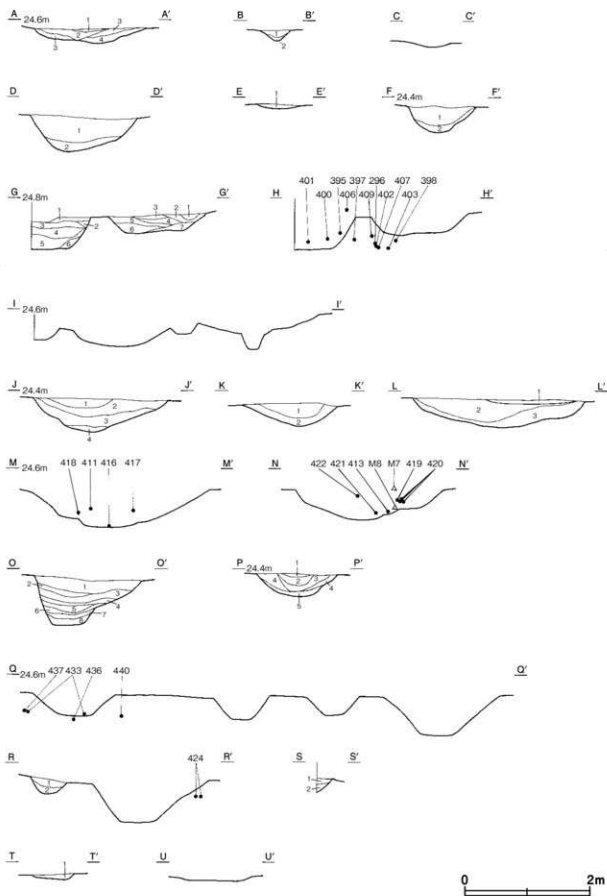
- 1 黒褐色 ローム粒子少量 2 黒褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片3点(内耳鍋)が細片で出土している。

所見 建物跡と考えられる第2号ピット群の雨水を排水していた雨垂れ溝の類と考えられる。また井戸と井戸を連結する溝で、第31号溝と同じ水量調整の機能をもっていたと考えられる。形状も第31号溝と類似し、下流になるにつれて掘り方の上幅や深さが大きくなっている。時期は、重複関係から16世紀代と考えられる。



第356图 第31~34·46A·46B·50A·50B·51~53·145·146·156号沟跡实测图(1)



第357图 第31~34·46A·46B·50A·50B·51~53·145·146·156号溝跡実測図(2)

第33号溝跡 (第356・357図)

位置と規模 調査区南部のM4 c4～M4 g7区に位置している。調査区域外に接するM4 g7区から北西方向(N-41°-W)へ直線的に延び、視乱のため確認できなかったが第50B号溝に繋がっていると想定される。確認されている長さは17.6mで、上幅0.94～1.68m、下幅0.4～1.24m、深さ17～52cm、断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。含有物とレンズ状の堆積状況を示した自然堆積と考えられる。

土層解説 (D-D')

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 2 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

所見 建物跡と考えられる第3号ピット群からの雨水を、第14号水溜遺構に排水していた溝と考えられる。時期は、重複関係から16世紀代と考えられる。

第34号溝跡 (第356・357図)

位置と規模 調査区南部のM4 e7～M4 f8区に位置している。調査区域外に接するM4 f8区から、北西方向(N-39°-W)へ鉤の手状に延び、M4 e7区で第14号水溜遺構に流れ込んでいる。確認されている長さは7.4mで、上幅0.44～0.96m、下幅0.15～0.68m、深さ6～12cm、断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 単一層で堆積状況は判然としませんが、包含物から自然堆積と考えられる。

土層解説 (E-E')

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量

所見 比較的浅く覆土の締まりも弱い、第6号掘立柱建物の桁行と並行していることなどから、雨落ち溝と考えられ、雨水等を第14号水溜遺構に排水していた溝と考えられる。時期は、重複関係から16世紀代と考えられる。

第46A号溝跡 (第356～358図)

位置 調査区南部のL4 j0～M5 b2区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第50A・51～53・145号溝に切られ、第482号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 調査区域外に接するM5 b2区から、北西方向(N-38°-W)へ直線的に延び、第50A・51～53号溝に連結している。確認された長さは16mで、上幅0.85～3.8m、下幅0.2～0.9m、深さ28～40cm、断面形は逆台形状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

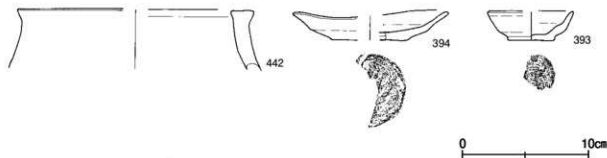
覆土 2層に分層される。含有物などから第2層は自然堆積であり、第1層は人為堆積と考えられる。

土層解説 (F-F')

- 1 黒 褐色 ロームブロック多量、炭化物微量 2 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片56点(皿15、内耳鍋40、櫛鉢1)、瓦質土器片1点(火鉢カ)と、流れ込んだ縄文土器片1点、須恵器片1点、木片1点が出土している。393・394は、共に覆土中から出土している。

所見 調査区域外を挟んで、第46B号溝に連結していると推測され、重複関係及び方向性、底面の高さから、雨水等を第50A号溝に排水していたと想定される。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。



第358図 第31・46A号溝跡出土遺物実測図

第31号溝跡出土遺物観察表 (第358図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
442	土師質土器	壺	—	(19.0)	(4.8)	—	長石・石英・ 炭屑・赤色粒子	にふい・赤陶	普通	口辺部片	内・外面磨ナデ	覆土中

第46A号溝跡出土遺物観察表 (第358図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
393	土師質土器	皿	(6.8)	2.4	(3.6)	長石・ 炭屑・赤色	橙	普通	唇部内・外面 口クロナデ	底面回転糸切	覆土中	20%
394	土師質土器	皿	(12.4)	2.2	(6.0)	赤色粒子	橙	普通	唇部内・外面 口クロナデ	底面回転糸切 口クロナデ	覆土中	30% 底形に 多少

第46B号溝跡 (第356・357・359図)

位置 調査区南東部のM5c2～M5d1区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第46A・146号溝を切り、同時期に機能していたものと考えられる。

規模と形状 M5d1区から、北東方向(N-24°E)へ直線的に延び、さらに第146号溝を掘り込んだ後に、調査区域外付近で第46A号溝に連結している。確認された長さは65mで、上幅1.04～1.12m、下幅0.6～0.7m、深さ22～42cm、断面形は緩やかなU字状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

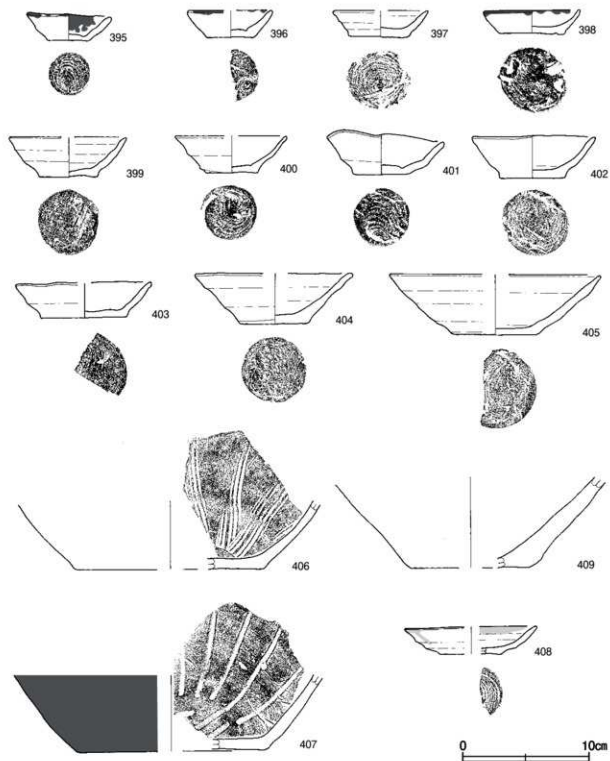
覆土 6層に分層される。含有物などから第3層は人為堆積と考えられるが、その他の堆積状況は自然堆積の状況を示している。

土層解説 (G-G')

1	黒褐色	ロームブロック少量、 焼土粒子・炭化粒子微量	4	黒褐色	ロームブロック少量、 炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子少量、 焼土粒子・炭化粒子微量	5	黒褐色	ローム粒子少量、 炭化粒子微量
3	褐色	ロームブロック多量、 粘土ブロック少量、炭化 粒子微量	6	黒褐色	粘土粒子少量、 ローム粒子・焼土粒子・炭化 粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片255点(皿58、内耳鍋類174、壺9、播鉢14)、陶器片10点(皿2、常滑系壺8)、石器1点(磨石)、剥片1点、鉄滓1点が出土している。395～409を含めた遺物は、遺構全体の底面を中心に集中して出土しており、西側に屋敷域と想定される第6号ピット群の廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。この他、流れ込んだ土師器片7点、須恵器片1点、礫12点も確認されている。

所見 調査区域外付近で、第46A号溝に連結している。重複関係及び、覆土と方向性から雨水等を第46A号溝に排水したと想定される。時期は、出土土器から第46A号溝と同時期の16世紀代と考えられる。



第359図 第46B号溝跡出土遺物実測図

第46B号溝跡出土遺物観察表 (第359図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
395	土加貫土器	皿	6.8	2.3	3.2	赤色砂子	橙	普通	体部内・外面ナデ 底部回転糸切り	履上下層	100%口周部漆 埋付着
396	土加貫土器	皿	[6.6]	2.1	[3.8]	長石・赤色砂子	〔3.5〕橙	普通	体部内・外面ナデ 底部回転糸切り後ナデ	底面	55%口周部漆 埋付着
397	土加貫土器	皿	[7.5]	2.1	4.9	長石・雲母	黒陶	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り後転目紋付着	底面	70%赤色

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
398	土師器土器	皿	7.6	1.9	5.1	雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ナデ 底部回転赤切り後ナデ	底面	40%口径基準 厚径付者 P10.108
399	土師器土器	皿	[9.3]	3.3	4.6	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転赤切り後ナデ	覆土中	70%
400	土師器土器	皿	[9.0]	3.0	4.2	赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内面厚成 外面ロクロナデ 底部回転赤切り	底面	60% P1.108
401	土師器土器	皿	9.2	3.6	4.4	赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面厚成外面ロクロナデ 底部回転赤切り	底面	95% 底形に準ずる
402	土師器土器	皿	9.8	3.3	5.2	赤色粒子	橙	普通	体部内面ロクロナデ 外面厚成 底部回転赤切り後板目状付意	底面	70%
403	土師器土器	皿	[10.8]	2.8	[7.0]	赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面厚成外面ロクロナデ 底部回転赤切り	底面	95% 底形に準ずる
404	土師器土器	皿	[12.6]	4.0	5.4	長石・赤色粒子	明赤釉	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転赤切り	覆土中	60%
405	土師器土器	皿	[16.8]	4.8	6.6	石英・雲母・赤色粒子	明赤釉	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転赤切り	覆土中	30%
406	土師器土器	部鉢	—	(5.3)	[14.9]	長石・石英	陶	普通	6条1單位の盛り目 外面ナデ	覆土上層	10%
407	土師器土器	部鉢	—	(6.0)	[15.0]	長石・石英・赤色粒子	黒釉	普通	1条1單位の盛り目 外面ナデ	底面	10%
408	陶器	緑釉皿	[10.6]	2.2	[4.6]	精良 灰釉	にぶい黄・淡黄	良好	口辺部内・外面に掛け掛け	覆土中	20%厚戸・表蓋
409	陶器	甕	—	(7.2)	[9.6]	長石・雲母	にぶい赤黄	普通	内・外面ナデ	底面	常滑系

第50A号溝跡 (第356・357・360・361区)

位置 調査区南部のM4b4～L4j0区で、標高24mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第30・42号井戸跡を掘り込み、第46A・50B・52号溝を切り、第51・53号溝に切られている。上部には北西から南北方向へ第7号道路が直交している。

規模と形状 L4j0区から、北西方向(N-52°-W)へ直線的に延び、L4h8区で南西方向(N-138°-W)へL字に屈曲し、直線的にM4b4区まで延びて、第50B号溝と連結している。長さは35mほどで、上幅1.16～2.64m、下幅0.24～1.14m、深さ33～54cm。断面形は緩やかなU字状を呈し、壁は深い部分は外傾し、浅い部分は緩やかに立ち上がっている。

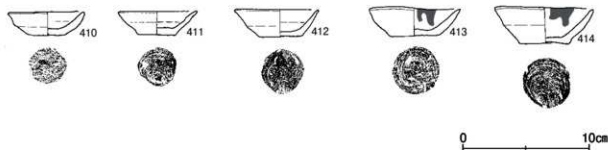
覆土 4層に分層される。レンズ状の堆積状況を示している自然堆積である。

土層解説

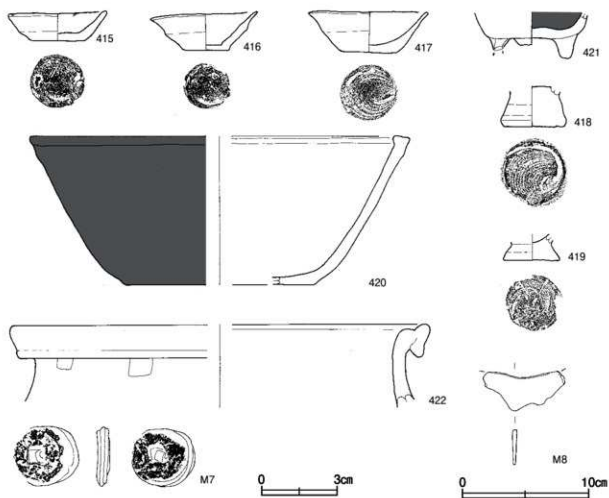
- 1 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 黒 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 4 黒 褐色 ローム粒子・粘土ブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片351点(皿83, 内耳鍋類252, 甕5, 部鉢11), 陶器片7点(皿1, 常滑系甕4, 甕1, 常滑系鉢1), 石器3点(砥石), 鉄製品1点(不明), 古銭1点(聖宋元寶か), 木片4点が出土している。410～422. M7・M8は、主に第51～53号溝が流れ込む東部と第20号掘立柱建物・第18号ピット群の西側から集中して出土している。これらは、流れ込みによるものと第20号掘立柱建物・第18号ピット群の廃絶に伴って廃棄されたものと推測される。この他、流れ込んだ縄文土器片1点、土師器片1点、礫4点も確認されている。

所見 当遺跡の調査区中で最も低い地区に位置しており、南部の雨水等を集水していた溝である。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。



第360図 第50A号溝跡出土遺物実測図(1)



第361図 第50A号溝跡出土遺物実測図②

第50A号溝跡出土遺物観察表 (第360・361図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
410	土加貫土器	甕	6.0	1.9	2.8	雲母・赤色砂子・白色砂子	にぶい橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り残ナデ	甕土中	75%
411	土加貫土器	甕	6.3	2.0	3.0	赤色砂子・白色砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り残ナデ	甕土中層	85%
412	土加貫土器	甕	6.6	2.3	3.4	赤色砂子	淡黄・黒	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り残ナデ	甕土中	90%成影にゆがみ 内面磨削付着
413	土加貫土器	甕	7.2	2.3	3.8	赤色砂子	橙	普通	体部内・外面ナデ 底部回転糸切り	甕土上層	90%成影にゆがみ 内面磨削付着
414	土加貫土器	甕	7.9	3.1	4.0	赤色砂子	浅黄橙	普通	体部内面ナデ外面口クロナデ 底部回転糸切り残ナデ	甕土中	95%成影にゆがみ 内面磨削付着
415	土加貫土器	甕	7.7	2.4	4.2	長石	橙	普通	体部内面ナデ外面口クロナデ 底部回転糸切り残ナデ	甕土中	95%口唇部 磨削付着
416	土加貫土器	甕	8.5	3.1	3.8	赤色砂子	浅黄橙	普通	体部内面ナデ外面口クロナデ 底部回転糸切り残ナデ	甕底	100%成影にゆがみ PL108
417	土加貫土器	甕	9.4	3.3	4.4	長石・赤色砂子	にぶい橙	普通	体部内面ナデ外面口クロナデ 底部回転糸切り残ナデ	甕土中層	90%成影にゆがみ
418	土加貫土器	柱状高台	—	(3.3)	4.7	雲母・赤色砂子	にぶい橙	普通	高台部分 外面口クロナデ 底部回転糸切り	甕土下層	30%
419	土加貫土器	柱状高台	—	(2.0)	4.4	赤色砂子	橙	普通	高台部分 外面口クロナデ 底部回転糸切り	甕底	30%
420	土加貫土器	内耳罐	[30.4]	11.8	[15.0]	石英・雲母	明赤陶	普通	口唇部内面につまみ出し 内面から口縁部外ナデ	甕底	10%体部外面 保存着
421	土加貫土器	香炉	—	(3.7)	7.6	赤色砂子	橙	普通	底部破片 3足跡 体部外面口クロナデ残ナデ 内面ナデ 底部切り磨上後残ナデ	甕土中層	30%体部内面 保存着
422	陶器	甕	[33.4]	(6.6)	—	石英・雲母	灰陶	普通	内・外面ナデ	甕土下層	雲母系

番号	器種	径	孔幅	重量	初測年	材質	特徴	出土位置	備考
M7	宋宋元青	(2.3)	0.6	(1.8)	1101	銅	銅により4枚が付着 宋銭 行書	甕底	PL123

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M8	火打金 <small>ホ</small>	6.60	3.11	0.1	11.0	鉄	板状の破片 両端部欠損	底面	

第50B号溝跡 (第356・357図)

位置 調査区南部のM4c2～M4c4区で、標高24mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第41号井戸を切り、第50A号溝に切られている。

規模と形状 M4c4区から、南西方向(N-135°-W)へ直線的にM4c2区まで延び、第41号井戸に連結している。大部分が擾乱のため調査が困難であったが、確認できた長さは6.8mで、上幅約2.2m、下幅約1.6m、深さ約110cm。断面形は緩やかなU字状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 掘乱によって堆積状況は不明であるが、連結する第50A号溝と同様に自然堆積と推測される。

遺物出土状況 土師質土器片23点(皿9、内耳鍋12、甕2)が出土している。

所見 第50A号溝と同様に、調査区中でも最も低い地区に立地しており、南部の雨水等を集水していた溝と考えられる。時期は、重複関係から16世紀代と考えられる。

第51号溝跡 (第356・357・362図)

位置 調査区南部のL4i0～M5a2区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第44号井戸跡を掘り込み、第46A・50A・53号溝を切っている。

規模と形状 調査区域外に接するM5a2区から、北西方向(N-39°-W)へ直線的に延び、L5i0区で第50A号溝に連結している。確認された長さは11.7mで、上幅1.65～2.0m、下幅0.52～1.19m、深さ62～74cm。断面形は逆台形状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

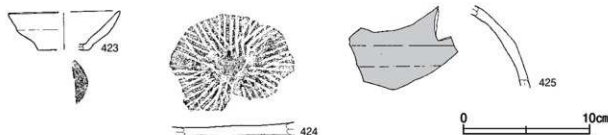
覆土 8層に分層される。レンズ状の堆積状況を示しているが、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説 (O-O')

1	暗褐色	ローム粒子少量、粘土ブロック・炭化粒子微量	5	黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子少量	6	黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量
3	暗褐色	粘土ブロック・ローム粒子少量、砂粒微量	7	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量
4	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8	黒褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片78点(皿24、内耳鍋41、甕4、摺鉢9)、陶器片2点(皿、常滑系甕)、磁器片1点(白磁皿)、石器2点(砥石)が出土している。424は北側の壁際、423・425は覆土中からそれぞれ出土している。この他、土師器片7点、須恵器片1点、礫6点も出土している。

所見 第46A・53号溝と並行して延び、第50A号溝に連結している。連結部が高まりがあり、ある一定量の雨水が溜まるように掘られていることから、雨水の調整のほかには洗い場の水場遺構としても利用されたと考えられる。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。



第362図 第51号溝跡出土遺物実測図

第51号溝跡出土遺物観察表 (第362図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・胎色	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
425	土加貫土器	皿	90	30	40	赤色粘土	橙	普通	体部内面十字外面口ラロナデ 糸切り残ナデ	覆土中	30%
424	土加貫土器	播鉢	—	(1.0)	—	長石・白灰 質土・赤色粘土	黒	普通	底部片 内面4条1単位の縞り目	明瞭	
425	陶器	甌子	—	(6.6)	—	精良 鉄軸	灰白・黒黒	普通	体部片 外面輪軸	覆土中	瀬川系

第52号溝跡 (第356・357・363・364図)

位置 調査区南西部のL4j9～M4a0区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第10号墓坑を掘り込み、第480号土坑に掘り込まれている。また、第46A号溝を切り、第50A号溝に切られている。

規模と形状 M4a0区で第46A号溝から派生して西へ、さらに北西方向(N-35°-W)へ延び、L4j9区で第50A号溝に連結している。確認された長さは9.3mで、上幅1.2～2.8m、下幅0.54～1.15m、深さ32～44cm、断面形は緩やかなU字状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

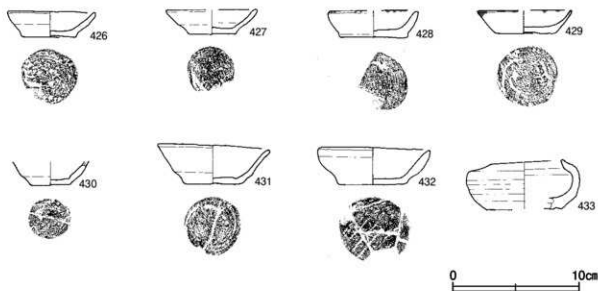
覆土 5層に分層される。レンズ状の堆積状況を示しているが、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説 (P-P')

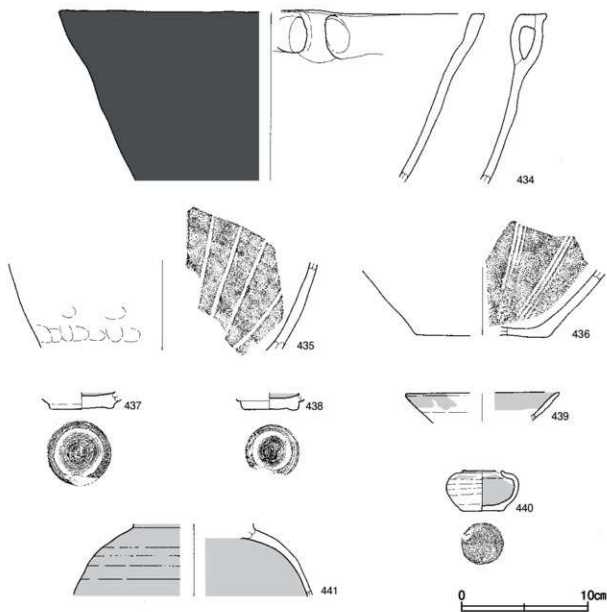
- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|--------------------|
| 1 暗 褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 4 黒 褐色 | 粘土粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒 褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子微量 | 5 黒 褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒 褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子中量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片215点(皿59、内耳鍋131、甕9、播鉢16)、陶器片5点(碗2、皿1、常滑系甕1、合子1)、青磁片1点(壺か)、石器4点(石皿、磨石、凹石、砥石)のほか、流れ込みの縄文土器片1点、須恵器片2点、鏝4点も出土している。426～441は、屈曲した部分に集中して出土している。

所見 第46A・51・53号溝と並行している地点にあり、第46A号溝からの水が巡り、ある一定の水が溜まるような掘り方から、洗いの機能をもっていたとも考えられる。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。



第363図 第52号溝跡出土遺物実測図(1)



第364図 第52号溝跡出土遺物実測図(2)

第52号溝跡出土遺物観察表 (第363・364図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
426	土師質土器	皿	6.8	2.0	4.4	赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内面ナテ外面ロクロナテ 底部回転糸切り後ナテ	覆土中	90% 成形にゆがみ
427	土師質土器	皿	[7.2]	2.0	3.8	長石・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナテ 底部回転糸切り後ナテ	覆土中・中層	50%
428	土師質土器	皿	[7.1]	2.1	[5.4]	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナテ 底部回転糸切り後ナテ	覆土中	50% 口唇部直線行着
429	土師質土器	皿	[7.6]	1.9	4.7	赤色粒子	灰黄	普通	体部内・外面ナテ 底部回転糸切り後ナテ	覆土中	50% 口唇部直線行着
430	土師質土器	皿	—	(2.0)	3.2	赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ナテ外面ロクロナテ 底部回転糸切り後ナテ	覆土中・中層	70%
431	土師質土器	皿	9.0	3.2	4.6	赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内面ナテ外面ロクロナテ 底部回転糸切り後ナテ	覆土中・中層	90% 成形にゆがみ
432	土師質土器	皿	8.9	3.0	5.2	赤色粒子	橙	普通	体部内面ナテ外面ロクロナテ 底部回転糸切り後ナテ板状圧着	覆土中・中層	90% 成形にゆがみ
433	土師質土器	香炉 <small>カ</small>	5.7	4.0	[6.0]	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内面ナテ外面ロクロナテ 口縁部以外面直ナテ	覆土下層	40%
434	土師質土器	内耳罎	[33.6]	(13.5)	—	長石・石英・雲母	暗赤褐	普通	土内耳残存 耳部貼り付け 内・外面直ナテ	覆土中・中層	10%
435	土師質土器	蓋鉢	—	(7.0)	—	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	1条1単位の盛り目 外面下位指取紙	覆土中層	
436	土師質土器	蓋鉢	—	(5.4)	[10.6]	長石・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	3条1単位の盛り目 外面ナテ	覆土下層	

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
437	陶器	碗	—	(13)	5.2	精良 灰釉	オリーブ黄、 白に黄褐色	良好	底部回転糸切り後低い閉り出し高台 内面に施釉	覆土中	10%瀬戸・美濃系
438	陶器	天目茶碗	—	(14)	4.2	精良 灰釉	灰白・黒	良好	底部回転糸切り後閉り出し高台 内面に施釉	覆土中	10%瀬戸・美濃系
439	陶器	緑釉皿	[22]	(22)	—	精良 灰釉	灰・ オリーブ黄	良好	口辺部内・外面に施釉	覆土中	10%瀬戸・美濃系
440	陶器	小壺	3.0	3.2	3.4	精良 灰釉	黄灰・ オリーブ	良好	口口成形 底面糸切り 釉薬一部剥離	底面	60%古子・瀬戸・美濃系 10%15
441	青磁	壺	—	(5.0)	—	精良 青磁釉	灰白・ 明緑灰	良好	口口成形 内・外面一様に施釉	覆土中	竜泉寺系 PL28

第53号溝跡 (第356・357・365図)

位置 調査区南西部のL4J0～M5a2区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第46A・50A号溝を切り、第51号溝に切られている。

規模と形状 調査区域外に接するM5a2区から、北西方向(N-39°-W)へ直線的に延び、L4J0区で第50A号溝に直線的に連結している。確認された長さは11.3mで、上幅0.6～1.15m、下幅0.2～0.34m、深さ22～30cm。断面形は逆台形状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。レンズ状の堆積状況を示している自然堆積である。

土層解説 (R-R')

1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片22点(皿11、内耳鍋9、壺2)、石器2点(砥石)、礫1点が出土している。443は覆土中から出土している。

所見 第46A・51・53号溝と並行して延び、それぞれ第50A号溝に連結している。また、調査区域外を挟んで、第145号溝に連結していると推測される。底面の掘り方と高低差から、雨水等を第50A号溝に排水する機能をもっていたと推測される。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。

第145号溝跡 (第356・357・365図)

位置と規模 調査区南東部のM5b3～M5d2区に位置している。M5d2から、北西方向(N-14°-W)へ直線的に延び、M5b3区で調査区域外となっている。確認された長さは8.8mで、上幅0.7～1.6m、下幅0.4～1.1m、深さ30～40cm。断面形は逆台形状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 7層に分層される。レンズ状の堆積状況と含有物から、自然堆積と考えられる。

土層解説 (G-G')

1 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 6 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 7 褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量
4 灰褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片27点(皿8、内耳鍋12、壺2、摺鉢4、火鉢1)、陶器片1点(常滑系壺)のほか、流れ込んだ土師器片1点、礫1点が出土している。444・445とも覆土中から出土しているが、ほとんどが50%以下の破片で接合関係が見られないことから、覆土と共に流れ込んだものと考えられる。

所見 調査区域外へ向かって北西方向(N-14°-W)に延び、全容は明白ではない。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。

第146号溝跡 (第356・357・365図)

位置と規模 調査区南東部のM5c2～M5d1区に位置している。調査区域外の道路に沿って、一部分だけ確認された。北東方向(N-38°-E)へ直線的に延び、確認できた長さは6.6m、深さは24cmほどで、上端、下

幅とも明確ではなく、形状の詳細は不明である。

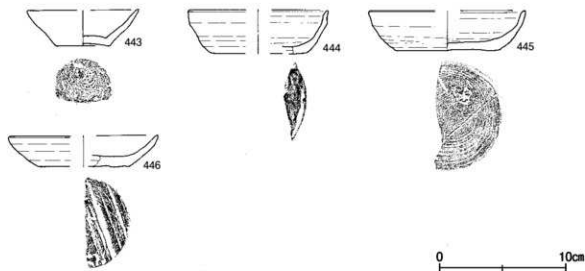
覆土 2層に分層される。レンズ状の堆積状況と含有物から自然堆積と考えられる。

土層解説 (S-S')

1 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量 2 暗 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片4点(皿3, 内耳鍋1)が出土している。446は、覆土中の中層から出土している。

所見 調査区域外の道路下に遺存すると推測される溝で、その一部が確認された。形状から、小規模な溝から雨水等が流れ込んでいる第46A・143号溝と同様な規模ではないかと想定される。時期は、重複関係から16世紀代と考えられる。



第365図 第53・145・146号溝跡出土遺物実測図

第53号溝跡出土遺物観察表 (第365図)

番号	種類	器種	1径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
443	土師質土器	皿	[8.7]	2.8	4.3	雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り	覆土中	40%

第145号溝跡出土遺物観察表 (第365図)

番号	種類	器種	1径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
444	土師質土器	皿	[11.2]	3.5	[8.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り 底板状圧痕立	覆土中	10%
445	土師質土器	皿	[12.1]	3.2	8.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り	覆土中	40%

第146号溝跡出土遺物観察表 (第365図)

番号	種類	器種	1径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
446	土師質土器	皿	[11.8]	2.5	[7.2]	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り 底板状圧痕	覆土中(中層)	40%

第156号溝跡 (第356・357図)

位置と規模 調査区南部のM4d5～M4b8区に位置している。削平を受けているM4b8から南西方向(N-116°-W)へ曲線状に延び、M4d5で第33号溝と連結する。確認できる長さは14.6mで、上幅0.6～1.8m、下

幅0.2～0.68m、深さ7～15cm、断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 単一層で堆積状況の判断は困難であるが、含有物から自然堆積と考えられる。

土層解説 (T-T')

1 黒褐色 ローム粒子少量、粘土粒子微量

所見 連結する第33号溝に、雨水等を排水していたと考えられる。時期は、16世紀代と考えられる。

第128号溝跡 (第366・367図)

位置 調査区南東部のL5 9～M5 b7区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第130号溝を切り、第38号井戸跡を掘り込んで、第46号ピット群に掘り込まれているが、ほぼ同時期と考えられる。

規模と形状 L5 9区から、南西方向(N-137°-W)へ直線的に延び、M5 b7区で第130号溝に連結している。確認された長さは13.4mで、上幅0.6～0.96m、下幅0.12～0.36m、深さ10～18cmである。断面形は浅いU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説 (A-A')

6 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 7 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片13点(皿4、内耳鍋9)と、流れ込みの弥生土器片2点、礫1点が出土している。447・448とも、南側の覆土下層から出土している。

所見 第130号溝に雨水等を排水していたものと考えられる。本溝に掘り込まれている第38号井戸跡は廃絶後、雨水等を調整する水溜遺構に転用されたと推測される。時期は、出土土器と重複関係から、16世紀代と考えられる。

第129号溝跡 (第366・367図)

位置 調査区南東部のM5 a8～M5 b7区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第130号溝を切り、第974号土坑を掘り込んでいるが、ほぼ同時期と考えられる。

規模と形状 M5 a8区から、南西方向(N-136°-W)へ直線状に延び、M5 b7区で第130号溝に連結している。長さは4.2mで、上幅0.48～0.66m、下幅0.13～0.27m、深さ14cmほどである。断面形は浅いU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説 (C-C')

1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量 2 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片32点(皿3、内耳鍋29)、土製品1点(球状土錘)が散在して出土している。449・DP25は、覆土中から出土している。その他、土師器片6点、須恵器片1点、礫1点も確認されている。

所見 第130号溝に雨水等を排水していたものと考えられる。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。

第130号溝跡 (第366・367図)

位置 調査区南東部のL5 j4～M5 b7区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第128・129・133号溝に切られている。

規模と形状 M5a8区から、西方向(N-61°-W)へ直線状に延び、M5a8区で調査区域外へ延びている。確認できる長さは12.6mで、上幅1.8～2.06m、下幅0.43～0.71m、深さ29～71cmである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

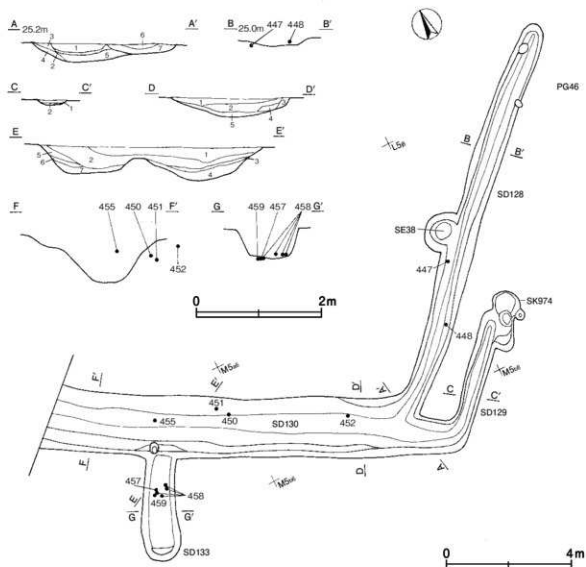
覆土 5層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説 (A-A', D-D', E-E')

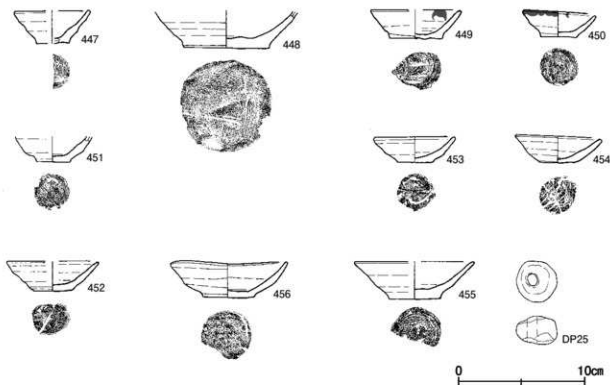
- | | | | |
|-------|----------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片47点(皿19, 内耳鍋27, 甕1)が出土している。450～455は多くの土器片と同じように、点にして覆土中層と覆土中から出土している。その他、土師器片2点、須恵器片1点、鏝2点も出土している。

所見 第128・129・133号溝からの雨水等を排水していたものと考えられる。また、幅が広く緩やかな掘り方の形状から、水場作業場の機能があったものと推測される。時期は土器と重複関係から、16世紀代と考えられる。



第366図 第128～130・133号溝跡実測図



第367図 第128～130号溝跡出土遺物実測図

第128号溝跡出土遺物観察表 (第367図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
447	土加貫土器	甕	[6.0]	2.6	[2.6]	長石・石英・雲母・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	30%
448	土加貫土器	甕	—	(3.0)	7.0	雲母・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り	覆土下層	60%

第129号溝跡出土遺物観察表 (第367図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
449	土加貫土器	甕	[7.0]	2.3	[4.2]	長石・石英・雲母・赤色砂子	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り	覆土中	約10%内面油煙付着

番号	器種	径	孔径	高さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
DP25	埴状土師	3.2	0.8	2.3	22.8	土製	全面ナデ	一部欠損	覆土中	

第130号溝跡出土遺物観察表 (第367図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
450	土加貫土器	甕	6.0	2.1	3.0	長石・雲母・赤色砂子	にぶい橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り	底面	95%内面油煙付着 底面に2ヶ所、孔跡
451	土加貫土器	甕	—	(2.0)	2.8	長石・雲母・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	底面	80%
452	土加貫土器	甕	[7.2]	2.3	[3.0]	長石・雲母・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	40%
453	土加貫土器	甕	6.6	2.2	2.8	長石・石英・雲母・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中	100%
454	土加貫土器	甕	6.9	2.2	2.9	雲母・赤色砂子	黄橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中	90%
455	土加貫土器	甕	[9.6]	3.0	4.0	長石・石英・雲母・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	30%
456	土加貫土器	甕	9.4	2.9	4.1	石英・雲母・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中	70%成形にゆがみ

第133号溝跡 (第366・368図)

位置 調査区南東部のM5a5～M5b5区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第130号溝を切っている。

規模と形状 M5b4区から、北東方向(N-28°-E)へ直線状にM5a5区まで延び、第130号溝に連結している。長さは3.5mで、上幅0.98～1.2m、下幅0.54～0.76m、深さ41～46cmである。断面形は逆台形状で、壁は外傾して立ち上がっている。

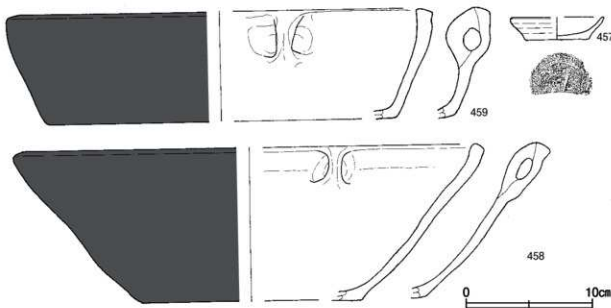
覆土 5層に分層される。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。第1・2層から埋没したことから、第130号溝とはほぼ同時期と考えられる。

土層解説 (E-E')

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片12点(皿3、内耳鍋9)が出土している。457～459は、ほぼ中央部の底面からまとまって出土している。

所見 第130号溝に雨水等を排水していたものと考えられるが、細長い土坑状の形状と第130号溝との連結部に畝状の高まりがあることから、水を溜めて作業をする水場的な機能があったものと推測される。時期は土器と重複関係から、16世紀代と考えられる。



第368図 第133号溝跡出土遺物実測図

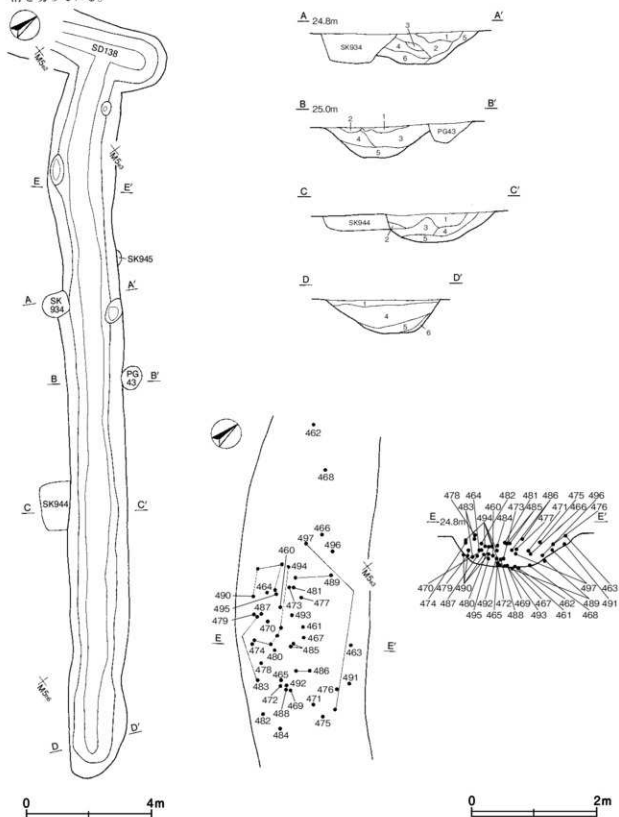
第133号溝跡出土遺物観察表 (第368図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
457	土師質土器	皿	[7.2]	1.8	5.0	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り	底面	40%
458	土師質土器	内耳鍋	[36.2]	12.2	[17.4]	長石・石英・雲母	暗陶	普通	土内耳残存 耳筋付付け 内面から口縁部外面ナデ	底面	20% 体部外面 残付着
459	土師質土器	内耳鍋	[32.0]	8.8	[28.0]	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	灰陶	普通	土内耳残存 耳筋付付け 内面から口縁部外面ナデ	底面	体部外面残付着

第134号溝跡 (第369～373図)

位置 調査区南東部のM5 d2～M5 h6区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第944・945号土坑を掘り込み、第43号ピット群、第934号土坑に掘り込まれている。また、第138号溝を切っている。



第369図 第134号溝跡実測図

規模と形状 M5h6区から、北西方向(N-55°-W)へ直線的にM5d2区まで延び、第138号溝に連結している。確認された長さは22.4mで、上幅1.6～2.1m、下幅0.4～0.8m、深さ45～48cmで、断面形は逆台形状であり、壁は緩やかに立ち上がっている。

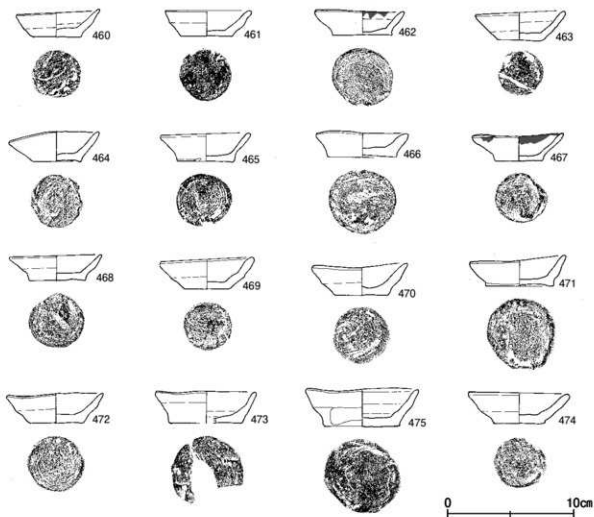
覆土 6層に分層され、含有物と遺物出土状況から人為堆積と考えられる。

土層解説(共通)

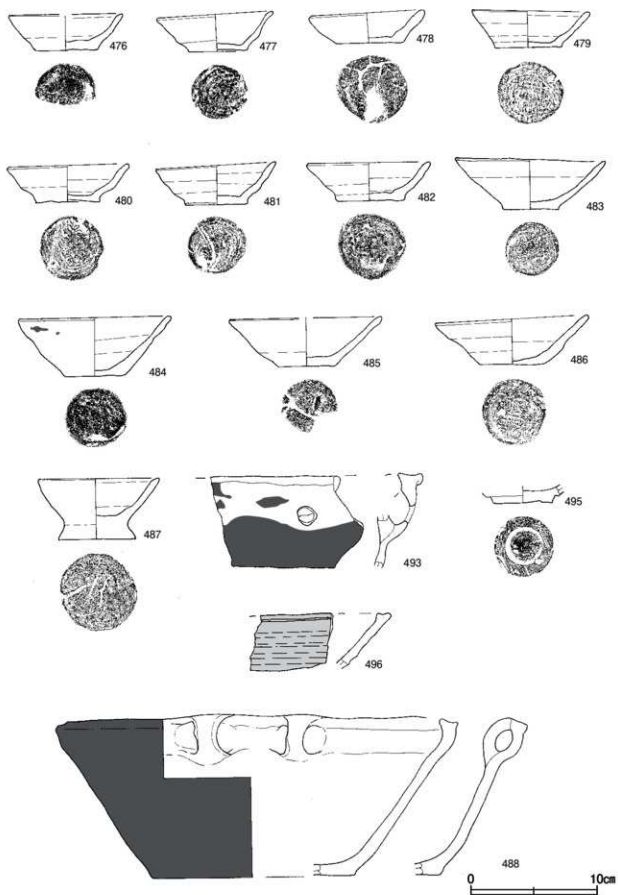
1 褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	4 褐色	粘土ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量
2 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	5 暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片2142点(皿180、内耳鍋類1932、播鉢19、茶釜11)、瓦質土器片1点(火鉢)、陶器片11点(灰軸碗2、皿4、常滑系鉢3、瓶々2)、磁器片1点(碗)、石器4点(磨石1、砥石2、石臼1)、鉄滓1点が出土している。内耳鍋片を中心とした多量の土師質土器は、重複する第138号溝に近い北西部に集中して出土している。492を除くこれらの遺物は、埋土とともに覆土上層から底面まで一様に確認されていることから、北と南に接する居住区の廃絶に伴って一括投棄されたものと考えられる。その他、縄文土器片1点、礎26点も確認されている。

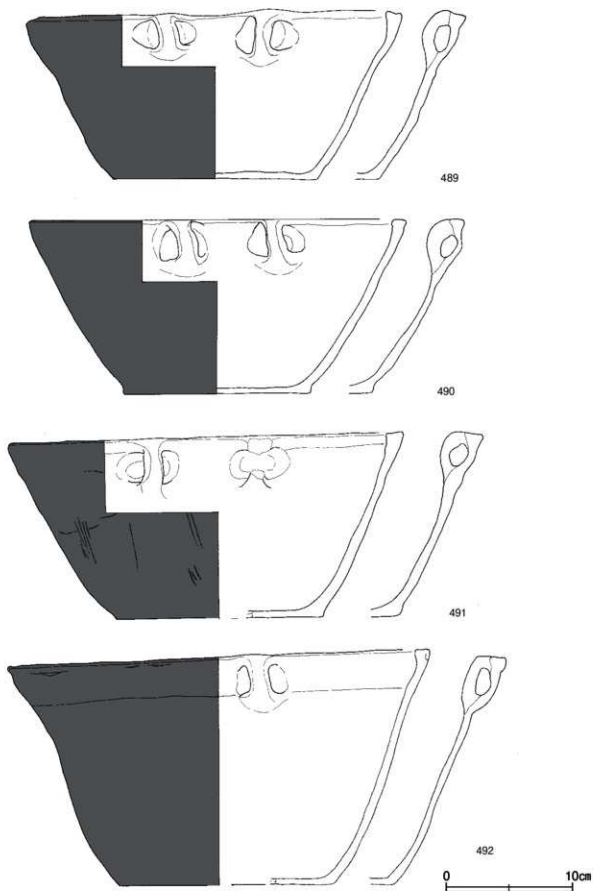
所見 第138号溝に雨水等を流していた排水の役割と、配置と形状的な面から区画と水場的な機能を有していたと考えられる。時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。



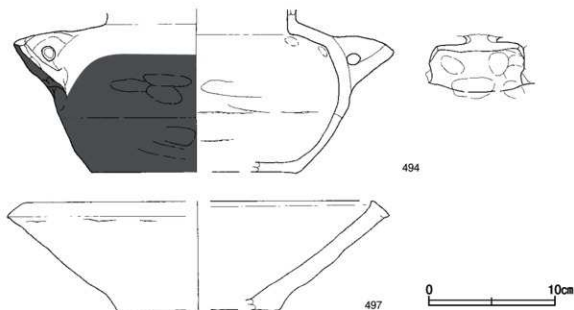
第370図 第134号溝跡出土遺物実測図(1)



第371图 第134号清跡出土遺物実測図(2)



第372图 第134号沟跡出土遺物実測图(3)



第373図 第134号溝跡出土遺物実測図(4)

第134号溝跡出土遺物観察表 (第370～373図)

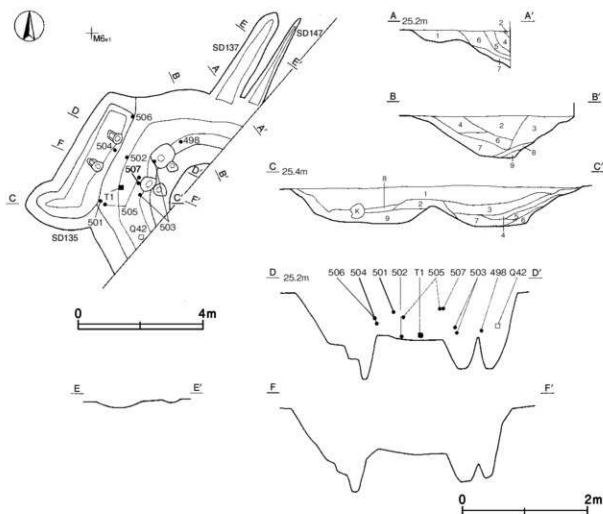
番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
460	土胎土器	甌	6.6	2.2	4.0	長石・雲母・赤色 砂子	暗褐色	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	覆土下層	90%成形に 沖のみ
461	土胎土器	甌	6.8	2.1	4.1	長石・雲母・赤色 砂子	褐色	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ヘラナテ	底面	95%
462	土胎土器	甌	7.0	2.0	4.8	雲母・赤色砂子	褐色	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	底面	100%口内基部 押付者 PL109
463	土胎土器	甌	7.1	2.4	3.5	雲母・赤色砂子	褐色	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	覆土上層	100%成形に 沖のみ
464	土胎土器	甌	7.2	2.4	3.8	長石・石英・ 雲母・赤色砂子	浅黄褐色	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 体部下端に付て長蓋 底部回転糸切り	覆土中層	100%成形に 沖のみ
465	土胎土器	甌	7.2	2.3	4.4	長石・雲母・赤色 砂子	褐色	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 体部下端に付て長蓋 底部回転糸切り	覆土下層	100%
466	土胎土器	甌	7.3	1.9	5.4	赤色砂子	黒褐色黄褐色	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	覆土中層	95%成形に 沖のみ
467	土胎土器	甌	7.3	2.3	3.8	赤色砂子	褐色	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	底面	90%口内基部 押付者 PL109
468	土胎土器	甌	7.4	2.1	4.4	長石・赤色砂子	褐色	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	底面	90%
469	土胎土器	甌	7.4	2.5	3.6	長石・赤色砂子	褐色	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	底面	90%成形に 沖のみ
470	土胎土器	甌	7.5	2.6	4.2	雲母・赤色砂子	浅黄褐色	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	覆土下層	100%成形に 沖のみ
471	土胎土器	甌	7.6	2.5	5.3	長石・雲母・赤色 砂子	にぶい褐色	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	覆土中層	95%成形に 沖のみ
472	土胎土器	甌	7.8	2.3	4.4	雲母・赤色砂子	明褐色	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	底面	100%成形に 沖のみ
473	土胎土器	甌	7.9	2.5	5.8	赤色砂子	褐色	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	覆土上層	55%成形に 沖のみ
474	土胎土器	甌	8.0	2.5	4.0	雲母・赤色砂子	にぶい黄褐色	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	覆土上層	100% PL109
475	土胎土器	甌	9.0	3.0	6.0	長石・石英・赤色 砂子	褐色	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	覆土中層	95%成形に 沖のみ PL109
476	土胎土器	甌	[9.0]	2.9	4.8	雲母・赤色砂子	褐色	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	覆土中層	45%
477	土胎土器	甌	9.1	3.2	4.6	長石・石英・赤色 砂子	浅黄褐色	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	覆土中層	90%成形に 沖のみ
478	土胎土器	甌	9.2	2.7	5.4	赤色砂子	浅黄褐色	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	覆土上層	85%成形に 沖のみ
479	土胎土器	甌	9.4	3.1	5.4	長石・雲母・赤色 砂子	褐色	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	底面	95%成形に 沖のみ
480	土胎土器	甌	9.5	3.0	5.0	雲母・赤色砂子	褐色	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	覆土中層	95%
481	土胎土器	甌	9.5	3.4	5.0	雲母・赤色砂子	浅黄褐色	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	覆土中層	100%
482	土胎土器	甌	9.8	3.0	5.3	長石・雲母・赤色 砂子	褐色	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	覆土中層	95%
483	土胎土器	甌	11.9	4.2	4.3	長石・赤色砂子	褐色	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	覆土上～下層	90% PL109
484	土胎土器	甌	12.0	4.7	4.8	長石・石英・赤色 砂子	にぶい褐色	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ 見込みがけ付	覆土中層	55%外面の一 部残存
485	土胎土器	甌	[12.0]	3.9	4.4	雲母・赤色砂子	褐色	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	覆土下層	45%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
486	土師貫土器	皿	121	3.9	5.2	雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面口タロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	覆土上～中層	90% PL109
487	土師貫土器	耳付高台皿	9.2	4.9	6.1	長石・雲母・赤色	橙	普通	体部内・外面口タロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	覆土下層	90%わかに成重 に中み PL109
488	土師貫土器	内耳鍋	29.8	13.0	16.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙・黒黒	普通	2内耳残存 耳輪り付け 1内面内側につまみ出し 内面から1線部外面ナテ	底面	60% 体部外面 保存者 PL112
489	土師貫土器	内耳鍋	27.9	13.5	16.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙・黒黒	普通	3内耳残存 耳輪り付け 内面から1線部外面ナテ	覆土下層～底面	80% 体部外面 保存者 PL112
490	土師貫土器	内耳鍋	28.2	13.9	14.6	長石・石英・雲母	にぶい赤黒	普通	2内耳残存 耳輪り付け 内面から1線部外面ナテ	底面	50% 体部外面 保存者
491	土師貫土器	内耳鍋	31.5	14.9	16.5	長石・石英・雲母・赤色粒子・小礫	にぶい赤黒	普通	口の2内耳残存 耳輪り付け 内面から1線部外面ナテ 外面に下具痕	底面	80% 体部外面 保存者 PL112
492	土師貫土器	内耳鍋	31.6	18.8	16.6	長石・石英・雲母・赤色粒子・小礫	にぶい赤黒	普通	反対した2内耳残存 耳輪り付け 内面から1線部外面ナテ	覆土上層～下層	75% 体部外面 保存者 PL112
493	土師貫土器	内耳鍋	—	(7.5)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤黒	普通	1内面内側 内面から1線部外面ナテ 内面耳欠損所に穿孔	底面	体部外面保存者
494	土師貫土器	茶釜	—	(13.0)	15.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	耳高輪り付け後面に圧痕を残すナテ 内・外面磨擦痕を残すナテ 内面に磨痕痕と輪痕痕	覆土上層～下層	50% 体部外面 保存者 PL112
495	陶器	平椀	—	(1.4)	4.6	精良 灰釉	灰白・灰白	良好	灰部片 底部回転糸切り後 閉りたし高付 見込みに貫入	覆土下層	10% 瀬戸・美濃系
496	陶器	面付大皿	—	(4.1)	—	精良 灰釉	灰白・浅黄	良好	1内面内側 内・外面磨擦 輪痕痕	覆土下層	瀬戸・美濃系
497	陶器	片貝鉢	[28.0]	8.7	[13.0]	長石・石英	明赤黒	良好	1内面内側につまみ出し 断面下子状 内面磨擦・外表面磨擦痕を残すナテ	覆土中層～底面	10% 常滑系

第135号溝跡 (第374～376図)

位置 調査区南東部のM6e2～M6f1区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第137・147号溝に切られている。



第374図 第135・137・147号溝跡実測図

規模と形状 M6e2区から、北西方向のM6f1区へ弧状に延びているが、全容は不明である。確認できた長さは6mほどで、上幅2.12～3.84m、下幅0.4～0.79m、深さ60～90cmで、断面形は逆台形または緩やかなU字状であり、壁は部分的に緩やかに立ち上がっている。

木橋跡 1か所。6か所の柱穴痕の深さは38～78cmで、屈曲部の中央に確認されている。

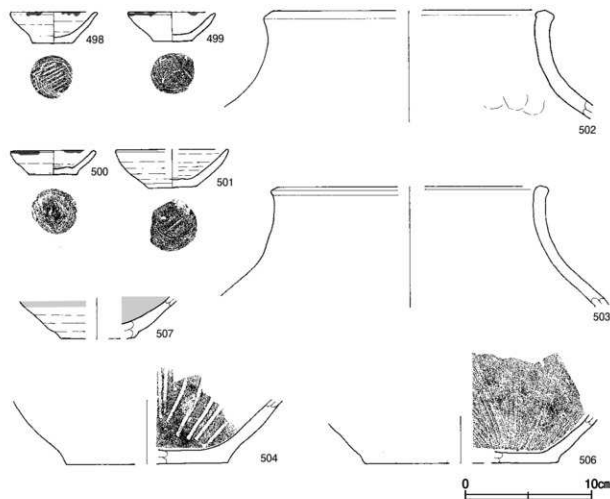
覆土 9層に分層される。レンズ状に堆積しているが、含有物と遺物出土状況から人為堆積と考えられる。

土層解説 (各層共通)

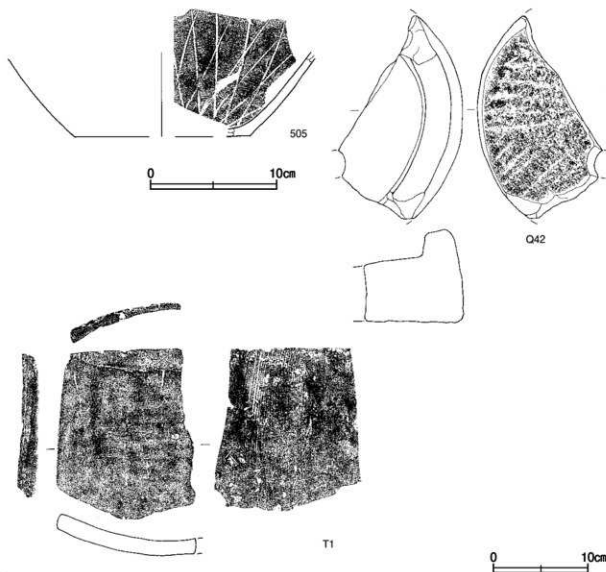
1 黒褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量 (第137号溝第1層と同じ)	5 暗褐色	ローム粒子多量、焼土粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック中量	6 暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒褐色	ローム粒子中量、粘土粒子少量、炭化粒子微量	8 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子量
		9 暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片95点 (皿13、内耳鍋54、甕4、罎鉢24)、陶器片2点 (皿、常滑系甕)、瓦片1点、石器・石製品3点 (磨石、石臼、不明)、石塔2点 (五輪塔) が出土している。499は覆土中、498・500～507、Q42、T1は、木橋痕のピット周辺から多くの遺物と共に出土しており、隣接する居住区域が廃絶されたときに投棄されたものと考えられる。その他、縄文土器片8点、土師器片1点、須恵器片4点、軽石4点、礫53点も確認されている。

所見 検出されたのは、遺構全体の中の西側に突出した部分と推測され、その形状は調査区中央部の南東に位置している第185号溝と類似している。時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。



第375図 第135号溝跡出土遺物実測図(1)



第376図 第135号溝跡出土遺物実測図

第135号溝跡出土遺物観察表 (第375・376図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
498	土師貫土器	皿	6.8	2.4	3.4	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底面回転糸切り後ナデ	覆土下層	95% 口唇部消滅付着 115%
499	土師貫土器	皿	6.8	2.4	3.1	長石・石英・赤色粒子	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底面回転糸切り後スノコ状圧痕	覆土中	90% 口唇部消滅付着
500	土師貫土器	皿	6.9	1.9	3.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	体部内・外面ロクロナデ 底面回転糸切り後ナデ	覆土中下層	90% 口唇部消滅付着
501	土師貫土器	皿	[8.7]	3.0	4.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底面回転糸切り後スノコ状圧痕	覆土中層	30%
502	土師貫土器	甕	[21.7]	(8.8)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐色	普通	体部内面指頭痕を残すナデ 外面ナデ	底面	
503	土師貫土器	甕	[21.2]	(9.6)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ナデ	覆土下層～底面	
504	土師貫土器	楕鉢	—	(5.0)	[13.0]	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	体部内面1条1単位の縞り目 外面ナデ後ナデ	覆土中層	10%
505	土師貫土器	楕鉢	—	(6.7)	[14.2]	長石・石英・雲母	褐	普通	体部内面1条1単位の縞り目が交差 外面ナデ 底面ナデ	覆土上層～中層	
506	土師貫土器	楕鉢	—	(3.8)	[15.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	体部内面5条1単位の縞り目* 外面ナデ 底面ナデ	覆土中層	10%
507	陶器	平碗	—	(3.4)	(6.0)	精良 灰釉	灰白・浅黄	普通	張り出し高台 内面と外面中位まで輪飾	覆土上層	10% 瀬戸・美濃系

番号	器種	径	口径	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q42	石目(土目)	[27.2]	[3.0]	9.9	(287)	安山岩	6条1単位の縞り目	覆土中層	PL117

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
T.1	平瓦	(18.3)	(14.8)	1.7	(756)	長石・雲母	外面に若干表面調整圧痕を残す平瓦 胎土の一部に煤片を含む	出土位置 覆土下層	

第137号溝跡 (第374図)

位置 調査区南東部のM 6 d2～M 6 e1区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第135号溝を切っている。

規模と形状 M 6 d2区から、南西方向(N-149°-W)へ直線的にM 6 e1区まで延び、第135号溝に連結している。確認された長さは3.2mで、上幅0.6～0.84m、下幅0.1～0.5m、深さ12cmほどで、断面形は緩やかなU字状である。底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 単一層で、自然堆積と考えられる。

土層解説 (A-A')

- 1 黒褐色 romeブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子
微量 (第135号溝第1層と同じ)

所見 第135号溝に雨水等を排水していたと考えられる。時期は、第135号溝と同じ16世紀後半と考えられる。

第147号溝跡 (第374図)

位置 調査区南東部のM 6 d2～M 6 e2区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第135号溝を切っている。

規模と形状 M 6 d2区から、南西方向(N-151°-W)へ直線的にM 6 e2区まで延び、第135号溝に連結している。長さは3mほどで、上幅0.12～0.62m、下幅0.04～0.32m、深さ4cmで、断面形は緩やかなU字状であり、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 黒褐色土の単一層で、自然堆積と考えられる。

所見 第137号溝に並行して位置しており、第135号溝に雨水等を排水していたと考えられる。時期は、第135号溝と同じ16世紀後半と考えられる。

第138号溝跡 (第377・378図)

位置 調査区南東部のM 5 d2～N 5 b5区で、標高25mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第16号墓坑を掘り込み、第145号溝を切り、第134・139・143号溝に切られている。

規模と形状 N 5 b5区から北西方向(N-42°-W)へほぼ直線的にM 5 d2区まで延び、L字状に北東方向(N-57°-E)へ屈曲し、M 5 d2区で第134・145号溝に連結している。確認されたのは長さは48mほどで、上幅1.5～2.3m、下幅0.2～0.6m、深さ60～84cmで、断面形は逆台形状であり、底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

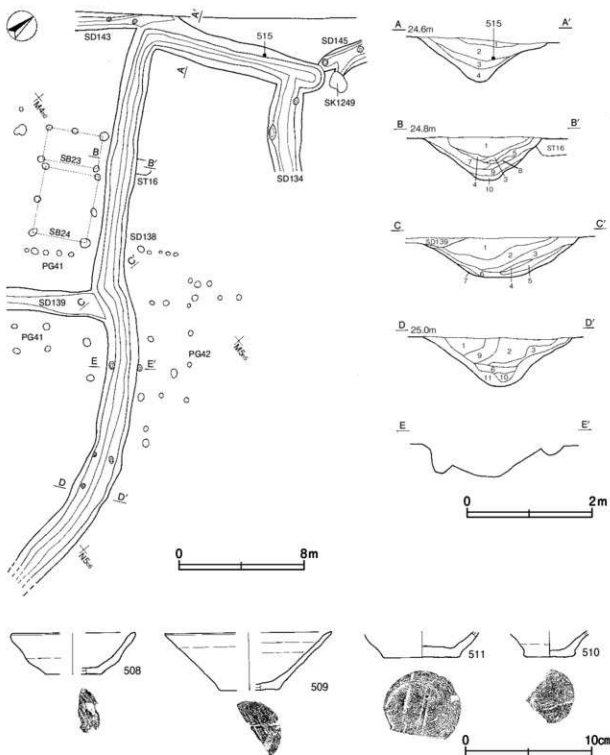
覆土 11層に分層される。部分的にレンズ状に堆積しているが、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説

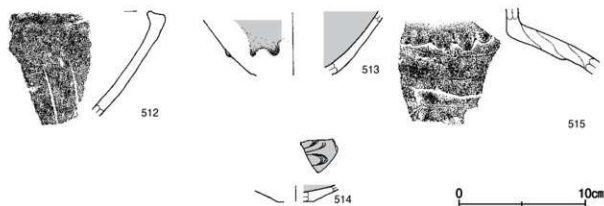
- | | | | | | |
|---|--------|----------------------------|----|-----|----------------------------|
| 1 | 暗褐色 | romeブロック少量、粘土ブロック中量、炭化粒子微量 | 6 | 暗褐色 | rome粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 | にぶい黄褐色 | romeブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子微量 | 7 | 暗褐色 | rome粒子中量、粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 | 暗褐色 | romeブロック・粘土ブロック少量 | 8 | 暗褐色 | romeブロック中量、粘土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 | 暗褐色 | rome粒子中量、粘土ブロック少量 | 9 | 暗褐色 | rome粒子中量、粘土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 | 灰黄褐色 | 粘土ブロック少量、romeブロック少量、炭化粒子微量 | 10 | 暗褐色 | rome粒子中量、粘土粒子少量、炭化物微量 |
| | | | 11 | 暗褐色 | rome粒子・砂粒少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片164点（皿32, 内耳鍋類128, 播鉢4）、陶器片5点（碗1, 皿1, 常滑系甕2, 鉢カ1）、磁器片1点（碗）、鉄滓1点と、流れ込んだ縄文土器片2点、礫9点が出土している。図示した遺物は、いずれも埋土と共に廃棄されたと推測される。

所見 連結する第134・143号溝からの雨水等を集水する機能と、形状的に第23・24号掘立柱建物、第41・42号ピット群を区画する区画溝であったと考えられる。時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。



第377図 第138号溝跡・出土遺物実測図



第378図 第138号溝跡出土遺物実測図

第138号溝跡出土遺物観察表 (第377・378図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
508	土胎土器	甕	[9.8]	3.3	[4.4]	長石・雲母・赤色 粒子	淡黄褐色	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中	23%
509	土胎土器	甕	[13.4]	4.6	[6.8]	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	30%
510	土胎土器	甕	—	(2.1)	3.8	赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後片削	覆土中	30%
511	土胎土器	甕	—	(2.1)	6.2	長石・雲母・赤色 粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後片削	覆土中	50%
512	土胎土器	擂鉢	—	(8.2)	—	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	1口径内縦につまみ出し 内面1 条1 単位の掘り目 外面ナデ	覆土中	
513	陶器	碗	—	(5.0)	—	精良 灰釉	灰白・淡黄	普通	クロロ成形 餅軸	覆土中上層	瀬戸・美濃系*
514	陶器	甕	—	(1.3)	[3.0]	精良 灰釉	灰白・ 灰オシロイ	普通	内面に波ぎ 塗り掛け*	覆土中	瀬戸・美濃系*
515	陶器	甕	—	(5.3)	—	長石・石英	明褐色	普通	体部内・外面ナデ 内面輪痕痕 外面ナ デキ目と自然熱	底面	常滑系

第182号溝跡 (第379～381図)

位置 調査区中央部の I 7c6～I 7c8区で、標高26mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第196A号溝に切られている。

規模と形状 I 7c8区から、北西方向 (N-68°-W) へ直線的に I 7c6区まで延びている。確認できた長さは8.9mで、上幅0.9～1.2m、下幅0.5～0.62m、深さ55～66cm、断面形は逆台形状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

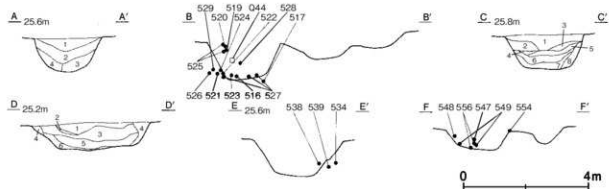
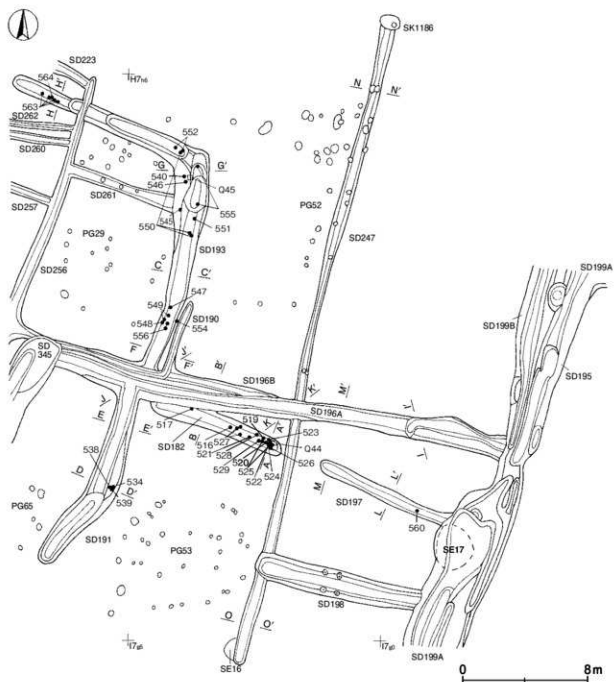
覆土 4層に分層される。レンズ状に堆積しているが、含有物から人為堆積と考えられる。各層とも粘土ブロック・粒子を比較的多く含む締まりの強い層である。

土層解説 (A-A')

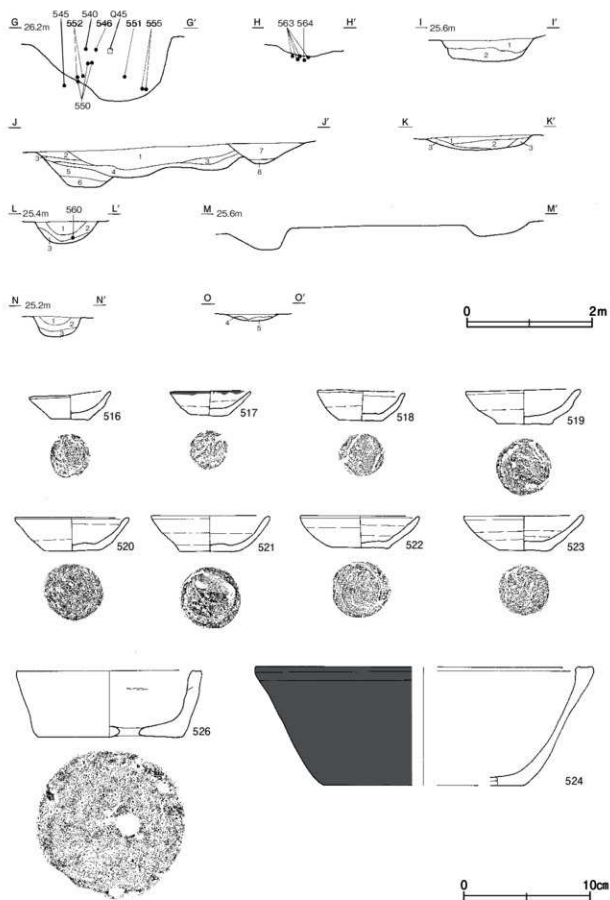
- | | |
|--------------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子中量 | 3 黒褐色 粘土粒子多量、ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 褐色 ローム粒子多量、粘土ブロック少量、焼土ブロック微量 | 4 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子少量 |

遺物出土状況 土師質土器片88点 (皿32、内耳鍋19、香炉1、甕類34、擂鉢1、火鉢1)、石器2点 (砥石) が出土している。516・527は中央部、517は西部、518～526・528～530とQ43・Q44は東部から、それぞれ覆土下層と底面を中心に集中して出土しており、本跡の廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。この他、流れ込んだ土師器片10点、須恵器片1点、礫1点も出土している。

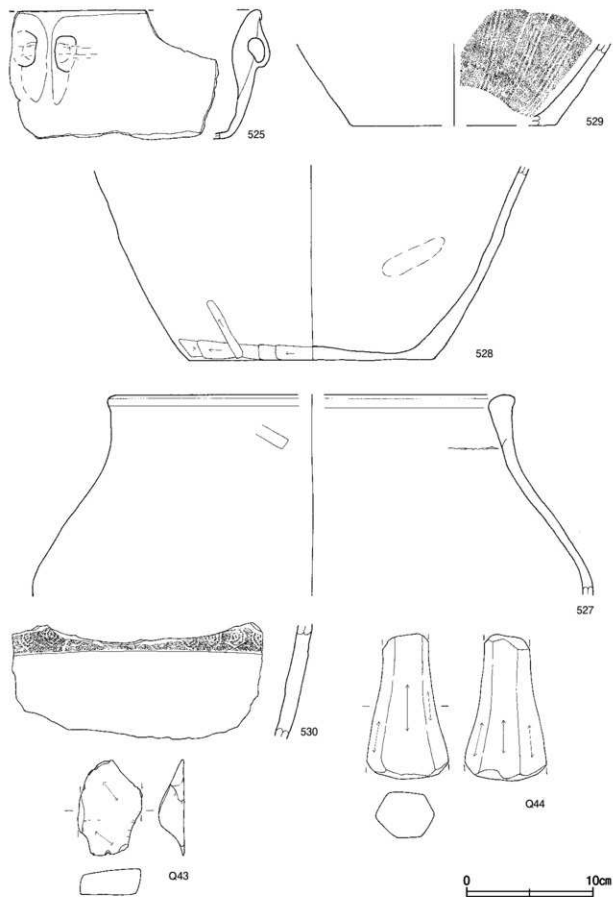
所見 第196A号溝に掘り込まれているため全容は不明であるが、掘り方の位置などから区画溝と推測される。出土した土器は皿と香炉の残存率高く、甕片が多いことから意図的に廃棄した可能性が想定される。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。



第379图 第182·190·191·193·196A·196B·197·247号沟坑平面图



第380图 第190·193·196A·196B·197·247号沟迹, 第182号沟迹出土实物实测图



第381图 第182号溝跡出土遺物実測図

第182号溝跡出土遺物観察表 (第380・381図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
516	土質土器	甌	6.5	2.3	3.2	黄母・赤色粒土	浅黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	95%底形に準ずる
517	土質土器	甌	6.3	2.0	2.9	長石・黄母・赤色粒土	浅黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	底面	95%口部油漣付着 PL109
518	土質土器	甌	6.9	2.4	3.4	長石・黄母・赤色粒土	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中	90%底形に準ずる PL109
519	土質土器	甌	9.0	2.8	4.4	長石・黄母・赤色粒土	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土上層	85%
520	土質土器	甌	9.0	2.7	4.4	黄母・赤色粒土	淡橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土上層	90%
521	土質土器	甌	9.2	2.9	4.7	長石・赤色粒土	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	95% PL109
522	土質土器	甌	9.4	2.5	4.6	黄母・赤色粒土	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	100% PL109
523	土質土器	甌	9.5	2.8	4.0	長石・赤色粒土	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	100%
524	土質土器	内耳鍋	[270]	95	[160]	長石・白黄・黄母・赤色粒土	橙	普通	内面から口縁部外面ナデ	覆土下層	外面保存者
525	土質土器	内耳鍋	[206]	103	[236]	長石・白黄・黄母・赤色粒土	にぶ・赤陶	普通	1内耳残存 口縁部ナデ 内面に鉄片	覆土上層	外面保存者
526	土質土器	香炉	116	5.3	11.6	長石・白黄・黄母・赤色粒土・礫	橙	普通	体部内面輪襷を残すナデ 外面へつ張り後ナデ	覆土下層	90%基本鉢形用 PL111
527	土質土器	葉	[33.7]	(16.1)	—	長石・白黄・黄母・赤色粒土	明黄陶	普通	1口部破折 内面輪襷を残すナデ 外面へつ張り後ナデ	覆土上層	10%
528	土質土器	壺	—	(15.5)	19.4	長石・黄母・赤色粒土	橙	普通	内面部口直を残すナデ 外面へつ張りナデ 体部1線へのつ張り	覆土中層	25%
529	土質土器	播鉢	—	(6.5)	[16.4]	長石・白黄・黄母・赤色粒土・礫	にぶ・橙	普通	5条1單位の罫り目 外面ナデ 内面筆威	覆土下層	
530	瓦質土器	火鉢	—	(9.1)	—	長石・白黄・黄母・赤色粒土・礫	明赤陶	普通	内面ナデ 外面スタンプ文押印	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q-43	砥石	(7.6)	3.1	2.0	(7.6)	凝灰岩	端部欠損 砥面2面	覆土中	
Q-44	砥石	(11.6)	6.5	5.2	(34.4)	砂岩	端部欠損 砥面6面	覆土中層	

第190号溝跡 (第379・380図)

位置 調査区中央部のI7a7～I7b4区で、標高26mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第193・196A・196B号溝を切り、第345号溝に切られている。

規模と形状 I7a7区から、南西方向(N-162°-W)へ直線的にI7b6区まで延び、さらに西方向(N-71°-W)へL字状に屈曲してI7b4区まで延びている。長さは11.2mで、上幅0.26～0.75m、下幅0.1～0.3m、深さ20cm、断面形は逆台形状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。レンズ状に堆積しているが、含有物から人為堆積と考えられる。粘土を含む層は締まりが強く、下層ほど粘性が強い層である。

土層解説 (J-J')

J 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 8 階 褐色 粘土ブロック多量、ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片5点(皿1、播鉢1、内耳鍋3)と、流れ込んだ縄文土器片9点が散在して小片で出土しており、流れ込みや混入したものと考えられる。

所見 雨水等を第345号溝へ排水する機能をもっていたと考えられる。時期は、重複関係から16世紀代と考えられる。

第191号溝跡 (第379・380・382図)

位置 調査区中央部のI7c6～I7e4区で、標高26mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第196A号溝に切られている。

規模と形状 I7e4区から、北東方向(N-30°-E)へ緩曲線状に延び、第196A号溝に連結している。長さは12mほどで、上幅1.3～1.94m、下幅0.3～0.72m、深さ45～55cm、断面形は逆台形状を呈し、壁は外傾し

で立ち上がっている。

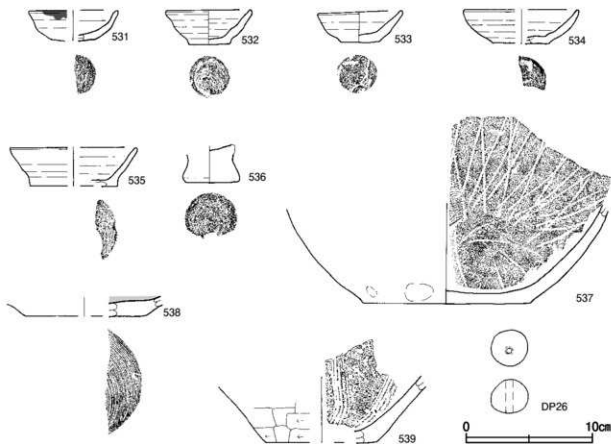
覆土 6層に分層される。含有物から人為堆積と考えられる。各層とも粘土ブロック・粒子を比較的多く含んで締まりが強い層である。

土層解説 (D-D', J-J')

- | | | | |
|----------|-------------------------|----------|-----------------------|
| 1 灰 黄 褐色 | 粘土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 4 にふい黄褐色 | 粘土粒子多量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 褐 灰 色 | 粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 にふい黄褐色 | 粘土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐 灰 色 | 粘土粒子多量、ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 褐 灰 色 | 粘土粒子多量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片533点(皿82, 内耳銅類441, 播鉢10), 瓦質土器片1点(香炉), 陶器片9点(皿4, 大皿1, 常滑系片口鉢1, 常滑系甕2, 瓶 ϕ 1), 磁器片1点(皿), 石器2点(砥石), 粘土塊1点出土している。531～539は、覆土層から底面にかけて混在して出土した遺物の一部である。これらは、建物跡と想定される第53・65号ピット群等の廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。この他、流れ込んだ縄文土器片2点、礫16点も確認されている。

所見 掘り方と重複関係から、第196A号溝から流れ込んだ雨水の流路と考えられる。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。



第382図 第191号溝跡出土遺物実測図

第191号溝跡出土遺物観察表 (第382図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
531	土師質土器	皿	[7.0]	2.3	[3.4]	長石・雲母	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底面回転糸切 り残ナデ	覆土中上層	90%口唇部保 存者
532	土師質土器	皿	6.6	2.7	3.2	長石・雲母・白色 粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底面回転糸切 管線糸切り痕を残ナデ	覆土中上層	70%

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
533	土胎土器	皿	6.7	2.5	3.1	長石・雲母・赤色 鉄・褐色粒子	浅黄	普通	体部内・外面ロクロナデ 与後述同リ面を焼すナデ	底部回転糸切り	覆土中上層 85% 成形に準 25%
534	土胎土器	皿	[9.2]	2.7	[4.4]	長石・石英・赤色 鉄	にぶい濁	普通	体部内・外面ロクロナデ 与後述同リ面を焼すナデ	底部回転糸切り	覆土中層 25%
535	土胎土器	皿	[10.2]	3.1	[7.6]	長石・石英・赤色 鉄	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 与後述同リ面を焼すナデ	底部回転糸切り	覆土中 25%
536	土胎土器	柱状高台皿	—	2.9	4.5	長石・雲母	浅黄橙	普通	廻り付けた高台部の破片 ナデ 底部回転糸切り残ナデ	ロクロナデ残	覆土中上層 20%
537	土胎土器	楕鉢	—	(8.0)	13.2	長石・石英・雲母・ 赤色鉄粒子	橙	普通	1条1單位の廻り目を交差 外面南面注 柄を焼すナデ	外面南面注	覆土中 25%
538	陶器	折縁深皿	—	(1.5)	(9.6)	焼良 長石・灰釉	灰白・ 灰黄釉	良好	破片 底部回転糸切り 内面5条1單位の廻り目 外面縁部のヘ ラ開きナデ	内面に施釉	覆土中層 10% 瀬戸系14 世紀代
539	陶器	楕鉢	—	(5.3)	(8.8)	焼良 長石・滑釉	灰白・赤釉	良好	破片 底部回転糸切り 内面5条1單位の廻り目 外面縁部のヘ ラ開きナデ	内面に施釉	覆土中層 瀬戸・美濃系

番号	器種	高さ	口径	幅	重量	材質	特徴	出土位置	備考
D926	球状土鉢	2.7	0.6	3.0	23.3	土製	全面ナデ	覆土中	

第193号溝跡 (第379・380・383～386図)

位置 調査区中央部のH7h4～17b6区で、標高26mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第261号溝を切り、第190・256号溝に切られている。

規模と形状 H7h4区から、南東方向(N-112°-E)へ直線的にH7j7区まで延び、さらに南方向(N-170°-W)へL字状に屈曲して17b6区まで直線的に延びている。確認された長さは26.3mで、上幅0.82～2.4m、下幅0.36～0.9m、深さ20～55cm。北西部の断面形は緩やかなU字状を呈し、他は逆台形状である。壁は北西部は緩やかな角度で立ち上がり、他は外傾して立ち上がっている。

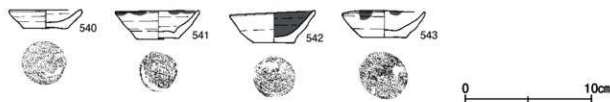
覆土 8層に分層される。第1～5層は含有物から人為堆積と考えられるが、第6～8層はレンズ状の堆積状と含有物から自然堆積と想定される。粘土を多く含む層ほど締まりが強く、下位層ほど水分を含んで粘性が強い層である。

土層解説 (C-C')

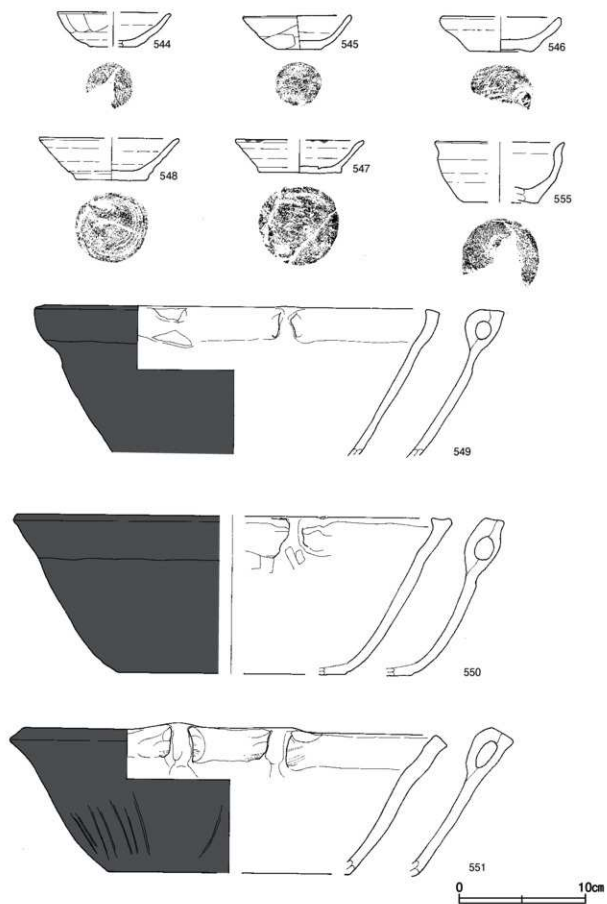
- | | | | | | |
|----------|-------------------------|------------------------------|----------------------|----|-------------------------|
| 1 層 | 褐色 | ローム粒子中量、粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 灰 | 褐色 | 粘土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 にぶい黄褐色 | 粘土粒子多量、ローム粒子少量、炭化物微量 | | |
| 3 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量、炭化粒子微量 | 7 褐色 | 粘土粒子多量、ローム粒子少量 | | |
| 4 褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子多量、粘土粒子中量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片309点(碗カ1、皿69、内耳鍋類189、甕19、楕鉢31)、陶器片13点(灰釉皿1、常滑系甕8、常滑系片口鉢4)、青磁片1点(皿カ)、石器4点(磨石1、石白2、砥石1)、鉄製品1点(不明)、古銭1点(永安通寶)、粘土の焼土塊16点が出土している。図示した遺物は、北部、中央部、南部の3か所に集中して出土している。3か所とも覆土上層から底面にかけて出土しており、投棄されたものと推測される。この他、周辺の住居跡から流れ込んだ縄文土器片13点、土師器片37点、須恵器片37点、軽石1点、礫10点も確認されている。

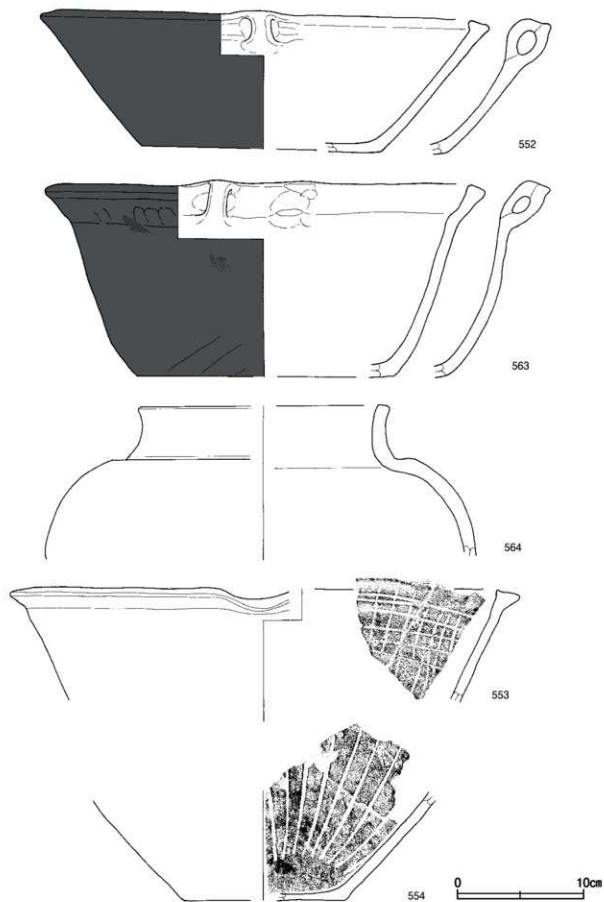
所見 形状と配置から、第29号ピット群を区画する溝と考えられる。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。



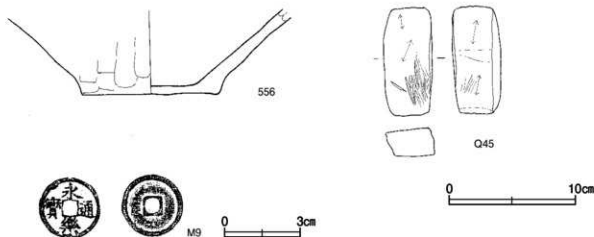
第383図 第193号溝跡出土遺物実測図(1)



第384图 第193号沟跡出土遺物実測図(2)



第385图 第193号清跡出土遺物実測図(3)



第386図 第193号溝跡出土遺物実測図(4)

第193号溝跡出土遺物観察表 (第383～386図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
540	土師器土器	皿	5.8	1.5	3.6	長石・石英・赤色砂	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土上層	95%
541	土師器土器	皿	6.8	2.2	3.4	長石・赤色砂子	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中底面	95%以上唇部縁付者 PL109
542	土師器土器	皿	6.7	2.6	3.4	赤色砂子	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後全残ナデ	覆土中・中層	90%以上唇部縁付者 内面縁付者
543	土師器土器	皿	6.5	2.1	3.6	雲母・赤色砂子	淡橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後全残ナデ	覆土中・下層	90%以上唇部縁付者 内面縁付者
544	土師器土器	皿 [90]	2.7	3.8		長石・雲母・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後口辺部外面ヘラナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中	60%
545	土師器土器	皿	8.5	2.8	3.7	長石・石英・雲母・赤色砂子	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後外面ヘラナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	80%
546	土師器土器	皿 [92]	2.8	5.0		長石・石英・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後全残ナデ	覆土上層	40%
547	土師器土器	皿 [10.3]	2.6	6.6		長石・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	65%以上唇部縁付者
548	土師器土器	皿 [11.0]	3.4	5.6		雲母・赤色砂子	浅黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	65%
549	土師器土器	内耳鍋	30.1 (11.8)	—	—	長石・石英・雲母・赤色砂子・小礫	にぶい・暗	普通	1内耳残存 耳部貼り付け 内・外面ナデ 耳部厚紙	覆土下層・底面	85% PL112
550	土師器土器	内耳鍋	34.6 (12.6)	18.2	—	長石・雲母・赤色砂子	にぶい・赤暗	普通	1内耳残存 耳部貼り付け 内面ヘラナデ後ナデ 外面ナデ 耳部厚紙	覆土中層	20% 体部外面縁付者
563	土師器土器	内耳鍋	32.8	15.7 [20.6]	—	長石・石英・雲母	明暗	普通	2内耳残存 耳部貼り付け 内面ナデ 外面ナデ 耳部厚紙	覆土中	10% 外面縁付者 PL112
551	土師器土器	内耳鍋	33.0	11.9 [19.4]	—	長石・石英・雲母・赤色砂子・礫	暗赤暗	普通	2内耳残存 耳部貼り付け 内面ナデ 外面ナデ 耳部厚紙	覆土下層	80% 体部外面縁付者 PL112
552	土師器土器	内耳鍋	36.0	10.8 [19.2]	—	長石・石英・雲母	にぶい・赤暗	普通	1内耳残存 耳部貼り付け 内・外面ナデ	覆土中層	60% 体部外面縁付者
564	土師器土器	甕	[19.8]	(17.2)	—	長石・石英・雲母・赤色砂子・礫	橙	普通	口辺部破片 内・外面残ナデ	覆土中層	15%
553	土師器土器	磁鉢	[40.6]	(9.0)	—	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	片口部残存 口唇部外縁につまみ出し 1条1単位の縞り目を交差	覆土中	10%
554	土師器土器	磁鉢	—	(8.7) [12.8]	—	長石・石英・雲母・赤色砂子	にぶい・赤暗	普通	1条1単位の縞り目 外面ナデ	底面	10%
555	土師器土器	甕	[10.2]	4.8	6.0	長石・石英・雲母・赤色砂子	にぶい・黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	40%
556	陶器	片口鉢	—	(6.7) [11.2]	—	長石・雲母	浅黄	良好	外面下位部分のヘラナデナデ 内面縁付者	覆土下層・底面	10%常滑系

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q45	灰石	8.6	4.0	2.2	88.2	凝灰岩	底面2面 磨痕有り	覆土下層	

番号	器種	径	孔径	重量	初跡年	材質	特徴	出土位置	備考
M9	永楽通寶	2.5	0.6	2.2	1408	銅	明銭 模範銭	覆土中	PL123

第196A号溝跡 (第379・380・387図)

位置 調査区中央部の I 7 b4 ~ I 8 d2区で、標高26mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第182・191・196B・247号溝を切り、第190・199A・199B・345号溝に切られている。

規模と形状 I 7b42区から、東方向(N-97-E)へ直線的に延びている。長さは29.4mで、上幅1.04～2.26m、下幅0.16～0.86m、深さ16～48cm。断面形は逆台形状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 9層に分層される。各土層断面ごとに含有物に違いが認められる人為堆積である。

土層解説 (I-I')

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 2 暗褐色 ローム粒子多量、粘土ブロック少量、炭化粒子微量

土層解説 (K-K')

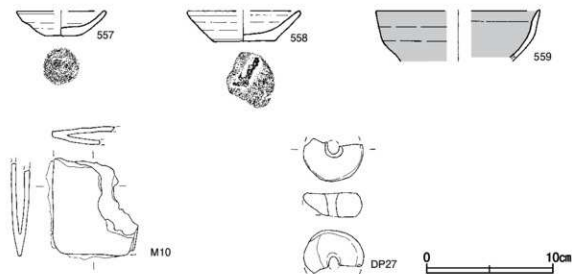
- 1 灰褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック・炭化物少量 3 暗褐色 粘土粒子多量、炭化物中量、焼土ブロック少量
2 暗褐色 焼土ブロック多量、炭化物中量、ロームブロック・粘土ブロック少量

土層解説 (J-J')

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子・砂粒微量 3 暗褐色 ローム粒子中量、粘土ブロック・炭化物微量
2 黒褐色 ローム粒子少量、粘土ブロック・砂粒微量 4 黒褐色 ローム粒子中量、粘土ブロック・炭化物・砂粒微量

遺物出土状況 土師質土器片161点(皿21,内耳鍋類113,斐10,搦鉢17),瓦質土器片1点(火鉢),陶器片1点(天目茶碗),石器3点(砥石),鉄器1点(鋤先),埴土片1点,その他,流れ込みや擾乱によって混入した須恵器片6点,陶器片1点(小杯),磁器片6点(小杯1,碗4,瓶1),土製品1点(紡錘車),近代の瓦片2点,礫10点も出土している。557～559, DP27, M10は,多くの遺物と同様に散在した状態で覆土中から出土しており,埋土と共に廃棄されたものと考えられる。

所見 雨水を第199A号溝に排水するとともに,第345号溝と第199A号溝を連結して中央部の東区を南北に区画していたと考えられる。時期は,出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。



第387図 第196A号溝跡出土遺物実測図

第196A号溝跡出土遺物観察表 (第387図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
557	土師質土器	皿	[7.2]	2.0	2.9	石英・雲母	橙	普通	体部内・外面口ケロナデ 底部回転糸切 与後ナデ	覆土中	60%
558	土師質土器	皿	[9.2]	2.5	[5.0]	長石・石英 雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口ケロナデ 底部回転糸切 与後ナデ	覆土中	30%
509	陶器	天目茶碗	[13.0]	[4.1]	—	精良 鉄軸	灰白・黒褐	良好	内・外面中位まで鉄軸を施軸	覆土中	20% 瀬戸・美濃 産

番号	器種	径	口径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP27	粘鉢草	4.7	1.9	1.2	(30.6)	土製	半分欠損 全面ナケ	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M10	曲先	(7.6)	(6.9)	0.4	(78.5)	鉄	差し込み部の破片	覆土中	PL123

第196B号溝跡 (第379・380図)

位置と規模 調査区中央部のI7b6～I7c8区に位置している。I7b6区から、南東方向(N-100°-E)へ直線的にI7c8区まで延びている。確認できる長さは7mほどで、上幅0.6～0.72m、下幅0.24～0.4m、深さ24cmで、断面形は皿状である。底面も皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 粘土ブロック・粒子を比較的多く含んだ人為堆積である。

所見 重複する第196A号溝に大きく掘り込まれていることから、時間的には第196A号溝が掘削される前の溝と推測される。時期は、重複関係から16世紀代と考えられる。

第197号溝跡 (第379・380・388図)

位置と規模 調査区中央部のI7d9～I8e1区に位置している。I7d9区から、南東方向(N-116°-E)へ直線的に延び、I8e1区で第199A号溝に連結している。長さは9mほどで、上幅0.72～0.98m、下幅0.28～0.5m、深さ39cmほど、断面形はU字形状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説 (L-L')

- 1 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 3 褐色 ローム粒子少量、粘土ブロック微量
2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片26点(皿6、内耳鍋19、搦鉢1)、礫2点、その他、攪乱により混入した磁器片1点(碗)も出土している。埋土と共に廃棄されたと考えられる560は、覆土下層から出土している。

所見 第199A号溝に、雨水等を排水する機能があったと考えられる。時期は、重複関係から16世紀後半以降と考えられる。

第247号溝跡 (第379・380・388図)

位置と規模 調査区中央部のH7g0～I7g7区に位置している。H7g0区から、南西方向(N-170°-W)へ直線的にI7g7区まで延びている。長さは42mで、上幅1.38～1.8m、下幅0.24～0.44m、深さ35cm、断面形は逆台形状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

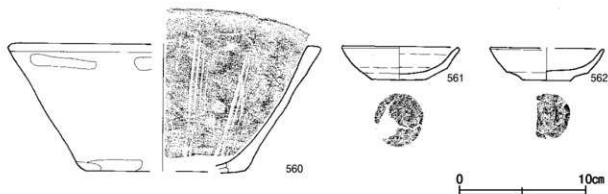
覆土 5層に分層される。含有物から第1～3層は人為堆積、第4・5層は自然堆積と考えられる。

土層解説 (N-N', O-O')

- 1 黒褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子微量 4 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量 5 暗褐色 ローム粒子中量、粘土粒子微量
3 灰黄褐色 粘土粒子多量、ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片23点(皿9、内耳鍋14)、陶器片1点(皿)、石器1点(磨石)と、流れ込んだ縄文土器片2点、土師器片9点、須恵器片2点、礫2点が散在した状態で出土している。ほとんどの遺物は、流れ込んだものと推測され、561・562も覆土中から出土している。

所見 第199号溝と並行して中央部を東西に区画していた溝で、時期は重複関係から16世紀代と考えられる。



第388図 第197・247号溝跡出土遺物実測図

第197号溝跡出土遺物観察表 (第388図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
560	土加置土器	椀鉢	[25.2]	10.2	[13.0]	長石・石英・赤色 炭粒・小塵	橙	普通	口内縁部扁平 外面へラナテ後ナテ 内面5条1単位の盛り目形成	覆土下層	10%

第247号溝跡出土遺物観察表 (第388図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
561	土加置土器	皿	9.2	2.7	4.1	長石・石英・赤色 炭粒	橙	普通	体部内・外面ロクロナテ 底部回転糸切 与後ナテ	覆土中	90%
562	土加置土器	皿	[9.0]	2.6	3.8	長石・石英・ 炭粒・赤色炭粒	淡橙	普通	体部内・外面ロクロナテ後ナテ 底部回 転糸切与後ナテ	覆土中	80%

第183号溝跡 (第389図)

位置 調査区中央部のJ7a6～J7a8区で、標高25mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 掘り替えをされた溝で、第185号溝に切られている。

規模と形状 J7a8区から、北西方向(N-80°-W)へ直線状にJ7a6区まで延び、第185号溝に繋がっている。確認できる長さは8.8mで、上幅0.52～0.84m、下幅0.24～0.5m、深さ22～30cmで、断面形は逆台形状で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。含有物から、自然堆積と考えられる。

土層解説 (B-B')

3 黒 褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量 4 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

所見 第185号溝に雨水等を排水していたと想定され、時期は重複関係から、16世紀後半と考えられる。

第185号溝跡 (第389～391図)

位置 調査区中央部の東端J7a0～J7b8区で、標高24～25mにかけての台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第183号溝を切り、第187号溝に切られている。

規模と形状 調査区域外と接するJ7a5区から、西方向(N-94°-W)へ直線的にJ7a0区まで延び、U字状に屈曲して南東方向(N-110°-E)へ直線的にJ7b8区まで延びている。確認された長さは31mほどで、上幅1.3～3.8m、下幅0.28～1.4m、深さ50～118cmで、断面形は緩やかなU字形で、壁は外傾して立ち上がっている。

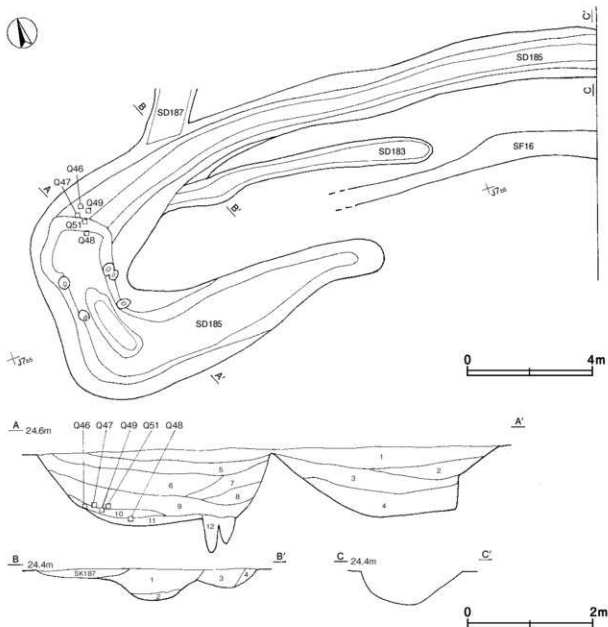
木橋跡 1か所。5か所の柱穴痕の深さは26～32cmで、西端のU字状に屈曲した部分に確認されている。

覆土 12層に分層される。含有物と堆積状況から、自然堆積と考えられる。第12層は粘性が強く締まりの弱い柱穴痕の層である。

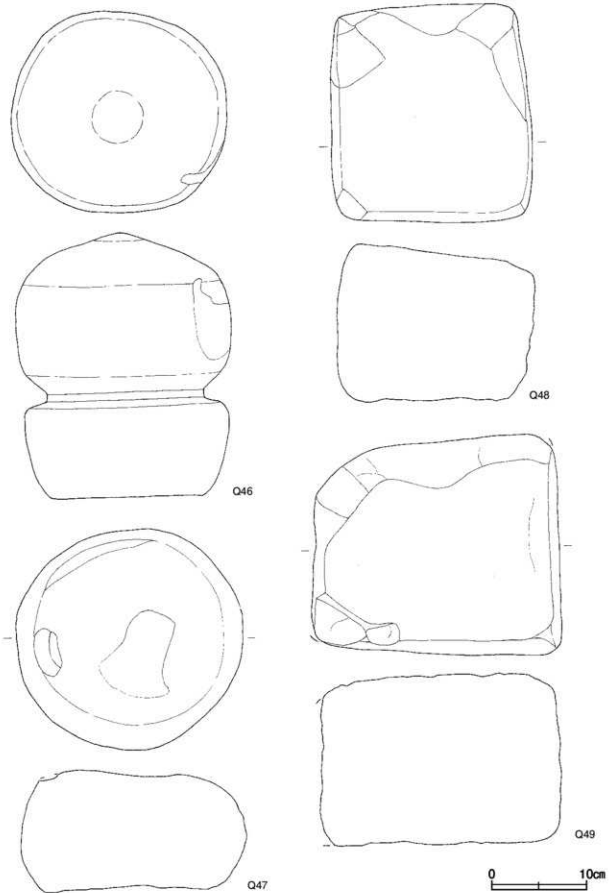
土層解説 (A-A', B-B')

- | | | | |
|--------|--------------------------|---------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 7 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 |
| 3 黒褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 9 黒暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 |
| 4 黒暗褐色 | ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 10 黒暗褐色 | 砂粒少量・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | 砂粒少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | 砂粒・炭化粒子微量 (底面の層) |
| 6 黒褐色 | 炭化物・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 12 黒褐色 | 粘土ブロック・砂粒微量 (柱穴の層) |

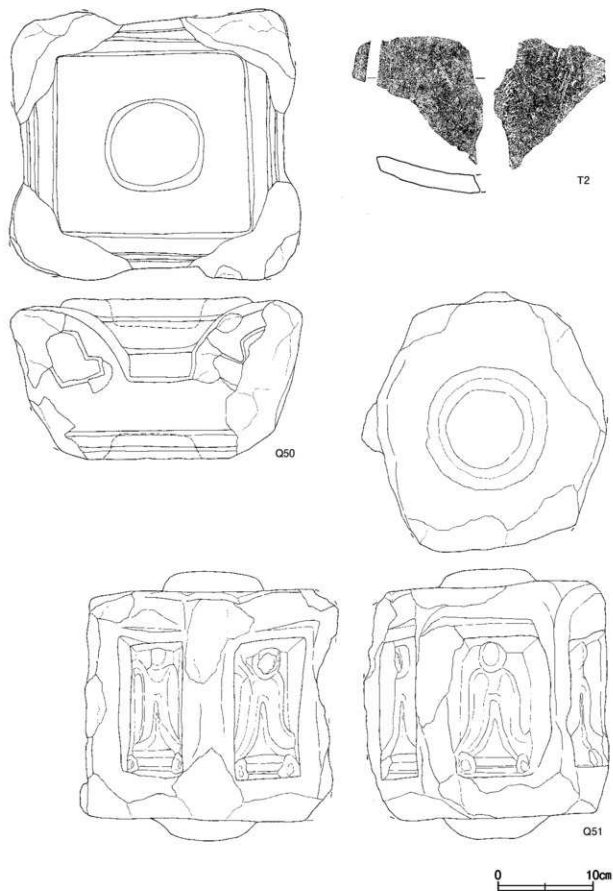
遺物出土状況 土師質土器片46点 (皿10, 内耳鍋29, 甕5, 播鉢1, 火鉢1), 陶器片2点 (碗), 石器3点 (砥石), 石塔11点 (五輪塔8, 宝篋印塔2, 六地藏石幢1) が出土している。Q46～Q51, T2を中心とする遺物は、木橋の北側に投げ込まれたように底面から出土している。その他、縄文土器片4点, 土師器片45点, 礫6点も確認されている。



第389図 第183・185号溝跡実測図



第390图 第185号清跡出土遺物実測図(1)



第391图 第185号沟跡出土遺物実測図(2)

所見 中央部の標高の最も低い埋没谷に位置しており、東の調査区域外には谷が入り込み谷須頂となっている。また、南東の調査区域外には近世後半の墓石類が廃棄されている墓域と鹿島神社の祠が所在している。この周辺は中世後半にも墓域が所在していたものと推測され、集落廃絶時にその石塔が投げ込まれたものと推察される。廃絶された時期は、出土遺物から16世紀末葉から17世紀初頭と考えられる。

第185号溝跡出土遺物観察表（第390・391図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q46	五輪瓦 (空風輪)	27.8	(22.6)	21.3	(1940)	花崗岩	空輪と風輪のくびれ明瞭 空輪の一部欠損	底面	PL118
Q47	五輪瓦 (空風輪)	24.0	23.2	(12.9)	(900)	花崗岩	風化により表面が強い 上下が平らな扁平な球形	底面	
Q48	五輪瓦 (風輪)	22.9	21.0	16.7	1440	花崗岩	風化により表面が強い 3方の角部欠損	底面	
Q49	五輪瓦 (風輪)	(26.3)	(23.2)	18.0	(1920)	花崗岩	風化により表面が強い 2方の角部欠損	底面	
Q30	宝篋印塔 (笠)	(28.3)	(30.6)	17.0	(2100)	花崗岩	風化のため縁線が不明瞭 隅線突起四方とも欠損	底面	PL118
Q51	六境威石 (縁石)	(27.3)	(25.8)	26.2	(2500)	花崗岩	風化により表面が強い 六角の各面に施線を配す	底面	PL118

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
T2	平瓦	(12.4)	(10.8)	2.0	(350)	長石・雲母・赤色 粘土 胎土 粒	表面ナデ 裏面調整痕を残すナデ 裏面に白い帯色 胎土 灰色	底面	

第187号溝跡（第392～394図）

位置 調査区中央部のI77～I77j6区で、標高25mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第185・327号溝を切っている。

規模と形状 I77j6区から、南西方向（N-150°-W）のI77j6区へ直線的に延びている。長さは9mほどで、上幅1.2～1.28m、下幅0.76～1.0m、深さ16～36cmである。断面形は逆台形状で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。レンズ状の堆積状況と含有物から、自然堆積である。

土層解説（A-A'）

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・
砂粒微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量

遺物出土状況 土師質土器片10点（皿2、内耳鍋5、壺2、搦鉢1）、石器1点（石臼）と、流れ込んだ須恵器片1点、礫1点が出土している。ほとんどの土器片は残存率が低く、散在して出土していることから、雨水や覆土と共に流れ込んだものと考えられる。565は、多くの土器片と同様に覆土中から出土している。

所見 第185号溝と第327号溝とを連結し、雨水等を第185号溝に排水して水量を調整する機能をもっていたと考えられる。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。

第188号溝跡（第392～394図）

位置 調査区中央部のI7h6～I7j6区で、標高25mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第15号井戸を切っている。

規模と形状 I7h6区から、南西方向（N-154°-W）のI7j6区へ直線的に延びている。確認できた長さは7.1mで、上幅1.04～1.4m、下幅0.56～0.88m、深さ52cmである。断面形は逆台形状で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層される。レンズ状に堆積しているが、含有物から人為堆積である。

土層解説 (B-B')

- | | | | |
|--------|--------------------------|-------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・砂粒少量、炭化粒子・粘土粒子微量 | 3 暗褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 灰黄褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子・砂粒少量、炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量、炭化粒子・砂粒微量 |

遺物出土状況 土師質土器片36点(皿5、内耳鍋19、甕11、摺鉢1)、陶器片1点(皿)、石器2点(磨石、砥石)と、流れ込んだ縄文土器片8点、須恵器片3点が出土している。566は、多くの土器片と同様に覆土中から出土している。

所見 削平されているため第185号溝との繋がりは確認できないが、第15号井戸の水を南部の第185号溝の方向へ排水していたと推測される。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。

第189号溝跡 (第392～396図)

位置 調査区中央部のI7e2～I7f0区で、標高25～26mの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第187・199A・326・327・337・338・345号溝、第15号井戸に切られ、第339号溝、第14号井戸、第1418・1543号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 I7e2区から、東方向(N-115'-E)のI7f0区へ緩やかな曲線状に延び、さらに調査区域外へと延びている。確認できた長さは39mほどで、上幅1.36～2.8m、下幅0.16～0.68m、深さ58～103cmである。断面形はU字形で、壁は緩斜または外傾して立ち上がっている。

木橋跡 1か所。4か所の柱穴痕の深さは24～40cmで、中央部西寄りに確認されている。覆土は3層に分層される。

木橋跡土層解説 (C-C'、E-E')

- | | | | |
|---------|--------------------|----------|--------------------|
| 1 にぶい褐色 | 褐色粘土粒子・砂粒中量 | 3 オリーブ黒色 | 褐色粘土粒子中量、炭化粒子・砂粒微量 |
| 2 灰黄褐色 | 褐色粘土粒子・砂粒中量、炭化粒子微量 | | |

覆土 4層と8層に分層され、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説 (D-D')

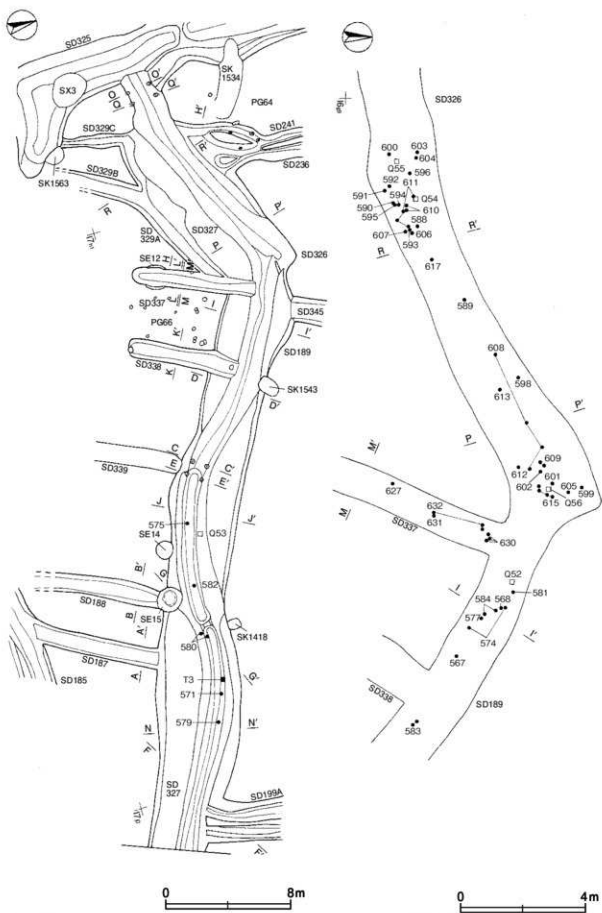
- | | | | |
|-------|-------------------|-------|--------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック微量 |

土層解説 (F-F'、G-G')

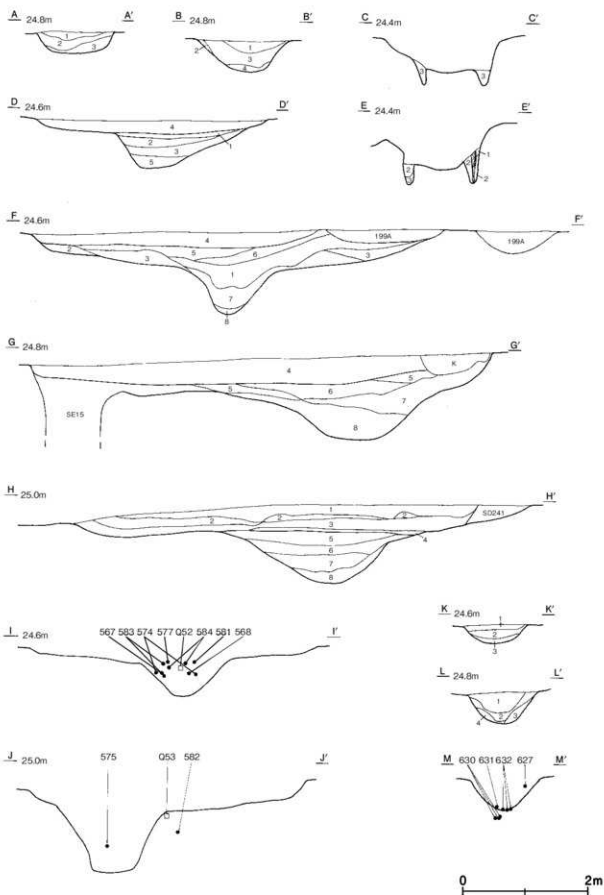
- | | | | |
|-------|------------------------|--------|------------------|
| 1 暗褐色 | 粘土ブロック中量、炭化物微量 | 5 暗褐色 | 粘土ブロック多量、炭化物少量 |
| 2 黒褐色 | 粘土ブロック中量、焼土ブロック微量 | 6 暗褐色 | 粘土ブロック中量、ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 粘土ブロック多量 | 7 黒褐色 | 粘土ブロック中量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 粘土ブロック多量、ローム粒子中量、炭化物少量 | 8 灰黄褐色 | 褐色粘土ブロック多量 |

遺物出土状況 土師質土器片930点(皿103、内耳鍋類630、香炉3、甕82、摺鉢112)、瓦質土器1点(香炉)、陶器片21点(碗4、皿2、常滑系甕6、常滑系片鉢6、瀬戸・美濃系摺鉢2、瓶カ1)、石器8点(凹石1、石臼3、砥石4)、石塔2点(五輪塔)、鉄製品1点(不明)、瓦片2点(平瓦、軒丸瓦カ)、鉄滓1点、木片1点、粘土塊27点と、流れ込みまたは混入した縄文土器片12点、弥生土器片1点、土師器片88点、須恵器片32点、磁器片3点(碗)、骨片カ5点、糠30点が出土している。567～587、Q52・Q53、T3は、屋敷域と想定される第53・54・65・66号ビット群の廃絶に伴って廃棄されたと考えられ、全体から混在するように出土している。

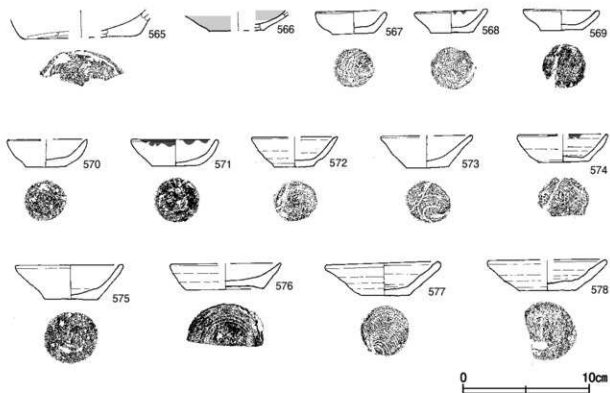
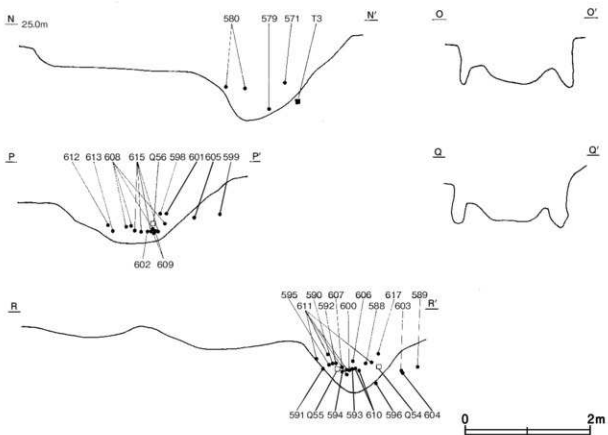
所見 第185号溝と同様、中央部の最も低い所に位置し、重複する各溝から集まった雨水等を東の谷津に排水する機能を果たしていたと考えられる。また、屋敷域を区画する機能を持ち、掘り方の規模と水を常時溜めておくための障子堀の掘り方と木橋跡の柱穴痕が確認されている。時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。



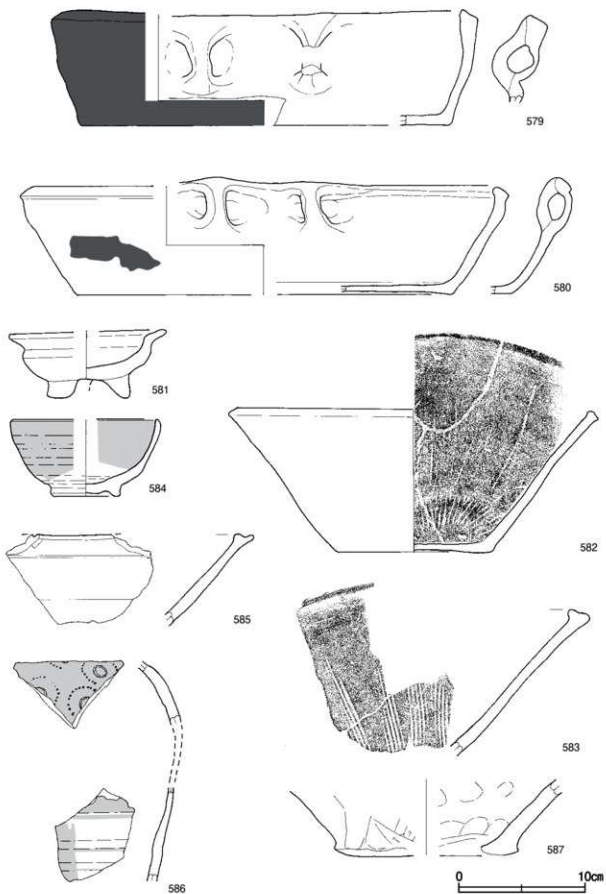
第392図 第187・189・326・327・329A・329B・329C・337・338号溝跡実測図(1)



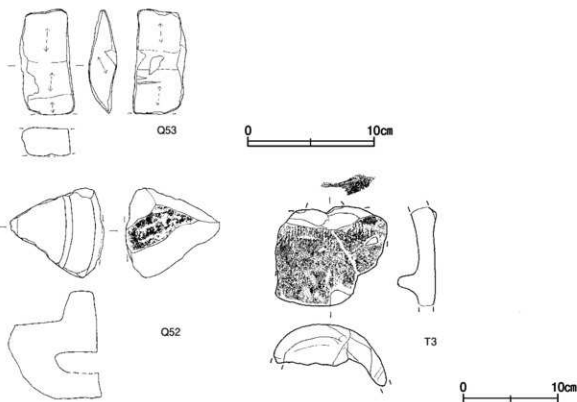
第393图 第187~189·326·327·329A·329B·329C·337·338号沟迹实测图(2)



第394图 第189·326·327·329A·329B号沟迹, 第187~189号沟迹出土物实测图



第395图 第189号溝跡出土遺物実測図(1)



第396図 第189号溝跡出土遺物実測図(2)

第187号溝跡出土遺物観察表 (第394図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
565	土伽羅土器	甌	—	[2.1]	[8.6]	長石・石英・雲母・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ 下縁ヘラナデ 底部回転糸切り後ナデ	甌土中	39%

第188号溝跡出土遺物観察表 (第394図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
566	陶器	甌	—	[1.5]	[4.2]	精良 灰釉	灰白・灰オリーブ	普通	口クロナデ 底面回転糸切り 内・外面無胎 貫入	甌土中	10%

第189号溝跡出土遺物観察表 (第394～396図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
567	土伽羅土器	甌	5.7	1.7	3.2	長石・石英・雲母・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り肌を残すナデ	底面	95%口辺部に砂がみ
568	土伽羅土器	甌	5.9	1.8	3.4	石英・雲母・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り肌を残すナデ	甌土下層	95%口唇部溝縁付着 PL109
569	土伽羅土器	甌	6.1	1.8	3.4	雲母・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	甌土中	85%
570	土伽羅土器	甌	[6.5]	2.2	3.2	赤色砂子	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	甌土中	75%
571	土伽羅土器	甌	6.8	2.2	3.6	赤色砂子	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	甌土下層	100%口唇部溝縁付着
572	土伽羅土器	甌	[7.0]	2.4	3.2	長石・石英	橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り肌を残すナデ	甌土中	45%
573	土伽羅土器	甌	[7.1]	2.6	3.4	長石・石英・赤色砂子・白色砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	甌土中	80%
574	土伽羅土器	甌	[7.3]	2.2	4.2	灰石	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り後ナデ	甌土下層	50%口唇部溝縁付着
575	土伽羅土器	甌	8.5	2.8	4.2	長石・石英・雲母・赤色砂子	橙・黒褐色	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	底面	60%外面変色
576	土伽羅土器	甌	8.8	2.0	6.0	赤色砂子	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 外面口クロナデ 底部回転糸切り	甌土中	50%
577	土伽羅土器	甌	9.0	2.7	3.9	長石・石英・赤色砂子	にじみ橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り	甌土下層	100% PL109

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
578	土師質土器	皿	[9.4]	2.3	4.6	長石・石英・赤色 粘土	にぶい黄褐色	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	50%
579	土師質土器	内耳鍋	[31.6]	9.2	[29.6]	長石・石英・ 雲母・赤色粘土	橙・灰褐色	普通	上内耳残存 耳筋り付け 内面から口縁部外面ナデ	底面	15% 胎土 外面僅存者
580	土師質土器	内耳鍋	[37.0]	9.1	[30.0]	長石・石英・赤 色粘土・小礫	灰褐色	普通	2内耳残存 耳筋り付け 内面から口縁部外面ナデ	覆土中・下層	25% 胎土 外面僅存者
581	土師質土器	香炉	[12.6]	5.5	—	長石・石英・ 雲母・赤色粘土	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 脚部筋 に付け 3片彫	覆土下層	75% PL114
582	土師質土器	播鉢	28.3	11.5	12.2	長石・雲母	にぶい黄褐色	普通	4条1半位の盛り目 外面強いナデ	底面	70% (F108) 土質 片土集合 片出
583	土師質土器	播鉢	[35.0]	(11.6)	—	長石・石英・赤色 粘土	橙	普通	1半位の筒につまみ出し 断面丁字状 4条1半位の盛り目	覆土下層	45% 唐津系 PL113
584	陶器	碗	[11.4]	6.2	[5.2]	精良 黒色粘土・ 土層	明赤褐色 オリーブ	良好	ロクロ成形 盛り出し高台 軸を嵌め掛	覆土下層	—
585	陶器	深皿 (湖皿)	—	[7.1]	—	精良 長石・ 灰褐色	灰白・灰白	良好	ロクロ成形 1半筒内筒につまみ出し 外面に浅彫 磨面	覆土中	瀬戸・美濃系
586	陶器	菓子 (古瀬戸)	—	[17.5]	—	精良 長石・ 灰褐色	灰白・ オリーブ	良好	ロクロ成形 内面自然釉 外面土器印花 文 下位3条の筋文 磨面	覆土中	瀬戸・美濃系
587	陶器	片口鉢4	—	(6.1)	[14.8]	長石・石英	灰・灰黄	良好	内面滑らか ヘラ状工具と指頭を残すナデ 外面ヘラ磨り	覆土中	常滑系

番号	器種	直径	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q52	石臼 (上層)	[29.6]	—	11.2	(1008)	安山岩	下側に盛り目 軸受け横打込孔残存	底面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q53	灰石	8.3	(4.3)	2.2	(96.4)	瀬灰岩	側面欠損 縦面3面 表面に鉄分(錆)付着	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
T3	瓦片 (土層付)	(10.5)	(12.1)	1.7~ 4.0	(3833)	長石・石英・ 雲母・赤色粘土	表面圧痕を残すナデ 胎土灰褐色	底面	

第326号溝跡 (第392～394・397～400区)

位置 調査区中央部のI 6f8～I 7e2区で、標高26mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第189・325号溝を切り、第236・241・327・337号溝に切られている。

規模と形状 I 6f8区から、東方向(N-77°-E)のI 7e2区まで直線的に延び、第189号溝に連結している。長さは16.1mで、上幅1.68～2.76m、下幅0.2～1.36m、深さ70～81cmである。断面形はU字形状で、壁は緩斜して立ち上がっている。

木構跡 1か所。4か所の柱穴痕の深さは23～50cmで、第325号溝と連結する西端部に確認されている。

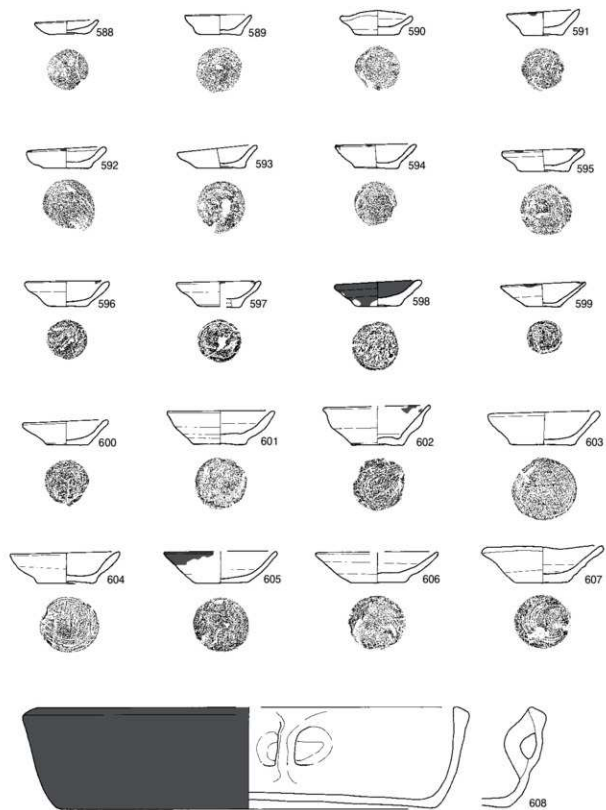
覆土 4層以下が相当し、5層に分層される。レンズ状に堆積しているが、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説 (H-H')

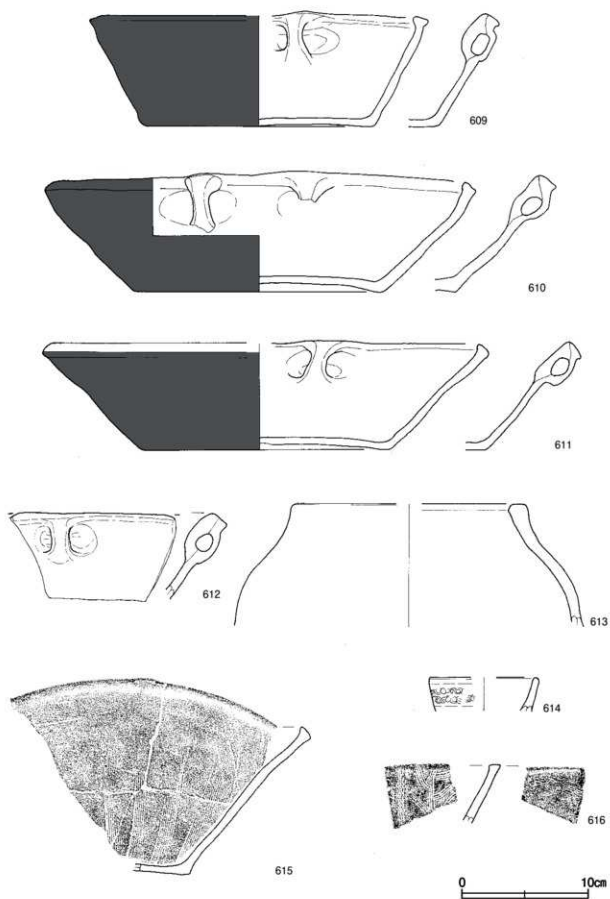
1	暗褐色	黄褐色粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子 微量	5	黒褐色	粘土粒子中量
2	黒褐色	黄褐色粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6	灰黄褐色	粘土ブロック中量
3	黒褐色	黄褐色粘土粒子少量、炭化粒子微量	7	褐色	褐色粘土粒子中量、炭化粒子微量
4	黒褐色	ローム粒子・粘土粒子微量	8	褐色	褐色粘土ブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片304点(皿60、内耳鍋類227、甕5、播鉢12)、陶器片3点(皿、常滑系甕、常滑系片口鉢)、石器7点(石臼4、茶臼1、砥石2)、石塔3点(五輪塔)、木片1点、粘土塊7点と、流れ込んだ縄文土器片2点、土師器片2点、須恵器片2点、礫7点が出土している。586～619、Q54～Q56は覆土中・下層を中心に集中して出土しており、本溝の廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。

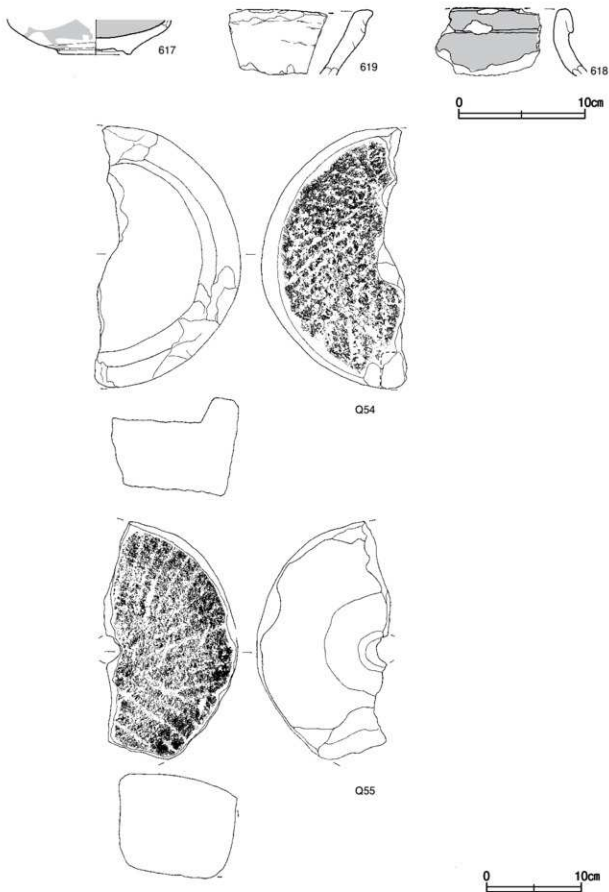
所見 第189号溝と第325号溝とを連結し、雨水等を第189号溝に排水する機能や区画と防壁の役割を果たしていたと考えられる。時期は、出土土器と重複関係から、重複している溝跡と同時期の16世紀後半と考えられる。



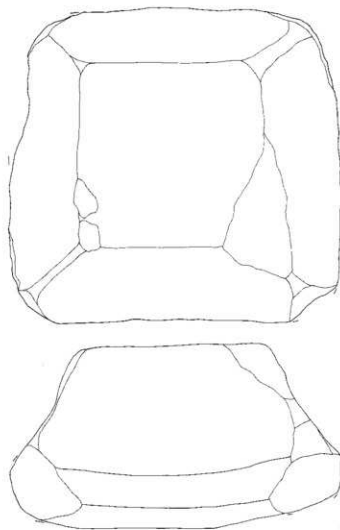
第397图 第326号清跡出土遺物実測図(1)



第398图 第326号溝跡出土遺物実測図(2)



第399図 第326号清跡出土遺物実測図(3)



第400図 第326号溝跡出土遺物実測図(4)

第326号溝跡出土遺物観察表 (第397～400図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
588	土師質土器	皿	5.2	1.1	3.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口ロナテ後ナテ 底面回転糸切り後ナテ	覆土下層	90%
589	土師質土器	皿	5.3	1.6	3.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	に灰い橙	普通	体部内・外面口ロナテ後ナテ 底面回転糸切り後ナテ	覆土下層	80%
590	土師質土器	皿	5.7	1.9	3.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒黒	普通	体部内・外面口ロナテ後ナテ 底面回転糸切り後ナテ	覆土下層	100%成形にゆがみ 黄褐色
591	土師質土器	皿	5.7	2.1	3.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口ロナテ後ナテ 底面回転糸切り後ナテ	覆土下層	80%成形にゆがみ 111部部跡付着
592	土師質土器	皿	6.2	1.7	3.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	に灰い橙	普通	体部内・外面口ロナテ後ナテ 底面回転糸切り後ナテ	覆土下層	95%成形にゆがみ 111部部跡付着
593	土師質土器	皿	6.3	1.9	4.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤黒	普通	体部内・外面口ロナテ後ナテ 底面回転糸切り後ナテ	底面	95%成形にゆがみ
594	土師質土器	皿	6.4	2.0	3.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	に灰い赤黒	普通	体部内・外面口ロナテ後ナテ 底面回転糸切り後ナテ	底面	95%111部部跡付着
595	土師質土器	皿	6.4	1.8	4.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	に灰い橙	普通	体部内・外面口ロナテ後ナテ 底面回転糸切り後ナテ	覆土下層	100%111部部跡付着 111
596	土師質土器	皿	6.6	2.0	3.2	長石・石英・雲母	黄灰	普通	体部内・外面口ロナテ後ナテ 底面回転糸切り後ナテ	底面	60%111部部跡付着
597	土師質土器	皿	6.7	2.1	3.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	に灰い橙	普通	体部内・外面口ロナテ後ナテ 底面回転糸切り後ナテ	覆土中	95%111部部跡付着
598	土師質土器	皿	6.8	2.1	3.6	長石・石英・雲母	灰黒	普通	体部内・外面口ロナテ後ナテ 底面回転糸切り後ナテ	覆土下層	95%空面跡付着 底面・本貫付着
599	土師質土器	皿	6.8	2.0	2.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口ロナテ後ナテ 底面回転糸切り後ナテ	覆土下層	95%111部部跡付着
600	土師質土器	皿	6.8	2.0	3.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黒	普通	体部内・外面口ロナテ後ナテ 底面回転糸切り後ナテ	覆土下層	100%
601	土師質土器	皿	8.4	2.7	4.2	長石・雲母・赤色粒子・白灰粒子	橙	普通	体部内・外面口ロナテ 底面回転糸切り後ナテ	覆土下層	75%
602	土師質土器	皿	[8.6]	3.1	4.0	長石・雲母・赤色粒子	黄灰	普通	体部内・外面口ロナテ後ナテ 底面回転糸切り後ナテ	底面	70%111部部・底面に治癒付着

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
603	土器土器	甕	8.4	2.8	5.3	長石・石英・雲母・赤色鉄子	浅黄緑	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転成形後ナデ	底部	95%
604	土器土器	甕	8.7	2.4	4.8	長石・石英・雲母・赤色鉄子	浅黄緑	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転成形後ナデ	底部	95%
605	土器土器	甕	[90]	2.6	4.4	長石・石英・雲母・赤色鉄子	にぶい黄緑	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転成形後ナデ	覆土下層	95% 口辺部溜裡付着
606	土器土器	甕	[9.4]	2.4	4.4	長石・石英・雲母・赤色鉄子	黄緑	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転成形後ナデ	覆土下層	45%
607	土器土器	甕	9.4	3.0	4.6	長石・石英・雲母・赤色鉄子	浅黄緑	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転成形後ナデ	覆土下層	95% 成形にゆがみ
608	土器土器	内耳罎	[33.2]	8.1	[30.4]	長石・石英・雲母・赤色鉄子	灰黒	普通	1内耳残存 耳取り付け後ナデ 内面から11箇所外面撫ナデ	底部	20% 胎土・体部外面保付着
609	土器土器	内耳罎	[25.2]	9.1	[18.0]	長石・石英・雲母・赤色鉄子	灰黒	普通	1内耳残存 耳取り付け後ナデ 内面から11箇所外面撫ナデ	覆土下層	60% 体部外面保付着
610	土器土器	内耳罎	32.7	9.6	19.8	長石・黄母・赤色鉄子	灰黄緑	普通	2内耳残存 耳取り付け後ナデ 内面から11箇所外面撫ナデ	覆土下層	45% 体部外面保付着 P.113
611	土器土器	内耳罎	[30.0]	8.7	[19.4]	長石・石英・雲母・赤色鉄子	にぶい黄緑	普通	1内耳残存 耳取り付け後ナデ 内面から11箇所外面撫ナデ	覆土中層	30% 体部外面保付着
612	土器土器	内耳罎	—	(6.7)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	普通	1内耳残存 耳取り付け後ナデ 内面から11箇所外面撫ナデ	覆土下層	5% 胎土・体部外面保付着
613	土器土器	甕	[17.2]	(9.7)	—	長石・石英・雲母・赤色鉄子	灰白	普通	内・外面ナデ	覆土下層	10%
614	土器土器	香炉	[8.6]	(2.2)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	普通	内・外面ナデ 外面にスタンプ文押印一部残存	覆土中	20%
615	土器土器	播鉢	[33.6]	11.8	[15.8]	長石・石英・雲母・赤色鉄子	にぶい黄緑	普通	11唇部上方につまみ出し 8条1単位の盛り目	底部	25%
616	土器土器	播鉢	—	(4.7)	—	長石・石英・雲母・赤色鉄子	にぶい黄緑	普通	内面4条1単位の盛り目 外面4条1単位の盛状文	覆土中	—
617	陶器	甕	—	(2.8)	5.7	精良土灰胎	灰白・にぶい黄緑	良好	折り出しの輪縁高台 輪縁削け	覆土下層	30% 肥前系
618	陶器	甕	—	(5.4)	—	長石・石英・雲母	赤灰	良好	内・外面ナデ	覆土中	常滑系
619	陶器	片1跡	—	(5.2)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	良好	内面のみから 外面ナデ 外面に輪縁痕	覆土中	常滑系

番号	器種	長さ	口縁幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q34	石臼(石臼)	[28.6]	[3.0]	10.3	500g	安山岩	軸受け横打込孔一部残存 表側7条1単位の盛り目	覆土下層	PL117
Q35	石臼(石臼)	[26.4]	[2.6]	10.9	538g	安山岩	受け部7条1単位の盛り目	底部	PL116
Q36	5輪瓦(瓦・灰)	[33.0]	[34.9]	19.2	3180g	花崗岩	風化により表面が強い 4方の軒部と後縁の一部欠損のため	覆土中	—

第327号溝跡 (第392～394・401図)

位置 調査区中央部のI 6g9～I 7j0区で、標高25～26mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第187・236・329A・329B・329C・345号溝に切られ、第189・241・326・337・338号溝を切っている。また、第14・15号井戸跡を掘り込み、第66号ピット群、第1543号土坑、第339号溝に掘り込まれている。

規模と形状 I 6g9区から、東方向(N-66°-E, N-117°-E)のI 7e2区東の調査区域外まで鉤の形状に延びている。確認できた長さは56.7mで、上幅3.44～5.24m、下幅3.04～4.24m、深さ12～48cmである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩斜して立ち上がっている。

覆土 第189・326号溝との前述した重複部の土層(D-D', F-F'-H-H')では、第4層に相当する。含有物から、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師質土器片158点(皿25, 内耳罎121, 甕6, 播鉢6, 陶器片4点(碗1, 常滑系甕3), 石器2点(石臼, 砥石)が出土している。620は、覆土中から出土している。その他、流れ込んだ縄文土器片6点、土師器片5点、須恵器片7点、礫2点と、混入した磁器片5点(碗3, 瓶2)、近現代の瓦片4点が出土している。

所見 掘り方は浅いが、第189・326号溝を掘り込んで溝幅を拡張した溝跡と推測される。時期は、出土土器と重複関係から、重複する溝と同時代の16世紀後半と考えられる。

第329A号溝跡 (第392～394・401図)

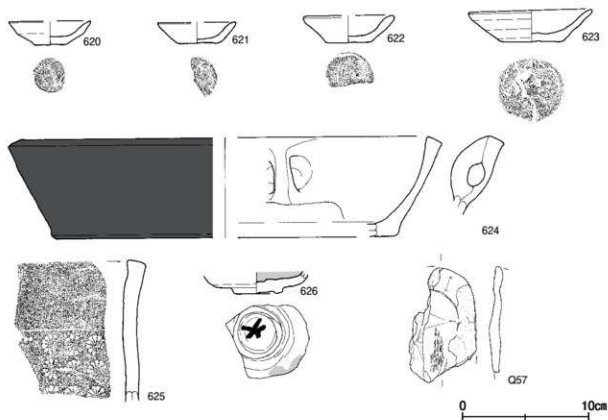
位置と規模 調査区中央部のI 6g9～I 7f2区に位置している。I 6h9区から、北東方向(N-56°-E)へ直線的にI 7f2区まで延びている。確認できた長さは112mで、上幅1.24～2.42m、下幅0.56～1.20m、深さ

15cmである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩斜して立ち上がっている。

覆土 第241・326・327号溝との重複部の土層（H-H'）では、第1～3層に相当する。含有物から、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師質土器片125点（皿23、内耳銅86、甕9、播鉢6、火鉢1）、陶器片8点（皿2、常滑系甕5、瀬戸・美濃系播鉢1）、石器3点（石臼、砥石、硯）、壁土カ1点が出土している。621～626とQ57は、いずれも覆土中から出土している。その他、流れ込んだ縄文土器片1点、埴輪片1点、礫7点と、混入した磁器片1点（瓶）、近現代の瓦片2点が出土している。

所見 第326号溝が掘削される前の溝跡と推定され、連結している第327・329B・329C・337号溝に雨水等を排水したと考えられる。時期は、出土土器から16世紀代と考えられる。



第401図 第327・329A号溝跡出土遺物実測図

第327号溝跡出土遺物観察表（第401図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
620	土師質土器	皿	[6.4]	1.9	2.6	長石・石英・雲母	浅黄澄	普通	体部内・外面口ラロナテ後ナテ 或部別 転糸切り後ナテ	覆土中	60%

第329A号溝跡出土遺物観察表（第401図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
621	土師質土器	皿	[6.2]	1.7	3.2	長石・石英・赤色 粘土	橙	普通	体部内・外面口ラロナテ後ナテ 或部別 転糸切り後ナテ	覆土中	50%
622	土師質土器	皿	[7.0]	2.2	3.6	長石・石英・赤色 粘土	橙	普通	体部内・外面口ラロナテ後ナテ 或部別 転糸切り後ナテ	覆土中	50%
623	土師質土器	皿	9.9	1.6	4.8	長石・石英・雲母・ 赤色粘土・小礫	にぶい黄澄	普通	体部内・外面口ラロナテ後内面ナテ 或 部別転糸切り後ナテ	覆土中	55%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
624	土師質土器	内耳鍋	[32.5]	8.0	[26.8]	長石・石英・炭化粒子	灰褐色	普通	1内耳残存 器底が白け残すデ 内面から上縁部外縁部まで	覆土中	15%程度土器部外縁部付着
625	土師質土器	香炉	—	(11.2)	—	長石・石英・炭化・赤色粒子	明赤褐色	普通	内・外面ナデ 外面に菊花のスタンプ文 器底一部剥離	覆土中	
626	陶器	灰輪盤	—	(1.7)	3.9	精製 灰輪	灰白・オリーブ色	良好	器名通りなし 高台 夏込にトチン根 内・外面輪に貫入 外面に墨痕	覆土中	25%程度土器部外縁部付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q37	甕	(9.2)	(3.5)	(1.1)	(44.9)	粘板岩	器底と縁部が確認できる破片 長楕円形 縁部に横り痕有り	覆土中	

第337号溝跡 (第392・393・402・403図)

位置と規模 調査区中央部の I 7 e2 ~ I 7 g1区に位置している。I 7 e1区から、北東方向 (N-24°-E) へ直線的に I 7 e2区へ延びている。確認できた長さは 8 m ほどで、上幅 0.96 ~ 1.41 m、下幅 0.16 ~ 0.68 m、深さ 58 ~ 103 cm である。断面形は U 字形で、壁は緩斜または外傾して立ち上がっている。

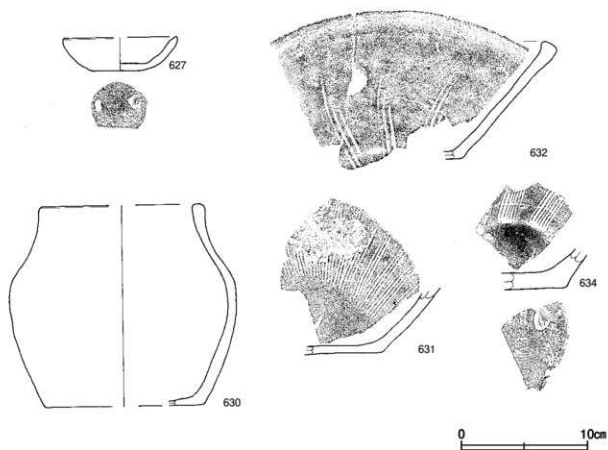
覆土 4層に分層される。レンズ状に堆積しているが、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説 (L-L')

- 1 黄 灰 色 黄褐色粘土ブロック中量、炭化粒子微量 3 暗 褐色 褐色粘土ブロック少量
 2 黒 褐色 黄褐色粘土粒子少量、炭化粒子微量 4 暗 褐色 褐色粘土ブロック多量

遺物出土状況 土師質土器片 150 点 (皿 7、内耳鍋 125、香炉 1、壺 5、甕 5、摺鉢 7) が出土している。627 ~ 634 は、いずれも覆土中から出土している。その他、流れ込んだ土師器片 1 点、須恵器片 1 点も出土している。

所見 第 189 号溝に雨水等を排水していたと想定され、時期は出土土器と重複関係から 16 世紀代と考えられる。



第402図 第337号溝跡出土遺物実測図(1)



第403図 第337号溝跡出土遺物実測図(2)

第337号溝跡出土遺物観察表(第402・403図)

番号	種別	器種	1径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
627	土師質土器	皿	[90]	27	43	長石・石英・雲母・赤色粒子・小礫	橙	普通	内面に外周口リブナデ残ナデ 底面同様に糸切り後糸切り痕を残ナデ	覆土中層	55%
628	土師質土器	内耳罎	—	(6.8)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい陶	普通	外面に縦位のハケ目調整痕	覆土中	
629	土師質土器	香炉	—	(3.9)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤陶	普通	内・外面ナデ 外面にスタンプ文押印	覆土中	
630	土師質土器	壺	[128]	16.0	[12.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	内・外面ナデ	底面	90%
631	土師質土器	部鉢	—	(5.2)	[14.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤陶	普通	内面4条1単位の摺り目 外面ナデ	覆土下層	10%
632	土師質土器	部鉢	—	9.2	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	内面指頭痕を残すナデ 内面3条1単位の摺り目 外面微ナデ	覆土下層	20%
633	瓦質土器	火鉢	—	(11.7)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤陶	普通	内・外面ナデ 外面沈瀬による区画内に菊花文押印	覆土中	
634	陶器	部鉢	—	(3.2)	[12.5]	精良 長石	浅黄橙	良紅	内面7条1単位の摺り目 外面ナデ 底面糸切り	覆土中	10%瀬戸・美濃系

第338号溝跡(第392・393図)

位置と規模 調査区中央部のI 7 f3～I 7 g2区に位置している。I 7 g2区から、北東向(N-24°-E)のI 7 f3区まで直線的に延びている。長さは7.1mほどで、上幅1.08～1.36m、下幅0.52～1.06m、深さ29cmである。

断面形は逆台形で、壁は緩斜して立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。レンズ状に堆積しているが、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説(K-K')

- 1 暗褐色 褐色粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 黒褐色 粘土粒子微量
- 2 暗褐色 褐色粘土ブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片1点(欠)が出土している。

所見 第189号溝に雨水等を排水していたと想定され、時期は、重複関係から16世紀代と考えられる。

第198号溝跡(第404図)

位置 調査区中央部のI 7 e8～I 7 f0区で、標高25mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第199A・247号溝を切っている。

規模と形状 I 7 e8区から、東方向(N-102°-E)へ直線的に延び、I 7 f0区で第199A号溝に連結している。長さは11mほどで、上幅1.36～1.84m、下幅0.44～0.8m、深さ66～75cm、断面形は逆台形状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

木橋跡 1か所。4か所の柱穴痕の深さは11～28cmで、ほぼ中央部に確認されている。覆土は3層に分層される。土層断面を調査したピットは、橋脚の架け替えをしたものと考えられる。

本橋跡土層解説 (D-D')

- | | |
|---------------------------|-----------------------------|
| 1 にぶい褐色 砂粒・褐色粘土粒子中量 | 3 オリーブ黒色 褐色粘土粒子中量、炭化粒子・砂粒微量 |
| 2 灰黄褐色 砂粒・褐色粘土粒子中量、炭化粒子微量 | |

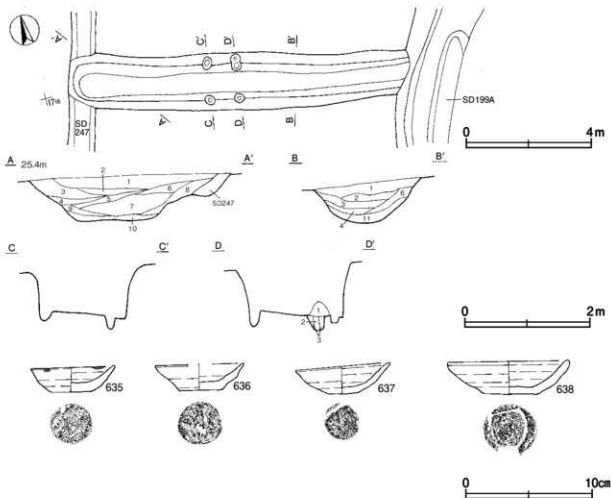
覆土 11層に分層される。含有物から人為堆積と考えられる。第11層以下の底面は、橙色に酸化した硬質の土層を呈し、常時水が溜まっていたことを示している。

土層解説

- | | |
|--------------------------------|---------------------------------------|
| 1 灰黄褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 7 にぶい黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック微量 | 8 黒褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量 | 9 灰黄褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 10 暗灰色 粘土粒子多量、ローム粒子少量 |
| 5 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 11 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 | |

遺物出土状況 土師質土器片46点(皿24、内耳鍋20、甕1、播鉢1)と、流れ込んだ縄文土器片1点、埴輪片1点、土師器片2点、礫8点が出土している。底面から出土している土器片は4点と少なく、635～638を含む多くの土器片は、覆土上層から下層にかけて出土しており、本跡の廃絶に伴って埋土と共に廃棄されたものと考えられる。

所見 第199A号溝と第247号溝を連結し、雨水を第199A号溝に排水する機能と、屋敷域と想定される第54号ピット群を区画していたと考えられる。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。



第404図 第198号溝跡・出土遺物実測図

第198号溝跡出土遺物観察表（第404図）

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
635	土師質土器	皿	6.6	2.0	3.2	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 台底色切り肌を現すナデ	覆土下層	85% 口唇部滑 磨付着
636	土師質土器	皿	[7.0]	2.0	3.4	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底面回転糸切 り後ナデ	覆土中層	65%
637	土師質土器	皿	7.4	2.4	2.4	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 台底ナデ	覆土中層	55% 底形に準 がら
638	土師質土器	皿	9.6	2.6	4.2	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底面回転糸切 り後ナデ	覆土下層	85% PL1005

第199A号溝跡（第405～407図）

位置 調査区中央部のH8c1～170区で、標高25～27mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第1号墳、第129・130号住居跡、第17号井戸跡を掘り込み、第2号不明遺構・第1187号土坑に掘り込まれている。また、第189・229A号溝を切り、第195～198・199B・251号溝に切られている。

規模と形状 H8c1区で第229A号溝から派生し、東方向（N-95°-E）へ直線的に伸び、H8c4区でL字状に屈曲して、南方向（N-173°-W）へ直線的に伸び、第189号溝に連結している。長さは76.3mほどで、上幅1.58～4.02m、下幅0.22～1.48m、深さ45～122cmである。断面形はU字状またはW字状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 10層に分層される。含有物から、人為堆積である。

土層解説（A-A'、C-C'、D-D' 共通）

1 黒 褐色	ローム粒子少量、粘土ブロック・炭化粒子微量	6 暗 褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量	7 黒 褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化物・炭化粒子微量
3 灰 黄褐色	粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量	8 黒 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子・粘粒粒子微量
4 にびり黄褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子・粘粒微量	9 暗 褐色	ローム粒子少量、粘土粒子微量
5 黒 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	10 暗 褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片740点（皿113、内耳鍋類564、甕23、擂鉢39、火鉢1）、陶器片15点（皿1、壺カ2、常滑系甕7、常滑系片口鉢カ2、擂鉢1、瓶カ2）、石器3点（石臼2、砥石1）、石塔2点（五輪塔）、鉄滓3点、瓦片3点と、流れ込んだ縄文土器片16点、弥生土器片1点、土師器片68点、須恵器片29点、礫40点、粘土塊7点が出土している。確認された遺物の多くは、北部のL字状に屈曲する地点と、第199A号溝と第199B号溝とが重複する部分と北側に位置する長方形の落ち込みの部分に集中して出土している。北部からは、土師質土器片106点（皿94、内耳鍋8、甕3、擂鉢1）、縄文土器片21点、弥生土器片1点、土師器片118点、須恵器片13点、礫2点が出土している。皿片は、北部から集中的に出土している。また、古墳時代以前の遺構と重複しているため、土師器片も多い。南部からは、土師質土器片634点（皿19、内耳鍋類556、甕20、擂鉢38、火鉢1）、陶器片14点、石器4点、鉄滓3点、瓦片3点が出土している。煮沸具を中心とした多量の遺物が集中して出土していることから、建物跡と想定される第51・52号ピット群の廃絶に伴って投棄されたものと推測される。644・645・647～658・661～663は北部、639～643・646・659・660・664・665は中央部からそれぞれ出土している。

所見 調査区中央部の北部から東部を区分する大溝である。北東コーナー部は段状に屈曲し、雨水等を排水するとともに、規模と形状から区画と防壁の機能があったものと考えられる。また、第199B号溝と重複する部分は、掘り方の形状が変化に富んでおり、溝幅が広く底面にくぼみがある。時期は、重複する溝と同時期と考えられ、集落の廃絶期とはほぼ同時期の16世紀後半と考えられる。

第199B号溝跡 (第405・406・408～410図)

位置 調査区中央部のH 833～I 8e2区で、標高25～27mほどの台地の緩斜面に位置している。

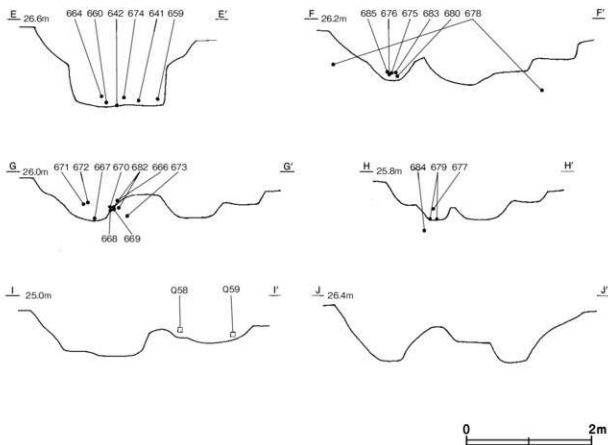
重複関係 第196A・199A号溝に切られ、第199A号溝に先行して掘られた溝と考えられる。

規模と形状 I 833区で第199A号溝から派生し、南方向(N-170°-W)へ直線的に延び、再び第199A号溝に連結している。確認された長さは18.1mで、上幅0.64～1.52m、下幅0.14～0.4m、深さ66cmほど、断面形はU字またはV字状を呈し、壁は外傾または緩斜して立ち上がっている。

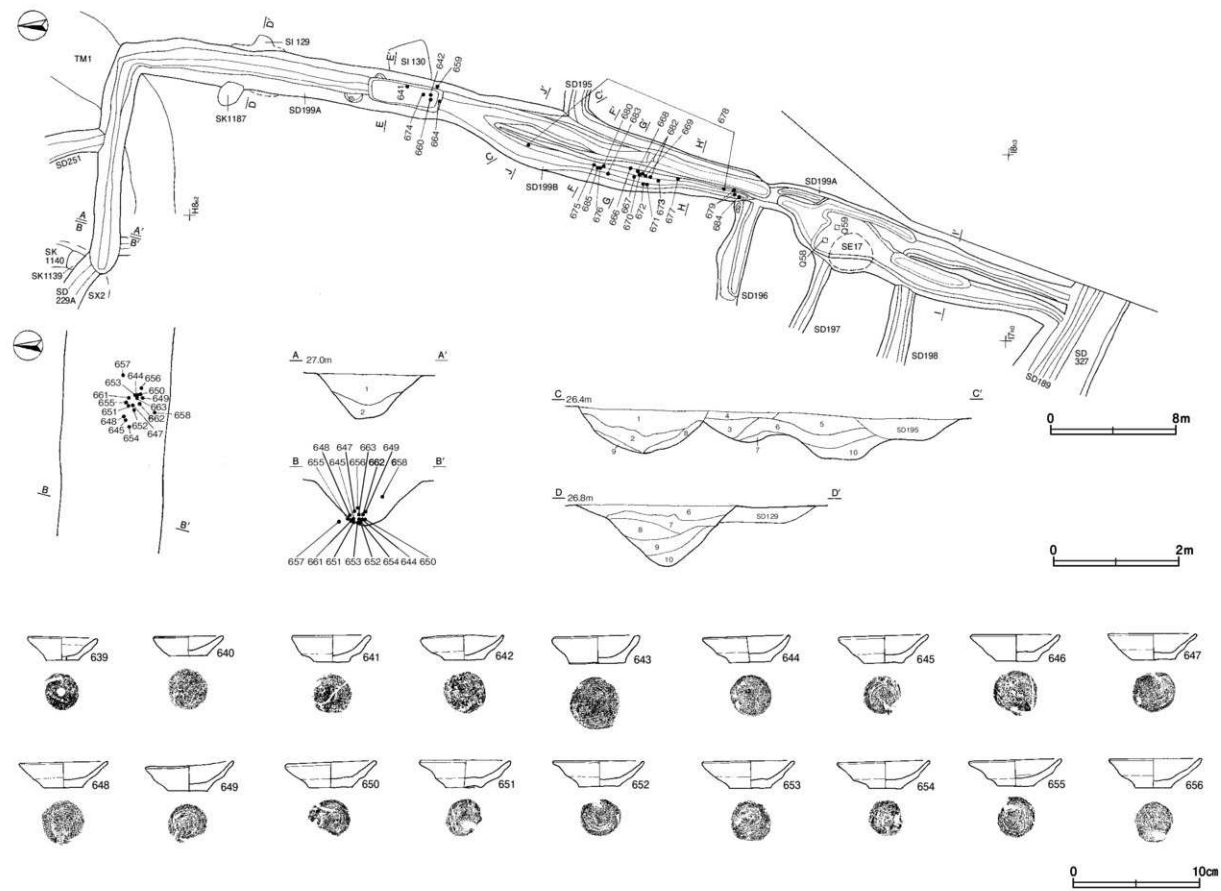
覆土 4層に分層される。含有物から、人為堆積と考えられる。第199A号溝の土層解説中(C-C')の第1・2・8・9層が本溝の覆土に相当する。

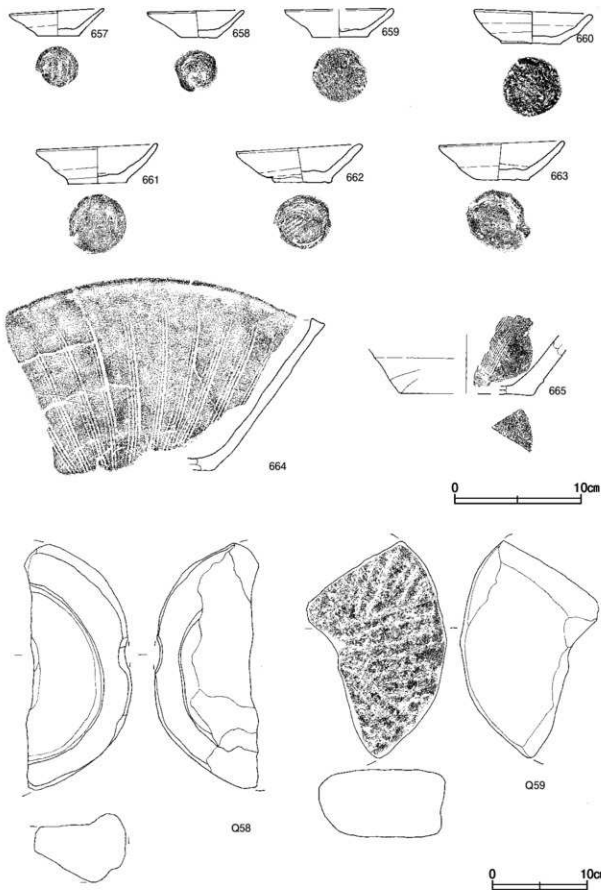
遺物出土状況 土師質土器片212点(皿28, 内耳鍋類131, 香炉1, 甕19, 摺鉢33), 陶器片1点(水甕), 磁器片1点(染付皿)と、流れ込んだ縄文土器片1点, 土師器片16点, 磁器片1点(碗々), 礫2点が出土している。遺物は第199A号溝と重複する部分から集中的に出土している。それらは、第199A号溝の出土土器と同じ様相であり、第51・52号ピット群の廃絶に伴って投棄されたものと推測される。666～686は、第199A号溝と重複する部分の覆土中層から底面にかけて出土している。

所見 第199A号溝と重複する掘り方の形状から、第199A号溝の掘り替えがされたことによって、流れ込んできた雨水等の水量を調整する機能をもっていたと推測される。時期は、出土土器と重複関係から第199A号溝と同時期の16世紀後半と考えられる。



第405図 第199A・199B号溝跡実測図



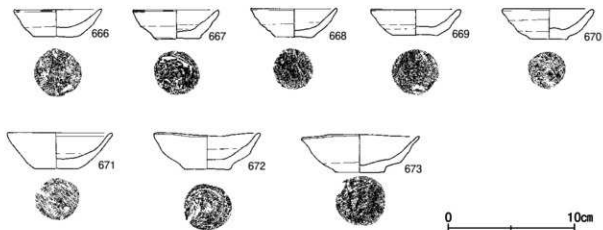


第407图 第199A号沟迹出土遗物实测图

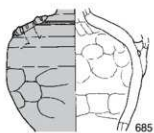
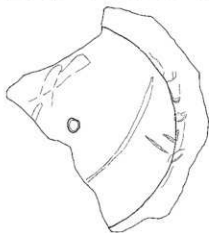
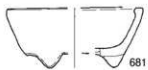
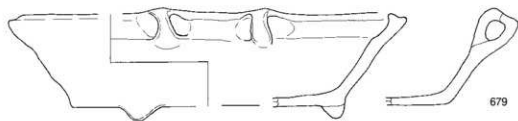
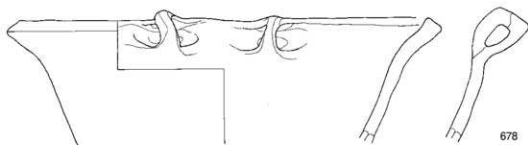
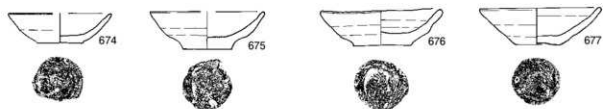
第199A号溝跡出土遺物観察表 (第406・407図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
639	土胎土器	甕	5.5	2.0	2.6	灰白・石黄・紫母・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ 底部穿孔	甕土中	65%
640	土胎土器	甕	3.6	1.6	3.0	灰白・石黄・紫母・赤色砂子	明橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	甕土中	100%口唇部磨面位置
641	土胎土器	甕	6.1	2.2	3.0	紫母・赤色砂子	黒濁	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	甕土下層	95%底径
642	土胎土器	甕	6.6	2.0	3.2	灰白・石黄・赤色砂子・小礫	黒濁	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り後ナデ	甕土中	100%底径に準ずる 紫色
643	土胎土器	甕	6.8	2.2	4.4	灰白・石黄・紫母・赤色砂子	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	甕土中	90% PL110
644	土胎土器	甕	6.9	2.1	3.3	灰白・石黄・紫母・赤色砂子・白包砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	甕土中	70%
645	土胎土器	甕	7.0	2.3	3.1	灰白・石黄・紫母・赤色砂子・白包砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	甕土中	100%
646	土胎土器	甕	7.0	2.1	3.4	紫母・赤色砂子	濃い黄橙、陶灰	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	甕土中	90%外面磨面紫色 PL110
647	土胎土器	甕	7.1	2.2	3.4	石黄・赤色砂子・白包砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	甕土下層	95%
648	土胎土器	甕	7.1	2.1	3.2	紫母・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	甕土中層	100%
649	土胎土器	甕	7.1	2.4	3.1	紫母・赤色砂子・白包砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後赤切り裏面残ナデ	甕土中層	80%成形に準ずる
650	土胎土器	甕	7.1	2.2	3.5	灰白・石黄・紫母・赤色砂子・白包砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	甕土中	70%
651	土胎土器	甕	7.1	2.2	2.9	灰白・石黄・紫母・赤色砂子・白包砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	甕土中	70%
652	土胎土器	甕	7.2	2.1	3.2	紫母・赤色砂子・白包砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後赤切り裏面残ナデ	甕土中	80%
653	土胎土器	甕	7.3	2.2	3.2	紫母・赤色砂子・白包砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	甕土中	98%
654	土胎土器	甕	7.4	2.3	2.6	紫母・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	甕土中	85%成形に準ずる
655	土胎土器	甕	7.4	2.2	3.0	灰白・石黄・紫母・赤色砂子・白包砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	甕土中	100%
656	土胎土器	甕	7.4	2.4	3.0	紫母・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後赤切り裏面残ナデ	甕土中	100%
657	土胎土器	甕	7.5	2.2	3.2	紫母・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後赤切り裏面残ナデ	甕土中層	80%成形に準ずる
658	土胎土器	甕	7.6	2.2	3.2	紫母・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	甕土中層	80%成形に準ずる
659	土胎土器	甕	[8.5]	2.2	4.4	紫母・赤色砂子	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	甕土中	60%
660	土胎土器	甕	9.4	2.7	4.6	灰白・石黄・紫母・赤色砂子・小礫	橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	甕土下層	85%
661	土胎土器	甕	9.5	3.0	4.6	灰白・石黄・紫母・赤色砂子・白包砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	甕土中	75%
662	土胎土器	甕	9.7	3.1	4.6	灰白・石黄・紫母・赤色砂子・白包砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後赤切り裏面残ナデ	甕土下層	95%成形に準ずる PL110
663	土胎土器	甕	9.9	3.3	4.7	灰白・石黄・紫母・赤色砂子・白包砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	甕土中	95%成形に準ずる PL110
664	土胎土器	楕鉢	[32.2]	12.0	[16.6]	灰白・石黄・紫母	橙	普通	口唇部内面につまみ出し 4条1単位の掘り目 ※ 外面ナデ 底部回転糸切り	甕土下層	20%
665	陶器	楕鉢	—	(4.7)	[10.8]	精良 灰石	灰白・陶灰	良好	12条1単位の掘り目 ※ 外面ナデ 底部回転糸切り	甕土中	甕戸系

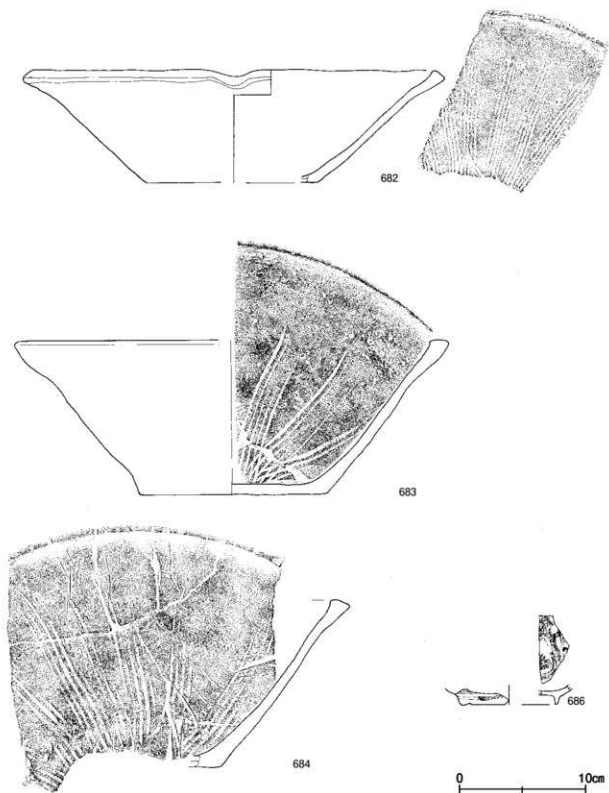
番号	器種	径	口径	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q38	石臼(上臼)	[28.4]	—	7.1	[238.6]	安山岩	下側磨面欠損のため磨り目不明	甕土中層	
Q39	石臼(下臼)	[27.6]	—	7.0	[257]	安山岩	上側磨面準成 7条1単位の磨り目 ※	甕土下層	



第408図 第199B号溝跡出土遺物実測図(1)



第409图 第199B号沟跡出土遺物実測图(2)



第410図 第199B号溝跡出土遺物実測図

第199B号溝跡出土遺物観察表 (第408～410図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
666	土加蓋土器	皿	6.9	2.2	3.8	灰白・白黄・ 黄緑・赤色粒土	粉	普通	体部内・外周口タロ子字様ナク 底周部 転糸切リ残ナク	底面	95%

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
667	土師貫土器	皿	6.9	2.4	3.5	長石・雲母・赤色 粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切 後ナデ	底面	100% I 1 層部清 浄存在 PL110
668	土師貫土器	皿	6.9	2.3	3.2	長石・雲母・赤色	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回 転糸切り後ナデ	底面	100%
669	土師貫土器	皿	7.1	2.1	3.8	長石・雲母・赤色	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回 転糸切り後ナデ	底面	80%
670	土師貫土器	皿	7.2	2.4	3.0	長石・雲母・赤色長 石・雲母・赤色長 石・雲母・赤色長	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回 転糸切り後ナデ	覆土下層	95%
671	土師貫土器	皿	8.3	3.0	3.6	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回 転糸切り後ナデ I 1 層部内面に沈着一条	覆土中層	80%
672	土師貫土器	皿	8.6	2.9	3.6	赤色粒子	浅黄橙・黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回 転糸切り後ナデ	覆土中層	90% 底面に赤褐色 沈着 PL110
673	土師貫土器	皿	9.2	3.1	3.9	赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回 転糸切り後ナデ	底面	90% 底面に赤褐色 沈着 PL110
674	土師貫土器	皿	8.1	2.4	3.9	石英・雲母・赤色 粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回 転糸切り後ナデ	覆土下層	50%
675	土師貫土器	皿	9.1	3.0	3.9	長石・雲母・赤色 粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回 転糸切り後ナデ	覆土下層	60%
676	土師貫土器	皿	9.7	2.9	4.7	長石・雲母・赤色 粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り 後ナデ	覆土下層	85% 底面に赤褐色 沈着 PL110
677	土師貫土器	皿	9.6	3.0	3.8	長石・雲母・赤色 粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切 り後ナデ	底面	85%
678	土師貫土器	内耳罎	32.6	10.8	3.8	長石・石英・雲母・ 赤色粒子・埋	にぶい橙	普通	2 内耳残存 耳縁り付け 内面から1層 部外側ナデ	覆土下層	25%
679	土師貫土器	内耳罎	29.8	8.8	2.16	長石・石英・雲母	褐	普通	2 内耳残存 耳縁り付け 内面から1層 部外側ナデ 2 層部残存 脚部筋り付け	底面	30% PL113
680	土師貫土器	内耳罎	—	3.3	1.73	長石・石英・雲母	褐	普通	1 脚部残存 脚部筋り付け 内・外面ナデ	覆土中	20%
681	土師貫土器	香炉	110.6	4.8	7.8	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	1 脚部内面につまみ出し 外面ナデ 内 面5ヶ上単位筋の張り目・厚減	覆土中層	20%
682	土師貫土器	部鉢	31.8	9.0	13.8	長石・雲母・赤色 粒子	黒褐	普通	1 脚部内面につまみ出し 外面ナデ 5 ヶ上単位筋の張り目・厚減	覆土中層	20%
683	土師貫土器	部鉢	33.8	12.3	14.8	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	黄褐	普通	1 脚部内面につまみ出し 外面ナデ 5 ヶ上単位筋の張り目	覆土中層	80%
684	土師貫土器	部鉢	32.8	13.4	13.8	長石・石英・雲母・ 赤色粒子・埋	橙	普通	1 脚部内面につまみ出し 外面ナデ 5 ヶ上単位筋の張り目	底面	25% 外面面層着
685	陶器	水注	—	9.7	—	精良 長石	灰白・灰白	良好	ロクロ成形 内面に指節痕 外面下層筋 り痕 頸部に2条の沈着 外面に施釉	覆土下層	40% 外面層着 PL115
686	陶器	染付皿	—	1.6	7.9	精良 透明釉	灰白・明黄灰	良好	割りだし高台 器付無釉	覆土中	10% 青花

第202号溝跡 (第411図)

位置と規模 調査区西部の I 4 e0 ~ I 5 f1区に位置している。I 5 f1区から北西方向 (N-50°-W) へ直線的に延び、I 4 e0区で第205号溝に連結している。長さは5.5mで、上幅0.46 ~ 0.56m、下幅0.14 ~ 0.22m、深さ9 ~ 15cmである。断面形は逆台形状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。覆土が薄いため堆積状況の判断は困難であるが、含有物から自然堆積と考えられる。

土層解説 (C-C')

1 褐 褐色 ローム粒子少量、炭化物・炭化粒子微量 2 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況 壁土と思われる焼土が、1点出土している。

所見 第205号溝に雨水等を排水していた溝で、時期は重複関係から16世紀代と考えられる。

第205号溝跡 (第411・412図)

位置 調査区西部の H 5 g3 ~ I 4 f9区で、標高25mほどの台地端部の緩斜面に位置している。

重複関係 第202号溝と同時期と考えられ、第210号溝に掘り込まれている。

規模と形状 I 4 f9区から北東方向 (N-26°-E) へ直線的に延び、H 5 g0区で第210号溝に掘り込まれた地点で調査区域外となっている。確認できた長さは35.6mで、上幅1.36 ~ 2.7m、下幅0.26 ~ 0.62m、深さ86 ~ 110cmである。断面形は逆台形状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

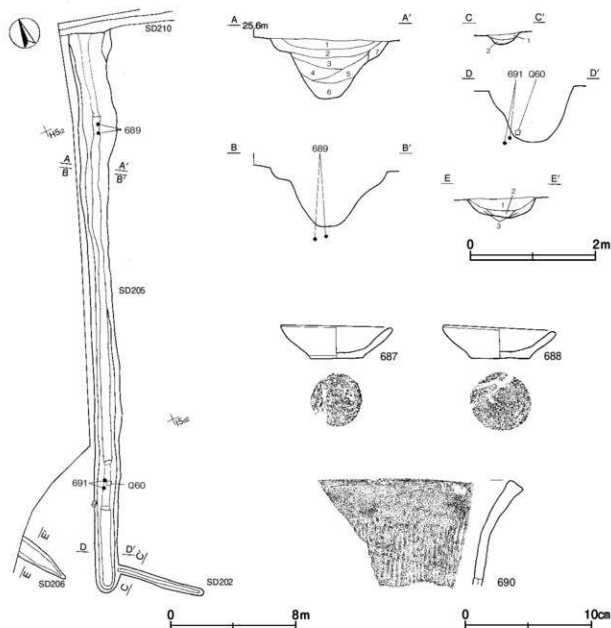
覆土 7層に分層される。含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説 (A-A')

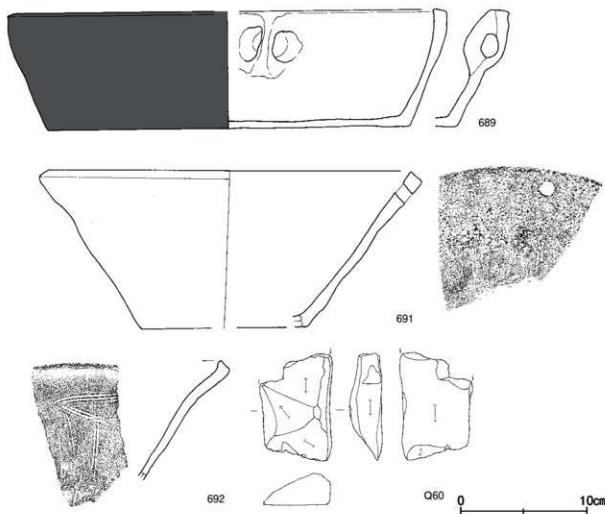
1 黒褐色	粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	4 黒褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	5 灰黄褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	炭化物・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	6 灰黄褐色	粘土ブロック中量、炭化粒子微量
		7 褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片164点(皿52, 内耳鍋70, 甕8, 播鉢33, 火鉢1), 陶器片5点(碗1, 常滑系甕4), 石器2点(砥石), 鉄滓1点と, 流れ込んだ縄文土器片10点, 土師器片15点, 須恵器片3点, 礫3点が出土している。687・688・690・692は北部の覆土中, 689は北部の底面, 691・Q60は南部の底面からそれぞれ出土している。ほとんどが散在して破片で出土していることから, 埋土と共に廃棄されたと考えられる。

所見 北西側の谷津に雨水等を排水する機能をもっていたと考えられる。時期は, 出土土器から16世紀代と考えられる。



第411図 第202・205・206号溝跡, 第205号溝跡出土遺物実測図



第412図 第205号溝跡出土遺物実測図

第205号溝跡出土遺物観察表 (第411・412図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
687	土加貫土器	皿	8.7	2.6	4.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底面回転糸切後ナデ	覆土中	55%
688	土加貫土器	皿	8.8	2.7	4.8	長石・石英・雲母	淡黄	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底面回転糸切後ナデ	覆土中	60% 成形にゆがみ
689	土加貫土器	内耳鍋	[33.0]	9.2	28.9	長石・石英・雲母・鐵	橙	普通	土内耳残存 耳貼り付け 内面から11線 体部外面ナデ	底面	30% 器底・体部外面残存者
690	土加貫土器	内耳鍋	[26.8]	(8.5)	—	長石・石英・雲母・鐵	橙	普通	内面ナデ 外面ヘラナデ痕	覆土中	外面残存者
691	土加貫土器	蓋鉢	28.9	12.8	[13.2]	長石・石英・雲母・鐵	にぶい橙・黄	普通	厚減と剥離のため器目不明 外面ナデ 底面線 白1筋欠損 空孔1ヶ所	底面	70% PL113
692	土加貫土器	蓋鉢	—	(9.7)	—	長石・石英・雲母・鐵	にぶい黄橙	普通	口唇部上唇へつまみ上げ 器目3条1原色ナデ 外面ナデ	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q60	灰石	(8.5)	5.8	2.5	(120.0)	凝灰岩	端部欠損 灰面5面	底面	

第206号溝跡 (第411図)

位置と規模 調査区西部縁辺部 I 4 d8 ~ I 4 e9区に位置している。I 4 d8区から直線的に北西方向 (N - 30° - W) へ延び、I 4 d8区で調査区域外となっている。確認できた長さは3.5mで、上幅0.26 ~ 1.15m、下幅0.16 ~ 0.72m、深さ10 ~ 30cmである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。レンズ状の堆積状況と含有物から自然堆積と考えられる。

土層解説 (E-E')

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|---------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片4点(Ⅲ)と、流れ込んだ縄文土器片2点、須恵器片1点が出土している。

所見 谷津に雨水等を排水したと考えられる。時期は、隣接する遺構と比較して16世紀代と考えられる。

第203号溝跡 (第413・414図)

位置 調査区西部のI5g0～J5a0区で、標高26mほどの台地上の平坦部に位置している。

重複関係 第1199号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 I5g9区から南方向(N-175°-W)へ緩やかに延び、J5a0区で調査区域外へ向かっている。

確認できた長さは131mで、上幅0.95～1.52m、下幅0.3～1.08m、深さ21～38cmである。断面形は緩やかなU字状または逆台形状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

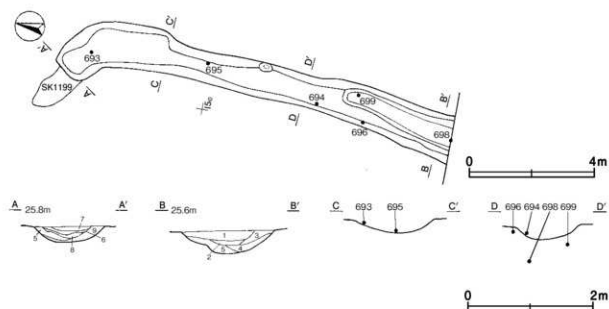
覆土 9層に分層される。レンズ状の堆積状況と含有物から自然堆積と考えられる。

土層解説

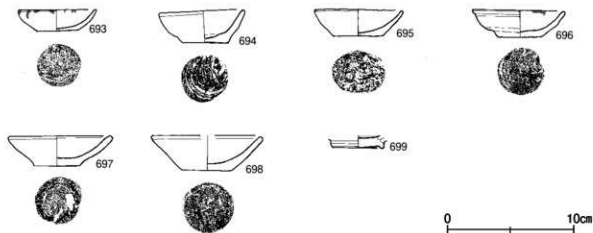
- | | | | |
|-------|----------------------------|--------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 6 黒褐色 | 粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 7 暗褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 8 灰黄褐色 | 粘土粒子中量、炭化粒子微量 |
| | | 9 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片100点(Ⅲ68, 内耳鍋24, 播鉢8)、陶器片2点(天目茶碗, 常滑系甕)と、流れ込んだ土製品8点(支脚)、鏝5点が出土している。全体的に散在して出土していることから、隣接する屋敷域からの廃棄と考えられる。693・695は北部、694・696・698・699は南部の底面から出土しており、697は南部の覆土中から出土している。

所見 第36号掘立柱建物と第24号ピット群で構成される屋敷域を区画する溝の一つと考えられる。規模的にやや相違があるものの、調査区域外を挟んで第20号溝と連結していると推測される。時期は、出土土器から16世紀代後半と考えられる。



第413図 第203号溝跡実測図



第414図 第203号溝跡出土遺物実測図

第203号溝跡出土遺物観察表 (第414図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
693	土師質土器	皿	6.7	1.7	3.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロタロナ字後ナ字 転糸切り後ナ字 内・外面磨滅	底面	100%口部面磨いた着
694	土師質土器	皿	6.8	2.7	3.6	雲母	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ロタロナ字後ナ字 転糸切り後糸切り痕を残すナ字	底面	90%成形にゆがみ、PL10
695	土師質土器	皿	6.9	2.2	3.8	雲母	にぶい黄橙・黒點	普通	体部内・外面ロタロナ字後ナ字 転糸切り後ナ字	底面	80%成形にゆがみ、黄橙
696	土師質土器	皿	7.4	2.3	3.6	雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロタロナ字後ナ字 転糸切り	底面	100%口部面磨いた着
697	土師質土器	皿	8.1	2.3	3.6	赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面ロタロナ字後ナ字 転糸切り後糸切り痕を残すナ字	底面	80%成形にゆがみ
698	土師質土器	皿	[8.8]	2.7	4.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ロタロナ字後ナ字 転糸切り後糸切り痕を残すナ字	底面	55%
699	陶器	天目茶碗	—	(1.0)	4.2	精良 鉄粉	黒灰・黒點	良好	底面片 底面高台傾りなし 内面施釉	底面	10%黒灰・黄橙点

第204号溝跡 (第415・416図)

位置と規模 調査区西部のI5f0～I5g0区に位置している。I5g0区から北東方向(N-14°-E)へ直線的に伸び、I5f0区で第300・348号溝に連結している。長さは4.1mほどで、上幅0.55～0.67m、下幅0.33～0.39m、深さ13cmである。断面形は逆台形状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層され、含有物から自然堆積と考えられる。

土層解説 (A-A', B-B')

1 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量

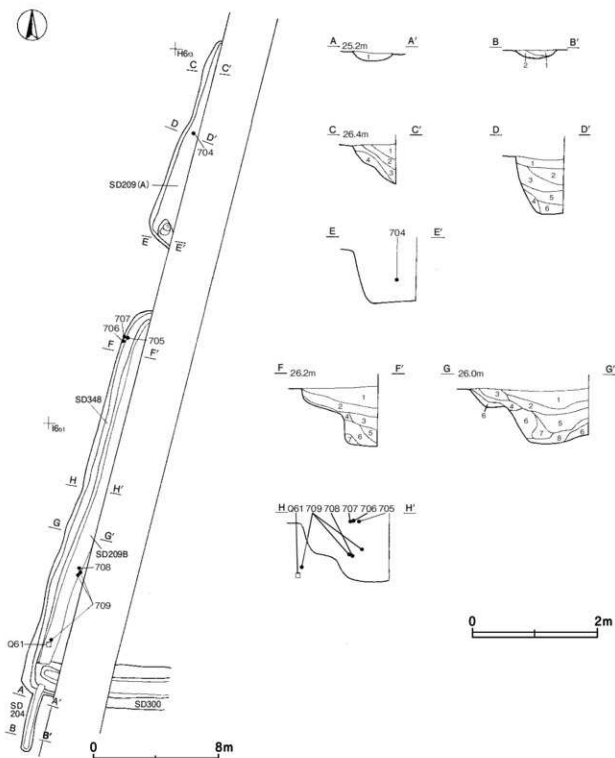
遺物出土状況 土師質土器片80点(皿9、内耳鍋47、香炉6、搦鉢18)、陶器片1点(天目茶碗)と、流れ込んだ縄文土器片1点、土師器片8点、須恵器片3点、礫1点が出土している。700・701は、覆土中から破片で出土している。

所見 第300号溝に雨水等を排水したと考えられる。時期は、出土土器から16世紀代と考えられる。

第209A号溝跡 (第415・416図)

位置 調査区西部のH6e3～H6j2区で、標高26mほどの台地の緩斜面に位置している。

規模と形状 調査区域外のH6e3区から南西方向(N-159°-W)へ直線的に伸び、H6j2区で立ち上がっている。確認された長さは13.3mで、上幅・下幅とも調査区域外に接するため明確ではないが、上幅0.6～1.1m、下幅0.1～0.9m、深さ64～86cmである。断面形は逆台形状と推定され、壁は外傾して立ち上がっている。



第415図 第204・209A・209B・348号溝跡実測図

覆土 6層に分層される。含有物から1・2層は自然堆積であるが、第3層以下は人為堆積と考えられる。

土層解説 (C-C', D-D')

1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

2 黒褐色 ローム粒子少量、粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

3 黒褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量

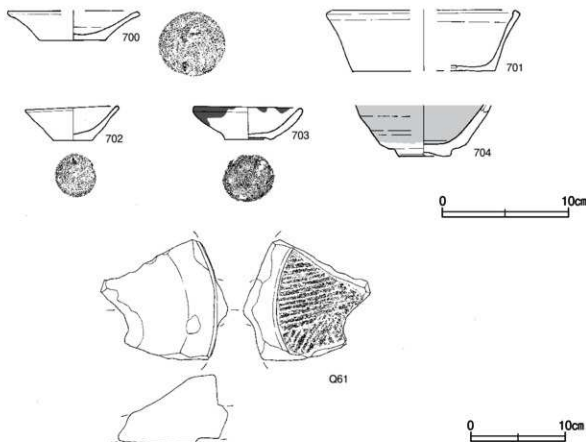
4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

5 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量

6 灰黄褐色 粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片85点(皿23, 内耳鍋35, 甕9, 播鉢18), 陶器片3点(天目茶碗1, 常滑系甕2), 石器1点(茶臼)と, 流れ込んだ縄文土器片5点, 須恵器片1点, 礫2点が出土している。704は中央部の覆土下層, 702・703は覆土中からそれぞれ出土している。遺物は, 遺構全体から散在するように出土しており, 本跡の廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。

所見 調査区域外の農道に接しているため, 一部だけ調査された溝で, 区画と雨水等を排水したと推測される。時期は, 出土土器から16世紀代と考えられる。



第416図 第204・209A号溝跡出土遺物実測図

第204号溝跡出土遺物観察表(第416図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
700	土師質土器	皿	[10.4]	2.3	5.1	長石・雲母・赤色 粒子	にじみ黄緑	普通	体部内・外面口ラロナデ後ナデ 底部回 転糸切り	覆土中	60%
701	土師質土器	香炉	[14.6]	4.9	[11.4]	石英	赤褐	普通	体部内・外面ナデ 底面ナデ	覆土中	30% 2次焼成

第209A号溝跡出土遺物観察表(第416図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
702	土師質土器	皿	7.4	2.8	3.2	石英・雲母・赤色 粒子	淡黄	普通	体部内・外面口ラロナデ後ナデ 底部回 転糸切り後ナデ	覆土中	100% PL110
703	土師質土器	皿	8.6	2.7	3.9	長石・雲母	にじみ黄緑	普通	体部内・外面口ラロナデ後ナデ 底部回 転糸切り	覆土中	100% 11号土溝 埋付者 PL110
704	陶器	天目茶碗	—	(4.1)	4.4	精良 肌釉	相灰・短肌	良好	筑部高台溜りだし 内・外面施釉 輪だ まり 器体に筋施	覆土下層	20% 瀬戸・美濃 系

番号	器種	直径	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q61	茶臼 (下口)	〔36.8〕	—	7.3	〔108〕	安山岩	受け皿部の一部残存 取り目14条1単位s	底面	

第209 B号溝跡 (第415・417・418図)

位置 調査区西部のH 6j2～1 5e0区で、標高26mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第300・348号溝を切っている。

規模と形状 調査区域外のH 6j2区から南西方向(N-164°-W)へ直線的に延び、1 5e0区で第300号溝と重複している。確認できた長さは23mほどで、上幅・下幅とも調査区域外に抜するため明確でないが、上幅0.6～1.3m、下幅0.4～1.0m、深さ90～92cmである。断面形は逆台形状と推定され、壁は緩やかに立ち上がっている。

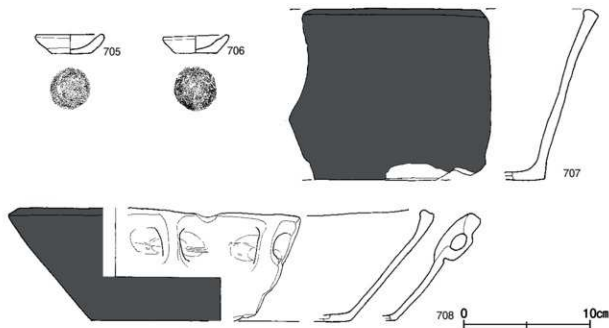
覆土 第348号溝の覆土と重複し、8層に分層される。含有物から第1～5層は自然堆積であるが、第6層以下は人為堆積と考えられる。

土層解説 (F-F', G-G')

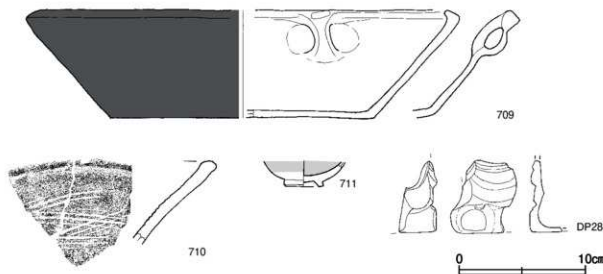
1 黒 褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量	5 黒 褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量
2 褐 色	ローム粒子少量	6 灰 褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子少量
3 暗 褐色	ローム粒子・粘土粒子微量	7 褐 色	ローム粒子中量、粘土粒子微量
4 暗 褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	8 褐 灰色	粘土ブロック中量、ローム粒子少量

遺物出土状況 土師質土器片89点(皿16、内耳鍋52、甕1、播鉢20)、瓦質土器片8点(火鉢か)、陶器片1点(碗)、土製品1点(人形)、石器4点(石臼、茶臼、砥石、硯)と、流れ込んだ縄文土器片4点、土師器片4点、須恵器片5点、礫1点が出土している。覆土第6層以下に相当する下層から出土している708・709、Q61と、覆土中層以上から出土している705～707・710・711とは時期差は認められず、全体的に散在して出土していることから、本跡の廃絶に伴って廃棄されたと考えられる。DP28は、混入したものと考えられる。

所見 調査区域外の農道に接しているため、一部だけが調査された溝跡である。農道下で調査区中央部で確認されている第300号溝と連結しており、形状的に大規模な溝と推測される。時期は、出土土器から16世紀代と考えられる。



第417図 第209 B号溝跡出土遺物実測図(1)



第418図 第209B号溝跡出土遺物実測図(2)

第209B号溝跡出土遺物観察表 (第417・418図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
705	土師質土器	皿	5.4	1.5	3.2	長石・雲母・赤色 粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 或部回 転糸切り後ナデ	覆土上層	100%
706	土師質土器	皿	5.2	1.5	3.4	長石・雲母・赤色 粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 或部回 転糸切り後ナデ	覆土上層	100%
707	土師質土器	内耳罎	—	(13.5)	—	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	灰陶	普通	内・外面ナデ	覆土上層	20% 体部外面 張り付
708	土師質土器	内耳罎	[32.2]	9.0	[20.4]	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい陶	普通	2内耳残存 耳貼り付け 内・外面ナデ 耳部に掛け紐	覆土下層	30% 体部外面 張り付
709	土師質土器	内耳罎	[32.6]	8.6	[21.0]	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい陶	普通	1内耳残存 耳貼り付け 内・外面ナデ	覆土下層	30% 体部外面 張り付
710	土師質土器	部鉢	—	(6.7)	—	長石・石英・雲母	にぶい陶	普通	口唇部欠み 3葉1單位の張り目が交差 後ナデ	覆土中	10%
711	陶器	小碗	—	(2.0)	3.2	精良 灰釉	淡黄・灰白	良好	高台に張り出し 内・外面施釉 高体	覆土中	15% 瀬戸・美濃 系

番号	器種	高さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP28	人形 (大黒)	(5.8)	(3.3)	(3.0)	(29.9)	土製	髹漆成形 表面ナデ	覆土中	

第348号溝跡 (第415図)

位置と規模 調査区西部のH 6j2～I 5f0区に位置している。H 6j2区から南西方向(N-166°-W)へ直線のに延びている。第204・209B号溝に大きく掘り込まれているため確認できたのは、長さ25.4m、下幅0.18～0.4m、深さ34～50cmだけである。

覆土 第204・209B号溝に大きく掘り込まれているため不明である。

所見 第209B号溝に掘り返しを受けたと推測され、同時期に機能し、廃絶されたと考えられる。時期は、重複関係から16世紀代である。

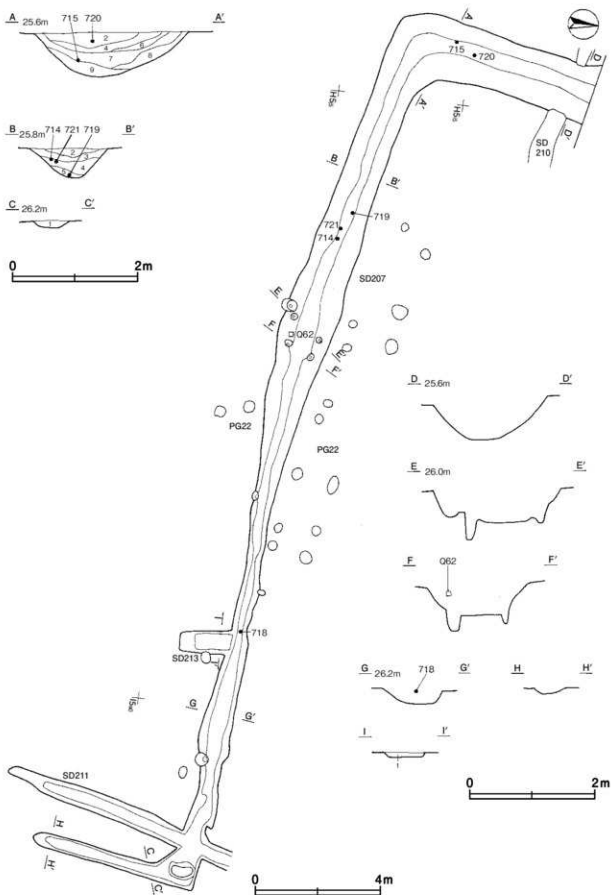
第207号溝跡 (第419～421図)

位置 調査区西部の端H 5g4～I 6a1区で、標高26mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第211・213号溝に切られ、第210号溝に掘り込まれている。

規模と形状 I 6a1区から北方向(N-10°-E)へ5mほど延び、その後西方向(N-82°-W)へ29m、さらに北方向(N-7°-E)へクランク状に屈曲して6mほど延び、H 5g4区で調査区域外へと向かっている。

確認できた長さは40mほどで、上幅0.48～1.74m、下幅0.1～0.66m、深さ10～70cmである。断面形は浅い部



第419图 第207·213号沟迹实测图

分で緩やかなU字状、深い部分で逆台形状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。

木橋跡 1か所。5か所の柱穴痕の深さは10～41cmで、ほぼ中央部に確認されている。

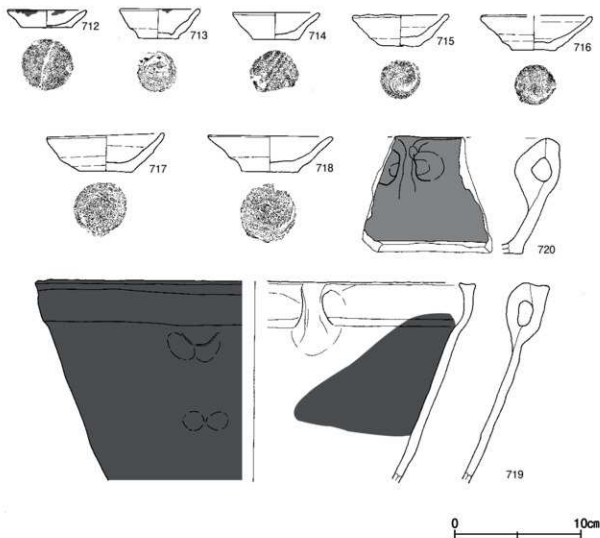
覆土 9層に分層される。含有物から南部の掘り方の浅い部分は自然堆積であるが、中央部から北部にかけての掘り方の深い部分では人為堆積である。

土層解説 (各層共通)

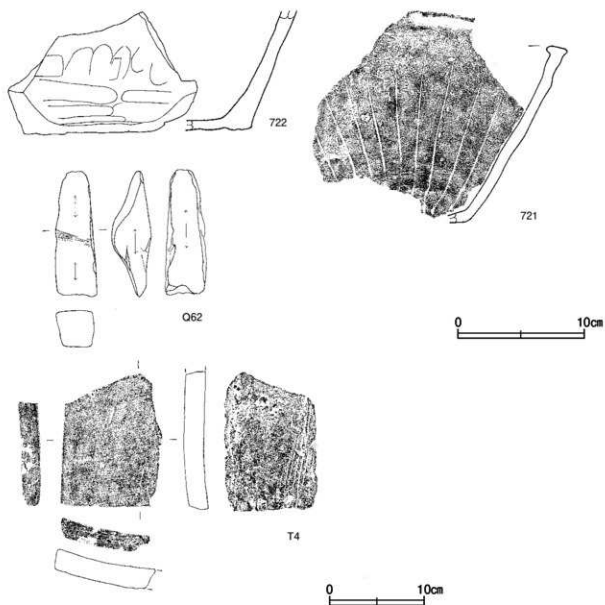
1	黒褐色	粘土ブロック・ローム粒子多量	6	黒褐色	ロームブロック・粘土粒子多量、焼土ブロック中量
2	暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック多量	7	黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子多量
3	暗褐色	ロームブロック多量、粘土ブロック少量	8	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子・焼土粒子多量
4	暗褐色	ロームブロック多量、粘土粒子中量	9	黒褐色	焼土ブロック多量、粘土ブロック少量
5	黒褐色	ロームブロック多量			

遺物出土状況 土師質土器片251点（皿75、内耳銅類135、香炉1、甕9、摺鉢31）、陶器片6点（常滑系甕カ）、石器8点（磨石1、石臼1、砥石6点）、粘土塊6点、木片3点と、流れ込んだ縄文土器片12点、土師器片10点、須恵器片7点、礎11点が出土している。714・715・718～721、Q62、T4は、散在して覆土上層から底面にかけて出土しており、本跡の廃絶に伴って埋土とともに廃棄されたと考えられる。

所見 第211・212号溝とともに屋敷域と想定される第22号ピット群を区画し、西方の谷津に向かってのことから、雨水等の排水の機能ももっていたと考えられる。時期は、出土土器から16世紀代と考えられる。



第420図 第207号溝跡出土遺物実測図(1)



第421図 第207号溝跡出土遺物実測図(2)

第207号溝跡出土遺物観察表 (第420・421図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
712	土加貫土器	甕	6.2	1.4	4.0	長石・雲母・赤色 砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転 転糸切り後ナデ	甕土中	65%口辺部清 裡付着
713	土加貫土器	甕	6.2	2.4	3.2	長石・雲母・赤色 砂子	にぶい・橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回 転糸切り	甕土中	80%口辺部清 裡付着
714	土加貫土器	甕	6.8	2.2	3.6	長石・雲母・赤色 砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回 転糸切り後片垂全残ナデ	甕土中層	55%
715	土加貫土器	甕	7.4	2.6	3.3	長石・雲母・赤色 砂子	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切 り後ナデ	甕土下層	100%口辺部に ゆがみ
716	土加貫土器	甕	[8.8]	2.7	3.5	長石・雲母・赤色 砂子	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回 転糸切り後ナデ	甕土中	60%
717	土加貫土器	甕	9.1	3.1	4.2	雲母・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切 り後糸切り垂全残ナデ	甕土上層	60%
718	土加貫土器	甕	9.8	2.9	4.6	雲母	浅黄	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回 転糸切り後ナデ	甕土上層	55%
719	土加貫土器	内耳罎	[32.8]	(17.0)	—	長石・石英・ 雲母・赤色砂子	明赤陶	普通	1内耳残存 耳貼り付け後ナデ 内・外 面ナデ	甕土中	30%体部内・外 面裡付着
720	土加貫土器	内耳罎	—	9.2	[30.2]	長石・石英・雲母・ 赤色砂子・埋	にぶい・橙	普通	1内耳残存 耳貼り付け後ナデ 内・外 面ナデ	甕土上層	50%8ヶ所 内面に 赤色 9ヶ所に赤い
721	土加貫土器	楕鉢	—	(14.0)	—	長石・石英・ 雲母・赤色砂子	にぶい・赤陶	普通	口辺部内側にゆがみ出し 1条1単位の 張り目 外面ナデ	甕土中層	20%
722	陶器	甕	—	(9.5)	—	精良長石	にぶい・橙	良好	内面ヘラナデ後ナデ 外面ナデ	甕土中	15%常滑系

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q62	砥石	(100)	3.3	3.0	95.2	凝灰岩	端部欠損 砥面4面 表面に磨痕	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
T4	平瓦	(145)	(103)	2.1	(803.4)	長石・雲母	表面ナデ 表面調整痕 表面にふい黄褐色 胎土灰黄色	覆土中層	

第213号溝跡 (第419図)

位置と規模 調査区西部のH5j9区に位置している。H5j9区から、北方向(N-6°-W)へ直線的に延び、第207号溝に繋がっている。長さは1.6mほどで、上幅0.66m、下幅0.52m、深さ8cmである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 単一層で、含有物から自然堆積と考えられる。

土層解説 (1-1')

- 1 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子・炭化粒子微量

所見 第207号溝に雨水等を排水したと考えられ、時期は重複関係から16世紀代と考えられる。

第226A号溝跡 (第422・423図)

位置 調査区中央部の北端H6e8～H7b7区で、標高27mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第233号溝を切り、第225・226B・251号溝に切られている。

規模と形状 H6e8区から、北方向(N-11°-E)へ直線的に延び、H6b8区で東方向(N-82°-E)へ屈曲して直線的にH7b7区まで延び、第251号溝に連結している。長さは44.2mで、上幅1.42～2.4m、下幅0.42～0.8m、深さ80～98cmである。断面形は逆台形状で、壁は緩やかに立ち上がっている。底面には、2か所段差が認められるほか、3か所障子堀状の掘り方が確認されている。

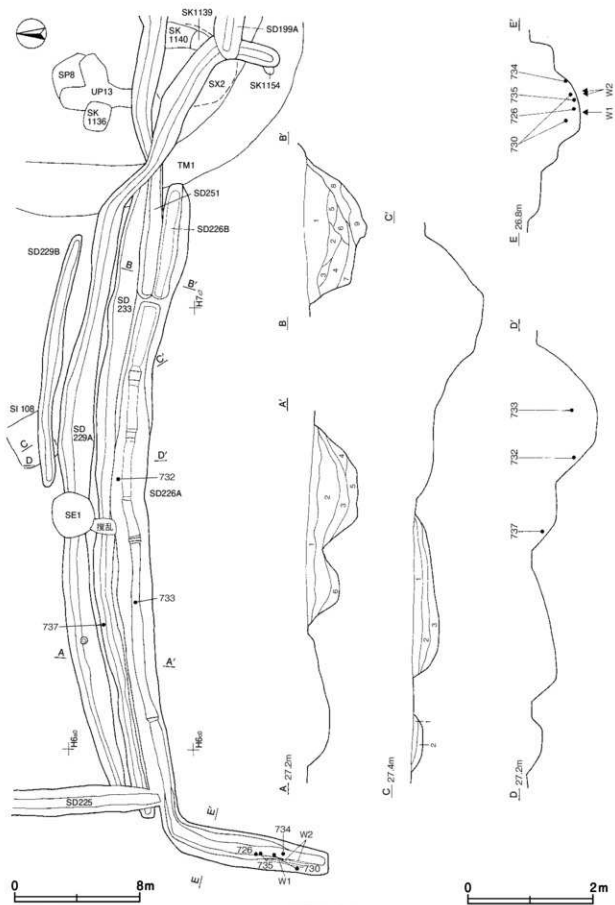
覆土 5層に分層される。遺物の出土状況から一部人為堆積の様相が認められるが、含有物から自然堆積である。

土層解説 (A-A' SD229A・233との重複部、1～5層が相当する。)

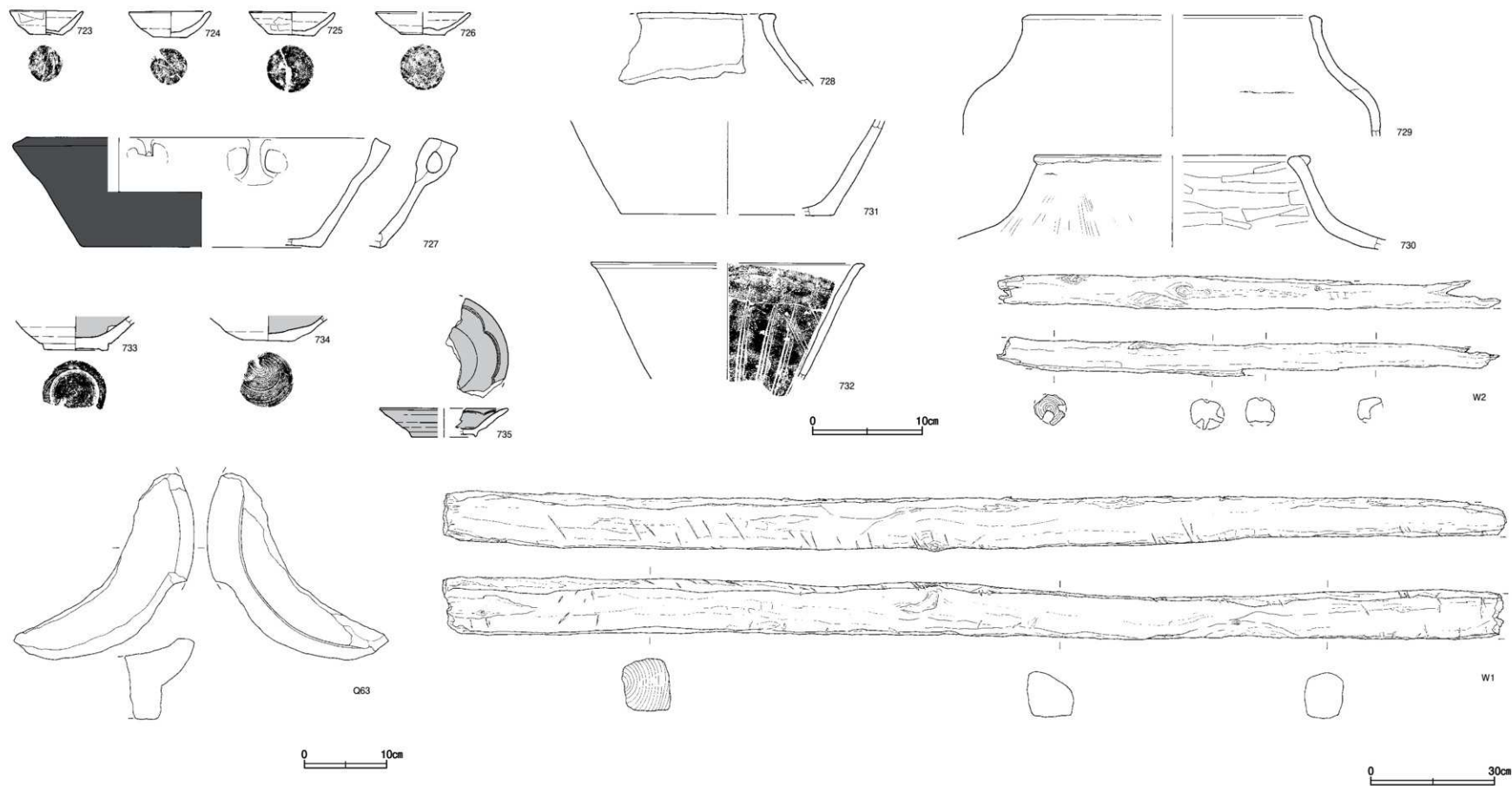
- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量 4 暗褐色 ローム粒子少量、粘土ブロック・炭化粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック・小礫・焼土粒子・炭化粒子微量 5 黒褐色 ローム粒子少量、粘土ブロック・炭化物微量
3 暗褐色 ローム粒子少量、粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 6 暗褐色 粘土ブロック中量、炭化物少量 (SD233の覆土)

遺物出土状況 土師質土器片276点(皿42、内耳鍋99、香炉カ1、壺・甕類115、搦鉢19)、瓦質土器片1点(火鉢カ)、陶器片11点(碗1、皿6、常滑承盤4)、石器5点(磨石2、石臼1、茶臼1、砥石1)、木製品2点(柱材カ)と、流れ込んだ縄文土器片11点、土師器片22点、須恵器片11点、埴輪片1点、鉄滓2点、礫18点が出土している。732・733は、中央部から東部にかけての覆土中層から出土しており、726・730・734・735、W1・W2は、西部の覆土下層から底面にかけて集中して出土している。これらは、溝の内側に位置している屋敷域と想定される第26～28号ピット群の廃絶に伴って、廃棄されたと考えられる。

所見 調査区中央部の北側を、ほぼ東西に掘り込んでいる溝である。底面には段差や障子堀状の掘り方が認められ、防臭の役割をもった溝と考えられる。時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。



第422图 第226 A · 226 B · 229 A · 229 B · 233号沟迹实测图



第423图 第226 A号沟出土文物实测图

第226 A号溝跡出土土物観察表 (第423図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
723	土師質土器	皿	6.8	2.2	3.2	石灰・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面ロクロナテ後ナテ 外面にヘラナテ痕 底部回転糸切り後ナテ	覆土中	70%
724	土師質土器	皿	7.3	2.5	3.0	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナテ後ナテ 底部回転糸切り	覆土中	85%
725	土師質土器	皿	7.8	2.2	4.2	雲母・赤色粒子	淡橙	普通	体部内・外面ロクロナテ後ナテ 外面にヘラナテ痕 底部回転糸切り後ナテ	覆土中	50%
726	土師質土器	皿	[8.6]	2.1	4.2	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナテ後1季ナテ 底部回転糸切り後ナテ	底面	30%
727	土師質土器	内耳鍋	[32.2]	10.0	[21.8]	長石・石灰・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	土内耳残存 耳貼り付け 内面から口縁部外面ナテ	覆土中	3% 底部内面及び口縁部を覆土
728	土師質土器	甕	—	[6.6]	—	長石・石灰・雲母	橙	普通	内・外面ナテ	覆土中	
729	土師質土器	甕	[26.4]	[11.0]	—	石灰・雲母	明赤褐	普通	内・外面ロクロナテ後ナテ 体部内面輪転痕	覆土中	
730	土師質土器	甕	[25.0]	[8.6]	—	長石・石灰・雲母	橙	普通	内面ヘラナテ 外面ヘラナテ後ナテ 1) 底部外面輪転部貼り付け	覆土下層	10%
731	土師質土器	甕	—	[8.7]	[19.6]	長石・石灰・雲母	浅黄橙	普通	内・外面ナテ	覆土中	10%
732	土師質土器	甕	[25.0]	[10.7]	—	長石・雲母	にぶい橙	普通	1) 内面底部に収める 3条1単位と4条1単位で握り目がある 外面ナテ	覆土中層	10%
733	陶器	丸罐	—	[3.1]	5.8	精良 灰輪	灰白・浅黄	良好	底部磨りだし高台 内面輪転 底部内側にトナリ痕 輪	覆土中層	10% 内面・灰濁点
734	陶器	丸罐	—	[2.3]	5.0	精良 灰輪	灰白・浅黄	良好	底部磨りだし高台 内面輪転 底部内側にトナリ痕 輪	底面	15% 内面・灰濁点
735	陶器	丸罐	[11.7]	2.7	[5.9]	精良 灰輪	灰白・浅黄	良好	底部磨りだし高台 1) 底部内面に3条の輪転文の残痕 内・外面輪転	底面	15% 内面・灰濁点

番号	器種	径	孔径	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q63	赤瓦 (F1)	[36.2]	—	9.8	[222.4]	安山岩	受け皿部を中心とした破片	覆土中底面	PL316

番号	器種	長さ	最大幅	最大厚	特徴	出土位置	備考
W1	柱材*	[259.4]	13.7	14.1	縦の引目痕 表面手拵か輪転による調整痕		
W2	柱材*	[123.2]	8.2	7.6	両端部欠損 表面手拵か輪転による調整痕		底面

第226 B号溝跡 (第422図)

位置と規模 調査区中央部H7 b7～H7 b9区に位置している。H7 b7区から、東方向(N-98°-E)へ直線的に延びている。長さは7.6mで、上幅0.8～1.56m、下幅0.4～0.6m、深さ96～100cmである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 第8・9層が相当し、2層に分層される。含有物から人為堆積であり、本跡がある程度埋没した後にほぼ同時期に機能していた第251号溝に、掘り替えられたと考えられる。

土層解説 (B-B' SD251との重複部)

1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	5	灰褐色	粘土ブロック中層、焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量	6	黒褐色	褐色粒子中層、ローム粒子少量
3	暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量	7	暗褐色	ロームブロック中層
4	麻褐色	ロームブロック・黒色ブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	8	黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック中層
			9	褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片33点(皿6、内耳鍋23、甕3、播鉢1)と、流れ込んだ須恵器片1点が出土している。

所見 第226 A号溝と連結し、第251号溝と並行している溝で、排水と防衛の機能を兼ねていたと考えられる。時期は、重複関係から16世紀代後半と考えられる。

第229 A号溝跡 (第422・424図)

位置と規模 調査区中央部のH6 a9～H8 c1区に位置している。H8 c1区から、西方向(N-75°-W)へ緩やかに延び、H6 a0区で第225号溝に連結し、中央部を第1号井戸に掘り込まれている。長さは54mほどで、上幅0.96～2.36m、下幅0.24～0.62m、深さ36～40cmである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層され、含有物から自然堆積と考えられる。

土層解説 (C-C')

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片13点(皿9, 内耳鍋2, 播鉢2), 陶器片1点(播鉢)と、流れ込んだ縄文土器片6点, 土師器片5点, 須恵器片1点, 礫3点が出土している。

所見 第226A・251号溝の外側に位置している溝で、排水と防御の機能を兼ねていたと考えられる。時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。

第229 B号溝跡 (第422図)

位置と規模 調査区中央部の北端 G 7j4～H 7a8区に位置している。G 7j4区から、東方向 (N-99°-E) へ直線的に延びている。長さ16.4mで、上幅0.7～1.26m, 下幅0.28～0.54m, 深さ18cmほどである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。含有物から、自然堆積と考えられる。

土層解説 (C-C')

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量 2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

所見 第229A号溝の北側に位置している溝で、排水と防御の機能を兼ねていたと考えられる。時期は、重複関係から16世紀代と考えられる。

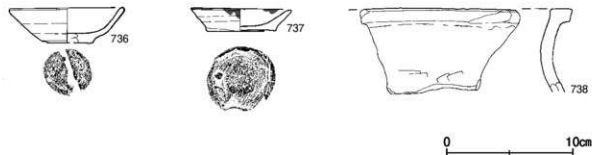
第233号溝跡 (第422・424・425図)

位置と規模 調査区中央部のH 6b8～H 7b9区に位置している。H 6b8区から、東方向 (N-79°-E) へ直線的に延びている。長さ40.8mほどで、上幅0.8～1.6m, 下幅0.2～1.2m, 深さ36～50cmである。断面形は逆台形状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

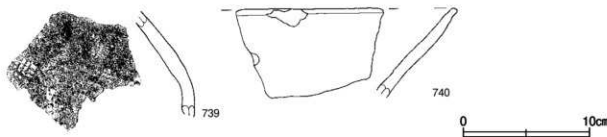
覆土 3層に分層される。第226A号溝との重複部 (A-A') では、第1・2・6層が相当し、含有物から自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師質土器片107点 (皿2, 内耳鍋22, 甕類82, 播鉢1), 陶器片4点 (常滑系甕3, 常滑系播鉢1) が出土している。737はほぼ中央部の底面, 738～740は覆土中からそれぞれ出土している。その他, 流れ込んだ縄文土器片7点, 土師器片22点, 須恵器片6点, 礫1点と、混入した磁器片1点 (碗々) も出土している。

所見 第229A号溝の内側に位置している第226A・B号溝に掘り込まれている溝で、排水と防御の機能を兼ねていたと考えられる。時期は、重複関係から16世紀代と考えられる。



第424図 第229A・233号溝跡出土遺物実測図



第425図 第233号溝跡出土遺物実測図

第229 A号溝跡出土遺物観察表 (第424図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
736	土師質土器	皿	9.1	2.8	4.1	長石・石英・赤色粘土・黒色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転車切 片取ナデ	覆土中	60%

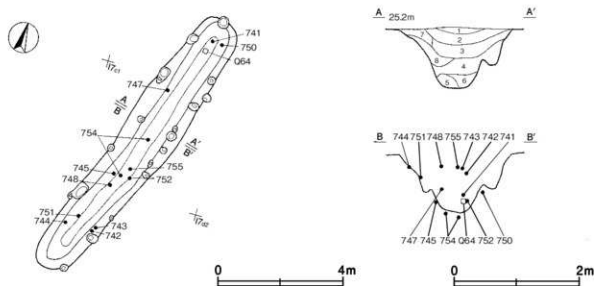
第233号溝跡出土遺物観察表 (第424・425図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
737	土師質土器	皿	7.9	1.9	5.7	長石・石英・赤色粘土・黒色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転車切	底面	70% 口野部清浄検査
738	土師質土器	薬	[22.6]	(6.8)	—	長石・石英・赤色粘土・黒色粒子・礫	橙	普通	口辺部破片 内・外面ヘラナデ後ナデ	覆土中	
739	陶器	薬	—	(8.1)	—	長石・石英・礫	紫オリーブ・淡青	良好	体部上段の破片 内・外面ナデ 外面にスタンプ文様印	覆土中	常滑系 ^o
740	陶器	鉢鉢 ^o	[32.0]	(7.1)	—	長石・石英・赤色粘土・礫	にがい陶	良好	口辺部破片 口野部丸み 内・外面ナデ	覆土中	10%常滑系 ^o

第243溝跡 (第426～428図)

位置 調査区中央部の I 7 b1 ~ I 6 d0区で、標高25mほどの台地の緩斜面に位置している。

規模と形状 I 6 d0区から、北東方向(N-21°-E)へ直線的に I 7 b1区まで延びている。長さは9.7mほどで、上幅1.38 ~ 1.8m、下幅0.24 ~ 0.44m、深き98cmである。断面形は逆台形状で、壁は緩やかに立ち上がっている。壁際に17か所の小ピットが確認されているが、性格は不明である。



第426図 第243号溝跡実測図

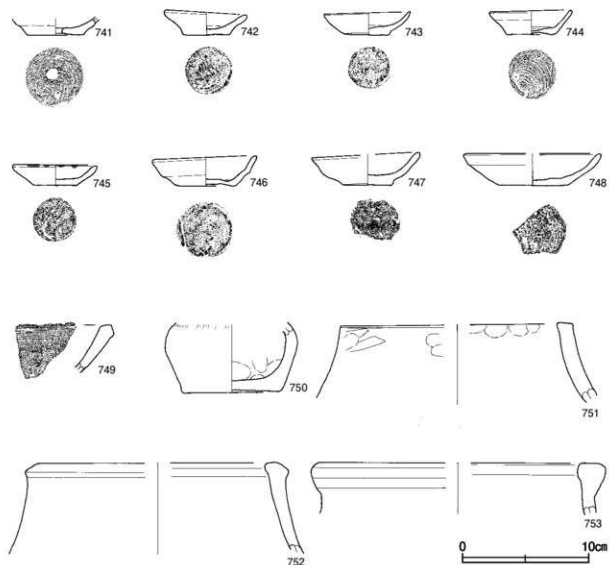
覆土 8層に分層される。含有物から、人為堆積である。

土層解説

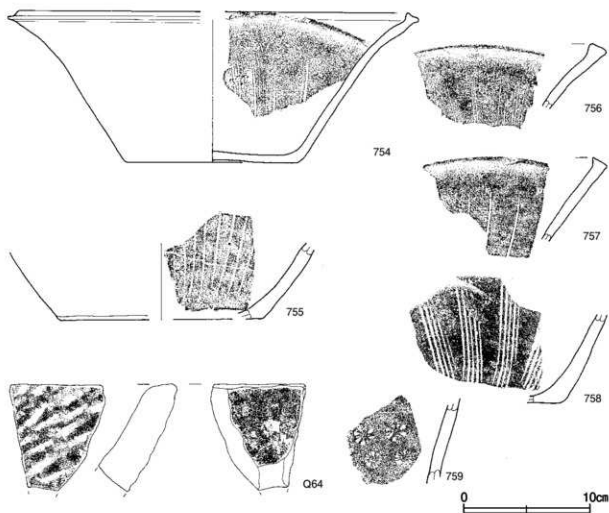
1	黒	褐色	粘土ブロック多量	5	黒	灰色	砂質粘土ブロック多量
2	黒	褐色	粘土ブロック中量、炭化物・焼土粒子微量	6	黒	灰色	砂質粘土ブロック中量
3	にぶい黄褐色		砂質粘土ブロック多量、炭化物少量	7	黒	褐色	粘土ブロック・炭化物中量
4	黒	褐色	粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量	8	黒	灰色	粘土ブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片198点(皿55, 内耳鍋類112, 香炉カ1, 壺カ1, 甕5, 摺鉢24), 陶器片2点(常滑系甕), 石器4点(磨石1, 石臼1, 砥石2)と、流れ込んだ縄文土器片13点, 土師器片10点, 須恵器片4点, 礫11点が出土している。741～759・Q64を含むこれらの遺物は、埋土とともに覆土の上層から底面まで一様に確認されていることから、屋敷域と想定される第67号ピット群の廃絶に伴って、一括投棄されたものと考えられる。

所見 掘り方の形状から、区画溝または水場的な作業場跡と推測される。時期は、出土土器から16世紀後半と考えられる。



第427図 第243号溝跡出土遺物実測図(1)



第428図 第243号溝跡出土遺物実測図(2)

第243号溝跡出土遺物観察表(第427・428図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
741	土師貫土器	皿	—	(1.4)	4.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	体部内・外面ナデ 底部回転糸切り 底部中央に穿孔	覆土下層	50%
742	土師貫土器	皿	6.5	2.1	3.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐色	普通	体部内・外面ナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	65% 成形に準がた
743	土師貫土器	皿	6.8	1.9	3.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐色	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	90%
744	土師貫土器	皿	6.5	1.9	3.8	長石・石英	浅黄褐色	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り	覆土中層	100%
745	土師貫土器	皿	6.6	1.6	3.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	体部内外面ナデ 底部回転糸切り後ナデ	底面	65% 1唇部消滅位置
746	土師貫土器	皿	8.2	2.4	4.6	長石・雲母・赤色粒子・白色粒子	浅黄褐色	普通	体部内面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	100% PL110
747	土師貫土器	皿	[86]	2.7	4.0	長石・石英・赤色粒子・白色粒子	褐色	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	55% 成形に準がた
748	土師貫土器	皿	[108]	2.6	5.6	長石・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	体部内面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り	覆土上層	25%
749	土師貫土器	内耳罎	—	(3.9)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	1) 辺部破片 内面ナデ 外面に縦段と横段のヘラナデ痕 体部内面縦線を残すナデ 外面目部縦段の沈み 中央から底部ナデ	覆土中層	
750	土師貫土器	香炉	—	(3.5)	8.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐色	普通	1) 辺部破片 内面ヘラナデ後ナデ 1) 辺部外面土師部内面に指面痕を残すナデ	覆土下層	45% 跡々
751	土師貫土器	罎	[18.1]	(6.3)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	1) 辺部破片 内面ヘラナデ後ナデ 1) 辺部外面土師部内面に指面痕を残すナデ	覆土下層	痕々
752	土師貫土器	罎	[19.2]	(7.2)	—	長石・雲母・小礫	褐色	普通	1) 辺部破片 内・外面横ナデ	底面	痕々
753	土師貫土器	罎	[22.2]	(4.1)	—	長石・石英・雲母	にぶい褐色	普通	1) 辺部破片 内・外面横ナデ	覆土中層	
754	土師貫土器	罎鉢	[31.2]	12.0	14.0	長石・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	1) 唇部内側につまみ出し 外面平字状 4 条 1 単位位の盛り目 外面ナデ	底面	30%
755	土師貫土器	罎鉢	—	(6.1)	[16.2]	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	1) 唇部内側につまみ出し 外面平字状 4 条 1 単位位の盛り目 外面平字状 4 条 1 単位位の盛り目 外面ナデ	覆土中層	
756	土師貫土器	罎鉢	—	(5.3)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐色	普通	4 条 1 単位位の盛り目 外面ナデ	覆土中層	

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
757	土伽藍土器	播鉢	—	(66)	—	長石・石英・炭化粒子	橙	普通	1条1單位の張り目	外面ナデ	覆土中
758	土伽藍土器	播鉢	—	(70)	—	長石・石英・炭化粒子	灰	普通	5条1單位の張り目	外面ナデ	覆土中
759	土伽藍土器	火鉢	—	(62)	—	長石・石英・炭化粒子	橙	普通	内・外面ナデ	外面洗滌区画し菊花のシキリ文様目	覆土中

番号	器種	口径	底径	器高	重量	材質	特徴			出土位置	備考	
Q64	石函	—	—	(85)	(283)	砂岩	口辺部の破片	内面張り目	外面調整痕	内面炭化物付着	裏面	

第300号溝跡 (第429～434図)

位置 調査区中央部の I 5e0～J 6j3区で、標高26mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第304号溝を切り、第10・11号井戸跡を掘り込んでいる。また、第204・209B・303・306・343・348号溝に切られているが、ほぼ同時期に廃絶されたと考えられる。

規模と形状 I 5e0区から、東方向(N-97°-E)のI 6f3区へ直線的に延び、さらに鉤の手状に南方向(N-176°-W)のJ 6j3区まで直線的に延びて、第303号溝と連結している。確認できた長さは67.2mで、上幅1.44～2.88m、下幅0.44～0.88m、深さ98～138cmである。断面形は逆台形状を呈し、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 14層、9層、12層に分層される。断面ごとの差違と含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説 (B-B')

1	暗褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック少量、焼土粒子微量	7	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2	黒褐色	粘土ブロック・ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子少量	8	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、粘土ブロック微量
3	褐色	ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子中量、炭化粒子少量	9	灰褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック・炭化粒子少量
4	黒褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック・炭化粒子微量	10	灰褐色	粘土ブロック多量、炭化粒子少量
5	暗褐色	ローム粒子中量、粘土ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	11	灰褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量
6	暗褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	12	灰褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック・炭化物微量
			13	灰褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量
			14	灰褐色	粘土ブロック多量、炭化粒子微量

土層解説 (C-C')

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量	5	暗褐色	粘土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量	6	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物微量
4	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量	8	暗褐色	褐色炭化粒子多量、炭化粒子中量 (2次底面)
			9	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子少量

土層解説 (D-D') SD306との重複部

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・微量	7	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	粘土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量	8	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
3	褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子微量	9	黒褐色	粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
4	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量	10	暗褐色	褐色炭化粒子多量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量、砂粒微量 (2次底面)
5	黒褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	11	暗褐色	粘土ブロック多量、砂粒中量、ローム粒子微量
6	黒褐色	粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	12	暗褐色	粘土ブロック・砂粒中量、ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片1437点 (皿160、内耳銅類845、香炉3、壺・甕263、播鉢156、火鉢10)、瓦質土器片2点 (火鉢)、陶器片13点 (天目茶碗2、皿2、常滑甕3、常滑系鉢3、鉢々2、瀬戸・美濃系播鉢1)。

磁器片1点 (皿)、瓦片2点 (平瓦)、石器14点 (石臼5、砥石9)、石塔2点 (五輪塔)、木片7点 (枕材片カ)、鉄滓6点が出土している。内耳銅片を中心とした多量の土師質土器は、屋敷域と想定される隣接する第71・75号掘立柱建物と第61・63号ピット群の廃絶に伴って、廃棄されたものと考えられる。760～781、Q65

～Q70, M11も、一括廃棄されたものと考えられ、覆土の上層から底面まで混在して確認されている。その他、流れ込んだ縄文土器片13点、土師器片202点、須恵器片33点、手捏土器片6点、礫89点も出土している。

所見 連結している第306号溝と同様に障子堀の掘り方から、屋敷域を区画して防衛する機能を持ち、さらに雨水等を第306号溝方向に排水する機能を合わせもっていたと推測される。時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。

第301号溝跡 (第429・430・435図)

位置と規模 調査区中央部のJ 6 b2～J 6 c3区に位置している。J 6 c3区から、北方向(N-5°-W)へ直線的に延び、第1508号土坑に掘り込まれているが、第304号溝に連結していると想定される。長さ24mで、上幅0.72～0.82m、下幅0.3～0.5m、深さ25cmである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 含有物から人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師質土器片9点(皿3、内耳鍋4、甕1、播鉢1)が出土している。782は、覆土中から出土している。

所見 雨水等を第304号溝に排水していたと考えられ、時期は重複関係から16世紀代と考えられる。

第304号溝跡 (第429・430・435図)

位置と規模 調査区中央部のJ 6 j2～J 6 b6区に位置している。J 6 j2区から、北西方向(N-61°-W)へ直線的に延び、第1507～1509号土坑に掘り込まれているクランク状部分で屈曲したのち、第300号溝と交差し調査区域外へと向かっている。確認できた長さは19mほどで、上幅0.76～1.35m、下幅0.36～0.9m、深さ13～36cmである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。レンズ状に堆積しているが、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説(1-1')

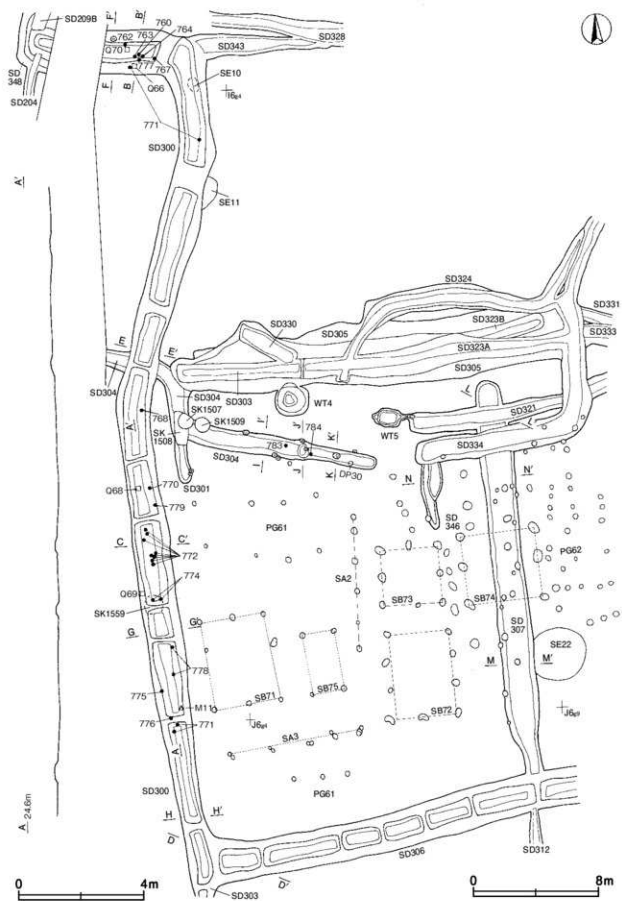
- | | | | |
|-----------------|-----------------------|------------------|------------------------|
| 1 黒 褐色
化粒子微量 | ロームブロック・灰褐色粘土ブロック少量、炭 | 2 暗 褐色
高化粒子微量 | 灰褐色粘土ブロック中量、ロームブロック少量、 |
| 3 黒 褐色 | | 3 黒 褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量 |

遺物出土状況 土師質土器片105点(皿7、内耳鍋90、甕5、播鉢3)、陶器片5点(皿1、常滑系甕2、花瓶カ1、瓶1)、土製品1点(不明)、石器2点(石臼、砥石)と、流れ込んだ縄文土器片3点、土師器片5点、須恵器片5点、礫5点も出土している。783・784・DP30は、それぞれ底面と覆土下層から出土している。

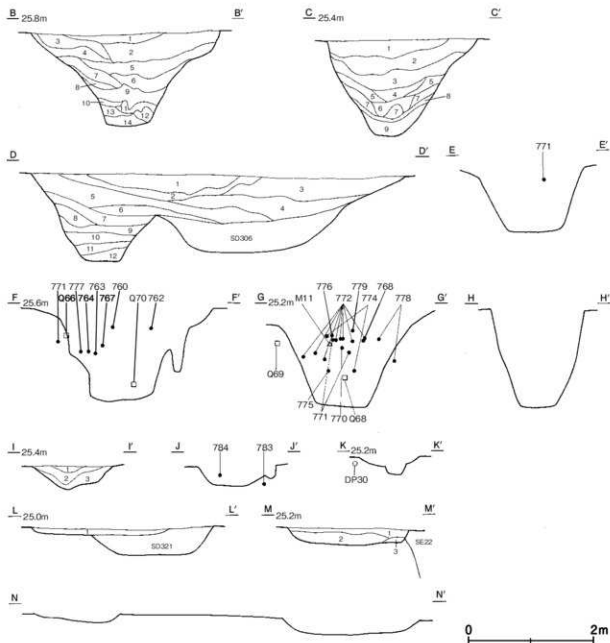
所見 雨水等を第300号溝の方向へ排水していたと推測され、時期は出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。

第307号溝跡 (第429・430・435図)

位置と規模 調査区中央部のJ 6 a7～J 6 h8区に位置している。J 6 a7区から、南方向(N-5°-W)へ直線的に延び、第306号溝と連結している。長さ25.4mで、上幅1.08～2.22m、下幅0.6～1.6m、深さ16～20cmである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。



第429图 第300·301·304·307·346号溝跡実測图(1)



第430図 第300・301・304・307・346号溝跡実測図(2)

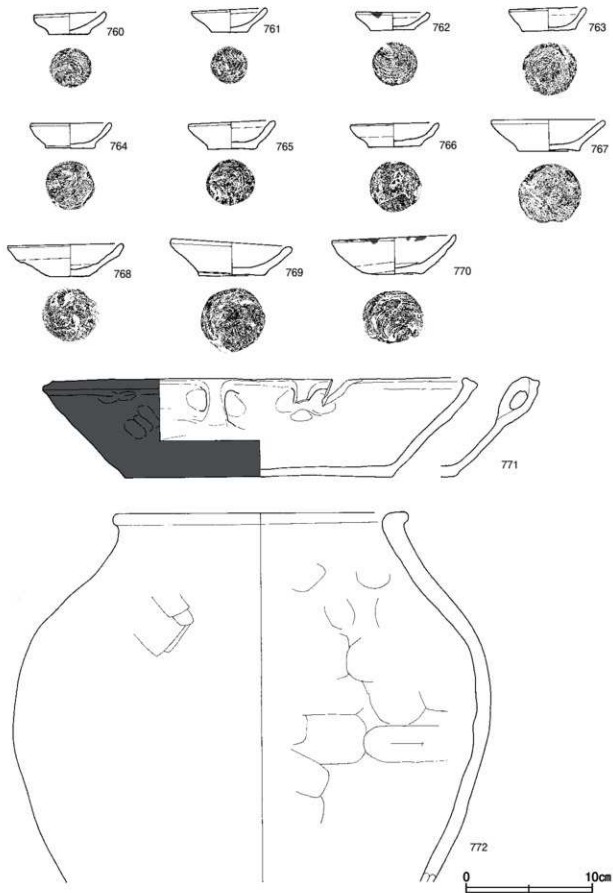
覆土 3層に分層され、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説 (L-L', M-M')

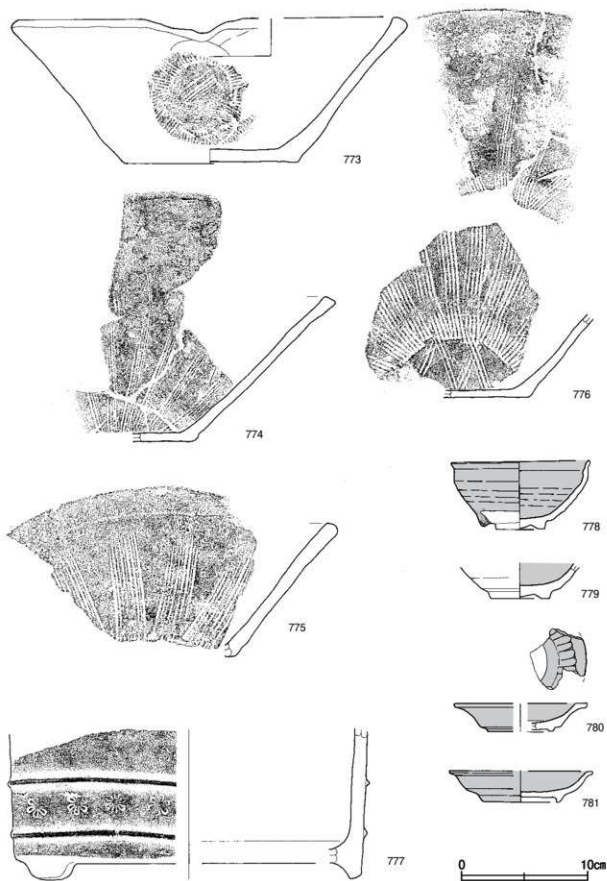
- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 3 褐色 砂粒少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片101点(皿30、内耳鍋63、播鉢8)、陶器片4点(碗、常滑系甕、常滑系片口鉢、瓶カ)、石器1点(石臼)、鉄滓5点、炭化材4点と、流れ込んだ須恵器片5点、礫20点、混入した土師質土器1点(鈿)、磁器片2点、近現代の瓦片4点が出土している。785・786は、いずれも覆土中から出土している。

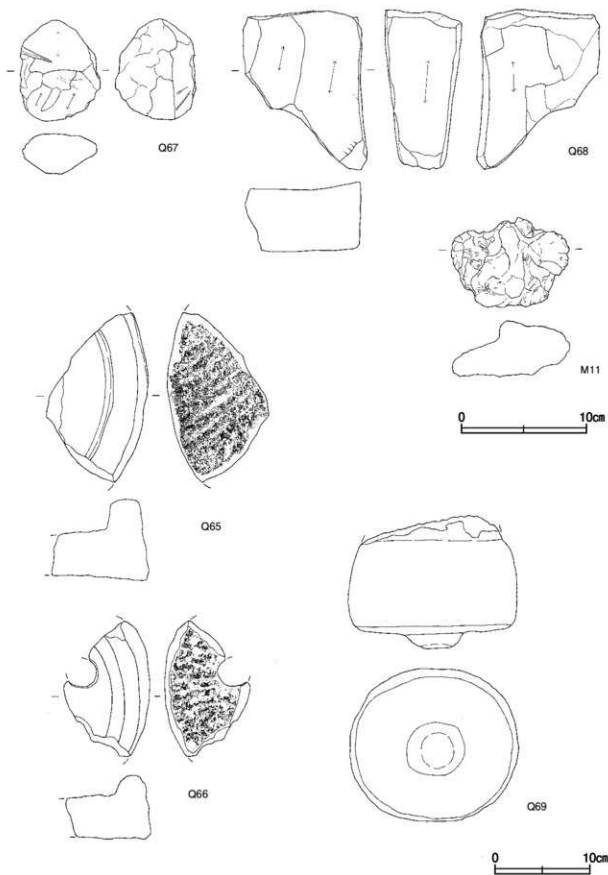
所見 第300号溝と第306号溝で区画された区域を、さら東西に区画している溝である。時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。



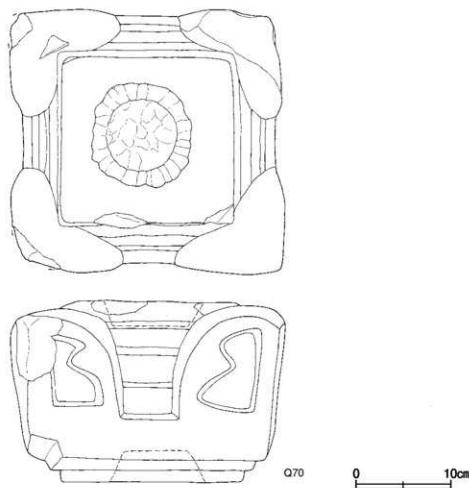
第431图 第300号清跡出土遺物実測図(1)



第432图 第300号沟跡出土物実測图(2)



第433图 第300号清跡出土物実測図(3)



第434図 第300号溝跡出土遺物実測図(4)

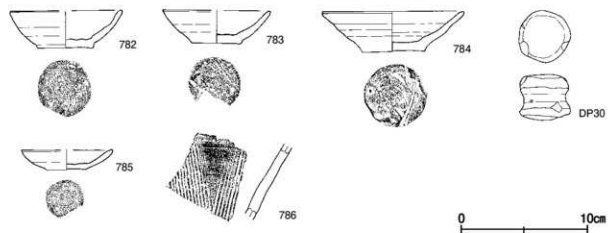
第300号溝跡出土遺物観察表(第431～434図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
760	土師質土器	皿	5.7	1.8	3.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り	覆土上層	95%
761	土師質土器	皿	5.9	2.0	3.0	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り	覆土中	95% PL110
762	土師質土器	皿	5.8	1.5	3.4	長石・石英・雲母	明陶	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り	覆土上層	95% 口唇部溝掘り着
763	土師質土器	皿	6.1	1.8	4.2	長石・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り	覆土中層	100% 口唇部溝掘り着
764	土師質土器	皿	6.3	1.5	3.9	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り	覆土中層	95%
765	土師質土器	皿	6.7	2.2	3.8	雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り	覆土中	100% PL110
766	土師質土器	皿	6.8	1.9	4.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄陶	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中	80%
767	土師質土器	皿	8.8	2.5	4.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	65%
768	土師質土器	皿	9.1	2.6	3.0	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	55%
769	土師質土器	皿	9.4	3.0	5.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい・橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中	85% 成形にゆがみ
770	土師質土器	皿	9.6	3.1	4.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい・橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	70% 口唇部溝掘り着
771	土師質土器	内耳鍋	32.6	7.9	[21.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤陶	普通	1内耳残存 耳貼り付け 内面から1線部外面ナデ 外面に指摺痕	覆土上・中層	55% 体部外面掘り着
772	土師質土器	羹	23.2	(29.6)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	内面へツナテ後脚又口縁を残すナデ 外面へツナテ後ナデ	覆土中層	40% PL113
773	土師質土器	搦鉢	[30.0]	11.5	14.2	長石・石英・雲母・赤色粒子・産	にぶい・陶	普通	口唇部残存 口唇部丸み 5条1單位の掘り目 外面ナデ	覆土中	45%
774	土師質土器	搦鉢	[35.0]	11.4	[13.8]	長石・雲母	にぶい・黄橙	普通	内・外面5条1單位の掘り目 外面ナデ	覆土上・中層	30%
775	土師質土器	搦鉢	[30.8]	10.5	[15.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口唇部丸く収める 9条1單位の掘り目 外面ナデ	覆土中層	10%
776	土師質土器	搦鉢	—	(6.5)	[13.4]	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	内面5条1單位 内底面3条1單位の掘り目 底部ナデ	覆土中層	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
777	瓦質土器	火鉢	—	(11.9)	[24.8]	長石・石英・雲母・成袋灰土層	褐色	普通	2条の突起帯り付け 突起間に菊花文押印	覆土中層	15%
778	陶器	天目茶碗	10.9	5.5	3.8	精良 長石・鉄釉	淡黄緑・赤黒	良好	口クロ成形 削り出しによる輪高台・体部下縁と足元に輪だまり 内・外面施釉	覆土中層	75% 瀬戸・美濃系 PL114
779	陶器	天目茶碗	—	(2.8)	4.6	精良 長石・鉄釉	淡黄・オリーブ色	良好	口クロ成形 削り出し高台 内面施釉	覆土中層	15% 瀬戸・美濃系
780	陶器	折縁碗	[10.6]	2.2	[5.2]	精良 長石・鉄釉	灰白・オリーブ黄	良好	削り出し高台 内面に菊花状のしのぎと十字痕土室所 内・外面施釉	覆土中	15% 瀬戸・美濃系
781	陶器	端反碗	[11.3]	2.5	6.1	精良 長石・鉄釉	灰白・灰オリーブ	良好	削り出し高台 内・外面に施釉 貫入線合面断面に漆製文様	覆土中	50% 瀬戸・美濃系

番号	器種	径・長さ	口径	器高	底径	胎土	材質	特徴	出土位置	備考
Q65	石白(土白)	[34.2]	—	8.5	[16.0]	安山岩		下側7条1単位の掘り目*	覆土中	
Q66	石白(土白)	[24.6]	[3.2]	6.6	[7.5]	安山岩		下側7条1単位の掘り目*	覆土中層	
Q67	磁石	(8.0)	(6.5)	3.2	[12.2]	凝灰岩		側面欠損 紙面4面	覆土中	
Q68	磁石	(12.7)	(9.5)	6.1	[8.9]	砂岩		側面欠損 紙面4面	覆土中層	
Q69	五輪塔(空輪塔)	17.9	16.0	(13.9)	[42.0]	花崗岩		空輪部欠損 風輪部片	覆土中層	
Q70	実筒印塔(空)	(28.7)	(27.7)	19.0	[26.00]	花崗岩		隅角突起三方欠損	覆土下層	PL118

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M11	鉄洋	7.1	9.6	4.5	245.0	鉄	輪状洋 硬く締まる 一部表面泡状	覆土下層	



第435図 第301・304・307号溝跡出土遺物実測図

第301号溝跡出土遺物観察表 (第435図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
782	土加質土器	皿	[8.8]	3.0	4.4	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り	覆土中	40%

第304号溝跡出土遺物観察表 (第435図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
783	土加質土器	皿	[8.5]	2.6	4.0	長石・雲母・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ後内面ナデ 底部回転糸切り後ナデ	底面	60%
784	土加質土器	皿	11.2	3.2	5.0	長石・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	70%

番号	器種	径	口径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP30	不明	3.7	—	4.1	(57.1)	土製	一部欠損 中央部にくびれ 全面ナデ	覆土下層	

第307号溝跡出土遺物観察表（第435図）

番号	種類	器種	1径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
785	土師質土器	皿	(7.2)	1.6	3.1	長石・雲母・赤色 粒子	黄褐色	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部別 糸系切り後ナデ	覆土中	30%
786	陶器	鉢鉢	—	(5.5)	—	長石・石英・顔料	灰白 にふい色調	普通	12条1単位の振り目 外面ナデ	覆土中	瀬戸系

第346号溝跡（第429・430図）

位置と規模 調査区中央部のJ 6c6～J 6d7区に位置している。J 6d7区から、北方向（N-5°-E）へ直線的に延び、第334号溝に繋がっている。長さ4.3mで、上幅0.9～1.2m、下幅0.44～0.54m、深さ13cmほどである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 単一層で判然としないが、ローム粒子を少量含む自然堆積と考えられる。

所見 雨水等を第334号溝の方向へ排水していたと推測され、時期は重複関係から16世紀代と考えられる。

第331号溝跡（436～438図）

位置 調査区中央部のI 6j9～J 7c3区で、標高25～26mの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第321・333・334号溝に切られている。

規模と形状 I 6j0区で第333号溝に切られているが、I 6j9区から南東方向（N-114°-E）へ曲線状にJ 7c3区まで延びている。確認できた長さは15.9mで、上幅0.54～1.3m、下幅0.24～0.94m、深さ20～40cmである。断面形は逆台形状で、壁は緩斜して立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。含有物から、人為堆積と考えられる。

土層解説（A-A'）

- 4 黒 褐色 灰白色粘土ブロック少量、炭化粒子微量 6 にふい褐色 黄褐色粘土ブロック中量
5 黒 褐色 粘土粒子少量

遺物出土状況 土師質土器片108点（皿52、内耳銅類47、甕1、播鉢8）、瓦片1点（平瓦）と、流れ込んだ須恵器片1点、瓦1点（古代瓦）、礫1点が出土している。787～794、Q71、T 6は、全体から散在して出土しており、隣接している屋敷城と想定される第61・62号ピット群の廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。古代瓦のT 5は、流れ込んだものである。

所見 第333号溝が掘削される以前に第306号溝に連結していた溝と推測される。時期は、出土土器と重複関係を含めて16世紀代と考えられる。

第333号溝跡（436・439・440図）

位置 調査区中央部のI 6j9～I 7c3区で、標高25～26mほどの台地の緩斜面に位置している。

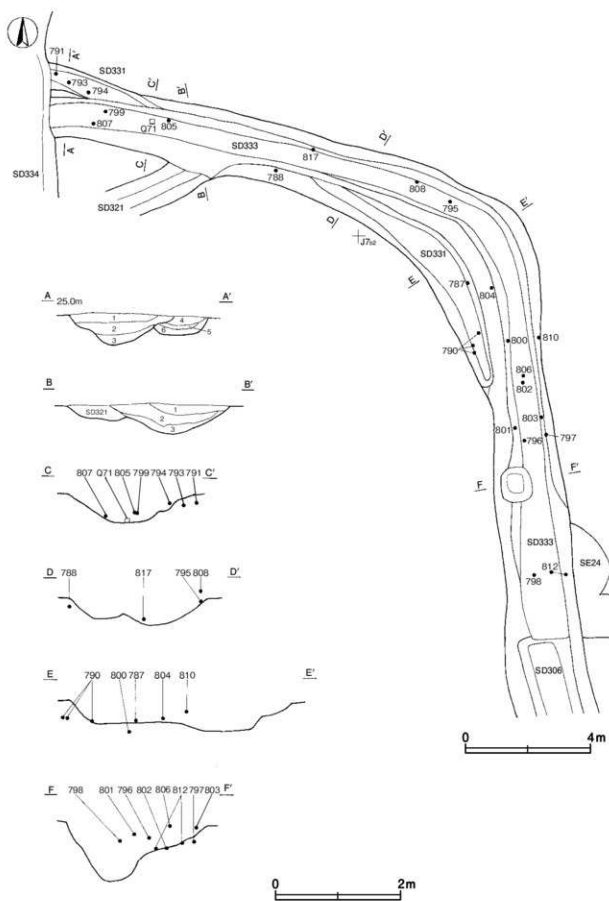
重複関係 第24号井戸跡を掘り込んでいる。また、第306・321・331・334号溝を切っている。

規模と形状 I 6j9区で第334号溝から分岐し、南東方向（N-103°-E、N-172°-E）に屈曲してI 7c3区まで延び、第306号溝に連結している。長さは28.6mで、上幅1.74～2.4m、下幅0.48～1.12m、深さ34～48cmである。断面形は逆台形で、壁は緩斜して立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。含有物とレンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説（A-A'、B-B'）

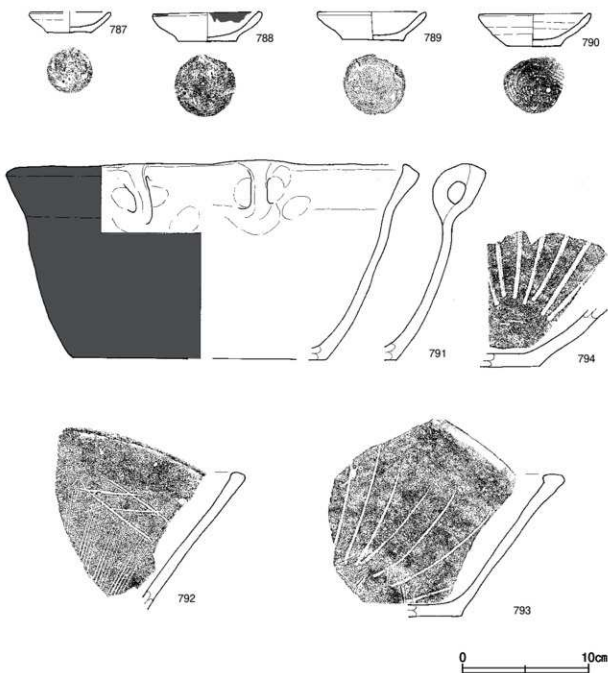
- 1 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 3 黒 褐色 褐色粘土粒子微量
2 黒 褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量



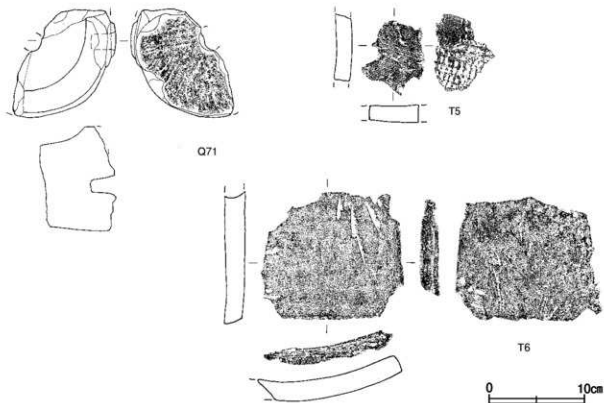
第436图 第331·333号沟迹实测图

遺物出土状況 土師質土器片656点（皿101、内耳鍋類492、甕15、搦鉢47、茶釜カ1）、陶器片8点（天目茶碗2、皿5、常滑系片口鉢1）、石器6点（石臼2、茶臼2、砥石1、鋸1）、石塔1点（五輪塔）、瓦片6点（平瓦）、鉄滓6点と、流れ込んだ土師器片2点、須恵器片4点、瓦片1点（布目瓦）、礫20点が出土している。795～817は、第331号溝と同様に全体から散在して出土しており、隣接している屋敷域と想定される第61号ピット群の廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。

所見 第331号溝を掘削し、第306号溝と第334号溝を連結していることから、第331・334号溝からの雨水等を第306号溝へ排水する機能をもった溝で、廃棄された土器片が第331号溝の土器片と接合関係にあることから、掘り返しの際に流れ込んだものと推測される。時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。



第437図 第331号溝跡出土遺物実測図(1)



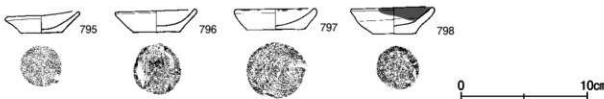
第438図 第331号溝跡出土遺物実測図(2)

第331号溝跡出土遺物観察表 (第437・438図)

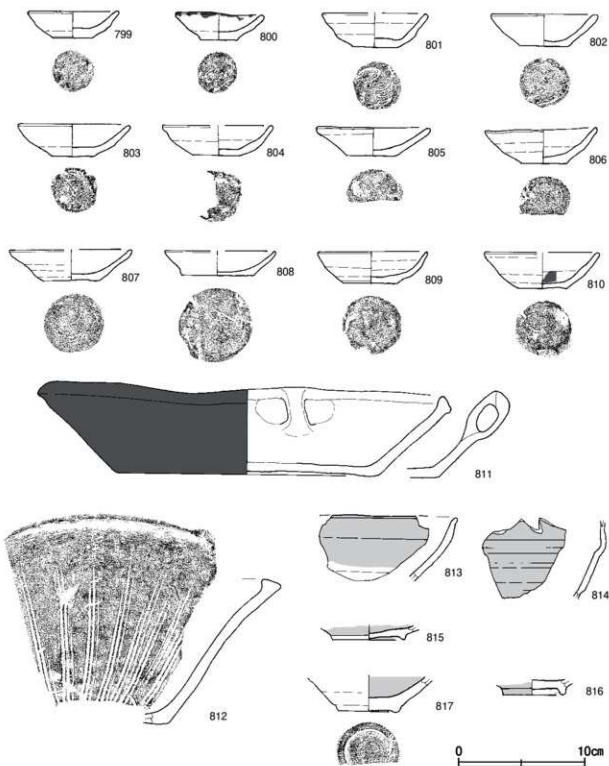
番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
787	土加貫土器	甕	[6.4]	1.6	3.6	長石・石英・雲母・赤色粒	橙	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	底面	55%
788	土加貫土器	甕	8.6	2.5	4.8	長石・雲母・赤色粒	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	甕土中層	80% 口辺部 両面付着
789	土加貫土器	甕	8.6	2.4	5.0	長石・石英・雲母・赤色粒	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り	甕土中	95% PL111
790	土加貫土器	甕	8.8	2.6	4.4	赤色粒	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナテ 底部回転糸切り	甕土下層	90%
791	土加貫土器	内耳罎	30.8	15.9	[20.3]	長石・石英・雲母・赤色粒	明赤陶	普通	3内耳残存 耳筒与口付後部断面を残すナテ 内面から口縁部外周ナテ	底面	60% PL113
792	土加貫土器	播鉢	—	(10.9)	—	長石・赤色粒	にぶい橙	普通	内面5条1単位の縞り目 外面ナテ	甕土中	10%
793	土加貫土器	播鉢	—	11.2	[13.8]	長石・石英・雲母・赤色粒	にぶい橙	普通	内面1条1単位の縞り目 外面ナテ	甕土下層	20%
794	土加貫土器	播鉢	—	(4.6)	—	長石・石英・雲母・赤色粒	灰緑・明赤陶	普通	内面1条1単位の縞り目 外面ナテ	甕土下層	10%

番号	器種	径	孔径	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q71	系付(上印)	[17.6]	[2.8]	10.9	1280	安山岩	下層8条1単位の縞り目 + 輪受け様打込孔残存	底面	PL116

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
T 5	平瓦	(7.3)	(5.3)	1.9	118.8	長石・雲母	凸面に格子の印き 凹面に布目痕 外面・胎土灰色	甕土中	古代瓦 PL121
T 6	平瓦	(13.9)	(5.3)	2.2	67.27	長石・雲母	凸面と凹面に筋状の圧痕 凹面に縦帯の押痕 外面橙色 胎土灰色	甕土中	中世瓦



第439図 第333号溝跡出土遺物実測図(1)



第440図 第333号溝跡出土遺物実測図(2)

第333号溝跡出土遺物観察表 (第439・440図)

番号	種別	器種	1径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
795	土師質土器	皿	5.8	1.7	3.3	長石・石英・ 炭粉・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部同 転車切り後ナデ	覆土上層	100%
796	土師質土器	皿	6.4	1.8	3.8	赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部同 転車切り後ナデ	覆土下層	95% PL111
797	土師質土器	皿	6.5	1.7	4.6	長石・石英・ 炭粉・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部同 転車切り後ナデ	底面	100% 再処理層付 着 風乾・油中ム

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
798	土器土器	甕	6.5	2.0	3.4	黄母・赤色粒子	にじい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転軸切り後ナデ	覆土中層	100% [南] 漆喰付着 磁彩にのみ
799	土器土器	甕	7.1	2.2	3.4	長石・黄母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転軸切り後ナデ	覆土下層	100%
800	土器土器	甕	7.0	2.3	3.0	長石・黄母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転軸切り後ナデ	覆土下層	95% [1] 漆喰付着 [5, 11]
801	土器土器	甕	[8.1]	2.8	3.7	長石・黄母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転軸切り後ナデ	底面	66%
802	土器土器	甕	8.4	2.6	3.9	長石・有美・黄母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転軸切り後ナデ	底面	95% PL111
803	土器土器	甕	8.7	2.7	3.5	長石・有美	浅黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転軸切り後ナデ	覆土中層	95%
804	土器土器	甕	[8.6]	2.4	4.0	長石・有美・黄母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転軸切り後ナデ	覆土下層	55%
805	土器土器	甕	8.8	2.3	4.4	長石・黄母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転軸切り後ナデ	覆土下層	55%
806	土器土器	甕	8.9	2.9	3.7	長石・有美・黄母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転軸切り後ナデ	覆土上層	55% 磁彩にのみ
807	土器土器	甕	[9.9]	2.5	4.5	長石・有美・黄母・赤色粒子	にじい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転軸切り後ナデ	覆土下層	55%
808	土器土器	甕	[8.8]	2.0	5.9	赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転軸切り後ナデ	覆土上層	60%
809	土器土器	甕	8.8	2.5	4.6	長石・有美・黄母・赤色粒子	にじい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転軸切り後ナデ	覆土中	80%
810	土器土器	甕	[9.3]	2.9	4.0	長石・有美・黄母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転軸切り後ナデ	覆土下層	45% 底部内面 漆喰付着
811	土器土器	内耳鍋	30.6	7.3	21.0	長石・有美・黄母・赤色粒子	にじい濁	普通	2内耳板有 耳縁り付け後ナデ 内面から1指部外面ナデ	覆土中	60% 底部内面 漆喰付着 [9] 磁彩にのみ
812	土器土器	鉢鉢	—	(11.8)	—	長石・有美・黄母・赤色粒子	暗濁	普通	内・外面ナデ 3条1単位の張り目	底面	15%
813	陶器	天目茶碗	[13.0]	(5.2)	—	精良 鉄釉	灰白・黒濁	良好	11指部から体部下位の破片 内・外面輪飾	覆土中	10% 瀬戸・美濃系
814	陶器	段天目碗	—	(6.2)	—	精良 灰白釉	灰白・灰白	良好	良好 破片片 内・外面輪飾 顔かみ入が入る	覆土中	10% 瀬戸・美濃系
815	陶器	丸皿 ^o	—	(1.2)	5.7	精良 灰輪	灰白・オリーブ黄	良好	筒り出し高台 内・外面輪飾 内面に貫入 高台内にトラン黄	覆土中	20% 瀬戸・美濃系
816	陶器	丸皿 ^o	—	(1.3)	4.8	精良 灰輪	灰白・灰オリーブ	良好	筒り出し高台 内・外面輪飾 貫入	覆土中	20% 瀬戸・美濃系
817	陶器	碗	—	(2.8)	5.0	精良 灰輪	灰白・浅黄	良好	筒り出し高台 内面輪飾	覆土下層	15% 瀬戸・美濃系

第303号溝跡 (441 ~ 443図)

位置 調査区中央部の J 6j3 ~ J 6j7区で、標高25mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第1501号土坑を掘り込み、第300号溝を切っている。

規模と形状 J 6j7区から、南西方向 (N-97°-W) へ直線的に J 6j3区まで延び、第300号溝に連結している。長さは16.4mで、上幅0.74 ~ 1.18m、下幅0.42 ~ 0.92m、深さ14cmである。断面形は皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。レンズ状に堆積しているものの、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説 (J-J')

1 暗 濁 色 ローム粒子・焼土粒子微量

2 暗 濁 色 ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片75点 (皿3, 内耳鍋47, 鉢鉢3, 甕5, 火鉢7), 陶器片4点 (碗1, 瀬戸系鉢鉢3), 石器2点 (砥石, 硯), 鉄滓1点が出土している。818 ~ 821, Q72・Q73など遺物の多くは、北側に隣接している屋敷地の第71・75号掘立柱建物、第61号ピット群の廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。その他、流れ込みの土師器片7点、礫4点も出土している。

所見 雨水を第300号溝に排水していたと想定され、時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。

第306号溝跡 (441・442・444・445図)

位置 調査区中央部の J 6h3 ~ J 7e3区で、標高25mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第300・311・318A号溝を切り、第307・312・333号溝に切られている。近世以降の根切り溝と考えられる第340号溝と第1540号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 J 7e3区から、南東方向 (N-18°-W) へ直線的に J 7j3区まで短く延びたのち、鉤の形状に屈

曲して南西方向（N-97°-W）へ直線的にJ 6h3区まで延び、第300号溝に連結している。長さは49.4mで、上幅1.52～2.6m、下幅0.36～0.9m、深さ88～133cmである。断面形は逆台形状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 8層と11層に分層される。レンズ状に堆積しているもの、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説（C-C' SD307との重複部）

1	暗褐色	粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	5	灰褐色	粘土ブロック多量、焼土粒子少量、ローム粒子微量
2	麻褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	6	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量
3	黒褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量	7	明褐色	粘土ブロック多量、ローム粒子中量、焼土粒子微量
4	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量	8	褐色	ローム粒子多量、粘土ブロック少量

土層解説（D-D' SD318Aとの重複部）

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	6	灰褐色	砂粒少量、ローム粒子・炭化粒子微量
2	灰褐色	粘土粒子多量、ローム粒子少量	7	黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
3	褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量	8	明褐色	ローム粒子多量
4	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子微量	9	褐色	褐色粒子中量、褐灰粘土粒子少量
5	麻褐色	褐色粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	10	明褐色	明褐色粘土粒子少量、褐色粒子少量
			11	灰褐色	明褐色粘土粒子中量、褐色粒子中量

遺物出土状況 土師質土器片1017点（皿139、内耳鍋類668、香炉1、甕類128、罎1、摺鉢72、火鉢6、茶釜1、羽釜カ1）、陶器片11点（天目茶碗1、皿2、瀬戸系大皿1、常滑系甕5、常滑系片口鉢1、香炉カ1）、石器7点（磨石1、砥石2、石臼4）、石塔2点（五輪塔）、瓦片1点（平瓦）、種子10点、粘土塊1点、炭化材2点が出土している。内耳鍋片を中心とした多量の土師質土器は、第307号溝と切り合う付近に集中して出土している。822～837、Q74を含むこれらは、屋敷城と想定される第71～75号掘立柱建物と第61・62号ピット群の廃絶に伴って廃棄されたと考えられる。その他、縄文土器片3点、土師器片39点、須恵器片17点、礫26点も出土している。

所見 連結している第300号溝と同様に障子堀の掘り方から、防衛性の強い区画溝と考えられ、雨水等を第300号溝に排水していたと想定される。時期は、出土土器と重複関係から、16世紀後半と考えられる。

第309号溝跡（441・442・446図）

位置と規模 調査区中央部のK 6c4～K 6a7区に位置している。第310号溝に大きく掘り込まれているが、K 6a7区から南西方向（N-137°-W）へ緩やかな曲線状に延び、K 6c4区で第320号溝に繋がっている。確認できた長さは13.5mで、上幅1.18～1.70m、下幅0.56～1.14m、深さ44～65cmである。断面形は逆台形、壁は緩やかに立ち上がっている。

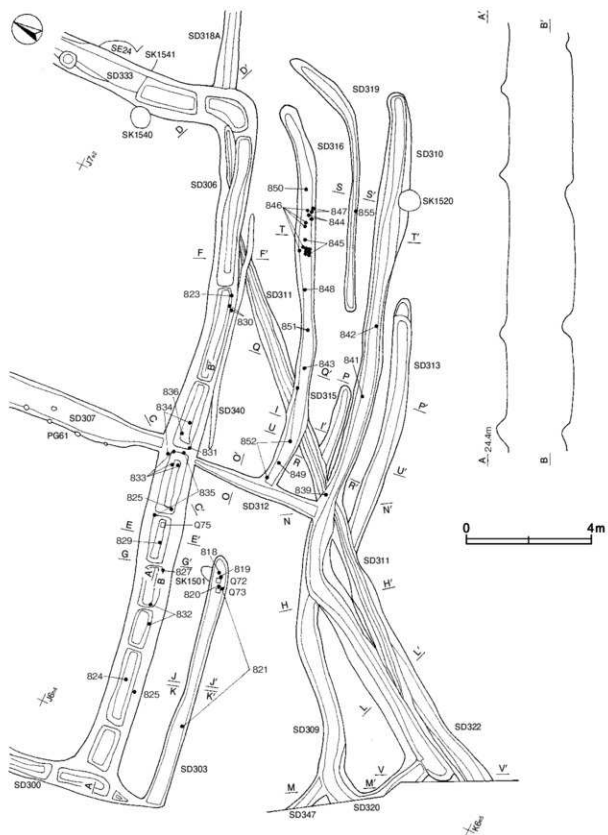
覆土 3層に分層される。レンズ状に堆積しているが、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説（H-H'）

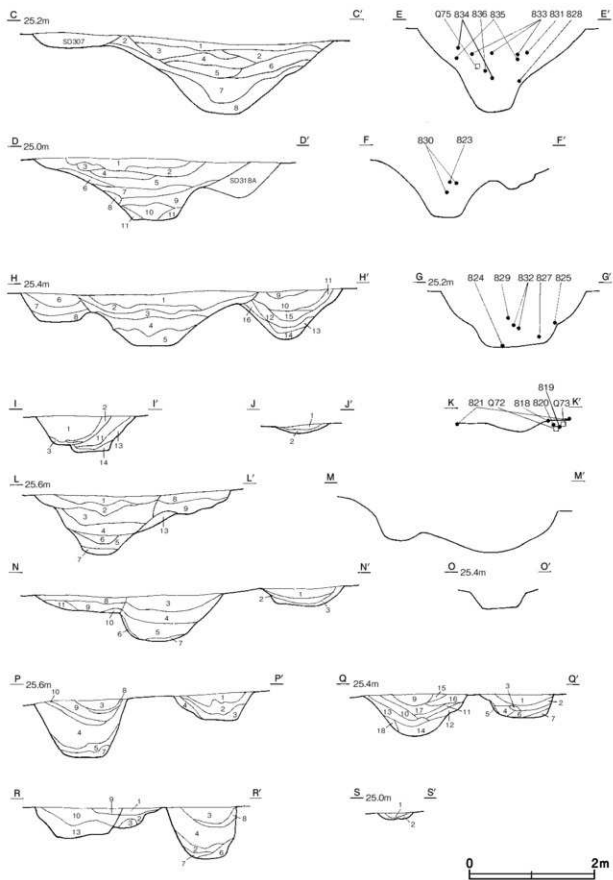
6	麻褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量			

遺物出土状況 土師質土器片12点（皿2、内耳鍋9、甕1）、陶器片3点（碗、皿、常滑系片口鉢）、石塔1点（五輪塔）と、流れ込んだ須恵器片1点、礫1点が出土している。854は、覆土中から出土している。

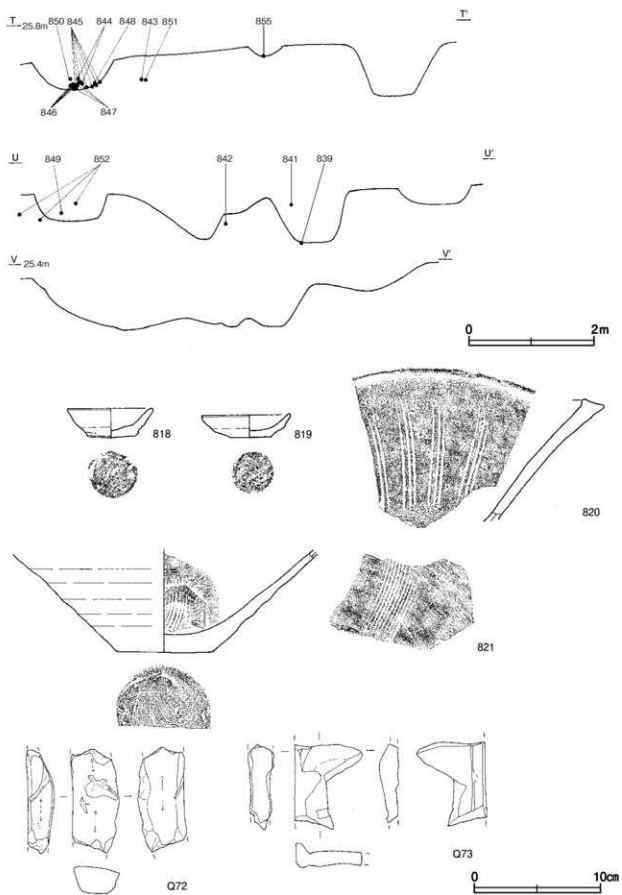
所見 第310号溝が掘削される前から機能していた溝と推測され、第320号溝に雨水等を排水していたと想定される。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。



第441图 第303·306·309~313·315·316·319·320·322·347号沟跡平面图



第442图 第303·306·309~313·315·316·319·322·347号沟床实测图

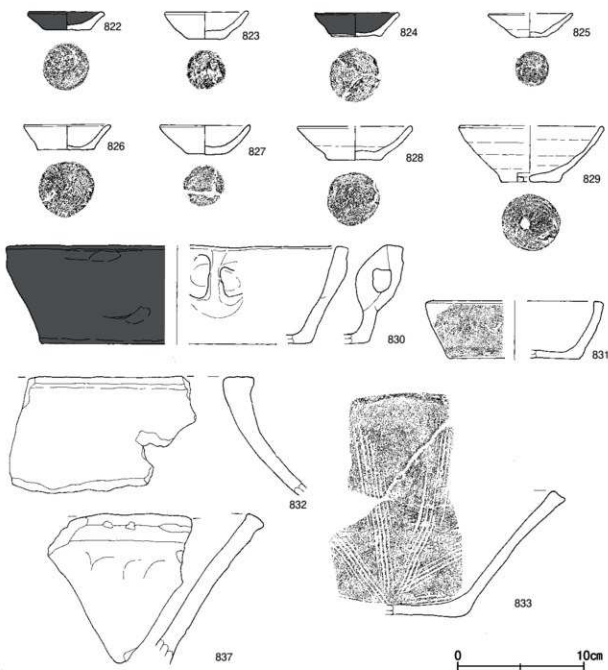


第443图 第310·311·313·315·316·319·320·322号沟迹, 第303号沟迹出土遗物实测图

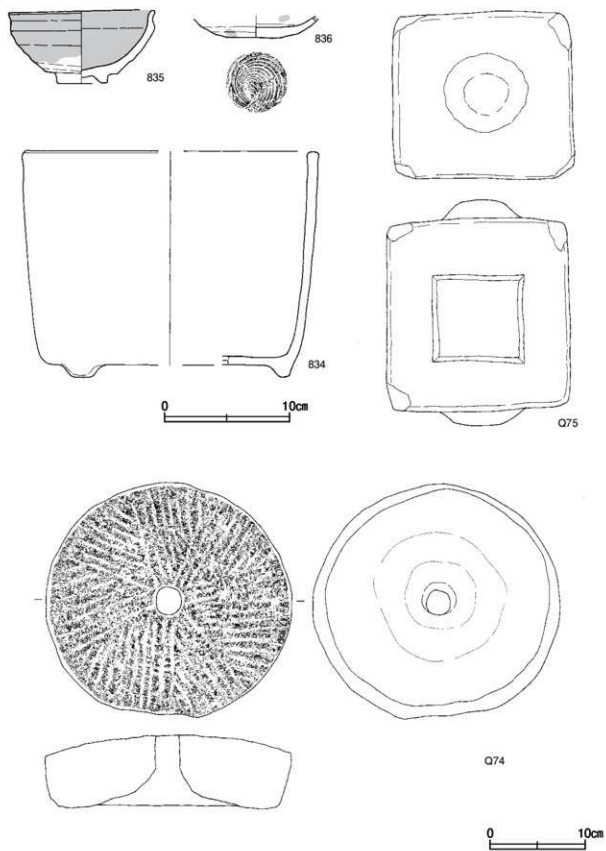
第303号溝跡出土遺物観察表 (第443回)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
818	土師質土器	皿	6.8	2.4	3.8	長石・雲母・赤色 粒子	黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底面割 糸糸切り後ナデ	覆土下層	95%
819	土師質土器	皿	7.1	1.9	3.1	長石・雲母・赤色 粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底面割 糸糸切り	底面	95% PL110
820	土師質土器	攝鉢	[28.8]	(9.7)	—	長石・石英・ 雲母・小礫	橙	普通	口唇部内側につまみ出し 3条1単位の 横り目 外面ナデ	覆土下層	15%
821	陶器	攝鉢	—	(8.2)	7.6	精良 長石	暗赤褐	良好	口口縁部 11条1単位の横り目 底面 割糸糸切り	覆土下層	10%瀬戸・美濃 系

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q72	灰石	(8.3)	3.8	2.3	(77.5)	凝灰岩	両端部欠損 底面3面	覆土下層	
Q73	磁	(6.7)	(5.5)	2.0	(52.4)	粘板岩	海部と陸部が確認できる破片	覆土下層	



第444図 第306号溝跡出土遺物実測図(1)



第445图 第306号清跡出土遺物実測図(2)

第306号溝跡出土遺物観察表(第444・445図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	地皮	手法の特徴	出土位置	備考
822	土師質土器	皿	5.8	1.5	3.6	長石・雲母・赤色 粒子	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部同 転糸切り後ナデ	覆土中下層	80% 1層部頂 埋付着
823	土師質土器	皿	6.5	2.2	3.0	長石・雲母・赤色 粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部同 転糸切り後ナデ	覆土下層	90%
824	土師質土器	皿	6.7	1.9	3.9	長石・雲母	浅黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部同 転糸切り後ナデ	覆土中	60% 1層部頂 埋付着
825	土師質土器	皿	[6.8]	1.9	2.6	赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部同 転糸切り後ナデ	覆土下層	60%
826	土師質土器	皿	6.8	2.0	4.4	雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部同 転糸切り後ナデ	覆土中	100% PL110
827	土師質土器	皿	[7.0]	2.3	3.0	雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部同 転糸切り後ナデ	覆土中	70%
828	土師質土器	皿	[9.0]	2.7	4.2	長石・雲母・赤色 粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部同 転糸切り後ナデ	覆土下層	55%
829	土師質土器	皿	[11.4]	4.5	4.6	長石・雲母・赤色 粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部同転糸切 り後ナデ	覆土中層	50% 底部に穿 孔
830	土師質土器	内耳鍋	[25.8]	7.8	[21.4]	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	明赤陶	普通	1層部内縁存 耳縁付付け 内面から口縁 部外面ナデ 外面に指頭痕	底面	15% 体部外面 埋付着
831	土師質土器	香炉	[13.0]	4.6	[10.4]	長石・石英・雲母	にぶい赤陶	普通	内・外面ナデ 外面に流状スタンプ文押捺	覆土中層	30%
832	土師質土器	甕	[24.8]	(9.5)	—	長石・石英・雲母・ 赤色粒子・糠	橙	普通	内面ヘラナデ後ナデ 外面ナデ	覆土中層	10%
833	土師質土器	鐏鉢	[29.2]	10.0	[15.4]	長石・石英・雲母・ 赤色粒子・糠	にぶい橙	普通	6条1單位の摺り目 外面ナデ	覆土中層	20%
834	瓦質土器	火鉢	[23.6]	18.0	[19.6]	長石・石英・雲母	褐	普通	脚部1か所残存 内・外面ナデ	覆土中層	20%
835	陶器	天目茶碗	11.4	5.9	4.0	精良 長石・ 石英・鉄粉	淡黄・緑短肌	良好	口ラウ成形 筒形に下る扁高台 体 部下部に動たれ	覆土中層	90% 内口・外口 系 PL114
836	陶器	丸皿 <small>α</small>	—	(1.8)	4.6	精良 長石・ 石英・鉄粉	灰白・ オリーブ黄	良好	底部同転糸切り 縁輪部より状に付着	底面	30% 内口・外口 系
837	陶器	片1鉢	[22.8]	(12.0)	—	長石・石英・雲母	赤陶	良好	内面滑らか 外面指頭痕を残すナデ	覆土中	常滑系

番号	器種	径・長さ (石臼 付口)	口径・幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q74	(石臼 付口)	25.6	2.6	7.8	6980	安山岩	受け部7～9条1單位の摺り目	覆土中	PL116
Q75	宮内塔塔 (底身)	19.4	17.5	23.7	(1680)	花崗岩	角部一部欠損 表面風化による剥離 梵字風化により不明	覆土下層	PL118

第310号溝跡(441・442・446図)

位置と規模 調査区中央部のK 6 d5～J 7 5区に位置している。J 7 5区から南西方向(N-103°-W)へ鈎の手法に延び、K 6 d5区で第320号溝に繋がっている。確認できた長さは47mほどで、上幅1.12～2.0m、下幅0.32～0.8m、深さ72～95cmである。断面形は浅い部分は緩やかなU字状、深い部分は逆台形で、壁は緩斜または外傾して立ち上がっている。

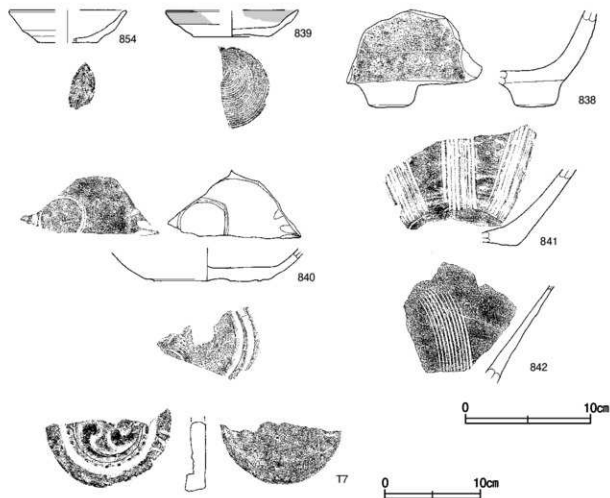
覆土 10層に分層される。レンズ状に堆積しているが、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説(H-H', L-L', P-P', N-N', R-R' 各層共通)

1	暗褐色	粘土粒子少量、 子微量	6	褐色	粘土ブロック、 子微量	ローム粒子・ 焼土粒子・炭化粒 子	6 褐色 7 極暗褐色	粘土ブロック、 ローム粒子・ 焼土粒子・炭化粒 子	ローム粒子・ 焼土粒子・炭化粒 子	ローム粒子・ 焼土粒子・炭化粒 子
2	黒褐色	焼土粒子少量、 子微量	8	極暗褐色	炭化粒子・ 子微量	ローム粒子・ 焼土粒子・炭化粒 子	8 極暗褐色	炭化粒子少量、 子微量	ローム粒子・ 焼土粒子・炭化粒 子	ローム粒子・ 焼土粒子・炭化粒 子
3	黒褐色	焼土粒子少量、 子微量	9	暗褐色	粘土粒子・ 子微量	ローム粒子・ 焼土粒子・炭化粒 子	9 暗褐色	粘土粒子少量、 子微量	ローム粒子・ 焼土粒子・炭化粒 子	ローム粒子・ 焼土粒子・炭化粒 子
4	暗褐色	焼土粒子少量、 子微量	5	暗褐色	粘土粒子・ 子微量	ローム粒子・ 焼土粒子・炭化粒 子	10 暗褐色	粘土ブロック少量、 子微量	ローム粒子・ 焼土粒子・炭化粒 子	ローム粒子・ 焼土粒子・炭化粒 子

遺物出土状況 土師質土器片187点(皿26、内耳鍋類151、甕4、鐏鉢3、火鉢3)、陶器片19点(天目茶碗1、皿3、常滑系甕12、常滑系片口鉢1、鐏鉢2)、石器3点(石臼1、砥石2)、石塔1点(五輪塔)、瓦片1点(軒丸瓦)、木片1点と、流れ込んだ土師器片1点、須臾器片8点、礫7点が出土している。838～842、T 7は、散在して出土しており、本溝の廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。

所見 第309・311・322号溝を切り、第320号溝に雨水等を排水していたと想定される。時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。



第446図 第309・310号溝跡出土遺物実測図

第309号溝跡出土遺物観察表 (第446図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
854	土加蓋土器	蓋	[9.4]	2.6	[4.8]	長石・石英・赤色粘土	橙	普通	体部内・外面口テロナテ後ナテ 底部回転糸留り後ナテ	覆土中	25%

第310号溝跡出土遺物観察表 (第446図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
838	土加蓋土器	火鉢	—	[7.6]	—	長石・石英・赤色粘土	橙	普通	體部1ヶ所残存 内・外面ナテ 外面下部磨石文押印	覆土中	10%
839	陶器	縁輪皿	[10.6]	2.1	6.2	精良 灰釉	灰白・オリーブ灰	良好	底部回転糸切り 口辺部内・外面に輪軸	覆土中	30% 瀬戸・美濃
840	陶器	縁輪皿	—	[2.6]	[8.4]	長石・灰釉	灰白・オリーブ灰	良好	底部回転糸切り 底部深い・筒り出し高台 口辺部内面波文刷り	覆土中	30% 瀬戸・美濃
841	陶器	楕鉢	—	[6.1]	—	精良 長石	靑灰	良好	内・外面ナテ 内面8条1單位の張り目	覆土上層	丹後系*
842	陶器	楕鉢	—	[7.8]	—	精良 長石・靑釉	靑灰	良好	内・外面ナテ 内面10条1單位の張り目	覆土中層	瀬戸系*

番号	器種	長さ	径	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
T7	軒丸瓦	—	[13.4]	2.3	[223.9]	長石・雲母	外面巴文・ナテ 内面ナテ 表面・胎芯黄褐色	覆土中	PL122

第311号溝跡 (441・442図)

位置と規模 調査区中央部のK 6 d5～J 7 h1区に位置している。J 7 h1区から南西方向 (N-132°-W) へ

直線的に延び、K6c6区で第310号溝に切られている。確認できた長さは31.8mで、上幅0.22～1.52m、下幅0.08～0.32m、深さ40～92cmである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 10層に分層される。レンズ状に堆積しているが、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説 (H-H', I-I', L-L', Q-Q', R-R' 各層共通)

9 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	14 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量
10 黒褐色	炭化粒子・粘土粒子微量		
11 暗褐色	焼土粒子少量、粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	15 褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
12 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量	16 黒褐色	粘土ブロック、ローム粒子・炭化粒子微量
13 黒褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子	17 暗褐色	粘土ブロック、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
		18 暗褐色	粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片66点(皿11、内耳鍋45、甕7、摺鉢3)、陶器片3点(碗1、常滑系甕2)と、流れ込んだ縄文土器片4点、須恵器片2点、礫10点が出土している。

所見 第320号溝に雨水等を排水していたと想定され、時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。

第312号溝跡 (441・442図)

位置と規模 調査区中央部のJ6h8～J6j8区に位置している。J6h8区から南方向(N-3°-W)へ直線的に延び、J6j8区で第309・310号溝に繋がっている。長さは8.3mで、上幅0.4～1.12m、下幅0.3～0.78m、深さ24～36cmである。断面形は逆台形で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 4層に分層される。レンズ状に堆積しているが、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説 (N-N')

8 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック少量
9 黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	11 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片12点(皿5、内耳鍋7)、陶器片1点(常滑系甕)、礫6点が出土している。

所見 第306号溝と第309・310号溝を繋いで、雨水等を排水していたと想定される。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。

第313号溝跡 (441・442図)

位置と規模 調査区中央部のK6a8～J7j2区に位置している。J7j2区から西方向(N-80°-W)へ緩やかな曲線状に延び、K6a8区で第311号溝に繋がっている。長さは16.2mで、上幅0.9～1.3m、下幅0.5～0.86m、深さ30cmほどである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 4層に分層される。レンズ状に堆積しているが、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説 (N-N', P-P')

1 暗褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量	3 褐色	ローム粒子・粘土粒子中量、焼土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	4 明褐色	ローム粒子少量、粘土ブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片13点(皿1、内耳鍋12)と流れ込んだ須恵器片1点、礫1点が出土している。

所見 雨水等を排水していたと想定され、時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。

第315号溝跡 (441・442・447図)

位置と規模 調査区中央部のJ6j9～J6j0区に位置している。J6j0区から西方向(N-82°-W)へ直線的に延び、J6j9区で第311号溝に繋がっている。長さは5.2mで、上幅0.82～0.96m、下幅0.4～0.5m、深さ30

cmほどである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。レンズ状に堆積しているものの、含有物から人為堆積と考えられる。



DP31



土層解説 (R-R')

- 1 期 褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 2 期 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 期 褐色 粘土ブロック多量、炭化粒子少量

遺物出土状況 土師質土器片9点(皿5、内耳鍋4)、土製品1点(管状土鍾)、須恵器片1点、礫3点が出土している。DP31は

第447図 第315号溝跡出土遺物実測図 覆土中から出土しており、流れ込みの可能性が高い。

所見 第311号溝に切られているが、方向性から第309号溝の続きであったと推測できる。雨水等を排水していたと想定され、時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。

第315号溝跡出土遺物観察表 (第447図)

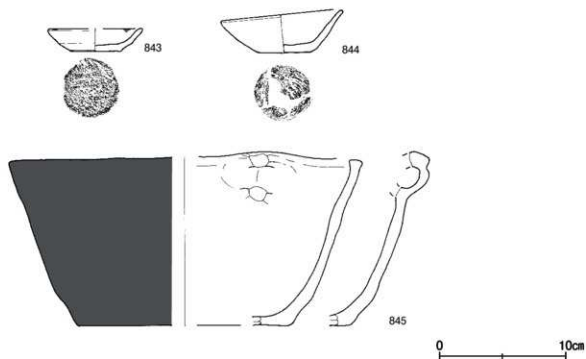
番号	器種	長さ	孔径	幅	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP31	管状土鍾	(41)	0.9	3.4	(31.5)	土製	約半分欠損。全面ナデ	覆土中	

第316号溝跡 (441・442・448 ~ 450図)

位置 調査区中央部のJ 6 8 ~ J 7 g4区で、標高25mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第311・312号溝を切っており、ほぼ同時期に廃絶されたと考えられる。

規模と形状 J 7 g4区から、ほぼ西方向(N-115°-W)へ直線状に延び、J 6 8区で第312号溝に繋がっている。長さは24.8mで、上幅0.76 ~ 1.52m、下幅0.52 ~ 1.0m、深さ32 ~ 45cmである。断面形は逆台形状で、壁は外傾して立ち上がっている。



第448図 第316号溝跡出土遺物実測図(1)

覆土 3層と7層に分層される。レンズ状に堆積しているものの、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説 (I-I' S0311との重複部)

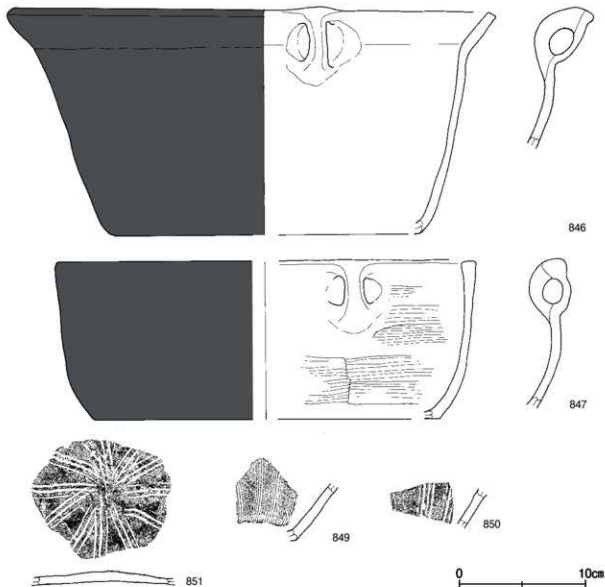
- | | | | |
|-------|-----------|-------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 3 黒褐色 | 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | | |

土層解説 (O-O')

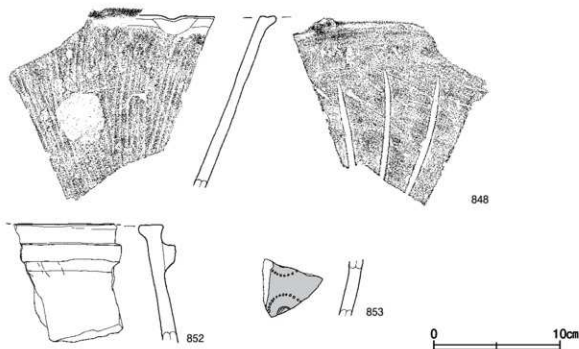
- | | | | |
|-------|-----------------------------------|-------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | 粘土ブロック多量、焼土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子・粘土粒子微量 | | |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子多量、粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片465点(皿39、内耳銅類385、甕13、播鉢22、火鉢6)、陶器片6点(常滑系甕4、瓶子2)、石器2点(石臼、砥石)、石塔1点(五輪塔)、粘土塊1点と、流れ込んだ縄文土器片7点、須恵器片9点、鏝9点が出土している。843～853は、西部から中央部にかけて集中して出土している土器片の一部で、本溝の廃絶に伴って廃棄されたと考えられる。

所見 雨水等を第312号溝へ排水していたものと推測され、時期は出土土器から16世紀代と考えられる。



第449図 第316号溝跡出土遺物実測図(2)



第450図 第316号溝跡出土遺物実測図(3)

第316号溝跡出土遺物観察表 (第448～450図)

番号	種類	器種	寸法	器高	底径	胎土・釉薬	色調	構成	手法の特徴	出土位置	備考
843	土加蓋土器	甕	[7.6]	1.9	4.2	長石・石英・赤色 粘土	橙	普通	体部内・外面口ナテ内面ナテ 底部 回転糸切り後ナテ	覆土下層	65%口唇部 残存
844	土加蓋土器	甕	9.6	3.5	4.2	長石・赤色粘土	浅黄橙	普通	体部内・外面口ナテ後ナテ 底部回 転糸切り後ナテ	覆土下層・ 瓦面	75% 威彩に よる
845	土加蓋土器	内耳罐	[28.1]	13.8	[17.0]	長石・石英	にじい期	普通	内面から口縁部外面ナテ	覆土下層	30%体部外面 残存
846	土加蓋土器	内耳罐	27.8	18.2	[24.6]	長石・石英・ 雲母・赤色粘土	橙	普通	1内耳残存 耳縁り付け 内面から口縁 部外面ナテ	覆土下層	50%体部外面 残存者 内径 11.3
847	土加蓋土器	内耳罐	[33.4]	12.8	[27.6]	長石・石英・ 雲母・赤色粘土	にじい期	普通	1内耳残存 耳縁り付け 内面ヘラナテ 残存者ナテ 外面ナテ	覆土下層	50%体部外面 残存者
848	土加蓋土器	播鉢	—	(13.7)	—	長石・雲母・赤色 粘土	橙	普通	片口部残存 内面1条1単位の播り目 外面縦位のヘラ状の工具によるナテ	覆土下層	10%
849	土加蓋土器	播鉢	—	(4.5)	—	長石・石英・ 雲母・赤色粘土	靑灰	普通	体部破片 内面3条1単位の播り目 外 面ナテ	覆土下層	
850	土加蓋土器	播鉢	—	(3.1)	—	長石・石英・ 雲母・赤色粘土	橙	普通	体部破片 内面4条1単位の播り目 * 外面ナテ	覆土下層	
851	土加蓋土器	播鉢	—	—	—	長石・石英・ 雲母・赤色粘土	にじい期	普通	底面の破片 内面3条1単位の播り目 * 外面ナテ	覆土下層	底部厚さ(1.2)
852	土加蓋土器	穴鉢	—	(9.3)	—	長石・石英・ 雲母・赤色粘土	明赤期	普通	1辺部変形部有り 内面ナテ 外面 面滑りを残すナテ	覆土中層・ 瓦面	
853	陶器	瓶子	—	(4.4)	—	精良 灰釉	にじい期前 期オリーブ	良好	内・外面ヘラナテ後ナテ 外面押印文 施	覆土中	古瀬戸

第319号溝跡 (441・442・451図)

位置と規模 調査区中央部のJ7il～J7g4区に位置している。J7g4区から、西方向(N-74°-W)へ緩やかな曲線状に延びている。長さは17.8mで、上幅0.46～1.15m、下幅0.26～0.72m、深さ10cmほどである。断面形は逆台形で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。レンズ状の堆積状況と含有物から、自然堆積と考えられる。



第451図 第319号溝跡出土遺物実測図

土層解説 (S-S')

- 1 層 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 層 褐色 ローム粒子・粘土粒子少量

遺物出土状況 土師質土器片6点(皿3,内耳鍋2,甕1)と、流れ込んだ須恵器片1点が出土している。855は、破片で覆土下層から出土している。

所見 方向性から第309・315号溝の続きであった可能性が推測され、雨水等を排水していたと想定される。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。

第319号溝跡出土遺物観察表(第451図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
855	土師質土器	皿	[99]	22	[68]	長石・黄母・赤色 粒子	橙	普通	体部内面ロクロ十字痕ナデ 底部回転糸痕ナデ	覆土下層	20%

第322号溝跡(441・442図)

位置と規模 調査区中央部のK 6 d5～K 6 a8区に位置している。K 6 a8区から西方向(N-152°-W)へ直線的に延び、K 6 d5区で調査区域外となっている。確認できた長さは10.6mで、上幅0.78～0.85m、下幅0.6～0.7m、深さ30cmほどである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。含有物とレンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

土層解説(L-L')

8 黒褐色 rome 粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 9 黒褐色 炭化粒子少量、rome 粒子・焼土粒子微量

所見 第311号溝に大きく切られているため全容は不明であるが、第310・311号溝と同様に雨水等を排水していたと想定される。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。

第305号溝跡(452・453図)

位置と規模 調査区中央部のJ 6 a2～J 6 a8区に位置している。J 6 a2区から、東方向(N-88°-E)へほぼ直線的にJ 6 a8区まで延びている。確認できた長さは24mほどで、上幅1.6～5.7m、下幅0.8～1.08m、深さ36～56cmである。断面形は逆台形で、壁は緩斜して立ち上がっている。

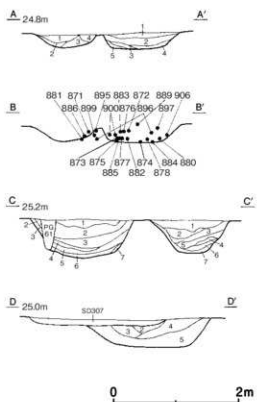
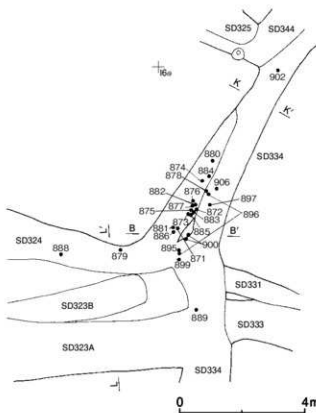
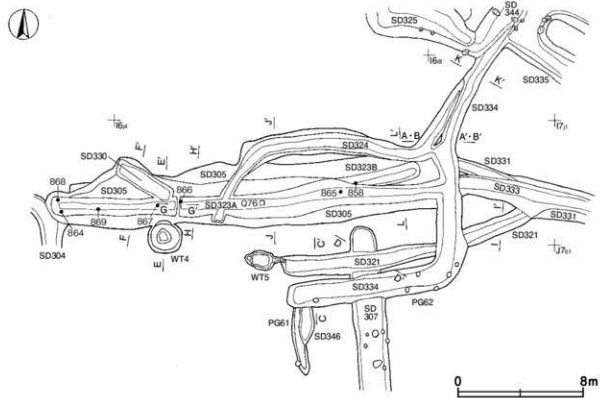
覆土 5層に分層される。一部、含有物から人為堆積と認められる部分があるものの、レンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

土層解説(E-E')

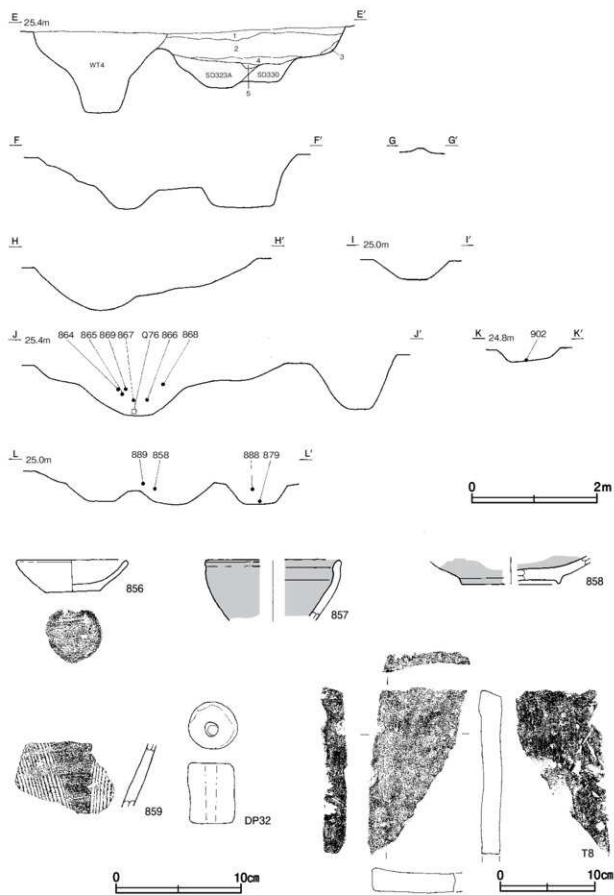
1 暗褐色 rome 粒子中量、炭化粒子微量 4 黒褐色 rome 粒子・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 rome 粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色 rome プロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 5 黒褐色 rome 粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片161点(皿34,内耳鍋110,甕10,鉢鉢6,火鉢1),陶器片6点(天目茶碗1,皿1,常滑系甕2,常滑系片口鉢カ1,瀬戸系鉢鉢1),石器5点(石臼2,砥石3),瓦片2点(平瓦)と、流れ込んだ須恵器片4点、礫3点が出土している。858が第323B号溝との境の覆土下層から出土している以外は、856・857・859, DP32, T 8は、いずれも覆土中から散在して出土している。

所見 第323A・323B・330号溝を拡張した溝と推定される。時期は、出土土器と重複関係から16世紀代と考えられる。



第452图 第305·321·323A·323B·324·330·334号沟跡实测图



第453图 第305·321·323A·323B·324·330·334号沟迹、第305号沟迹出土实物实测图

第305号溝跡出土土物観察表 (第453図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
856	土加貫土器	甕	8.3	2.7	4.4	長石・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	甕土中	95% PL110
857	陶器	天目茶碗 [105]	(14)	—	—	精良 長石・鉄軸	淡青・暗褐	良好	ロクロ成形 内・外面に発色の悪い鉄軸薄層に施釉 湯枯目に薄黄塗	甕土中	20%瀬戸・美濃系
858	陶器	丸皿	—	(2.2)	(7.8)	精良 灰軸	灰白・オリーブ黄	良好	割り出し高台 内・外面他掛け 貫入	甕土下層	15%瀬戸・美濃系
859	陶器	播鉢	—	(5.0)	—	精良 長石	暗赤陶	良好	12条1単位の盛り目。	甕土中	瀬戸・美濃系

番号	器種	長さ	孔径	幅	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP32	管状土器*	4.9	0.9	3.9	91.4	土質	外面ナデ	甕土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
T.8	平瓦	(17.7)	(8.8)	2.4	(10.8)	長石・石英・赤色粒子	表面ナデ 裏面ヘッナナデを残すナデ 顔縁面取 表面に黄緑・赤色粒	甕土中	

第321号溝跡 (452～454図)

位置と規模 調査区中央部のJ 6 b6～J 6 a0区に位置している。J 6 b6区から、東方向 (N-83°-E) へほぼ直線的に延び、J 6 a0区で第331号溝に繋がっている。長さは16mほどで、上幅0.8～1.42m、下幅0.3～0.74m、深さ32～52cmである。断面形は逆台形で、壁は緩斜して立ち上がっている。

覆土 7層に分層される。レンズ状に堆積しているが、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説 (C-C')

- | | | | | | |
|---|--------|---------------------------|---|-------|-------------------------|
| 1 | 緑 暗 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 | 陶 灰 色 | 粘土ブロック多量 |
| 2 | 陶 色 | 粘土ブロック多量、焼土粒子微量 | 6 | 陶 色 | 粘土ブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 | 陶 色 | 粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 | 灰 濁 色 | 褐色粘土粒子多量 (雨水のための酸化した粘土) |
| 4 | 陶 色 | 粘土ブロック多量、ロームブロック中量、焼土粒子微量 | | | |

遺物出土状況 土師質土器片102点 (皿32, 内耳鍋68, 播鉢2), 陶器片3点 (常滑系甕2, 壺カ1), 青磁片1点 (皿), 石器4点 (石臼1, 茶臼1, 砥石2), 石塔1点 (五輪塔), 瓦片3点 (平瓦) と、流れ込んだ縄文土器片1点, 須恵器片3点, 粘土塊1点, 混入した陶器片1点 (灯明皿) が出土している。860～863は甕土中から出土している。

所見 第300号溝と第306号溝で区画された区域を、東西に区画している溝で、西端は第5号水溜溝構に切られている。時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。



第454図 第321号溝跡出土土物実測図

第321号溝跡出土土物観察表 (第454図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
860	土加貫土器	甕	6.8	2.3	3.3	長石・石英・赤色粒子	黒陶	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り 貫入を残す	甕土中	80%
861	土加貫土器	甕	9.0	3.2	3.6	長石・石英・赤色粒子	にこい	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	甕土中	95%

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
862	土師質土器	擂鉢	—	(7.2)	—	長石・石英・ 炭屑・紫色粒子	にがい粉	普通	口唇拡大く収める。内面摩滅5条1単位 の張り目。外底平下	覆土中	
863	青磁	碗	(8.4)	(2.2)	—	精品 長石・ 青磁粉	灰白・ 明緑灰	普通	口部部片 継ぎ文	覆土中	

第323A号溝跡 (452・453・455・456図)

位置 調査区中央部のJ 6 a3～J 6 a9区に位置している。

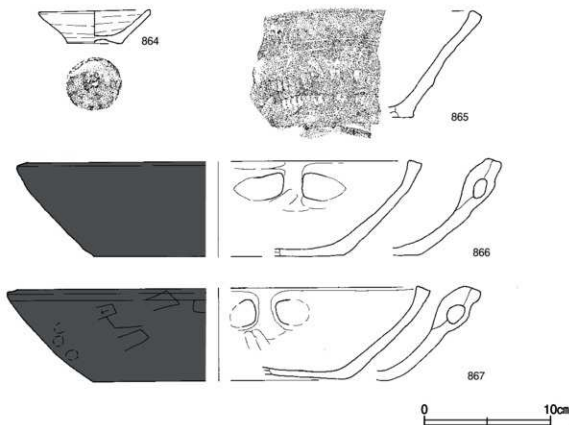
重複関係 第304・323B号溝を切り、第305・324・330・334号溝に切られている。

規模と形状 J 6 a3区から、東方向(N-87°-E)へほぼ直線的に延び、J 6 a9区で第334号溝に繋がっている。長さは26.3mで、上幅0.94～1.86m、下幅0.36～0.64m、深さ30～44cmである。断面形は浅い部分は緩やかなU字状、深い部分は逆台形で、壁は緩斜して立ち上がっている。

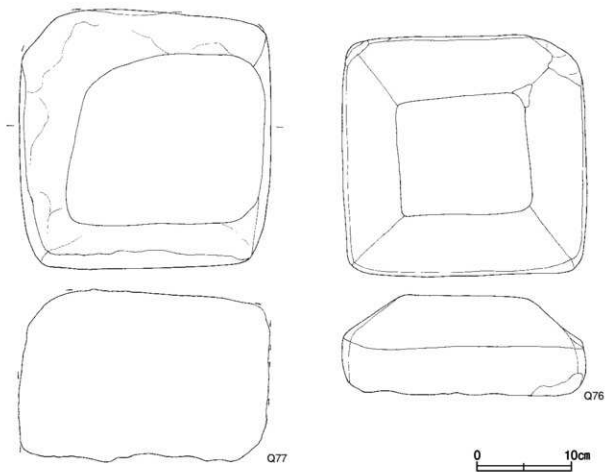
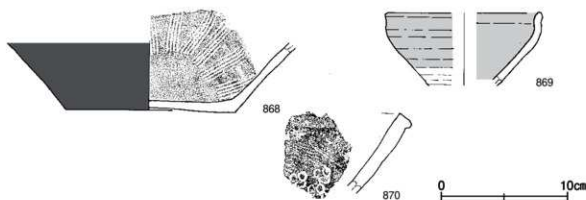
覆土 遺物の出土状況から、人為堆積である(E-E')。

遺物出土状況 土師質土器片348点(皿50、内耳鍋254、甕14、擂鉢26、火鉢3、茶釜1)、陶器片9点〔碗5(天目茶碗3、不明2)、皿1、常滑系甕2、常滑系片口鉢1〕、石器4点(磨石1、石臼1、砥石2)、石塔2点(五輪塔)、鉄製品1点(不明)と、流れ込んだ縄文土器片2点、土師器片8点、須恵器片2点、礫8点が出土している。864～870、Q76・77は、覆土中層を中心に散在して出土していることから、本溝の廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。

所見 第323B号溝を掘り込んで、第334号溝に連結している溝で、雨水等を排水していたと推測される。時期は、出土土器から16世紀代と考えられる。



第455図 第323A号溝跡出土遺物実測図(1)



第456図 第323A号溝跡出土遺物実測図2)

第323A号溝跡出土遺物観察表 (第455・456図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
864	土胎土器	皿	8.9	2.7	4.4	長石・石英・雲母・赤鉄粉・黒色粒子	橙	普通	体部内・外面口フロナデ 底部回転糸切 与長ナデ	覆土中層	85%
865	土胎土器	内耳罎	—	8.6	—	長石・雲母	にぶい・橙	普通	内面ナデ 外面工具痕を残すナデ	覆土中層	体部外面残存者
866	土胎土器	内耳罎	[32.4]	7.6	[20.2]	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	1内耳残存 耳貼り付け 内面から口縁部 の外ナデ	覆土下層	12% 体部外面 残存者
867	土胎土器	内耳罎	[32.0]	7.4	[20.0]	長石・石英・雲母	陶灰	普通	1内耳残存 耳貼り付け 内面ナデ 外 面へうしろ後部頭取を残すナデ	覆土下層	20% 体部外面 残存者
868	土胎土器	擂鉢	—	(5.5)	13.7	長石・石英	にぶい・赤陶	普通	内面5条1単位の盛り目 外面ナデ	覆土上層	20% 体部外面・ 底部残存者
869	陶器	天目茶碗	[12.2]	(5.8)	—	精良 鉄輪	灰白・黒陶	良好	内・外面洗輪 底部内面茶筌痕	覆土中層	20% 瀬戸・美濃 系
870	陶器	片1鉢	—	(6.5)	—	長石・石英	赤陶	良好	口辺部外縁に張り出し 内面にスタンプ 文押印 外面ナデ	覆土中	常滑系9 形式 5

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q76	瓦輪形 (平斗形)	25.7	25.3	10.6	11200	花崗岩	風化により表面が脆い。二方の軒部欠損	覆土下層	PL118
Q77	瓦輪形 (高輪)	27.41	26.7	18.3	23000	花崗岩	風化により表面が脆い。角部が風化と欠損のため丸みをもつ	覆土中	

第323B号溝跡 (452・453区)

位置と規模 調査区中央部のI 6j7～I 6j8区に位置している。I 6j7区から、東方向(N-75°-E)へ直線的にI 6j8区まで延びている。確認できた長さは5.2mほどで、上幅0.88～1.1m、下幅0.3～0.48m、深さ28cmである。断面形は緩やかなU字状で、壁は緩斜して立ち上がっている。

所見 第323A号溝に大きく掘り込まれており、全容は不明であり、雨水等を排水していたと推測される。時期は、重複関係から16世紀代と考えられる。

第324号溝跡 (452・453・457・458区)

位置と規模 調査区中央部のJ 6a5～I 6j9区に位置している。J 6a5区から、北東方向(N-36°-E)へ曲線状にI 6j9区まで延びている。確認できた長さは21.5mほどで、上幅0.54～1.4m、下幅0.15～0.6m、深さ16～90cmである。断面形は逆台形で、壁は緩斜して立ち上がっている。

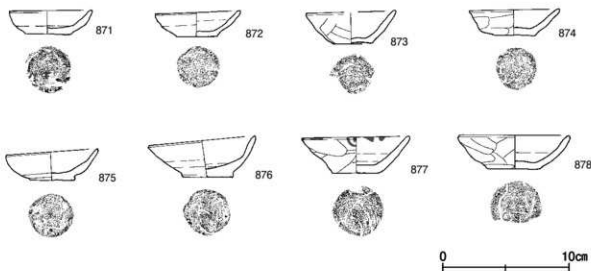
覆土 4層に分層される。不規則な堆積状況と含有物から人為堆積である。

土層解説 (A-A')

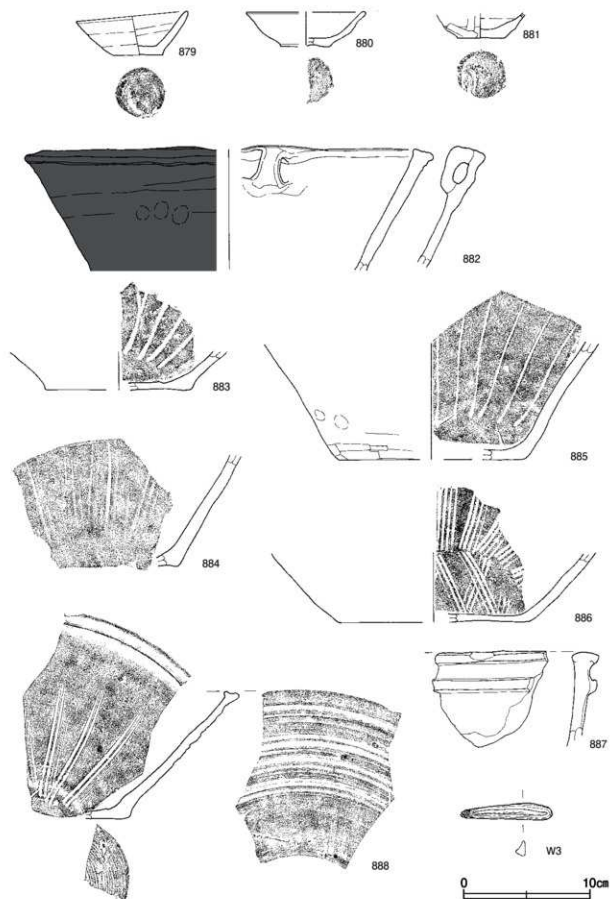
- 1 濃い黄褐色 黄褐色粘土ブロック多量 3 灰黄褐色 黄褐色粘土ブロック多量、炭化粒子微量
2 弱灰色 白色粘土粒子少量 4 暗褐色 黄褐色粘土ブロック少量、ローム粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片246点(皿65, 内耳鍋149, 甕8, 搦鉢23, 火鉢1), 瓦質土器片1点(火鉢), 陶器片5点(常滑系甕3, 瀬戸系搦鉢1, 瓶1), 木製品1点(つけ木)と、流れ込んだ縄文土器片1点, 石器2点(磨石1, 石皿1), 鏝3点が出土している。871～888, W3は、第334号溝との重複地点から集中して出土している。

所見 第334号溝に掘り込まれているが、雨水等を第335号溝の方向に排水していたと推測される。時期は、出土土器から16世紀代と考えられる。



第457図 第324号溝跡出土遺物実測図(1)



第458图 第324号清跡出土遺物実測図(2)

第324号溝跡出土遺物観察表 (第457・458図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
871	土師質土器	皿	6.5	2.0	3.5	長石・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	90%
872	土師質土器	皿	6.8	2.0	3.3	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	95%
873	土師質土器	皿	[7.2]	2.6	3.2	石英・雲母・赤色粒子	にぶい暗	普通	体部内面ロクロナデ 外面ロクロナデ後ヘナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	80%
874	土師質土器	皿	7.2	2.1	3.2	石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内面ロクロナデ 外面ロクロナデ後ヘナデ 底部回転糸切り後ナデ	底面	90%
875	土師質土器	皿	7.3	2.5	3.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい暗	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	底面	95% 底形に準が5A PL110
876	土師質土器	皿	8.5	3.4	4.0	長石・雲母・赤色粒子・小礫	黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	100% 底形に準が5A PL110
877	土師質土器	皿	8.6	2.9	3.8	長石・石英	灰白	普通	体部内面ロクロナデ 外面ロクロナデ後ヘナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	75% 口唇部磨削有
878	土師質土器	皿	8.8	2.7	4.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	淡橙	普通	体部内面ロクロナデ 外面ロクロナデ後ヘナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	55%
879	土師質土器	皿	9.0	3.4	3.9	長石・石英	浅黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	底面	100% 底形に準が5A PL110
880	土師質土器	皿	[9.4]	2.7	[4.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	底面	35%
881	土師質土器	皿	—	[2.0]	3.8	長石・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内面ロクロナデ 外面ロクロナデ後ヘナデ 底部回転糸切り後ナデ	底面	60%
882	土師質土器	内耳鍋 [29.9]	9.85	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤期	普通	1口耳縁有 耳縁に付 内面ナデ 外面磨削痕を残すナデ	覆土下層	体部外面磨削有	
883	土師質土器	播鉢	—	[3.0]	[11.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤期	普通	内面1条1単位の掘り目 外面ナデ	覆土中層	—
884	土師質土器	播鉢	—	[8.8]	[20.0]	長石・石英・雲母	にぶい赤期	普通	内面準減5条1単位の掘り目 外面ナデ	底面	10%
885	土師質土器	播鉢	—	[9.3]	[14.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい暗	普通	内面1条1単位の掘り目 外面下縁へ口掘り 指痕を残すナデ	覆土下層	10%
886	土師質土器	播鉢	—	5.5	[15.3]	長石・石英・雲母	にぶい暗	普通	内面4条1単位の掘り目 底面は掘り目が交差 海面ナデ	覆土下層	15%
887	瓦質土器	火鉢 [37.8]	7.5	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤期	普通	突部取り付 内・外面ナデ	覆土中	—	
888	陶器	播鉢 [26.4]	10.1	[10.6]	精良 長石・顔料	灰白 にぶい赤期	普通	内面1条1単位の掘り目 外面掘り口ナデ 口縁部取り付 内・外面無	覆土中層	15% 口唇系 PL115	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	形状	先端部形状	手法の特徴	出土位置	備考
W3	つけ木	7.2	1.3	0.8	細い棒状	先端部尖状	—	覆土中	杉材。PL121

第334号溝跡 (452・453・459図)

位置と規模 調査区中央部のJ 6 b6 ~ I 6 h0区に位置している。J 6 b6区から、東方向(N-78°-E)へ直線的に10m延びたのち、L字状に屈曲して北方向(N-15°-E)のI 6 h0区まで延びている。確認できた長さは26.6mで、上幅1.50 ~ 1.80m、下幅0.28 ~ 1.20m、深さ20 ~ 60cmである。断面形は逆台形で、壁は緩斜して立ち上がっている。

覆土 5層と7層に分層される。土層断面ごとに層の違いがあり、含有物から人為堆積と考えられる。

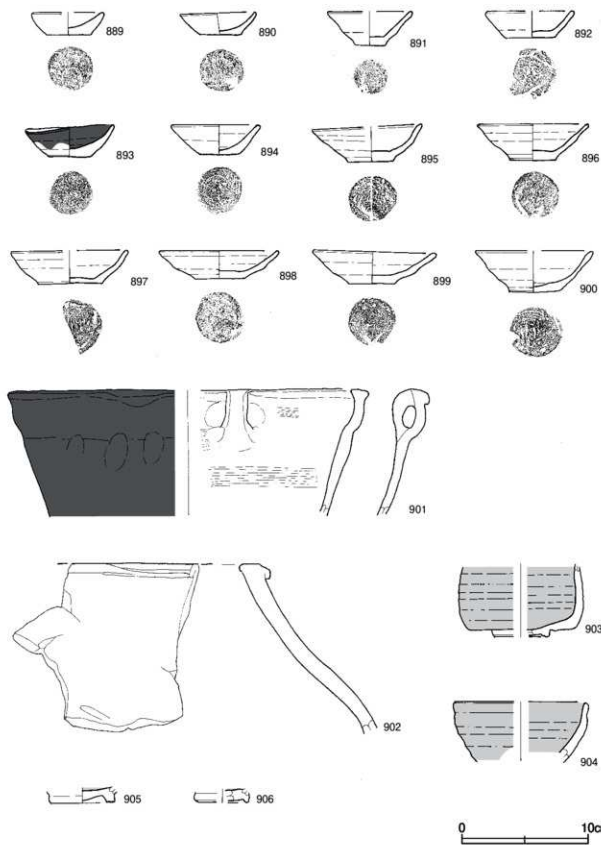
土層解説 (A-A')

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 1 黒褐色 黄褐色粘土ブロック少量・炭化粒子微量 | 4 褐色 灰色 黄褐色粘土ブロック中量 |
| 2 黒褐色 黄褐色粘土ブロック・炭化物微量 | 5 褐色 灰色 黄褐色粘土ブロック微量 |
| 3 褐色 灰色 黄褐色粘土ブロック少量 | |

土層解説 (C-C')

- | | |
|---------------------------------|------------------------------------------|
| 1 極暗褐色 粘土ブロック中量・ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 灰色 ローム粒子多量・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 粘土ブロック多量・ロームブロック少量・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 粘土ブロック多量 |
| 3 褐色 粘土ブロック中量・焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 明褐色粘土粒子多量 (粘土が変色し、底面に水が溜まっていたことを示す) |
| 4 暗褐色 ローム粒子微量 | |

遺物出土状況 土師質土器片164点 (皿45, 内耳鍋95, 堿12, 播鉢12), 陶器片6点 (碗5 (天目茶碗3, 不明2), 皿1), 木製品1点 (つけ木) と、流れ込んだ土師器片1点が出土している。889 ~ 906は、第324号溝との重複部に集中して出土しており、第324号溝と同時期に廃絶され、その時に廃棄されたものと考えられる。所見 覆土と出土器から、第324号溝と同時期に機能していたと考えられ、雨水等を第335号溝の方向に排水していたと推測される。時期は、出土土器から16世紀代と考えられる。



第459图 第334号沟跡出土遺物実測図

第334号溝跡出土遺物観察表 (第459回)

番号	種類	器種	1径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
889	土師質土器	皿	[5.8]	1.9	3.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内面口クロナテ後ナテ 外面口クロナテ 底部静土未切り	覆土中層	95%
890	土師質土器	皿	6.1	1.9	3.4	長石・雲母・赤色粒子・黒色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部静土未切り後ナテ	覆土中	100% 底形にゆがみ
891	土師質土器	皿	[6.8]	2.8	2.7	長石・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナテ 底部回転糸切	覆土中	80%
892	土師質土器	皿	[6.9]	2.2	3.8	長石・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後へ削り	覆土中	50%
893	土師質土器	皿	7.0	2.6	3.3	長石・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面口クロナテ 底部回転糸切	覆土中	100% 内外面滑潤 少量 底形にゆがみ
894	土師質土器	皿	7.2	2.4	3.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面口クロナテ 底部回転糸切	覆土中	80%
895	土師質土器	皿	[8.3]	3.0	3.9	長石・雲母・赤色粒子	明細	普通	体部内・外面口クロナテ 底部回転糸切	覆土下層	50%
896	土師質土器	皿	8.4	2.9	3.7	雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナテ 底部回転糸切	覆土下層	65%
897	土師質土器	皿	[9.3]	2.7	[5.0]	雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナテ 底部回転糸切	覆土中層	30%
898	土師質土器	皿	9.4	2.3	4.0	長石・雲母・繊維	橙	普通	体部内・外面口クロナテ 底部回転糸切	覆土中	70%
899	土師質土器	皿	9.5	2.7	3.8	長石・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナテ 底部回転糸切	覆土中層	60%
900	土師質土器	皿	[9.5]	3.4	4.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰白	普通	体部内・外面口クロナテ 底部回転糸切	覆土下層	60%
901	土師質土器	内耳罎	[26.8]	(10.0)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	暗赤褐	普通	1内耳残存 内面口クロナテ痕を残すナテ 外面面滑潤受変り後ナテ	覆土中	10% 外部外面に凹凸あり
902	土師質土器	甕	—	(13.6)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	1口部破片 内・外面口クロナテ	覆土中層	
903	陶器	罎	—	(5.7)	(4.5)	精良 長石・灰釉	灰白・長石色	良好	口クロ破片 割り出し高台 灰白色の胎土 胎線 志野焼	覆土中	15% 瀬戸・美濃系
904	陶器	天目茶碗	[10.1]	(4.8)	—	精良 鉄釉	灰黄褐・黒	良好	内・外面面鉄釉 胎体に筋線 裏部内面茶色 灰黄	覆土中	15% 瀬戸・美濃系
905	陶器	天目茶碗	—	(1.3)	5.2	精良 鉄釉	灰黄褐・黒	良好	高台部破片 割り出し高台 内面鉄釉	覆土中	瀬戸・美濃系
906	陶器	天目茶碗	—	(1.1)	[4.4]	精良 鉄釉	灰白・黒	良好	高台部破片 割り出し高台 内面鉄釉	覆土中層	瀬戸・美濃系

第325号溝跡 (第460～466回)

位置 調査区中央部のH6g0～I6h9区で、標高26～25mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第334・344号溝跡、第1562・1563号土坑、第3号不明遺構を掘り込み、第1534号土坑に掘り込まれている。また、第258・326・328・329C号溝を切り、第241号溝に切られている。

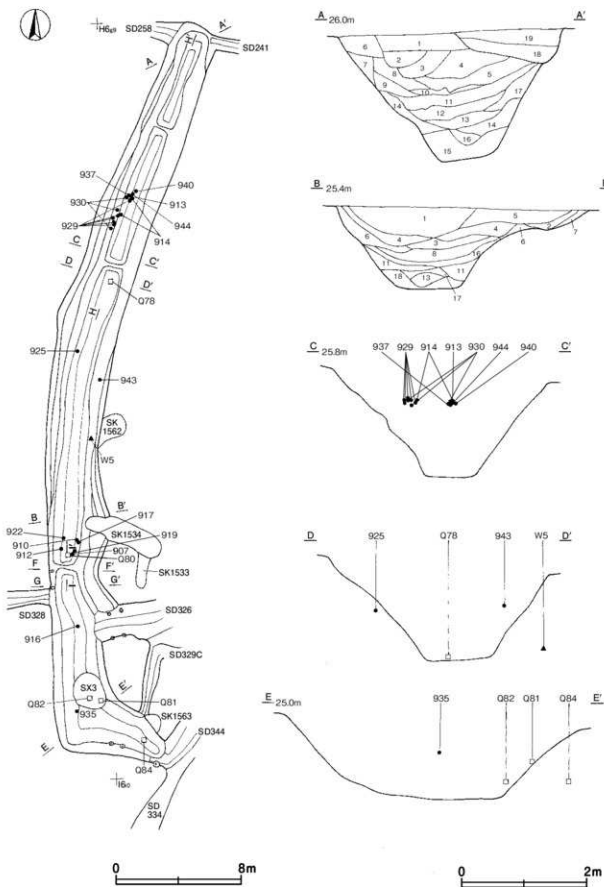
規模と形状 H6g0区から、南方向(N-16°-E)へほぼ直線的にI6h8区まで延び、さらに鉤の手法に東方向(N-84°-W)へ屈曲し、I6h9区で第329C・344号溝跡と連結している。長さは54.60mで、上幅2.76～4.20m、下幅0.40～1.12m、深さ80～180cmである。断面形は逆台形状で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 19層に分層される。レンズ状に堆積しているが、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説

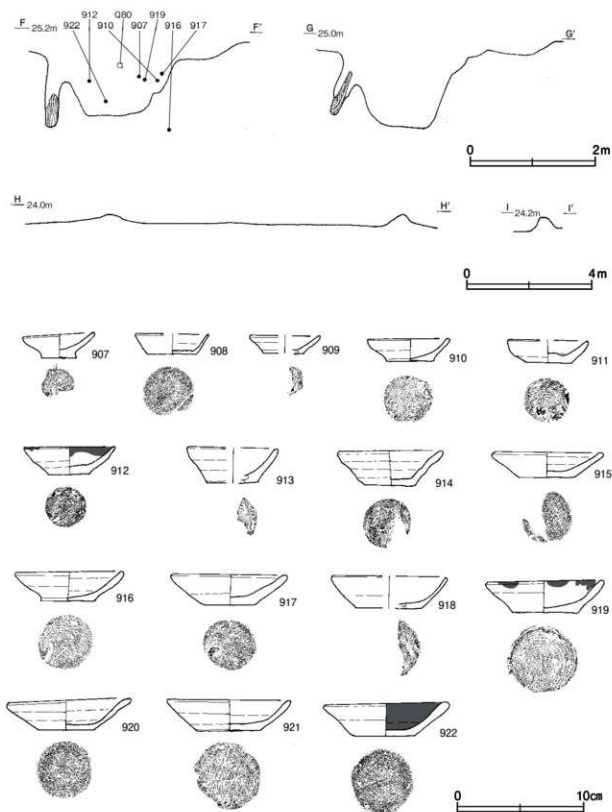
1	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・褐色粘土粒子微量	11	褐灰色	褐色粘土粒子少量
2	灰黄褐色	焼土粒子・褐色粘土粒子微量	12	にぶい黄褐色	褐色粘土粒子中量
3	褐灰色	褐色粘土粒子少量	13	黄灰色	褐色粘土ブロック少量、炭化物微量
4	暗褐色	褐色粘土粒子少量、炭化粒子微量	14	黄灰色	褐色粘土ブロック、炭化物微量
5	褐色	褐色粘土ブロック多量	15	褐色	褐色粘土ブロック中量、炭化粒子微量
6	黒褐色	炭化粒子・褐色粘土粒子微量	16	褐灰色	褐色粘土ブロック、炭化物微量
7	にぶい黄褐色	褐色粘土ブロック多量、ローム粒子微量	17	黄灰色	褐色粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
8	褐灰色	ロームブロック・褐色粘土ブロック微量	18	灰白色	褐色粘土粒子微量
9	褐色	褐色粘土ブロック中量、炭化物微量	19	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子・褐色粘土粒子微量
10	褐灰色	褐色粘土ブロック少量、炭化物微量			

遺物出土状況 土師質土器片936点(皿193, 内耳罎類595, 香炉2, 甕66, 鉢縁74, 火鉢6), 陶器片14点(皿3, 常滑系甕10, 常滑系片口鉢1), 青磁片1点(皿), 土製品1点(管状土錘), 石器34点(磨石2, 凹石1, 茶臼3, 石臼1, 砥石16, 台石1), 石塔5点(五輪塔3, 宝篋印塔2), 瓦片2点(平瓦), 漆器片2点(漆碗), 木製品3点(下駄2, 不明1), 鉄滓6点, 壁土片10点, 粘土塊10点, 木片6点, 炭化材1点が出土している。この他、流れ込みや混入した縄文土器片16点, 土師器片7点, 須恵器片13点, 近・現代瓦片4点, 礫23点も出土している。907～946, DP33, Q78～84, W4～W8は、覆土下層と底面を中心とした覆土中全体から出

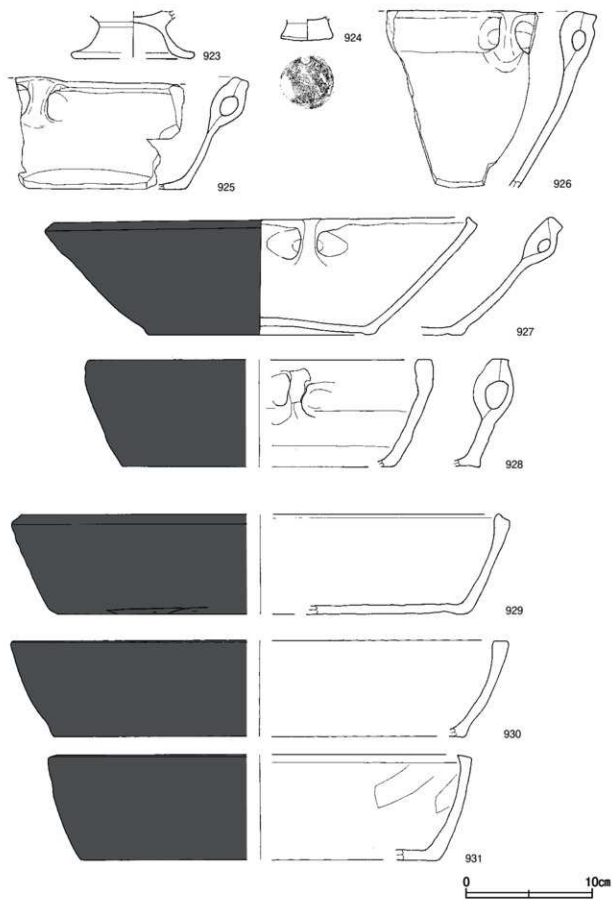


第460图 第325号清淤实测图

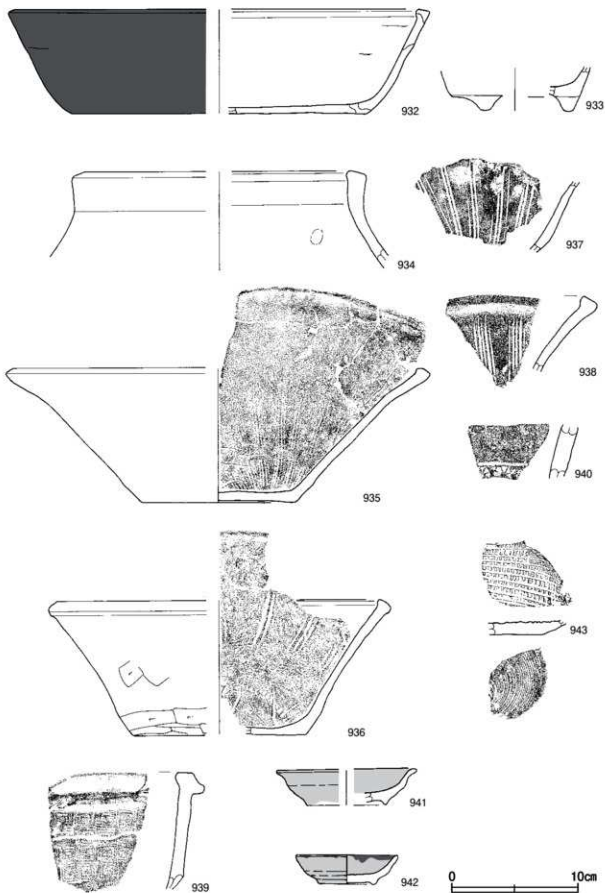
土しており、屋敷城と想定される第23A・64号ピット群等の廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。
 所見 中央部の西側を東西に区画する大溝で、底面には障子堀の掘り方が確認されており、排水とともに防衛
 の機能もあったと推測される。時期は、出土土器から16世紀後半と考えられる。



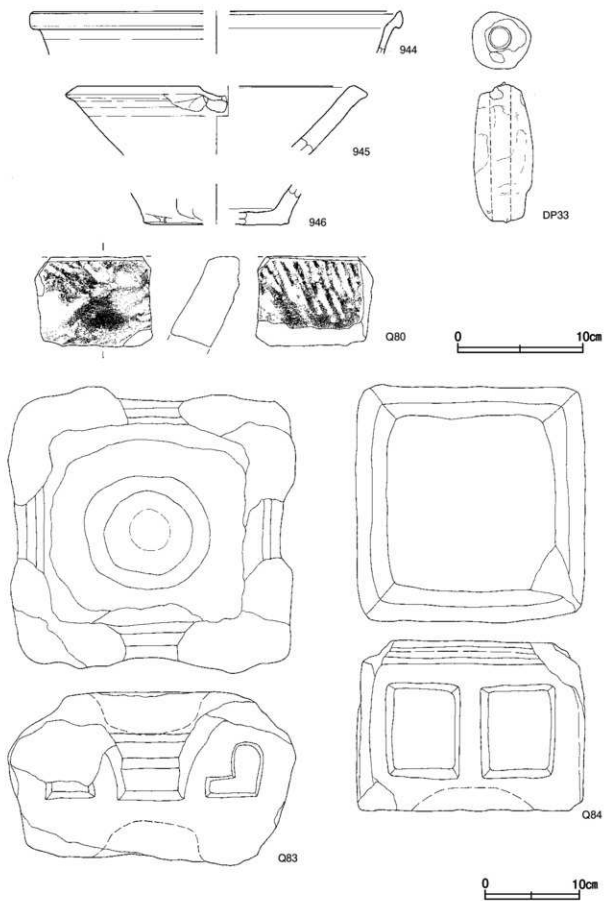
第461図 第325号溝跡・出土遺物実測図



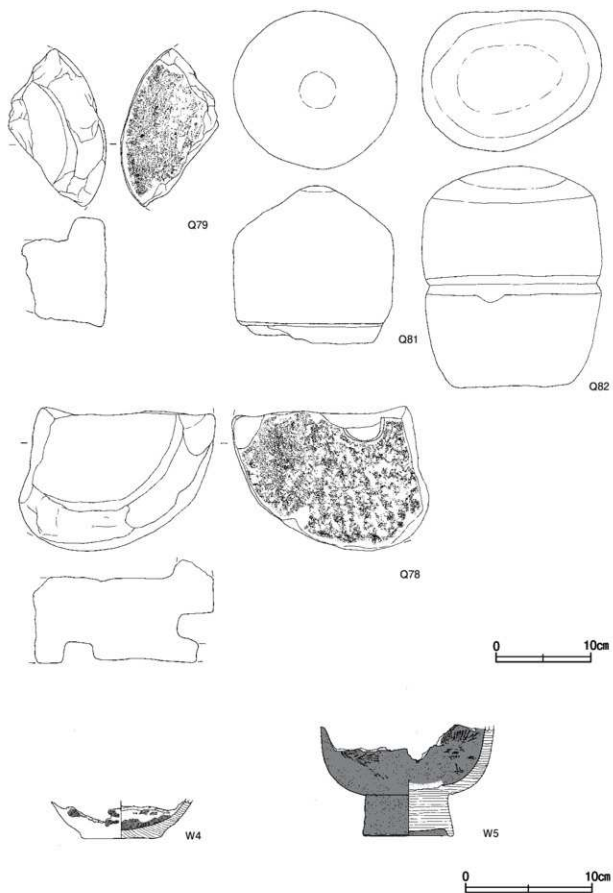
第462图 第325号清跡出土遺物実測図(1)



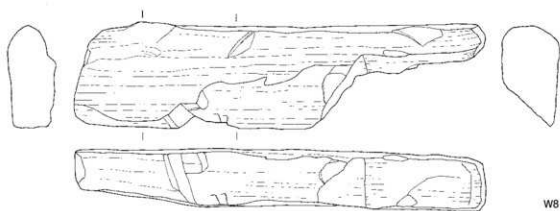
第463图 第325号沟跡出土遺物実測図(2)



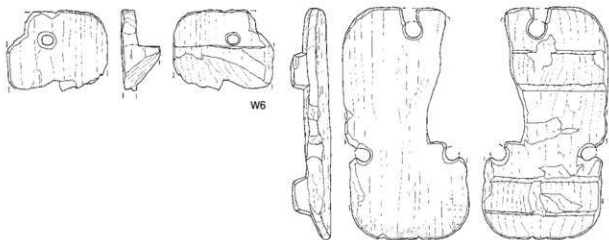
第464图 第325号清跡出土遺物実測図(3)



第465图 第325号沟跡出土遺物実測図(4)



W8



W6

W7



第466図 第325号溝跡出土遺物実測図(5)

第325号溝跡出土遺物観察表 (第461～466図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
907	土加貫土器	甕	5.6	2.1	2.7	長石・雲母	灰黄陶	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ 成形にゆがみ	甕土中下層	95%
908	土加貫土器	甕	[3.7]	1.6	3.8	雲母・赤色粒石	にぶい橙	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	甕土中	50%
909	土加貫土器	甕	[5.8]	1.5	[3.2]	長石・石英	橙	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	甕土中	20%
910	土加貫土器	甕	6.4	1.9	3.8	長石・雲母	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	甕面	95%
911	土加貫土器	甕	[6.4]	1.9	3.6	長石・雲母・赤色粒石	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	甕土中	70%
912	土加貫土器	甕	7.2	2.3	3.3	長石・雲母・赤色粒石	にぶい橙	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	甕面	90%口唇基部磨付着
913	土加貫土器	甕	[7.2]	2.8	[4.2]	長石・石英・雲母・赤色粒石	橙	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 外面口クロナテ 底部回転糸切り	甕土下層	15%
914	土加貫土器	甕	8.2	2.9	4.0	長石・石英・雲母・赤色粒石	橙	普通	体部内・外面口クロナテ 底部回転糸切り後ナテ	甕土下層	55%成形にゆがみ
915	土加貫土器	甕	8.4	2.0	4.2	長石・石英・雲母・赤色粒石	灰白	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	甕土中	60%
916	土加貫土器	甕	8.5	2.4	4.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面口クロナテ 底部回転糸切り	甕面	100% PL111
917	土加貫土器	甕	9.2	2.5	4.1	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	甕土中下層	80%

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
918	土師貫土器	皿	9(2)	2.6	5(0)	長石・石英・赤色 鉄・小礫	にぶい・青	普通	体部内・外面ロコナテ後ナテ 底部回転赤切り後ナテ	覆土中	30%
919	土師貫土器	皿	9.4	2.7	5.3	長石・石英・赤色 鉄・小礫	灰白	普通	体部内・外面ロコナテ 底部回転赤切り後ナテ	底面	100%11号器浦 懸行着 PL111
920	土師貫土器	皿	9.8	2.6	4.4	長石・石英・赤色 鉄・小礫	橙	普通	体部内・外面ロコナテ 底部回転赤切り後ナテ	覆土中	60%
921	土師貫土器	皿	10.0	2.5	5.2	長石・雲母・赤色 鉄・小礫	にぶい・青	普通	体部内・外面ロコナテ 底部回転赤切り後ナテ	覆土中	75%
922	土師貫土器	皿	10.2	2.8	5.0	長石・石英・ 雲母・赤色鉄 小礫	橙	普通	体部内・外面ロコナテ 底部回転赤切り後ナテ	底面	100% PL111
923	土師貫土器	高台付圓 盤	—	3(8)	9(3)	長石・雲母・赤色 鉄・小礫	橙	普通	底面破片 高台部取り付 内・外面 破片ナテ	覆土中	30%
924	土師貫土器	—	—	2(0)	4.2	石英・赤色鉄 小礫	淡黄	普通	底部破片 外面ナテ 底部回転赤切り後 ナテ	覆土中	10% 体部内面 保存着
925	土師貫土器	内耳竈	3(4.0)	8.9	3(0.0)	長石・石英・ 雲母・赤色鉄 小礫	にぶい・赤褐	普通	1内耳残存 耳筋り付け後ナテ 内面か ら11線部外面破片ナテ	覆土中	15% 体部外面 保存着
926	土師貫土器	内耳竈	3(3.4)	14.0	—	長石・石英・ 雲母・赤色鉄 小礫	橙	普通	1内耳残存 耳筋り付け後ナテ 内面か ら11線部外面破片ナテ	覆土中	10% 体部外面 保存着
927	土師貫土器	内耳竈	33.0	9.4	17(7)	長石・石英・雲母 赤色鉄・小礫	にぶい・褐	普通	2内耳残存 耳筋り付け後ナテ 内面か ら11線部外面破片ナテ	覆土中	45% 体部外面 保存着
928	土師貫土器	内耳竈	27(3)	8.6	21(7)	長石・石英・ 雲母・赤色鉄 小礫	にぶい・赤褐	普通	1内耳残存 耳筋り付け後ナテ 内面か ら11線部外面破片ナテ	覆土中	10% 体部外面 保存着
929	土師貫土器	内耳竈	3(8.2)	8.0	3(2.4)	長石・石英・ 雲母・赤色鉄 小礫	橙・褐	普通	内面ナテ 外面ナテ 下端へテ開り 底 部ナテ	覆土下層	20% 胎土・体 部外面保存着
930	土師貫土器	内耳竈	29(6)	7.7	3(2.9)	長石・石英・雲母 赤色鉄・小礫	橙	普通	内・外面ナテ	覆土下層・ 底面	10% 体部外面破 片赤 胎土・赤色 鉄・小礫
931	土師貫土器	内耳竈	3(2.0)	8.4	2(8.8)	長石・石英・ 雲母・小礫	暗褐	普通	内面から11線部外面ヘラナテ後破片ナテ	覆土中	10% 体部外面 保存着
932	土師貫土器	内耳竈	3(2.0)	8.3	2(3.5)	長石・石英・ 雲母・赤色鉄 小礫	にぶい・赤褐	普通	内面から11線部外面輪軸組み残存ナテ	覆土中	20% 体部外面 保存着
933	土師貫土器	香炉	—	3(3)	10(4)	長石・石英・雲母 赤色鉄・小礫	橙	普通	底部破片 3足跡 1足残存 底部輪 り付け後ナテ	覆土中	10%
934	土師貫土器	釜	21(2)	7(8)	—	長石・石英・ 雲母・赤色鉄 小礫	橙	普通	内・外面ナテ 内面に指頭痕を残す	覆土中	
935	土師貫土器	部鉢	3(2.6)	10.7	12.4	長石・石英・雲母 赤色鉄・小礫	橙	普通	11号器内面につまみ出し 4条1單位の 張り目 外面ナテ	覆土中下層	25%
936	土師貫土器	部鉢	2(3.7)	10.7	13(8)	長石・石英・ 雲母・赤色鉄 小礫	にぶい・褐	普通	11号器内面につまみ出し 3条1單位の 張り目 外面ヘテ開り後ナテ	覆土中	20%
937	土師貫土器	部鉢	—	5(6)	—	灰褐	普通	体部破片 4条1單位の張り目	底面		
938	土師貫土器	部鉢	—	5(9)	—	灰褐	普通	体部破片 11号器内面につまみ出し 5 条1單位の張り目	覆土中		
939	土師貫土器	火鉢	—	4(2)	—	長石・石英・ 雲母・赤色鉄 小礫	にぶい・青	普通	体部外面に變形文押印	覆土中	
940	瓦貫土器	火鉢	—	4(0)	—	長石・石英・ 雲母・赤色鉄 小礫	灰灰	普通	体部外面にスタンプ文押印	覆土中	2次焼成
941	陶器	灰輪軸	10(9)	2.9	6(3)	精良 灰輪	灰白・淡黄	良好	底部取り出し高台 内・外面輪軸 貫入	覆土中	20% 内面・外 面 裏面
942	陶器	皿	8.1	2.4	4.6	精良 灰輪	灰白・淡黄	良好	取り出し高台 貫付を除き全面に輪軸 底部内面にトンチン着	底面	胎土・赤色鉄 小礫
943	陶器	即日付圓 盤	—	1(2)	8(4)	精良	灰白・薄青	良好	脚目の破片 底部赤切り	覆土中下層	PL111
944	陶器	甕	29(2)	3(3)	—	長石・砂鉄	灰褐・暗褐	良好	11号器内 内・外面ナテ	底面	常滑素
945	陶器	片11鉢	3(2.1)	5(3)	—	長石・石英	にぶい・赤褐	良好	内外面ロコナテ 11号器破片 1内耳 残存 内面滑らか 外面ナテ	覆土中	常滑素
946	陶器	片11鉢	—	3(3)	11(6)	長石	暗赤褐	良好	底部破片 内面滑らか 外面下端縁位の 調整痕	覆土中	常滑素

番号	器種	長さ	口径	幅	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP23	管状土師	11(1)	1.5	4.6	920(5)	土製	全面ナテ 一部欠損		

番号	器種	径・長さ	口径	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q78	穴付 (上付)	26(2)	3(8)	11.9	3390	安山岩	輪受け線打式孔残存 鉄輪 金 單位の張り目	底面	PL116
Q79	穴付 (上付)	27(4)	—	11.5	1462	安山岩	鉄輪6条1單位の張り目 くぼみに輪打第2次(ハンガラ) 着着	底面	
Q80	石輪	—	7(2)	2.6 3.4	463	砂岩	11号器の破片 内面張り目 外面調整痕 風面2面	底面	底石転用
Q81	五輪塔 (空輪)	17.2	16.5	16(6)	6200	花崗岩	前面部・風輪部欠損 空輪部片	底面	
Q82	五輪塔 (空輪)	14(8)	18.9	23.2	9900	花崗岩	空輪と風輪のくびれ明瞭 風輪の一部欠損 断面四角形	底面	
Q83	五輪塔 (空輪)	30(2)	30(3)	18(2)	21900	花崗岩	風化により表面が脆い 隅輪突起四方欠損	覆土中下層	PL117
Q84	五輪塔 (空輪)	24.9	24.1	17.9	22300	花崗岩	風化により表面が脆い 角2か所欠損	底面	PL117

番号	種類	器種	口径	器高	底径	材質	特徴	出土位置	備考
W4	漆器	陶	—	3(1)	6(1)	ブナ材	榎木取り 高台をわずかに取り出す 外面黒漆に朱漆の文 様痕。内面黒漆塗布後朱漆を塗布	覆土中	PL126
W5	漆器	陶	—	8(8)	7.3	ブナ材	榎木取り 取り出し高台設置面黒漆 外面黒漆を塗布後輪 軸と朱漆の文様。内面黒漆塗布後朱漆を塗布	底面	PL126

番号	器種	長さ	幅	厚さ	手法の特徴	出土位置	
							備考
W6	下駄	(6.5)	(8.1)	3.1	連南下駄の前面部分破片 鼻緒孔の1径1.3cm	覆土中	石足
W7	下駄	18.6	10.2	3.2	連南下駄 鼻緒孔の1径1.5cm 鼻緒孔の1径1.3cm 前面・後面とも鼻緒	覆土中	左足 P1124
W8	不明	32.8	8.6	4.6	裾の引目痕 手拵か轡鉤による調整痕	表面	材料⑥

第335号溝跡（第467～470図）

位置 調査区中央部のI7j3～I7i4区で、標高25～26mほどの台地の緩斜面に位置している。

重複関係 第334・344号溝を切り、第339号溝に切られている。

規模と形状 I7j3区から、北西方向（N-55°-W）へ直線的にI6h0区まで延び、U字状に屈曲してI6g0区から東方向（N-116°-E）のI7i4区まで直線的に延びている。長さは32.7mで、上幅1.5～2.38m、下幅0.46～1.7m、深さ48～82cmである。断面形は逆台形状で、壁は緩斜して立ち上がっている。

木橋跡 2か所。西端の屈曲した部分に確認されている木橋跡は、柱穴が6か所で確認され、深さは18～65cmである。北東部に確認されている木橋跡は、柱穴が4か所で確認され、深さは38～48cmである。

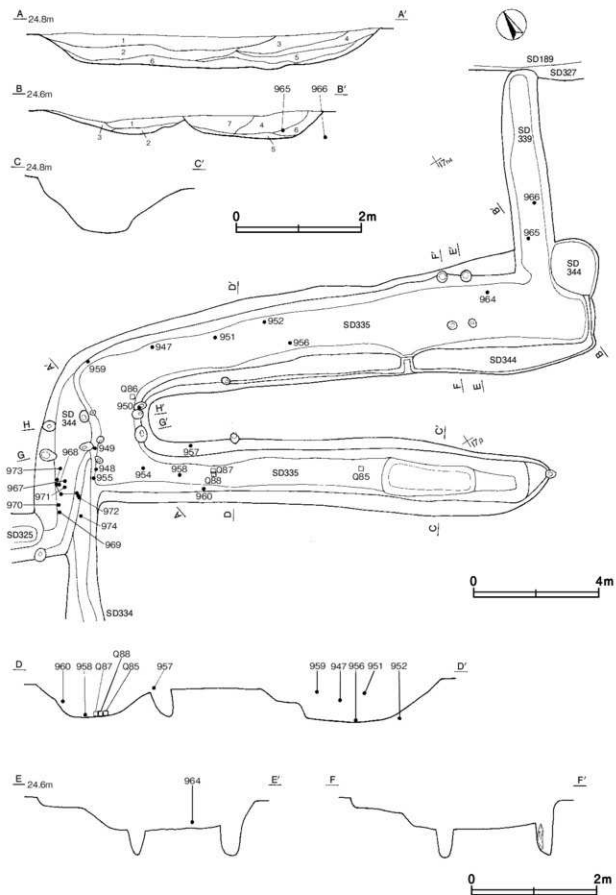
覆土 6層に分層される。含有物と遺物の出土状況から、人為堆積と考えられる。重複する第399号溝と覆土が類似していることから、同時期に埋没したと考えられる。

土層解説（A-A'、B-B'）

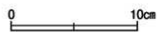
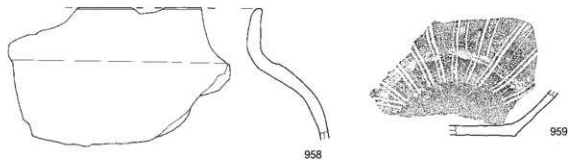
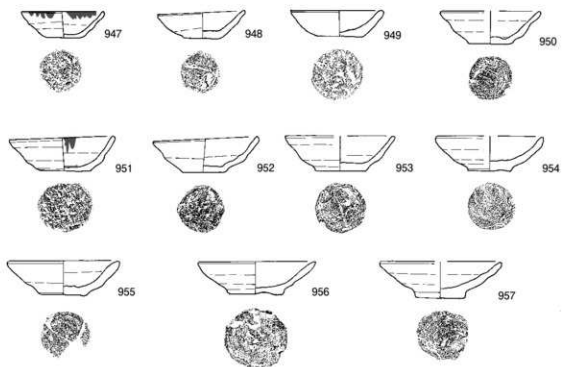
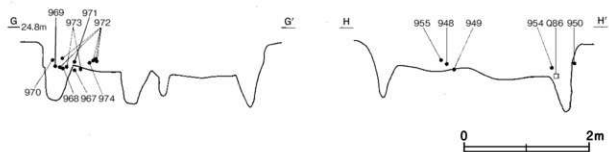
- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| 1 暗 褐色 褐色粘土ブロック少量、ローム粒子微量 | 4 暗 褐色 粘土粒子中量、ローム粒子・砂粒微量 |
| 2 黒 褐色 ローム粒子・粘土粒子少量 | 5 黒 褐色 ローム粒子微量 |
| 3 黒 褐色 褐色粘土ブロック少量、ローム粒子微量 | 6 黒 褐色 粘土粒子中量、ローム粒子・砂粒微量 |

遺物出土状況 土師質土器片643点（皿146、内耳鍋類422、香炉5、甕25、擂鉢39、火鉢5、茶釜1）、陶器片14点（天目茶碗2、皿5、常滑系甕5、常滑系片口鉢1、瀬戸系擂鉢1）、石器21点（磨石3、石臼10、砥石8）、石塔8点（五輪塔6、宝篋印塔2）、炉石カ1点、鉄製品1点（不明）、粘土塊3点、木片5点が出土している。この他、流れ込んだ縄文土器片27点、須恵器片6点、礫66点も出土している。U字状に屈曲した部分から北部と南部に分けて出土状況を見ると、北部からは土師質土器片427点、陶器片9点、石器9点、石塔1点、鉄製品1点、粘土塊3点、木片2点と、流れ込みの縄文土器片10点、礫15点が出土している。一方、南部からは土師質土器片216点、陶器片5点、石器12点、石塔7点、炉石カ1点、木片3点と、流れ込みの縄文土器片17点、須恵器片6点、礫51点が出土している。土師質土器の破片数に差があるものの、土器と遺物の様相は類似しており、本溝の廃絶に伴って一括廃棄されたものと考えられる。全体から散在して出土している947～964、Q85～Q88も、同様に廃棄されたと想定される。

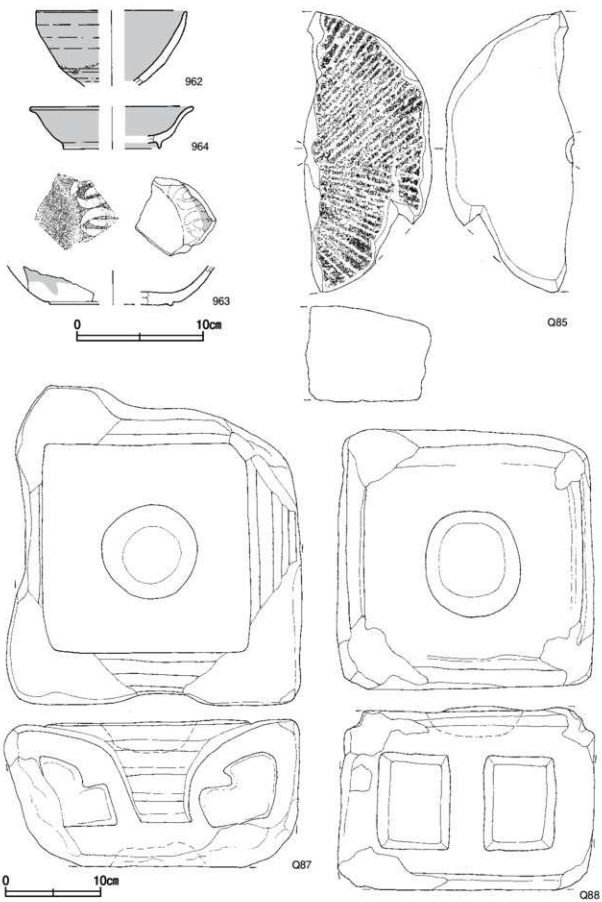
所見 第344号溝を全体的に掘削しており、掘り返しをしたものと推測される。形状は、M6e2区に位置している第135号溝やJ7a0区に位置している第185号溝と酷似しており、木橋跡からも、防衛性の機能を持った溝と考えられる。また、本溝と同様に第135・185号溝からも石塔が複数確認されており、周辺に関連する遺構が存在する可能性が想定される。時期は、覆土土層から第334・344号溝と同時期と推察され、出土土器から16世紀後半と考えられる。



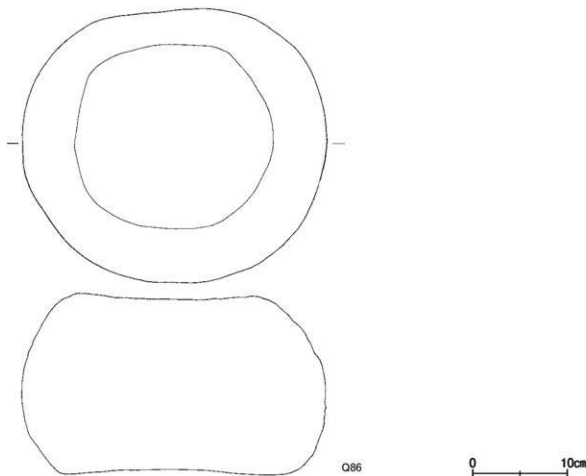
第467图 第335·339·344号沟迹实测图



第468图 第335・344号溝跡、第335号溝跡出土遺物実測図



第469图 第335号沟跡出土物実測図(1)



第470図 第335号溝跡出土遺物実測図(2)

第335号溝跡出土遺物観察表 (第418～470図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
947	土加蓋土器	甕	6.5	2.2	2.8	長石・石英・赤色 砂子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	80% 11号瓦溝埋付者 PL111
948	土加蓋土器	甕	7.0	2.4	3.0	長石・石英・赤色 砂子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	底面	80% 成形に準ず
949	土加蓋土器	甕	7.2	2.2	3.8	長石・石英・赤色 砂子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	底面	80%
950	土加蓋土器	甕	[7.8]	2.6	3.4	長石・赤色砂子	浅黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	80%
951	土加蓋土器	甕	8.2	2.9	4.0	長石・石英・赤色 砂子	浅黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	50% 11号瓦溝埋付者 瓦敷・砂子
952	土加蓋土器	甕	8.3	2.9	3.4	長石・石英・赤色 砂子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	底面	75%
953	土加蓋土器	甕	[8.6]	2.8	4.0	長石・石英・赤色 砂子・白息砂子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中下層	35%
954	土加蓋土器	甕	[8.6]	2.8	3.4	長石・石英・赤色 砂子	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後内面ナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	60%
955	土加蓋土器	甕	8.9	2.7	3.6	長石・石英・赤色 砂子	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	50%
956	土加蓋土器	甕	9.1	2.6	4.4	長石・石英・赤色 砂子・小礫	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後内面ナデ 底部回転糸切り後ナデ	底面	100% PL111
957	土加蓋土器	甕	[9.6]	2.9	3.8	長石・石英・赤色 砂子	浅黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	60%
958	土加蓋土器	甕	—	(10.5)	—	長石・石英・赤色 砂子	橙	普通	11号部から体部の破片 内・外面ナデ	覆土下層	
959	土加蓋土器	播鉢	—	(3.6)	[14.2]	灰白・雲母	にぶい黄	良好	底面へナデが収束残すナデ 4条1單段の張り目 外面ナデ	覆土下層	10%
960	土加蓋土器	火鉢	—	(6.4)	[29.0]	長石・石英・赤色 砂子	陶灰	普通	内・外面ナデ 外面にスタンプ文押印	覆土下層	
961	土加蓋土器	火鉢	—	(4.4)	—	長石・石英・赤色 砂子	にぶい橙	普通	内・外面ナデ 外面にスタンプ文押印	覆土中	
962	陶器	天目茶碗 [121]	(5.9)	—	—	精良 鉄軸	灰白・黒褐	良好	内・外面に施軸 露体に踏輪	覆土中	35% 瀬戸・美濃系 胎土或胎土
963	陶器	緑磁鉢	—	(3.3)	(9.8)	精良 透明軸	灰白・透明	良好	胎土・内面に施軸 内面11号部花文の張り目なしに施軸 底部の割れ目・砥面あり	覆土中	10% 瀬戸・美濃系 胎土或胎土
964	陶器	甕 [130]	3.4	[7.6]	—	精良 透明軸	灰白・透明	良好	割りだし高台 内・外面施軸	覆土下層	10% PL126

番号	器種	径・長さ	孔径・幅	厚・高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q85	大口(下口)	(29.6)	(3.6)	9.9	(860)	安山岩	受け部縁り目の単位不規則	底面	
Q86	五輪形(逆台形)	32.0	28.8	19.1	(2380)	花崗岩	表面風化 上下が平らな扁平な球形	底面	PL117
Q87	宝篋印塔(笠)	(23.5)	(31.0)	15.6	(2300)	花崗岩	頂部突起1か所欠損	覆土下層	PL117
Q88	宝篋印塔(基座)	(27.2)	(27.1)	19.4	(2770)	花崗岩	全ての角欠損	覆土下層	PL117

第339号溝跡 (第467・471図)

位置と規模 調査区中央部のI7g5～I7i4区に位置している。I7g5区から、南西方向(N-154°-W)へ直線的にI7i4区まで延び、第335号溝を切っている。長さは7.1mで、上幅1.2～1.35m、下幅0.6～0.94m、深さ44～58cmである。断面形は逆台形状で、壁は緩斜して立ち上がっている。

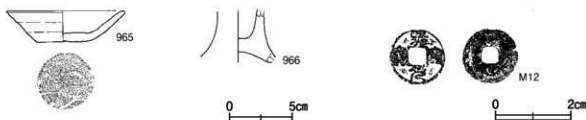
覆土 4層に分層される。含有物と遺物の出土状況から、人為堆積と考えられる。

土層解説 (B-B')

- 4 褐色 褐色粘土ブロック中量、ローム粒子微量 6 黒褐色 褐色ロームブロック・粘土粒子少量
5 黒褐色 褐色粘土ブロック・ローム粒子少量 7 黒褐色 褐色ローム粒子・粘土粒子少量

遺物出土状況 土師質土器片76点(皿18、内耳鍋類54、甕3、花瓶カ1)、陶器片2点(常滑系甕)、磁器片1点(皿)、石器1点(石臼)、古銭1点(熙寧元寶)が出土している。その他、縄文土器片3点、礎2点も出土している。

所見 第335号溝に雨水等を排水していたと考えられる。時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。



第471図 第339号溝跡出土遺物実測図

第339号溝跡出土遺物観察表 (第471図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
965	土師質土器	皿	9.3	2.6	4.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面口ラロナズ後ナズ 或基部転系切刃後ナズ	覆土下層	90%
966	土師質土器	花瓶カ	—	(4.2)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	脚部片カ 体部内・外面ナズ	底面	15%

番号	銭種	径	孔徑	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M12	熙寧元寶	2.2	0.6	2.0	1068	銅	北宋銭 篆書 無背銭	覆土中	PL123

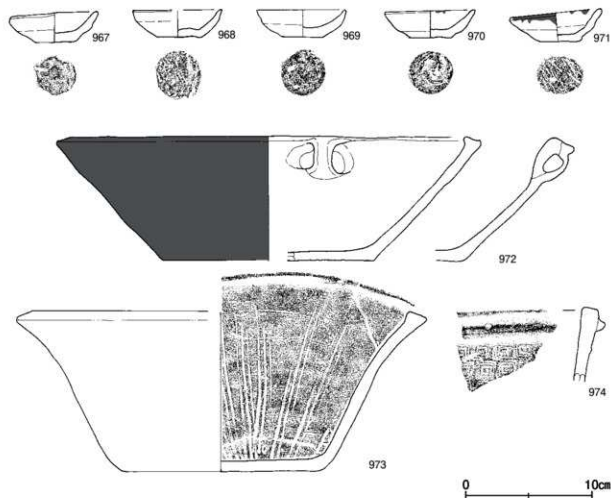
第344号溝跡 (第467・468・472図)

位置と規模 調査区中央部のI7i4～I6h9区に位置している。I7i4区から、西方向(N-65°-W)へ直線的に延びたのち、鉤の手状に屈曲してI6h9区で、第325号溝に繋がっている。確認できた長さは23.5m、上幅1.6～3.84m、下幅は確認できず不明、深さ16～40cmである。断面形は逆台形状で、壁は緩斜して立ち上がっている。

覆土 第335号溝との重複部土層(A-A')の第4～6層と共通し、3層に分層される。含有物から人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師質土器片91点(皿25, 内耳鍋60, 搦鉢5, 火鉢1), 陶器片1点(瓶か), 石器1点(砥石)が出土している。その他、土師器片1点, 礫1点も確認されている。967～974は、第335号溝に掘り込まれた西端の地点に集中的に出土しており、本跡の廃絶に伴って一括投棄されたものと考えられる。

所見 大きく第335号溝に掘り込まれており、掘り返しがなされたと推測される。第335号溝で確認された木橋跡は本溝との重複部で確認されていることから、溝が同時に機能していたことを示している。時期は、出土土器と重複関係から16世紀後半と考えられる。



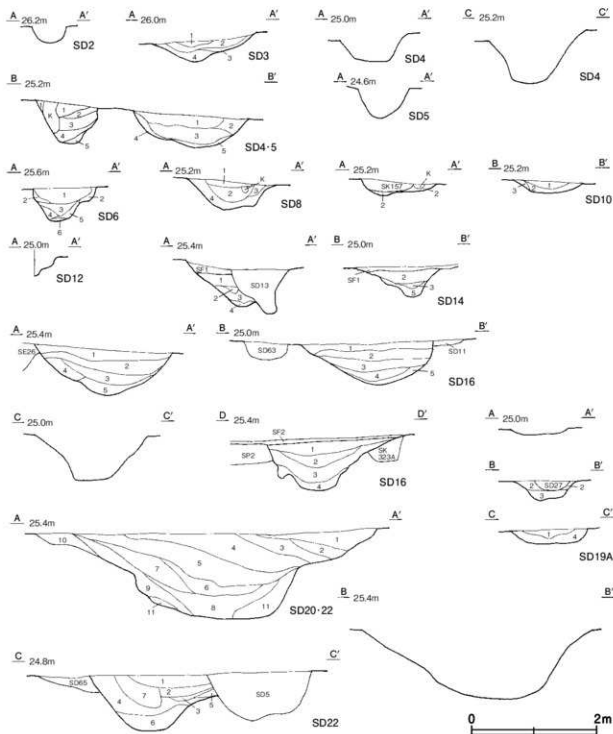
第472図 第344号溝跡出土遺物実測図

第344号溝跡出土遺物観察表 (第472図)

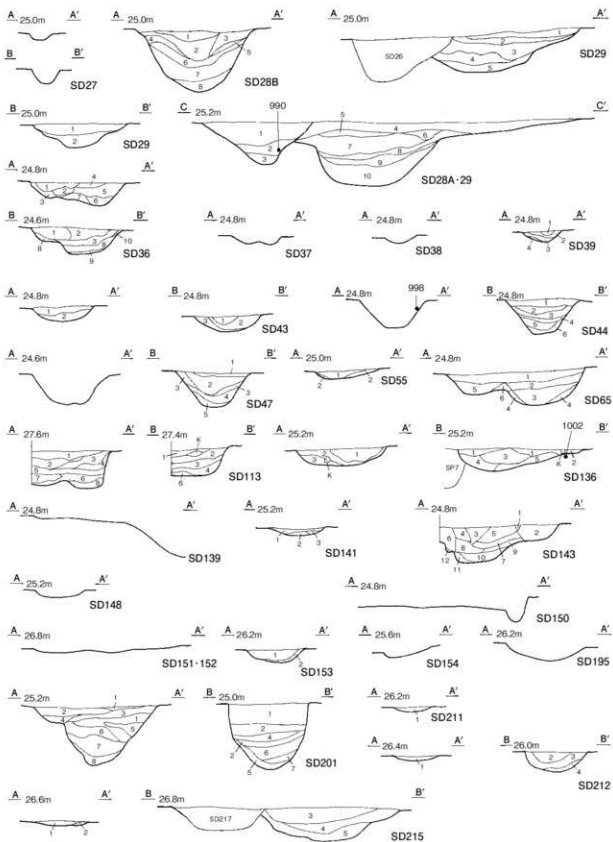
番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
967	土師質土器	皿	6.9	2.4	3.2	長石・石英・雲母・赤色粒点	灰黄・にぶい黄緑	普通	体部内・外面口タロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	底面	95%底面にゆがみ
968	土師質土器	皿	[7.0]	2.3	3.8	雲母・赤色粒点	浅黄・成黄緑	普通	体部内・外面口タロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	底面	70%
969	土師質土器	皿	7.0	2.3	3.4	長石・石英・雲母・赤色粒点	灰黄・にぶい黄緑	普通	体部内・外面口タロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	覆土下層	90%
970	土師質土器	皿	7.0	2.2	3.3	長石・石英・雲母・赤色粒点	にぶい黄緑	普通	体部内・外面口タロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	覆土下層	75%口唇部液種付着
971	土師質土器	皿	7.1	2.6	3.2	長石・石英・雲母・赤色粒点	浅黄緑	普通	体部内・外面口タロナテ後ナテ 底部回転糸切り後ナテ	覆土下層	95%底面にゆがみ 口唇部液種付着
972	土師質土器	内耳鍋	33.5	9.9	[16.9]	長石・石英・赤色粒点	にぶい黄・黒	普通	1内耳残存 耳部周りに付け残ナテ 内面から11線部外面ナテ	覆土下層	40%体部外面液種付着

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
973	土師器土器	深鉢	[30.2]	12.8	15.2	長石・石英・ 厚殻・褐色胎土	にがい菊	普通	内面3条1単位の横り目 外面ナデ	覆土下層	40%
974	土師器土器	火鉢	—	(5.7)	—	長石・石英・ 厚殻・褐色胎土	にがい黄緑	普通	内・外面ナデ 外面にスタンプ文押印	覆土下層	

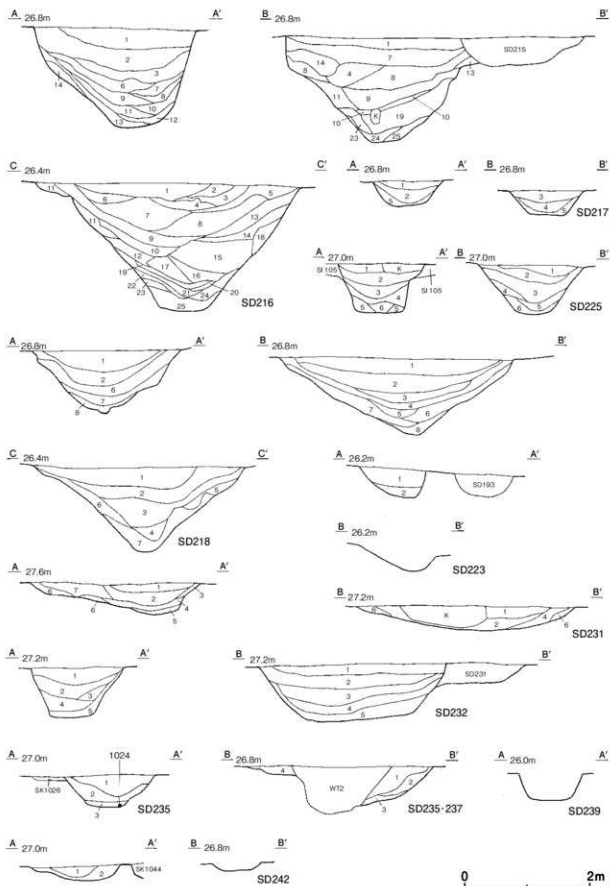
イ その他の溝跡



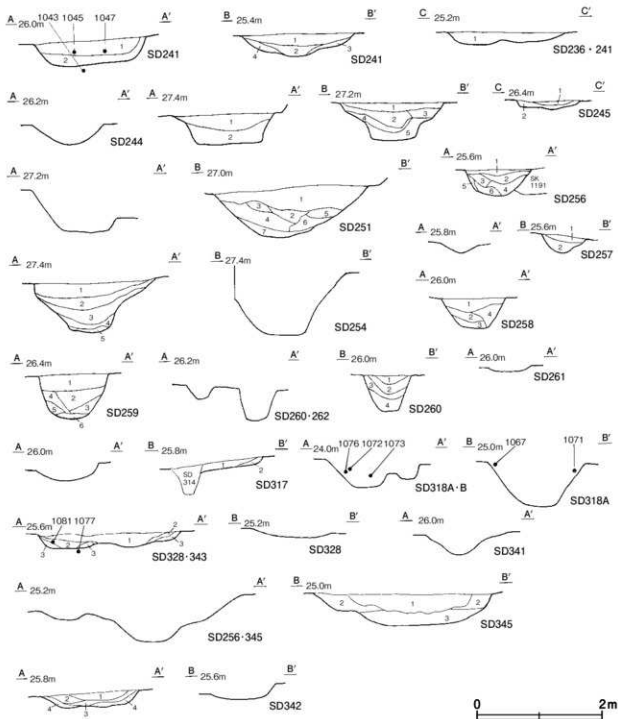
第473図 その他の溝跡実測図(1)



第474図 その他の溝跡実測図②



第475図 その他の溝跡実測図(3)



第476図 その他の溝跡実測図(4)

第3号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

第4号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子・褐色酸化粒子中量、粘土ブロック少量

第5号清浄土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子・褐色炭化粒子中量、粘土ブロック少量
- 5 暗 褐 色 ローム粒子中少量、炭化粒子微量

第6号清浄土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 5 暗 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 6 暗 褐 色 ローム粒子中量、炭化物微量

第8号清浄土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子中量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第10号清浄土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子・砂粒微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量

第14号清浄土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック、炭化粒子微量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第16号清浄土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 褐 色 ロームブロック中量

第19A号清浄土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子少量、粘土ブロック・炭化粒子微量

第22号清浄土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック多量、粘土ブロック少量、炭化物微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 暗 褐 色 粘土ブロック少量、炭化物微量
- 6 黒 褐 色 炭化物・焼土粒子・粘土粒子微量
- 7 にふい黄褐色 ロームブロック多量、焼土粒子少量
- 8 灰 褐 色 粘土粒子多量、ロームブロック微量
- 9 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 10 黒 褐 色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量
- 11 にふい黄褐色 粘土粒子中量、炭化粒子微量

第28A号清浄土層解説 (SD29との重複部)

- 4 黒 褐 色 ロームブロック・砂粒少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒 褐 色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 6 暗 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 黒 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 暗 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 9 黒 褐 色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 10 黒 褐 色 ローム粒子中量、粘土粒子少量、炭化粒子微量

第28B号清浄土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 黒 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 6 黒 褐 色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 7 褐 色 ローム粒子中量、褐色炭化粒子少量、炭化粒子微量
- 8 黒 褐 色 ローム粒子・褐色炭化粒子少量

第29号清浄土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子・砂粒少量
- 2 黄 褐色 ロームブロック中量、砂粒少量
- 3 にふい黄褐色 白色粘土ブロック・褐色炭化粒子中量、ロームブロック微量
- 4 灰 褐色 白色粘土ブロック・褐色炭化粒子少量、ローム粒子・炭化粒子中量、褐色炭化粒子微量
- 5 灰 褐色 褐色炭化粒子中量、ローム粒子微量

第36号清浄土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 にふい 褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 3 黒 褐色 粘土ブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗 褐色 粘土粒子・炭化粒子微量
- 6 黒 褐色 炭化物・粘土粒子微量
- 7 灰 黄褐色 粘土粒子多量
- 8 にふい 褐色 粘土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 9 褐色 粘土粒子多量、ローム粒子中量
- 10 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第39号清浄土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子中量、砂粒微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量、粘土粒子微量

第43号清浄土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐色 ロームブロック・粘土粒子少量

第44号清浄土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・砂粒少量
- 2 黒 褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量
- 3 灰 黄褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 4 にふい黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 5 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 6 暗 褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック少量

第47号清浄土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
- 2 黒 褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子微量
- 5 黒 褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量

第55号清浄土層解説

- 2 黒 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 2 黒 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子少量

第65号清浄土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック中量
- 2 黒 褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量、炭化物微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック多量、粘土ブロック中量、炭化物微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック・粘土ブロック多量
- 5 暗 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量
- 6 灰 褐色 粘土ブロック中量

第113号清浄土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
- 2 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 5 暗 褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 6 黒 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 7 麻 暗 褐色 ロームブロック多量
- 8 麻 暗 褐色 ロームブロック中量

第136号清浄土層解説

- 1 暗 褐色 ロームブロック少量
- 2 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗 褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量
- 4 灰 褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量
- 5 暗 褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

第141号清浄土層解説

- 1 麻暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第143号清浄土層解説

- 1 麻暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子微量
- 6 麻暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 7 黒褐色 粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 8 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 9 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 10 麻暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 11 暗褐色 粘土粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 12 暗褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子微量

第153号清浄土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第201号清浄土層解説 (共通)

- 1 にふい褐色 砂質粘土ブロック多量
- 2 麻暗褐色 ロームブロック多量、粘土ブロック少量
- 3 暗褐色 粘土ブロック多量、ロームブロック中量
- 4 麻暗褐色 ローム粒子多量、粘土ブロック中量
- 5 暗褐色 粘土ブロック多量、ローム粒子・砂粒少量
- 6 にふい褐色 粘土粒子多量、砂粒少量
- 7 褐色 粘土ブロック多量、ローム粒子少量
- 8 暗褐色 粘土ブロック中量、砂粒少量

第211号清浄土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

第212号清浄土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量
- 2 暗褐色 粘土粒子多量、ローム粒子中量、炭化物少量
- 3 灰褐色 粘土粒子多量、炭化物少量
- 4 暗褐色 ロームブロック多量、粘土ブロック中量

第215号清浄土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 2 にふい褐色 褐色酸化粒子多量、ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量

第216号清浄土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、粘土粒子・褐色酸化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量、褐色酸化粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 7 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、褐色酸化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子・褐色酸化粒子微量
- 9 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子・褐色酸化粒子微量
- 10 暗褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土粒子・褐色酸化粒子微量
- 11 灰褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック微量
- 12 灰褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック・褐色酸化粒子微量
- 13 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子少量、褐色酸化粒子微量
- 14 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、褐色酸化粒子微量
- 15 黒褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量、炭化粒子・褐色酸化粒子微量
- 16 黒褐色 ローム粒子・褐色酸化粒子微量
- 17 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量
- 18 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量
- 19 黒褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量
- 20 灰褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化物微量

- 21 にふい褐色 粘土ブロック多量、ロームブロック・炭化物・褐色酸化粒子微量
- 22 灰褐色 粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 23 にふい褐色 粘土ブロック多量、ローム粒子少量、炭化物・褐色酸化粒子微量
- 24 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量、粘土ブロック微量
- 25 灰褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量、炭化物微量

第217号清浄土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量

第218号清浄土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子中量
- 2 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子中量、焼土ブロック微量
- 3 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子中量
- 4 暗褐色 粘土粒子多量、ロームブロック中量
- 5 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量
- 6 暗褐色 粘土粒子多量、ローム粒子中量
- 7 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量、炭化物・褐色酸化粒子微量
- 8 黒褐色 粘土ブロック多量、ローム粒子・褐色酸化粒子中量

第223号清浄土層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック多量、ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量、ロームブロック・粘土ブロック微量

第225号清浄土層解説

- 1 黒褐色 粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・粘土粒子微量
- 3 麻暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・褐色酸化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子・褐色酸化粒子微量
- 6 褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック・褐色酸化粒子微量

第231号清浄土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量

第232号清浄土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量

第235号清浄土層解説

- 1 麻暗褐色 ロームブロック多量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、粘土粒子少量、炭化粒子微量

第236・241号清浄土層解説 (重複部)

- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子微量

第241号清浄土層解説 (共通)

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 粘土粒子少量、焼土ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、炭化物・焼土粒子微量
- 4 暗褐色 粘土ブロック中量

第242号清浄土層解説 (共通)

- 1 黒褐色 炭化物・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 炭化物少量、ローム粒子・粘土粒子微量

第245号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

第251号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 4 極暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 5 灰褐色 粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 黒褐色 褐色酸化粒子中量、ローム粒子少量
- 7 暗褐色 ロームブロック多量

第254号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック多量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

第256号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 粘土ブロック少量、炭化物微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 灰黄褐色 粘土ブロック多量、炭化物微量
- 5 灰黄褐色 粘土ブロック多量、炭化粒子少量
- 6 黒褐色 ロームブロック、炭化粒子微量

第257号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 粘土粒子中量、炭化粒子微量

第258号溝跡土層解説

- 1 灰黄褐色 粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 灰黄褐色 粘土粒子多量、炭化粒子微量
- 3 褐色 粘土粒子多量
- 4 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量

第259号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 5 灰褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子微量
- 6 褐色 粘土粒子多量、ローム粒子微量

第260号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、粘土粒子微量
- 2 灰黄褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子微量
- 3 黒褐色 粘土ブロック・炭化物・炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化物微量

第317号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

第328・343号溝跡土層解説（重複部）

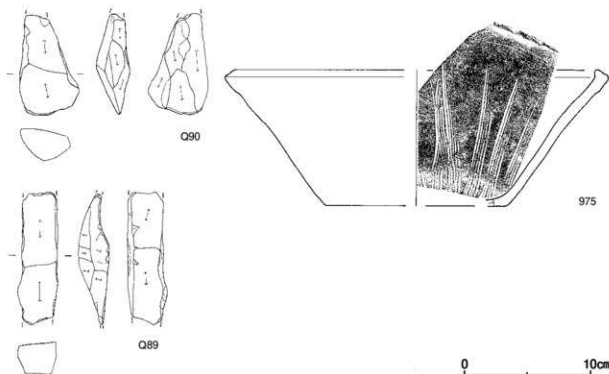
- 1 暗褐色 砂粒少量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 灰褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子少量

第342号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・砂粒微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・砂粒少量、焼土粒子微量
- 3 灰黄褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子・砂粒微量
- 4 にぶい褐色 粘土ブロック中量、ローム粒子微量

第345号溝跡土層解説

- 1 灰褐色 粘土ブロック多量、炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 3 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子微量



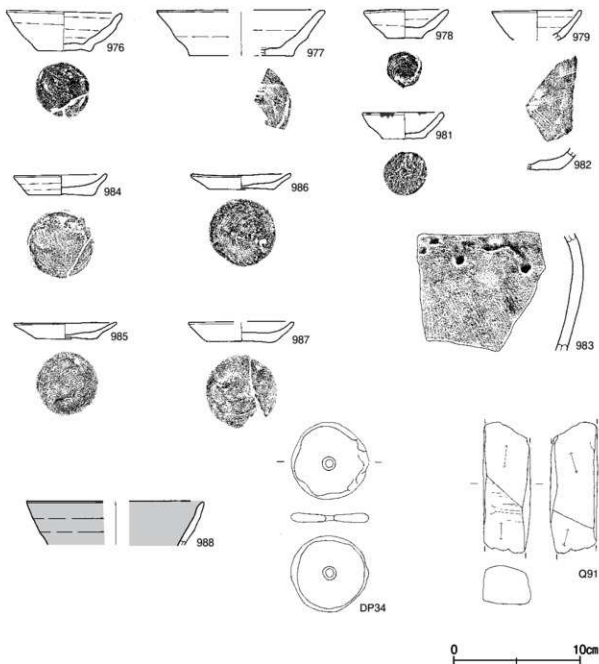
第477図 第4・10号溝跡出土遺物実測図

第4号溝跡出土遺物観察表 (第477図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q89	磁石	(10.6)	3.2	2.4	(84.0)	凝灰岩	端部欠損 裏面9面	覆土中	
Q90	磁石	(8.0)	4.7	2.7	(81.5)	凝灰岩	端部欠損 裏面9面	覆土中	

第10号溝跡出土遺物観察表 (第477図)

番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
975	土加蓋土器	楕円	[28.8]	10.8	[14.6]	黄緑・赤色砂子	[2.5]~[4]	普通	5条1単位の盛り目 体部外面ナデ	覆土中	10%



第478図 第14・16・19A・22・28A号溝跡出土遺物実測図

第14号溝跡出土遺物観察表 (第478図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
976	土加貫土器	皿	9.2	3.2	4.2	雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中	90%

第16号溝跡出土遺物観察表 (第478図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
977	土加貫土器	皿	[13.4]	3.6	[8.4]	赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り後ヘラナデ	覆土中	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q91	灰石	(10.4)	3.9	3.1	(127.1)	凝灰岩	摩部欠損 砥面4面	覆土中	

第19A号溝跡出土遺物観察表 (第478図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
978	土加貫土器	皿	6.7	2.3	2.8	雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り	覆土中	90% 成形に準 がぬ PL108
979	土加貫土器	皿	7.2	(2.4)	—	長石・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ	覆土中	50%

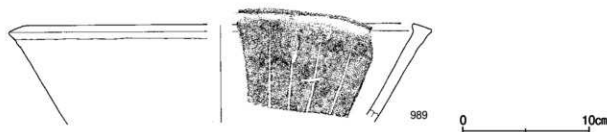
第22号溝跡出土遺物観察表 (第478図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
981	土加貫土器	皿	6.4	2.2	3.4	雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中	
982	瓦質土器	磁鉢	—	(1.7)	—	長石・石英・雲母	黄灰	普通	内面より素1単位の張り目 外面ナデ	覆土中	
983	磁器	甕	—	(9.3)	—	長石・雲母	にぶい・黄・赤黒	良好	外面磨き面 灰オリーブの自然釉	覆土中	常滑系

第28A号溝跡出土遺物観察表 (第478図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
984	土加貫土器	皿	7.3	1.7	5.2	砂粒・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口クロナデ 底部回転糸切り	覆土中	90% PL108
985	土加貫土器	皿	8.2	1.4	4.8	砂粒・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中	100%
986	土加貫土器	皿	7.9	1.2	5.1	長石・砂粒・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ナデ 底部回転糸切り	覆土中	95% PL108
987	土加貫土器	皿	8.4	1.5	5.6	赤色粒子	にぶい・橙	普通	体部内・外面ナデ 底部回転糸切り	覆土中	80%
988	磁器	碗	[14.3]	(3.5)	—	精良 灰釉	灰白・灰オリーブ	良好	口クロ成形 内・外面施釉	覆土中	10% 瀬口・美濃系

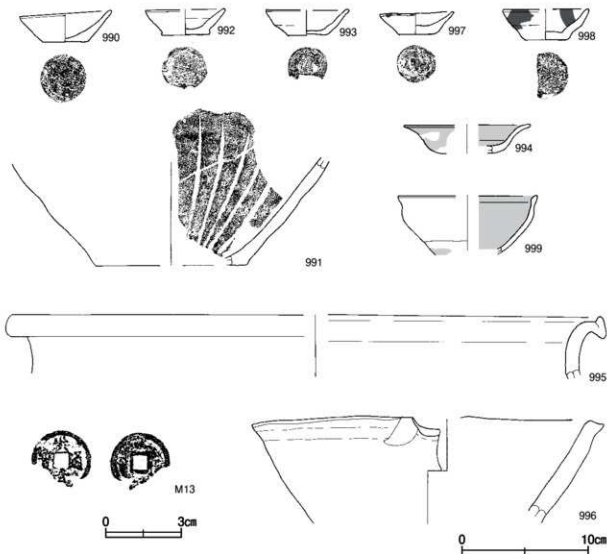
番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP34	紡錘車*	6.2	0.7	0.8	31.2	土製	平面形は四角 断面形は板状 全面ナデ	覆土中	



第479図 第28B号溝跡出土遺物実測図

第28B号溝跡出土遺物観察表 (第479図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
989	土加蓋土器	椀鉢	[30.1]	[7.8]	—	長石・石英	靑	普通	口唇部内側につまみ出し 底の掘り目 外面ナデ	覆土中	10%



第480図 第29・36・43・44号溝跡出土遺物実測図

第29号溝跡出土遺物観察表 (第480図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
990	土加蓋土器	皿	7.2	2.5	3.8	長石・赤色粘土・ 白色粘土	靑	普通	底部回転糸切り 体部内・外面滑減	覆土中層	90% 底面に印 9.5cm 印L108
998	土加蓋土器	椀鉢	—	[8.6]	[12.2]	長石・石英・ 黒緑・赤色粘土	靑	普通	内面1条1単位の掘り目 外面ナデ	覆土中	

第36号溝跡出土遺物観察表 (第480図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
992	土加蓋土器	皿	[6.2]	2.0	3.6	長石・黒母・赤色 粘土	靑	普通	体部内・外面ロケロナデ 底部回転糸切り 外面滑減	覆土中	70%
993	土加蓋土器	皿	[6.6]	2.0	3.2	長石・黒母・赤色 粘土	黒靑・ にぶい黄靑	普通	体部内・外面ロケロナデ 底部回転糸切り 内面滑減	覆土中	70%

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
994	陶器	緑反碗	[10.2]	(2.3)	—	精良 黒色粒子・灰釉	灰白・浅黄	良好	内・外面施釉	覆土中	30%瀬戸・美濃系

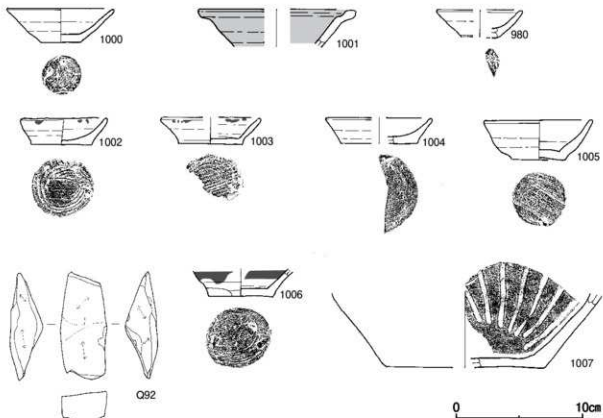
番号	銭種	径	孔幅	重量	初周年	材質	特徴	出土位置	備考	
M13	洪武通寶*	2.3	0.6	(1.5)	1368	銅	錯により3分の1ほど欠損	明銭 模範銭	覆土中	PL123

第43号溝跡出土遺物観察表 (第480図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
995	陶器	甕	[47.1]	(4.9)	—	長石	赤褐	良好	口辺部片 内・外面施ナゲ	覆土中	5%常滑系
996	陶器	片1鉢	[26.0]	(8.2)	—	長石・石英	赤褐	良好	片1部一部残存 内面磨らか 外面ナゲ	覆土中	10%常滑系

第44号溝跡出土遺物観察表 (第480図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
997	土加貫土器	皿	5.8	1.9	3.0	赤色粒子	にぶい黄緑	普通	体部内・外面ナゲ 底部回転糸切り残ナゲ	覆土中	90%口唇部清浄付着
998	土加貫土器	皿	[6.8]	2.4	3.8	雲母	灰褐	普通	体部内・外面口ロナゲ 底部回転糸切り	覆土中層	50%口唇部清浄付着
999	陶器	天目茶碗	[11.0]	(4.5)	—	精良 黒色粒子・灰釉	浅黄緑・赤黒	良好	内・外面施釉 外面半減	覆土中	20%瀬戸・美濃系



第481図 第47・63・136号溝跡出土遺物実測図

第47号溝跡出土遺物観察表 (第481図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1000	土加貫土器	皿	8.5	2.7	3.0	雲母・赤色粒子・白包粉子	橙	普通	体部内面半減外面口ロナゲ 底部回転	覆土中	90% PL108
1001	陶器	折縁皿	[12.6]	(3.0)	—	精良 灰釉	にぶい黄・にぶい黄緑	良好	内・外面施釉	覆土中	瀬戸・美濃系

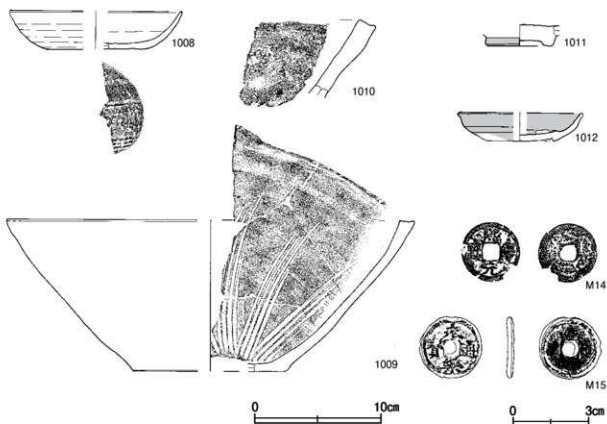
第63号溝跡出土遺物観察表 (第481図)

番号	種別	器種	口徑	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
980	土加貫土器	甕	[6.8]	2.1	[3.0]	赤色砂子	灰褐色	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	甕土中	20%

第136号溝跡出土遺物観察表 (第481図)

番号	種別	器種	口徑	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1002	土加貫土器	甕	6.9	2.1	4.9	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ スノコ取匠 底部回転糸切り	甕面	95% 1口部清浄付着
1003	土加貫土器	甕	[7.8]	2.2	[5.2]	赤母・赤色砂子	赤褐色	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り スノコ取匠	甕土中	20% 1口部清浄付着
1004	土加貫土器	甕	[8.6]	2.0	[6.2]	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後内面ナデ 底部回転糸切り	甕土中	30%
1005	土加貫土器	甕	8.9	3.3	4.2	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り スノコ取匠	甕土中	90% PL109
1006	土加貫土器	甕	—	[2.2]	5.2	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 下縁横ナデ 底部回転糸切り	甕土中	65% 内・外面清浄付着
1007	土加貫土器	播鉢	—	[5.8]	[12.8]	長石・石英・赤母	にぶい橙	普通	1条1単位の縞り目 外面ナデ 底部ナデ	甕土中	15%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q32	磁石	8.5	3.7	2.5	(77.7)	凝灰岩	端部角欠損 磁面4面	甕土中	



第482図 第143・201・211号溝跡出土遺物実測図

第143号溝跡出土遺物観察表 (第482図)

番号	種別	器種	口徑	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1008	土加貫土器	甕	[13.8]	3.1	[8.2]	長石・石英・赤母・赤色砂子	淡黄褐色	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	甕土中	20%
1009	土加貫土器	播鉢	[32.5]	12.1	[12.2]	石英・赤母・赤色砂子	にぶい橙	普通	体部内面4条1単位の縞り目 外面ナデ 底部ナデ	甕土中	15%
1010	陶器	片1琳	—	(6.2)	—	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	1辺部破片 体部内・外面ナデ 外面に清浄付着	甕土中	茶湯系 割体破片付着

第201号溝跡出土遺物観察表 (第482回)

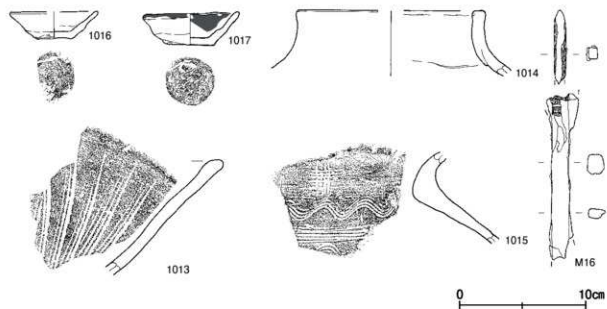
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1011	青磁	碗*	—	(1.8)	5.1	精良 青磁釉	灰白・明緑灰	良好	底部高台部り出し 内・外面施釉 貫入	覆土中	10%電氣窯*

番号	鉄種	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴		出土位置	備考
M14	照京元寶*	2.3	0.6	1.8	1098	鋼	4片に破砕	北宋銭 高巻	覆土中	PL123

第211号溝跡出土遺物観察表 (第482回)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1012	陶器	陶輪皿	(9.8)	2.3	5.4	精良 陶輪	灰白・ こぶい・青	良好	底面わずかに張り出し 内・外面施釉 内面状態にトナシ痕	覆土中	30%

番号	鉄種	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴		出土位置	備考
M15	永楽通寶	(2.4)	0.6	(6.6)	1408	鋼	錆により2枚接合 視認難	錆・摩滅により残存状況不良 明銭	覆土中	PL123



第483図 第212・215・216・217号溝跡出土遺物実測図

第212号溝跡出土遺物観察表 (第483回)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1013	土師質土器	磁鉢	—	(9.0)	—	長石・雲母	橙	普通	内面4葉1単位の張り目* 外面ナデ	覆土中	10%

第215号溝跡出土遺物観察表 (第483回)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1014	土師質土器	壺	(14.8)	(5.1)	—	長石・石英・ 雲母・赤色粘土	黄白	普通	口辺部片 内面輪積痕を残すナデ 外面ナデ	覆土中	
1015	土師質土器	葉*	—	(7.2)	—	長石・石英・赤色 粘土	橙	普通	葉部片 内面ナデ 外面に4葉の流状文 と5葉の輪状文 編目又は目目*	覆土中	

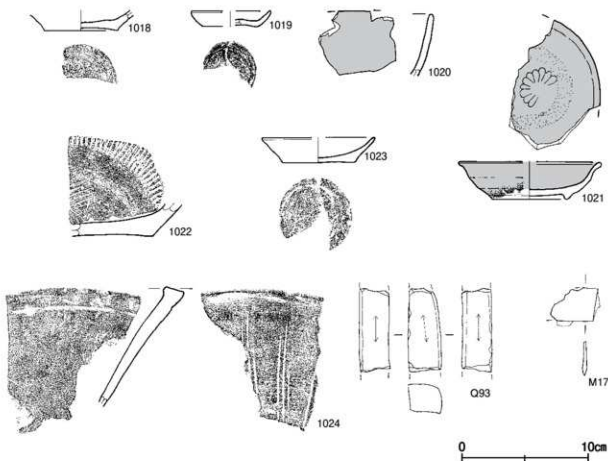
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
M16	型*	(19.9)	1.4	(0.8~ 1.5)	(83.3)	鉄	刃先欠損	差し込み部にわずかに木質残存	覆土中	

第216号溝跡出土遺物観察表 (第483回)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1016	土加蓋土器	皿	[6.8]	2.2	3.0	長石・黄母・赤色 粒土	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後継なナデ 底部 回転糸切り後ナデ	覆土中	40%

第217号溝跡出土遺物観察表 (第483回)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1017	土加蓋土器	皿	7.4	2.7	4.0	長石・黄母・赤色 粒土	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後継なナデ 底部 回転糸切り後ナデ	覆土中	100% 内・外面 流弊付着



第484回 第218・223・225・231・232・235号溝跡出土遺物実測図

第218号溝跡出土遺物観察表 (第484回)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1018	土加蓋土器	皿	—	[1.6]	[5.8]	長石・白英 黄母・赤色粒土	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回 転糸切り後ナデ	覆土中	10%

第223号溝跡出土遺物観察表 (第484回)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1019	土加蓋土器	皿	[6.2]	1.2	[4.4]	黄母・赤色粒土	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回 転糸切り後ナデ	覆土中	45%
1020	陶器	天目茶碗	—	[5.1]	—	精兵 白釉	黄褐・灰白	良好	11片部片・透明釉を施した後白釉を11 辺部身・外面に施す	覆土中	15% 瀬戸・美濃
1021	陶器	皿	[11.4]	3.0	6.2	精兵 灰釉	灰白・浅黄	良好	割り出し高台 高台内に二重の丸印文	覆土中	50% 瀬戸・美濃

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1022	陶器	磁鉢	—	(2.5)	—	長石	にぶい赤褐色	普通	内面7条1単位の縞り目 外面丁寧なナデ	覆土中	丹波系 <small>α</small>

第225号溝跡出土遺物観察表 (第484図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
M17	刃物作 <small>α</small>	(3.9)	2.6	0.3	(10.7)	鉄	刀身の一部 <small>α</small>	鍛錬され硬質	覆土中	

第231号溝跡出土遺物観察表 (第484図)

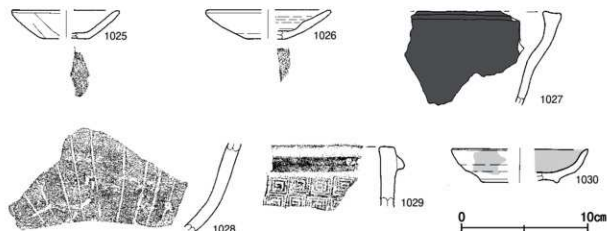
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1023	土師質土器	皿	(9.0)	2.0	6.0	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面ロラロナデナデ 底部回転車切り長ナデ	覆土中	70%

第232号溝跡出土遺物観察表 (第484図)

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
Q93	灰石	(6.6)	2.7	2.4	(68.9)	凝灰岩	両端部欠損	断面3面	覆土中	

第235号溝跡出土遺物観察表 (第484図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1024	土師質土器	磁鉢	(30.8)	(9.4)	—	長石・雲母	にぶい褐	普通	内面3条1単位の縞り目 <small>α</small> 外面ナデ 口辺部外面に1条の浅縦線文	底面	15%



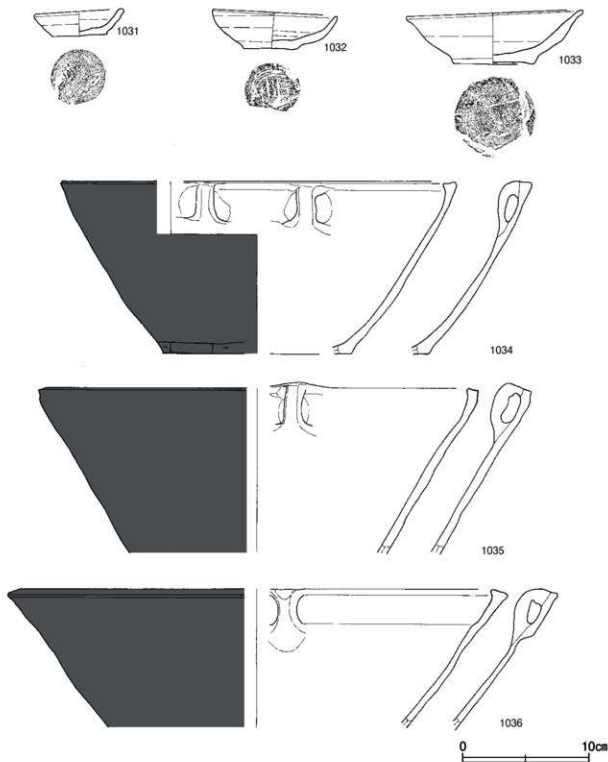
第485図 第236・244号溝跡出土遺物実測図

第236号溝跡出土遺物観察表 (第485図)

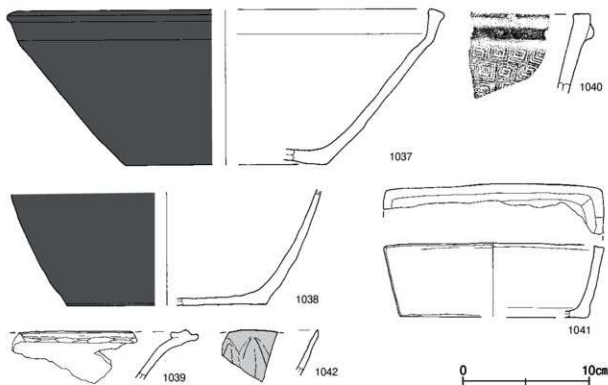
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1025	土師質土器	皿	(8.7)	2.3	(4.0)	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面ロラロナデナデ 外面にハナナデ裏 底部回転車切り	覆土中	20%
1026	土師質土器	皿	(9.9)	2.4	(3.5)	長石・石英・赤色砂子・小礫	橙	普通	体部内・外面ロラロナデ 底部回転車切り短ナデ	覆土中	15%
1027	土師質土器	内耳罎	—	(7.5)	—	長石・石英・雲母・赤色砂子	にぶい橙	普通	内面から1線部外面ナデ	覆土中	体部外面縦有者
1028	土師質土器	磁鉢	—	(7.2)	—	長石・石英・雲母・赤色砂子	灰褐色	普通	内面1条1単位の縞り目 外面ナデ	覆土中	

第244号溝跡出土遺物観察表 (第485図)

番号	種別	器種	口徑	器高	底径	胎土・胎色	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1029	土加貫土器	火鉢	—	(4.8)	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内面横ナデ 外面スタンプ文押印	覆土中	
1030	陶器	丸皿	[10.8]	2.7	(6.0)	精良 灰輪	淡黄・黒 ネリノリ色	良好	内面出し高台 内面全面扇輪 外面輪造り掛け	覆土中	20% 瀬戸・美濃系



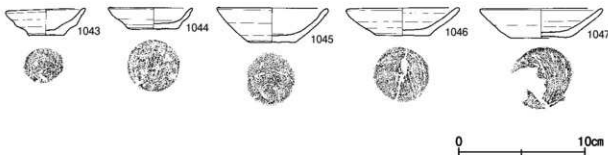
第486図 第239号溝跡出土遺物実測図(1)



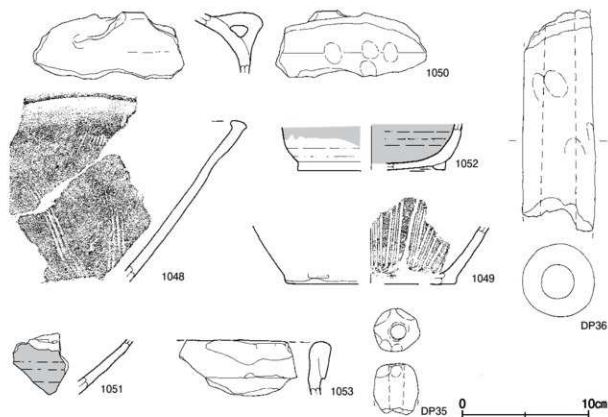
第487図 第239号溝跡出土遺物実測図(2)

第239号溝跡出土遺物観察表(第486・487図)

番号	種類	器種	1径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1031	土師質土器	皿	7.1	2.2	4.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	55% 成形に砂24%
1032	土師質土器	皿	9.9	3.2	4.4	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	55% 成形に砂24%
1033	土師質土器	皿	14.0	4.3	6.4	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	70% 成形に砂24%
1034	土師質土器	内耳罎	[31.2]	13.9	[15.0]	長石・雲母	にぶい橙	普通	2内耳残存 耳筋り付け 内・外面縞ナデ 体部下層部位のヘツ削り	覆土中	20% 体部外面保存者
1035	土師質土器	内耳罎	[35.1]	(13.7)	—	長石・雲母	にぶい橙	普通	2内耳残存 耳筋り付け 内面から1層部外面ナデ	覆土中	30% 体部外面保存者
1036	土師質土器	内耳罎	[37.8]	(11.1)	—	長石・石英・雲母	灰褐	普通	2内耳残存 耳筋り付け 内面から1層部外面ナデ	覆土中	15% 体部外面保存者
1037	土師質土器	内耳罎	[33.0]	12.4	[16.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	内面から1層部外面ナデ	覆土中	30% 体部外面保存者
1038	土師質土器	内耳罎	—	(9.0)	[16.0]	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内・外面ナデ	覆土中	15% 体部外面保存者
1039	土師質土器	瓢鉢 <small>9</small>	[24.6]	(3.8)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口唇部内外縞につまみ押し 前面下子状 掘り目不明 外面ナデ	覆土中	
1040	土師質土器	火鉢	—	(6.3)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	内・外面縞ナデ 外面スタンプ文押印	覆土中	
1041	土師質土器	火鉢	17.5	5.9	[14.9]	長石・石英・雲母	橙	普通	内・外面縞ナデ	覆土中	10%
1042	青磁	碗	—	(3.7)	—	精良 青磁釉	オリーブ灰・明緑色	良好	口辺部片 蓮弁文 内・外面輪軸	覆土中	電業品 <small>9</small>



第488図 第241号溝跡出土遺物実測図(1)

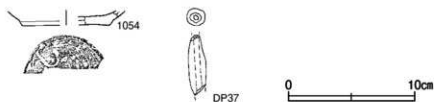


第489図 第241号溝跡出土遺物実測図(2)

第241号溝跡出土遺物観察表 (第488・489図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・施装	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1043	土質土器	甕	6.4	2.2	2.8	長石・赤色砂子	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナテ後内面ナテ 底部回転糸切り後ナテ	甕土中	95%成形に準がみ
1044	土質土器	甕	6.7	1.8	4.0	長石・白灰・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面口クロナテ 底部回転糸切り後ナテ	甕土中	85%
1045	土質土器	甕	8.9	2.8	3.7	石英・赤色砂子	灰白	普通	体部内・外面口クロナテ後内面ナテ 底部回転糸切り後ナテ	甕土中	100% PL110
1046	土質土器	甕	9.2	2.3	4.2	長石・赤灰・赤色砂子	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナテ 底部回転糸切り	甕土中	95%
1047	土質土器	甕	9.8	2.4	4.6	長石・石英・赤色砂子	淡赤橙	普通	体部内・外面口クロナテ 底部回転糸切り	甕土中	70%
1048	土質土器	摺鉢	[30.2]	[12.5]	—	長石・石英・赤色砂子	粉	普通	3条1單位の縞り目が交差	甕土中	体部外面保存否
1049	土質土器	摺鉢	—	[4.7]	[13.6]	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	3条1單位の縞り目 外面下端工具痕	甕土中	
1050	土質土器	茶碗	—	(4.9)	—	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	耳部筋引け後ナテ 内面指頭痕を残すナテ 外面ナテ	甕土中	
1051	陶器	青緑深鉢	—	(4.4)	—	精良 灰軸	灰白・オリーブ黄	良好	体部破片 外面オリーブ黄色の灰軸輪軸跡あり	甕土中	細口・美濃系
1052	陶器	鉄軸鉢	—	(3.8)	[11.8]	精良 鉄軸	灰白・オリーブ黄	良好	高右輪筋引け 体部内・外面オリーブ黄色の鉄軸輪軸	甕土中	15%瀬戸・美濃系
1053	陶器	羹	[25.5]	(4.3)	—	長石・石英・砂粒	灰赤	良好	内・外面ナテ	甕土中	常滑系

番号	器種	長さ	孔径	幅	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP35	管状土鉢	(4.1)	1.1	3.6	(45.4)	土製	一部欠損 壺玉形 全面ナテ	甕土中	
DP36	皿1	(17.7)	2.7	5.8	(370.3)	土製	両端部欠損 片端部火傷を受け赤変 外面指頭痕を残すナテ 一部保存状態で黒色に染色	甕土中	PL122

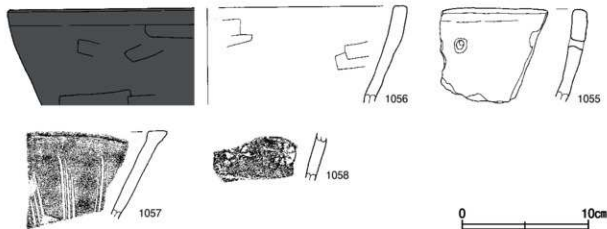


第490図 第245号溝跡出土遺物実測図

第245号溝跡出土遺物観察表（第490図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1064	土師貫土器	皿	—	(1.2)	(7.0)	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	縁部内・外面ロクロナデ 底面回転糸切り	覆土中	25%

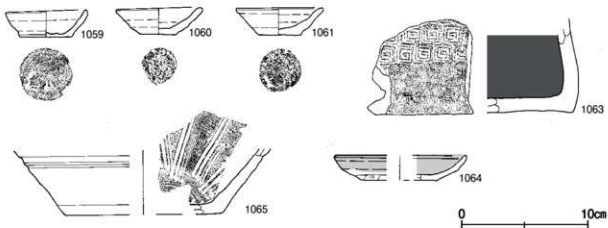
番号	器種	長さ	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP37	管状土師	(4.7)	0.4	1.4	(9.0)	土製	両端部欠損 紡錘形 全面ナデ	覆土中	



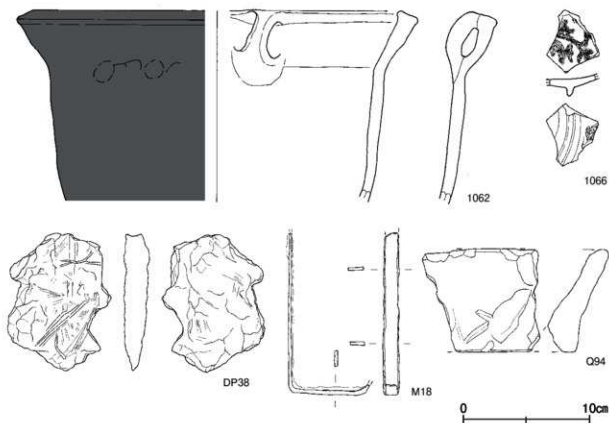
第491図 第251号溝跡出土遺物実測図

第251号溝跡出土遺物観察表（第491図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1055	土師貫土器	内耳鍋	—	(7.3)	—	長石・石英・雲母	明赤陶	普通	口唇部丸み 内・外面ナデ 外側から穿孔	覆土中	外面残付着
1066	土師貫土器	内耳鍋	(31.6)	(7.7)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	内・外面ヘラナデ後ナデ	覆土中	10% 外面残付着
1067	土師貫土器	深鉢	—	(7.0)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	内面3条1単位の罫り目 外面ナデ	覆土中	
1068	土師貫土器	火鉢	—	(3.4)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	内・外面ナデ 外面スタンプ文押印	覆土中	



第492図 第258号溝跡出土遺物実測図



第493図 第258・260号溝跡出土遺物実測図

第258号溝跡出土遺物観察表 (第492・493図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・施薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1059	土製土器	甕	6.3	2.2	4.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	甕土中	100%
1060	土製土器	甕	6.8	2.2	2.8	長石・石英・雲母	淡橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ	甕土中	100% PL110
1061	土製土器	甕	6.8	2.2	3.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	淡黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	甕土中	80%
1062	土製土器	内耳罎	[29.4]	(15.3)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	1内耳残存 耳陥り付け 内面ナデ 外面指節痕を残すナデ	甕土中	10% 外面残存否
1063	土製土器	火鉢	—	(7.5)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部破片 内面ナデ 外面スタンプ文押印	甕土中	10% 内面残存否
1064	陶器	丸皿	[10.4]	2.0	[5.8]	精製 長石・石英・黒色粒子	橙・灰白・明緑灰	良好	既い傾り出し高台 外面下位横段の周り内面全面施釉 外面施指節け	甕土中	20% 瀬戸・美濃系
1065	陶器	指鉢	—	(5.2)	[12.4]	精製 長石・黒色粒子	橙・灰白・明緑灰	良好	4条1単位の筋り目 外面下位に沈線	甕土中	瀬戸・美濃系

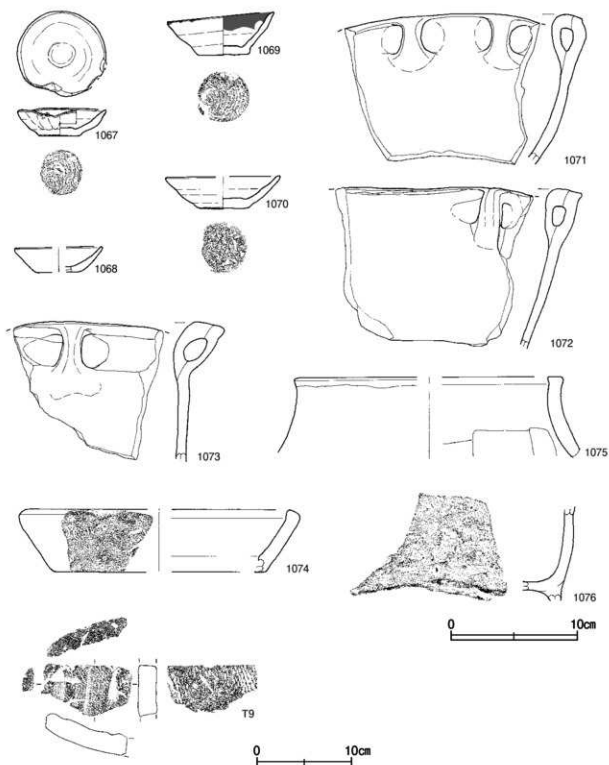
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP38	埴土*	(11.5)	(8.3)	(2.2)	(173.4)	土製	から状の糸痕 硬化した粘土塊	甕土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M18	不明(正金具*)	(12.9)	(6.5)	0.3	(36.9)	鉄	端部欠損 L字状の破片 高さ1.3cm	甕土中	

第260号溝跡出土遺物観察表 (第493図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・施薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1066	磁器	染付皿	—	(1.8)	[12.8]	精製 透明釉	灰白・明緑灰	良好	内・外面平花文	甕土中	10%

番号	器種	径	高さ	底径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q94	控鉢*	[18.8]	(8.2)	[13.8]	(163.0)	安山岩	口辺部の破片 内面磨り面状 外面調整痕	甕土中	



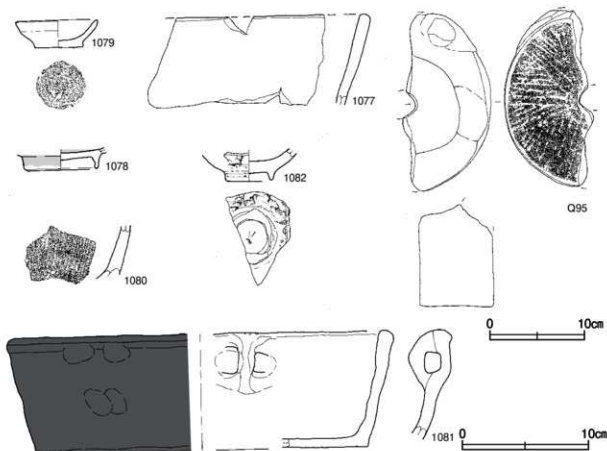
第494図 第318A号溝跡出土遺物実測図

第318A号溝跡出土遺物観察表 (第494図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1067	土加貫土器	皿	7.0	2.2	3.4	長石・雲母・赤色 粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	90% 欠損部に油煙付着
1068	土加貫土器	皿	(7.0)	2.0	[3.2]	長石・雲母・赤色 粒子・砂粒	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り	覆土中	30%
1069	土加貫土器	皿	8.5	3.4	4.2	長石・石英・赤色 粒子	灰白	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	70% 底面に赤みが 1.5cm厚み付着

番号	種別	器種	口徑	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1070	土胎土器	皿	[9.1]	2.6	4.0	長石・雲母・赤色 粒子	浅黄緑	普通	体部内・外面ローラテ 与後ノ家ナデ	覆土中	40%
1071	土胎土器	内耳罎	[30.0]	(12.0)	—	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	2内耳残存 耳貼り付け 内面から口縁部 外面ナデ	覆土中	15% 体部外面 張り着
1072	土胎土器	内耳罎	[32.4]	(12.6)	—	長石・石英・雲母・赤色 粒子	橙	普通	1内耳残存 耳貼り付け 内面から口縁部 外面ナデ	覆土中層	15% 体部外面 張り着
1073	土胎土器	内耳罎	—	(11.1)	—	長石・石英・雲母・赤色 粒子	橙	普通	1内耳残存 耳貼り付け 内面から口縁部 外面ナデ	覆土中	10% 体部外面 張り着
1074	土胎土器	香炉*	[22.4]	5.0	[16.8]	長石・石英・雲母・赤色 粒子・少塵	にぶい赤褐	普通	内・外面ナデ 外面にスタンプ文	覆土中	10%
1075	土胎土器	甕	[21.6]	(6.6)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	内面ヘラナデ後ナデ 外面ナデ	覆土中	
1076	土胎土器	火鉢	—	(7.5)	—	長石・石英・雲母・赤色 粒子	橙	普通	体部下位の破片 内面緑ナデ 外面厚減	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
T 9	平瓦	(5.4)	(8.4)	2.3	(138.8)	長石・石英・雲母・赤色 粒子	凸面に縄状の印 之欠色 凹面に布目痕 一部厚減痕 外面・胎 土欠色	覆土中	古代 PL121



第495図 第342・343・345号溝跡出土遺物実測図

第342号溝跡出土遺物観察表 (第495図)

番号	種別	器種	口徑	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1079	土胎土器	皿	6.4	2.2	3.8	雲母・赤色 粒子	浅黄緑	普通	体部内・外面ローラテ 与後ノ家ナデ	覆土中	65%
1080	土胎土器	内耳罎	—	(4.2)	—	長石・石英・雲母・赤色 粒子	黒褐	普通	体部破片 内面ナデ 外面破位の のり目	覆土中	

第343号溝跡出土遺物観察表 (第495図)

番号	種別	器種	口徑	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1077	土胎土器	内耳罎	—	(7.2)	—	長石・石英・雲母・赤色 粒子・塵	橙・暗赤褐	普通	口辺部片 口部部を及ぶ 打込み 内面から口縁部 外面張り着ナデ	覆土下層	10% 欠色*

番号	種類	器種	口径	器高	口径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1081	土師貫土器	内耳罐	[29x1]	9.3	[26x4]	白身・青緑・赤色 絞子	明赤陶	普通	土内耳残存 内面から口縁部外面面割れ 底残土塊あり	甌土中層	15%炭化物・赤 鉄質
1078	陶器	丸皿*	—	(16)	5.6	精良 灰釉	灰白・灰白	良好	磨りだし高台 内・外面輪飾 内面貫土	甌土中	20%黒土・灰濁 赤

番号	器種	径	口径	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q95	石臼 (上臼)	[19x6]	[2x4]	(7x8)	(2098)	安山岩	下側8条1單位の磨り目 輪受け横打品孔残存	甌土中	PL116

第345号溝跡出土遺物観察表 (第495図)

番号	種類	器種	口径	器高	口径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1082	陶器	梨形皿	—	(26)	(3x6)	精良 透明釉	灰白・灰白	良好	男前草文 磨りだし高台 底受け横打品孔残存 内・外面輪飾	甌土中	10%肥前系

表24 中世溝跡一覧表

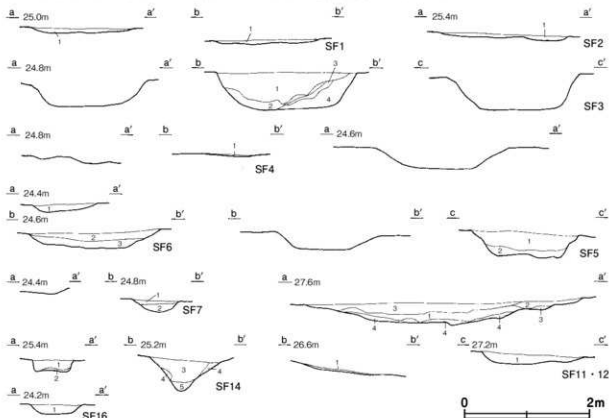
番号	位置	方向	形状	規模 (m, 深さ14cm)			壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (新旧関係 目→新 同列は同時期)	
				長さ	上幅	下幅						深さ
2	K 3 a0~K 4 a1	N-84°-E	ほぼ直線状	7.0	0.31~1.12	0.12~0.59	15~50	外傾	平直	自然	—	SH→本跡、SK25
3	K 3 c0~K 4 b3	N-45°-E	直線状	(16.4)	1.17~2.40	0.25~1.40	30~31	縦斜	直状	自然	土師貫土器、石器	UP1→本跡
4	J 4 12~K 4 b6	N-57°-W	緩曲線状	(22.6)	1.02~2.00	0.26~0.62	43~71	縦斜	平直	人為	—	本跡、SD3→SD13
5	J 4 13~J 4 j0	N-97°-E	直線状	(32.0)	0.76~2.38	0.22~1.19	46~77	外傾	平直	自然	土師貫土器	SD4-10A、22→ 本跡→SD13、SK327
6	K 4 c2~K 4 e4	N-107°-E	ほぼ直線状	9.8	0.58~2.32	0.41~2.10	23~51	外傾	平直	人為	土師貫土器	本跡、SK76
8	K 3 f0~K 3 b9	N-29°-E	直線状	(9.0)	0.91~1.75	0.46~1.20	45	縦斜	直状	人為	—	UP5→本跡、SD14 →SK75-104、SD13
9	L 3 d8~L 4 j2	N-38°-W	直線状	(27.6)	2.00~5.40	0.40~0.80	38~62	縦斜	直状、 平直	人為	土師貫土器、陶器、 石器、銅、鉄、鉛、銀	本跡、SK28→ 第1号土溝跡
10	L 3 c7~L 3 c9	N-132°-E	直線状	(11.2)	0.45~1.08	0.07~0.48	20~25	縦斜	直状	自然	—	本跡→SK157
11	K 5 e2~K 5 e4	N-70°-W	直線状	(7.6)	0.78~0.84	0.14~0.36	18	縦斜	平直	人為	—	本跡、SD25→55→ SD16
12	K 3 j8~L 3 a7	N-37°-E	直線状*	(5.2)	0.37~0.45	0.26~0.32	32	外傾	平直	人為	土師貫土器、陶器、 石器	本跡→SK29
14	K 3 f0~L 4 a7	N-128°-E	直線状	(33.7)	0.92~1.18	0.20~0.69	43~65	縦斜	直状	自然	土師貫土器	本跡、SE29、SD66、 SF3→SF1、SD12
16	K 4 d6~K 6 e2	N-94°-W N-73°-W	緩曲線状	(67.9)	1.64~2.60	0.30~0.80	68~93	縦斜	平直	自然	土師貫土器、石器	SD 32 器 類 3202 器 類 33→44、SD35 器 類 3202 器 類 33→59、SD35 器 類 32→59、SD35 器 類 3202 器 類 32→59、SD35 器 類 32→59、SD35 器 類 3202 器 類 32→59
19A	J 4 j8~L 5 b7	N-37°-W	直線状	(60.4)	0.36~1.32	0.20~0.84	10~33	縦斜	平直	自然	土師貫土器、石器	本跡、SD30、W79、 SD129-131A-144-170
19B	L 5 e9~M 6 b4	N-35°-W	直線状	(33.0)	0.76~1.72	0.20~0.60	21~36	縦斜	直状、 平直	人為	土師貫土器	SD40→44、SD 32、SD1- 2、SD3→59、SD30
20	J 5 a9~K 6 b2	N-163°-E	直線状	(41.0)	1.47~2.71	0.42~1.29	60~71	縦斜	直状	自然・ 人為	—	SD129-131A-144-170
21	J 6 j1~K 6 a1	N-7°-E	直線状	2.40	0.54~0.69	0.19~0.22	26	外傾	直状	自然	—	本跡、SD20
22	J 4 j0~K 6 b2	N-77°-W	直線状	(49.8)	2.74~4.56	0.76~1.64	84~153	外傾	平直	自然・ 人為	土師貫土器、瓦質土器、 銅器、瓦、石器	SD10→64
25	K 5 d3~K 5 b1	N-150°-W	直線状	(21.3)	1.40~2.04	0.16~0.42	46~56	縦斜	直状、 平直	人為	土師貫土器、陶器、石器	本跡、SD41-46-89A- 89B、W19、W19、W19
26	K 5 b1~L 5 d9	N-59°-W	蛇行・ 直線状	(36.0)	1.70~3.45	0.10~0.20	40~59	縦斜	直状	自然	土師貫土器、瓦質土器、 銅器、石器	SD19A-28B-29→本 跡、SD42-54-56-57
27	K 5 g2~K 5 f7	N-67°-W	直線状	22.3	0.20~0.48	0.10~0.21	16~21	縦斜	平直	自然	—	SD19A→本跡→ SB12
28A	K 6 e4~L 5 a0	N-45°-E	直線状	(28.2)	1.58~6.00	0.38~1.10	106	縦斜	平直	自然	土師貫土器、石器、 銅器	SE26→本跡、SD16→ 新土溝
28B	L 5 b6~K 5 j0	N-136°-W N-141°-E	鉤の手状	(14.4)	1.60~2.26	0.30~1.00	116	縦斜	直状	自然	土師貫土器	本跡、SD24-25、SD26→ SD33a-28→SK66
29	K 6 f3~L 5 e8	N-38°-E	直線状	(35.3)	1.04~2.22	0.10~0.74	38~66	縦斜	直状	不明	土師貫土器、石器	本跡、SD28-31A、 SK407→SD28
31	M 4 e2~M 4 b5	N-40°-W N-115°-W	鉤の手状	19.4	1.26~[21.4]	0.36~0.72	21~46	縦斜	直状	自然	土師貫土器	本跡、SE41-43
32	M 4 d2~M 4 d5	N-55°-W N-150°-W	鉤の手状	12.1	0.40~1.70	0.19~0.62	9~36	縦斜	直状	自然	土師貫土器	本跡、SE41-43
33	M 4 c1~M 4 g7	N-41°-W	ほぼ直線	(17.6)	0.91~1.68	0.40~1.21	17~32	縦斜	直状	自然	—	WT11→本跡、SD36 →SF4→SF13
34	M 4 e7~M 4 e8	N-39°-W	鉤の手状	(7.4)	0.44~0.96	0.15~0.68	6~12	縦斜	直状	自然	—	本跡、WT14→PG3

番号	位置	方向	形状	規模 (m, 深さ12cm)				壁面	底面	覆土	主な出土物	備考 (詳細は別添)
				長さ	上幅	下幅	深さ					
36	L 5 c3-L 5 h1	N-156-W	直線状	18.3	1.20-1.62	0.20-0.55	30-42	縦割	平坦	自然	土質質土部、陶器	本跡、W78、SD47
37	L 4 c5-L 4 d6	N-120-E	直線状	(6.5)	0.32-1.20	0.14-0.36	14	縦割	崖状	自然	土質質土部	本跡、SD66
38	L 4 d5-L 4 f7	N-47-W	直線状	11.2	0.10-0.52	0.08-0.26	10	縦割	平坦	自然	—	本跡、SD66
39	K 4 h8-K 4 i9	N-132-E	直線状	(7.0)	0.61-0.80	0.27-0.65	14-17	縦割	崖状	不明	土質質土部	本跡、SD56-5K294
42	K 5 j3-L 5 h2	N-20-E	直線状	(6.5)	0.65-1.03	0.12-0.60	20-22	縦割	傾斜	自然	土質質土部、瓦質土部、陶器	本跡、SD26-66
43	M 3 a9-M 4 c1	N-133-E	直線状	(11.8)	0.70-1.14	0.35-0.60	15-22	縦割	崖状	自然	土質質土部	本跡、SE40
44	L 5 a5-L 5 d8	N-52-W	直線状	(15.3)	0.62-1.16	0.22-0.48	30-32	縦割	平坦	自然	土質質土部	—
45	L 4 b0-L 4 c8	N-49-E	直線状	(8.8)	0.60-0.90	0.18-0.62	7-15	縦割	崖状	自然	土質質土部	本跡、SD58-67、SE31
46A	L 4 j0-M 5 h2	N-38-W	直線状	(16.0)	0.85-3.80	0.20-0.90	28-40	縦割	平坦	自然	土質質土部、瓦質土部	本跡、SD60-50A-51、52-53、45、SK482
46B	M 5 c2-M 5 d1	N-24-E	直線状	(6.5)	1.04-1.12	0.60-0.70	26-42	縦割	崖状	自然	土質質土部、陶器、磁石、石部	本跡、SD46A-146
47	L 5 g1-L 5 j3	N-34-W	直線状	(11.7)	1.12-1.28	0.26-0.48	46-53	縦割	平坦	自然	土質質土部、瓦質土部、陶器	本跡、SD36
50A	M 4 b4-L 4 i0	N-138-W N-52-W	胸の手状	34.5	1.16-2.61	0.21-1.14	33-54	縦割	崖状	自然	土質質土部、陶器、磁石、瓦片	SE30-E-本跡、SD6A-309-51、52-57
50B	M 4 c2-M 4 e4	N-135-W	直線状	(6.8)	2.20	1.60	110	外堀	崖状	自然	土質質土部	本跡、SD50A、SE11
51	L 4 i0-M 5 a2	N-39-W	直線状	(11.7)	1.65-2.00	0.52-1.19	62-74	縦割	平坦	自然	土質質土部、陶器	SE14-本跡、SD64-50A-53
52	L 4 j9-M 4 a0	N-35-W	直線状	9.3	1.20-2.80	0.54-1.15	32-44	縦割	崖状	自然	土質質土部、陶器、青磁、石部、石製品	ST10-本跡、SD6A-50A-55K480
53	L 4 i0-M 5 a2	N-39-W	直線状	(11.3)	0.60-1.15	0.20-0.34	22-30	縦割	平坦	自然	土質質土部、石部	本跡、SD46A-50A-51
54	K 5 i1-L 4 a0	N-150-W	直線状	(11.6)	0.74-0.92	0.21-0.48	14-25	縦割	傾斜	自然	土質質土部	本跡、SD26-57-60
55	K 5 c2-K 5 h1	N-154-W N-130-E	胸の手状	(24.3)	0.42-1.00	0.18-0.55	10	縦割	崖状	自然	—	SD16-19A-本跡、SD11-25-56
56	K 5 h1-L 4 a7	N-55-E	弓状	(1.9)	0.50-1.20	0.10-0.90	36-40	縦割	崖状	自然	土質質土部、陶器	本跡、SD25-26-39-55-67
57	K 5 h1-L 4 a8	N-127-W	直線状	(16.4)	0.95-1.66	0.50-0.90	18-35	縦割	平坦	自然	土質質土部、陶器、磁石、石部、石製品	本跡、SD25-26-54-55-67
58	L 4 e9-L 5 e1	N-55-W	直線状	(14.1)	1.18-1.54	0.44-0.98	10	縦割	崖状	自然	—	本跡、SD45-58B-19
60	L 4 j9-L 4 j0	N-114-W	直線状	(4.2)	0.70-0.80	0.38-0.62	40	縦割	平坦	自然	土質質土部	本跡、SD54-57
63	K 5 e1-K 6 i2	N-71-W	ほぼ直線状	(35.0)	0.66-1.36	0.36-1.04	26	縦割	平坦	自然	土質質土部	本跡-SD16
65	J 4 g0-J 4 j0	N-178-W	直線状	(11.2)	2.16-2.42	0.38-0.54	55	縦割	崖状	自然	土質質土部、陶器	本跡-SD22
66	L 4 f7-L 5 d8	N-75-W N-207-W	直線・曲線	(67.0)	0.85-1.60	0.20-1.05	50-65	縦割	崖状	自然	土質質土部、陶器	SP4、W7-8、W3、SD17、SD45、75-78、SK48
67	L 4 a8-L 5 e4	N-75-W	ほぼ直線状	(23.0)	0.98-1.30	0.20-0.35	35-45	縦割	崖状	自然	—	本跡、SD45-66、W7-8、SK459
100	L 5 g8-L 5 h8	N-47-E	直線状	(2.7)	0.31-0.47	0.10-0.25	9-21	縦割	崖状	自然	—	本跡、SD149
113	G 8 i9-G 9 i0	N-118-E	直線状	(16.1)	0.88-1.41	0.32-0.80	38-58	外堀	平坦	自然	陶器、磁石	SE33-本跡
120	M 6 c3-L 6 i6	N-147-W	直線状	(24.6)	1.20-1.25	0.20-0.65	60-66	縦割	平坦	自然	土質質土部	本跡、SD18-122-121-125、SK120
121	L 6 a2-L 6 i6	N-140-W	直線状	(6.8)	1.14-1.36	0.22-0.36	48	縦割	平坦	自然	土質質土部	本跡、SD120-122-123A
122	L 6 e2-L 6 i6	N-135-E	ほぼ直線状	(22.0)	0.82-1.26	0.30-0.50	36-58	縦割	崖状	自然	土質質土部、陶器	本跡、SD121-122B-127
123A	L 6 d1-L 6 i9	N-155-W N-130-E	胸の手状	(30.0)	1.21-2.12	0.18-0.54	40-62	縦割	崖状	自然	土質質土部	本跡、SD121-123B、SK900-901
123B	L 6 b1-L 6 d4	N-53-W	直線状	(14.4)	1.70-1.96	0.36-0.56	88	縦割	平坦	自然	土質質土部	本跡、SD123A-123A
124	L 6 f2-L 6 i5	N-169-E	直線状	(23.3)	0.40-1.04	0.12-0.44	16-20	縦割	平坦	自然	土質質土部	本跡、SD120-127
125	L 6 f2-M 6 a5	N-157-E	直線状	(24.1)	0.50-0.68	0.18-0.38	20-30	縦割	傾斜・平坦	自然	—	SK900+本跡、SD120-127-5K922
126	L 6 f2-L 6 i5	N-49-W	直線状	(24.0)	0.50-0.68	0.18-0.38	20-30	縦割	傾斜・平坦	自然	—	本跡、SD127、W11
127	L 5 e0-L 6 i2	N-34-W	直線状	(14.0)	0.92-1.80	0.18-0.90	41-60	縦割	崖状	自然	土質質土部、陶器、青磁、石部、木片	本跡、SD122-124-125-126-131A
128	L 5 i9-M 5 h7	N-137-W	直線状	13.4	0.60-0.96	0.12-0.36	10-18	縦割	崖状	自然	土質質土部、瓦片	SE28-本跡
129	M 5 a8-M 5 h7	N-136-W	直線状	4.2	0.56-0.66	0.13-0.27	14	縦割	崖状	自然	土質質土部	本跡、SD130
130	L 5 j1-M 5 h7	N-61-W	直線状	(12.6)	1.80-2.66	0.43-0.71	29-71	縦割	崖状	自然	土質質土部	本跡、SD128-129-133
131A	L 6 b1-L 5 f9	N-142-W	直線状	(13.4)	1.18-1.56	0.64-1.22	30-58	外堀	平坦	自然	土質質土部	本跡、SD180-123B-127、M79-5K972
131B	L 5 h7-L 5 f9	N-142-W	直線状	(10.6)	0.42-0.74	0.12-0.42	6-10	縦割	崖状	自然	—	本跡、SD144-149-171
133	M 5 a5-M 5 h5	N-28-E	直線状	3.5	0.98-1.29	0.54-0.76	41-46	外堀	平坦	自然	土質質土部	本跡、SD130
134	M 5 a2-L 5 h6	N-55-W	直線状	(22.4)	1.60-2.10	0.40-0.80	45-48	縦割	平坦	自然	土質質土部、瓦質土部、磁石、石部	SD44-94G+本跡、SD138-5K304、PG43
135	M 6 e2-M 6 f1	N-41-E	U字状	(6.0)	2.12-3.84	0.40-0.79	60-90	縦割・外堀	崖状・平坦	自然	土質質土部、陶器、瓦片、石部、石製品	本跡、SD137-147

番号	位置	方向	形状	規模 (m, 深さはcm)				壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (副都府長 引一新 同列は同時期)
				長さ	土幅	下幅	深さ					
311	K 6 65-J 7 h1	N-132°-W	直線状	(31.8)	0.22-1.52	0.08-0.32	40-92	縦斜	崖状	人為	—	本跡, SD006-310-313 312-316-322-SD100
312	J 6 b8-J 6 b 8	N-3°-W	直線状	(8.3)	0.40-1.12	0.30-0.78	24-36	縦斜	平州	人為	—	本跡, SD006-309- 310-311
313	K 6 a8-J 7 j 2	N-80°-W	ほぼ直線状	(16.2)	0.90-1.30	0.50-0.86	30	縦斜	崖状	人為	土質貫土器	本跡, SD011
315	J 6 j 9-J 6 j 0	N-82°-W	直線状	(5.2)	0.82-0.96	0.40-0.50	30	縦斜	崖状	人為	土質貫土器	本跡, SD211-312
316	J 6 i 8-J 7 g 1	N-113°-W	ほぼ直線状	24.8	0.76-1.52	0.52-1.00	32-45	外傾	平州	人為	土質貫土器, 陶器, 石器	本跡, SD211-312
317	J 7 j 6-K 6 b 8	N-100°-W	直線状	(30.4)	0.60-1.80	0.32-1.80	12-20	縦斜	平州	自然	—	SK1542-本跡・ SD314
318A	J 7 d 9-J 7 f 4	N-115°-W	直線状	(22.4)	0.88-1.61	0.88-1.61	41-68	縦斜	平州	人為	土質貫土器, 陶器	本跡, SD006-318B
318B	J 7 e 6-J 7 f 5	N-120°-W	直線状	(7.5)	0.26-0.44	0.26-0.44	21	外傾	平州	人為	土質貫土器	本跡, SD318A
319	J 7 i 1-J 7 g 1	N-162°-W N-74°-W	緩曲線状	17.8	0.46-1.15	0.26-0.72	10	縦斜	平州	自然	土質貫土器	—
320	K 6 e 1-K 6 4 5	N-61°-W	ほぼ直線状	(4.6)	(0.98)	0.54-0.80	90	縦斜	崖状	人為	—	本跡, SD309-310
321	J 6 b 6-J 6 a 0	N-83°-E N-97°-E	緩曲線状	(16.0)	0.80-1.42	0.30-0.74	32-52	縦斜	平州	人為	土質貫土器, 陶器	本跡, SD077-311- 313-314, W175
322	K 6 d 5-K 6 a 8	N-152°-W	直線状	(10.6)	0.78-0.85	0.60-0.70	30	縦斜	崖状	自然	—	本跡, SD311
323A	J 6 a 3-J 6 i 9	N-87°-E	ほぼ直線状	(26.3)	0.94-1.86	0.36-0.64	30-41	縦斜	平州・ 崖状	人為	土質貫土器, 陶器, 石器	本跡, SD004-305- 323B-324-330-333-334
323B	J 6 j 7-J 6 i 9	N-75°-E	直線状	(4.5)	0.88-1.10	0.30-0.48	28	縦斜	崖状	人為	土質貫土器, 陶器	本跡, SD005-323A
324	J 6 a 5-J 6 i 8	N-26°-E N-35°-E	蛇行	(21.5)	0.54-1.40	0.15-0.60	16-90	縦斜	平州	人為	土質貫土器, 陶器	本跡, SD005-323A・ 331
325	H 6 g 9-J 6 i 9	N-16°-E N-84°-W	鉤の手状	54.6	2.76-4.20	0.40-1.12	80-180	縦斜	崖状	人為	土質貫土器, 陶器, 土製品, 石器, 鉄片	SK333 325-418 SD30- 325-326-327, 329-330- 331-332
326	J 6 i 8-J 7 e 2	N-77°-E	直線状	(16.1)	1.68-2.76	0.20-1.36	70-81	縦斜	崖状	人為	土質貫土器	本跡, SD189-236・ 241-245-247
327	J 6 g 9-J 7 i 0	N-66°-E N-117°-E	鉤の手状	(56.7)	3.44-5.24	3.04-4.24	12-48	縦斜	崖状	人為	土質貫土器, 石臼, 砥石	SD144 土質貫土器SD30- 321-322-326-328, 330
328	J 6 e 2-J 6 i 7	N-84°-W	直線状	(21.6)	0.83-1.60	0.17-0.90	11-21	縦斜	崖状	人為	土質貫土器, 陶器	本跡, SD325-343
329A	J 6 i 9-J 7 f 2	N-56°-E	直線状	11.2	1.24-2.42	0.56-1.20	15	縦斜	崖状	自然	土質貫土器, 陶器, 石器	本跡, SK327・ 329B・337
329B	J 6 g 9	N-30°-E	直線状	(4.5)	1.12-1.22	0.70-0.80	—	—	—	人為	土質貫土器	本跡, SK329AC
329C	J 6 g 9-J 6 i 9	N-10°-E	直線状	(4.0)	0.40-0.92	0.10-0.30	20	縦斜	崖状	人為	土質貫土器	SK1363-本跡, SK325-329A/B
330	J 6 i 4-J 6 a 1	N-57°-W	直線状	(4.0)	1.10-1.16	0.66-0.92	30	縦斜・ 外傾	平州	自然・ 人為	土質貫土器	本跡, SD005-323A
331	J 6 j 9-J 7 c 3	N-114°-E	緩曲線状	(15.9)	0.54-1.30	0.24-0.94	20-40	縦斜	平州	人為	土質貫土器, 石器, 瓦	本跡, SK321・333・ 334
333	J 6 j 9-J 7 c 3	N-103°-W N-172°-W	曲線	(28.6)	1.74-2.40	0.48-1.12	34-48	縦斜	平州	自然	—	SD24→本跡, SK1006- 323-324, 331-334
334	J 6 b 6-J 6 i 0	N-26°-E N-34°-E	蛇行	(26.6)	1.50-1.80	0.28-1.20	20-60	縦斜	平州	人為	土質貫土器	本跡, SD035-321-321A・ 321-325-331-335-341-346
335	J 7 j 3-J 7 i 4	N-55°-W	U字状	(32.7)	1.50-2.38	0.46-1.70	48-82	縦斜	平州	人為	土質貫土器, 陶器, 石器, 土片, 鉄片	本跡, SD334-339・ 344
337	J 7 e 2-J 7 g 1	N-24°-E	直線状	(8.0)	0.96-1.47	0.16-0.68	58-103	縦斜・ 外傾	崖状	人為	土質貫土器	本跡, SE12→本跡, SD187-227-329A
338	J 7 i 3-J 7 g 2	N-28°-E	直線状	(7.1)	1.08-1.36	0.52-1.06	29	縦斜	平州	人為	土質貫土器	本跡, SD189-327
339	J 7 g 5-J 7 i 4	N-29°-E	直線状	(7.1)	1.20-1.35	0.60-0.94	44-58	縦斜	平州	人為	土質貫土器, 陶器, 石器	本跡, SD189-327・ 335-344
341	J 6 b 2-J 6 e 6	N-105°-E	直線状	(14.5)	0.86-1.36	0.22-0.55	7-20	縦斜	崖状	人為	土質貫土器, 石器, 鉄片	—
342	J 6 e 3-J 6 e 7	N-90°-E	直線状	(15.1)	0.98-1.58	0.60-1.06	16-45	縦斜	平州	人為	土質貫土器, 石器, 鉄片	本跡, SE9
343	J 6 i 2-J 6 i 5	N-88°-E	直線状	(8.3)	0.68-1.64	0.32-1.10	21-40	縦斜	平州	人為	土質貫土器, 石器	本跡, SD000-328
344	J 6 g 9-J 7 i 4	N-65°-W N-47°-E	鉤の手状	(23.5)	1.60-3.84	—	06-100	縦斜	平州	一人為	土質貫土器	本跡, SD100-196A・ 256-327
345	J 7 b 1-J 7 c 3	N-26°-E	直線状	(13.8)	0.54-1.42	0.18-0.72	40-76	縦斜	崖状・ 平州	人為	土質貫土器, 陶器	本跡, SD100-196A・ 256-327
346	J 6 e 6-J 6 d 7	N-5°-W	直線状	(4.3)	0.62-1.36	0.38-0.73	13	縦斜	崖状	自然	—	本跡, SD334
347	K 6 b	N-67°-W	直線状	(2.3)	0.90-1.20	0.44-0.54	60	外傾	平州	人為	—	本跡, SD309
348	H 6 j 2-J 5 f 0	N-166°-W	直線状	(25.4)	—	0.18-0.40	34-50	—	—	不明	—	本跡, SD204-209B・ 300

(8) 道路跡

中世後半以降から機能していたと考えられる道路跡は、11条確認されている。いずれも当遺跡内で現在の土地境と一致している16世紀代の溝跡と同様に、近世以降も機能していた可能性が高いため、時期は中世とは断定できず、中・近世以降としておきたい。一覧表と全体図で紹介し、あわせて実測図と土層解説を記載する。また、図示した遺物については、出土遺物観察表で記載した。



第496図 第1～7・11・12・14・16号道路跡実測図

第1号道路跡土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量、砂粒微量

第2号道路跡土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第3号道路跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
 2 暗褐色 砂粒少量、ローム粒子・炭化粒子微量
 3 褐色 ローム粒子少量
 4 灰褐色 ローム粒子・砂粒少量

第4号道路跡土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・砂粒微量

第5号道路跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
 2 黒褐色 ローム粒子少量

第6号道路跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
 2 暗褐色 ロームブロック、炭化物少量
 3 暗褐色 ロームブロック微量

第7号道路跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、砂粒微量
 2 黒褐色 ローム粒子少量、粘土粒子微量

第11・12号道路跡土層解説 (共通)

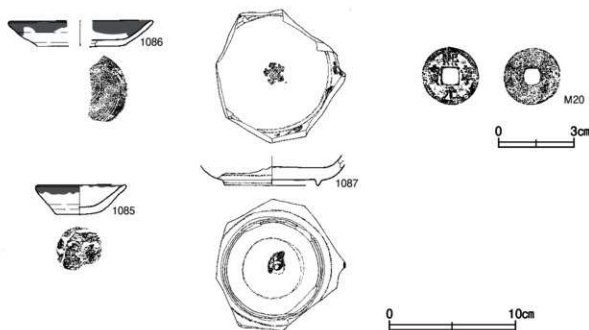
- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・砂粒微量
 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化物少量
 3 暗褐色 ローム粒子中量、砂粒少量、炭化粒子微量
 4 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量

第14号道路跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
 2 褐色 ローム粒子中量、褐色粘土粒子・炭化粒子微量
 3 黒褐色 ローム粒子少量、褐色粘土粒子・炭化粒子微量
 4 灰黄褐色 褐色粘土ブロック・ローム粒子・砂粒少量、炭化粒子微量
 5 褐色 ローム粒子・褐色粘土粒子・砂粒少量、炭化粒子微量

第16号道路跡土層解説

- 1 暗褐色 砂粒少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量



第497図 第3・5号道路跡出土遺物実測図

第3号道路跡出土遺物観察表 (第497図)

番号	種別	器種	口徑	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1085	土師器(土器)	皿	7.2	2.3	3.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい澄	普通	縁部内・外面口ロナテ後ナテ 底面回転系切り後ナテ	覆土中	50%口唇部直埋行着
1086	陶器	丸皿	[11.4]	2.0	[7.0]	精良 灰釉	灰白・淡黄	良好	縁部ホコリ 内面・外面に漬け輪 内面段足にトナテ痕	覆土中	25%黒口・灰濁

番号	器種	銭種	径	孔径	重量	材質	初鋳年	特徴	出土位置	備考
M20	古銭	開元元寶	2.3	0.7	2.3	銅	1068	北宋銭 真背 無背	覆土中	PL123

第5号道路跡出土遺物観察表 (第497図)

番号	種別	器種	口徑	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1087	磁器	薬付皿	—	(2.5)	7.5	精良 透明釉	灰白・透明	良好	唇目高台 内面に草花文 内・外面輪筋	覆土中	20%肥後系

表25 中・近世道路跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模			壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (新旧関係 H1~H8)	
				幅延長 (m)	上幅(m)	下幅(m)						深さ(m)
1	K 4 g1-L 4 16	N-49°-W	直線状	(32.4)	1.58-2.84	1.46-2.62	9	外堀	平坦	自然	—	SD14・本跡、SD29~SD313
2	K 4 d5-K 5 c2	N-40°-E N-38°-E	蛇行状	(29.2)	1.93-2.35	1.42-2.21	8	外堀	平坦	不明	—	SD13A, 17b, 37, 32111, SD193~32112, SD195, SD196, SD197, SD198, SD199, SD200, SD201, SD202, SD203, SD204, SD205, SD206, SD207, SD208, SD209, SD210, SD211, SD212, SD213, SD214, SD215, SD216, SD217, SD218, SD219, SD220, SD221, SD222, SD223, SD224, SD225, SD226, SD227, SD228, SD229, SD230, SD231, SD232, SD233, SD234, SD235, SD236, SD237, SD238, SD239, SD240, SD241, SD242, SD243, SD244, SD245, SD246, SD247, SD248, SD249, SD250, SD251, SD252, SD253, SD254, SD255, SD256, SD257, SD258, SD259, SD260, SD261, SD262, SD263, SD264, SD265, SD266, SD267, SD268, SD269, SD270, SD271, SD272, SD273, SD274, SD275, SD276, SD277, SD278, SD279, SD280, SD281, SD282, SD283, SD284, SD285, SD286, SD287, SD288, SD289, SD290, SD291, SD292, SD293, SD294, SD295, SD296, SD297, SD298, SD299, SD300, SD301, SD302, SD303, SD304, SD305, SD306, SD307, SD308, SD309, SD310, SD311, SD312, SD313, SD314, SD315, SD316, SD317, SD318, SD319, SD320, SD321, SD322, SD323, SD324, SD325, SD326, SD327, SD328, SD329, SD330, SD331, SD332, SD333, SD334, SD335, SD336, SD337, SD338, SD339, SD340, SD341, SD342, SD343, SD344, SD345, SD346, SD347, SD348, SD349, SD350, SD351, SD352, SD353, SD354, SD355, SD356, SD357, SD358, SD359, SD360, SD361, SD362, SD363, SD364, SD365, SD366, SD367, SD368, SD369, SD370, SD371, SD372, SD373, SD374, SD375, SD376, SD377, SD378, SD379, SD380, SD381, SD382, SD383, SD384, SD385, SD386, SD387, SD388, SD389, SD390, SD391, SD392, SD393, SD394, SD395, SD396, SD397, SD398, SD399, SD400, SD401, SD402, SD403, SD404, SD405, SD406, SD407, SD408, SD409, SD410, SD411, SD412, SD413, SD414, SD415, SD416, SD417, SD418, SD419, SD420, SD421, SD422, SD423, SD424, SD425, SD426, SD427, SD428, SD429, SD430, SD431, SD432, SD433, SD434, SD435, SD436, SD437, SD438, SD439, SD440, SD441, SD442, SD443, SD444, SD445, SD446, SD447, SD448, SD449, SD450, SD451, SD452, SD453, SD454, SD455, SD456, SD457, SD458, SD459, SD460, SD461, SD462, SD463, SD464, SD465, SD466, SD467, SD468, SD469, SD470, SD471, SD472, SD473, SD474, SD475, SD476, SD477, SD478, SD479, SD480, SD481, SD482, SD483, SD484, SD485, SD486, SD487, SD488, SD489, SD490, SD491, SD492, SD493, SD494, SD495, SD496, SD497, SD498, SD499, SD500, SD501, SD502, SD503, SD504, SD505, SD506, SD507, SD508, SD509, SD510, SD511, SD512, SD513, SD514, SD515, SD516, SD517, SD518, SD519, SD520, SD521, SD522, SD523, SD524, SD525, SD526, SD527, SD528, SD529, SD530, SD531, SD532, SD533, SD534, SD535, SD536, SD537, SD538, SD539, SD540, SD541, SD542, SD543, SD544, SD545, SD546, SD547, SD548, SD549, SD550, SD551, SD552, SD553, SD554, SD555, SD556, SD557, SD558, SD559, SD560, SD561, SD562, SD563, SD564, SD565, SD566, SD567, SD568, SD569, SD570, SD571, SD572, SD573, SD574, SD575, SD576, SD577, SD578, SD579, SD580, SD581, SD582, SD583, SD584, SD585, SD586, SD587, SD588, SD589, SD590, SD591, SD592, SD593, SD594, SD595, SD596, SD597, SD598, SD599, SD600, SD601, SD602, SD603, SD604, SD605, SD606, SD607, SD608, SD609, SD610, SD611, SD612, SD613, SD614, SD615, SD616, SD617, SD618, SD619, SD620, SD621, SD622, SD623, SD624, SD625, SD626, SD627, SD628, SD629, SD630, SD631, SD632, SD633, SD634, SD635, SD636, SD637, SD638, SD639, SD640, SD641, SD642, SD643, SD644, SD645, SD646, SD647, SD648, SD649, SD650, SD651, SD652, SD653, SD654, SD655, SD656, SD657, SD658, SD659, SD660, SD661, SD662, SD663, SD664, SD665, SD666, SD667, SD668, SD669, SD670, SD671, SD672, SD673, SD674, SD675, SD676, SD677, SD678, SD679, SD680, SD681, SD682, SD683, SD684, SD685, SD686, SD687, SD688, SD689, SD690, SD691, SD692, SD693, SD694, SD695, SD696, SD697, SD698, SD699, SD700, SD701, SD702, SD703, SD704, SD705, SD706, SD707, SD708, SD709, SD710, SD711, SD712, SD713, SD714, SD715, SD716, SD717, SD718, SD719, SD720, SD721, SD722, SD723, SD724, SD725, SD726, SD727, SD728, SD729, SD730, SD731, SD732, SD733, SD734, SD735, SD736, SD737, SD738, SD739, SD740, SD741, SD742, SD743, SD744, SD745, SD746, SD747, SD748, SD749, SD750, SD751, SD752, SD753, SD754, SD755, SD756, SD757, SD758, SD759, SD760, SD761, SD762, SD763, SD764, SD765, SD766, SD767, SD768, SD769, SD770, SD771, SD772, SD773, SD774, SD775, SD776, SD777, SD778, SD779, SD780, SD781, SD782, SD783, SD784, SD785, SD786, SD787, SD788, SD789, SD790, SD791, SD792, SD793, SD794, SD795, SD796, SD797, SD798, SD799, SD800, SD801, SD802, SD803, SD804, SD805, SD806, SD807, SD808, SD809, SD810, SD811, SD812, SD813, SD814, SD815, SD816, SD817, SD818, SD819, SD820, SD821, SD822, SD823, SD824, SD825, SD826, SD827, SD828, SD829, SD830, SD831, SD832, SD833, SD834, SD835, SD836, SD837, SD838, SD839, SD840, SD841, SD842, SD843, SD844, SD845, SD846, SD847, SD848, SD849, SD850, SD851, SD852, SD853, SD854, SD855, SD856, SD857, SD858, SD859, SD860, SD861, SD862, SD863, SD864, SD865, SD866, SD867, SD868, SD869, SD870, SD871, SD872, SD873, SD874, SD875, SD876, SD877, SD878, SD879, SD880, SD881, SD882, SD883, SD884, SD885, SD886, SD887, SD888, SD889, SD890, SD891, SD892, SD893, SD894, SD895, SD896, SD897, SD898, SD899, SD900, SD901, SD902, SD903, SD904, SD905, SD906, SD907, SD908, SD909, SD910, SD911, SD912, SD913, SD914, SD915, SD916, SD917, SD918, SD919, SD920, SD921, SD922, SD923, SD924, SD925, SD926, SD927, SD928, SD929, SD930, SD931, SD932, SD933, SD934, SD935, SD936, SD937, SD938, SD939, SD940, SD941, SD942, SD943, SD944, SD945, SD946, SD947, SD948, SD949, SD950, SD951, SD952, SD953, SD954, SD955, SD956, SD957, SD958, SD959, SD960, SD961, SD962, SD963, SD964, SD965, SD966, SD967, SD968, SD969, SD970, SD971, SD972, SD973, SD974, SD975, SD976, SD977, SD978, SD979, SD980, SD981, SD982, SD983, SD984, SD985, SD986, SD987, SD988, SD989, SD990, SD991, SD992, SD993, SD994, SD995, SD996, SD997, SD998, SD999, SD1000

(9) 方形竪穴遺構

第1号方形竪穴遺構 (第498図)

位置 調査区南部のL3a0区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1号土坑群の第61・119号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.04m、短軸1.98mの方形で、長軸方向はN-40°-Eである。壁高は50cmほどで、外傾して立ち上がっている。

底面 北東へ向かってなだらかに傾斜し、硬化面は認められない。

ピット 深さ32cmで、性格は不明である。

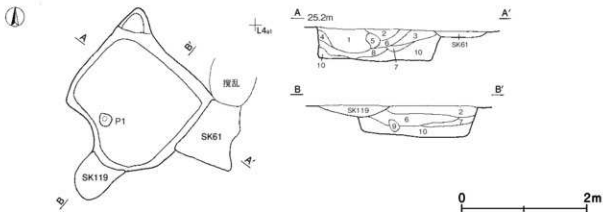
覆土 10層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量	6 暗褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	7 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子少量	8 暗褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ローム粒子少量	9 暗褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック少量
5 暗褐色	ロームブロック微量	10 暗褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片1点(内耳鍋)、陶器片1点(瀬戸・美濃系小皿)のほか、混入した縄文土器片7点も出土している。

所見 時期は、第14号溝跡と第3号道路跡に囲まれ、東へ12mほど離れて位置している第3号方形竪穴遺構との配置関係から15世紀中葉頃と考えられる。



第498図 第1号方形竪穴遺構実測図

第2号方形竪穴遺構 (第499図)

位置 調査区南部のK4b8区、標高25mほどの緩斜面上に位置している。

重複関係 第16号溝、第2号道路に南壁を掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.17m、短軸1.70mの隅丸長方形で、長軸方向はN-88°-Wである。壁高は28~38cmで、外傾して立ち上がっている。

底面 東へ向かってなだらかに傾斜し、硬化面は認められない。

ピット 深さ32cmで、性格は不明である。

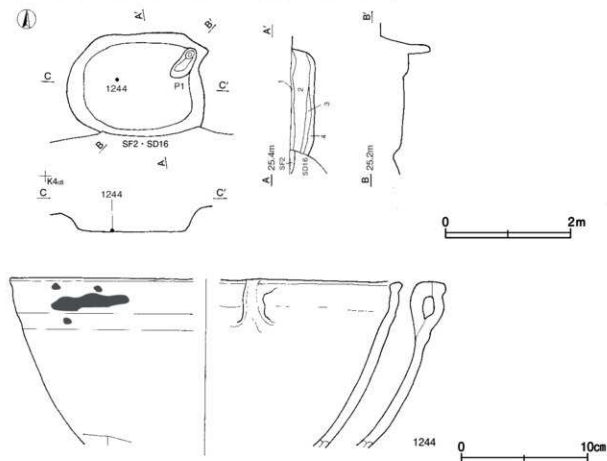
覆土 4層に分層される。含有物とブロック状の堆積状況から人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	3 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	4 暗褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師質土器片17点(皿5、内耳鍋11、搗鉢1)、陶器片1点(瀬戸・美濃系小皿)、鉄製品1点(不明)、礫1点のほか、混入した縄文土器片3点、土師器片4点も出土している。1244は底面からやや浮いた状態で出土し、その付近から破損した内耳鍋片や搗鉢片が出土していることから、廃絶後に廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、重複関係や出土土器から15世紀後半から16世紀前半と考えられる。



第499図 第2号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第2号方形竪穴遺構出土遺物観察表(第499図)

番号	種類	器種	17径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1244	土師質土器	内耳鍋	(31.0)	(13.3)	—	長石・石英・ 黒母・赤色粒子	に灰・黒	普通	体部内・外面十字 1内耳残存 底1内 部上端から体部上位に集り付け 1内 部縮込 内面のみ出し	覆土下層	10% 11口部・ 体部外面裏付 着

第3号方形竪穴遺構(第500図)

位置 調査区南部のL4b3区、標高20mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第3号道路に東壁を掘り込まれている。

規模と形状 長径2.32m、遺存している短径は1.53mで不定形である。長径方向はN-42°-Eである。壁高は45~50cmで、外傾して立ち上がっている。

底面 ほほ平坦であり、硬化面は認められない。

ピット 5か所。P1は深さ36cmで、位置的に柱穴と考えられる。P2~P5の深さは4~10cmで、性格は不明である。

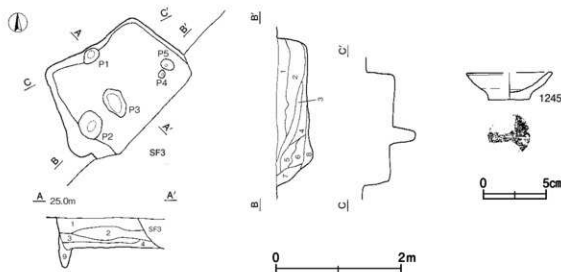
覆土 9層に分層される。含有物とブロック状の堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 1 に白い黄褐色 粘土ブロック中量、炭化物少量 | 6 灰 褐色 砂質粘土ブロック中量 |
| 2 に白い黄褐色 砂質粘土ブロック多量 | 7 灰 白色 粘土ブロック多量 |
| 3 暗 褐色 砂質粘土粒子少量 | 8 褐色 ローム粒子中量 |
| 4 暗 褐色 ローム粒子少量 | 9 明 褐色 ローム粒子中量 |
| 5 灰 褐色 砂質粘土粒子中量 | |

遺物出土状況 土師質土器片3点(皿、内耳鍋、擂鉢)、石器2点(砥石)が出土している。1245は覆土中から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から15世紀中葉と考えられる。



第500図 第3号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第3号方形竪穴遺構出土遺物観察表(第500図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1245	土師質土器	皿	(6.8)	2.2	3.3	白系-赤母-赤色 粘土	に白い黄褐色	普通	体部内・外面に口ケリナデ 底面外周へ口 切り縁ノミナナデ 内面ノミナナデ	覆土中	45%

第4号方形竪穴遺構(第501図)

位置 調査区南部のL5 b1区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第66号溝、第5号方形竪穴遺構、第459号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.88m、遺存している短軸は1.23mで、隅丸長方形と考えられる。長軸方向はN-44°-Wである。壁高は30cmほどで、外傾して立ち上がっている。

底面 やや凸凹があり、硬化面は認められない。

ピット 2か所。深さは26・32cmで、規模と配置から柱穴と考えられる。

覆土 3層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------------|------------------------------|
| 1 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒 褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 | |

所見 時期は、重複関係から13世紀代と考えられる。

第5号方形竪穴遺構 (第501図)

位置 調査区南部のL5b1区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第4号方形竪穴遺構を掘り込み、第66号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.68m、短軸1.52mの隅丸長方形で、長軸方向はN-37°-Eである。壁高は30cmほどで、外傾して立ち上がっている。

底面 ほほ平坦であり、硬化面は認められない。

ピット 2か所。深さは22・36cmで、規模と配置から柱穴と考えられる。

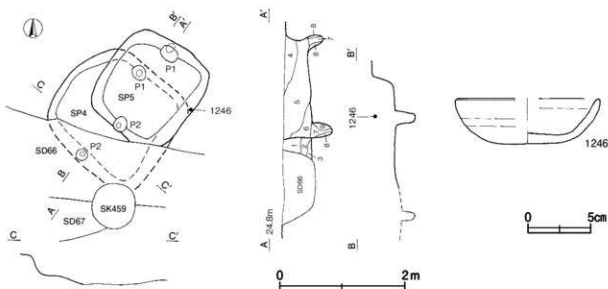
覆土 5層に分層される。含有物とブロック状の堆積状況から人為堆積である。

土層解説

4	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量
5	黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量	8	黒褐色	ローム粒子・粘土粒子少量
6	暗褐色	ローム粒子少量、粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	9	ぶい黄褐色	ロームブロック・粘土ブロック微量

遺物出土状況 土師質土器片2点(皿)、燧1点が出土している。1246は東壁際の覆土上層から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から13世紀後半と考えられる。



第501図 第4・5号方形竪穴遺構、第5号方形竪穴遺構出土遺物実測図

第5号方形竪穴遺構出土遺物観察表 (第501図)

番号	種別	器種	11径	器高	口径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1246	土師質土器	皿	(11.4)	3.6	—	赤色粒子・白色粒子	ぶい・橙	普通	外部外面2段ナデ・内面ナデ 底部切り落し家ナデ	底壁回転	覆土上層 90%

第6号方形竪穴遺構 (第502図)

位置 調査区南部のL4f1区、標高25mほどの緩斜面に位置している。

規模と形状 長軸2.08m、短軸1.90mの隅丸長方形で、長軸方向はN-48°-Eである。壁高は18～26cmで、外傾して立ち上がっている。

底面 ほほ平坦であり、硬化面は認められない。南部の底面に炭化物が6cmほどの厚さで散在している。

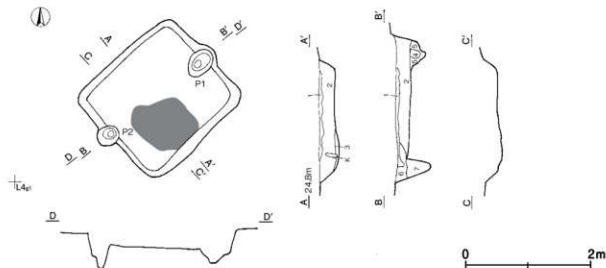
ピット 2か所。深さは22・40cmで、規模と配置から柱穴と考えられる。

覆土 7層に分層される。含有物とブロック状の堆積状況から人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	4 暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック微量
2 暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 褐色	ローム粒子多量、粘土ブロック中量
3 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子少量、粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
		7 暗褐色	ローム粒子少量、粘土ブロック・焼土粒子微量

所見 時期は、第3号道路跡を挟んで北東へ20mほど離れて位置している第3号方形形竪穴遺構との配置関係から15世紀中葉と考えられる。



第502図 第6号方形形竪穴遺構実測図

第7号方形形竪穴遺構 (第503図)

位置 調査区南東部のM5j6区、標高25mほどの緩斜面に位置している。

重複関係 第136号溝に東壁を掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.28m、短軸2.62mの長方形で、長軸方向はN-54°-Wである。壁高は38～50cmで、外傾して立ち上がっている。また、西壁中央部の壁外へ130cmほど張り出している部分は、出入り口施設と考えられる。

底面 やや凸凹があり、硬化面は認められない。南壁際の底面は、長軸86cm、短軸72cm、深さ6cmほど掘り込まれている。

ピット 深さ30cmほどで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

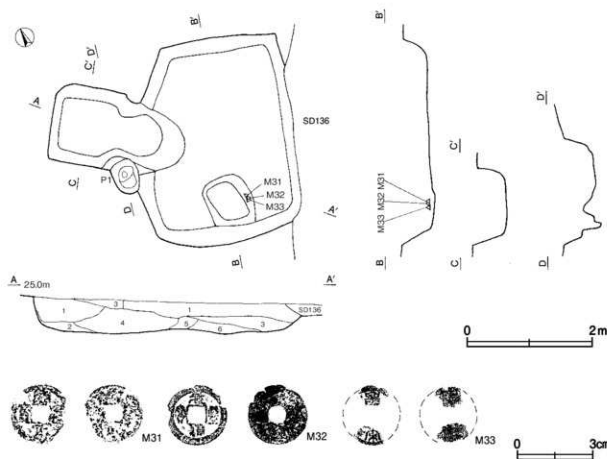
覆土 6層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

1 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	4 褐色	ローム粒子多量
2 暗褐色	ロームブロック微量	5 暗褐色	粘土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	6 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片6点(皿2、内耳鍋3、挿鉢1)、古銭3点、礫1点が出土している。M31～M33は南壁際の掘り込み部の底面より8cmほど上位から並んだ状態で出土している。

所見 時期は、重複関係や、ロクロ成形で底部内面に丁寧なナデ調整が施されている皿から、15世紀後半と考えられる。また、南壁際の掘り込み部は、古銭の出土状況から本跡を掘り込んだ墓坑の存在を想定させるが、重複関係を示す土層の情報が欠落しているため詳細は不明である。



第503図 第7号方形竪穴遺構・出土遺物実測図

第7号方形竪穴遺構出土遺物観察表（第503図）

番号	器種	径	孔径	重量	初測年	材質	特徴	出土位置	備考
M31	開元通寶	2.4	0.6	1.5	621	銅	唐銭 無背	覆土下層	
M32	元豊通寶	2.5	0.7	1.4	1078	銅	北宋銭 行書 無背	覆土下層	
M33	阜宋通寶	{2.3}	{0.8}	{0.5}	1038	銅	北宋銭 篆書 無背	覆土下層	

第8号方形竪穴遺構（第504図）

位置 調査区中央部のH7a0区。標高27mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1号墳を掘り込んで、第13号地下式坑に北西部から南東部にかけて掘り込まれている。

規模と形状 遺存している南北軸は1.95m、東西軸は1.87mで、隅丸長方形と考えられる。長軸方向はN-21°-Eである。壁高は60cmほどで、外傾して立ち上がっている。

底面 西へ向かってなだらかに傾斜し、硬化面は認められない。

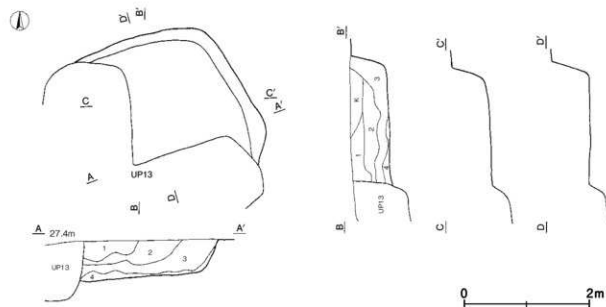
覆土 4層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化物・ | 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 |
| | 焼土粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、粘土ブロック微量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片12点(皿1, 内耳鍋11), 陶器片1点(常滑系甕)のほか, 混入した縄文土器片37点, 弥生土器片6点, 土師器片88点, 須恵器片2点も出土している。

所見 時期は, 重複関係から中世後半と考えられる。



第504図 第8号方形竪穴遺構実測図

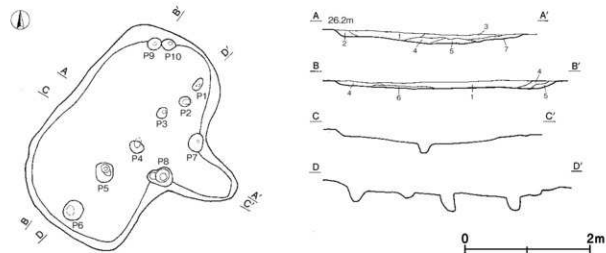
第9号方形竪穴遺構 (第505図)

位置 調査区中央部のH6h6区, 標高26mほどの緩斜面に位置している。

規模と形状 長軸3.61m, 短軸2.15mの長方形で, 長軸方向はN-65°-Wである。壁高は6~12cmで, 緩やかに立ち上がっている。また, 東壁際の中央部には, 壁外へ110cmほど張り出したスロープが確認されており, 出入り口施設と考えられる。

底面 南西へ向かってなだらかに傾斜し, 硬化面は認められない。

ピット 10か所。P1~P6は深さ8~30cmで, 規模と配置から柱穴と考えられる。P7・P8は, 規模と配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P9・P10の性格は不明である。



第505図 第9号方形竪穴遺構実測図

覆土 7層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	炭化粒子少量、粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量	4 黒褐色	ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量	5 褐色	ロームブロック中量、炭化物・粘土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 黒褐色	炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
		7 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片2点（内耳鍋）のほか、混入した縄文土器片1点も出土している。

所見 時期は、遺構の形態から中世と考えられる。

第10号方形竪穴遺構（第506図）

位置 調査区中央部のH8a3区、標高27mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第110号住居跡、第1号墳、第12号地下式坑を掘り込み、第35、38～40号墓坑に掘り込まれている。

規模と形状 墓坑群に北壁などを掘り込まれており、遺存している東西軸は281m、南北軸は2.43mで隅丸長方形と考えられる。長軸方向はN-6°-Wである。壁高は62～70cmで、外傾して立ち上がっている。

底面 ほぼ平坦であり、硬化面は認められない。

ピット 深さ14cmで、規模と配置から柱穴と考えられる。

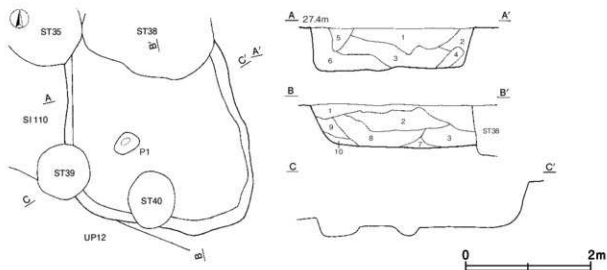
覆土 10層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量	7 黒褐色	ローム粒子中量
3 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック微量	8 黒褐色	ロームブロック微量
4 黒褐色	ローム粒子微量	9 暗褐色	ローム粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	10 褐色	ローム粒子多量

遺物出土状況 流れ込んだ縄文土器片23点、弥生土器片2点、土師器片73点、磁器片1点が出土している。

所見 時期は、重複関係から中世後半と考えられる。



第506図 第10号方形竪穴遺構実測図

第11号方形竪穴遺構（第507図）

位置 調査区南部のL3a9区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1号土坑群の第113号土坑を掘り込み、第62～65・122・140・150号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.45m、短軸2.27mの隅丸方形で、長軸方向はN-73°-Eである。壁高は50cmほどで、外傾して立ち上がっている。

底面 ほほ平坦であり、硬化面は認められない。

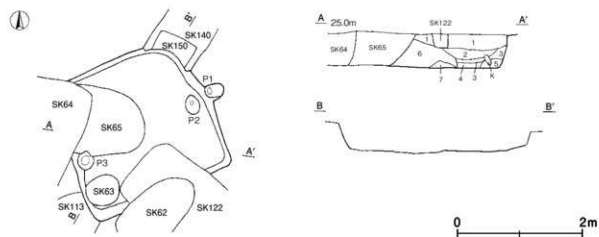
ピット 3か所。規模と配置から柱穴と考えられる。

覆土 7層に分層される。不自然な堆積状況を呈している人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| 1 褐色 ロームブロック少量 | 5 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 6 褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック微量 | 7 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子微量 | |

所見 時期は、遺構の形態や重複関係から中世と考えられる。



第507図 第11号方形堅穴遺構実測図

第12号方形堅穴遺構 (第508図)

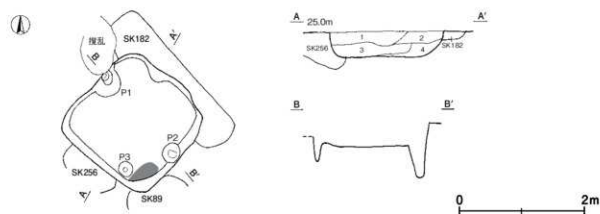
位置 調査区南部のL3c8区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1号土坑群の第89・182・256号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.85m、短軸1.80mの隅丸方形で、長軸方向はN-44°-Eである。壁高は40cmほどで、外傾して立ち上がっている。

底面 ほほ平坦であり、硬化面は認められない。南コーナー部底面に炭化物が広がっている。

ピット 3か所。P1は深さ30cm、P2は深さ52cmで、規模と配置から柱穴と考えられる。P3の深さは54cm



第508図 第12号方形堅穴遺構実測図

ほどで、性格は不明である。

覆土 4層に分層される。不自然な堆積状況を示す人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | 4 黒褐色 | 炭化粒子中量、ロームブロック少量、粘土ブロック・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量 | | |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、粘土ブロック微量 | | |

所見 時期は、遺構の形態や重複関係から中世と考えられる。

表26 方形竪穴遺構一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m)		壁高(m)	壁面	底面	内部施設		覆土	主な出土物	備考
				長径(軸)×短径(軸)	厚				柱穴(ピ)	出入土層			
1	L3a0	N-40°E	方形	2.04 × 1.98	48-50	外傾	縦斜	—	1	—	人丸	土師質土器、陶器	本跡→SK61・SK119
2	K4b8	N-88°W	隅丸長方形	2.17 × 1.70	28-38	外傾	縦斜	—	1	—	人丸	土師質土器、陶器、不明な瓦葺	本跡→SD16・SF2
3	L4b3	N-42°E	不定形	2.32 × (1.53)	42-50	外傾	ほぼ平面	1	4	—	人丸	土師質土器、砥石	本跡→SF3
4	L5b1	N-44°W	隅丸長方形	1.88 × (1.23)	30	外傾	やや凸凹	2	—	—	人丸	—	本跡→SP5→SD66→SK459
5	L5b1	N-37°E	隅丸長方形	1.68 × 1.52	33	外傾	ほぼ平面	2	—	—	人丸	土師質土器	SP1→本跡→SD66
6	L4f1	N-48°E	隅丸長方形	2.08 × 1.90	18-26	外傾	ほぼ平面	2	—	—	人丸	—	
7	M5j6	N-54°W	長方形	3.28 × 2.64	38-50	外傾	やや凸凹	—	1	1	人丸	土師質土器、古銭	本跡→SD136
8	H7a0	N-21°E	隅丸長方形	(1.95) × (1.87)	62	外傾	縦斜	—	—	—	人丸	土師質土器、陶器	TM1→本跡→UP13
9	H6b6	N-65°W	長方形	3.61 × 2.15	6-18	縦斜	縦斜	6	2	2	人丸	土師質土器	
10	H8a3	N-6°W	隅丸長方形	(2.81) × (2.41)	62-70	外傾	ほぼ平面	1	—	—	人丸	磁器	TM1・SK110→UP12→本跡→ST35・38-40
11	L3a9	N-73°E	隅丸長方形	2.45 × 2.27	52-54	外傾	ほぼ平面	3	—	—	人丸	—	SK113→本跡→SK62→SS122・140・150
12	L3c8	N-44°E	隅丸長方形	1.85 × 1.80	38-40	外傾	ほぼ平面	2	1	—	人丸	—	第1号土坑群→本跡

(00) 地下式坑

第1号地下式坑 (第509図)

位置 調査区南部のK4b3区、標高25mほどの緩斜面に位置している。

重複関係 第3号溝に掘り込まれている。

竪坑 主室東壁の南側に位置している。上面は、長軸1.13m、短軸1.02mの隅丸長方形である。壁高は54～66cmで、外傾して立ち上がっている。底面は緩やかに傾斜して主室に繋がっている。

主室 東西径3.78m、南北径1.97～2.34mの不定形である。竪坑と主室を通した軸線方向(以下主軸)はN-66°Wであり、天井部が一部遺存している。壁は直立および外傾しており、確認面からの深さは66～90cmである。底面は西壁際付近が若干くぼみ、中央部は平坦である。

覆土 10層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為堆積である。

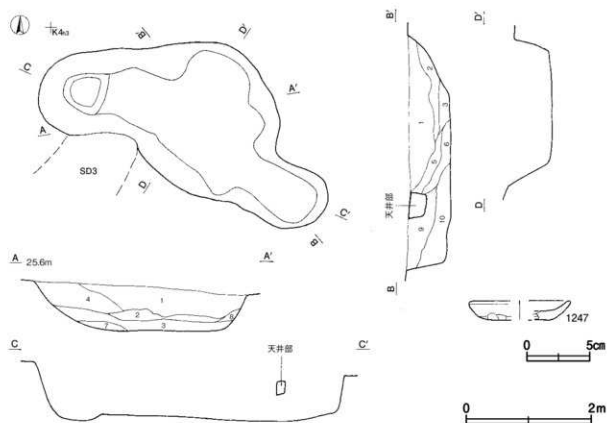
土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|--------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量 | 6 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 7 明褐色 | ローム粒子中量、粘土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 明褐色 | ローム粒子中量 | 9 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 5 褐色 | ローム粒子中量、粘土粒子少量 | 10 暗褐色 | ローム粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片5点(皿4、内耳鍋1)、石器1点(砥石)のほか、流れ込んだ縄文土器片12点、

土師器片37点、須恵器片8点も出土している。1247は北西部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器や重複関係から15世紀中葉と考えられる。



第509図 第1号地下式坑・出土遺物実測図

第1号地下式坑出土遺物観察表 (第509図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1247	土師質土器	小皿	(8.0)	(1.6)	—	長石・黒色粒子	橙	普通	口辺部内外面横ナデ 底部外面横ナデ	覆土下層	20%

第2号地下式坑 (第510図)

位置 調査区南部のJ4j1区、標高26mほどの緩斜面に位置している。

重複関係 第4号住居跡を掘り込んでいる。

竪坑 主室東壁中央部に位置し、上面は長径1.79m、短径1.28mの楕円形である。壁高は100cmで、外傾して立ち上がっている。底面は段をなし、緩やかに傾斜してから主室に繋がっている。

主室 長軸2.87m、短軸2.68mの隅丸方形で、主軸方向はN-69°-Wである。天井部は遺存していない。壁は外傾して立ち上がり、確認面からの深さは148～158cmで、底面はほぼ平坦である。

覆土 14層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為堆積である。第13・14層はローム土を多く含む明褐色土であり、天井部の崩落土と考えられる。

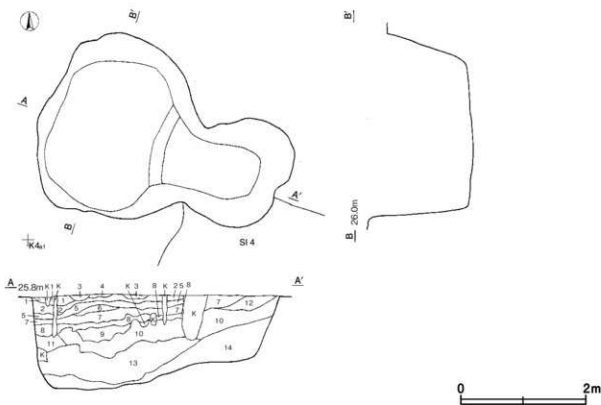
土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量・炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2 褐色	ローム粒子少量	9 褐色	ローム粒子中量
3 暗褐色	炭化粒子微量	10 褐色	ロームブロック中量
4 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	11 褐色	ローム粒子少量・炭化粒子微量
5 暗褐色	炭化物微量	12 褐色	ロームブロック少量
6 暗褐色	ロームブロック・炭化物微量	13 明褐色	ロームブロック多量
7 暗褐色	ローム粒子・礫微量	14 明褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片10点(皿1、内耳鍋9)、貝片1点のほか、流れ込んだ縄文土器42点、土師器片

8点、須恵器片6点も出土している。

所見 時期は、遺構の形状やロクロ成形の皿が出土していることから中世後半と考えられる。



第510図 第2号地下式坑実測図

第3号地下式坑 (第511図)

位置 調査区南部のL3a9区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第245号土坑を掘り込み、第49号土坑に掘り込まれている。

型坑 主室東壁のやや南側に位置し、上面は長径1.26m、短径1.22mの隅丸方形である。壁高は64cmで、外傾して立ち上がっている。底面は中央部に段を有し、主室まで20cmほどの傾斜を示している。

主室 長径2.98m、短径2.97mの不定形で、主軸方向はN-57°-Wである。天井部は遺存していない。壁は外傾して立ち上がり、確認面からの深さは120～124cmで、底面は平坦である。

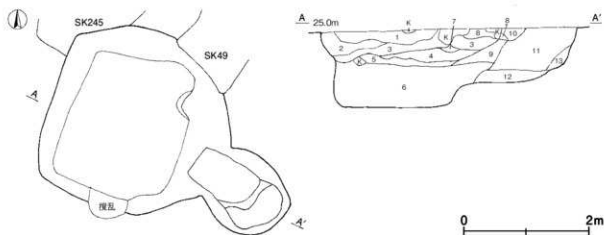
覆土 13層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量	8 黄褐色	粘土ブロック・ローム粒子少量
2 褐色	ローム粒子中量、粘土粒子少量	9 暗褐色	ロームブロック微量
3 黄褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック少量	10 褐色	ロームブロック少量
4 褐色	粘土ブロック微量	11 黄褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量
5 暗褐色	ローム粒子微量	12 褐色	ローム粒子少量
6 暗褐色	ローム粒子・炭土粒子微量	13 黄褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック微量
7 暗褐色	ローム粒子少量		

遺物出土状況 土師質土器片19点(皿2、内耳鍋17)のほか、流れ込んだ縄文土器1点、土師器片3点も出土している。

所見 時期は、遺構の形状やロクロ成形で底の薄い皿と内耳鍋が出土していることから、中世後半と考えられる。



第511図 第3号地下式坑実測図

第4号地下式坑 (第512図)

位置 調査区南部のL3c7区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第131・218・230号土坑を掘り込んでいる。

整坑 主室東壁のやや南側に位置し、上面は長軸0.82m、短軸0.80mの隅丸方形である。壁高は56cmで、ほぼ直立している。底面は緩やかに傾斜して主室に繋がっている。

主室 長軸2.28m、短軸2.24mの隅丸方形で、主軸方向はN-90°-Eである。天井部は遺存していない。壁はほぼ直立し、上面が削平されている確認面からの深さは50～68cmである。底面は整坑との境に向かって緩やかに傾斜している。

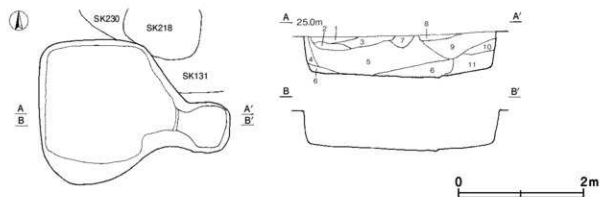
覆土 11層に分層される。含有物や不自然な堆積状況から人為堆積である。第5・6層はローム土を多く含む褐色土であり、天井部の崩落土と考えられる。

土層解説

- | | |
|-----------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量 | 7 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 8 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | 9 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック中量 | 10 暗褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 5 褐色 ロームブロック中量 | 11 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 6 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 土師質土器片1点(内耳鍋)、陶器片1点(常滑系甕)が出土している。

所見 時期は、遺構の形状や内耳鍋片から中世後半と考えられる。



第512図 第4号地下式坑実測図

第5号地下式坑 (第513図)

位置 調査区南部のK30区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第8号溝に掘り込まれており、西部は調査区域外のため未調査である。

竪坑 主室東壁の中央に位置し、上面は長軸1.48m、短軸1.46mの隅丸方形である。壁高は53cmで、ほぼ直立している。底面はほぼ平坦である。

主室 主軸に直交する南北軸は3.70m、東西軸は1.17mで、隅丸長方形と考えられる。主軸方向はN-80°-Wである。天井部は遺存していない。壁は外傾して立ち上がり、確認面からの深さは70cmほどである。底面はほぼ平坦で、中央部から北部にかけて茅と考えられるイネ科植物の炭化材が広がっている。

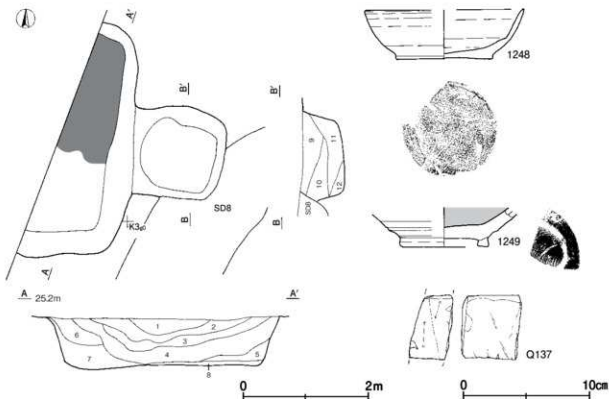
覆土 12層に分層される。主室は壁の崩落後(第5～7層)のくぼ地へレンズ状に自然堆積したと考えられる。竪坑は粘土ブロックを多く含むブロック状の堆積をしており、第8号溝を構築するときに埋められたものと考えられる。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	8 黒色	炭化材多量、ローム粒子微量
2 暗褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量	9 暗褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量
3 黒褐色	炭化粒子少量	10 暗褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック微量
4 暗褐色	炭化粒子微量	11 暗褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック微量	12 暗褐色	粘土ブロック少量、ロームブロック微量
6 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量		
7 極暗褐色	ローム粒子微量		

遺物出土状況 土師質土器片17点(皿12点、内耳鍋5)、陶器片1点(瀬戸美濃系小皿)、石器1点(砥石)のほか、流れ込んだ縄文土器片4点、土師器片3点、須恵器片3点、瓦片1点、礫1点も出土している。1248・1249・Q137はそれぞれ覆土中から出土しており、廃絶後の廃棄と考えられる。

所見 廃絶時期は、重複関係や出土土器から15世紀末から16世紀前半と考えられる。



第513図 第5号地下式坑・出土遺物実測図

第5号地下式坑出土遺物観察表(第513図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・軸差	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1248	土加蓋土器	蓋	[128]	3.9	7.6	長石・石英・小礫	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部へつ切り 縁上聚々ナデ 内底残状のナデ	覆土中	50%
1249	陶器	平碗	—	(3.2)	[7.0]	砂粒・小礫・灰粒	にがい黄橙	良好	体部内面・内底施軸 体部内・外面ロクロ ナデ 底部向軸赤切り縁高台縁り付け 高台外面ロクロナデ	覆土中	10%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q137	磁石	(5.2)	4.8	(3.6)	(119.3)	凝灰岩	縁をもつ紙面と紙面の2面 他は破断面			覆土中	

第6号地下式坑(第514・515図)

位置 調査区南部のL3 b7区、標高24mほどの緩斜面に位置している。

重複関係 第98・129・131・134号土坑を掘り込み、第167号土坑に掘り込まれている。

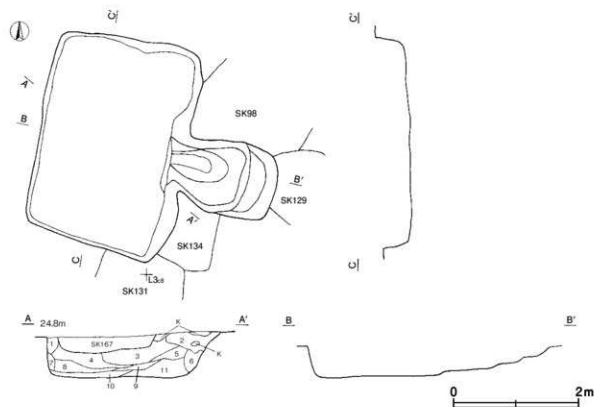
竪坑 主室東壁の中央に位置し、上面は長軸1.49m、短軸1.17mの隅丸長方形である。壁高は12～40cmで、なだらかに傾斜して立ち上がっている。底面は階段状に主室に繋がっている。

主室 長軸3.34m、短軸2.36mの隅丸長方形で、主軸方向はN-77°-Wである。天井部は遺存していない。壁はほぼ直立し、上面が削平されている確認面からの深さは50cmほどで、底面はほぼ平坦である。

覆土 11層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為な堆積である。

土層解説

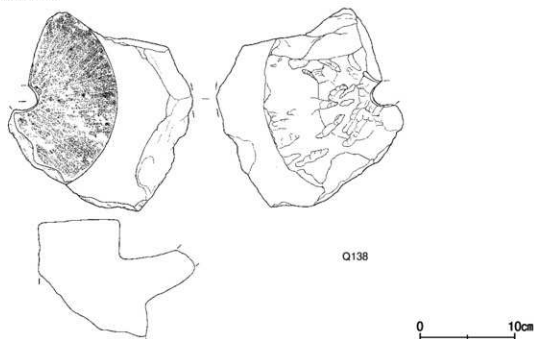
1	褐色	ロームブロック少量	7	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2	明褐色	ロームブロック多量	8	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
3	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	9	暗褐色	ローム粒子少量
4	暗褐色	ロームブロック少量	10	暗褐色	ロームブロック微量
5	褐色	ロームブロック少量	11	暗褐色	ローム粒子少量
6	褐色	ローム粒子微量			



第514図 第6号地下式坑実測図

遺物出土状況 陶器片2点（常滑系甕）、石器1点（茶臼）が出土している。Q138は、主室南西部の覆土上層から出土しており、廃絶後に廃棄されたと考えられる。

所見 本跡とはほぼ同形体の地下式坑（第4・7号地下式坑）が南部にそれぞれ位置している。時期は、中世後半と考えられる。



第515図 第6号地下式坑出土遺物実測図

第6号地下式坑出土遺物観察表（第515図）

番号	器種	径	孔径	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q138	茶臼 (T.F.)	(16.3)	(2.7)	(12.3)	(3650)	安山岩	上層16条1単位の掘り目	覆土上層	

第7号地下式坑（第516図）

位置 調査区南部のL3d7区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第28号井戸に南壁部が掘り込まれている。

竪坑 主室東壁のやや北側に位置し、上面は長径1.78m、短径1.20mの楕円形である。壁高は60cmで、外傾して立ち上がっている。面は主室に向かってなだらかに傾斜し、主室との境で6cmほどの段をなしている。

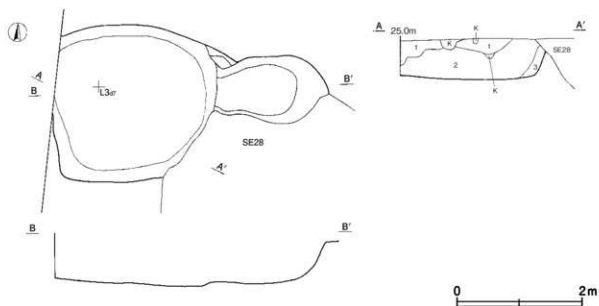
主室 長軸2.60m、短軸2.50mの方形で、主軸方向はN-88°-Eである。天井部は遺存していない。壁は外傾して立ち上がり、上面が削平されている確認面からの深さは56～76cmである。底面は竪坑との境までなだらかに傾斜している。

覆土 3層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為堆積である。第3層はローム土を多く含む褐色土であり、天井部の崩落土と考えられる。

土層解説

- | | | | | | |
|-----|----|---------------|-----|----|---------|
| 1 層 | 褐色 | 粘土ブロック・炭化粒子少量 | 3 層 | 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 層 | 褐色 | ロームブロック少量 | | | |

所見 本跡とはほぼ同形体の地下式坑（第4・6号地下式坑）が北部に位置している。時期は、中世後半と考えられる。



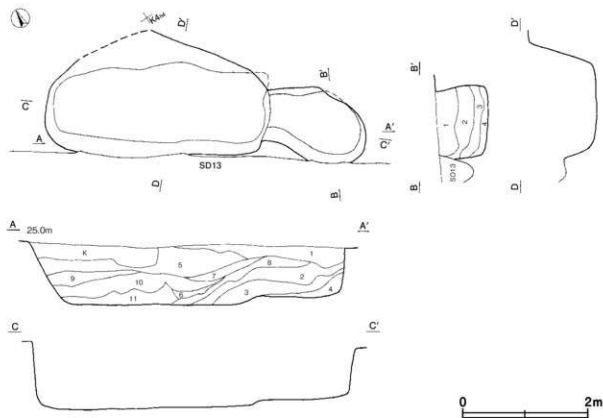
第516図 第7号地下式坑実測図

第8号地下式坑 (第517図)

位置 調査区南部のK 4 h3区、標高25mほどの緩斜面に位置している。

重複関係 第13号溝に南壁を掘り込まれている。

竪坑 主室南東壁の中央に位置し、長軸1.54m、短軸1.10mの不定形である。壁高は70cmで、外傾して立ち上



第517図 第8号地下式坑実測図

がっている。底面は主室に向かってなだらかに傾斜し、主室との境で8cmほどの段をなしている。

主室 長径3.53m、短径1.82mの楕円形で、主軸方向はN-50°-Wである。天井部は遺存していない。壁はほぼ直立し、確認面からの深さは100～110cmで、底面は平坦である。

覆土 11層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為堆積である。第6・10・11層はローム土を多く含む褐色土であり、天井部の崩落土と考えられる。

土層解説

1 褐色	ローム粒子中量、粘土ブロック少量、炭化粒子微量	6 褐色	ロームブロック中量
2 黒褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子少量	7 暗褐色	ロームブロック微量
3 暗褐色	ローム粒子中量、粘土ブロック・炭化粒子少量	8 暗褐色	ローム粒子中量、炭化物微量
4 暗褐色	ローム粒子中量、粘土ブロック・炭化粒子少量	9 褐色	ローム粒子多量
5 暗褐色	ローム粒子中量	10 明褐色	ロームブロック多量
		11 明褐色	ローム粒子多量、粘土ブロック・炭化物少量

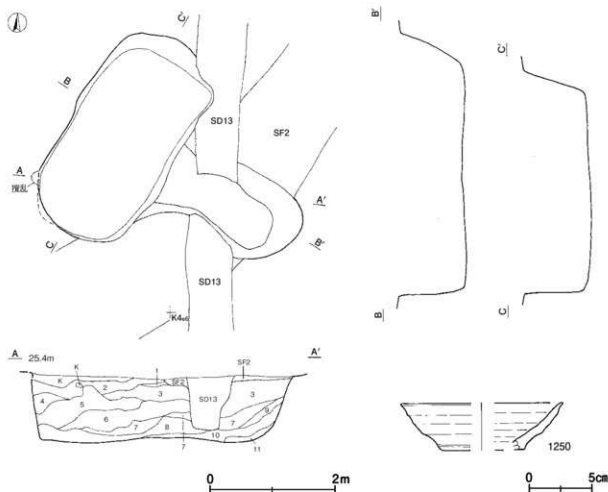
遺物出土状況 土師質土器片14点（皿11、内耳鍋3）のほか、流れ込んだ須恵器片3点も出土している。

所見 時期は、遺構の形状や重複関係から15世紀後半と考えられる。

第9号地下式坑（第518図）

位置 調査区南部のK4d5区、標高25mほどの緩斜面に位置している。

重複関係 第13号溝、第2号道路に掘り込まれている。



第518図 第9号地下式坑・出土遺物実測図

堅坑 主室東壁の中央部に位置し、上面は長径2.30m、短径1.09mの楕円形である。壁高は100cmで、外傾して立ち上がっている。底面は主室に向かってなだらかに傾斜し、主室との境で4cmほどの段をなしている。

主室 長軸3.53m、短軸1.81mの方形で、主軸方向はN-57°-Wである。天井部は遺存していない。壁はほぼ直立し、確認からの深さは94～110cmで、底面は平坦である。

覆土 11層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為堆積である。第8層はローム土を多く含む褐色土で締まりがあることから、天井部の崩落土と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7	暗褐色	ローム粒子中量
2	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	8	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
5	褐色	ロームブロック多量	11	黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
6	褐色	ローム粒子多量			

遺物出土状況 土師質土器片4点(皿、内耳鍋)が出土している。1250は覆土中から出土している。

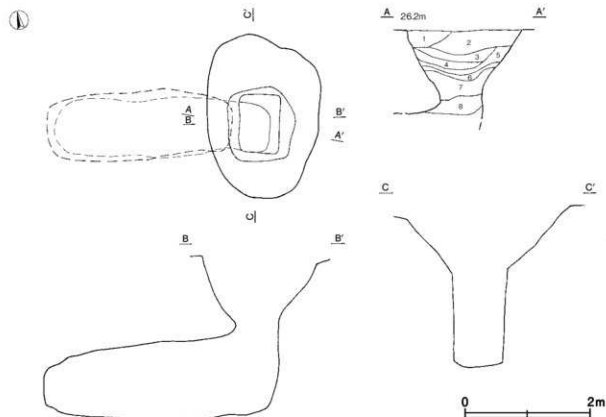
所見 時期は、重複関係や出土土器から15世紀後半と考えられる。

第9号地下式坑出土遺物観察表(第518図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1250	土師質土器	皿	[12.8]	3.8	[6.6]	長石・石英・雲母 に多い黄緑	普通	普通	体部内・外面ロクロナデ 分接ナデ	底部回転糸切	覆土中 40%

第10号地下式坑(第519・520図)

位置 調査区中央部のH 6 h7区、標高26mほどの平坦な台地上に位置している。



第519図 第10号地下式坑実測図

竪坑 主室西壁の中央に位置し、上面は長径2.59m、短径1.77mの楕円形である。壁高は230cmで、確認面から85～100cmを漏斗状に掘り込んだ後、下部を円筒状に掘り下げた構造となっている。底面は主室に向かって緩やかに傾斜している。

主室 長軸3.06m、短軸1.08mの隅丸長方形で、主軸方向はN-75°-Wである。天井部は厚さ120cmほどのローム土で構築されている。底面から天井部までの高さは竪坑部付近が140cm、奥壁の高さは54cmで、奥壁へ向かうほど低くなる構造であり、底面は奥壁に向かうスロープ状を呈している。

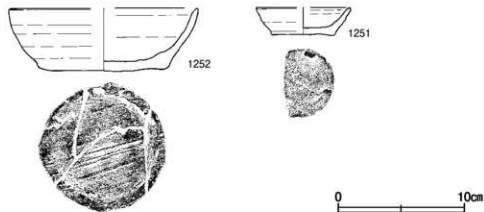
覆土 8層に分層される。ローム土や粘土がブロック状に堆積した後、レンズ状に堆積したと考えられる。

土層解説

1 層	褐色	ローム粒子少量、粘土ブロック・炭化物微量	5 層	褐色	粘土ブロック・ローム粒子・炭化物微量
2 層	褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量	6 層	にぶい黄褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック・炭化物微量
3 層	褐色	ロームブロック・粘土ブロック・炭化物微量	7 層	にぶい黄褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量、炭化物微量
4 層	褐色	粘土ブロック・ローム粒子・炭化物粒子微量	8 層	灰黄褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片21点（皿9、内耳鍋12）、木片1点が出土している。1251・1252は覆土中から出土している。

所見 時期は、遺構の形状や出土土器から15世紀後半と考えられる。



第520図 第10号地下式坑出土遺物実測図

第10号地下式坑出土遺物観察表（第520図）

番号	種類	器種	口径	器高	口径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1251	土師質土器	皿	17.4	2.3	5.0	長石・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り後ナデ、白磁指ナデ	覆土中	30%
1252	土師質土器	皿	115.0	5.0	10.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 体部内面指頭痕を残すナデ、底部回転糸切り後ナデ 底部外縁スノコ状の圧痕、内底指ナデ	覆土中	50%

第11号地下式坑（第521図）

位置 調査区中央部のH6e0区、標高26mほどの平坦な台地上に位置している。

竪坑 主室南西コーナー部に位置し、上面は長軸1.22m、短軸0.93mの長方形である。壁高は60cmで、ほぼ直立している。底面は主室に向かって緩やかに傾斜している。

主室 長軸2.71m、短軸1.89mで、二つの長方形をつなぎ合わせたような不定形で、主軸方向はN-41°-Eである。天井部は遺存していない。壁は外傾して立ち上がり、確認面からの深さは70cmほどで、底面はやや凸凹である。

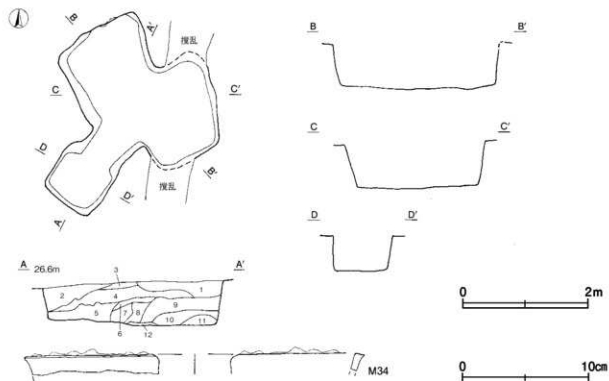
覆土 12層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 にぶい褐色	粘土ブロック多量、ロームブロック少量	7 暗褐色	ロームブロック多量
3 暗褐色	粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量、焼土粒子微量	9 黒褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック・焼土粒子・炭化物微量
5 暗褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック・焼土粒子・炭化物微量	10 灰褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量
		11 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
		12 褐色	粘土ブロック多量、ローム粒子少量

遺物出土状況 土師質土器片6点(皿1,内耳鍋5),鉄製品1点(不明)のほか、流れ込んだ縄文土器片10点,土師器片2点,須恵器片1点も出土している。M34は覆土中から出土している。

所見 時期は、遺構の形状や須恵器杯の器形に近いロクロ成形の皿と内耳鍋が出土していることから中世後半と考えられる。また、主室の形体や竪坑の位置より、主室は東から北へ造り替えた可能性も考えられる。



第521図 第11号地下式坑・出土遺物実測図

第11号地下式坑出土遺物観察表(第521図)

番号	器種	口径	器高	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M34	不明鉄製品	28.0	(1.6)	0.6	56.3	鉄	鉄鍋の口辺部分	覆土中	

第12号地下式坑(第522図)

位置 調査区中央部のH 8 a3区,標高27mほどの緩斜面に位置している。

重複関係 第110号住居跡,第1号墳を掘り込み,第10号方形竪穴遺構,第39・41・42号墓坑・第1613号土坑に掘り込まれている。

竪坑 主室南壁の東側に位置し,上面は長径0.75m,短径0.72mの楕円形である。壁高は55cmで,外傾して立ち上がっている。底面は主室に向かってなだらかに傾斜している。

主室 長軸4.97m、短軸2.12mの隅丸長方形で、主軸方向はN-6°-Wである。天井部は遺存していない。壁は外傾して立ち上がり、上面が削平されている確認面からの深さは56～70cmで、底面は凸凹である。

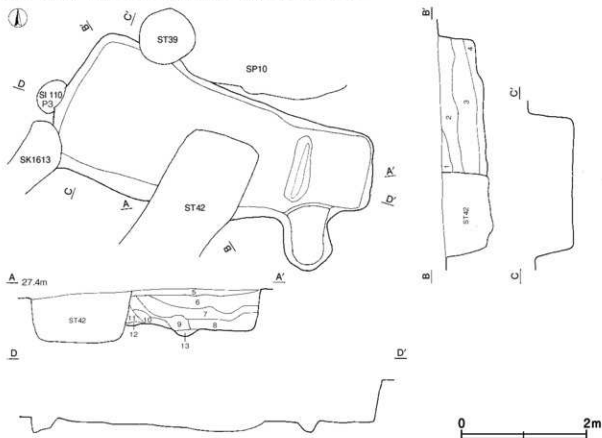
覆土 13層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

1	にぶい黄褐色	ローム粒子多量、炭化物少量	8	黒褐色	ロームブロック微量
2	褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量	9	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	10	黒褐色	ロームブロック少量
4	黒褐色	ローム粒子多量	11	褐色	ローム粒子微量
5	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	12	褐色	ローム粒子中量
6	褐色	ロームブロック少量	13	灰褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
7	暗褐色	ロームブロック少量			

遺物出土状況 縄文土器片26点、弥生土器片1点、土師器片102点、須恵器片1点の細片が、底面のやや上位から出土しており、廃絶後に流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は、遺構の形状や重複関係から中世後半と考えられる。



第522図 第12号地下式坑実測図

第13号地下式坑 (第523図)

位置 調査区中央部のH7a0区、標高27mほどの緩斜面に位置している。

重複関係 第1号墳、第8号方形竪穴遺構を掘り込み、第251号溝、第1136号土坑に掘り込まれている。

竪坑 主室東壁の中央部に位置し、上面は長軸2.03m、短軸1.52mの長方形である。壁高は70cmほどで、外傾して立ち上がっている。底面は主室に向かってなだらかに傾斜している。

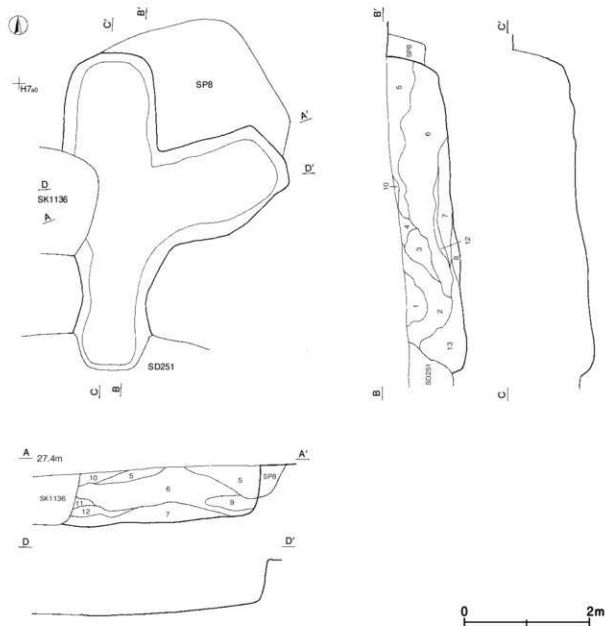
主室 遺存している長軸は5.05m、短軸1.50mで、長方形と考えられる。主軸方向はN-2°-Eである。天井部は遺存していない。壁は外傾して立ち上がり、確認面からの深さは84～118cmで、底面は凸凹である。

覆土 13層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

1 明褐色	ロームブロック中量	8 暗褐色	ローム粒子少量
2 極暗褐色	ローム粒子少量	9 黒褐色	ローム粒子中量
3 褐色	ロームブロック少量	10 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量	11 褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック微量
5 極暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック・炭化物微量	12 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量	13 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
7 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土ブロック微量		

所見 時期は、遺構の形状や重複関係から中世後半と考えられる。



第523図 第13号地下式坑実測図

第14号地下式坑 (第524・525図)

位置 調査区中央部のH 8 a2区、標高27mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第251号溝に掘り込まれている。

竪坑 主室西壁中央部に位置し、上面は長軸1.81m、短軸1.28mの隅丸方形である。壁高は60cmで、ほぼ直立している。底面は主室に向かってなだらかに傾斜している。

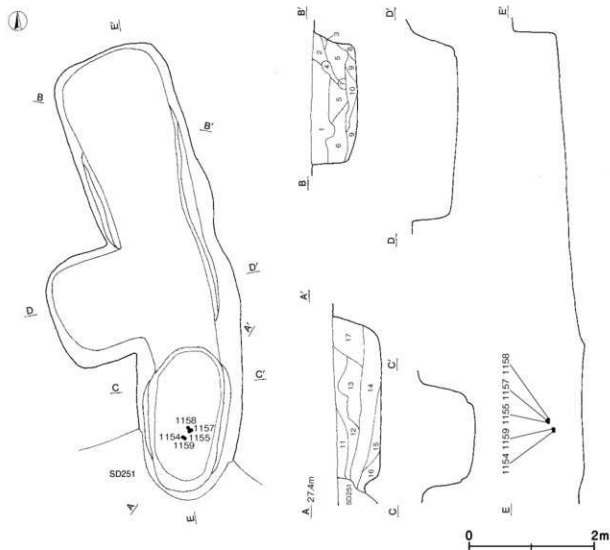
主室 遺存している長軸は6.88m、短軸1.68mの不定形で、主軸方向はN-13°-Wである。天井部は遺存せず、中央部に擾乱を受けている。壁はほぼ直立し、確認面からの深さは70～110cmである。底面は南へ向かってなだらかに傾斜している。

覆土 17層に分層される。含有物と不自然な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、粘土粒子微量	10 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、粘土粒子微量	11 暗褐色	ロームブロック多量、炭化物少量
3 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	12 褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化物少量
4 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	13 褐色	ロームブロック中量
5 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	14 明褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量
6 褐色	ロームブロック中量、炭化物微量	15 明褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
7 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量	16 明褐色	ロームブロック多量、炭化粒子少量
8 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	17 暗褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量
9 黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子・礫微量		

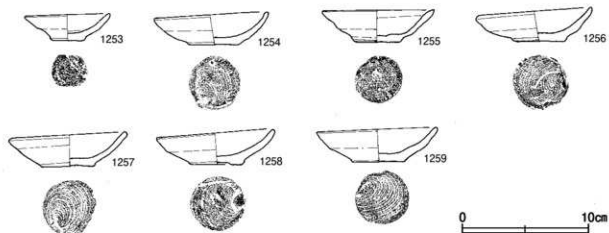
遺物出土状況 土師質土器片18点（皿12、内耳鬮2、亮4）のほか、流れ込んだ縄文土器片24点、土師器片



第524図 第14号地下式坑実測図

33点も出土している。1253～1259は主室南部の覆土中層(第12・13層との境目)から出土しており、1254と1259、1255と1257・1258がそれぞれ重なった状態で出土している。いずれもほぼ同位置で出土していることから、本土坑の廃絶後に一括して廃棄されたと考えられる。

所見 廃絶時期は、出土土器や重複関係から16世紀中葉と考えられる。



第525図 第14号地下式坑出土遺物実測図

第14号地下式坑出土遺物観察表(第525図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1253	土器	土器	6.9	2.1	2.6	長石・石英・炭屑・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切 り後ナデ 内底上葉ナデ・横ナデ	覆土中層	80%
1254	土器	土器	8.8	2.6	4.0	長石・石英・炭屑・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切 り後ナデ 内底中央部若し突出	覆土中層	100%
1255	土器	土器	8.9	2.2	3.6	長石・石英・赤色砂子・小塵	浅黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切 り後ナデ 内底中央部凹ム・横ナデ	覆土中層	95%
1256	土器	土器	9.0	2.7	4.0	長石・石英・炭屑・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切 り後ナデ 内底中央部若し突出	覆土中層	100%
1257	土器	土器	9.2	2.7	4.4	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切 り後ナデ 内底中央部若し突出	覆土中層	100%
1258	土器	土器	9.3	2.7	4.2	長石・石英・炭屑・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切 り後ナデ 内底中央部若し突出	覆土中層	100%
1259	土器	土器	9.6	2.8	4.2	長石・石英・炭屑・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切 り後ナデ 内底中央部若し突出	覆土中層	100%

第15号地下式坑(第526図)

位置 調査区南部のL37区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

竪坑 主室北東壁中央部に位置し、上面は一辺0.9mほどの隅丸方形である。壁高は48cmで、ほぼ直立している。

底面は主室に向かって緩斜し、主室との境で8cmほどの段をなしている。

主室 長軸2.42m、短軸2.24mの隅丸方形で、主軸方向はN-48°-Wである。天井部は遺存していない。壁はほぼ直立し、上面が削平されている確認面からの深さは44～62cmである。底面は竪坑との境に向かって緩やかに傾斜している。

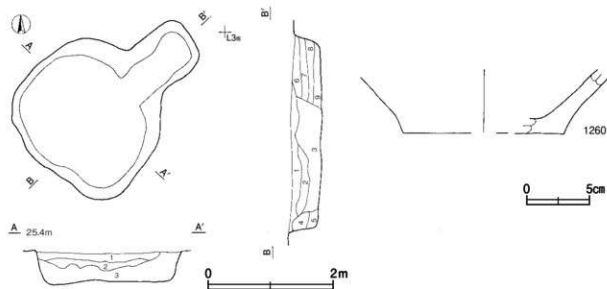
覆土 9層に分層される。ロームを含む土で埋めた人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	6 黒褐色	ロームブロック少量
2 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	7 褐色	ローム粒子微量
3 明褐色	ロームブロック中量	8 黒褐色	ローム粒子少量
4 褐色	ロームブロック少量	9 褐色	ローム粒子中量
5 暗褐色	ロームブロック微量		

遺物出土状況 常滑系甕の陶器片1点が覆土中から出土している。

所見 北部に本跡とほぼ同形体の4基の地下式坑が第1号土坑群を囲むように位置する様相から同時期に機能していたと想定され、時期は中世後半と考えられる。



第526図 第15号地下式坑・出土遺物実測図

第15号地下式坑出土遺物観察表 (第526図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
130	陶器	甕	—	(5.2)	(13.0)	長石・石英	灰褐色	良好	外部内・外面ナマ 内面灰面化 底部分	覆土中	10% 常滑系

表27 地下式坑一覧表

番号	位置	主軸方向	尺						土	主な出土遺物	備考(時期)		
			型		坑		室						
			長軸径×短軸径	壁高(cm)	平面形	底面	長軸径×短軸径	壁高(cm)	平面形	底面	土質		
1	K 433	N-66°-W	1.13 × 1.02	54~66	隅丸長方形	平頂	3.78 × 1.97 ~2.31	66~90	不定形	平頂	丸土	土師質土器、灰石	本跡→SD3
2	J 411	N-69°-W	1.79 × 1.28	100	楕円形	平頂	2.87 × 2.68	148~158	隅丸方形	平頂	丸土	土師質土器、貝片	SH4→本跡
3	L 349	N-22°-E	1.26 × 1.22	64	楕円形	平頂	2.98 × 2.97	120~124	不定形	平頂	丸土	土師質土器	SK245→本跡→SK49
4	L 347	N-90°-E	0.82 × 0.80	56	隅丸方形	平頂	2.28 × 2.24	50~68	隅丸方形	平頂	丸土	土師質土器、陶器	SK131→SK230→SK218→本跡
5	K 349	N-80°-W	1.48 × 1.46	53	隅丸方形	平頂	3.72 × (1.17)	70	隅丸長方形	平頂	自然	土師質土器、陶器、磁石	本跡→SK8
6	L 347	N-77°-W	1.49 × 1.17	12~40	隅丸長方形	段状	3.34 × 2.36	50	隅丸長方形	平頂	丸土	陶器、茶臼	SK308-SK129-SK131-SK134→本跡→SK167
7	L 347	N-88°-E	1.76 × 1.20	60	楕円形	平頂	2.60 × 2.50	56~76	方形	平頂	丸土	—	本跡→SE28
8	K 433	N-50°-W	1.54 × 1.10	70	不定形	平頂	3.53 × (1.82)	100~110	楕円形	平頂	丸土	土師質土器	本跡→SD13
9	K 445	N-57°-E	2.30 × 1.09	100	楕円形	平頂	3.53 × 1.81	94~110	方形	平頂	丸土	土師質土器	本跡→SF2→SD13
10	H 647	N-75°-W	2.59 × 1.77	230	楕円形	平頂	3.06 × 1.08	124	隅丸長方形	平頂	自然	土師質土器、木片	—
11	H 649	N-01°-E	1.22 × 0.93	60	長方形	平頂	2.71 × 1.89	70	不定形	—	丸土	土師質土器、不明鉄製品	作り替えの可能性有り
12	H 843	N-6°-W	0.75 × 0.72	55	楕円形	平頂	4.97 × 2.12	65	隅丸長方形	凸頂	丸土	—	SH110→TM1→SP10→本跡→ST39-41-42-SK1613
13	H 740	N-2°-E	2.03 × 1.52	70	長方形	平頂	(5.05) × 1.50	84~118	長方形	凸頂	丸土	—	TM1→SK8→本跡→SD251-SK1136
14	H 842	N-13°-W	1.81 × 1.28	60	隅丸方形	平頂	6.88 × 1.68	70~110	不定形	平頂	丸土	土師質土器	本跡→SD251
15	L 347	N-88°-W	0.92 × 0.90	48	隅丸方形	平頂	2.42 × 2.24	44~62	隅丸方形	平頂	丸土	陶器	—

⑩ 墓坑

今回の調査で本調査区全域にわたって47基の墓坑が検出されている。墓坑の年代については2つの観点から中世と近世とに分けた。1つは鈴木公雄氏の「銭の考古学」による古銭の年代観から、「宋銭や明銭などの渡来銭からなる六道銭を使用」を中世後半、「寛永通寶発行（1636年）から渡来銭の使用が禁止される期間（1670年）まで」以後を近世のものとした。もう1つは埋葬形式で、早稲と称される円筒形の桶を使用されている可能性があるものを選び分けた。それらの観点から、中世の墓坑27基、近世の墓坑20基となる。以下、それらの年代観による分類を基準として墓坑について記載していく。

第1号墓坑（第527図）

位置 調査区南部のK3J9区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第1号土坑群の第52号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.17m、短径0.72mの不定形で、長径方向はN-42°-Eである。深さ16cm、底面は平坦であり、北東部の底面にロームと粘土が貼られている。壁は外傾して立ち上がっている。

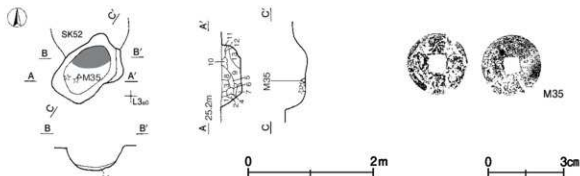
覆土 14層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。また、底面に貼られた土は第14層である。

土層解説

1 暗褐色	炭化粒子少量、ローム粒子微量	8 褐色	ロームブロック微量
2 褐色	ロームブロック中量	9 暗褐色	炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	10 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック微量	11 暗褐色	炭化物微量
5 褐色	ローム粒子中量	12 暗褐色	ローム粒子・微量
6 暗褐色	ローム粒子少量、炭化物微量	13 暗褐色	ローム粒子少量
7 暗褐色	ロームブロック少量	14 灰黄褐色	ローム粒子・粘土粒子中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 埋銭と考えられる古銭1点（熙寧元寶）が中央部の底面から出土し、古銭の西側に脚部と腰部の骨片の一部が検出されている。その他、流れ込んだと考えられる土師器片と須恵器片も出土している。

所見 時期は、出土遺物から中世後半と考えられる。



第527図 第1号墓坑・出土遺物実測図

第1号墓坑出土遺物観察表（第527図）

番号	器種	径	孔幅	重量	初録年	材質	特徴	出土位置	備考
M35	熙寧元寶	2.4	0.6	1.9	1068	銅	北宋銭 篆書 無背	底面	

第2号墓坑（第528図）

位置 調査区南部のK4g0区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第370号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.08m, 短径0.65mの不定形で, 長径方向はN-37°-Eである。深さ26cm, 底面は平坦であり, 壁は外傾して立ち上がっている。

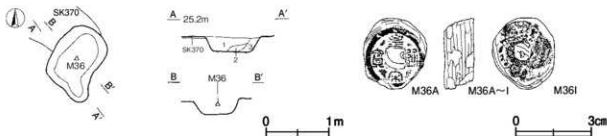
覆土 3層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 褐 褐色 ローム粒子中量
2 明 褐色 ロームブロック中量
3 暗 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 古銭9点(皇宋通寶1, 不明8)が錆び付いて出土している。M36は中央部の覆土上層から出土している。

所見 時期は, 出土遺物から中世後半と考えられる。出土銭貨は9枚であるが, 六道銭として埋銭されていたと想定される。



第528図 第2号墓坑・出土遺物実測図

第2号墓坑出土遺物観察表 (第528図)

番号	品種	径	孔距	重量	初測年	材質	特徴	出土位置	備考
M36A	皇宋通寶	(2.4)	0.7		1098	銅	北宋銭 篆書 1まで付着	覆土上層	
M36B ~H (古銭 不明)	(古銭 不明)	(2.5)	—	(24.7)	不明	銅	錆による損傷が激しいため判読不能	覆土上層	
M36I (古銭 不明)	(古銭 不明)	(2.0)	(0.6)		不明	銅	錆による付着のための判読不能 無背	覆土上層	

第3号墓坑 (第529図)

位置 調査区南部のM4e5区, 標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第3号溝跡と第4号道路跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.09m, 短軸0.76mの隅丸長方形で, 長軸方向はN-50°-Eである。深さ39cm, 底面は平坦であり, 壁は外傾して立ち上がっている。

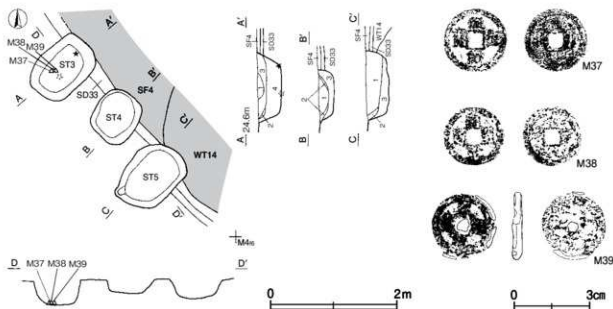
覆土 4層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 灰 褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
2 黒 褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
3 灰黄 褐色 粘土粒子多量, ローム粒子少量
4 灰黄 褐色 ロームブロック・骨片中量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 古銭4点(開元通寶, 皇宋通寶, 熙寧元寶カ, 不明)が中央部南西寄りの底面から, 損傷が激しく図化できない古銭2点(不明)が覆土中から出土している。古銭の北側には並んだ歯, 東側には脚部の一部の骨片, 覆土中からは骨片や骨粉が多く検出している。

所見 時期は, 重複関係や出土遺物から中世末と考えられる。



第529図 第3～5号墓坑、第3号墓坑出土遺物実測図

第3号墓坑出土遺物観察表 (第529図)

番号	器種	径	孔幅	重量	初測年	材質	特徴	出土位置	備考
M37	陶管瓦葺*	2.6	0.6	1.9	[1008]	銅	宋銭 ⁺ 無背	底面	
M38	陶瓦通貫	2.4	0.6	2.8	845	銅	佛銭 無背	底面	
M38A	泉布通貫	2.6	0.6	(7.8)	1038	銅	北宋銭 葉背 M39Bと付着のため背面不明	底面	
M39B	古銭 (不明)	2.6	0.6		不明	銅	銅による付着と損傷が激しいため判読不能	底面	

第4号墓坑 (第529図)

位置 調査区南部のM4 e5区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第33号溝跡と第4号道路跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸0.82m、短軸0.73mの隅丸方形で、長軸方向はN-40°-Eである。深さ21cm。底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。ローム土や粘土を多く含む堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、粘土ブロック微量 3 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 灰褐色 粘土粒子多量、ローム粒子少量

所見 時期は、重複関係や、第3号墓坑と同軸方向と同様の堆積状況から中世末と考えられる。骨片が検出されていないため明らかではないが、隣り合わせに位置している第3・5号墓坑より一回り小さい形態をしていることから、子どもを埋葬していたのではないかと推測される。

第5号墓坑 (第529図)

位置 調査区南部のM4 e5区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第33号溝跡、第4号道路跡、第14号水溜遺構を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.15m、短軸0.83mの隅丸長方形で、長軸方向はN-44°-Eである。深さ33cm。底面は皿状であり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。ローム土や粘土を多く含む堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量 3 灰黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 灰黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

所見 時期は、重複関係や、第3号墓坑と同軸方向で同様の堆積状況から中世末と考えられる。

第6号墓坑 (第530図)

位置 調査区南部のL4d3区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸0.90m、短軸0.72mの隅丸長方形で、長軸方向はN-23°-Eである。深さ22cm、底面にはやや凸凹があり、壁は外傾して立ち上がっている。

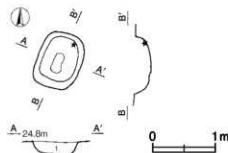
覆土 単一層である。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 明褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 北壁付近の底面から25点の歯が検出されている。

所見 西側に第1号墓坑や地下式坑5基に囲まれた土坑群が確認されていることから、本跡を含む当地区に墓域が形成されたと考えられる。墓域が形成された時期を考慮すると、本跡も中世後半と考えられる。



第530図 第6号墓坑実測図

第7号墓坑 (第531図)

位置 調査区南部のL3f0区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸1.38m、短軸0.74mの隅丸長方形で、長軸方向はN-36°-Wである。深さ30cm、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

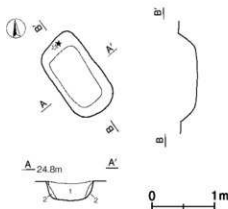
覆土 2層に分層される。ローム土や粘土で一気に埋めている。

土層解説

- 1 に近い黄褐色 ロームブロック多量、粘土粒子中量
2 明褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 北壁付近の覆土中から下顎骨と歯が西側を向いた状態で検出されている。

所見 北側に第1号墓坑や地下式坑5基に囲まれた土坑群が確認されていることから、本跡を含む当地区に墓域が形成されたと考えられる。墓域が形成された時期を考慮すると、本跡も中世後半と考えられる。



第531図 第7号墓坑実測図

第8号墓坑 (第532図)

位置 調査区南部のL4a7区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径0.98m、短径0.69mの楕円形で、長径方向はN-34°-Eである。深さ22cm、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

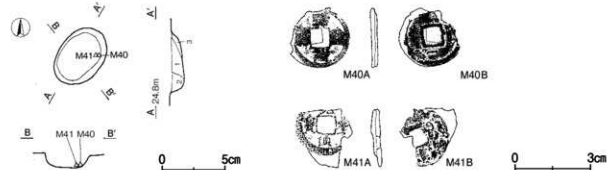
覆土 3層に分層される。北側からローム土や焼土で埋めている。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 3 褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック少量
2 明褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック少量

遺物出土状況 錆び付いた古銭4点（漢元通寶1、元豊通寶1、不明2）が、東壁付近の底面付近から炭化材とともに出土している。

所見 覆土に焼土や炭化材が含まれ、南東10mに第5号火葬土坑が確認されていることから、火葬後に本跡へ埋葬されたと想定される。時期は、出土遺物から中世後半と考えられる。



第532図 第8号墓坑・出土遺物実測図

第8号墓坑出土遺物観察表 (第532図)

番号	器種	径	孔軸	重量	初測年	材質	特徴	出土位置	備考
M40A	漢元通寶*	(2.4)	0.7	(948)	不明	銅	後漢銭* M40Bと付着	覆土下層	
M40B	古銭(不明)	(2.4)	0.75		不明	銅	背月星または下月*	覆土下層	
M41A	元豊通寶	(2.4)	0.7	1078	不明	銅	北宋銭 行書 M41Bと付着	覆土下層	
M41B	古銭(不明)	(2.5)	0.6	(25)	不明	銅	錆による付着と損傷が激しいため判読不能	覆土下層	

第9号墓坑 (第533図)

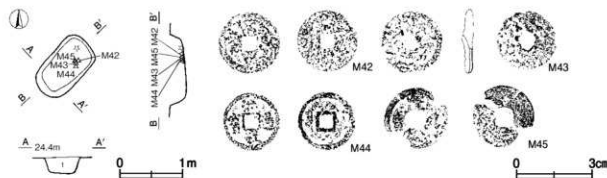
位置 調査区南部のM4 b5区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸1.04m、短軸0.62mの隅丸長方形で、長軸方向はN-44°-Eである。深さ22cm。底面は平坦であり、壁はほぼ直立している。

覆土 単一層である。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量



第533図 第9号墓坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 古銭5点(洪武通寶1, 皇□□寶1, 不明3)が東壁付近の底面から, 骨片が北壁付近の底面からそれぞれ出土している。M43は, 2枚の古銭が錆び付いた状態で出土している。

所見 時期は, 出土遺物から中世後半と考えられる。出土銭貨は5枚であるが, 六道銭として埋銭されていたと想定される。

第9号墓坑出土遺物観察表(第533図)

番号	器種	径	孔距	重量	初周年	材質	特徴	出土位置	備考
M42	古銭 (不明)	2.4	0.5	1.6	不明	銅	錆による損傷が激しいため判読不能	底面	
M43	古銭 (不明)	2.4	0.6	4.2	不明	銅	錆により1枚付着し損傷が激しいため判読不能	底面	
M44	洪武通寶	2.3	0.6	3.0	1368	銅	明銭 無背	底面	
M45	皇□□寶	{2.4}	{0.8}	1.5	不明	銅	錆による損傷が激しいため判読不能 無背	底面	

第10号墓坑(第534図)

位置 調査区南部のM4a0区, 標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第52号溝に上端を掘り込まれている。

規模と形状 確認されている長径は0.84m, 短径は0.70mの楕円形で, 長径方向はN-54°-Eである。地表面からの深さは50cmほどで, 底面は皿状であり, 壁は緩斜して立ち上がっている。

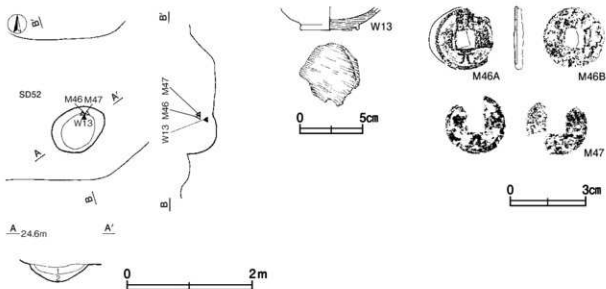
覆土 2層に分層される。ローム土や粘土で埋めている。

土層解説

- 1 黒 褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 機土粒 2 濃い黄褐色 粘土粒子多量, ロームブロック少量
子・炭化粒子微量

遺物出土状況 古銭3点(開元通寶, □元通寶, 不明), 木製品1点(漆器碗)が出土している。M46・M47は北東壁付近の覆土上層, W13は覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 重複関係や出土遺物から14～15世紀頃と考えられる。



第534図 第10号墓坑・出土遺物実測図

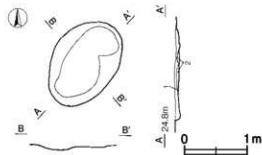
第10号墓坑出土遺物観察表(第534図)

番号	器種	口径	器高	底径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
W13	漆器	—	(1.8)	4.7	(54.8)	木	高台割りだし	覆土中層	

番号	器種	径	孔幅	重量	相対年	材質	特徴	出土位置	備考
M46A	陶土通貫	2.4	0.7	(48)	845	銅	物踐 無背 M46Bと付着	覆土上層	
M46B	古銅 (不明)	2.4	0.7		不明	銅	錆による付着のため判読不能 無背	覆土上層	
M47	□形通貫	(2.3)	0.7	1.5	不明	銅	無背	覆土上層	

第11号墓坑 (第535図)

位置 調査区南部のL5 e5区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。



第535図 第11号墓坑実測図

確認状況 削平を受けているため、遺存状態は悪い。

規模と形状 長径1.50m、短径1.02mの楕円形で、長径方向はN-32°-Eである。深さ2~8cmで底面には凸凹があり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子・骨片微量
- 2 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片5点(内耳鍋)、第1層から骨片が微量混入した状態で検出されている。

所見 時期は、遺構の形態から中世と考えられる。また、西側8mに第6号火葬土坑が位置し、本跡には若干の焼土が含まれていることを考慮すると、火葬後に拾得した遺骨を埋納した可能性がある。

第12号墓坑 (第536図)

位置 調査区南東部のM5 e7区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第55号ピット群の一部に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.57m、短軸1.03mの隅丸長方形で、長軸方向はN-45°-Wである。深さ29cm、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

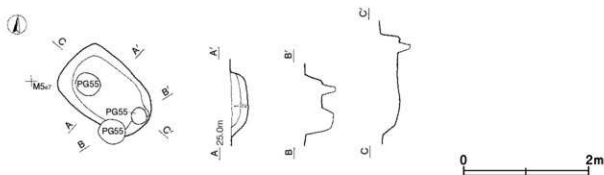
覆土 2層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

遺物出土状況 土師質土器片10点(皿2、内耳鍋8)が出土している。

所見 時期は、重複関係や第18号墓坑と同軸方向を示すことから中世後半と考えられる。



第536図 第12号墓坑実測図

第13号墓坑（第537図）

位置 調査区南東部のM5g2区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第42号ピット群域に位置し、第13号溝にP5を掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.24m、短軸0.88mの隅丸長方形で、長軸方向はN-40°-Wである。深さ20cmほど、底面は中央へ向かってくぼんでおり、壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 5か所のピットを確認しているが、性格は不明である。周辺にピット群が確認されていることから、それらの遺構に属する可能性がある。

覆土 4層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。また、第1層はP1の抜き取り痕と考えられる。

土層解説（I-I'）

- | | | | |
|-------|------------------|--------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量 | 4 灰黄褐色 | ローム粒子・粘土粒子中量、炭化物微量 |

遺物出土状況 土師質土器片4点（内耳鍋）が出土している。

所見 第42号ピット群との位置関係や、周囲に4基の墓坑が確認されていることから、本跡を含む当地区に墓域が形成されたと考えられる。墓域が形成された時期を考慮すると、本跡も中世と考えられる。

第14号墓坑（第537図）

位置 調査区南東部のM5g2区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

確認状況 第42号ピット群域に位置している。

規模と形状 長軸1.48m、短軸1.00mの隅丸長方形で、長軸方向はN-46°-Eである。深さ14～22cmで底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 3か所のピットを確認しているが、性格は不明である。周辺にピット群が確認されていることから、それらの遺構に属する可能性がある。

覆土 3層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説（C-C'）

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|--------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化物少量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | 炭化物少量、ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子少量 | | |

所見 第42号ピット群との位置関係や、周囲に4基の墓坑が確認されていることから、本跡を含む当地区に墓域が形成されたと考えられる。墓域が形成された時期を考慮すると、本跡も中世と考えられる。

第15号墓坑（第537図）

位置 調査区南東部のM5g3区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

確認状況 第42号ピット群域に位置している。

規模と形状 長軸1.36m、短軸0.82mのやや形が崩れた隅丸長方形で、長軸方向はN-44°-Eである。深さ10cmほど、底面には凸凹があり、壁は緩斜して立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説（A-A'）

- | | | | |
|--------|-------------------|-------|-------------------------|
| 1 黒暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 2 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
|--------|-------------------|-------|-------------------------|

遺物出土状況 土師質土器片の内耳鍋1点が出土している。

所見 第42号ピット群との位置関係や、周囲に4基の墓坑が確認されていることから、本跡を含む地区に墓域が形成されたと考えられる。墓域が形成された時期を考慮すると、本跡も中世と考えられる。

第16号墓坑（第537図）

位置 調査区南東部のM5g1区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第42号ピット群域に位置し、第138号溝に掘り込まれている。

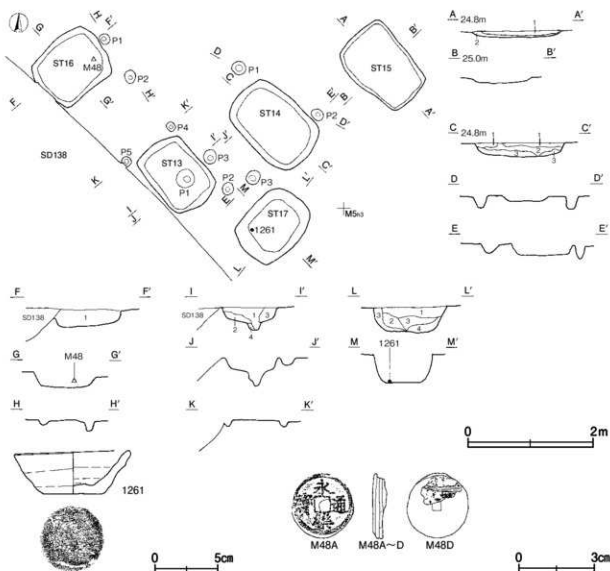
規模と形状 長軸1.24m、短軸0.98mの隅丸長方形で、長軸方向はN-50°-Eである。深さ18~28cmで底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 2か所のピットを確認しているが、性格は不明である。周辺にピット群が確認されていることから、それらの遺構に属する可能性がある。

覆土 単一層である。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説 (F-F')

1 暗褐色 ローム粒子多量



第537図 第13～17号墓坑、第16・17号墓坑出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器片4点(皿1、内耳鍋3)、古銭4点(永楽通寶1、不明3)が出土している。埋銭と考えられるM48は、4枚が錆び付いた状態で北東壁付近の覆土中層から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土遺物から中世後半と考えられる。また、周囲に4基の墓坑が確認されていることから、本跡を含む当地区に墓域が形成されたと考えられる。

第16号墓坑出土遺物観察表(第537図)

番号	器種	径	孔距	重量	初測年	材質	特徴	出土位置	備考
M48A	永楽通寶	2.4	0.5	(6.6)	1408	銅	明銭 Dまで付着	覆土中層	
M48B ~D (古銭)	(不明)	(2.4)	(0.3~0.4)		不明	銅	錆による付着のため判読不能 Dは無背	覆土中層	

第17号墓坑(第537図)

位置 調査区南東部のM5h2区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

確認状況 第42号ピット群域に位置している。

規模と形状 長軸1.18m、短軸0.92mの隅丸長方形で、長軸方向はN-42°-Eである。深さ45cm、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説(L-L')

1 暗褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量

2 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量 4 暗褐色 ローム粒子中量、粘土ブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片2点(皿)が出土している。1261は南西壁付近の底面から出土している。

所見 時期は、出土土器から15世紀後半と考えられる。

第17号墓坑出土遺物観察表(第537図)

番号	種類	器種	11径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1261	土師質土器	皿	92	3.5	48	長石・石英・霞石・赤色粒子	橙	普通	器底内・外面ロタロ子字・底面斜縁糸切 3層1層なフタ、内底子字・中央凹み	底面	80%

第18号墓坑(第538図)

位置 調査区南東部のM5f7区、標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第55号ピット群の一部に掘り込まれ、中央部に攪乱を受けている。

規模と形状 長径1.82m、短径0.77mの不定形で、長径方向はN-37°-Wである。深さ15cmほど、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 5層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

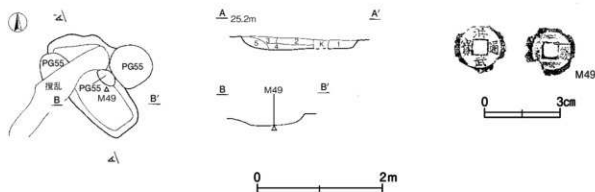
1 暗褐色 ローム粒子中量 4 暗褐色 粘土ブロック中量、炭化粒子少量、ロームブロック・粘土粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

3 暗褐色 炭化物少量、ローム粒子微量 5 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片3点(皿2、内耳鍋1)、古銭1点(洪武通寶)が出土している。M49は東壁付近の底面から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土遺物から中世後半と考えられる。



第538図 第18号墓坑・出土遺物実測図

第18号墓坑出土遺物観察表 (第538図)

番号	器種	径	孔幅	重量	初測年	材質	特徴	出土位置	備考
M49	洪武通寶	2.1	0.5	2.0	1368	銅	明銭 背一銭	底面	

第19号墓坑 (第539図)

位置 調査区南東部のM 5 e6区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第55号ピット群の一部に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.70m、短軸0.82mの隅丸長方形で、長軸方向はN-32°-Eである。深さ10cmほど、底面にはやや凸凹があり、壁は外傾して立ち上がっている。

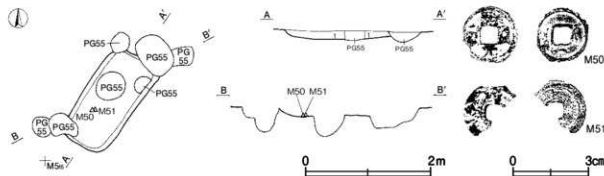
覆土 単一層である。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 褐色 ロームブロック中量、炭化材微量

遺物出土状況 土師質土器片2点(皿)、古銭2点(開元通寶、不明)が出土している。M50・M51は中央部の底面から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土遺物から中世後半と考えられる。



第539図 第19号墓坑・出土遺物実測図

第19号墓坑出土遺物観察表 (第539図)

番号	器種	径	孔幅	重量	初測年	材質	特徴	出土位置	備考
M50	開元通寶	2.3	0.7	2.3	621	銅	唐銭 背下月々	覆土下層	
M51	□□□□	2.3	0.6	0.9	不明	銅	鏽による損傷が激しいため判読不能 無背々	覆土下層	

第20号墓坑（第540図）

位置 調査区南東部のM4j0区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸1.32m、短軸0.64mの隅丸長方形で、長軸方向はN-48°-Eである。深さは50cmほどで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 5層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説（A-A'）

- | | | | |
|---------|------------------|---------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、粘土ブロック少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、粘土ブロック微量 | 5 に白い褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック少量 |
| 3 に白い褐色 | 粘土ブロック中量、ローム粒子少量 | | |

所見 本跡の東側に接して第21号墓坑が位置し、北側に5基の墓坑や土坑群が確認されていることから、本跡を含む当地区に墓域が形成されたと考えられる。墓域が形成された時期を考慮すると、本跡も中世と考えられる。

第21号墓坑（第540図）

位置 調査区南東部のM5j1区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸1.13m、短軸0.73mの隅丸長方形で、長軸方向はN-44°-Eである。深さは50cmほどで、底面は平坦であり、壁はほぼ直立している。

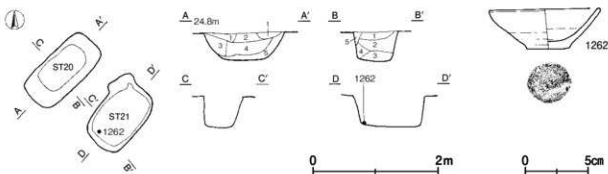
覆土 5層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説（B-B'）

- | | | | |
|---------|------------------|-------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、粘土ブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック微量 |
| 2 に白い褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 | 5 明褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量、粘土ブロック少量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片3点（皿1、内耳鍋2）が出土している。1262が南壁際の底面から出土している。

所見 本跡の西側に接して第20号墓坑が位置し、北側に5基の墓坑や土坑群が確認されていることから、本跡を含む当地区に墓域が形成されたと考えられる。時期は、出土遺物から15世紀後半と考えられる。



第540図 第20・21号墓坑、第21号墓坑出土遺物実測図

第21号墓坑出土遺物観察表（第540図）

番号	種別	器種	1径	器高	口径	胎土	色調	地蔵	手法の特徴	出土位置	備考
1262	土師質土器	皿	8.8	3.2	3.5	長石・石英・炭粉・赤色粒子	昏	普通	体部内・内面クワロナデ 底面回転糸切 台縁下妻ナデ 内底ナデ	底面	80%

第22号墓坑（第541図）

位置 調査区南東部のM6b1区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第45号ピット群の一部に南コーナー部の上端を掘り込まれている。

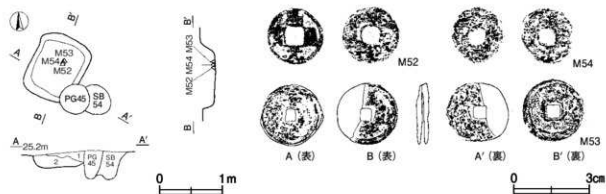
規模と形状 長軸1.06m、短軸0.86mの隅丸長方形で、長軸方向はN-29°-Eである。深さは20cmほどで、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。不規則な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量、粘土ブロック・炭化粒子微量 2 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片1点(摺鉢)、陶器片1点(常滑系甕)、古銭4点(開元通寶1、□宋通□1、不明2)のほか、流れ込んだ須恵器片1点も出土している。M52～M54は、中央部北寄りの底面から出土している。
所見 時期は、重複関係や出土遺物から中世後半と考えられる。



第541図 第22号墓坑・出土遺物実測図

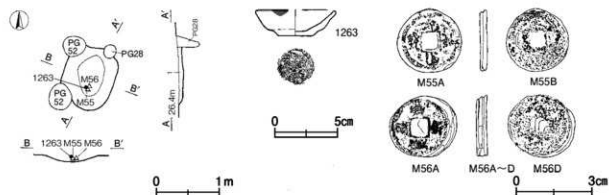
第22号墓坑出土遺物観察表 (第541図)

番号	器種	径	孔幅	重量	初測年	材質	特徴	出土位置	備考
M52	開元通寶	2.3	0.7	2.2	621	銅	磨銭 無背	底面	
M53A	□□□□	(2.5)	0.5		不明	銅	鏽による損傷が激しいため判読不能 無背	底面	
M53B	□宋通□	2.5	0.5		不明	銅	北宋銭+ 無背 M53Aと付着	底面	
M54	□□□□	(2.2)	0.6	1.9	不明	銅	鏽による損傷が激しいため判読不能	底面	

第23号墓坑 (第542図)

位置 調査区中央部のH7g7区、標高26mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第52号ピット群の一部に掘り込まれている。



第542図 第23号墓坑・出土遺物実測図

規模と形状 長径1.00m、短径0.83mの楕円形で、長径方向はN-25°-Eである。深さ9cm、底面は皿状を呈し、壁は緩斜して立ち上がっている。

覆土 単一層である。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 暗 褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片1点(皿)、古銭6点(元祐通寶1、皇宋通寶1、不明4)のほか、流れ込んだ土師器片3点も出土している。I263は中央部の覆土中層、M55・M56は底面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から15世紀後半と考えられる。

第23号墓坑出土遺物観察表 (第542図)

番号	種類	器種	1径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
I263	土師質土器	皿	(6.2)	2.1	2.8	長石・石英・赤色 粒子	橙	普通	体部内・外面ロタロナデ 底面回転糸切 目残ナデ 内底ナデ	覆土中層	70% I11冠部面 埋着有

番号	器種	径	孔幅	重量	初周年	材質	特徴	出土位置	備考
M55A	元祐通寶	2.3	0.7	5.5	1086	銅	北宋銭 M55Bと付着	底面	
M55B	古銭 (不明)	2.5	0.6	—	不明	銅	錆による付着のため判読不能 無背	底面	
M56A	皇宋通寶	2.3	0.6	—	1038	銅	北宋銭 真書 M56Dまで付着	底面	
M56B ~C	古銭 (不明)	2.3~2.4	—	11.0	不明	銅	錆による損傷が激しいため判読不能	底面	
M56D	□□□□	2.4	0.6	—	不明	銅	錆による付着のため判読不能 無背	底面	

第24号墓坑 (第543図)

位置 調査区中央部のJ7e1区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

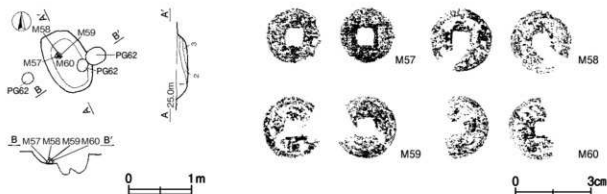
確認状況 第62号ピット群の一部に掘り込まれている。

規模と形状 長軸1.05m、短軸0.68mの隅丸長方形で、長軸方向はN-30°-Wである。深さ18cm、底面は平坦であり、壁は緩斜して立ち上がっている。

覆土 3層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 暗 褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子少量
 2 暗 褐色 焼土ブロック多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子微量
 3 黒 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物粒子微量



第543図 第24号墓坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器片2点(皿, 内耳鍋), 古銭4点(成淳元寶, 元□□寶, □宋通□, 不明)のほか, 流れ込んだ縄文土器片1点も出土している。M57~M60は, 中央部の底面から出土している。

所見 時期は, 出土遺物から中世後半と考えられる。

第24号墓坑出土遺物観察表 (第543図)

番号	器種	径	口縁	底径	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M57	成淳元寶	2.3	0.6	3.3	1265	銅	唐宋銭 無背	底面	
M58	元□□寶	2.5	0.6	1.9	不明	銅	無背	底面	
M59	□宋通□	2.5	0.6	1.5	不明	銅	無背	底面	
M60	□□□□	2.5	0.5	1.5	不明	銅	鏽による損傷が激しいため判読不能	底面	

第25号墓坑 (第544図)

位置 調査区中央部の17a3区, 標高26mほどの平坦な台地上に位置している。

確認状況 第67号ピット群の一部に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.52m, 短軸1.60mの不整形長方形で, 北西コーナー部の一部が張り出している。長軸方向はN-65°-Wである。深さ12~16cmで底面はほぼ平坦であり, 壁は外傾して立ち上がっている。

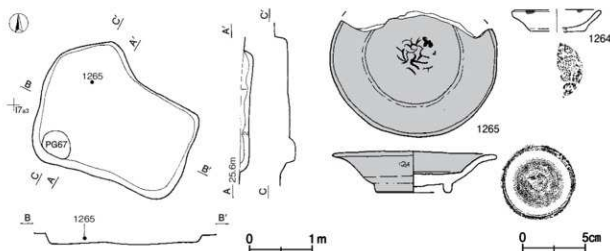
覆土 2層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 オリーブ黒色 粘土ブロック多量, 炭化粒子・砂粒微量 2 灰 色 粘土ブロック多量, 砂粒少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片20点(皿14, 内耳鍋5, 甕1), 磁器片1点(皿), 鉄製品2点(不明)のほか, 流れ込んだ石器1点(磨石カ)も出土している。1264は覆土中, 1265は北西部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器や重複関係から16世紀前半と考えられる。



第544図 第25号墓坑・出土遺物実測図

第25号墓坑出土遺物観察表 (第544図)

番号	種類	器種	口縁	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
1264	土師質土器	皿	(7.0)	1.7	(4.0)	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 内底ナデ	底面回転糸切り 残ナデ	覆土中	30% 112部 埋片有
1265	青磁	皿	12.9	3.3	5.9	砂粒	青磁輪	オリーブ灰	普通	体部内外面輪軸 底台削り出し 内底中央部長さ文のスタンプ	覆土中層	60% 71,126 中間層有

第26号墓坑（第545図）

位置 調査区中央部のH7f4区、標高26mほどの平坦な台地上に位置している。

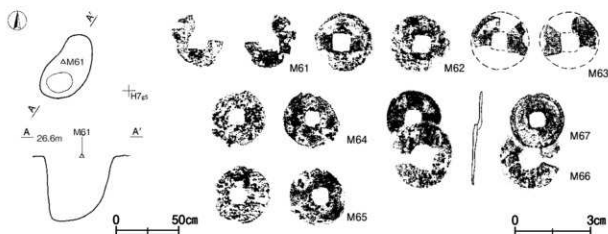
確認状況 第27号ピット群域に位置している。

規模と形状 長径0.55m、短径0.29mの不定形で、長径方向はN-25°-Eである。深さ51cmで、底面はほぼ平坦である。南壁はほぼ直立し、北壁はなだらかに外傾して立ち上がっている。

覆土 人為堆積と推測される。

遺物出土状況 古銭7点（天聖元寶1、□大通□1、不明5）が出土している。M61は覆土上層、他は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土遺物から中世後半と考えられる。



第545図 第26号墓坑・出土遺物実測図

第26号墓坑出土遺物観察表（第545図）

番号	器種	径	孔幅	重量	初周年	材質	特徴	出土位置	備考
M61	□□□□	(2.0)	0.7	(0.9)	不明	銅	錆による損傷が激しいため判読不能	覆土上層	
M62	天聖元寶	2.3	0.7	1.2	不明	銅	錆により1枚付着している	覆土中	PL123
M63	□大通□	(2.4)	(0.6)	(0.5)	1368	銅	明銭 無背	覆土中	
M64	□□□□	2.3	0.5	1.7	不明	銅	錆による損傷が激しいため判読不能	覆土中	
M65	□□□□	(2.3)	0.7	(1.7)	不明	銅	錆による損傷が激しいため判読不能	覆土中	
M66	□□□□	(2.3)	(0.7)		不明	銅	M67と付着	覆土中	PL123
M67	□□□□	2.1	0.6	(3.7)	不明	銅	錆による損傷が激しいため判読不能	覆土中	PL123

第27号墓坑（第546図）

位置 調査区中央部のI6d5区、標高26mほどの平坦な台地上に位置している。

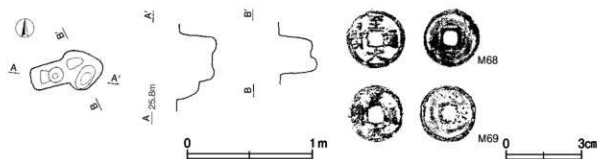
確認状況 第64号ピット群域に位置している。

規模と形状 長径0.58m、短径0.19mの不定形で、長径方向はN-79°-Eである。深さは17~31cmで、底面には凸凹があり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 人為堆積と推測される。

遺物出土状況 古銭2点（至大通寶）が出土している。M68・M69は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土遺物から中世後半と考えられる。



第546図 第27号墓坑・出土遺物実測図

第27号墓坑出土遺物観察表 (第546図)

番号	器種	径	孔幅	重量	初測年	材質	特徴	出土位置	備考
M68	瓦大通貫	23	0.6	1.9	1310	銅	元銭 無背	覆土中	
M69	瓦大通貫	22	0.5	2.9	1310	銅	元銭 無背	覆土中	

表28 墓坑一覽表

番号	位置	長狭方向	平面形	規模 (m)		底面	壁面	覆土	人骨 (有・無)	主な出土遺物	備考 (新田園跡 旧1→新)
				長径(東)×短径(南)	深さ (cm)						
1	K 3 J 9	N-42°-E	不定形	1.17 × 0.72	16	平頭	外傾	人瓦	有	古銭	第1号土坑群→本跡
2	K 4 a 0	N-37°-E	不定形	1.08 × 0.65	26	平頭	外傾	人瓦	無	古銭	SK370→本跡
3	M 4 e 5	N-50°-E	隅丸長方形	1.09 × 0.76	39	平頭	外傾	人瓦	有	古銭	SD33→SF4→本跡
4	M 4 e 5	N-40°-E	隅丸方形	0.82 × 0.73	21	平頭	外傾	人瓦	無	—	SD33→SF4→本跡
5	M 4 e 5	N-44°-E	隅丸長方形	1.15 × 0.83	33	蓋状	外傾	人瓦	無	—	WT4+SD33→SF4→本跡
6	L 4 d 3	N-23°-E	隅丸長方形	0.90 × 0.72	22	凸凹	外傾	人瓦	有	—	
7	L 3 f 0	N-36°-W	隅丸長方形	1.28 × 0.74	30	平頭	外傾	人瓦	有	—	
8	L 4 a 7	N-34°-E	楕円形	0.98 × 0.69	22	平頭	外傾	人瓦	無	古銭	
9	M 4 b 5	N-44°-E	隅丸長方形	1.04 × 0.62	22	平頭	出汁直立	人瓦	有	古銭	
10	M 4 a 0	N-54°-E	楕円形	(0.84) × (0.70)	54	蓋状	縦斜	人瓦	無	古銭、漆器	本跡→SD52
11	L 5 e 5	N-32°-E	楕円形	1.50 × 1.02	2~8	凸凹	外傾	人瓦	有	土師質土器	
12	M 5 e 7	N-45°-W	隅丸長方形	1.57 × 1.03	29	平頭	外傾	人瓦	無	土師質土器	本跡→PG55
13	M 5 a 2	N-40°-W	隅丸長方形	1.24 × 0.88	18~22	凹状	外傾	人瓦	無	土師質土器	本跡→SD138 PG42城
14	M 5 a 2	N-46°-E	隅丸長方形	1.48 × 1.00	14~22	平頭	外傾	人瓦	無	—	PG42城
15	M 5 a 3	N-44°-E	隅丸長方形	1.36 × 0.82	8~10	凸凹	縦斜	人瓦	無	土師質土器	PG42城
16	M 5 a 1	N-50°-E	隅丸長方形	1.24 × 0.88	18~28	平頭	外傾	人瓦	無	古銭	本跡→SD138 PG42城
17	M 5 b 2	N-42°-E	隅丸長方形	1.18 × 0.92	45	平頭	外傾	人瓦	無	土師質土器	PG42城
18	M 5 f 7	N-37°-E	不定形	1.82 × 0.77	14~20	平頭	外傾	人瓦	無	土師質土器、古銭	本跡→PG55
19	M 5 e 6	N-32°-E	隅丸長方形	1.70 × 0.82	12	凹状	外傾	人瓦	無	土師質土器、古銭	本跡→PG55
20	M 4 j 0	N-48°-E	隅丸長方形	1.32 × 0.64	48	平頭	外傾	人瓦	無	—	
21	M 5 j 1	N-44°-E	隅丸長方形	1.13 × 0.73	47	平頭	出汁直立	人瓦	無	土師質土器	
22	M 6 b 1	N-29°-E	隅丸長方形	1.06 × 0.86	22	平頭	外傾	人瓦	無	土師質土器、陶器、古銭	本跡→PG45
23	H 7 a 7	N-25°-E	楕円形	1.00 × 0.83	9	蓋状	縦斜	人瓦	無	土師質土器、古銭	本跡→PG52
24	J 7 e 1	N-30°-W	隅丸長方形	1.05 × 0.68	18	平頭	縦斜	人瓦	無	土師質土器、古銭	本跡→PG62
25	I 7 a 3	N-65°-W	不整長方形	2.52 × 1.60	12~16	平頭	外傾	人瓦	無	土師質土器、磁器、不明鉄類出	本跡→PG67
26	H 7 f 1	N-25°-E	不定形	0.55 × 0.29	51	平頭	直立・外傾	人瓦	有	古銭	PG27城
27	I 6 a 5	N-79°-E	不定形	0.58 × 0.19	17~31	凸凹	外傾	人瓦	有	古銭	PG64城

⑫ 火葬土坑

火葬土坑については次のような基準を設けた。遺構の性格として、火葬後そのまま埋葬されたものと、拾骨をして別の場所に埋葬されたものとの両者の可能性を考慮して「火葬土坑」の名称を使用する。火葬土坑を構成している施設については、空気を取り込む坑を「開口部」、遺骸を火葬した坑を「燃焼部」、開口部底面から燃焼部底面に通気調整を促進させるために掘られたと考えられる溝を「通気溝」の3つに分けて説明する。主軸方向は、火葬を行う際に遺体を寝かせるために必要な長さや幅を掘られたであろう燃焼部の長軸方向とする。

第1号火葬土坑（第547図）

位置 調査区南部のL4c3区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

確認状況 第4・5号ピット群の境に位置している。

開口部 東側に位置する長軸0.98m、短軸0.78mの隅丸長方形である。底面は北東部から燃焼部にかけて緩やかに傾斜し、深さは19cmである。

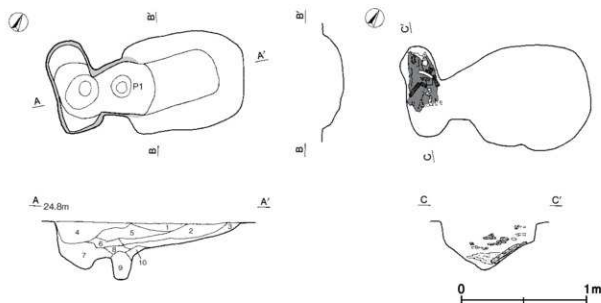
燃焼部 長軸0.73m、短軸0.35mの隅丸長方形で、深さは14～20cmである。長軸方向はN-40°-Wで、壁面は赤変している。燃焼部の底面には、長さ0.59m、上幅0.38～0.46m、下幅0.12m、深さ38cmの通気溝が掘られている。中央部から北壁にかけた底面と覆土上層に炭化材が出土し、その間から人骨が検出されている。

ピット 燃焼部との境にP1が確認されているが、周辺にピット群が確認されていることから、それらの遺構に属する可能性がある。

覆土 10層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。燃焼部の下層（第7層）から骨片が検出している。また、第10層はピットの覆土である。

土層解説

1	に灰い黄褐色	ロームブロック中量、炭化物少量	6	褐色	焼土ブロック中量、炭化材少量
2	に灰い黄褐色	ロームブロック少量	7	黒色	炭化材多量、骨片中量
3	暗褐色	焼土ブロック・炭化物少量	8	褐色	粘土ブロック中量、焼土ブロック少量
4	暗褐色	焼土ブロック・炭化材少量	9	褐色	ロームブロック少量
5	暗褐色	ロームブロック多量	10	褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量



第547図 第1号火葬土坑実測図

遺物出土状況 多量の人骨が検出しているほかに、流れ込みと考えられる土師器片2点も出土している。

所見 炭化材に混ざって人骨が多量に検出されているが、頭蓋骨や歯が確認されていないことから、拾骨後に残った人骨をそのまま埋めたと想定される。また、燃焼部の長軸が約0.7mであることや人骨の検出状況から、確認面より上の構造は2m内外の規模を有していたと想定される。西側へ20m地点に5基の地下式坑に囲まれた土坑群や3基の墓坑が確認されていることから、本跡を含む地区に墓域が形成されたと考えられる。遺構の形状や墓域が形成された時期を考慮すると、本跡も中世後半と考えられる。

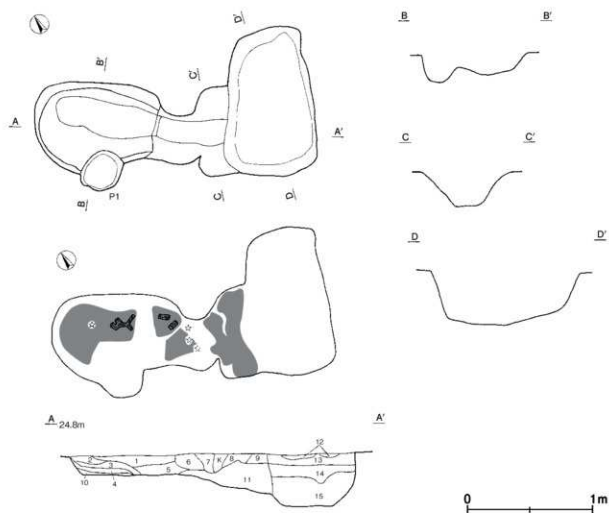
第2号火葬土坑 (第548図)

位置 調査区南部のM4c9区、標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

確認状況 第6号ピット群域に位置している。

開口部 東側に位置する長軸1.18m、短軸0.69mの隅丸長方形である。底面は燃焼部前を深さ40cmほど平坦に掘り込んでいる。底面付近から、歯片や骨粉が検出されている。

燃焼部 長軸1.30m、短軸0.73mの隅丸長方形で、深さは11cmである。長軸方向はN-33°-Eである。開口部との境目から燃焼部の底面には、長さ1.36m、上幅0.48~0.71m、下幅0.18~0.27m、深さ18cmの通気溝が掘られている。底面には炭化粒子や炭化材が広がり、底面よりやや上位からは骨片や骨粉が検出されている。



第548図 第2号火葬土坑実測図

ビット 燃焼部の南壁にP1が確認されているが、周辺にビット群が確認されていることから、それらの遺構に属する可能性がある。

覆土 15層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。また、堆積状況から、拾骨後に燃焼部側を埋め、開口部を改めて埋めたと考えられる。

土層解説

1 暗褐色	粘土粒子多量、ロームブロック・砂粒少量、炭化物微量	9 黒褐色	炭化粒子中量
2 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量	10 黒褐色	粘土粒子多量、炭化物中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量	11 にぶい黄褐色	粘土粒子多量、炭化材中量、焼土ブロック少量
4 黒褐色	炭化粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量	12 暗褐色	粘土ブロック・炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量
5 にぶい黄褐色	粘土粒子多量、ロームブロック少量、炭化粒子微量	13 にぶい黄褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
6 黒褐色	炭化物中量、ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子・骨片少量	14 暗褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化物微量
7 暗褐色	ロームブロック・炭化物・粘土粒子少量	15 にぶい黄褐色	粘土粒子多量、ロームブロック・骨片少量、炭化粒子微量
8 黒暗褐色	焼土ブロック・炭化物中量、ロームブロック・骨片少量		

所見 覆土の堆積状況から、遺骸を焼いて拾骨した残りを開口部へ埋めた可能性がある。周囲には第3・4号火葬土坑や20mの同心円状内に11基の墓坑や土坑群が確認されていることから、本跡を含む地区に墓域が形成されたと考えられる。遺構の形状や墓域が形成された時期を考慮すると、本跡も中世後半と考えられる。

第3号火葬土坑（第549図）

位置 調査区南部のM4b9区、標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第6号ビット群に開口部を掘り込まれている。

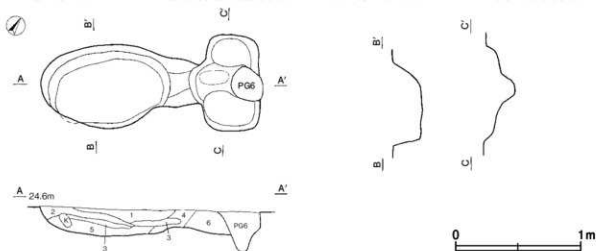
開口部 東側に位置する長軸0.77m、短軸0.46mの隅丸長方形である。底面には長さ0.48m、上幅0.20m、下幅0.10m、深さ18cmの通気溝が掘られており、燃焼部と連結部分で一段盛り上がっている。

燃焼部 長径1.30m、短径0.66mの楕円形で、深さは14～23cmである。長径方向はN-58°-Wであり、底面は中央部に向かって緩やかに傾斜している。

覆土 6層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・粘土粒子少量、炭化物・焼土粒子微量	4 褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 にぶい黄褐色	ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子少量	5 灰黄褐色	粘土ブロック・炭化粒子中量、ロームブロック少量
3 暗褐色	ロームブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量	6 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量



第549図 第3号火葬土坑実測図

遺物出土状況 骨片3片のほかに、流れ込みと考えられる鉄滓8点も出土している。

所見 周囲には第2・4号火葬土坑や20mの同心円状内に10基の墓坑や土坑群が確認されていることから、本跡を含む地区に墓域が形成されたと考えられる。遺構の形状や墓域が形成された時期を考慮すると、本跡も中世後半と考えられる。

第4号火葬土坑（第550図）

位置 調査区南部のM5 b1区、標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

確認状況 燃焼部の東側は調査区域外である。

開口部 西側に位置する長径1.30m、短径0.48mの楕円形である。深さは6cmで、底面は燃焼部へ向かって緩やかに傾斜している。

燃焼部 長径0.76m、短径されている短径は0.40mで楕円形と考えられる。長径方向はN-47°-Eである。底面には長さ0.37m、上幅0.32m、下幅0.22m、深さ21cmの通気溝が掘られている。

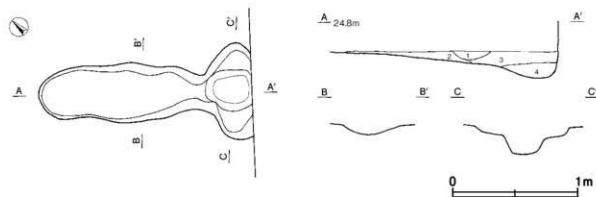
覆土 4層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

1 層 褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	3 層 褐色	炭化材中量、焼土ブロック・ローム粒子・骨片少量
2 層 赤褐色	ロームブロック・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	4 層 赤褐色	ロームブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 燃焼部の覆土から骨片や骨粉が検出されている。

所見 周囲には第2・4号火葬土坑のほか、墓坑や土坑群が確認されていることから、本跡を含む地区に墓域が形成されたと考えられる。遺構の形状や墓域が形成された時期を考慮すると、本跡も中世後半と考えられる。



第550図 第4号火葬土坑実測図

第5号火葬土坑（第551図）

位置 調査区南部のL4 c8区、標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

開口部 西側に位置する長径0.75m、短径0.73mの円形である。深さは7cmで、底面は燃焼部へ向かって緩やかに傾斜している。

燃焼部 長径0.65m、短径0.35mの楕円形で、長径方向はN-44°-Wである。底面には長さ1.06m、上幅0.25m、下幅0.17m、深さ16cmの通気溝が開口部と連結して掘られている。また、北側の地表面に炭化材が広まっていることから、燃焼部自体が通気溝である可能性も考えられる。

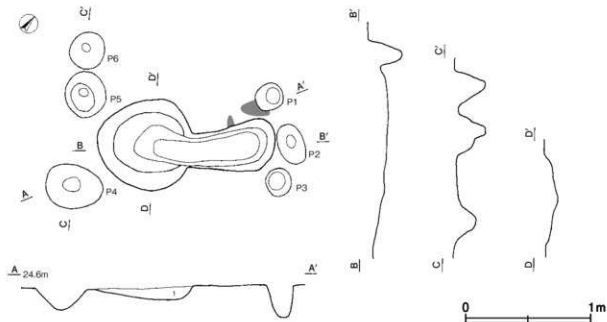
ピット 本跡を囲むように6か所のピットを確認しているが、性格は不明である。

覆土 単一層であり、含有物などから人為堆積と考えられる。

土層解説

1 黒 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量

所見 覆土に骨片などは含まれていないが、当遺跡内の火葬土坑と似た形状をしていることから火葬土坑と考えられる。また、北西側10mに位置する第8号墓坑には焼土が含まれていることから、本跡から拾骨した遺骨を埋納したと想定される。時期は、遺構の形態や墓坑との関わりなどから中世後半と考えられる。



第551図 第5号火葬土坑実測図

第6号火葬土坑 (第552図)

位置 調査区南部のL5f3区、標高24mほどの平坦な台地上に位置している。

確認状況 第14号ビット群域に位置している。

開口部 西側に位置する長軸1.16m、短軸0.65mの隅丸長方形である。深さは11cmで、底面は燃焼部へ向かってなだらかに傾斜している。

燃焼部 長軸0.52m、短軸0.35mの隅丸長方形で、長軸方向はN-41°-Wである。底面は東側に向かって緩やかに傾斜し、開口部側の壁は赤変硬化している。

ビット 10か所のビットを確認しているが、性格は不明である。周辺にビット群が確認されていることから、それらの遺構に属する可能性がある。

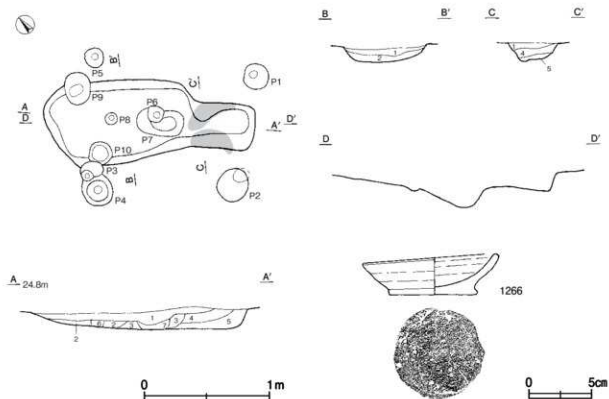
覆土 7層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------|---------|----------------------|
| 1 黒 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物粒子微量 | 5 黒 褐色 | 炭化物多量、ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒 褐色 | 炭化物中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 6 黒 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子微量 |
| 3 黒 褐色 | ロームブロック中量 | 7 黒 暗褐色 | ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子少量 |
| 4 黒 褐色 | 粘土ブロック・炭化物・骨片少量、ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 燃焼部の覆土から骨片や骨粉が検出され、P2の覆土中から1266が出土している。その他に、流れ込んだと考えられる縄文土器片4点、土師器片1点も出土している。

所見 時期は、遺構の形態などから中世と考えられる。また、東側8mに位置する第11号墓坑には若干の焼土が含まれていることを考慮すると、本跡から拾骨した遺骨を埋納した可能性がある。



第552図 第6号火葬土坑・出土遺物実測図

第6号火葬出土遺物観察表(第552図)

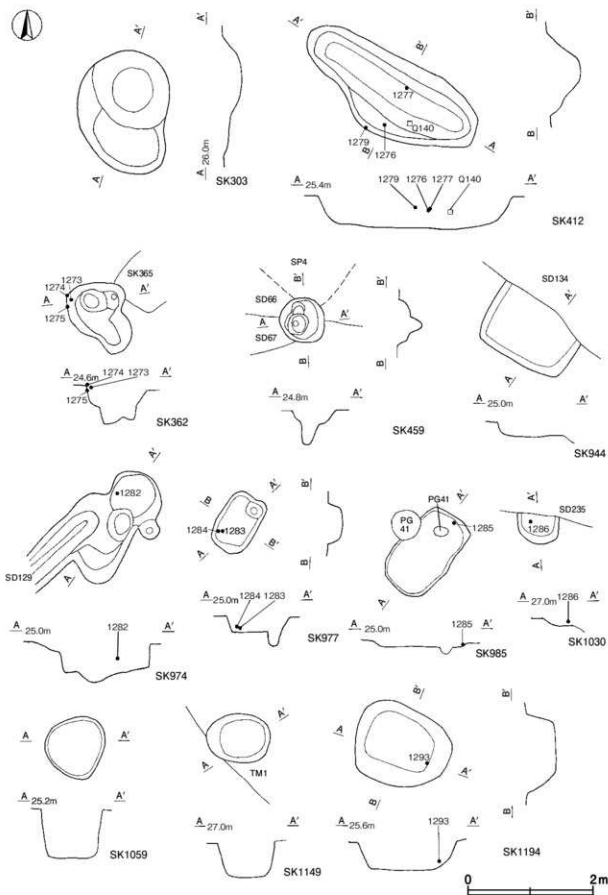
番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1266	土加蓋土器	甕	10.7	3.3	6.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外周口クロナデ 与後ナデ 内底ナデ 全面に熱を受けている	P 2 覆土中	70%

表29 火葬土坑一覧表

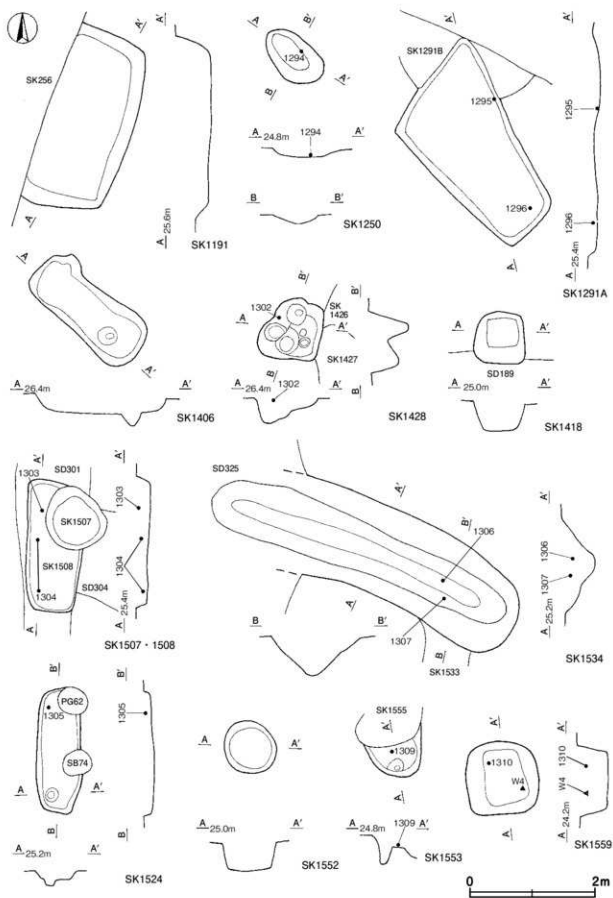
番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m)								覆土	主な出土遺物及び人骨の有無	備考 (新旧関係 旧→新)	
				間 E1 部 (m)				燃焼部 (m)							
				全幅	全幅	深さ (cm)	平面形	全幅	全幅	深さ (cm)	平面形				底面
1	L 4.43	N-40°-W	T字形	0.96 × 0.78	19	楕丸長方形	竪状	0.74 × 0.34	14~20	楕丸長方形	凹状	人骨	—	人骨有	PG4-5城
2	M 4.49	N-33°-E	T字形	1.18 × 0.69	31~43	楕丸長方形	平坦	1.30 × 0.73	11	楕丸長方形	凹状	人骨	—	人骨有	PG6城
3	M 4.69	N-58°-W	T字形	0.77 × 0.85	18	楕丸長方形	平坦	1.30 × 0.66	14~23	楕四形	凹状	人骨	—	人骨有	本跡→PG6
4	M 5.61	N-17°-E	T字形	1.30 × 0.68	6	楕四形	縦斜	0.76 × 0.40	21	楕四形	凹状	人骨	—	人骨有	
5	L 4.48	N-44°-E	T字形	0.75 × 0.73	7	円形	縦斜	0.65 × 0.35	16	楕四形	縦斜	人骨	—	人骨無	
6	L 5.13	N-41°-W	T字形	1.16 × 0.65	11	楕丸長方形	縦斜	0.52 × 0.35	17	楕丸長方形	平坦	人骨	土師質土器	人骨有	PG14城

⑧ 土坑 (第553~558図, 付図)

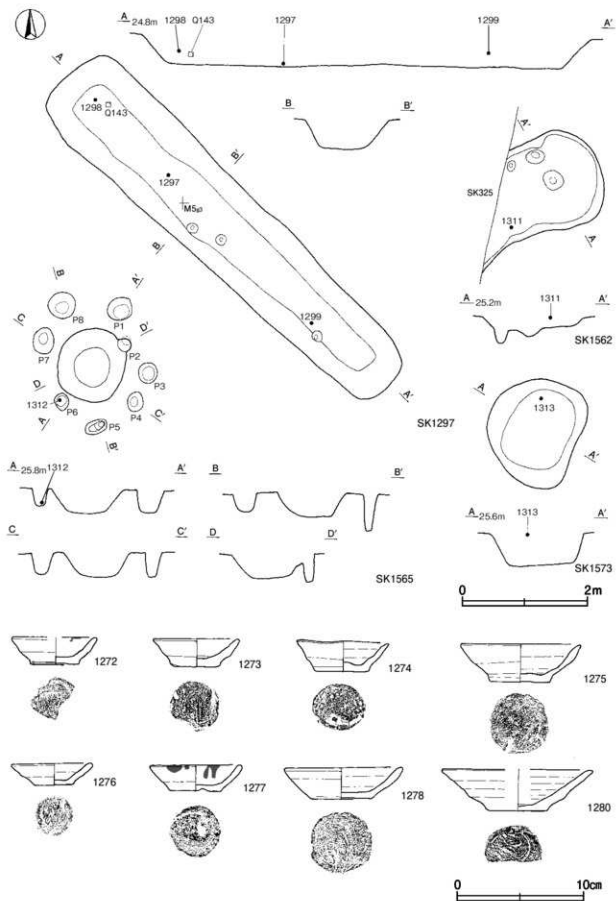
中世と考えられる土坑は、110基が確認されている。ここでは、それらの中で遺物を取り上げた土坑について、実測図と遺物及び出土遺物観察表を掲載した。その他は、全測図と一覧表で紹介した。



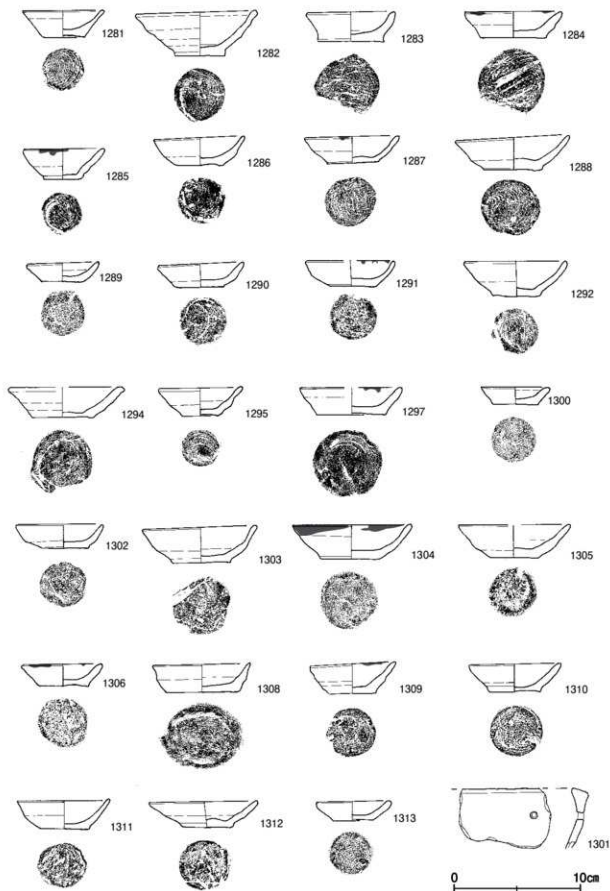
第553图 土坑实测图(1)



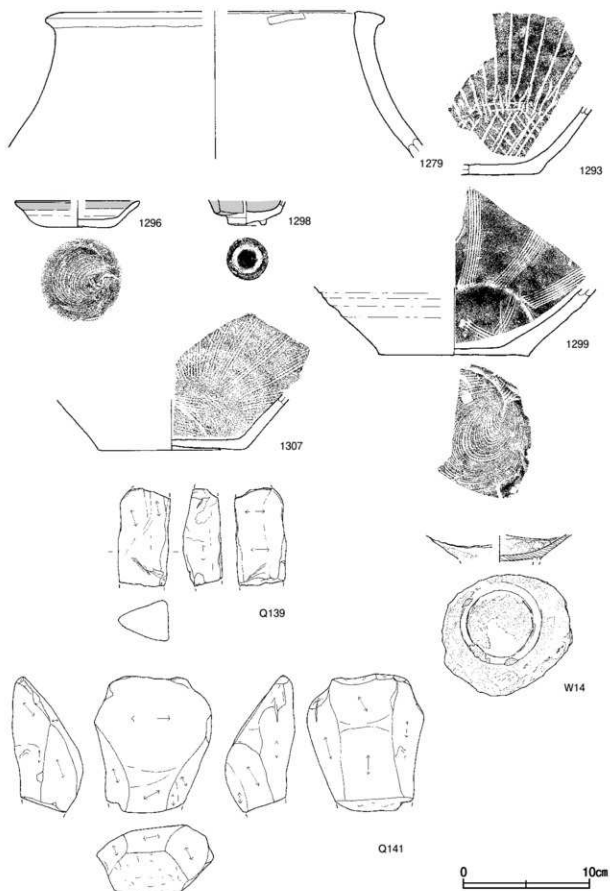
第554图 土坑实测图(2)



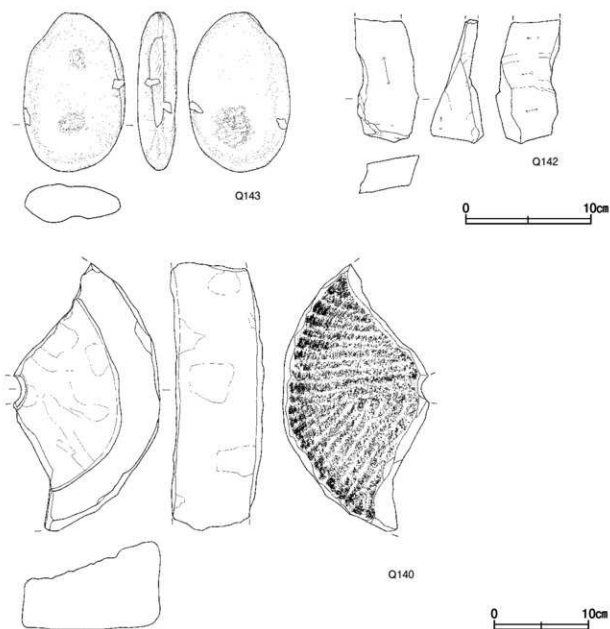
第555图 土坑·出土器物实测图



第556図 土坑出土遺物実測図(1)



第557图 土坑出土遗物实测图(2)



第558図 土坑出土遺物実測図(3)

第303号土坑出土遺物観察表 (第555・557図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
1272	土加賀土器	甕	[6.5]	2.2	[3.8]	灰母・赤色粘土	橙	普通	体部内・外面ロケロナデ 底部回転糸切 与後ナデ	甕土中	30%口唇部 埋付首	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考	
Q139	磁石	(7.8)	4.2	3.1	(105)	凝灰岩	端部破片	断面三角形	断面3面	断面有り	甕土中	

第362号土坑出土遺物観察表 (第555図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1273	土加賀土器	甕	6.7	2.3	3.8	石灰・灰母・赤色 粘土	浅黄橙	普通	体部内・外面ロケロナデ 底部回転糸切 与後ナデ	甕土上層	90%
1274	土加賀土器	甕	7.3	2.5	4.2	石灰・灰母・赤色 粘土・白色粘土	橙	普通	体部内・外面ロケロナデ 底部回転糸切 与後ナデ	甕土上層	100% FLIII 成形にゆがみ
1275	土加賀土器	甕	9.6	3.1	4.8	石灰・灰母・赤色 粘土	にぶい黄橙	普通	体部内・外面ロケロナデ 底部回転糸切 与後ナデ	甕土上層	100%

第412号土坑出土遺物観察表 (第555・557・558図)

番号	種類	器種	1径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
1276	土胎貫土器	皿	6.5	1.8	3.0	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口クロナテ 底部回転糸切 目後ナテ	覆土中層	100%
1277	土胎貫土器	皿	7.5	2.2	4.1	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部内・外面口クロナテ 底部回転糸切 目後ナテ	覆土中層	100% 口部部直 線付着
1278	土胎貫土器	皿	9.2	2.6	4.8	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口クロナテ 底部回転糸切 目後ナテ	覆土中中層	100% PL111
1279	土胎貫土器	羹	(27.1)	(11.8)	—	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	内・外面1等な横ナテ	覆土中層	

番号	器種	径	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q140	石 (石)	[29.8]	[3.0]	9.7	6660.7	安山岩	12数1単位の振り目	覆土中層

第459号土坑出土遺物観察表 (第555図)

番号	種類	器種	1径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
1280	土胎貫土器	皿	[12.2]	3.3	4.8	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内・外面口クロナテ 底部回転糸切 目後ナテ	覆土中	20%

第944号土坑出土遺物観察表 (第556図)

番号	種類	器種	1径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
1281	土胎貫土器	皿	6.4	2.2	3.3	長石・雲母・赤色 粒子	にぶい黄橙	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回 転糸切り後ナテ	覆土中	95%

第974号土坑出土遺物観察表 (第556図)

番号	種類	器種	1径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
1282	土胎貫土器	皿	9.4	3.7	4.0	長石・雲母・赤色 粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回 転糸切り後ナテ	覆土中層	100% PL111

第977号土坑出土遺物観察表 (第556図)

番号	種類	器種	1径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
1283	土胎貫土器	皿	6.9	2.4	5.2	長石・雲母・赤色 粒子	橙	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回 転糸切り後ナテ	覆土下層	70% 成形に ゆがみ
1284	土胎貫土器	皿	7.6	2.1	5.2	長石・雲母・赤色 粒子	橙	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回 転糸切り後ナテ	覆土下層	70% 口部部直 線付着

第985号土坑出土遺物観察表 (第556図)

番号	種類	器種	1径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
1285	土胎貫土器	皿	6.4	2.4	3.0	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回 転糸切り後ナテ	底面	95% 口部部直 線付着

第1030号土坑出土遺物観察表 (第556図)

番号	種類	器種	1径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
1286	土胎貫土器	皿	7.1	2.3	3.6	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内・外面口クロナテ後ナテ 底部回 転糸切り	覆土下層	100% 成形に ゆがみ

第1059号土坑出土遺物観察表 (第557図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q141	砥石	(10.8)	9.3	5.7	(571.0)	砂岩	端部破片 砥面8面	覆土中	

第1149号土坑出土遺物観察表 (第556図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1287	土加貫土器	甕	7.4	2.1	4.0	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り	甕土中	100%口唇部清裡付着
1288	土加貫土器	甕	9.0	2.8	4.6	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り	甕土中	90%

第1191号土坑出土遺物観察表 (第556図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1289	土加貫土器	甕	5.7	1.6	3.3	長石・石英・赤色砂子	明陶	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り	甕土中	80%
1290	土加貫土器	甕	6.7	2.0	3.6	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り	甕土中	100%
1291	土加貫土器	甕	[7.0]	2.1	3.6	長石・石英・赤色砂子	浅黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り	甕土中	70%口唇部清裡付着

第1194号土坑出土遺物観察表 (第556 ~ 558図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1292	土加貫土器	甕	8.0	2.9	3.8	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り	甕土中	90%
1293	土加貫土器	楕鉢	—	5.1	—	長石・石英・赤色砂子	陶	普通	1条1單位の張り目 外面ナデ	甕土下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
Q142	灰石	(9.9)	3.1	4.3	(162.5)	凝灰岩	燻部破片	底面4面	甕土中	

第1250号土坑出土遺物観察表 (第556図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1294	土加貫土器	甕	[8.7]	2.4	4.8	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り	甕面	50%

第1291A号土坑出土遺物観察表 (第556・557図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1295	土加貫土器	甕	6.6	2.2	3.0	長石・磁母・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り	甕面	70%
1296	陶器	緑釉丸皿	(9.8)	2.2	5.8	精良 緑釉	精良 緑釉	良好	明灰黄・磁オリーブ 底部回転糸切り 口縁部に輪餅 見込土底面に彫り着	甕土下層	50%瀬戸・美濃系

第1297号土坑出土遺物観察表 (第556 ~ 558図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1297	土加貫土器	甕	[8.1]	2.2	5.5	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り	甕土下層	70%口唇部清裡付着
1298	陶器	小杯c	—	(2.1)	2.9	精良 透明釉	灰白・淡黄	良好	四方口・高台 内・外面輪餅 体部下位各面に高台	甕土中層	20%瀬戸・美濃系
1299	陶器	楕鉢	—	(5.4)	12.0	精良 灰石	橙	良好	底部回転糸切り 7条1單位の張り目 外面にロクロ目 手堀に磨製痕	甕土中層	20%瀬戸・美濃系

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
Q143	門石	12.6	8.1	3.1	433.8	安山岩	一部欠損	両面に門 燻面に磨面	甕土中層	

第1406号土坑出土遺物観察表 (第556図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1300	土加貫土器	甕	5.4	1.4	3.6	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り	甕土中	90%

第1418号土坑出土遺物観察表 (第556図)

番号	種類	器種	11径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
1301	土胎貫土器	内耳罎 <small>〔3410〕</small>	(4.8)	(4.8)	—	長石・石英・雲母	靑	普通	体部内・外面ナデ 外面からの穿孔1か所	覆土中	

第1428号土坑出土遺物観察表 (第556図)

番号	種類	器種	11径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
1302	土胎貫土器	皿	6.9	2.0	3.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土上層	100%

第1508号土坑出土遺物観察表 (第556図)

番号	種類	器種	11径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
1303	土胎貫土器	皿	9.0	2.9	4.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	靑	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	90%
1304	土胎貫土器	皿	9.3	2.7	4.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	靑	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	70% 11径部直線付着

第1524号土坑出土遺物観察表 (第556図)

番号	種類	器種	11径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
1305	土胎貫土器	皿	(8.9)	2.7	3.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	靑	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	70%

第1534号土坑出土遺物観察表 (第556・557図)

番号	種類	器種	11径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
1306	土胎貫土器	皿	6.3	1.8	4.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	靑	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	95% 11径部直線付着
1307	土胎貫土器	部鉢	—	(4.5)	11.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	靑	普通	4条1単位の縞り目 外面ナデ	覆土中層	30%

第1552号土坑出土遺物観察表 (第556図)

番号	種類	器種	11径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
1308	土胎貫土器	皿	7.7	2.3	5.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	靑	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中	60% 直線に付がみ

第1553号土坑出土遺物観察表 (第556図)

番号	種類	器種	11径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
1309	土胎貫土器	皿	6.7	2.5	3.7	長石・雲母・赤色粒子	にぶい靑	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土下層	70% 11径部直線付着

第1559号土坑出土遺物観察表 (第556・557図)

番号	種類	器種	11径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	出土位置	備考
1310	土胎貫土器	皿	7.2	2.3	4.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい靑	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中層	100%

番号	種類	器種	11径	器高	底径	材質	特徴		出土位置	備考
W14	埴器	陶	—	(2.1)	—	ブナ材	横木取り	両りだし高台 高台部欠損 外面照準に未達の文様取付 内面照準部未取付を有する 調査前高台	覆土中層	

第1562号土坑出土遺物観察表 (第556図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1311	土師質土器	甗	7.3	2.3	4.0	長石・石英・赤色 鉄子	浅黄緑	普通	体部内・外面口テロノ字後十字 転糸切り後十字	覆土上層	90%

第1565号土坑出土遺物観察表 (第556図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1312	土師質土器	甗	8.6	2.2	3.7	長石・石英・ 赤色鉄子	橙	普通	体部内・外面口テロノ字後十字 転糸切り後十字	P.6覆土下層	60%、底層に 砂がみ

第1573号土坑出土遺物観察表 (第556図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1313	土師質土器	甗	5.8	1.6	3.2	長石・石英・赤色 鉄子	橙	普通	体部内・外面口テロノ字後十字 転糸切り	覆土上層	95%

表30 中世土坑一覧表

番号	位置	長径(軸方向)	平面形	規模(m, 深さ12cm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
6	K 4 c 2	N-15°-W	橢円形	1.16 × 0.64	40~52	外傾	凸凹	人為	土師質土器	
11	K 3 a 9	N-45°-E	方形	1.08 × 0.76	40	垂直	平坦	人為	土師質土器	
26	K 3 b 0	N-52°-W	長楕円形	2.32 × 0.92	20	外傾	平坦	自然	土師質土器	本跡→SK39
29	K 3 c 8	N-49°-W	楕円形	1.60 × 1.14	20	緩斜	壘状	人為	土師質土器	
31	K 4 a 1	N-44°-W	円形	0.64 × 0.62	54	外傾	壘状	人為	土師質土器	
33	K 3 a 0	N-2°-E	楕円形	1.20 × 0.96	72	外傾	凸凹	人為	土師質土器	本跡→SK34
35	K 4 1 1	N-48°-W	楕円形	1.52 × 1.00	16	外傾	平坦	自然	土師質土器	
75	K 3 b 9	N-36°-W	不定形	1.92 × 1.50	75	外傾	平坦	人為	土師質土器	SD8-SK104→本跡
76	K 4 a 2	N-68°-E	不定形	1.55 × 1.08	57~78	緩斜・外傾	凸凹	人為	土師質土器	SD6→本跡
77	K 3 b 9	N-25°-E	[不定形]	(1.47) × (1.02)	33	外傾	平坦	人為	土師質土器、銅片	本跡→SK104
104	K 3 b 9	N-62°-W	不定形	(3.50) × 2.90	75	緩斜	平坦	人為	土師質土器	SD8-77→本跡→SK75
300	J 5 a 0	N-0°	不定形	1.45 × 1.35	17	緩斜	壘状	人為	土師質土器、磁石	SD30→本跡
301	J 5 a 0	N-21°-W	不整形方形	1.81 × 1.70	10	緩斜	平坦	人為	土師質土器、土師器	SD20→本跡
302	J 5 a 9	N-76°-E	楕円形	0.86 × 0.78	9	緩斜	壘状	人為	土師質土器	PG11城
303	J 5 a 9	N-7°-E	不整形円形	1.98 × 1.49	29	緩斜	壘状	人為	土師質土器、土師器、磁石	
308	J 5 b 0	N-19°-W	不整形円形	1.28 × 1.03	14	外傾	平坦	自然	土師質土器、鉄滓	SD20→本跡 PG11城
310	J 5 1 0	N-25°-W	不整形円形	2.72 × 2.60	10	緩斜	平坦	人為	土師質土器、磁石	SD30→本跡
314	J 5 b 9	N-25°-W	不整形円形	1.46 × 1.21	27	緩斜	壘状	人為	土師質土器	PG11城
362	M 4 0	N-42°-W	不定形	1.22 × 0.98	56	外傾	壘状	人為	土師質土器	SK363→本跡

番号	位置	長径(軸) 方向	平面形	規模(m. 深さ12cm)		地面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				長径×短径(軸)	深さ					
412	J 5 J7	N-57-W	楕円形	3.09 × 1.28	51	縦斜	平坦	人為	土師質土器, 石臼	
431	J 5 e2	N-85-W	隅丸長方形	1.25 × 0.89	13	縦斜	平坦	人為	土師質土器, 焼土・炭化種子	
459	L 5 b1	N-0'	円形	0.75 × 0.70	56	外傾	平坦	人為	土師質土器	SP4→SD66-67→本跡
461	L 5 b6	N-33-W	円形	1.14 × 1.06	175	縦斜	平坦	人為	襷(雲母片岩)	
682	G 10 16	N-21'-W	楕円形	1.60 × 0.94	14	縦斜	平坦	人為	土師質土器	SB34→本跡
712	G 9 f4	N-5'-E	円形	0.64 × 0.63	54	外傾	覆土	人為	—	SK713→本跡
920	L 6 j3	N-25'-E	楕円形	1.20 × 1.00	11	縦斜	平坦	人為	土師質土器, 襷	
941	M 5 f8	N-54'-W	楕円形	0.89 × 0.70	22	縦斜	覆土	人為	—	本跡→SK942 PG55M
942	M 5 f8	N-52'-W	楕円形	0.84 × 0.74	15	縦斜	覆土	人為	土師質土器	SK941→本跡 PG55M
944	M 5 g5	N-54'-W	[隅丸長方形]	1.56 × (1.04)	25	外傾	平坦	人為	土師質土器	本跡→SD134
945	M 5 e3	N-50'-W	楕円形	0.48 × (0.16)	18	縦斜	平坦	人為	土師質土器	本跡→SD134 PG43M
952	M 5 f2	N-44'-E	[楕円形]	0.89 × 0.76	20	外傾	覆土	人為	土師質土器	PG42M
954	M 5 h3	N-11'-W	楕円形	0.66 × 0.46	50	外傾	凸凹	人為	土師質土器	PG42M
958	M 5 f7	N-16'-W	不定形	0.90 × 0.65	57	外傾	覆土	人為	—	SK960→本跡 PG55M
960	M 5 f7	N-62'-E	不定形	1.12 × 0.88	62	外傾	凸凹	人為	土師質土器	本跡→SK958 PG55M
967	M 5 f5	N-62'-W	不定形	1.20 × 1.15	45	外傾	凸凹	人為	土師質土器	PG55M
968	M 5 f6	不明	不整形楕円形	1.07 × 0.94	63	垂直	覆土	人為	襷	PG55M
973	M 5 a8	N-40'-E	長楕円形	1.03 × 0.57	16	縦斜	覆土	人為	土師質土器	PG45M
974	M 5 a8	N-30'-E	不定形	1.90 × 1.06	62	垂直	凸凹	人為	土師質土器	本跡→SD129 PG45M
976	M 5 h5	N-51'-W	不定形	1.74 × 1.26	34-64	縦斜・ 外傾	凸凹	人為	土師質土器	
977	M 5 h5	N-34'-E	隅丸長方形	0.96 × 0.65	23	外傾	平坦	人為	土師質土器	
985	M 5 j4	N-34'-E	隅丸長方形	1.51 × 0.92	9	縦斜	平坦	人為	土師質土器	本跡→PG41
989	M 5 i1	N-31'-W	楕円形	1.00 × (0.88)	7	縦斜	覆土	人為	土師質土器	SK1211→本跡→SB241 PG41M
992	M 5 j3	N-45'-E	長楕円形	1.43 × 0.80	8	縦斜	平坦	人為	陶器	PG41M
998	M 5 j3	N-40'-E	長楕円形	1.67 × 0.96	9	縦斜	平坦	人為	土師質土器	PG41M
999	M 5 i1	N-2'-E	円形	0.74 × 0.70	26	垂直	覆土	人為	土師質土器	PG41M
1005	I 5 f9	N-83'-W	溝状	2.90 × 0.37	5	縦斜	平坦	不明	土師質土器	
1000	H 7 c2	N-85'-W	[楕円形]	0.67 × (0.48)	10	縦斜	平坦	人為	土師質土器	本跡→SF235
1044	G 6 f7	N-52'-E	不整形楕円形	3.03 × 1.55	18	縦斜	平坦	人為	土師質土器	
1069	I 7 c2	N-51'-E	円形	1.00 × 0.95	82	垂直	平坦	人為	磁石	
1064	H 6 j0	N-8'-E	楕円形	1.46 × 1.15	11	縦斜	平坦	人為	土師質土器	
1065	I 6 a0	N-80'-W	長楕円形	1.83 × 0.96	15	縦斜	覆土	人為	土師質土器	
1066	I 6 a0	N-28'-E	楕円形	1.04 × 0.78	9	縦斜	覆土	人為	石臼	
1067	I 6 b0	N-88'-W	楕円形	1.04 × 0.74	9	縦斜	覆土	人為	土師質土器	
1068	I 6 b9	N-56'-W	楕円形	1.72 × 1.10	16	縦斜	覆土	人為	土師質土器	
1070	I 6 b0	N-16'-E	楕円形	1.27 × 0.85	19	縦斜	覆土	人為	土師質土器	
1071	I 6 c9	N-66'-W	楕円形	0.99 × 0.88	13	縦斜	覆土	人為	土師質土器	
1072	I 6 c9	N-56'-E	不整形楕円形	1.49 × 0.77	10	縦斜	覆土	人為	土師質土器	
1073	H 6 d9	N-68'-W	[長楕円形]	(1.07) × 0.92	7-17	縦斜	凸凹	人為	—	本跡→SK1039 PG28M
1076	H 7 f6	N-83'-W	楕円形	0.84 × 0.51	29	外傾	平坦	人為	土師質土器	PG28M
1077	H 7 f6	N-17'-E	隅丸長方形	1.71 × 0.89	9	縦斜	平坦	人為	土師質土器	本跡→SK1101 PG28M
1078	H 7 c7	N-17'-E	隅丸長方形	1.71 × 0.89	9	縦斜	覆土	人為	土師質土器	PG28M
1091	H 7 e0	N-70'-W	[楕円形]	(0.90) × 0.73	8	縦斜	平坦	人為	土師質土器	本跡→SK1092
1115	H 7 f0	N-21'-E	隅丸長方形	2.87 × 1.34	29	外傾	平坦	人為	土師質土器	
1120	G 8 g4	N-21'-E	隅丸長方形	1.77 × 1.08	22	外傾	平坦	人為	土師質土器, 襷	
1122	H 8 a1	N-38'-E	楕円形	1.07 × 0.92	41	外傾・ 縦斜	覆土	人為	土師質土器	TMI→本跡

番号	位置	長径(軸方向)	平面形	規模(m, 深さ12cm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
1128	H 7 10	N-20°-W	楕円形	0.40 × 0.36	54	垂直	平皿	人為	土師質土器	TM1-SQ229(A)-SK1129→本跡
1129	H 7 10	N-72°-W	楕丸長方形	1.50 × 0.57	11	外傾	平皿	人為	土師質土器	TM1-SQ229(A)→本跡→SK1128
1136	H 7 a 0	N-82°-W	楕丸長方形	1.89 × 1.63	82	外傾	平皿	人為	土師質土器	TM1-UP13→本跡
1149	H 7 e 9	N-81°-E	楕円形	1.00 × 0.78	38	外傾	平皿	人為	土師質土器	TM1→本跡
1178	H 7 16	N-3°-E	[楕円形]	(0.73) × 0.72	9	縦斜	皿状	人為	土師質土器	本跡→SK1179 PG28城
1180	H 7 16	N-23°-E	[楕円形]	(0.54) × 0.54	9	縦斜	平皿	人為	土師質土器	本跡→SK1179 PG28城
1184	H 7 a 5	N-12°-E	不定形	1.93 × 1.10	25	外傾	平皿	人為	土師質土器	PG27城
1190	H 7 17	N-69°-E	長楕円形	2.06 × 1.03	34	縦斜	皿状	人為	土師質土器	PG28城
1191	H 7 17	N-18°-E	[長楕円形]	2.83 × (1.40)	50	縦斜	平皿	人為	土師質土器, 天目茶碗	本跡→SK256
1194	I 7 a 3	N-65°-W	楕円形	1.57 × 1.27	46	外傾	平皿	人為	土師質土器, 磁石	
1195	G 8 b 7	N-37°-W	楕円形	1.11 × 1.02	114	垂直	平皿	人為	土師質土器	SI131→本跡
1211	M 5 11	N-47°-E	不定形	1.89 × 1.27	36	外傾	平皿	人為	土師質土器, 罐	SK1212→本跡→SK989-SH21 PG41城
1212	M 5 11	N-32°-W	[長楕円形]	1.94 × 0.56	(10)	縦斜	[皿状]	人為	—	本跡→SK1211-1213-SH21 PG41城
1250	M 5 12	N-32°-W	楕円形	1.10 × 0.66	13	縦斜	皿状	人為	土師質土器	
1291A	M 6 e 3	N-47°-W	楕円形	2.79 × 1.54	15	外傾	凸凹	人為	土師質土器, 陶器	本跡→1291B
1297	M 5 a 3	N-45°-W	楕丸長方形	7.12 × 1.33	45	縦斜	平皿	人為	土師質土器, 凹石	
1345	L 5 j 5	N-42°-E	[楕円形]	0.87 × (0.38)	45	外傾・垂直	平皿	人為	土師質土器	
1357	L 6 a 1	N-25°-E	楕円形	0.98 × 0.80	—	縦斜	皿状	人為	土師質土器	
1372	K 7 13	N-71°-E	不定形	1.77 × 1.17	18	縦斜・凸凹	凸凹	人為	土師質土器	PG50城
1388	K 7 e 3	N-7°-E	不整形楕円	1.10 × 0.59	31	縦斜	皿状	人為	土師質土器	PG50城
1406	H 7 10	N-54°-W	楕丸長方形	2.08 × 0.81	31	縦斜	平皿	人為	土師質土器	
1418	I 7 a 7	N-5°-E	不整形	0.84 × 0.79	45	縦斜・凸凹	平皿	不明	土師質土器	SD189→本跡
1428	H 7 b 7	N-45°-E	不定形	1.00 × 1.95	30	縦斜	皿状	人為	土師質土器	SK1426-SK1427→本跡
1472	L 6 a 8	N-47°-W	長方形	0.82 × 0.63	8	縦斜	平皿	人為	土師質土器, 陶器	
1501	J 6 16	N-19°-W	[長楕円形]	(0.85) × 0.77	8	縦斜	皿状	人為	土師質土器, 陶器	本跡→SD300
1507	J 6 b 3	N-25°-W	楕円形	1.04 × 0.92	26	外傾	凸凹	人為	土師質土器, 瓦片	SD301-304-SK1508→本跡
1508	J 6 b 3	N-0°	楕丸長方形	2.08 × 0.90	24	外傾	平皿	人為	土師質土器	SD301-304→本跡-SK1507
1509	J 6 b 3	N-0°	円形	0.98 × 0.92	14	外傾	平皿	人為	—	SD304→本跡
1520	J 7 13	N-0°	[円形]	1.46 × 1.46	20	縦斜	平皿	人為	土師質土器	SD310→本跡
1524	J 6 e 8	N-4°-E	長楕円形	1.98 × 0.70	12	外傾	平皿	人為	土師質土器	本跡→SH21-PG62城
1529	I 6 16	N-88°-W	不整形楕円	0.71 × 0.45	(165)	縦斜	皿状	自然	土師質土器	PG63城
1533	I 6 e 9	N-10°-E	長楕円形	(2.50) × 0.70	28	縦斜	U字状	人為	土師質土器	本跡→SK1334 PG64城
1534	I 6 e 9	N-69°-W	[長楕円形]	(3.22) × 1.40	62	縦斜	U字状	人為	土師質土器, 石臼, 磁石	SD325-SK1333→本跡
1542	K 7 a 3	N-0°	円形	1.10 × 1.09	42	外傾	皿状	人為	土師質土器, 瓦片	本跡→SD317
1543	I 7 14	N-48°-E	[長方形]	(1.04) × 0.98	38	縦斜	平皿	人為	土師質土器, 陶器	SD327→本跡→SD189
1547	I 6 e 7	N-4°-E	円形	1.25 × 1.24	28	縦斜	皿状	人為	—	PG64城
1552	I 7 13	N-58°-W	楕円形	0.91 × 0.82	44	外傾	平皿	人為	土師質土器	
1553	I 7 e 3	N-25°-W	[楕円形]	0.90 × (0.55)	20	外傾	縦斜	人為	土師質土器	本跡→SK1355
1559	J 6 e 2	N-6°-W	楕丸長方形	1.16 × 1.17	50	縦斜・凸凹	平皿	人為	土師質土器, 漆器, 磁片, 瓦片	本跡→SD300
1560	I 7 13	N-25°-E	不定形	3.27 × 1.26	20	縦斜	皿状	人為	土師質土器	
1562	J 6 e 9	N-70°-E	[不定形]	(1.73) × 1.47	20	縦斜	縦斜	自然	土師質土器, 炭化米	SD325→本跡
1563	I 6 b 9	N-46°-W	[楕円形]	1.30 × (0.94)	62	垂直	平皿	人為	土師質土器	本跡→SD325
1565	I 6 j 3	N-29°-E	円形	1.17 × 1.07	40	縦斜	皿状	自然	土師質土器	
1567	H 7 14	N-52°-E	不整形楕円	1.27 × 1.06	38	縦斜	皿状	人為	土師質土器	PG67城
1573	I 7 a 2	N-25°-E	不整形楕円	1.72 × 1.48	55	縦斜・凸凹	平皿	人為	土師質土器	

04 土坑群

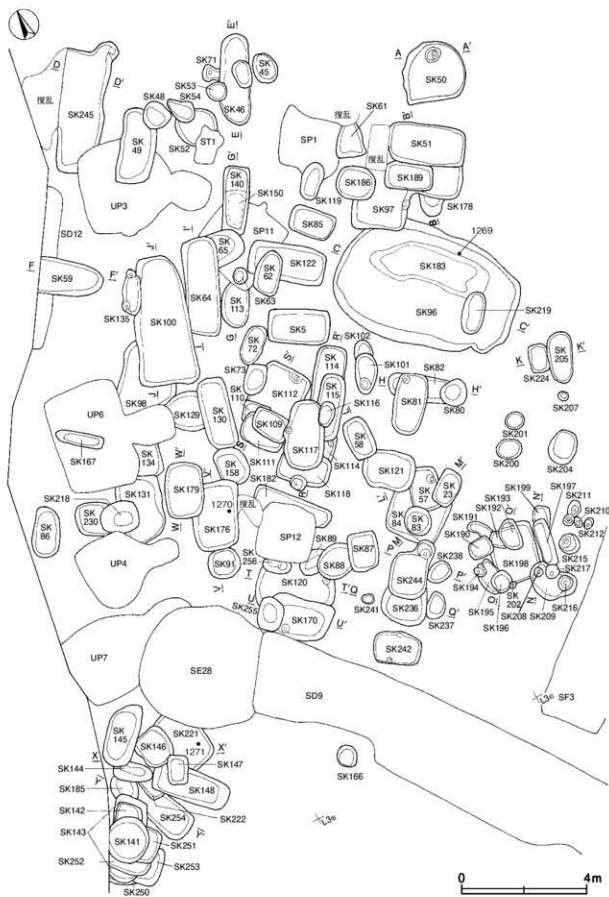
土坑が集中している地点は、3か所確認されている。第1の地点は調査区南部の西側の範囲、第2の地点は中央部の北側第1号墳の墳丘から南側にかけての範囲、第3の地点は調査区南東部の南側である。第3の地点はやや散漫な範囲で確認されており、多くは中世の墓坑と火葬土坑として取り上げて記載されている。ここでは土坑が重複している第1の地点を第1号土坑群、第2の地点の南部を第2号土坑群として説明し、実測図と図示した遺物及び出土遺物観察表、土坑一覧表を記載した。

第1号土坑群 (第559～561図)

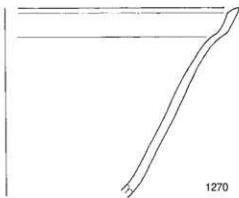
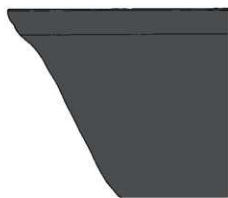
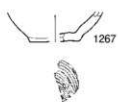
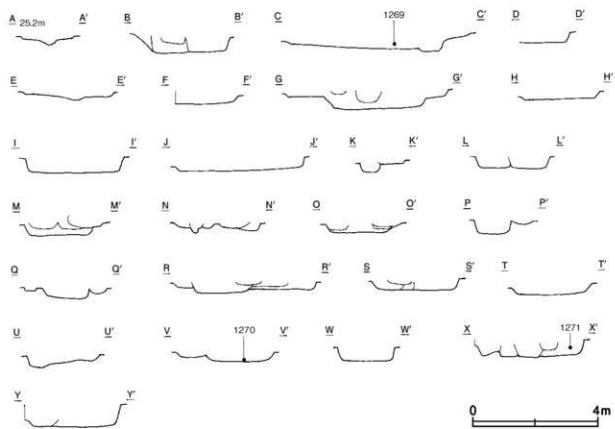
調査区南部の西側K36～L4e1区で、標高25～27mの台地上、南部では最も標高の高い緩斜面に位置している。確認されている土坑は124基で、平面形は隅丸長方形または楕円形が中心で、深さは重複関係が激しいため8～77cmと様々である。遺物は34基の土坑から確認されており、土師質土器片68点(Ⅲ19、内耳鍋49)、陶器片7点(Ⅲ5、甕1、鉢1)、磁器片2点(Ⅲ)、石器3点(砥石)、鉄器1点(釘)、銅製品1点(鏃)、瓦片1点(近代)、縄文土器片4点、土師器片26点、須恵器片9点、礫2点が覆土中から出土している。本群は第3号道路跡と第10・14号溝跡の範囲内にあり、形状と重複状況から中世の墓坑群の類と推測される。時期は、14世紀から15世紀前半と考えられる方形竪穴遺構を掘り込み、16世紀代と考えられる第28号井戸や第9号溝に掘り込まれている重複関係と出土土器から15世紀代と考えられる。

表31 第1号土坑群出土遺物集計表

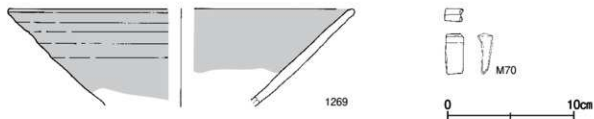
土坑 番号	土師質土器			陶器			磁器	石製品 砥石	金属 製品	瓦 近代*	縄文 土器	土師器	須恵器	礫	集計 (点)
	皿	内耳鍋	甕	片1鉢	片1鉢	片1鉢									
5	1	2										1			4
23		1							1		1	1			4
45	3														3
46												1			1
49								1				1			2
50			1									2			3
54			1				1								2
57		1													1
58	1												4		5
64	1	1	1												3
65													5		5
82		1													1
84												2			2
87												2			2
88	1	3						1					1		6
91	2								1	1			6		10
96	1					1						2	1		5
98		2									1	1			4
112		1												1	2
120	1	7	1				1				1		1		12
122	1	4			1										6
141		3											1		4
142		2													2
144	1										1				2
148										1					1
158		3	1									1	1		6
167	1	1													2
176	1	3													4
179		2												1	3
186	3	2										1			6
200		1													1
218		1													1
221	1	3													4
224		5													5
集計	19	49	5	1	1	1	2	3	2	1	4	26	9	2	124



第559图 第1号土坑群实测图



第560图 第1号土坑群·出土遗物实测图



第561図 第1号土坑群出土遺物実測図

第23号土坑出土遺物観察表 (第561図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M70	罎	3.2	1.3	1.0	6.4	罎	一部欠損 緑青付着	覆土中	

第58号土坑出土遺物観察表 (第560図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1267	土加蓋土器	蓋	—	[2.4]	[4.6]	長石・石英・赤色 粘土	褐色	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中	30%

第64号土坑出土遺物観察表 (第560図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1268	土加蓋土器	蓋	[8.0]	1.9	[6.2]	長石・石英	褐色	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り 与縁板目状口縁	覆土中	20%

第96号土坑出土遺物観察表 (第561図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1269	陶器	鉢 <small>α</small>	[27.3]	(7.7)	—	粘土・釉薬	黄褐色	普通	内・外面土位に施釉	覆土下層	産戸・美濃系 <small>α</small>

第176号土坑出土遺物観察表 (第560図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1270	土加蓋土器	内耳罎	[37.2]	(15.0)	—	長石・石英・雲母	褐色	普通	内・外面ナデ	底面	20% 体部外面 緑青付着

第221号土坑出土遺物観察表 (第560図)

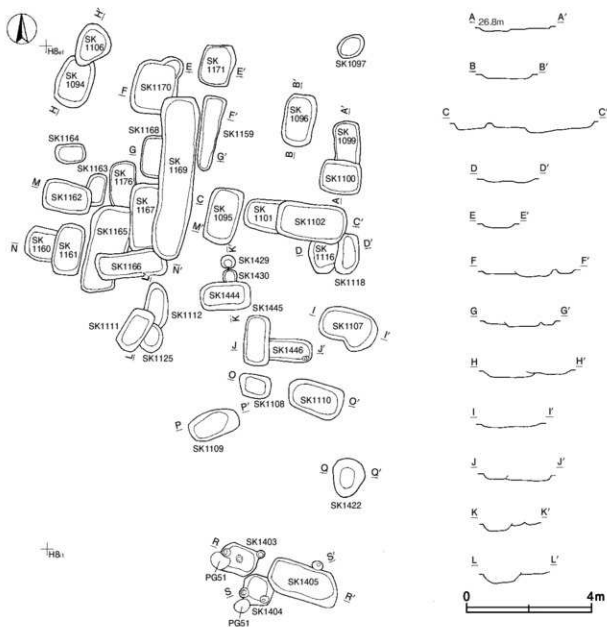
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1271	土加蓋土器	蓋	11.5	3.2	7.6	長石・雲母・赤色 粘土	褐色	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転糸切り	覆土中層	100%

第2号土坑群 (第562・563図)

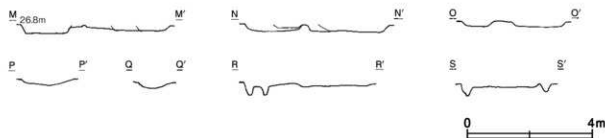
調査区中央部の北東側H 8e1～H 8i3区で、標高27mの台地上に位置している。確認されている土坑は41基で、平面形は隅丸長方形が中心で、深さは4～35cmである。遺物は15基の土坑から確認されており、土師質土器片33点(皿6、内耳罎27)、縄文土器片19点、土師器片14点、須恵器片4点、礫1点が覆土中から出土している。本群の北側の第1号墳とその周辺には、方形竪穴遺構2基と地下式土坑3基が認められるほか、近世の墓坑と現代の墓域も確認されている。本群は、かすみがうら市戸崎中山道跡や阿見町実穀寺子古墳群など限南部で確認されている古墳周辺に確認された中世墓域の類と推測され、時期は出土土器から15世紀から16世紀にかけてと考えられる。

表32 第2号土坑群出土遺物集計表

土坑 番号	土器質土器		陶器			磁器	石製品	金属 製品	瓦 五代a	縄文 土器	土師器	須恵器	礎	集計 (点)
	皿	内耳罎	皿	壺	片口鉢	皿	硯石				9			
1094		2												11
1095	1									1				2
1096										1	1			2
1100		2								1	1			4
1101										2				2
1102		1								3	1	2		7
1108	1	1								1				2
1109														1
1110	1	4										1		6
1170		1												1
1403	2	3												5
1405		10								9			1	20
1422	1													1
1444		1												1
1446	2	2								1	2	1		6
集計	6	27								19	14	4	1	71



第562図 第2号土坑群実測図(1)



第563図 第2号土坑群実測図(2)

表33 第1号土坑群一覽表

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m, 深さ12cm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
5	L 3.69	N-60°-W	楕丸長方形	200 × 108	40	外傾	階段	人為	土師質土器	
23	L 3.40	N-50°-E	楕丸長方形	1.20 × 0.74	16	外傾	平坦	自然	土師質土器, 鉄製品	SK57-81→本跡
43	K 3.10	N-4°-E	楕円形	1.00 × 0.80	20	外傾	凸凹	自然	土師質土器	
46	K 3.10	N-26°-E	長楕円形	2.92 × 0.96	28	外傾	凸凹	人為	土師器	SK71→本跡→SK53
48	K 3.19	N-46°-W	楕円形	1.08 × 0.90	40	外傾	平坦	人為	—	SK49→本跡
49	K 3.19	N-36°-E	楕丸長方形	2.80 × 1.22	32	外傾	凸凹	人為	硯石	U73→本跡→SK48
50	L 4.41	N-31°-E	楕円形	2.04 × 1.88	12	外傾	平凹	人為	陶器	
51	L 4.41	N-53°-W	楕丸長方形	2.48 × 1.24	58	垂直・外傾	平坦	自然	—	SK97-189→本跡
52	K 3.19	N-72°-E	円形	1.28 × 1.24	20	外傾	平坦	人為	—	本跡→SK54-ST1
53	K 3.10	N-20°-W	楕円形	0.66 × 0.58	8	緩斜	平坦	自然	—	SK46→本跡
54	K 3.19	N-27°-W	不定形	1.04 × 0.70	24	緩斜	—	人為	陶器, 磁器	SK54→本跡
57	L 3.49	N-27°-E	楕丸長方形	1.24 × 0.94	22	緩斜	平坦	人為	土師質土器	SK84→本跡→SK23-83-121
58	L 3.49	N-0°	楕丸長方形	1.36 × 0.86	44	外傾	平凹	人為	土師質土器	SK121→本跡
59	L 3.48	N-52°-W	[楕円形]	(1.96) × 1.12	24	外傾	平坦	人為	—	SD12→本跡
61	L 3.40	N-13°-E	[長方形]	(1.12) × 0.96	10	緩斜	平坦	—	—	SP1→本跡
62	L 3.49	N-50°-E	楕円形	1.36 × 0.72	12	外傾	平坦	人為	—	SP11-SK122→本跡
63	L 3.49	N-62°-E	楕円形	0.56 × 0.48	12	緩斜	階段	人為	—	SP11→本跡
64	L 3.49	N-24°-E	楕丸長方形	3.04 × 1.08	58	外傾	平坦	人為	土師質土器, 陶器	SP11-SK65→本跡→SK 100
65	L 3.49	N-90°-E	楕円形	1.12 × (1.04)	58	外傾	平坦	—	—	SP11-SK140-150→本跡→SK64
71	K 3.10	N-53°-W	[楕円形]	(0.60) × 0.32	10	外傾	階段	人為	—	本跡→SK66
72	L 3.69	N-50°-E	楕円形	1.28 × 0.72	8	緩斜	階段	人為	—	SK73→本跡
73	L 3.69	N-48°-E	楕円形	1.02 × 0.72	26	外傾	凸凹	人為	—	SK112→本跡→SK72
80	L 3.40	N-45°-E	円形	0.88 × 0.84	34	外傾	平坦	自然	—	SK82→本跡
81	L 3.40	N-48°-E	楕円形	1.96 × 1.00	34	外傾	平坦	人為	—	SK82→本跡
82	L 3.40	N-55°-W	楕丸長方形	(2.00) × 0.80	32	外傾	平坦	人為	土師質土器	本跡→SK80-81
83	L 3.49	N-0°	円形	0.88 × 0.84	24	緩斜	階段	人為	—	SK57→本跡→SK87
84	L 3.49	N-50°-W	楕丸長方形	1.88 × 1.32	50	垂直	平坦	人為	—	本跡→SK23-57-83-121-244
85	L 3.40	N-43°-W	楕丸長方形	1.46 × 0.92	12	外傾	平坦	—	—	
86	L 3.67	N-30°-E	楕円形	1.62 × 0.88	18	緩斜	平坦	—	—	
87	L 3.49	N-22°-E	楕丸長方形	1.28 × 0.96	40	外傾	凸凹	人為	—	SK88→本跡
88	L 3.49	N-87°-E	楕円形	1.48 × 1.06	10	緩斜	階段	人為	土師質土器, 硯石	SK89-120→本跡→SK87
89	L 3.48	N-78°-W	[楕円形]	1.04 × (0.60)	44	外傾	階段	人為	土師質土器	SK120→本跡→SP12-SK88
91	L 3.48	N-27°-E	円形	1.04 × 1.00	32	外傾	階段	人為	土師質土器, 硯, 硯石	
96	L 3.60	N-38°-W	楕丸長方形	3.88 × 3.84	40	緩斜	平坦	人為	土師質土器, 陶器	SK183→本跡→SK97-219

番号	位置	長径(軸) 方向	平面形	規模(m, 深さ(2cm))		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
97	L 4 a1	N-45°-E	不定形	218 × 112	50	外傾	平頂	人瓦	—	SK96-178→本跡→SK51-186-189
98	L 3 b8	N-45°-E	隅丸長方形	(2.86) × 1.76	18	縦斜	凸頂	人瓦	土師質土器	本跡→U76-SK100
100	L 3 a8	N-27°-E	隅丸長方形	3.94 × 1.74	40	外傾	平頂	人瓦	—	SK64-98→本跡→SK135
101	L 3 e9	N-27°-E	箱門形	1.24 × 0.80	22	外傾	平頂	人瓦	—	SK102→本跡
102	L 3 b0	N-27°-E	[箱門形]	0.60 × (0.48)	14	縦斜	平頂	人瓦	—	本跡→SK101
109	L 3 e9	N-36°-W	隅丸長方形	1.20 × 0.84	12	縦斜	平頂	人瓦	—	SK110-111-112→本跡→SK117
110	L 3 b9	N-40°-W	隅丸長方形	[1.00] × [0.74]	28	—	平頂	人瓦	—	SK112→本跡→SK109-111
111	L 3 e9	N-35°-W	隅丸長方形	1.48 × (0.96)	28	外傾	平頂	人瓦	—	SK110→本跡→SK109
112	L 3 b9	N-58°-E	隅丸長方形	1.68 × (1.48)	24	垂直	平頂	人瓦	土師質土器、礫	本跡→SK73-109-110-117
113	L 3 b9	N-30°-E	箱門形	1.36 × 0.82	12	外傾	平頂	—	—	本跡→SP11
114	L 3 e9	N-41°-E	隅丸長方形	3.44 × 0.96	24	外傾	平頂	人瓦	—	本跡→SK115-116-117-118
115	L 3 e9	N-41°-E	隅丸長方形	2.08 × 0.89	16	外傾	平頂	人瓦	—	SK114→本跡→SK116-117
116	L 3 e9	N-41°-E	箱門形	0.80 × 0.50	8	縦斜	塵状	人瓦	—	SK114-115-117→本跡
117	L 3 e9	N-31°-E	隅丸長方形	2.24 × 1.28	36	外傾	起伏	人瓦	—	SK109-112-114-115-118→本跡→SK116
118	L 3 e9	N-45°-E	隅丸長方形	1.72 × (1.04)	16	—	平頂	人瓦	—	SK114→本跡→SK117
119	L 3 a0	N-40°-E	箱門形	1.08 × 0.60	20	縦斜	塵状	人瓦	—	SP1→本跡
120	L 3 d8	N-51°-W	不定形	2.52 × (1.10)	32	外傾	凸頂	—	土師質土器、陶器、磁器	本跡→SP12-SK38-89-170-171-255-256
121	L 3 e9	N-40°-W	隅丸長方形	1.68 × 1.20	40	外傾	平頂	人瓦	—	SK37-84→本跡→SK38
122	L 3 a9	N-53°-E	隅丸長方形	2.32 × 1.08	60	外傾	塵状	人瓦	土師質土器、緑釉陶器	SP11→本跡→SK62
129	L 3 b8	N-23°-E	[箱門形]	1.20 × [1.04]	36	外傾	平頂	人瓦	—	本跡→U76-SK130
130	L 3 b8	N-17°-E	隅丸長方形	2.32 × 1.00	24	外傾	平頂	人瓦	—	SK129→本跡→SK158
131	L 3 c7	N-30°-E	隅丸長方形	2.00 × 1.44	—	—	—	—	—	SK134→本跡→U74-6-SK218
131	L 3 b8	N-25°-E	[方形]	(0.96) × (0.86)	—	外傾	平頂	—	—	本跡→U76-SK13
135	L 3 a8	N-33°-E	箱門形	1.36 × 0.52	20	縦斜	塵状	人瓦	—	SK100→本跡
140	L 3 a9	N-30°-E	隅丸長方形	2.18 × 0.84	26	外傾	平頂	—	—	SP11 SK150→本跡→SK65
141	L 3 e6	N-12°-W	箱門形	1.44 × 1.24	64	外傾	平頂	人瓦	土師質土器	SK142-143-250-252→本跡
142	L 3 e6	N-40°-E	隅丸長方形	(0.60) × 0.60	80	縦斜- 外傾	平頂	人瓦	—	SK143→本跡→SK141
143	L 3 e6	N-30°-E	隅丸長方形	2.72 × 1.04	80	外傾	平頂	人瓦	—	SK165-250-253-254→本跡→SK141-142-251-252
144	L 3 d6	N-40°-W	隅丸長方形	1.28 × 0.58	34	外傾	塵状	人瓦	土師質土器	SK165-222-254→本跡→SK145
145	L 3 e6	N-49°-E	隅丸長方形	2.08 × 1.00	36	外傾	凸頂	人瓦	—	SK144-146-222→本跡
146	L 3 d7	N-0°	隅丸長方形	1.20 × 1.00	48	—	平頂	人瓦	—	SK148-221-222→本跡→SK145-147
147	L 3 e7	N-28°-E	隅丸長方形	0.96 × 0.68	48	外傾	平頂	人瓦	—	SK146-148-221→本跡
148	L 3 e7	N-40°-W	隅丸長方形	2.52 × 1.04	48	外傾	平頂	人瓦	瓦	SK149→本跡→本跡→SK146-147
150	L 3 a9	N-30°-E	隅丸長方形	1.22 × 0.62	32	外傾	平頂	—	—	SP11→本跡→SK65-140
158	L 3 c8	N-8°-E	箱門形	1.24 × 1.00	18	縦斜	平頂	人瓦	土師質土器、陶器	SK130→本跡→SK176
166	L 3 c8	N-40°-E	門形	0.68 × 0.68	28	垂直	平頂	人瓦	—	—
167	L 3 b7	N-51°-W	長箱門形	1.57 × 0.43	25	縦斜	平頂	人瓦	土師質土器	U76→本跡
170	L 3 d8	N-66°-W	隅丸長方形	2.04 × 1.24	20	外傾	平頂	—	—	SK120→本跡→SD9-SK255
176	L 3 c8	N-28°-E	隅丸長方形	2.12 × 1.44	44	外傾	平頂	人瓦	土師質土器	SK138→本跡→SK179
178	L 4 b1	N-44°-E	不定形	0.88 × (0.29)	63	縦斜	(V字状)	—	—	本跡→SK97
179	L 3 c8	N-28°-E	隅丸長方形	1.80 × 1.22	44	外傾	平頂	人瓦	土師質土器、礫	SK176→本跡
182	L 3 c8	N-48°-W	隅丸長方形	2.60 × 0.68	22	縦斜	平頂	人瓦	—	本跡→SP12
183	L 3 b0	N-43°-W	箱門形	3.86 × 1.22	72	縦斜	平頂	人瓦	—	本跡→SK96-219
185	L 3 e6	N-29°-E	[箱門形]	(0.84) × 0.80	56	—	平頂	人瓦	—	SK254→本跡→SK143-144
186	L 3 a0	N-58°-W	隅丸長方形	1.28 × 1.04	25	縦斜	塵状	人瓦	土師質土器	SK97→本跡
189	L 4 a1	N-50°-W	隅丸長方形	1.48 × 0.80	36	外傾	平頂	人瓦	—	SK97→本跡→SK51

番号	位置	長径(軸) 方向	平面形	規模(m, 深さ12cm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					遺跡番号・範囲(部)名・期	目次
190	L 3.40	N-90°-E	隅丸方形	1.72 × 0.64	24	外傾	平坦	人瓦	—	SK191-192-198→本跡	
191	L 3.40	N-31°-W	[楕円形]	(0.84) × 0.40	24	—	平坦	—	—	本跡→SK190-192	
192	L 3.40	N-52°-W	[楕円形]	(0.60) × 0.32	24	外傾	平坦	—	—	SK191-198→本跡→SK190-193	
193	L 3.40	N-0°	楕円形	1.04 × 0.68	16	外傾	平坦	自然	—	SK192-198→本跡	
194	L 3.40	N-0°	不定形	0.44 × 0.40	19	外傾	平坦	自然	—	SK195→本跡	
195	L 3.40	N-11°-W	隅丸方形	1.16 × 1.10	24	—	凸門	自然	—	SK198→本跡→SK194-196	
196	L 3.e0	N-0°	円形	0.76 × 0.70	18	—	凸門	自然	—	SK195-198→本跡→SK202	
197	L 3.40	N-10°-E	隅丸長方形	1.48 × 0.50	16	外傾	平坦	自然	—	SK199→本跡→SK209-217	
198	L 3.40	N-12°-E	隅丸長方形	1.88 × 1.50	28	外傾	平坦	自然	—	本跡→SK190-192-193-195-196-202-208-209	
199	L 3.40	N-33°-E	隅丸長方形	(0.68) × 0.54	26	外傾	凸門	人瓦	—	本跡→SK197	
200	L 3.40	N-50°-E	楕円形	0.80 × 0.60	8	外傾	凸門	人瓦	土師貫土器		
201	L 3.40	N-55°-E	楕円形	0.64 × 0.56	5	縦斜	屈状	人瓦	—		
202	L 3.e0	N-0°	円形	0.26 × 0.24	18	縦斜	屈状	人瓦	—	SK196-198→本跡	
204	L 4.d1	N-45°-E	楕円形	1.08 × 0.88	8	縦斜	平坦	人瓦	—		
205	L 4.c1	N-21°-E	楕円形	1.64 × 0.82	9	縦斜	屈状	人瓦	—	SK224→本跡	
207	L 4.d1	N-62°-W	楕円形	0.38 × 0.30	16	外傾	屈状	人瓦	—		
208	L 3.e0	N-0°	円形	0.32 × 0.32	34	外傾	屈状	人瓦	—	SK198-209→本跡	
209	L 3.e0	N-40°-W	[楕円形]	1.60 × (1.04)	10	—	平坦	人瓦	—	SK197-198→本跡→SK208-216-217	
210	L 3.40	N-0°	楕円形	0.40 × 0.28	45	—	—	—	—	本跡→SK211	
211	L 3.40	N-61°-E	不定形	0.85 × 0.45	77	外傾	凸門	人瓦	—	SI210→本跡	
212	L 4.e1	N-0°	円形	0.36 × 0.36	45	外傾	屈状	人瓦	—		
215	L 3.e0	N-0°	円形	0.70 × 0.70	66	外傾	U字状	人瓦	—		
216	L 3.e0	N-55°-E	楕円形	0.52 × 0.45	53	外傾	U字状	人瓦	—	SK200→本跡	
217	L 3.e0	N-0°	円形	0.42 × 0.40	54	外傾	屈状	人瓦	—	SK197-209→本跡	
218	L 3.c7	N-71°-W	楕円形	1.24 × 1.04	60	外傾	屈状	人瓦	土師貫土器	SK131-230→本跡→UP4	
219	L 4.c1	N-39°-E	楕円形	1.34 × 0.76	[76]	外傾	屈状	人瓦	—	SK96-183→本跡	
221	L 3.d7	N-90°-E	隅丸長方形	2.20 × (1.20)	38	外傾	平坦	人瓦	土師貫土器	本跡→SE28, SK146-147-148	
222	L 3.e6	N-0°	隅丸長方形	1.52 × (0.70)	42	外傾	平坦	人瓦	—	SK254→本跡→SK141-145-149-148	
224	L 4.c1	N-18°-E	隅丸長方形	0.90 × 0.60	34	外傾	平坦	人瓦	土師貫土器	本跡→SK205	
230	L 3.c7	N-71°-W	[楕円形]	1.08 × (0.84)	28	外傾	平坦	人瓦	—	本跡→SK218, UP4	
236	L 3.d9	N-52°-E	隅丸長方形	1.58 × 1.40	35~48	外傾	平坦	人瓦	—	本跡→SK214	
237	L 3.d9	N-40°-E	隅丸長方形	0.84 × 0.58	19	外傾	屈状	人瓦	—		
238	L 3.d9	N-90°-E	楕円形	0.80 × 0.64	9	外傾	平坦	人瓦	—		
241	L 3.d9	N-40°-W	楕円形	0.40 × 0.32	10	外傾	屈状	人瓦	—		
242	L 3.e9	N-40°-W	隅丸長方形	1.46 × 1.08	20	外傾	平坦	人瓦	—		
244	L 3.d9	N-50°-E	不定形	1.84 × 1.20	28~60	外傾	平坦	人瓦	—	SK81-230→本跡	
245	K 3.19	N-48°-E	隅丸長方形	4.20 × 1.56	40	外傾	平坦	自然	—	本跡→UP3	
250	L 3.e6	[N-52°-W]	隅丸長方形	(0.72) × (0.10)	—	—	—	—	—	本跡→SK143-253	
251	L 3.e6	[N-52°-E]	隅丸長方形	1.12 × (0.34)	—	—	—	—	—	SK143-252-253→本跡→SK141	
252	L 3.e6	[N-52°-W]	隅丸長方形	(1.26) × (0.44)	—	—	—	—	—	SK143-253→本跡→SK141-251	
253	L 3.e6	[N-52°-E]	隅丸長方形	(1.30) × (0.70)	—	—	—	—	—	SK250→本跡→SK143-251-252	
254	L 3.e6	N-23°-W	隅丸長方形	(2.28) × 1.00	66	外傾	平坦	—	—	本跡→SK143-144-145-222	
255	L 3.d8	N-20°-E	楕円形	1.12 × 0.90	36	外傾	平坦	—	—	SK120-170, SD9→本跡	
256	L 3.d8	N-47°-W	楕円形	0.96 × 0.40	72	外傾	屈状	—	—	SK120→本跡→SP12	

表34 第2号土坑群一覽表

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m, 深5.12cm)		壁面	底面	甃土	出土遺物	備考 遺構番号・新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
1091	H 8 e1	N-15°-E	隅丸長方形	1.70 × 1.14	22	縦斜	平坦	人瓦	土師質土器	本跡→SK1106
1095	H 8 f2	N-17°-E	隅丸長方形	1.72 × 1.05	19	縦斜	塵状	人瓦	土師質土器	
1096	H 8 e3	N-12°-E	隅丸長方形	1.67 × 1.01	14	外傾	平坦	人瓦	土師器	
1097	H 8 e3	N-51°-E	楕円形	0.93 × 0.67	10	縦斜	平坦	人瓦	—	
1099	H 8 e3	N-4°-W	隅丸長方形	1.20 × 0.84	5	縦斜	平坦	人瓦	—	本跡→SK1100
1100	H 8 f3	N-76°-W	隅丸長方形	1.30 × 1.10	15	縦斜	平坦	人瓦	土師質土器	SK1099→本跡
1101	H 8 f2	N-74°-W	隅丸長方形	1.05 × 0.98	18	縦斜	平坦	人瓦	—	本跡→SK1102
1102	H 8 f3	N-78°-W	隅丸長方形	2.22 × 1.18	35	縦斜	縦斜	人瓦	土師質土器	SK1101・1116・1118→本跡
1106	H 8 e1	N-35°-E	楕円形	1.08 × 1.05	14	縦斜	塵状	人瓦	—	本跡→SK1094
1107	H 8 g3	N-72°-W	不整楕円形	1.86 × 1.27	11	縦斜	平坦	人瓦	—	
1108	H 8 g2	N-75°-W	隅丸長方形	0.96 × 0.75	17	縦斜	平坦	人瓦	土師質土器	
1109	H 8 a2	N-64°-E	長楕円形	1.62 × 0.87	18	縦斜	塵状	人瓦	—	
1110	H 8 g2	N-77°-W	隅丸長方形	1.80 × 1.05	19	縦斜	平坦	人瓦	土師質土器	
1111	H 8 g1	N-27°-E	隅丸長方形	1.45 × 0.78	30	縦斜	平坦	人瓦	—	SK1112・1125→本跡
1112	H 8 g1	N-2°-W	長楕円形	1.33 × 0.79	4	縦斜	平坦	人瓦	—	SK1111・1125
1116	H 8 f3	N-3°-E	楕円形	0.90 × 0.98	7	縦斜	平坦	人瓦 ^o	—	本跡→SK1102・1118
1118	H 8 f3	N-10°-E	長楕円形	1.30 × 0.87	10	縦斜	塵状	人瓦 ^o	—	本跡→SK1102・1116
1125	H 8 g1	N-24°-E	楕円形	0.92 × 0.58	7	縦斜	塵状	人瓦 ^o	—	SK1112→本跡→SK1111
1159	H 8 e2	N-13°-E	不整長方形	2.39 × 0.57	9	外傾	平坦	人瓦	—	
1160	H 8 f1	N-75°-W	隅丸長方形	1.80 × 1.02	25	外傾	平坦	人瓦	—	本跡→SK1161
1161	H 8 f1	N-13°-E	隅丸長方形	1.65 × 0.89	13	縦斜	平坦	人瓦	—	SK1160→本跡
1162	H 8 f1	N-70°-W	隅丸長方形	1.56 × 1.01	28	外傾	平坦	人瓦	—	SK1163→本跡
1163	H 8 f1	N-15°-E	隅丸長方形	1.05 × 0.65	17	縦斜	平坦	人瓦	—	本跡→SK1162
1164	H 8 e1	N-89°-W	長楕円形	0.98 × 0.63	13	縦斜	平坦	人瓦	—	
1165	H 8 f1	N-13°-E	隅丸長方形	2.80 × 1.27	13	縦斜	平坦	人瓦	—	SK1176→本跡→SK1166・1167
1166	H 8 f1	N-84°-E	隅丸長方形	2.27 × 0.83	22	縦斜	平坦	人瓦	—	SK1165・1167→本跡→SK1169
1167	H 8 f1	N-6°-E	隅丸長方形	2.10 × 0.78	17	縦斜	平坦	人瓦	—	SK1165・1176→本跡→SK1166・1169
1168	H 8 e1	N-11°-E	隅丸長方形	1.34 × 0.64	7	外傾	平坦	人瓦	—	本跡→SK1169
1169	H 8 e2	N-4°-E	隅丸長方形	5.18 × 1.11	21	外傾	塵状	人瓦	—	SK1166・1167・1168・1170→本跡
1170	H 8 e1	N-10°-E	隅丸長方形	1.69 × 1.45	10	縦斜	平坦	人瓦 ^o	土師質土器	本跡→SK1169
1171	H 8 e2	N-15°-E	隅丸長方形	1.32 × 1.04	11	縦斜	塵状	人瓦	—	
1176	H 8 f1	N-6°-E	隅丸長方形	1.43 × 0.64	11	縦斜	平坦	人瓦	—	
1403	H 8 f2	N-64°-W	隅丸長方形	1.23 × 0.94	10	縦斜	塵状	人瓦	土師質土器	
1404	H 8 f2	N-68°-W	隅丸長方形	0.98 × 0.95	9	縦斜	塵状	人瓦 ^o	—	本跡→SK1405
1405	H 8 f3	N-66°-W	不整長方形	2.30 × 1.10	9	縦斜	平坦	人瓦 ^o	土師質土器、礫	
1422	H 8 h3	N-25°-E	楕円形	1.26 × 1.05	19	縦斜	塵状	人瓦	土師質土器	
1429	H 8 f2	N-44°-E	円形	0.48 × 0.45	9	縦斜	塵状	人瓦	—	
1430	H 8 f2	N-5°-E	楕円形	0.44 × 0.28	12	縦斜	塵状	人瓦	—	本跡→SK1444
1444	H 8 g2	N-86°-E	隅丸長方形	1.61 × 0.88	23	縦斜	平坦	人瓦	土師質土器	
1445	H 8 g2	N-2°-E	隅丸長方形	1.58 × 0.79	17	縦斜	平坦	人瓦	—	SK1445→本跡
1446	H 8 g2	N-82°-W	隅丸長方形	1.32 × 0.72	19	縦斜	平坦	人瓦	土師質土器	本跡→SK1445

8 近世の遺構と遺物

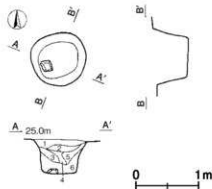
近世の遺構は、墓坑20基が確認されている。

墓坑

第28号墓坑（第564図）

位置 調査区中央部のI 7 g8区、標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径0.92m、短径0.86mの円形で、長径方向はN-22°-Eである。深さ50～58cmで、底面は北側へ向かってくぼんでおり、壁は外傾して立ち上がっている。



第564図 第28号墓坑実測図

側へ向かってくぼんでおり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 6層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子中量、粘土ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・粘土粒子微量
- 4 黒褐色 炭化粒子中量、ローム粒子微量
- 5 暗褐色 炭化粒子中量、粘土ブロック・ローム粒子少量
- 6 灰黄褐色 粘土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子少量

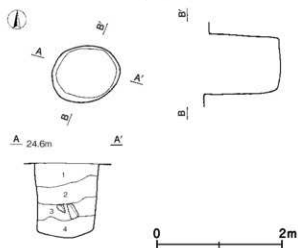
遺物出土状況 西部の底面から、長さ約20cm、厚さ約10cmの石が出土し、棺の天井に載せていた石が底面に落ちたと考えられるが、詳細は不明である。

と浅いことから、子どもが埋葬されていた可能性が高いと思われる。

所見 時期は、遺構の形態から近世と考えられる。また、深さが58cm

第29号墓坑（第565図）

位置 調査区南部のL 4 j8区、標高24mほどの平坦な台地上に位置している。



第565図 第29号墓坑実測図

規模と形状 長径1.09m、短径0.89mの楕円形で、長径方向はN-66°-Eである。深さ118cm、底面は平坦であり、壁は直立している。

覆土 4層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子少量
- 2 灰褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 3 黒褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック微量
- 4 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子微量

遺物出土状況 長さ7～30cm、幅6～19cmの石7点が第3層から出土し、棺の天井部に載せていた石が落ちたものと考えられるが、詳細は不明である。

所見 時期は、遺構の形態から近世と考えられる。

第30号墓坑（第566図）

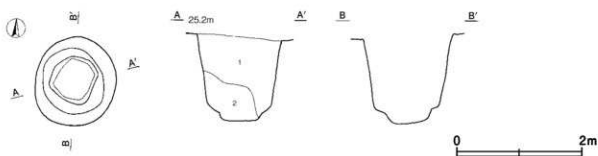
位置 調査区北東部のF 11c5区、標高25mほどの緩斜面に位置している。

規模と形状 長径1.39m、短径1.31mの円形で、長径方向はN-3°-Eである。深さ114～137cmで、底面の中央部を長方形に10cmほど掘りくぼめ、壁は外傾して立ち上がっている。底面にある長方形のくぼみは、早桶などの木桶が置かれていた痕跡と考えられる。

覆土 2層に分層される。ロームや粘土で一気に埋めている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量、砂粒少量 2 暗褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量、砂粒微量
 所見 時期は、遺構の形態から近世と考えられる。



第566図 第30号墓坑実測図

第31号墓坑 (第567図)

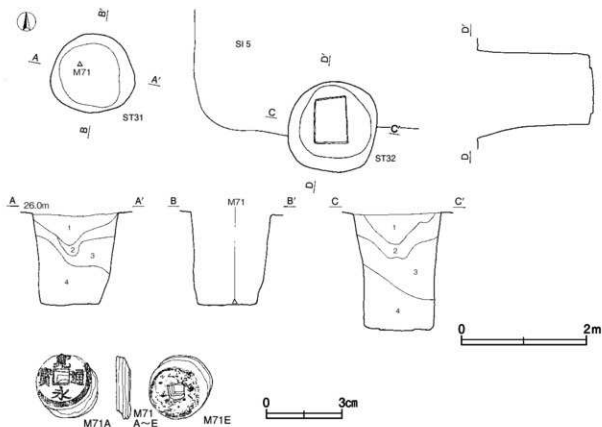
位置 調査区北東部のE10J0区、標高26mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径1.38m、短径1.32mの円形で、長径方向はN-75°-Wである。深さ142cm。底面は平坦であり、壁はほぼ直立している。

覆土 4層に分層される。ロームや粘土を多く含む堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説 (A-A')

1 黒褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量 3 黒褐色 ロームブロック多量、粘土ブロック中量
 2 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量 4 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック多量



第567図 第31・32号墓坑、第31号墓坑出土遺物実測図

遺物出土状況 古銭5点(古寛永通寶1, 不明4)が錆び付いて出土している。M71は底面よりやや上位から出土している。

所見 時期は、出土物から17世紀代と考えられる。

第31号墓坑出土遺物観察表(第567図)

番号	器種	径	孔幅	重量	初錫年	材質	特徴	出土位置	備考
M71A	古寛永通寶	(2.3)	0.6		1636	銅	M71Eまで隔のため付着	覆土下層	
M71B	古銭(不明)	(2.2)	—		不明	銅	付着しているため詳細は不明	覆土下層	
M71C	古銭(不明)	2.4	—	(9.3)	不明	銅	付着しているため詳細は不明	覆土下層	
M71D	古銭(不明)	(2.3)	—		不明	銅	付着しているため詳細は不明	覆土下層	
M71E	古銭(不明)	(2.2)	0.6		不明	銅	無着	覆土下層	

第32号墓坑(第567図)

位置 調査区北東部のE11j1区、標高26mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第5号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.44m、短径1.40mの円形で、長径方向はN-54°-Eである。深さ181~185cmで、底面の中央部を長方形に4cmほど掘りくぼめ、壁はほぼ直立している。底面にある長方形のくぼみは、早稲などの木桶が置かれていた痕跡と考えられる。

覆土 4層に分層される。ローム土や粘土を多く含む堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説(C-C')

- | | | | |
|--------|--------------------|--------|--------------------|
| 1 黒 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量 | 3 黒 褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック少量 |
| 2 暗 褐色 | 粘土ブロック多量、ロームブロック少量 | 4 黒 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック多量 |

所見 時期は、遺構の形態から近世と考えられる。

第33号墓坑(第568・569図)

位置 調査区北東部のH10e2区、標高25mほどの緩斜面に位置している。

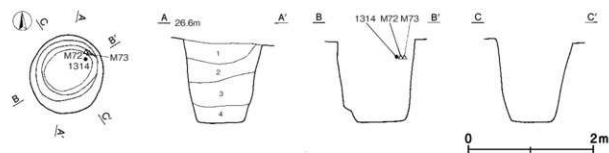
規模と形状 長径1.26m、短径1.17mの円形で、長径方向はN-17°-Eである。深さ108~128cmで、底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

覆土 4層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

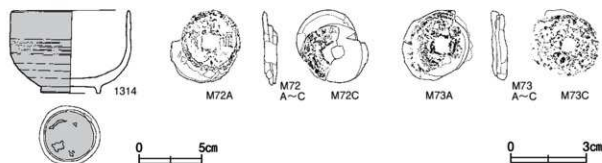
- | | | | |
|--------|----------------------|----------|---------------------|
| 1 黒 褐色 | 粘土ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗 褐色 | 粘土粒子多量、炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐色 | 粘土ブロック中量、炭化粒子微量 | 4 におい黄褐色 | 粘土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 陶器1点(腰錫碗)、錆び付いた古銭6点(新寛永通寶1、寛永鉄銭カ2、不明3)が出土している。1314とM72・M73は覆土上層から出土している。



第568図 第33号墓坑実測図

所見 時期は、出土土器や出土銭貨から18世紀前半と考えられる。



第569図 第33号墓坑出土遺物実測図

第33号墓坑出土遺物観察表 (第569図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1314	陶器	深鉢形	9.3	6.7	4.6	灰胎 鉄釉	灰白・靑	良紅	口ノリ成形 体部外面中央灰輪 中央ノリから底部鉄輪施釉	覆土上層	100% 瀬戸・美濃産 PL114
番号	器種	径	孔幅	重量	初鋳年	材質	特徴		出土位置	備考	
M72A	新発永通寶	2.4	0.5		1697	銅	M72Cまで筒のため付着		覆土上層		
M72B	古銭 (不明)	2.3	0.5	(6.3)	不明	銅	付着しているため詳細は不明		覆土上層		
M72C	古銭 (不明)	2.2	0.5		不明	銅	無骨 付着しているため詳細は不明		覆土上層		
M73A	寛工寶	(2.0)	0.6		不明	鉄	M73Cまで筒のため付着		覆土上層		
M73B	古銭 (不明)	—	—	(7.7)	不明	鉄	付着しているため詳細は不明		覆土上層		
M73C	古銭 (不明)	2.4	—		不明	銅	無骨 付着しているため詳細は不明		覆土上層		

第34号墓坑 (第570図)

位置 調査区中央部のH7d2区、標高27mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸1.84m、短軸1.07mの隅丸長方形で、長軸方向はN-87°-Eである。深さ28~50cmで、底面の中央部南側を長方形に20cmほど掘りくぼめ、壁は外傾して立ち上がっている。掘りくぼめた底面には、長さ約45cm、厚さ5cmほどの木片が確認されており、早稲などの木桶の底と考えられる。

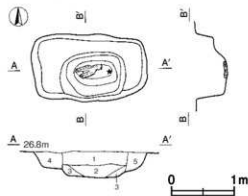
覆土 5層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、粘土粒子・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 5 黒褐色 炭化材中量、ロームブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片3点(皿1、内耳2)のほか、流れ込んだ土師器片1点も出土している。また、掘りくぼめた底面の東側から、下顎部の歯がまとまって検出している。

所見 時期は、遺構の形態から近世と考えられる。



第570図 第34号墓坑実測図

第35号墓坑 (第571図)

位置 調査区中央部のG8j3区、標高27mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第10号方形竪穴遺構、第36・38号墓坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.37m、短径1.22mの楕円形で、長径方向はN-30°-Wである。深さ130cmほどで湧水のため、下部の調査を断念した。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 5層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説 (A-A')

1 黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	3 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量	4 黒褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
		5 黒褐色	ローム粒子少量

遺物出土状況 土師質土器片2点（内耳鍋）、陶器片1点（瓶類）のほか、流れ込んだ縄文土器片4点、土師器片4点も出土している。

所見 周辺に7基の墓坑が確認されていることから、本跡を含む当地区に墓域が形成されたと考えられる。墓域が形成された時期を考慮すると、本跡も近世と考えられる。また、北側に位置する調査区域外には、調査時まで墓が造立していたことから、近世から現在まで墓域が連続と続いていた。

第36号墓坑 (第571図)

位置 調査区中央部のG 8 J3区、標高27mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第37・38号墓坑を掘り込み、第35号墓坑に掘り込まれている。また、北側半分は調査区域外のため、未調査である。

規模と形状 長径1.75m、短径は0.61mが確認されており、平面形は楕円形と考えられる。長径方向はN-44°-Eである。深さ84cm、底面は平坦であり、壁はほぼ直立している。

覆土 単一層である。ロームブロックを主体とした黒褐色土で一気に埋めている。

土層解説 (D-D')

1 黒褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック微量
-------	--------------------

所見 周辺に7基の墓坑が確認されていることから、本跡を含む当地区に墓域が形成されたと考えられる。墓域が形成された時期を考慮すると、本跡も近世と考えられる。

第37号墓坑 (第571図)

位置 調査区中央部のG 8 J3区、標高27mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第38号墓坑を掘り込み、第36号墓坑に掘り込まれている。また、北側半分は調査区域外のため、未調査である。

規模と形状 長径は0.79m、短径は0.34mが確認されており、平面形は楕円形であると考えられる。長径方向はN-73°-Wである。深さ81cm、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 単一層である。ロームや粘土を含んだ黒褐色土で一気に埋めている。

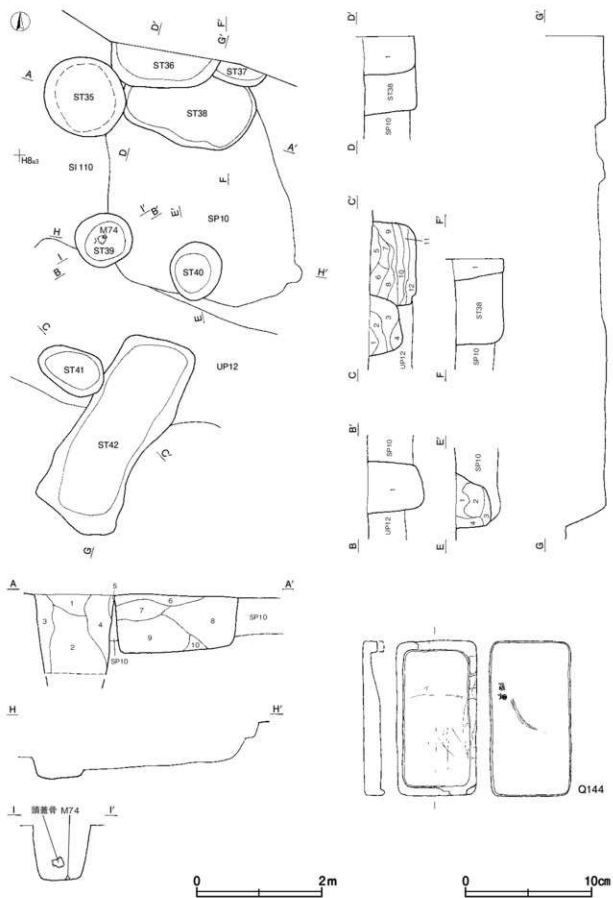
土層解説 (F-F')

1 暗褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック微量
-------	--------------------

所見 周辺に7基の墓坑が確認されていることから、本跡を含む当地区に墓域が形成されたと考えられる。墓域が形成された時期を考慮すると、本跡も近世と考えられる。

第38号墓坑 (第571図)

位置 調査区中央部のG 8 J3区、標高27mほどの平坦な台地上に位置している。



第571图 第35～42号墓坑，第38号墓坑出土物实测图

重複関係 第10号方形竪穴遺構を掘り込み、第35～37号墓坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.13m、短径は1.17mが確認されており、平面形は楕円形と考えられる。長径方向はN-71°-Wである。深さ84～98cmで底面は平坦であり、壁はほぼ直立している。

覆土 5層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説 (A-A')

6 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	9 黒褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量
7 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量		
8 暗褐色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量、炭化粒子・焼土粒子微量	10 灰褐色	粘土ブロック中量、ローム粒子少量

遺物出土状況 磁器1点(碗)、石器1(硯)のほか、流れ込んだ縄文土器片4点、弥生土器片4点、土師器片1点も出土している。Q144は覆土中から出土している。

所見 周辺に7基の墓坑が確認されていることから、本跡を含む当地区に墓域が形成されたと考えられる。墓域が形成された時期を考慮すると、本跡も近世と考えられる。

第38号墓坑出土遺物観察表(第571図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q144	硯	12.3	6.5	1.8	211.3	粘板岩	硝蝕痕 裏面縁部分に彫着 縦背に削書	覆土中	〔画像〕 出展番号 P1121

第39号墓坑 (第571・572図)

位置 調査区中央部のH 8 a3区、標高27mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第110号住居跡、第10号方形竪穴遺構、第12号地下式坑を掘り込んでいる。



規模と形状 径約0.9mの円形である。深さ88cm、底面は平坦であり、壁はほぼ直立している。

覆土 単一層である。様々な含有物を含んだ黒褐色土で一気に埋めている。

土層解説 (B-B')

1 黒褐色	骨片多量、ロームブロック少量、炭化粒子・焼土粒子微量
-------	----------------------------

第572図 第39号墓坑出土遺物実測図

遺物出土状況 中央部の底面よりやや上位から6枚が錆び

付いたM74(新寛永通寶1、不明5)が出土し、覆土下層から人骨一体分が検出されている。

所見 時期は、出土銭貨から新寛永通寶発行(1697年)以降と考えられる。

第39号墓坑出土遺物観察表(第572図)

番号	器種	径	孔径	重量	初鋳年	材質	特徴	出土位置	備考
M74A	新寛永通寶	23	0.5		1697	銅	M74Fまで縁のため付着	覆土下層	PL123
M74B	古銭(不明)	(23)	—		不明	銅	付着しているため詳細は不明	覆土下層	PL123
M74C	古銭(不明)	23	—		不明	銅	付着しているため詳細は不明	覆土下層	PL123
M74D	古銭(不明)	—	—		不明	銅	付着しているため詳細は不明	覆土下層	PL123
M74E	古銭(不明)	25	—		不明	銅	付着しているため詳細は不明	覆土下層	PL123
M74F	古銭(不明)	25	0.5		不明	銅	無着 付着しているため詳細は不明	覆土下層	PL123

第40号墓坑（第571図）

位置 調査区中央部のH 8 a3区、標高27mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第10号方形竪穴遺構を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.94m、短径0.80mの楕円形で、長径方向はN-6°-Eである。深さ50～56cm、底面には凸凹があり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説（E-E'）

1 褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	3 黒褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
2 黒褐色	ロームブロック微量	4 暗褐色	ロームブロック少量

所見 周辺に7基の墓坑が確認されていることから、本跡を含む当地区に墓域が形成されたと考えられる。墓域が形成された時期を考慮すると、本跡も近世と考えられる。

第41号墓坑（第571図）

位置 調査区中央部のH 8 a3区、標高27mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第12号地下式坑・第42号墓坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.14m、短径0.66mの楕円形で、長径方向はN-39°-Wである。深さ47～52cmで底面には凸凹があり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説（C-C'）

1 褐色	ロームブロック中量	3 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
2 褐色	ローム粒子中量	4 明褐色	ローム粒子多量

所見 周辺に7基の墓坑が確認されていることから、本跡を含む当地区に墓域が形成されたと考えられる。墓域が形成された時期を考慮すると、本跡も近世と考えられる。

第42号墓坑（第571図）

位置 調査区中央部のH 8 b3区、標高27mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第12号地下式坑を掘り込み、第41号墓坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.31m、短軸1.16mの不整長方形で、長軸方向はN-32°-Eである。深さ68cm、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 8層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説（C-C'）

5 黒褐色	ローム粒子少量	9 明褐色	ローム粒子多量、炭化物少量
6 暗褐色	ローム粒子少量	10 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
7 暗褐色	ローム粒子多量	11 黒褐色	ロームブロック微量
8 黒褐色	ローム粒子中量	12 明褐色	ローム粒子多量

所見 周辺に7基の墓坑が確認されていることから、本跡を含む当地区に墓域が形成されたと考えられる。墓域が形成された時期を考慮すると、本跡も近世と考えられる。

第43号墓坑（第573図）

位置 調査区中央部のG 8 i6区、標高27mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径0.98m、短径0.94mの円形で、長径方向はN-10°-Eである。深さ117cm、底面は平坦であり、壁はほぼ直立している。

覆土 8層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説 (A-A')

- | | | | |
|-------|------------------|----------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | 7 にぶい褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 8 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | | |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量 | | |

所見 時期は、遺構の形態から近世と考えられる。

第44号墓坑 (第573図)

位置 調査区中央部のG 816区、標高27mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第132号住居跡を掘り込んでいる。

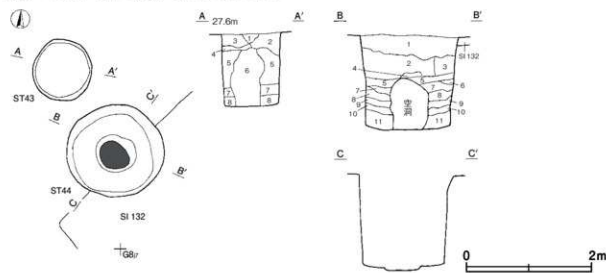
規模と形状 長径1.56m、短径1.50mの円形で、長径方向はN-66°-Wである。深さ148～152cmで、底面の中央部を円形に5cmほど掘りくぼめ、壁はほぼ直立している。底面にある円形のくぼみは、早桶などの木桶が置かれていた痕跡と考えられる。

覆土 11層に分層される。覆土中の空洞部分の存在から、桶が入れられていたと考えられる。その空洞部分の脇を版築状に埋め、桶の天井部まで埋め終わったところで一気に埋めている。

土層解説 (B-B')

- | | | | |
|-------|--------------------------|-----------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子微量 | 6 褐色 | 粘土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量、炭化物微量 | 7 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量、粘土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック・炭化物微量 | 8 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量 | 9 褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 5 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 | 10 にぶい褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| | | 11 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック少量 |

所見 時期は、遺構の形態から近世と考えられる。



第573図 第43・44号墓坑実測図

第45号墓坑 (第574図)

位置 調査区中央部のG 816区、標高27mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第245号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.83m、短径1.74mの円形で、長径方向はN-45°-Eである。深さ120～128cmで、底面の

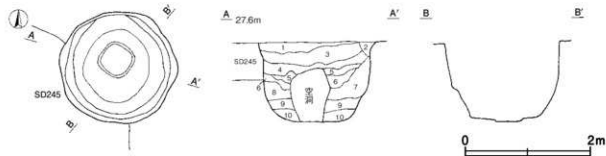
中央部を長方形に5cmほど掘りくぼめ、壁はほぼ直立している。底面にある長方形のくぼみは、早桶などの木桶が置かれていた痕跡と考えられる。

覆土 10層に分層される。覆土中の空洞部分の存在から、桶が入れられていたと考えられる。納桶後、乱雑に埋めている。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|----------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化物微量 |
| 3 明褐色 | ロームブロック多量、炭化物微量 | 9 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量、粘土ブロック少量、炭化物微量 |
| 5 灰褐色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック少量 | | |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物微量 | | |

所見 時期は、遺構の形態から近世と考えられる。



第574図 第45号墓坑実測図

第46号墓坑 (第575図)

位置 調査区南東部のK7e5区。標高26mほどの平坦な台地上に位置している。

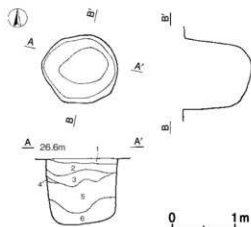
規模と形状 長径1.22m、短径1.18mの円形で、長径方向はN-80°-Wである。深さ110~120cmで、底面は一部が北側へ掘り込まれ、壁はほぼ直立している。

覆土 6層に分層される。不自然な堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | |
|----------|------------------|
| 1 黒暗褐色 | 粘土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック中量、ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 粘土ブロック微量 |
| 4 黒暗褐色 | 粘土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 5 橙褐色 | 粘土ブロック多量 |
| 6 褐色 | ロームブロック微量 |

所見 時期は、遺構の形態から近世と考えられる。



第575図 第46号墓坑実測図

第47号墓坑 (第576図)

位置 調査区中央部のJ6d5区。標高25mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径1.65m、短径1.52mの円形で、長径方向はN-30°-Wである。深さ112~126cm。底面の中央部を10cmほど長方形に掘りくぼめ、壁はほぼ直立している。掘りくぼめた部分から方形の木枠が出土し、その中から人の頭蓋骨が地下方向へ向いて検出されている。埋土後、木枠の天井部が土の重みで潰れ、頭の天地が逆転したと考えられる。

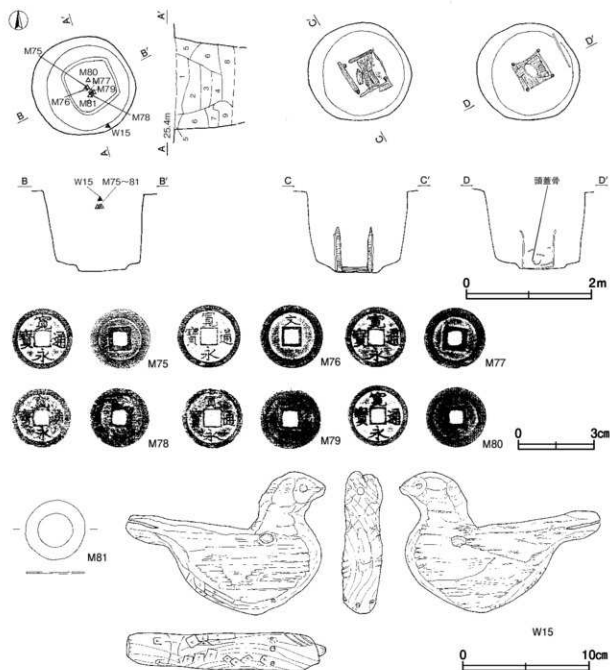
覆土 9層に分層される。ブロック状の堆積状況を示した人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------------------|----------|-----------------------------|
| 1 灰 褐色色 | ロームブロック・粘土ブロック中量 | 6 暗 褐色色 | 粘土ブロック少量、ロームブロック微量 |
| 2 暗 褐色色 | 粘土ブロック中量、ロームブロック少量、焼土
粒子微量 | 7 明 褐色色 | ロームブロック少量、粘土ブロック微量 |
| 3 黒 褐色色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 | 8 明 黄褐色色 | ロームブロック・粘土ブロック多量 |
| 4 褐 褐色色 | 粘土ブロック・ローム粒子少量 | 9 灰 褐色色 | 粘土ブロック多量、ロームブロック・炭化粒子
微量 |
| 5 黒 褐色色 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量、
焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 古銭6点〔新寛永通寶5、寛永通寶（文銭）1〕、銅製品1点（不明）、木製品1点（人形）が出土している。これらの遺物は、中央部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土遺物から17世紀後半と考えられる。



第576図 第47号墓坑・出土遺物実測図

第47号墓坑出土遺物観察表 (第576図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
W15	人形	11.4	13.9	3.1	232.9	木	鳥形 足・肩部欠損	覆土上層	二葉マツ箱

番号	器種	径	孔径	重量	初跡年	材質	特徴	出土位置	備考
M75	新瓦水滲管	2.4	0.6	3.0	1697	陶	無背	覆土上層	
M76	寛永通寶	2.5	0.7	3.9	1698	銅	文銭	覆土上層	
M77	新瓦水滲管	2.5	0.6	2.9	1697	陶	無背	覆土上層	
M78	新瓦水滲管	2.5	0.6	3.2	1697	陶	無背	覆土上層	
M79	新瓦水滲管	2.3	0.5	3.2	1697	陶	無背	覆土上層	
M80	新瓦水滲管	2.4	0.6	3.0	1697	陶	無背	覆土上層	

番号	器種	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M81	不明銅製品	4.7	2.7	0.1	9.3	銅	金銭的なものか。両面金箔が一部付着。線刻による花の文様が微かに見える	覆土上層	PL126

表35 近世墓坑一覧表

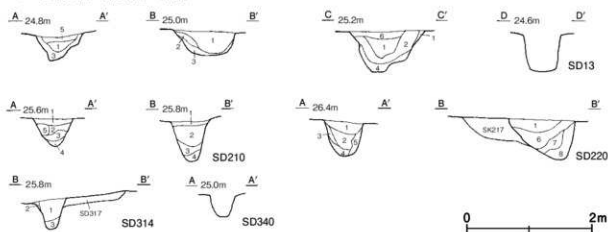
番号	位置	長径方向	平面形	規模(m)		坑面	壁面	覆土	人骨(石・灰)	主な出土遺物	備考 (新旧関係 目→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ						
28	I 7 a8	N-22°-E	円形	0.92 × 0.86	50~58	平坦	外傾	人骨	無	—	
29	L 4 j8	N-66°-E	楕円形	1.09 × 0.89	118	平坦	垂直	人骨	無	—	
30	F 11 c5	N-3°-E	円形	1.29 × 1.31	114~137	凹状	外傾	人骨	無	—	
31	E 10 j0	N-75°-W	円形	1.28 × 1.32	142	平坦	垂直	人骨	無	古銭	
32	E 11 j1	N-54°-E	円形	1.44 × 1.40	181~185	凹状	垂直	人骨	無	—	
33	H 10 b2	N-17°-E	円形	1.26 × 1.17	108~128	平坦	垂直	人骨	無	陶器, 古銭	
34	H 7 d2	N-87°-E	楕円長方形	1.84 × 1.07	28~50	凹状	外傾	人骨	有	土師質土器	
35	G 8 j3	N-30°-W	楕円形	1.37 × 1.22	(134)	不明	外傾	人骨	無	土師質土器, 陶器	SP10→ST36~38→本跡
36	G 8 j3	N-44°-E	楕円形	1.75 × (0.61)	84	平坦	垂直	人骨	無	—	ST37・38→本跡→ST35
37	G 8 j3	N-73°-W	(楕円形)	(0.79) × (0.34)	81	平坦	外傾	人骨	無	—	ST38→本跡→ST36
38	G 8 j3	N-71°-W	(楕円形)	2.13 × 1.17	84~98	平坦	ほぼ垂直	人骨	無	磁器, 硯	SP10→本跡→ST35~37
39	H 8 a3	N-60°-W	円形	0.92 × 0.88	88	平坦	ほぼ垂直	人骨	有	古銭	SH10→SP10→UP12→本跡
40	H 8 a3	N-6°-E	楕円形	0.94 × 0.80	50~56	凸凹	外傾	人骨	無	—	SP10→本跡
41	H 8 a3	N-39°-W	楕円形	1.14 × 0.66	47~52	凸凹	外傾	人骨	無	—	UP12→ST42→本跡
42	H 8 b3	N-32°-E	不整形長方形	3.31 × 1.16	68	平坦	外傾	人骨	無	—	UP12→本跡→ST41
43	G 8 i6	N-10°-E	円形	0.98 × 0.94	117	平坦	垂直	人骨	無	—	
44	G 8 i6	N-66°-W	円形	1.56 × 1.50	148~152	凹状	垂直	人骨	無	—	SH32→本跡
45	G 8 j6	N-45°-E	円形	1.83 × 1.74	120~128	凹状	垂直	人骨	無	—	SH32G→本跡
46	K 7 e5	N-80°-W	円形	1.22 × 1.18	110~120	凹状	垂直	人骨	無	—	
47	J 6 d5	N-30°-W	円形	1.65 × 1.52	112~126	凹状	垂直	人骨	有	古銭, 銅製品, 木製品	

9 その他の遺構と遺物

(1) 溝跡

近代以降と考えられる溝跡は、5条確認されている。いずれの溝も、明治時代前半及び現在の地境と一致しており、掘り方の形状と出土遺物からも、根切り溝の類と考えられるものである。また、8条が時期不明である。これらの遺構については一覧表と全体図で紹介し、あわせて実測図と土層解説を記載する。

ア 近代以降 (第577図・付図)



第577図 第13・210・220・314・340号溝跡実測図

第13号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物微量

第210号溝跡土層解説

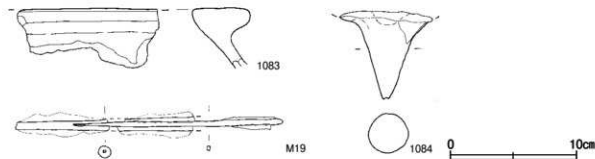
- 1 黒褐色 粘土ブロック, 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 粘土ブロック少量, 炭化物・ローム粒子微量
- 4 暗褐色 粘土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量

第220号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 粘土ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 黒褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック多量, 粘土ブロック少量
- 6 暗褐色 ロームブロック少量
- 7 暗褐色 粘土ブロック中量
- 8 黒褐色 粘土ブロック多量

第314号溝跡土層解説

- 1 無暗褐色 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量



第578図 第314号溝跡出土遺物実測図

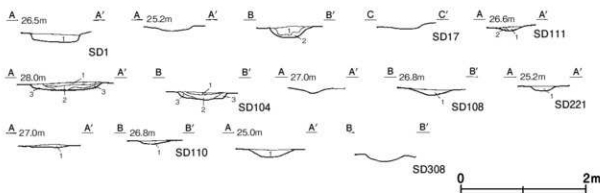
第314号溝跡出土遺物観察表 (第578図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法的特徴	出土位置	備考
1083	土加貫土器	罎 ^a	—	(4.7)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	胎部破片 内・外面ナデ	覆土中	胎部保持者
1084	土加貫土器	罎 ^a	—	(7.0)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐色	普通	胎部破片 内・外面ナデ	覆土中	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
M19	不明	23.5	1.1	0.9	(46.3)	鉄	断面四角形の棒状の軸に鉄製の筒			覆土中	

表36 近代以降溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (新旧関係など)
				確認長 (m)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (cm)					
13	J 4 15-K 3 c9	N-121°-E N-4°-E	溝の手状	(75.5)	0.10-1.20	0.10-0.52	38-78	外傾	平坦	人為	土師質土器, 磁器, 瓦	SD1-5・8・14, SF1-2-UP8 9→本跡
210	H 5 g3-G 5 j9	N-20°-E N-99°-E	トラクタ状	(49.0)	0.60-0.96	0.12-0.40	42-62	縦斜 外傾	平坦 直状	自然	土師質土器, 鉄片	SD205・207・212・216・244→ 本跡
220	G 5 g9-G 5 j10	N-19°-E	直線状	(10.6)	0.62-0.72	0.10-0.36	55-62	外傾	直状	人為	土師質土器, 瓦	SD216-217→本跡
314	K 6 i8-J 7 j5	N-109°-E	直線状	31.8	0.30-0.64	0.05-0.40	30-42	垂直・ 外傾	平坦	自然	土師質土器, 不明鉄器 品, 瓦	SD317→本跡
340	J 6 i8-J 7 g2	N-76°-E	山形直線状	15.5	0.22-0.40	0.12-0.25	30-38	外傾	平坦	自然	—	SD306-311→本跡

イ 時期不明 (第579図・付図)



第579図 第1・17・104・108・110・111・221・308号溝跡実測図

第1号溝跡土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子多量, ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第17号溝跡土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
2 黒 褐色 ローム粒子中量

第104号溝跡土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子多量
2 黒 褐色 ローム粒子中量
3 暗 褐色 ロームブロック中量

第108号溝跡土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量

第110号溝跡土層解説

- 1 暗 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第111号溝跡土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
2 暗 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第221号溝跡土層解説

- 1 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量

第308号溝跡土層解説

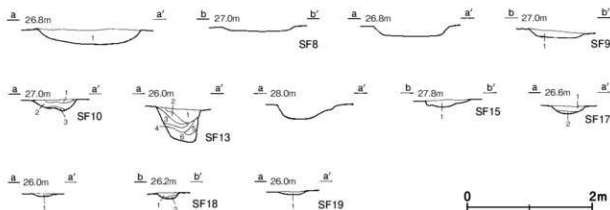
- 1 黒 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

表37 時期不明溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考 (新旧関係など)
				確認長 (m)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (cm)					
1	K 3 c9-K 3 c9	N-97°-E	直線状	4.4	0.72-0.90	0.50-0.77	14	外傾	平坦	人為	縄文土器, 銅片	—
17	K 4 a6-K 4 b9	N-87°-W	直線状	(12.4)	0.36-0.68	0.16-0.40	7-20	縦斜	平坦	不明	—	—
101	G 9 i3-F 9 j6	N-115°-E	直線状	22.5	0.50-1.10	0.38-0.92	18-28	縦斜	平坦	自然	—	SE32-33-34-75-SK744 →本跡
108	G 10 i7-G 10 j9	N-106°-E	直線状	(14.6)	0.40-0.66	0.04-0.30	20	縦斜	直状	自然	—	SE32-34→本跡-SK683
110	H 10 a6-H 10 b6	N-4°-W	山形直線状	(12.6)	0.38-0.90	0.09-0.38	12	縦斜	直状	自然	—	SK694→本跡
111	H 10 c6-H 10 d8	N-112°-E	直線状	6.5	0.38-0.58	0.12-0.26	8	縦斜	直状	自然	土師器, 須恵器, 縄文土器	—
221	I 4 d9	N-117°-E	直線状	(1.7)	0.30-0.55	0.12-0.30	6	縦斜	平坦	自然	—	—
308	I 6 j9-J 7 g2	N-104°-E	直線状	18.2	0.40-0.80	0.18-0.36	12	縦斜	平坦	自然	灰石	—

(2) 道路跡 (第580図・付図)

近代以降と考えられる道路跡は、8条確認されている。いずれも、明治時代前半あるいは現在の地境と一致するもので、近代以前から農業等の道路として使用されていた可能性もある。その中で、第13号道路跡は、形状的に農道として使用される前は根切り溝または排水用として機能していたと推測され、第18号道路跡は削平され遺構の一部が確認されたと考えられる。これらの遺構については一覧表と全体図で紹介し、あわせて実測図と土層解説を記載する。



第580図 第8～10・13・15・17～19号道路跡実測図

第8号道路跡土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

第9号道路跡土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

第10号道路跡土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子少量
3 極暗褐色 ロームブロック少量

第13号道路跡土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量(締まりが強い)
2 暗褐色 褐色粘土ブロック・ローム粒子少量
3 褐色 褐色粘土ブロック中量、ローム粒子少量
4 褐色 褐色粘土ブロック・ローム粒子微量
5 褐色 褐色粘土ブロック・ローム粒子中量
6 極暗褐色 褐色粘土ブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

第15号道路跡土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第17号道路跡土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子少量

第18号道路跡土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量

第19号道路跡土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

表38 近代以降道路跡溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				断面	路面	覆土	主な出土遺物	備考 (新旧関係など)
				確認長 (m)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (cm)					
8	F10a1～F10f2	N-30°-E	直線状	(21.0)	0.86～1.70	0.52～1.30	22	縦斜	人為	—	SI17→本跡-SF9	
9	F9c3～F10g5	N-66°-W	直線状	(49.8)	0.81～1.72	0.60～1.49	12	縦斜	自然	—	SI18-27→本跡-SF8	
10	H10a2～H10a5	N-75°-W	直線状	9.9	0.40～0.74	0.18～0.80	10～15	縦斜	人為	土師器	S864→本跡	
13	F10a7～F11a2	N-59°-W	直線状	(26.2)	0.60～1.00	0.24～0.56	25～52	外傾	自然	—	SF14→本跡	
15	G9a5～G9f4	N-28°-E	直線状	19.7	0.28～1.08	0.09～0.45	9～23	再掘	自然	—	SI16-18-78, SK704-727-738, SI353→本跡	
17	G11j1～H10a6	N-26°-E	直線状	(7.0)	0.38～0.51	0.10～0.16	9～13	縦斜	自然	土師質土器、石器	SF70→本跡	
18	H5i7～H6j1	N-75°-W	直線状	15.3	0.26～0.38	0.18～0.40	4～10	縦斜	自然	—	SD211→本跡	
19	I5a9～I5a6	N-80°-W	直線状	(6.20)	0.52～0.50	0.24～0.36	2～4	縦斜	再掘 平面	自然	土師質土器	

(3) 土坑 (付図)

遺物や重複関係からも時期が明確にできなかった土坑は536基であり、時期については中・近世と推測されるが、これらについては全体図と一覧表で紹介した。

表39 その他の土坑一覧表

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m, 深さ42cm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
1	L 3 a6	N-39°-E	隅丸長方形	2.08 × 0.60	28	外傾	凸凹	自然	—	
2	L 3 a8	N-46°-E	不定形	1.88 × 0.80	24	緩斜	塵状	自然	—	
3	L 3 a7	N-50°-E	方形	0.88 × 0.80	24	垂直	平凹	人為	—	
4	L 3 18	N-7°-E	不定形	1.56 × 1.34	80	外傾	凸凹	自然	—	
7	K 3 a8	N-10°-E	楕円形	1.32 × 1.04	36	外傾	塵状	人為	土師器	
8	K 3 c8	N-23°-W	楕円形	1.38 × 0.92	24~40	外傾	平凹	自然	土師器	
9	K 3 c7	N-7°-E	楕円形	1.74 × 1.20	36	外傾	塵状	自然	縄文土器、土師器	
10	K 3 a9	N-72°-W	楕円形	0.93 × 0.56	28	外傾	平凹	自然	—	
12	K 3 a9	N-16°-E	円形	0.86 × 0.86	44	垂直	平凹	人為	縄文土器、土師器	
13	K 3 a9	N-11°-W	楕円形	0.68 × 0.48	52	垂直	塵状	自然	—	
14	K 3 a9	N-13°-W	円形	0.24 × 0.24	5	外傾	塵状	人為	—	
15	K 3 a9	N-40°-W	楕円形	0.88 × 0.72	48	垂直	塵状	人為	—	
17	K 3 10	N-20°-E	長方形	1.12 × 0.88	24	外傾	平凹	人為	—	
18	K 3 a0	N-57°-E	長楕円形	1.40 × 0.66	46	外傾	塵状	自然	縄文土器、土師器	
19	K 4 a2	N-84°-E	楕円形	1.48 × 1.30	24	外傾	塵状	人為	土師器	
20	K 4 b1	N-20°-W	楕円形	1.04 × 0.82	22	外傾	塵状	人為	—	
21	K 4 b1	N-48°-E	円形	1.52 × 1.26	104	緩斜	塵状	人為	—	
25	K 4 a1	N-70°-W	長楕円形	1.36 × 0.40	64	外傾	塵状	—	土師器	SD2→本跡
27	K 4 11	N-49°-W	楕円形	0.68 × 0.58	36	垂直	塵状	自然	—	
28	K 3 b0	N-45°-W	隅丸長方形	2.08 × 1.18	12~72	外傾	平凹	人為	—	SK40→本跡
32	K 4 a1	N-68°-E	楕円形	0.70 × 0.60	46	外傾	塵状	人為	—	
31	K 3 a0	N-86°-W	楕円形	0.60 × 0.48	49	外傾	平凹	人為	—	SK32→本跡
36	K 3 b0	N-30°-W	[長方形]	(1.36) × 1.10	12	緩斜	平凹	自然	—	SK37→本跡
37	K 3 b0	N-52°-W	[長方形]	1.12 × (0.54)	10	不明	平凹	—	—	本跡→SK36・38
38	K 3 b0	N-58°-W	[方形]	(1.20) × (1.12)	16	外傾	平凹	人為	—	SK37・39→本跡
39	K 3 b0	N-9°-E	[長方形]	(1.12) × (0.68)	14	外傾	平凹	人為	—	SK36→本跡→SK38
40	K 3 b0	N-48°-E N-33°-W	不定形	南北1.64 × 0.60	22	外傾	平凹	人為	—	本跡→SK28
41	K 4 b1	N-70°-E	円形	1.08 × 0.94	54	外傾	塵状	自然	—	SK107→本跡
66	K 4 g1	N-59°-W	楕円形	1.05 × 0.90	26	外傾	塵状	人為	—	
70	K 4 b1	N-50°-W	隅丸長方形	2.11 × 1.50	19	外傾	平凹	人為	—	
107	K 4 b1	N-44°-E	[楕円形]	(2.21) × 1.98	156	垂直	平凹	人為	—	本跡→SK41
157	L 3 18	N-0°	円形	0.92 × 0.91	19	緩斜	平凹	人為	—	SD10→本跡
304	J 5 a7	N-43°-W	不整楕円形	1.51 × 0.89	8	緩斜	凸凹	人為	土師質土器	PG11城
305	J 5 a7	N-89°-E	不整楕円形	1.22 × 0.91	6	緩斜	塵状	人為	—	PG11城
306	J 5 a5	N-11°-E	隅丸長方形	1.50 × 0.69	8	緩斜	平凹	人為	—	SD1-PG11城
307	J 5 a3	N-2°-E	楕円形	2.15 × 0.78	7	緩斜	平凹	人為	—	PG11城
309	J 5 a3	N-24°-W	不定形	0.88 × 0.59	15	緩斜	塵状	人為	—	PG11城
311	J 5 c8	N-10°-E	不整楕円形	1.29 × 1.01	6	緩斜	塵状	人為	—	
315A	K 4 c4	N-10°-E	[不整楕円形]	(1.78) × (0.37)	13	緩斜	平凹	人為	—	SK31B3→本跡
316	K 4 a9	N-25°-W	隅丸長方形	1.05 × 0.89	28	外傾	平凹	人為+	—	
317	K 4 a7	N-10°-E	円形	1.04 × 0.96	56	外傾	塵状	人為+	—	
320	K 4 a6	N-0°	円形	0.73 × 0.72	14	外傾	平凹	自然	—	
321	K 4 a6	N-17°-E	楕円形	0.86 × 0.74	15	外傾	平凹	人為	—	
322	K 4 a7	N-2°-E	不整楕円形	2.61 × 2.10	64	緩斜-垂直	凸凹	人為	石塔片(宝珠)、灰化物	
323A	K 4 a8	N-27°-W	[楕円形]	(0.90) × 0.53	32	外傾	平凹	人為	—	SK32B3→本跡→SD16-SF2
323B	K 4 a8	N-81°-E	[楕円形]	(0.50) × 0.46	26	外傾	平凹	人為	—	本跡→SK32A-SD16-SF2
324A	K 4 a7	N-31°-E	楕円形+	0.64 × (0.35)	11	外傾	平凹	人為	—	本跡→SK321B
324B	K 4 a7	N-64°-E	楕円形	0.82 × 0.76	17	外傾	塵状	人為	—	SK32A4→本跡
325	K 4 a7	N-68°-W	円形	0.78 × 0.73	19	外傾	塵状	人為	—	
326	J 4 17	N-39°-E	円形	0.76 × 0.71	22	外傾	塵状	人為	—	

番号	位置	長径(軸) 方向	平面形	規模(m, 深さ12cm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
327	J 4 7	N-18°-W	楕円形	0.86 × 0.65	26	外傾	現状	人知	—	
330	K 4 6	N-21°-W	不整楕円形	0.99 × 0.89	13	縦斜	現状	人知	—	本跡→SD16-SF2
331	K 4 6	N-20°-W	円形	0.77 × 0.74	27	縦斜	平頭	不明	—	本跡→SD16-SF2
333	L 4 g	N-31°-W	楕円形	1.53 × 1.01	16	縦斜	現状	人知	—	SB6→本跡
334	L 4 g	N-42°-W	楕丸長方形	1.61 × 0.96	14	縦斜	現状	人知	—	SK357-SB6→本跡
335	K 4 19	N-31°-E	楕円形	0.99 × 0.60	14	縦斜	現状	人知	—	SK336→本跡-SB5
336	K 4 19	N-21°-W	楕円形	(1.01) × (0.91)	9	縦斜	平頭	人知	—	本跡→SK335-SB5
339	L 4 17	N-25°-E	不整長方形	1.01 × 0.67	7	縦斜	平頭	人知	—	SE20
340	L 4 17	N-51°-E	不整長方形	0.84 × 0.70	8	垂直	平頭	人知	—	SE20
341	L 4 18	N-26°-E	不整楕円形	1.01 × 0.79	6	縦斜	平頭	人知	—	
342	L 4 a2	N-25°-E	楕丸長方形	2.43 × 1.16	22	縦斜	平頭	人知	—	底面粘土貼り
344	M 4 g5	N-42°-E	楕円形	1.40 × 0.90	6	縦斜	現状	人知	—	底面粘土貼り、PG2域
345	M 4 g1	N-40°-E	不整楕円形	1.18 × 0.67	12	縦斜	凸凹	人知	—	底面粘土貼り
347	M 4 g1	N-67°-W	楕円形	1.12 × 0.53	13	縦斜	凸凹	不明	—	
353	L 4 45	N-25°-E	楕丸長方形	1.06 × 0.90	15	外傾	平頭	不明	—	PG1域
355	L 3 g5	N-44°-E	楕丸長方形	0.86 × 0.72	36	垂直	平頭	人知	—	
357	L 4 g8	N-26°-W	楕丸長方形	0.81 × 0.62	11	外傾	平頭	人知	—	本跡→SK334
365	M 4 b0	N-29°-E	楕丸長方形	1.15 × 0.92	24	外傾	現状	人知	—	本跡→SK362 PG6域
366	M 5 c1	N-21°-E	(不明)	1.30 × (0.68)	28	外傾	平頭	人知	—	PG6域
367	M 4 7	N-29°-W	楕円形	0.60 × 0.53	34	縦斜	現状	人知	—	PG3域
368	M 4 g7	N-60°-W	楕円形	0.81 × 0.85	26	縦斜	現状	人知	—	PG3域
369	M 4 7	N-29°-W	不整長方形	0.91 × 0.78	35	縦斜-外傾	平頭	人知	—	PG3域
370	K 4 g0	N-54°-W	楕丸長方形	1.30 × 0.88	4	縦斜	現状	人知	—	
371	K 4 19	N-42°-W	不定形	1.56 × 1.01	12	縦斜	現状	人知	—	
372	K 5 e3	N-52°-W	楕丸長方形	1.92 × 0.98	19	外傾	平頭	人知	—	SE25→本跡 PG10域
374	L 4 c5	N-28°-W	楕円形	1.24 × 0.99	51	外傾	平頭	人知	—	PG5域
375	K 5 e4	N-29°-E	円形	0.95 × 0.90	5	縦斜	現状	不明	—	PG12域
376	K 5 f3	N-29°-E	楕丸長方形	1.80 × 1.18	16	外傾	平頭	人知	—	PG12域
377	K 5 g0	N-51°-W	円形	1.15 × 1.10	91	垂直	平頭	人知	—	PG12域
378	K 5 e6	N-88°-E	円形	0.69 × 0.64	11	縦斜	平頭	人知	—	
379	K 5 g5	N-26°-E	楕円形	0.91 × 0.71	8	縦斜	現状	不明	—	PG12
380	L 5 e4	N-57°-E	不整楕円形	2.87 × 1.57	26	縦斜	現状	不明	—	本跡→PG14
381	L 5 e4	N-71°-E	不整楕円形	2.31 × 1.37	42	縦斜	現状	不明	—	本跡→PG14
382	L 5 44	N-29°-E	不整楕円形	3.09 × 1.37	27	縦斜	平頭	不明	—	本跡→PG14
383	L 5 g2	N-21°-W	楕円形	1.14 × 0.89	25	縦斜	現状	人知	—	PG14域
391	K 4 b0	N-0°	円形	0.69 × 0.68	14	外傾	平頭	自然	—	
394	K 4 b9	N-45°-E	(楕円形)	(1.34) × 0.67	9	縦斜	現状	不明	—	SE29→本跡
395	L 4 b5	N-54°-W	楕円形	0.95 × 0.65	3	縦斜	現状	不明	—	PG5域
396	L 4 b3	N-58°-W	楕円形	1.12 × 0.76	6	縦斜	現状	人知	—	SK397→本跡 PG5域
397	L 4 b3	N-24°-W	円形	0.54 × 0.46	48	外傾	凸凹	人知	—	本跡→SK396 PG5域
398	L 4 b3	N-51°-E	(楕円形)	0.96 × (0.62)	8	外傾	平頭	人知	—	
399	L 4 a4	N-29°-W	楕丸長方形	0.55 × 0.39	44	垂直	縦斜	人知	—	
401	J 5 b0	N-9°-W	(楕丸長方形)	1.20 × (0.76)	36	外傾	現状	人知	—	本跡→SD20
402	J 5 g0	N-16°-W	楕円形	1.22 × 0.85	58	外傾	現状	人知	—	本跡→SD20
404	J 5 48	N-49°-W	不定形	1.85 × 0.99	26	外傾	現状	人知	—	本跡→PG11
406	J 5 16	N-20°-W	楕円形	1.10 × 1.00	15	縦斜	平頭	人知	—	PG2域
407	J 5 16	N-3°-E	楕丸長方形	0.95 × 0.88	25	縦斜	平頭	人知	—	PG2域
408A	J 5 17	N-10°-E	楕円形	1.59 × 0.86	18	縦斜	現状	人知	—	本跡→SK208B PG3域
408B	J 5 17	N-83°-E	楕円形	0.90 × 0.67	11	外傾-縦斜	縦斜	人知	—	SK408A→本跡
410	J 5 17	N-49°-W	楕円形	1.27 × 1.15	18	縦斜	現状	人知	—	
413	J 5 18	N-61°-W	(楕円形)	(1.72) × (1.25)	32	縦斜	現状	人知	—	SK427→本跡-SK416
414	J 5 18	N-89°-W	楕円形	1.08 × 0.86	15	縦斜	現状	人知	—	
415	K 5 a8	N-22°-W	楕円形	1.62 × 1.29	16	縦斜	現状	人知	—	土師器
416	J 5 18	N-25°-W	円形	1.54 × 1.48	20	縦斜	現状	人知	—	SK413→本跡
417	K 5 a9	N-65°-W	楕円形	1.33 × 1.08	14	縦斜	現状	人知	—	SK417→SK428
418	J 5 10	N-76°-W	不整楕円形	1.56 × 0.94	26	縦斜	凸凹	不明	—	
421	J 5 17	N-27°-E	楕円形	1.48 × 0.97	9	縦斜	現状	自然	—	SB4→本跡 PG9域
423	J 5 18	N-24°-E	楕円形	1.61 × 0.84	60	外傾	平頭	人知	—	

番号	位置	長径(軸) 方向	平面形	規模(m, 深さ42cm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
421	J 5 12	N-32°-W	隅丸長方形	1.56 × 1.18	10	縦斜	平面	人瓦	—	
427	J 5 18	N-76°-W	[楕円形]	1.52 × (0.88)	28	縦斜	楕状	人瓦	—	本跡→SK413
429	J 5 66	N-5°-W	不整楕円形	1.79 × 1.29	21	縦斜	楕状	人瓦	—	PG9城
432	J 5 12	N-88°-E	楕円形	1.20 × 0.73	23	縦斜	楕状	人瓦	—	
441	J 5 66	N-88°-W	楕円形	0.79 × 0.60	16	縦斜	楕状	自然*	—	PG11城
443	K 5 16	N-24°-E	不整楕円形	0.76 × 0.64	55	外傾	楕状	不明	—	PG12城
444	K 5 14	N-44°-W	隅丸長方形	1.21 × 0.98	9	縦斜	平面	不明	—	SB14
445	K 5 15	N-27°-E	不整楕円形	1.10 × 0.64	10	縦斜	平面	不明	—	PG12城
446	K 5 14	N-88°-W	円形	0.71 × 0.64	22	外傾	凸円	不明	—	PG12城
447	K 5 15	N-41°-E	隅丸長方形	0.81 × 0.58	6	縦斜	平面	不明	—	
448	K 5 62	N-36°-E	楕円形	0.88 × 0.43	13	外傾	平面	人瓦	—	PG12城
449	K 5 11	N-63°-E	楕円形	1.84 × 0.92	58	垂直	平面	人瓦	—	
452	K 5 15	N-42°-E	不整楕円形	0.72 × 0.50	16	縦斜	凸円	人瓦	—	
453	K 5 67	N-49°-W	円形	0.84 × 0.76	10	垂直	平面	人瓦	—	PG12城
454A	K 5 63	N-32°-E	[不整楕円形]	0.81 × 0.50	20	外傾	凸円	人瓦	—	本跡→SK454B PG12城
454B	K 5 63	N-45°-W	[圓形]	0.87 × 0.52	32	外傾	楕状	人瓦	—	SK454A→本跡 PG12城
455	K 5 67	N-47°-E	円形	0.84 × 0.81	10	垂直	凸円	人瓦	—	
457	K 5 63	N-39°-W	楕円形	0.75 × 0.68	8	外傾	平面	人瓦	—	SD19A→本跡
460	L 5 a3	N-0°	円形	1.22 × 1.23	64	外傾	平面	人瓦	—	
462	L 4 a0	N-34°-E	円形	0.84 × 0.79	24	外傾	凸円	人瓦	—	
465	K 5 18	N-44°-W	不整楕円形	1.30 × 0.93	10	縦斜	平面	自然	—	PG12城
466	K 5 19	N-29°-W	楕円形	1.38 × 1.19	12	外傾	平面	人瓦	—	SD28A→本跡
467	L 5 a0	N-34°-W	楕円形	0.90 × 0.67	14	縦斜	楕状	人瓦	—	SD28A→SD29
468	K 5 10	N-41°-E	隅丸長方形	1.35 × 0.79	14	縦斜+縦傾	平面	人瓦	—	SD28A
469	K 5 65	N-66°-W	隅丸長方形	1.98 × 0.89	12	縦斜	平面	人瓦	—	本跡→SB12 PG12城
470	L 5 a8	N-25°-E	楕円形*	1.12 × (0.98)	22	縦斜	楕状	人瓦	—	本跡→SD28
471	K 5 16	N-46°-E	[楕円形]	1.75 × (0.95)	7	縦斜	平面	人瓦	—	SD19A→SK472→本跡
472	K 5 16	N-32°-E	楕円形	1.30 × 1.15	4	縦斜	平面	人瓦	—	本跡→SK471
478	M 4 b0	N-33°-W	不整楕円形	1.78 × 0.67	28	外傾	平面	人瓦	—	PG18城
479	M 4 a0	N-4°-W	[不整楕円形]	[1.60] × [0.80]	30	外傾	楕状	人瓦	—	本跡→SK480
480	M 4 a0	N-39°-W	楕円形	1.46 × 0.84	35	外傾	楕状	人瓦	—	SD52→SK479→本跡
482	L 4 j0	N-27°-E	楕円形	1.16 × 1.00	26	縦斜+縦傾	楕状	人瓦	—	SD46A→本跡
483	M 4 a0	N-40°-E	隅丸長方形	1.09 × 0.78	35	外傾	平面	人瓦	—	PG6城
486	L 4 j8	N-18°-W	楕円形	0.96 × 0.71	28	縦斜	楕状	人瓦	—	本跡→PG18
487	L 4 a3	N-45°-E	円形	0.80 × 0.78	59	垂直	平面	人瓦	—	
492	M 4 b5	N-47°-E	円形	0.82 × 0.76	53	外傾	凸円	人瓦	—	
499	M 4 a9	N-44°-W	不定形	1.51 × 0.50	54	垂直	凸円	人瓦	—	
500	L 4 b3	N-42°-E	隅丸長方形	1.05 × 0.81	11	外傾	平面	人瓦	—	本跡→SK308
501	L 4 g3	N-69°-E	不定形	1.47 × 0.75	34	縦斜	凸円	人瓦*	—	本跡→SD9-10
506	L 4 e8	N-25°-W	楕円形	1.26 × 0.99	34	外傾	楕状	人瓦	—	
507	L 4 e9	N-35°-W	楕円形	1.20 × 0.95	34	外傾	楕状	人瓦	—	
511	L 4 e8	N-27°-W	円形	1.00 × 0.94	39	外傾	楕状	人瓦	—	
512	M 4 a1	N-50°-W	丁字型	3.21 × 1.96	56	外傾	楕状	人瓦	—	
514	L 5 e5	N-44°-W	不定形	1.07 × 0.61	55	縦斜	凸円	人瓦	—	PG14城
516	L 4 d1	N-39°-E	不整楕円形	0.60 × 0.48	44	外傾	凸円	人瓦	—	SF3
517	L 4 d1	N-15°-W	[楕円形]	0.52 × (0.45)	37	外傾	凸円	人瓦	—	SF3
520	M 4 b0	N-35°-E	不定形	0.81 × 0.53	15	縦斜	楕状	人瓦	—	
524	K 5 16	N-55°-E	円形	0.82 × 0.78	47	外傾	楕状	人瓦	—	SD19A→本跡
550	F10e7	N-86°-E	楕円形	2.74 × 1.04	12	縦斜	傾斜	人瓦	—	
551	E10j8	N-18°-W	長方形	1.96 × 0.78	10	縦斜	平面	人瓦	—	
552	F10a0	N-64°-W	楕円形	2.80 × 1.80	8~12	縦斜	平面	人瓦	—	
607	F 9 j8	N-19°-W	不定形	2.05 × 1.72	26	縦斜	凸円	人瓦	—	縄文土器、土師器
608	F 9 g7	N-14°-E	円形	0.89 × 0.86	13	縦斜	楕状	自然*	—	土師器
609	F 9 g7	N-18°-E	楕円形	0.94 × 0.76	32	外傾	平面	人瓦	—	
610	F 9 f3	N-1°-E	隅丸長方形	2.08 × 0.88	17	縦斜	平面	人瓦	—	縄文土器、土師器
611	F 9 j2	N-18°-E	隅丸長方形	1.89 × 0.93	18	縦斜	平面	人瓦	—	縄文土器、土師器
612	F 9 i2	N-19°-W	不定形	1.19 × 1.03	34	縦斜	凸円	人瓦	—	土師器、漆
614	G 9 a1	N-10°-E	楕円形	1.91 × 1.15	10	縦斜	楕状	人瓦*	—	縄文土器

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m, 深さ12cm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧四柱(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
615	G 9 a1	N-15°-E	長円形	1.63 × 0.91	12	縦斜	現状	人土 ⁺	縄文土器	本跡→SI75
616	G 9 b1	N-81°-E	楕円形	0.90 × 0.57	7	縦斜	現状	人土	須恵器	
617	F 9 j1	N-32°-E	不整形長方形	1.62 × 0.92	15	縦斜	平頭	人土	縄文土器	
618	G 9 c1	N-3°-W	長楕円形	1.42 × 0.71	16	外傾	平頭	人土 ⁺	—	
619	F 9 f3	N-81°-W	楕丸長方形	1.95 × 0.75	14	縦斜	平頭	人土	土師器	
620	G 9 b2	N-60°-W	楕円形	2.00 × 1.25	18	外傾	平頭	人土	土師器、須恵器	本跡→SI75
621	F 9 e3	N-73°-E	楕丸長方形	2.53 × 0.82	48	垂直	平頭	人土	土師器	SK627→本跡
623	F 9 b2	N-32°-E	不整形円形	3.22 × 2.32	17	縦斜	現状	人土	縄文土器、土師器、灰釉陶器	
624	F 9 e3	N-7°-W	円形	1.17 × 1.11	39	縦斜	現状	不明	—	
627	F 9 e3	N-3°-E	楕丸長方形+	(0.90) × 0.76	18	縦斜	平頭	人土	—	本跡→SK021
630	G 9 b4	N-6°-E	長楕円形	2.09 × 0.93	12	外傾	平頭	人土	土師器、須恵器	SI88→本跡
631	G 8 d0	N-86°-W	楕円形	1.02 × 0.82	24	外傾	平頭	人土	—	SI77→本跡
632	G 8 e0	N-40°-W	楕円形	1.62 × 0.69	15	縦斜	平頭	人土	縄文土器、土師器	SI77→本跡
633	F 10 d9	N-1°-E	長楕円形	1.25 × 0.56	7	縦斜	現状	人土	—	
634	F 10 e8	N-35°-E	楕円形	0.81 × 0.67	8	縦斜	現状	自然	—	
635	F 10 e7	N-78°-E	楕円形	1.76 × 1.44	10	縦斜	現状	人土	—	
636	F 10 f9	N-25°-W	長楕円形	1.68 × 0.48	7	縦斜	現状	人土	—	
637	F 10 d7	N-74°-E	長楕円形	3.37 × 0.78	6	縦斜	平頭	人土	縄文土器、土師器	
638	G 9 b6	N-78°-W	楕丸長方形	(2.15) × (0.60)	36	外傾	平頭	人土	縄文土器、土師器、須恵器、雉	SI65-67→本跡
639	F 9 b4	N-12°-E	(楕円形)	(1.25) × (0.63)	20	縦斜	平頭	人土	—	本跡→SI29
640	F 11 b1	N-11°-W	円形	0.57 × 0.51	24	外傾	現状	人土	—	
641	F 11 b1	N-60°-W	円形	0.40 × 0.39	22	外傾	現状	人土	土師器	
642	F 11 a1	N-8°-E	円形	0.37 × 0.36	12	外傾	現状	人土	—	
643	F 10 g1	N-54°-E	楕丸長方形	0.67 × 0.52	12	縦斜	現状	人土	—	
644	F 10 g1	N-44°-E	円形	1.12 × 1.06	33	外傾	平頭	人土	縄文土器	
645	F 9 g0	N-71°-E	円形	1.12 × 1.04	30	外傾	平頭	人土	縄文土器、雉	
646	G 10 b1	N-70°-E	楕円形	1.24 × 1.06	11	縦斜	平頭	人土	縄文土器	
647	G 10 c2	N-60°-W	楕円形	1.33 × 1.08	12	縦斜	平頭	人土	雉	
649	G 9 b3	N-27°-E	不定形	2.26 × 1.26	36	外傾	凸凹	人土	縄文土器、雉	本跡→PG30
650	G 9 b6	N-80°-E	円形	1.06 × 0.99	65	外傾	平頭	人土 ⁺	—	本跡→SI54
651	G 9 e1	N-81°-E	円形	1.26 × 1.21	50	外傾	平頭	人土	縄文土器、土師器	SK056→本跡
652	G 9 e1	N-14°-W	円形	1.12 × 1.02	47	縦斜	現状	人土	縄文土器、須恵器、洞窟(埋没)	
654	G 9 e2	N-12°-W	楕円形	0.49 × 0.43	71	垂直	現状	人土	縄文土器	
655	G 9 e5	N-15°-E	長楕円形	2.12 × 1.07	16	縦斜	平頭	人土	土師器、須恵器	
656	G 9 e1	N-14°-E	楕丸長方形	1.23 × 0.72	45	外傾	平頭	人土	—	本跡→SK051
657	H 10 b3	N-65°-W	楕円形	1.62 × 1.26	14	縦斜	平頭	人土	—	
659	G 9 d2	N-80°-W	楕丸長方形	1.60 × 0.84	21	外傾	平頭	人土	縄文土器、土師器、須恵器	
661	H 11 b5	N-36°-E	楕円形	0.72 × 0.61	32	外傾	現状	自然 ⁺	縄文土器、土師器、磨石	
662	H 11 b6	N-40°-W	円形	0.75 × 0.72	40	外傾	平頭	人土	縄文土器	
663	H 11 c7	N-42°-E	円形	0.80 × 0.78	14	縦斜	現状	人土	縄文土器、鏡片	
664	H 11 d5	N-9°-W	不整形円形	0.48 × 0.42	26	縦斜+外傾	現状	人土	—	
665	H 11 d5	N-36°-E	長楕円形	0.79 × 0.45	22	外傾	平頭	人土	縄文土器	
666	H 11 e5	N-41°-W	長楕円形	0.94 × 0.45	68	垂直	凸凹	人土	縄文土器	
667	H 11 f5	N-34°-W	円形	0.69 × 0.64	48	外傾	平頭	人土	縄文土器	
668	H 11 e6	N-17°-W	楕円形	0.46 × 0.32	22	外傾	現状	人土	—	
669	H 11 f3	N-5°-E	円形	0.53 × 0.51	18	縦斜	凸凹	人土 ⁺	—	
671	G 10 g6	N-26°-W	楕円形	1.64 × 0.79	14	縦斜	現状	人土	—	
673	H 10 b1	N-3°-E	楕円形	1.64 × 1.04	20	縦斜	凸凹	人土	縄文土器、土師器	
674	G 9 j0	N-20°-E	楕円形	1.41 × 1.26	19	外傾	縦斜	自然	縄文土器、土師器	
675	H 10 b2	N-38°-W	円形	1.46 × 1.34	19	縦斜	平頭	人土	—	SK676→本跡
676	H 10 a2	N-77°-W	(楕円形)	1.13 × (0.75)	10	縦斜	平頭	人土	—	本跡→SK675
677	H 9 e6	N-70°-W	不定形	2.38 × 0.80	15	縦斜	平頭	人土	縄文土器、陶器	
678	G 10 i8	N-2°-E	楕円形	1.45 × 0.98	14	縦斜	平頭	人土	—	
679	G 10 i7	N-28°-E	楕円形	0.98 × 0.57	16	外傾+縦斜	平頭	人土	縄文土器	
680	G 10 j3	N-20°-W	円形	0.81 × 0.77	17	外傾	平頭	人土	—	
682	G 10 i6	N-21°-W	楕円形	1.60 × 0.94	14	縦斜	平頭	人土	土師土器	SE34→本跡
683	G 10 i6	N-86°-W	楕円形	1.05 × 0.95	20	縦斜	平頭	人土	—	本跡→SD8
684	H 10 b3	N-12°-W	円形	0.54 × 0.52	11	縦斜	現状	人土	土師器	

番号	位置	長径(軸) 方向	平面形	規模(m, 深さ4cm)		断面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
685	H10h3	N-19°-W	楕円形	0.97 × 0.72	10	縦斜	塵状	人瓦	土師器	
686	H10h2	N-44°-W	円形	0.66 × 0.63	17	外傾	塵状	人瓦	土師器	
687	H10h3	N-29°-W	不整形楕円形	1.03 × 0.86	22	縦斜	凸凹	人瓦	縄文土器、土師器	
688	H10h1	N-68°-E	円形	0.80 × 0.77	16	縦斜	塵状	人瓦	土師器	
689	H10h1	N-79°-E	不整形楕円形	1.39 × 0.80	48	外傾	平坦	人瓦	縄文土器、土師器、須恵器	
690	G 9h5	N-63°-W	楕円形	0.87 × 0.76	35	外傾	平坦	人瓦	縄文土器	
692	H11f4	N-72°-E	不定形	2.25 × 1.07	35	縦斜	凸凹	自然	縄文土器、礎	
694	H10h7	N-17°-W	円形	0.86 × 0.80	16	縦斜	塵状	人瓦	縄文土器	本跡→SD110
697	H10h1	N-71°-E	円形	0.97 × 0.90	14	縦斜	塵状	人瓦	—	SK696→本跡
699	H10c0	N-74°-E	長楕円形	1.89 × 0.69	19	縦斜	平坦	人瓦	—	—
700	G 9c1	N-25°-W	楕円形	1.26 × 0.81	32	縦斜	平坦	不明	—	SI49→本跡
701A	G 9f7	N-66°-E	不整形楕円形	2.50 × 2.35	36	縦斜	塵状	人瓦	縄文土器、土師器、礎	本跡→SK701B
701B	G 9f7	N-35°-E	楕円形	1.51 × 1.17	14	縦斜	塵状	人瓦	縄文土器、土師器	SK701A→本跡
702	G 9g8	N-67°-W	不定形	0.57 × 0.53	73	外傾	塵状	人瓦	縄文土器、土師器、土加貫土器	
703	G 9g7	N-67°-W	不定形	3.46 × 2.46	18	縦斜	塵状	人瓦	縄文土器、土師器	SI16→本跡→SK709→SD107
704	G 9h5	N-80°-W	楕円形	0.97 × 0.76	44	外傾	平坦	不明	—	本跡→SF15
705	G 9h0	N-64°-E	楕円形	1.14 × (0.87)	15	縦斜	凸凹	人瓦	縄文土器、土師器	SK692-707→本跡→SK706
706	G 9h0	N-57°-E	楕円形	1.17 × 0.81	20	縦斜	凸凹	人瓦	縄文土器	SK707→本跡
708	G 9h5	N-21°-E	楕円形	1.75 × (0.85)	32	縦斜	平坦	人瓦	—	SI46→本跡→SK709-827-828
709	G 9h5	N-21°-E	楕円形	2.00 × 1.36	52	縦斜	塵状	人瓦	—	SI46-48→本跡→SK704-828
710	F10g2	N-40°-E	楕円形	1.22 × 0.88	12	縦斜	平坦	人瓦	縄文土器、土師器、石張り(円形)	
711	G 9f5	N-14°-E	円形	0.95 × 0.90	17	外傾	平坦	人瓦	—	
713	G 9f4	N-55°-W	楕円形*	1.42 × 1.14	25	外傾	平坦	人瓦	縄文土器	本跡→SK712
714	G 9d5	N-12°-W	楕円形	2.46 × 1.96	55	縦斜	塵状	人瓦	縄文土器、礎	SI47-SK737→本跡
722	G 9c3	N-30°-E	楕円形	0.41 × 0.28	18	縦斜-外傾	塵状	人瓦	土師器	SK320→本跡
723	G 9c3	N-57°-W	楕円形	0.54 × 0.28	21	縦斜-外傾	塵状	自然	縄文土器	
724	G 9f3	N-37°-E	楕円形	0.98 × 0.83	13	縦斜	平坦	人瓦	土師器、礎	
725	G 9f3	N-73°-W	不整形楕円形	1.68 × 1.16	15	縦斜	平坦	人瓦	縄文土器、小礎	
726	G 9e2	N-54°-E	楕円形	0.41 × 0.36	52	外傾	塵状	人瓦	—	
737	G 9d5	N-35°-E	不整形	3.66 × 3.14	86	縦斜	塵状	人瓦	縄文土器、礎	SI47→本跡→SK714
745	G 9c8	N-59°-W	隅丸長方形	3.28 × 2.42	73	縦斜	U字状	人瓦	縄文土器、土師器、礎	本跡→SK748
746	F 9j0	N-72°-W	楕円形	0.70 × 0.64	55	縦斜	U字状	人瓦	縄文土器、土師器	SK800→本跡→SI36
747	F 9h7	N-46°-E	[楕円形]	3.06 × 2.26	56	縦斜-外傾	平坦	人瓦	—	本跡→SI32
748	G 9e7	N-35°-E	楕円形	0.58 × 0.46	16	縦斜	塵状	人瓦	—	SK745→本跡
750	H10h1	N-96°-W	円形	0.84 × 0.78	15	縦斜	平坦	人瓦	—	
752	H11f4	N-62°-W	円形	1.35 × 1.30	38	縦斜	平坦	人瓦	縄文土器、瓦片	SI11→本跡
753	G10j0	N-45°-W	不定形	0.86 × 0.56	1021	縦斜	凸凹	人瓦	—	
754	G10j9	N-12°-W	不定形	0.92 × 0.88	16	縦斜	塵状	人瓦	—	
755	G10j9	N-20°-W	円形	0.85 × 0.77	30	外傾	塵状	人瓦	縄文土器、弥生土器、礎	
756	G10j8	N-74°-W	楕円形	1.87 × 1.02	11	縦斜	平坦	人瓦	縄文土器、礎	
757	G10j7	N-66°-W	[楕円形]	0.91 × 0.67	6	縦斜	塵状	人瓦	—	本跡→SK758
758	G10j7	N-80°-W	不整形楕円形	1.30 × 1.03	26	縦斜	凸凹	人瓦	縄文土器、礎	SK757→本跡
759	H11c2	N-19°-W	楕円形	0.64 × 0.56	12	縦斜	平坦	人瓦	縄文土器	
762	H10h1	N-65°-W	円形	0.97 × 0.90	11	縦斜	平坦	人瓦	—	
800	F 9j9	N-75°-W	[長楕円形]	0.98 × 0.51	31	縦斜	塵状	人瓦	—	本跡→SK746
803	F 9g6	N-34°-W	楕円形	0.58 × 0.48	19	外傾	平坦	人瓦	縄文土器	SI39→本跡
804	F 9g6	N-86°-W	楕円形	0.61 × 0.44	9	縦斜	平坦	不明	—	SI39→本跡
806	G 9c6	N-52°-W	[楕円形]	1.98 × 1.27	12	縦斜	平坦	人瓦	土加貫土器、縄文土器	SI44→本跡
807	G 9e6	N-22°-W	楕円形	1.64 × 1.01	12	縦斜	平坦	人瓦	縄文土器、土師器	
808	G 9e6	N-21°-E	楕円形	0.51 × 0.41	8	縦斜	塵状	自然	—	
809	G 9e5	N-18°-W	楕円形	0.48 × 0.42	20	外傾	塵状	人瓦	—	
810	G 9e6	N-76°-W	隅丸長方形	1.74 × 1.07	10	縦斜	平坦	人瓦	縄文土器、土師器	SK811→本跡
811	G 9e6	N-62°-W	隅丸長方形	2.05 × 0.99	27	外傾	平坦	人瓦	縄文土器、土師器、須恵器、礎	SK812-819→本跡→SK810
812	G 9f6	N-81°-W	楕円形*	1.10 × (0.86)	26	縦斜	塵状	人瓦	—	本跡→SK811
814	G10h1	N-16°-W	[楕円形]	1.70 × 0.76	20	縦斜	平坦	人瓦	土師器、銅片	本跡→SI67
815	F10j3	N-68°-E	楕円形	1.51 × 1.02	12	縦斜	平坦	自然	礎	
816	G 9h6	N-82°-E	楕円形	1.06 × 0.76	22	縦斜-外傾	凸凹	人瓦	縄文土器	
818	G 9h7	N-76°-W	不定形	2.27 × 1.64	20	縦斜	平坦	人瓦	縄文土器、土師器	

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m, 深さ12cm)		断面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧四角(古→新)	
				長径(軸)×短径(軸)	深さ						
819	G 9 F7	N-40°-W	楕円形a	1.28 × 0.90	37	縦斜	凸円	不明	縄文土器	本跡→SK811	
827	G 9 c5	N-7°-E	楕円形	1.60 × 0.88	35	縦斜	腰状	人丸	縄文土器、土師器、礎	SK96-SK708→本跡	
828	G 9 b5	N-18°-W	楕円形	0.65 × 0.44	35	外傾	平円	人丸	縄文土器、土師器	SK86-48-SK708-709→本跡	
830	H 9 c8	N-51°-W	長方形	1.09 × 0.70	16	外傾	平円	人丸	縄文土器、土師器、須恵器	SK29→本跡	
834	H 9 c7	N-24°-W	[円形]	1.89 × (1.88)	24	縦斜	平円	人丸	白石*	本跡→SK59	
842	H 10k2	N-5°-W	楕円形	1.57 × 1.07	10	縦斜	平円	自然*	—	本跡→SK64	
847	H 10k3	N-70°-W	不整楕円形	1.79 × 1.43	11	外傾	縦斜	不明	縄文土器、土師器	本跡→SK64	
854	H 10c5	N-0°	円形	0.86 × 0.81	13	縦斜	平円	人丸	—	—	
852	G 10c2	N-24°-E	不定形	3.85 × 1.25	27	縦斜	凸円	人丸	縄文土器	SK853→本跡	
853	G 10c2	N-35°-E	不定形	2.00 × 1.80	10-21	縦斜	凸円	人丸	縄文土器	本跡→SK852	
854	H 11f1	N-30°-W	楕円形	0.98 × 0.84	15	縦斜	腰状	人丸	—	—	
855	G 10i1	N-80°-E	楕円形	0.54 × 0.47	23	縦斜	腰状	人丸	縄文土器、土師器、須恵器	—	
856	H 11e1	N-65°-E	楕円形	1.15 × 1.02	12	縦斜	平円	自然	縄文土器	—	
857	H 11e2	N-19°-W	長楕円形	1.26 × 0.68	9	縦斜	平円	人丸	—	—	
858	H 11f3	N-38°-E	楕円形	1.09 × 0.78	16	縦斜	腰状	人丸	土師器	—	
864	H 10g0	N-64°-W	不整楕円形	1.78 × 0.95	10	外傾	平円	人丸	—	—	
900	L 6 b8	N-33°-W	楕丸長方形	1.22 × 0.98	34	外傾	平円	人丸	—	SD123A→本跡	
902	L 6 b 8	N-59°-W	[楕円形]	0.88 × 0.54	36	外傾	腰状	人丸	—	—	
903	L 6 b 8	N-32°-W	長方形	1.76 × 1.00	35	縦斜	平円	人丸	—	—	
904	L 6 g0	N-47°-E	楕丸長方形	1.75 × 0.86	7	縦斜	平円	人丸	—	—	
905	L 6 b4	N-46°-W	[楕円形]	1.17 × 0.59	11	縦斜	凸円	人丸	—	本跡→SD125	
906	L 6 e8	N-52°-E	楕丸長方形	1.05 × 0.86	30	外傾	平円	人丸	—	—	
908	L 6 b3	N-84°-W	楕円形	0.99 × 0.67	23	縦斜	腰状	人丸	—	—	
909	L 6 d7	N-34°-W	楕円形	1.18 × 0.88	30	外傾	凸円	人丸	—	—	
910	L 6 g9	N-36°-W	長方形	2.07 × 1.40	8	縦斜	平円	人丸	—	—	
911	L 6 b 8	N-28°-W	楕丸長方形	2.37 × 0.89	20	外傾	平円	人丸	—	—	
912	L 6 g9	N-24°-W	楕丸長方形	1.75 × 0.88	33	外傾	平円	人丸	—	—	
913	L 6 a3	N-7°-W	長楕円形	1.73 × 0.80	18	縦斜	腰状	自然*	—	PG49城	
914	L 6 d0	N-61°-W	楕丸長方形	0.84 × 0.74	38	外傾	凸円	人丸	—	PG49城	
915	L 6 e8	N-43°-W	不整楕円形	1.13 × 0.69	29	外傾	腰状	人丸	—	PG49城	
916	L 6 b8	N-31°-W	不整楕円形	0.73 × 0.50	33	外傾	縦斜	人丸	—	PG49城	
917	L 6 b8	N-83°-W	不整楕円形	1.52 × 0.90	19	縦斜	腰状	人丸	—	PG49城	
918	L 6 e9	N-46°-E	楕円形	1.09 × 0.81	22	縦斜	腰状	人丸	—	PG49城	
919	L 7 c1	N-46°-W	円形	0.63 × 0.60	15	縦斜	平円	人丸	—	本跡→SK99 PG49城	
922	L 6 b4	N-72°-W	楕円形	1.38 × 1.08	24	外傾	縦斜	人丸	—	SD125-126-WT13→本跡	
924	L 6 b 3	N-15°-E	楕円形	1.30 × 0.90	9	縦斜	腰状	人丸	—	SK925→本跡 PG48城	
925	L 6 b 3	N-62°-W	[楕円形]	0.880 × 0.96	18	縦斜	腰状	人丸	—	本跡→SK924-926 PG48城	
926	L 6 b 3	N-33°-W	長楕円形	1.50 × 0.85	25	縦斜	腰状	人丸	—	SK925-927→本跡	
927	L 6 b 3	N-55°-E	[楕円形]	(1.16) × 1.15	13	縦斜	楕円	人丸	—	本跡→SK926	
934	M 5 f3	N-5°-E	楕円形	0.92 × 0.72	49	外傾	縦斜	平円	人丸	—	SD134→本跡 PG42城
937	L 5 b 8	N-28°-E	不定形	1.13 × 1.03	13	縦斜	腰状	自然	—	SK38→本跡	
947	M 5 f4	N-23°-W	不整楕円形	0.53 × 0.50	28	外傾	垂直	凸円	人丸	—	PG42城
953	M 5 g7	N-63°-E	不整長方形	1.70 × 0.90	24	縦斜	腰状	人丸	—	—	
956	M 5 f6	N-50°-W	不定形	1.40 × 0.89	34	縦斜	外傾	凸円	人丸	—	PG55城
957	M 5 g7	N-57°-W	楕丸長方形	0.72 × 0.52	24	外傾	腰状	人丸	—	PG55城	
959	M 5 g7	N-26°-W	楕円形	0.59 × 0.46	25	外傾	平円	人丸	—	PG55城	
965	M 5 f5	N-24°-W	不整長楕円形	1.45 × 0.68	62	外傾	腰状	人丸	—	PG55城	
969	M 5 g6	N-20°-E	不整楕円形	1.27 × 0.94	56	外傾	凸円	人丸	—	PG55城	
970	M 5 e6	N-41°-W	不整楕円形	0.82 × 0.65	50	縦斜	外傾	凸円	人丸	—	PG55城
972	L 5 d0	N-48°-W	不定形	2.30 × 1.92	20	縦斜	腰状	人丸	—	SD131A→本跡	
975	M 5 f5	N-58°-E	不整楕円形	0.53 × 0.39	36	外傾	凸円	人丸	—	PG55城	
979	M 5 b5	N-48°-E	不定形	1.40 × 1.11	30	垂直	平円	人丸	—	PG42城	
980	M 5 b5	N-50°-W	不定形	0.48 × 0.46	29	垂直	腰状	自然*	—	PG42城	
981	N 5 a2	不明	不定形	1.50 × 0.89	32	縦斜	腰状	人丸	—	PG41城	
982	N 5 a3	N-42°-E	楕丸長方形	1.48 × 0.98	9	縦斜	平円	人丸	—	PG41城	
984	M 5 f4	N-48°-W	円形	1.15 × 1.12	30	縦斜	腰状	人丸	—	PG41城	
987	M 5 b1	N-46°-W	不整長方形	1.36 × 0.86	11	外傾	平円	人丸	—	—	
988	M 5 b1	N-44°-E	楕丸長方形	1.14 × 0.73	7	縦斜	腰状	人丸	—	本跡-SR24 PG41城	

番号	位置	方位(軸) 方向	平面形	規模(m、深さ(2cm))		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
990	M 4 10	N-72°-E	円形	0.79 × 0.78	44	外傾	平状	人瓦	—	PG14城
991	M 5 12	N-80°-W	楕円形	0.60 × 0.51	26	緩斜	圓状	人瓦 ^o	—	PG14城
993	M 4 10	N-9°-E	楕円形	0.73 × 0.66	25	外傾	平状	人瓦	—	PG14城
994	M 5 13	N-45°-E	隅丸長方形	1.75 × 1.25	16	緩斜	圓状	人瓦	—	PG14城
997	M 5 13	N-32°-E	隅丸長方形	1.68 × 0.95	12	緩斜	平状	人瓦	—	PG14城
1002	I 5 15	N-85°-E	楕円形	0.91 × 0.72	11	緩斜	圓状	人瓦 ^o	—	PG21城
1003	I 5 06	N-47°-W	楕円形	0.90 × 0.79	11	緩斜	圓状	人瓦 ^o	—	PG21城
1004	I 5 06	N-50°-W	楕円形	0.95 × 0.70	16	緩斜	圓状	人瓦	—	PG21城
1006	I 5 09	N-29°-E	不整楕円形	1.22 × 0.76	15	緩斜	平状	人瓦	—	—
1007	I 5 09	N-16°-W	不整楕円形	1.10 × 0.95	16	緩斜	圓状	人瓦	—	—
1008	I 5 09	N-30°-E	楕円形	0.94 × 0.61	8	緩斜	圓状	人瓦	—	—
1009	I 5 06	N-64°-E	楕円形	1.06 × 0.71	11	緩斜	平状	人瓦	—	PG24城
1010	I 5 05	N-20°-W	楕円形	1.56 × 1.05	16	緩斜	平状	人瓦	縄文土器	PG24城
1011	I 5 05	N-38°-E	楕円形	0.96 × 0.82	10	緩斜	平状	人瓦	—	—
1015	G 6 e4	N-50°-W	楕円形	2.23 × 1.72	12	緩斜	平状	人瓦	—	SI104→本跡
1018	G 6 g7	N-11°-E	楕円形	0.60 × 0.52	8	緩斜	平状	人瓦	—	—
1019	G 6 g7	N-4°-E	楕円形	0.74 × 0.40	12	緩斜	平状	人瓦	—	—
1020	G 6 b7	N-13°-E	楕円形	0.91 × 0.70	15	緩斜	圓状	人瓦	—	—
1023	H 7 c1	N-64°-W	楕円形	1.20 × 0.97	34	外傾	平状	人瓦	—	SD235→本跡 PG26城
1026	H 7 c1	N-83°-W	[楕円形]	0.77 × (0.51)	6	緩斜	—	人瓦 ^o	—	本跡→SD235 PG26城
1028	G 6 i8	N-4°-E	不整楕円形	1.70 × 1.08	34	緩斜	圓状	人瓦	—	—
1029	H 7 62	N-35°-E	[楕円形]	0.88 × (0.60)	16	外傾	平状	—	—	PG26城
1033	H 7 42	N-15°-E	楕円形	0.81 × 0.69	55	垂直	平状	人瓦	土師質土器	SD237→本跡 PG26城
1034	H 7 62	N-12°-E	不整楕円形	1.10 × 0.53	30	外傾	圓状	人瓦	—	SD237→本跡 PG26城
1039	H 6 09	N-80°-W	楕円形	1.25 × 1.05	38	外傾	圓状	人瓦	—	SK1073→本跡
1040	H 6 09	N-78°-W	長楕円形	1.56 × 0.62	5	緩斜	平状	人瓦	—	—
1041	H 7 41	N-16°-E	隅丸長方形	2.00 × 1.13	16	緩斜	平状	人瓦	—	PG26城
1043	H 7 41	N-4°-E	楕円形	0.91 × 0.65	7	緩斜	平状	人瓦	—	PG26城
1045	G 6 j7	N-14°-E	不整楕円形	1.08 × 0.96	34	垂直	圓状	人瓦	—	—
1046	G 6 j7	N-14°-E	不整楕円形	1.65 × 1.50	12	緩斜	圓状	人瓦	—	—
1060	H 7 e1	N-64°-W	隅丸長方形	2.14 × 0.88	20	緩斜	圓状	人瓦	—	SK1051→本跡 PG26城
1061	H 7 e1	N-12°-E	[長楕円形]	0.80 × 0.55	7	緩斜	圓状	人瓦	—	本跡→SK1050 PG26城
1062	H 6 09	N-70°-W	不定形	0.77 × 0.89	9	緩斜	平状	人瓦	—	本跡→SK1053
1063	H 6 09	N-39°-E	不整楕円形	1.10 × 0.54	35	外傾	平状	人瓦	—	SK1053→本跡
1064	H 7 41	N-15°-E	隅丸長方形	1.50 × 0.97	11	緩斜	平状	人瓦	—	PG26城
1065	H 7 41	N-15°-E	不整楕円形	2.80 × 1.23	18	緩斜	平状	人瓦	土師器	PG26城
1075	H 7 06	N-47°-W	不整楕円形	1.04 × 0.94	14	緩斜	圓状	人瓦	—	—
1080	H 7 00	N-23°-W	楕円形	1.13 × 0.65	19	外傾	凸凹	人瓦	—	—
1081	H 7 16	N-13°-E	楕円形	1.17 × 0.63	9	緩斜	平状	人瓦	—	PG26城
1082	H 7 17	N-32°-W	円形	0.89 × 0.81	24	外傾	平状	人瓦	—	PG26城
1083	H 7 07	N-61°-W	円形	0.78 × 0.76	20	緩斜	平状	人瓦	—	PG26城
1084	H 7 06	N-60°-W	隅丸長方形	2.09 × 0.94	35	緩斜	平状	人瓦	—	PG26城
1085	G 7 j0	N-44°-W	円形	1.21 × 1.20	21	外傾	平状	人瓦	—	TM1→本跡
1088	H 7 17	N-27°-W	円形	0.50 × 0.49	18	緩斜	圓状	人瓦	—	PG26城
1090	H 7 09	N-64°-W	楕円形	2.13 × 1.30	9	緩斜	平状	人瓦	縄文土器	—
1092	H 7 09	N-61°-W	楕円形	1.01 × 0.94	52	緩斜-外傾	平状	人瓦	縄文土器、円環	SK1091→本跡
1093	H 7 09	N-70°-W	楕円形	1.29 × 0.96	25	緩斜	圓状	人瓦	縄文土器、須恵器	—
1104	H 7 06	N-20°-E	隅丸長方形	1.00 × 0.97	22	緩斜	圓状	人瓦	—	SK1077→本跡 PG26城
1105	H 7 e7	N-19°-E	楕円形	1.40 × 1.09	26	外傾	圓状	人瓦	—	PG26城
1113	H 7 05	N-25°-E	隅丸長方形	1.86 × (1.78)	24	外傾	平状	人瓦	—	本跡→SK1186
1117	H 7 08	N-63°-W	円形	1.03 × 0.99	32	緩斜	圓状	人瓦	—	PG26城
1121	G 8 j1	N-29°-W	楕円形	1.12 × 0.84	44	外傾	圓状	人瓦	—	TM1→本跡
1123	G 8 i2	N-17°-E	長楕円形	4.00 × 1.42	31-74	緩斜	圓状	人瓦	須恵器、土師器	SD231-TM1→本跡
1129	H 8 c1	N-72°-W	不定形	1.20 × (0.86)	32	外傾	平状	人瓦	—	S12-SK110-TM1→本跡→SD22A
1140	H 8 b1	N-10°-E	[楕円形]	(1.92) × 1.62	40	緩斜	平状	人瓦	縄文土器、土師器、土師質土器	TM1-S12→本跡→SD251-SK1130
1143	G 8 i2	N-0°	円形	0.78 × 0.78	28	外傾	平状	人瓦	—	TM1→本跡
1154	H 7 00	N-80°-W	不定形	0.99 × 0.60	72	外傾	U字状	人瓦	—	TM1→本跡→SD229A
1172	H 7 00	N-15°-W	楕円形	1.12 × 0.79	27	外傾	圓状	人瓦	—	—

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m, 深さ12cm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧四角(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
1179	H 7 f6	N-81°-W	隅丸長方形	1.51 × 1.15	14	縦斜	屈状	人瓦	—	SK1179-1180→本跡 PG33城
1182	H 7 f4	N-10°-E	隅丸長方形	0.95 × 0.62	15	外傾	平坦	人瓦	—	PG27城
1183	H 7 f4	N-22°-E	楕円形	0.95 × 0.55	25	外傾	平坦	人瓦	—	PG27城
1185	H 7 c3	N-69°-E	円形	0.97 × 0.91	124	垂直	屈状	人瓦	—	PG27城
1186	H 7 g0	N-72°-W	楕円形	1.23 × 0.80	25-35	縦斜	平坦	人瓦	—	SD317-SK1113→本跡-PG52
1187	H 8 e3	不明	不定形	2.53 × 1.35	39	縦斜	平坦	人瓦	—	SD199→本跡
1196	G 8 b6	N-36°-W	楕円形	1.16 × 0.93	115	垂直	平坦	人瓦	—	SK1600→本跡
1199	I 5 g9	N-53°-W	〔長楕円形〕	(1.50) × 0.82	—	不明	不明	不明	—	本跡→SD203
1201	M 5 i1	N-53°-E	円形	0.70 × 0.68	5	縦斜	屈状	人瓦	+	土師瓦土器
1202	M 5 j2	N-70°-W	楕円形	0.95 × 0.75	44	外傾	屈状	人瓦	+	土師瓦土器
1204	M 4 i0	N-60°-W	円形	0.57 × 0.53	35	外傾	平坦	人瓦	—	PG41城
1206	M 5 j2	N-47°-W	不整形円形	0.57 × 0.55	21	縦斜	屈状	人瓦	+	土師瓦土器
1208	M 5 i2	N-57°-W	楕円形	0.44 × 0.30	40	外傾	凸凹	人瓦	—	PG41城
1213	M 5 i1	N-43°-E	隅丸長方形	1.61 × 1.09	7	縦斜	平坦	人瓦	+	—
1214	M 5 i1	N-55°-E	長楕円形	1.53 × 0.78	4	縦斜	平坦	自然土	—	SK1212-出1→本跡-SR21 PG44城
1215	M 4 i0	N-35°-W	円形	0.64 × 0.62	50	垂直	凸凹	人瓦	—	PG41城
1216	M 4 i0	N-29°-E	円形	0.59 × 0.58	18	外傾	平坦	人瓦	+	土師瓦土器
1221	M 4 b0	N-61°-W	楕円形	1.10 × 0.90	23	縦斜	平坦	人瓦	—	本跡→SR23 PG41城
1223	M 4 g0	N-55°-W	楕円形	0.87 × 0.64	6	縦斜	屈状	人瓦	+	土師瓦土器
1244	M 6 e2	N-41°-E	不整形長方形	3.17 × 1.52	86	縦斜	平坦	人瓦	+	土師瓦土器
1248	M 5 i5	N-35°-E	不定形	1.04 × 0.86	50	外傾	凸凹	人瓦	+	PG42城
1249	M 5 d2	N-86°-E	不定形	1.38 × 1.04	34	外傾	横斜-平坦	人瓦	+	土師瓦土器
1253	M 5 f1	N-52°-W	楕円形	1.10 × 0.70	30	縦斜-外傾	平坦	人瓦	—	PG42城
1271	M 5 c3	N-65°-E	不整形楕円形	1.33 × 1.12	38	外傾	平坦	人瓦	—	PG43城
1274	M 5 d3	N-47°-W	不定形	1.31 × 0.93	35	外傾	凸凹	人瓦	+	土師瓦土器
1276	M 6 e2	N-88°-W	楕円形	1.65 × 0.80	14	縦斜	平坦	人瓦	—	PG44城
1277	M 4 j0	N-32°-E	楕円形	0.54 × 0.48	28	縦斜	凸凹	人瓦	+	—
1290	M 5 g0	N-27°-E	長楕円形	1.25 × 0.74	5	縦斜	屈状	人瓦	+	—
1291b	M 6 c3	N-27°-E	〔円形〕	2.32 × (1.03)	8	縦斜	屈状	人瓦	—	—
1293	M 6 e2	N-39°-E	〔長楕円形〕	(1.39) × 0.45	4	縦斜	平坦	人瓦	+	土師瓦土器
1294	M 6 c3	N-75°-W	不定形	1.23 × 0.73	6	縦斜	平坦	人瓦	—	—
1316	M 5 i5	N-7°-E	楕円形	0.89 × 0.58	7	縦斜	平坦	人瓦	+	—
1319	M 5 d4	N-42°-W	不整形楕円形	0.62 × 0.46	50	外傾	平坦	人瓦	—	PG43城
1329	M 4 b9	N-55°-W	不定形	1.01 × 0.65	14	外傾	凸凹	人瓦	+	土師瓦土器
1331	M 4 l8	N-0°	円形	0.40 × 0.40	45	外傾-垂直	屈状	人瓦	—	SD143→本跡
1332	M 4 l8	N-0°	円形	0.32 × 0.32	30	外傾-垂直	屈状	人瓦	—	SD143→本跡
1334	N 5 e2	N-85°-W	楕円形	0.93 × 0.82	22	外傾	屈状	人瓦	+	小磯
1337	M 5 l8	N-54°-W	楕円形	0.95 × 0.58	6	縦斜	平坦	人瓦	—	PG45城
1340	M 5 d4	N-33°-E	円形	0.40 × 0.40	45	外傾	屈状	人瓦	—	—
1341	M 5 d4	N-33°-E	〔楕円形〕	(0.80) × 0.45	33	外傾	屈状	人瓦	—	本跡→SK1340 PG43城
1342	M 5 d5	N-24°-W	隅丸長方形	0.86 × 0.60	8-56	外傾	凸凹	人瓦	—	PG43城
1343	M 5 c5	N-59°-W	長方形	0.98 × 0.82	13-48	外傾	屈状	人瓦	+	—
1344	M 5 d4	N-21°-E	不定形	0.70 × 0.46	27	外傾	屈状	人瓦	—	PG43城
1350	K 7 j3	N-49°-E	円形	0.68 × 0.64	16	縦斜	屈状	人瓦	—	PG49城
1351	L 7 e2	N-25°-W	円形	0.78 × 0.73	17	縦斜	屈状	人瓦	—	PG49城
1352	L 7 a1	N-18°-E	長楕円形	1.78 × 0.66	8	縦斜	屈状	人瓦	—	PG49城
1354	K 6 g9	N-56°-E	長楕円形	1.81 × 0.85	42	外傾	屈状	人瓦	—	PG49城
1355	K 6 f9	N-55°-E	楕円形	0.90 × 0.78	44	縦斜-外傾	屈状	人瓦	—	—
1356	K 6 f0	N-50°-W	長楕円形	1.56 × 1.00	56	外傾	平坦	人瓦	+	縄文土器、須恵器
1358	M 6 b2	N-36°-W	隅丸長方形	1.05 × 0.53	10	縦斜	屈状	人瓦	—	PG45城
1359	L 6 b5	N-40°-E	長楕円形	1.40 × 0.54	8	縦斜	屈状	人瓦	—	PG49城
1361	L 5 j9	N-48°-E	楕円形	0.92 × 0.35	38	外傾	屈状	人瓦	—	PG45城
1363	M 6 a1	N-50°-E	楕円形	0.86 × 0.58	9	外傾	屈状	人瓦	—	本跡-SR54 PG45城
1364	K 6 e8	N-80°-E	長楕円形	2.10 × 1.14	10	縦斜	平坦	人瓦	—	—
1365	K 6 e9	N-3°-E	隅丸長方形	1.16 × 1.10	5	縦斜	平坦	人瓦	—	PG50城
1366	K 7 e4	N-15°-W	不整形楕円形	1.70 × 1.45	6	縦斜	凸凹	人瓦	+	—
1367	K 7 g4	N-21°-E	不整形長方形	1.29 × 0.29	12	縦斜	平坦	人瓦	—	PG50城
1368	K 7 b2	N-76°-W	不整形楕円形	1.70 × 1.22	29	縦斜	屈状	人瓦	—	PG50城

番号	位置	長径(軸) 方向	平面形	規模(m、深さ4cm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
1369	K 7 63	N-43°-E	不整楕円形	1.45 × 1.25	13	縦斜	縦斜	人為	—	PG50域
1370	K 7 63	N-68°-W	不整楕円形	1.43 × 1.14	5	縦斜	平直	人為	—	PG50域
1374	K 7 64	N-68°-W	楕円形	0.85 × 0.60	38	外傾	縦状	人為	—	PG50域
1375	K 7 64	N-70°-E	不整楕円形	2.00 × 1.70	60	縦斜	平直	自然	縄文土器	—
1376	K 6 18	N-53°-E	不定形	1.55 × 0.84	28	縦斜	凸凹	自然	—	SK1377→本跡
1377	K 6 18	N-77°-E	不定形	1.35 × (0.90)	34	縦斜	縦状	自然	—	本跡-SK1376
1378	L 7 61	N-54°-E	長楕円形	1.74 × 1.08	44	外傾	縦状	人為	縄文土器、鏝	—
1379	K 7 64	N-25°-E	楕円形	0.50 × 0.45	16	外傾	平直	人為	—	PG50域
1380	K 7 64	N-48°-E	楕円形	0.68 × 0.60	20	縦斜	凸凹	人為	—	PG50域
1381	K 7 63	N-16°-W	不整楕円形	0.64 × 0.49	13	縦斜	縦状	自然	—	PG50域
1380	K 7 66	N-12°-E	不整楕円形	2.08 × 1.15	66	縦斜	凸凹	人為	縄文土器、土師器、須恵器	SI111→本跡 PG50域
1391	K 7 66	N-17°-E	不整楕円形	2.00 × 1.85	36	外傾	平直	人為	縄文土器、土師器、須恵器	SI111→本跡 PG50域
1392	K 7 63	N-55°-E	楕円形	0.63 × 0.56	20	外傾	平直	人為	—	PG50域
1398	K 7 62	N-30°-E	不整長方形	1.73 × 0.95	13	縦斜	平直	人為	土師質土器	PG50域
1401	H 8 11	N-23°-E	不整長方形	1.78 × 0.91	40	縦斜-外傾	縦状	人為	—	PG51域
1402	H 7 10	N-76°-W	長楕円形	2.11 × 0.71	40	外傾	縦状	人為	縄文土器、鏝	PG51域
1407	H 7 67	N-27°-W	隅丸長方形	0.64 × 0.60	17	縦斜	縦状	自然	須恵器、土師質土器	本跡-SK1408 PG52域
1408	H 7 67	N-31°-E	不整楕円形	0.67 × 0.57	34	縦斜	平直	人為	須恵器、土師質土器	SK1407→本跡 PG52域
1409	H 7 66	N-66°-E	楕円形	1.00 × 0.84	17	縦斜	凸凹	人為	—	PG52域
1410	H 7 66	N-49°-E	楕円形	0.65 × 0.53	28	縦斜-外傾	凹状	人為	—	PG52域
1411	H 7 66	N-86°-E	不定形	0.90 × 0.60	6-36	縦斜-外傾	凹状	人為	土師器、須恵器、土師質土器	本跡+PG52
1419	I 7 17	N-28°-W	楕円形	1.10 × 0.96	13	縦斜	平直	人為	—	PG50域
1423	H 7 69	N-41°-E	不整楕円形	1.20 × 0.74	13	縦斜	凸凹	人為	—	PG52域
1426	H 7 68	N-16°-E	長楕円形	0.90 × 0.77	8	縦斜	縦状	人為	—	PG52域
1427	H 7 68	N-10°-E	不整楕円形	1.28 × 0.68	21	縦斜	縦状	人為	—	PG52域
1432	K 7 62	N-79°-E	楕円形	1.11 × 0.64	26	縦斜	凸凹	人為	—	PG50域
1433	K 6 49	N-84°-E	円形	0.70 × 0.67	13	縦斜	縦状	人為	—	PG50域
1436	K 7 15	N-72°-E	楕円形	0.48 × 0.44	14	縦斜	縦状	人為	—	PG50域
1437	K 7 65	N-50°-W	円形	0.49 × 0.44	7	外傾	平直	自然	—	PG50域
1439	K 7 62	N-29°-E	不整楕円形	2.06 × 0.85	30	縦斜	縦状	自然	—	本跡-SI114 PG50域
1440	K 7 63	N-78°-W	[長楕円形]	(1.81) × 0.68	12	縦斜	縦状	自然	—	本跡-SI114
1441	K 7 69	N-45°-W	楕円形	1.83 × 1.64	68	縦斜-外傾	縦状	人為	—	PG50域
1442	K 7 11	N-65°-E	楕円形	0.90 × 0.78	16	縦斜	縦状	自然	—	PG50域
1447	H 7 60	N-87°-W	長楕円形	1.92 × 0.75	50	縦斜-外傾	平直	人為	縄文土器、土師器	PG51域
1448	H 7 18	N-62°-E	不定形	1.83 × 1.76	26	縦斜	縦状	人為	—	PG52域
1449	I 8 61	N-41°-E	不整楕円形	1.58 × 1.04	20	縦斜	縦状	人為	—	PG50域
1453	I 7 60	N-32°-E	不整楕円形	1.40 × 1.28	56	垂直	平直	人為	—	PG50域
1473	M 5 61	N-65°-W	[長楕円形]	(2.70) × 1.84	34	縦斜	平直	人為	—	SD143→本跡
1474	M 5 61	N-34°-E	円形	0.38 × 0.32	27	縦斜-外傾	縦状	人為	—	PG50域
1475	M 5 64	N-34°-E	円形	0.42 × 0.42	31	外傾	縦状	人為	—	PG50域
1476	M 5 64	N-34°-E	円形	0.43 × 0.42	25	外傾	縦状	人為	—	PG50域
1477	M 5 68	N-56°-E	隅丸方形	0.98 × 0.92	19	外傾	縦状	不明	—	PG50域
1490	I 7 18	N-72°-E	楕円形	0.72 × 0.57	10	縦斜	平直	人為	土師器、須恵器	PG61域
1500	J 6 16	N-10°-E	長楕円形	0.80 × 0.52	33-42	縦斜	凸凹	人為	—	PG61域
1510	J 6 66	N-7°-E	不定形	0.81 × 0.64	34~45	外傾-直立	凸凹	人為	土師質土器	本跡-SI872 PG61域
1511	J 6 16	N-15°-W	楕円形	0.73 × 0.52	17~43	縦斜	凸凹	人為	—	本跡-SI872 PG61域
1523	J 7 61	N-15°-E	楕円形	1.40 × 1.03	18	外傾	平直	人為	—	PG62域
1525	I 6 64	N-33°-W	不整楕円形	1.03 × 0.93	17	縦斜	縦状	人為	—	PG61域
1526	H 8 66	N-27°-E	楕円形	0.52 × 0.45	11	縦斜	平直	人為	—	本跡-SI120
1527	H 8 65	N-5°-E	楕円形	0.54 × 0.44	(19)	縦斜	V字状	人為	—	SD245→本跡
1528	H 8 18	N-6°-W	円形	0.57 × 0.52	12	外傾	平直	人為	—	本跡-SI122
1530	I 6 49	N-58°-E	不整楕円形	0.99 × 0.86	16	縦斜	縦状	人為	—	PG64域
1536	H 8 66	N-3°-W	楕円形	1.56 × 0.52	9	縦斜	縦斜	自然	—	本跡-SI125
1537	H 8 67	N-40°-W	楕円形	0.85 × 0.73	17	外傾	平直	人為	—	SI125→本跡
1539	H 8 67	N-58°-E	楕円形	1.65 × 1.13	30	外傾	平直	自然	—	SI127→本跡
1540	J 7 63	N-67°-E	楕円形	1.17 × 1.27	18	縦斜	縦状	自然	—	SD333→本跡
1548	I 7 65	N-20°-E	楕円形	2.03 × 1.75	16	縦斜	平直	人為	—	PG61域
1551	I 7 63	N-33°-E	楕円形	1.10 × 0.74	10	縦斜	平直	人為	土師質土器	PG61域

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模(m, 深さ12cm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
1554	I 7 e4	N-54°-W	楕円形	1.60 × 0.94	28	外傾	凸凹	人為	土師瓦土器	
1555	I 7 e4	N-65°-E	楕円形	1.14 × 0.80	50	外傾	凹状	人為	—	SK1553→本跡 PG65城
1556	I 7 d4	N-54°-W	長方形	0.98 × 0.82	35	縦斜	凸凹	人為	—	PG65城
1557	I 7 c3	N-10°-E	不整楕円形	0.92 × 0.70	27	外傾	平坦	人為	—	PG65城
1571	I 6 e9	N-25°-E	不整楕円形	1.43 × 1.30	11	縦斜	凸凹	人為	—	
1572	I 6 e9	N-15°-E	不整楕円形	0.98 × 0.83	8	縦斜	平坦	人為	—	
1581	H 6 g1	N-49°-W	楕円形	0.84 × 0.56	16	縦斜	凹状	不明	—	PG23城
1582	I 6 a5	N-75°-W	楕円形	0.84 × 0.72	37	縦斜	凹状	不明	—	PG23城
1583	I 6 b5	N-44°-W	不整長方形	0.90 × 0.58	30	縦斜	凹状	不明	—	PG23城
1584	I 6 c1	N-21°-E	不整楕円形	0.70 × 0.60	33	縦斜	凹状	不明	—	PG23城
1587	J 5 b4	N-75°-W	楕円形	1.24 × 0.82	13	外傾	凹状	不明	—	PG11城
1588	J 5 c3	N-3°-W	楕円形	1.27 × 0.66	15-26	縦斜・外傾	凸凹	不明	—	PG11城
1589	J 5 c3	N-84°-W	楕円形	1.09 × 0.58	4-33	外傾	平坦	人為	—	PG11城
1590	J 5 c3	N-40°-W	楕円形	0.75 × 0.65	7	外傾	凹状	不明	—	PG11城
1591	J 5 c1	N-87°-E	楕円形	0.99 × 0.84	9-20	外傾	凹状	不明	—	PG11城
1600	G 8 h7	N-46°-W	[楕円形]	1.14 × (0.78)	90	垂直	平坦	人為	—	SE131→本跡→SK1196
1601	G 8 j8	N-16°-E	楕円長方形	3.97 × 1.17	42	外傾	平坦	人為	黄赤土器、土師瓦土器、現代瓦、土師瓦土器	SE132→本跡
1602	H 8 a0	N-25°-E	楕円形	2.25 × 1.92	28	外傾	平坦	人為	—	
1604	H 6 c7	N-25°-E	円形	1.65 × 1.63	67	縦斜	凹状	人為	—	SE258-259→本跡
1609	H 8 b4	N-32°-W	円形	0.90 × 0.83	66	外傾	平坦	人為	—	TM1→本跡
1610	H 6 a9	N-0°	円形	0.68 × 0.67	12	縦斜	平坦	人為	—	
1613	H 8 a2	N-36°-E	長方形	1.71 × 0.59	59	外傾	平坦	不明	縄文土器	SE110・UP12・TM1→本跡

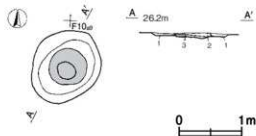
(4) 炉跡

北東部の緑辺に焼土の塊が数か所確認されたが、炉跡と認められるものは1か所だけで、第1号炉跡として報告する。

第1号炉跡(第581図)

位置 調査区北東部のF10a9区で、標高26mほどの台地の緑辺部に位置している。

規模と形状 平面形は長径1.30m、短径1.10mの楕円形で、深さは7cmほどである。長径方向はN-81°-Wで、



第581図 第1号炉跡実測図

中央部に長径0.62m、短径0.60m、厚さ7cmの焼土塊が確認されている。焼土の周辺は、わずかに赤変し硬化している。

覆土 3層に分層される。第2・3層が炉の中心部であり、

第1層が焼土の周辺部である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック多量、炭化粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土ブロック多量

所見 時期は、周辺に古墳時代前期の集落があることや炉跡の規模から古墳時代前期と推測されるが、遺物が確認されていないことから判断としない。

(5) 炭焼遺構

第1号炭焼遺構 (第582図)

位置 調査区北東部のF11a2区で、標高26mほどの台地の縁辺部に位置している。

確認状況 掘り方の上部は削平され、底部だけが確認されている。

規模と形状 平面形は長径5.50m、短径1.22mの長楕円形で、深さは6～16cmである。長径方向はN-74°-Wで、短径の断面形は緩やかなU字状を呈している。底面には炭化材・炭化物が散らばる長径3.20m、短径0.56m、深さ5cmの燃焼部(炭化室)が確認されている。また、東端の部分は深さ11cmほどで皿状にくぼんでおり、焚口部と考えられる。

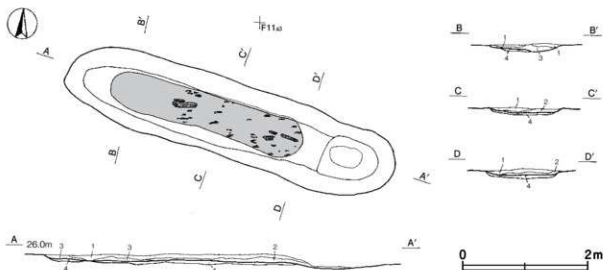
覆土 4層に分層される。第1層が燃焼部の覆土で、上部削平後に流れ込んだ土砂が堆積したものと考えられ、自然堆積である。第2・3層は燃焼部下部の土層、第4層が燃焼部下の掘り方の土層である。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子少量 | 3 黒褐色 | 炭化材中量、焼土ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化材少量、ロームブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |

遺物出土状況 焼土が広がる底面に、炭化材片が出土している。

所見 本跡は、緩斜面に沿って構築された小規模な炭焼遺構と考えられる。時期は、調査前の現況が炭材の原料となるクスギを中心とした雑木林であったことなどから、近・現代と考えられる。



第582図 第1号炭焼遺構実測図

(6) 不明遺構

第1号不明遺構 (第583図)

位置 調査区北東部のF11c4区で、標高25mほどの台地の縁辺部に位置している。

確認状況 溝状の2基の不明遺構として調査されたが、連結したため1基の不明遺構として報告する。

規模と形状 平面形は長軸15.3m、短軸2.12mの不定形で、深さは2～32cmである。長径方向はN-67°-Wで、短径の断面形は緩やかなU字状を呈している。

覆土 2層に分層される。含有物とレンズ状の堆積状況から、自然堆積と考えられる。

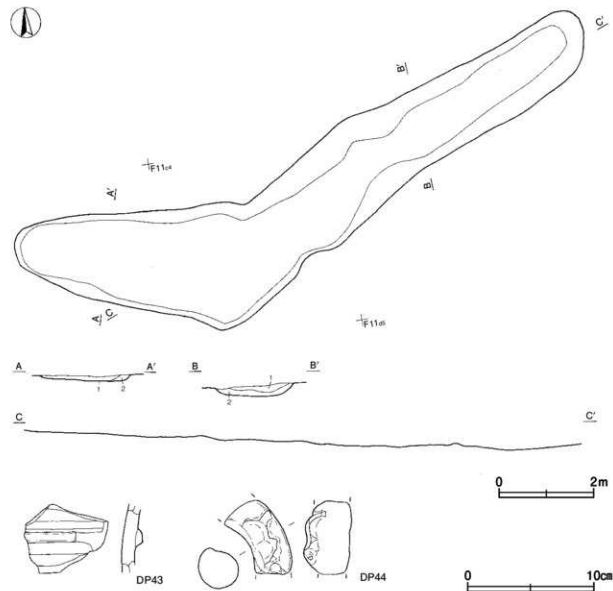
土層解説

1 黒 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

2 暗 褐色 ローム粒子多量

遺物出土状況 縄文土器片9点、土師器片19点(甕類)、埴輪片24点、礫6点が出土している。土器片はいずれも摩滅した小片である。DP43・DP44は、東部の覆土中から出土している。

所見 本跡は、緩斜面の等高線にほぼ沿って溝状を呈しており、出土遺物の傾向から古墳の周溝の一部であったと推測される。



第583図 第1号不明遺構・出土遺物実測図

第1号不明遺構出土遺物観察表(第583図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	色調	特徴	出土位置	備考
DP43	円筒埴輪	(5.5)	(6.6)	1.7	(56.8)	明赤褐色	内・外面摩滅 外面凸部胎玉有け後ハケ目。内面指頭痕を残すナデ 胎痕部 凸部断面台形状	覆土中	
DP44	形象埴輪(人物埴輪)	(5.8)	5.4	3.7	(76.2)	浅黄褐色	人物の顔部 内・外面ナデ	覆土中	

第2号不明遺構 (第584図)

位置 調査区中央部のH7b0区で、標高27mほどの台地の平坦部に位置している。

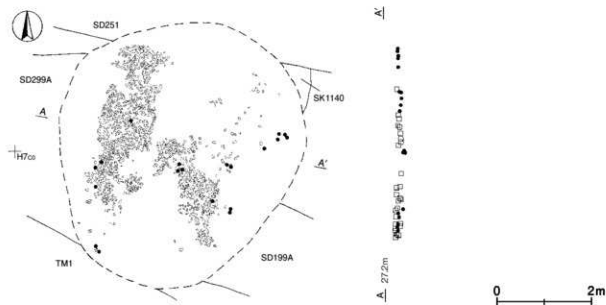
確認状況 遺構確認面上で、第1号墳の墳丘裾部に礫を敷き詰めたような状況で確認されている。

重複関係 第1号墳を掘り込み、第199A・229A・251号溝、第1139・1140号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 平面形は長径5.76m、短径5.22mの楕円形と考えられ、やや硬化した範囲が確認されている。長径方向はN-14°-Eで、深さは明確ではないが、敷き詰められた礫の厚さは10cmほどである。

遺物出土状況 土師質土器片16点(皿3、内耳鍋13)、陶器片1点(常滑系甕)、土師器片5点(甕)、円礫1033点が出土している。土器片はいずれも摩滅した小片であり、多くは流れ込んだものと考えられる。

所見 本跡は、第1号墳の墳丘南側の裾部に位置していることから、埋葬施設と推測される。その敷石類は、石棺の板石を抜き取るなど後世の攪乱を受けたと考えられる。当遺跡から1kmほど南東に位置している中根中谷津遺跡で、第1号墳から石材が抜かれた半地下式の埋葬施設(箱形石棺)と床面に小形の板石が敷かれていた状況が確認されており、時期的にも類似性が認められる。



第584図 第2号不明遺構実測図

第3号不明遺構 (第585・586図)

位置 調査区中央部のI6g8区で、標高26mほどの台地の平坦部に位置している。

確認状況 第325号溝の底面から確認され、掘り込みを進めていった結果、大規模な袋状の土坑が確認された。この袋状の土坑を第1564A号土坑とし、土層断面から新たに確認された土坑を第1564B号土坑とした。調査の結果、いずれの土坑も性格が不明確であるため、合わせて1基の不明遺構として報告する。

重複関係 第325号溝に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は長径2.33m、短径1.83mの不整形楕円形で、下端の平面形は長径4.92m、短径4.45mの楕円形である。第325号溝の底面である確認面から、深さ228cmの地点まで掘り下げたが、これ以下は湧水もあり危険性が高いため確認できなかった。長径方向はN-8°-Wで、長径の断面形は逆漏斗形を呈している。

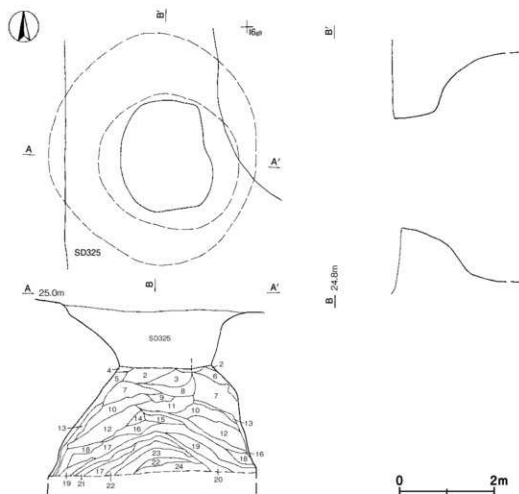
覆土 24層に分層され、含有物から人為堆積と考えられる。

土層解説

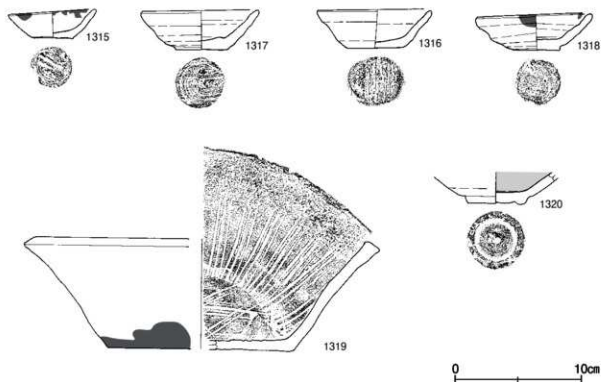
1	灰	色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量	14	黒	色	粘土ブロック少量、ローム粒子・砂粒微量
2	オリーブ黒色	色	黒色泥多量、砂粒微量	15	黒	色	粘土ブロック少量
3	オリーブ黒色	色	砂粒中量、黒色泥微量	16	黒	色	粘土粒子・砂粒中量、ローム粒子微量
4	オリーブ色	色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒中量	17	黒	色	粘土ブロック・炭化物少量、ローム粒子・砂粒微量
5	オリーブ色	色	粘土粒子多量、ローム粒子中量	18	オリーブ黒色	色	粘土粒子少量、炭化物微量
6	オリーブ色	色	砂粒多量、粘土粒子中量、ローム粒子少量	19	黒	色	ロームブロック少量、粘土粒子微量
7	灰オリーブ色	色	砂粒多量、黒色泥微量	20	黒	色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量
8	オリーブ黒色	色	粘土粒子多量、黒色泥中量	21	黒	色	ロームブロック・粘土粒子少量
9	黒	色	粘土粒子・黒色泥多量、頁中量	22	オリーブ黒色	色	粘土ブロック・砂粒少量
10	オリーブ黒色	色	砂粒・黒色泥中量	23	黒	色	粘土粒子少量、砂粒微量
11	黒	色	粘土ブロック・砂粒少量	24	黒	色	粘土ブロック・砂粒微量
12	オリーブ黄色	色	ローム粒子・砂粒少量、粘土ブロック微量				
13	オリーブ黒色	色	黒色泥多量、焼土粒子微量				

遺物出土状況 土師質土器片93点(皿24、内耳鍋54、甕4、罎鉢11)、陶器片4点(皿3、常滑系甕1)、石器1点(石臼)、木製品2点(杭、曲げ物の蓋板カ)、木片14点と、流れ込んだ縄文土器片1点、土師器片1点、須恵器片1点、雑3点、混入した瓦片1点(近世の平瓦カ)が出土している。1315～1320は、いずれも覆土中から出土している。

所見 本跡は大規模な地下式坑と推測することもできるが、底面と下位の規模が確認できないため性格は不明である。16世紀後半に廃絶された溝跡の底面から確認されたこと、出土土器の様相も16世紀前半から中頃のものであることから、溝が掘削される前に機能していた可能性が考えられ、時期は16世紀前半と推定される。



第585図 第3号不明遺構実測図



第586図 第3号不明遺構出土遺物実測図

第3号不明遺構出土遺物観察表 (第586図)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1315	土師質土器	皿	6.9	2.4	3.1	長石・石英・赤色 粒子	にぶい・橙	普通	体部内・外面ロクロナデ後ナデ 底部回転系切り・板目状圧痕 成形にゆがみ	覆土中	80% 口辺部直 横行着
1316	土師質土器	皿	8.9	3.1	4.2	長石・雲母・赤色 粒子	にぶい・陶	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転系切り・板目状圧痕	覆土中	70% 成形に ゆがみ
1317	土師質土器	皿	9.1	3.2	4.0	長石・石英・雲母	にぶい・黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転系切り・板目状圧痕	覆土中	70%
1318	土師質土器	皿	9.2	3.0	3.6	長石・石英	にぶい・黄橙	普通	体部内・外面ロクロナデ 底部回転系切り	覆土中	80% 成形にゆがみ 口辺部直横行着
1319	土師質土器	鉢鉢	[26.5]	8.7	[14.8]	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい・黄橙	普通	口唇部端部角張る 内・外面ナデ 3条 上部位の厚み且上	覆土中	80% 体部下端 に5行着
1320	陶器	皿	—	(2.5)	4.6	精良 透明釉	灰白・淡黄	良好	削りだし高台 内面全面輪軸	覆土中	30% 瀬戸・美濃 系

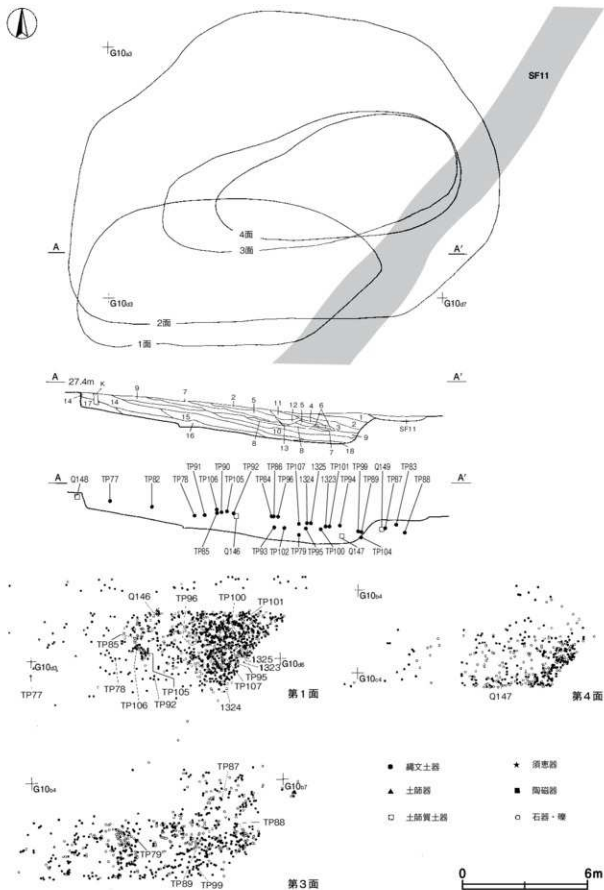
表40 不明遺構一覧表

番号	位置	長径(軸) 方向	平面形	規模(m, 深さ4cm)		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
				長径(軸)×短径(軸)	深さ					
1	F11c4	N-67°-W	不定形	13.32 × 2.12	2~32	縦斜	現状	自然	縄文土器, 土師器, 埴輪	
2	H7b6	N-11°-E	楕円形*	(5.76) × (5.22)	—	縦斜	不明	不明	土師質土器, 陶器, 土師器 内埋	TMI→本跡→SD199A- 229A・251・S8・1139-1140
3	I 6c8	N-8°-W	不整楕円形	2.33 × 1.83	(228)	漏斗状	不明	人為	土師質土器, 陶器, 土師器 内埋	SD325→本跡

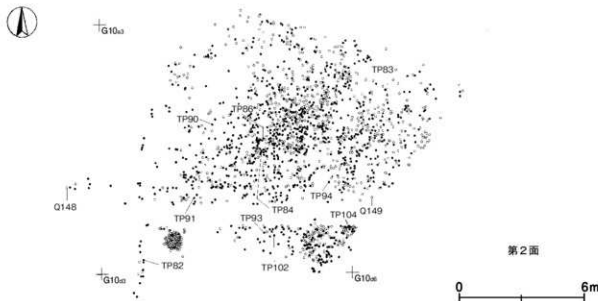
(7) 遺物包含層

第1号遺物包含層 (第587～591図)

位置 調査区北東部のG10a2～G10d7区で、標高27mの台地東側傾斜面に位置している。



第587図 第1号遺物包含層実測図(1)



第588図 第1号遺物包含層実測図(2)

確認状況 G10区地点は標高24～27mで、東に入り込んでいる谷津へ流れ込むような斜面が扇状に広がっている。斜面には黒色土が堆積しており、黒色土中に縄文土器片と礫を中心とした遺物が多量に確認されたため、遺物包含層として調査を実施した。

調査範囲 G10a4～G10e8区域内の約68㎡の範囲である。

重複状況 調査範囲域を第11号道路が北東方向に延びている。

覆土 18層に分層される。第11～13層は攪乱を受けた層であり、第1～10・14～17層が流れ込んで堆積した層で、第18層は地山の土層である。

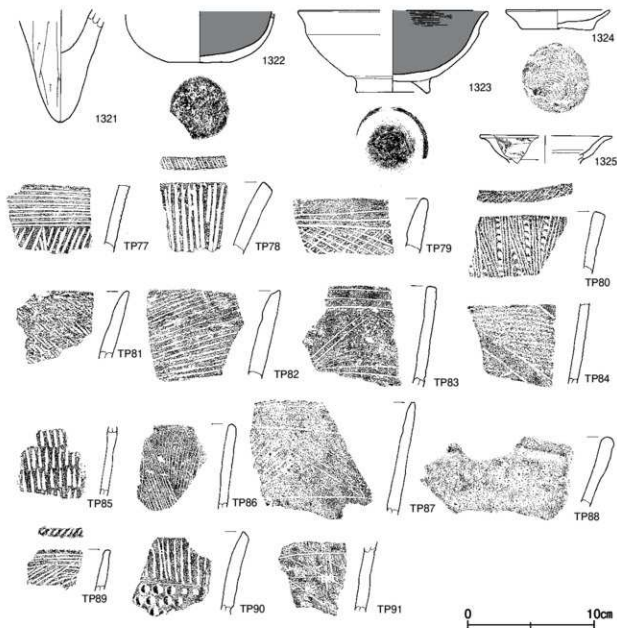
土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂粒微量	10 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量	11 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量	12 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量	13 暗褐色	ローム粒子少量
5 黒暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・砂粒微量	14 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
6 暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量	15 褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
7 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	16 褐色	ローム粒子多量、焼土粒子微量
8 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	17 褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
9 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	18 黒暗褐色	ローム粒子微量(粘土質で粘性・締まりとも強い)

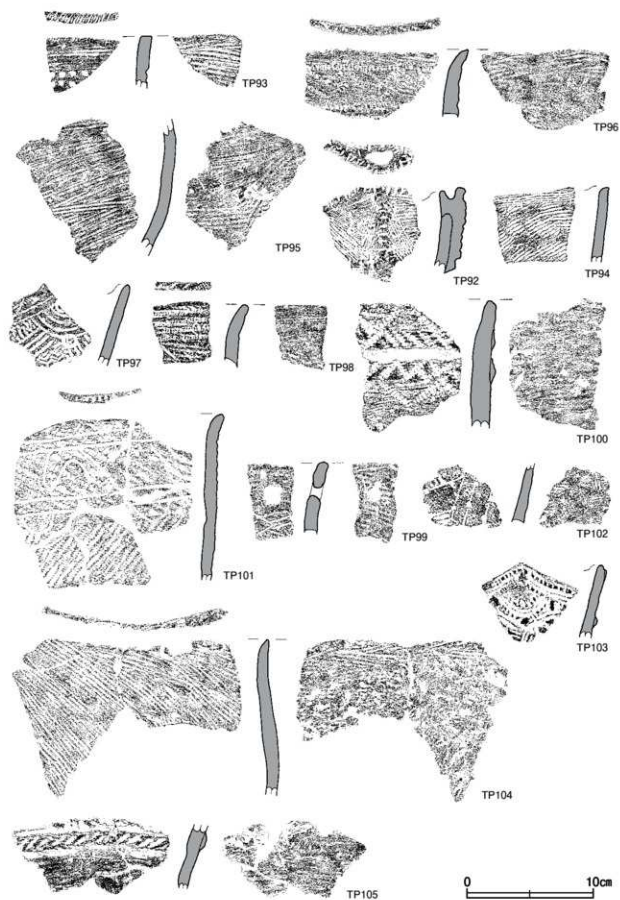
遺物出土状況 縄文土器片2495点(早期中葉25, 早期末葉から前期前半2152, 中期83, 後期5), 弥生土器片8点, 土師器片118点, 須恵器片2点, 土師質土器片23点, 陶器片1点, 磁器片1点, 土製品1点(球状土錘), 石器6点(磨石2, 蕨4), 剥片2点, 鉄製品3点(不明), 鉄滓1点, 礫2272点が出土している。遺物は、覆土第10層以下からは確認されていない。出土範囲と出土位置との関係を見ると、大きく4期にわたって流れ込んだと考えられ、第1～4面を中心に出土している。第4面では中央部を中心に出土しており、第3面では第4面の範囲よりやや広めの範囲で出土している。第2面では一部礫が集中的に出土している地点もあるが、ほとんどは広範囲に出土しており、第1面は南下半部に集中して出土している。出土土器は縄文時代早期から近世の陶磁器まで見られ、縄文土器はいずれの層位からも多量に確認されている。一方、土師器は第3・4面からも出土が見られるが、出土数の7割が第1・2面を中心に出土しており、陶磁器は第1面からの出土である。

所見 調査前の現況は桑畑であり、あまり人手が入っていない状況であった。中世後半から機能していたと考

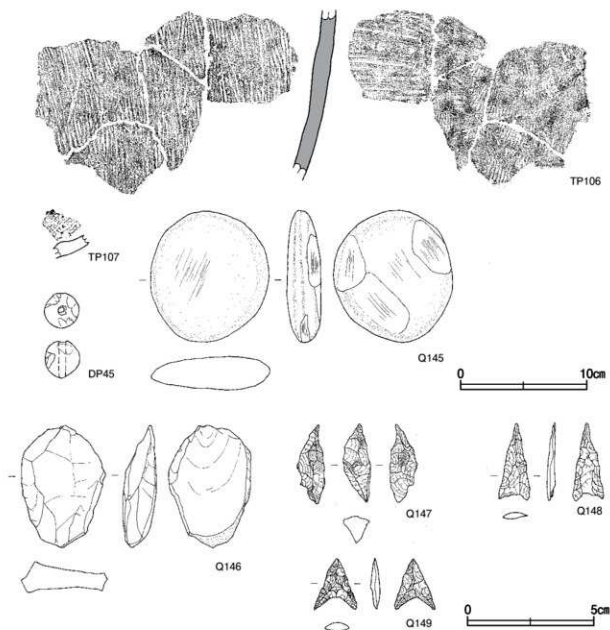
えられる第11号道路跡が覆土第1層上に構築されており、中世後半までに包含層のほとんどは形成されていたと推測される。また、早期末葉から前期前半期の多量の縄文土器は、縄文前期に集落が拡大したことを現し、土師器・須恵器が混在して出土していることは、平安時代以降にかなりの遺構が攪乱を受けたと想定できる。礫は、2272点出土しているが、焼けて赤変しているものが全体の14.3%、割れているもの20.2%、赤変し割れているものが33.9%を占めている。礫は古墳時代以降の住居跡の覆土からも流れ込んだ状況で出土しており、その多くは縄文時代早～前期のものと考えられる。また、この調査区は小字名で「石塔」と呼ばれる区域であり、中世後半頃にはすでに石塔が並ぶ墓域であった可能性が推測されるが、中世の墓坑は確認されておらず、石塔の並ぶ参り墓であった可能性が推察される。中世の墓域から礫や石塔が検出されている事例は、当道路から3kmほど北、同じ桜川右岸の台地縁辺に位置している松原遺跡内で確認されているが、本遺構との関連については不明である。



第589図 第1号遺物包含層出土遺物実測図(1)



第590图 第1号遺物包含層出土遺物実測図②



第591図 第1号遺物包含層出土遺物実測図(3)

第1号遺物包含層(第589～591図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・施装	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1321	縄文土器	深鉢	—	(9.0)	—	長石・石英・雲母 にぶい黄橙	普通	底部片	体部内・外面ナテ	覆土中	早期中葉
1322	土師器	坏	—	(4.1)	4.7	長石・石英・雲母・赤色砂子	明黄釉	普通	外面摩滅のため調整不明	覆土中	30%
1323	土師器	高台付碗	[150]	6.6	(6.0)	長石・石英・赤色砂子	黒・浅黄橙	普通	高台胎付 口辺部を除き内・外面摩滅 内面磨き	G1045区1面	40%
1324	土師質土器	皿	8.3	1.6	5.6	長石・石英・雲母・赤色砂子	浅黄橙	普通	内・外面口ロナテ 底面回転糸切り 見込にくり込み	G1045区1面	95%
1325	磁器	皿	[106]	(2.2)	—	精良 透明釉	灰白・緑灰	良好	口ナテ成形 内面に2本の輪 外面に華 文文々	G1045区1面	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴	出土位置	備考
TP77	縄文土器	深鉢	—	(5.4)	—	長石・石英・雲母・赤色砂子	靑	普通	横位と縦位の沈線文	G1042区1面	早期中葉 P1.119
TP78	縄文土器	深鉢	—	(5.8)	—	長石・石英・雲母・赤色砂子	橙	普通	口唇部に附み、縦位の沈線文	G1048区1面	早期中葉 P1.119
TP79	縄文土器	深鉢	—	(4.4)	—	長石・石英・雲母・赤色砂子	明靑	普通	斜格子の沈線文	G1065区3面	早期中葉 P1.119

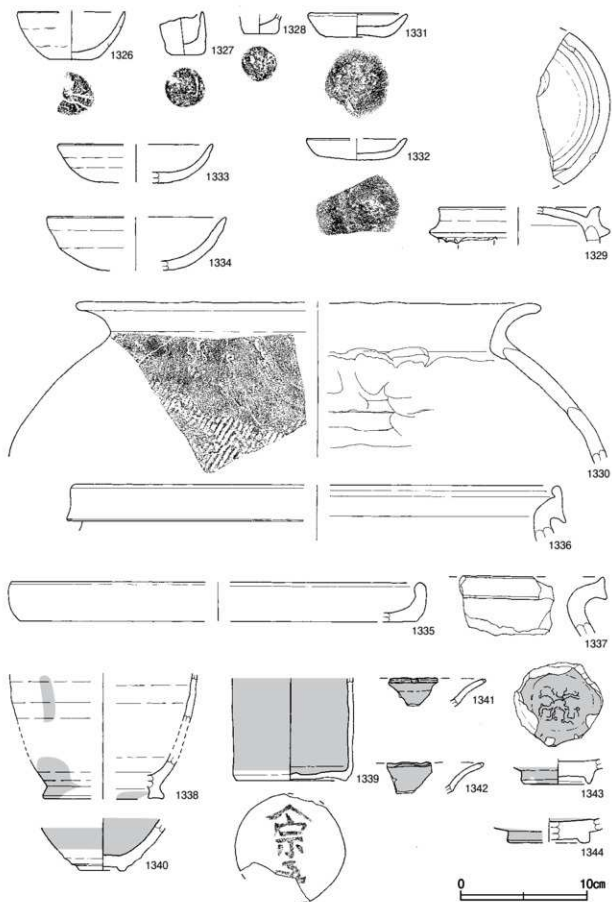
番号	種類	器種	口径	器高	口径	胎土・釉薬	色調	焼成	文様・手法の特徴	出土位置	備考
TP90	陶文土器	深鉢	—	(4.7)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐色	普通	口唇部に筋み、縦位の沈線文と刺突文	G10a8K	早期中葉 PL119
TP81	陶文土器	深鉢	—	(5.3)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	斜沈線文	G10b5J	早期中葉 PL119
TP82	陶文土器	深鉢	—	(7.1)	—	長石・石英・雲母	にぶい・褐	普通	斜行の沈線文	G10c3区2面	早期中葉 PL119
TP83	陶文土器	深鉢	—	(8.0)	—	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線文区画	G10b6区2面	早期中葉 PL119
TP84	陶文土器	深鉢	—	(6.3)	—	長石・石英・雲母・橙	黄褐色	普通	沈線文区画 区画内具段縁文	G10b4区2面	早期中葉 PL119
TP85	陶文土器	深鉢	—	(5.1)	—	長石・石英・雲母	浅黄	普通	短沈線文	G10c1区1面	早期中葉 PL119
TP86	陶文土器	深鉢	—	(6.8)	—	長石・石英・雲母	明褐色	普通	斜沈線文	G10b4区2面	早期中葉 PL119
TP87	陶文土器	深鉢	—	(8.9)	—	長石・石英・雲母・橙	明褐色	普通	沈線文区画	G10b6区3面	早期中葉 PL119
TP88	陶文土器	深鉢	—	(5.6)	—	長石・石英・雲母・橙	橙	普通	表面半環 沈線文	G10b6区2面	早期中葉 PL119
TP89	陶文土器	深鉢	—	(3.1)	—	長石・石英・雲母・橙	にぶい・橙	普通	口唇部に筋み、斜沈線文	G10b5区3面	早期中葉 PL119
TP90	陶文土器	深鉢	—	(6.6)	—	長石・石英・雲母	明褐色	普通	沈線文と平竹管による刺突文	G10b4区2面	早期中葉 PL119
TP91	陶文土器	深鉢	—	(5.6)	—	長石・石英・雲母	明褐色	普通	斜格子の沈線文	G10c4区2面	早期中葉 PL119
TP92	陶文土器	深鉢	—	(6.9)	—	長石・石英・雲母・緑礫	明黄褐色	普通	地文具段縁文 1口唇部筋み沈線文 刺突文	G10d1区1面	早期後葉 PL119
TP93	陶文土器	深鉢	—	(4.2)	—	長石・石英・雲母・緑礫	にぶい・黄褐色	普通	地文具段縁文 1口唇部筋み沈線文 刺突文	G10c1区2面	早期中葉 PL119
TP94	陶文土器	深鉢	—	(5.1)	—	長石・石英・雲母・緑礫	にぶい・黄褐色	普通	1口唇部沈線文 無段縁文 1施文	G10b5区2面	早期中葉 PL119
TP95	陶文土器	深鉢	—	(10.8)	—	長石・石英・雲母・緑礫	にぶい・褐	普通	表面面染灰文	G10c5区1面	早期末葉 PL119
TP96	陶文土器	深鉢	—	(5.3)	—	長石・石英・雲母・緑礫	にぶい・褐	普通	地文具段縁文 沈線文上全連続刺突	G10c5区1面	早期末葉 - 前期 PL119
TP97	陶文土器	深鉢	—	(5.4)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子・緑礫	にぶい・褐	普通	懸垂圧痕文 刺突文 円形竹管文	覆土中	前期末葉 土層不明 PL119
TP98	陶文土器	深鉢	—	(5.0)	—	長石・石英・雲母・緑礫	にぶい・橙	普通	地文具段縁文 沈線文上全連続刺突	覆土中	早期末葉 TP96と同一個体 PL119
TP99	陶文土器	深鉢	—	(5.5)	—	長石・石英・雲母・緑礫	明褐色	普通	地文具段縁文上沈線文 押花	G10c5区3面	早期末葉 PL119
TP100	陶文土器	深鉢	—	(9.7)	—	長石・石英・雲母・緑礫	赤褐色	普通	地文具段縁文 1口唇部筋み沈線文 具段縁による三角状の文様等	G10c5区1面	早期末葉 - 前期 PL119
TP101	陶文土器	深鉢	—	(12.9)	—	長石・石英・雲母・緑礫	明赤褐色	普通	地文上L、RLの筋状文、1口唇部筋み	G10c5区1面	前期 PL119
TP102	陶文土器	深鉢	—	(4.7)	—	長石・石英・雲母・緑礫	橙	普通	地文具段縁文 沈線文区画 竹管刺突文	G10c3区2面	早期後葉 期不明 PL119
TP103	陶文土器	深鉢	—	(5.9)	—	長石・石英・雲母・緑礫	明褐色	普通	懸垂圧痕文と筋み 懸状筋目 円形竹管刺突文	覆土中	前期末葉 花桶下層 PL119
TP104	陶文土器	深鉢	—	(12.5)	—	長石・石英・雲母・緑礫	褐	普通	表面具段縁文	G10c5区2面	前期 PL120
TP105	陶文土器	深鉢	—	(5.0)	—	長石・石英・雲母・緑礫	にぶい・黄褐色	普通	地文具段縁文 1口唇部筋み沈線文	G10c1区1面	前期 PL120
TP106	陶文土器	深鉢	—	(13.6)	—	長石・石英・雲母・緑礫	褐	普通	表面具段縁文	G10c4区1面	前期 PL120
TP107	陶器	罌	—	(3.0)	—	長石・灰釉	灰白・にぶい・黄褐色	良好	斜格子の押目	G10b5区1面	中葉

番号	器種	高さ	口径	幅	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DF45	球状土師	3.0	0.5	2.8	24.4	土製	面取後ナデ 一部傷有り	G10b6区	

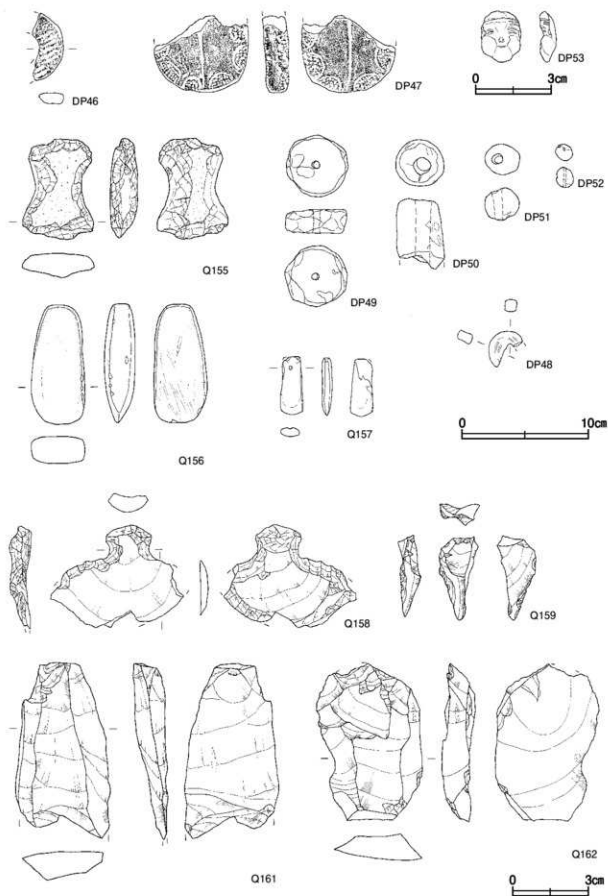
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q145	磨石	10.5	9.6	2.7	362.4	安山岩	円板形 全面研磨痕 磨面4面	覆土中	
Q146	網片	4.9	3.4	1.3	22.5	硬質安山岩	縦長網片 縁部に自然面を残す	G10c1区1面	
Q147	網片	3.1	1.1	1.1	2.9	黒曜石	縦長網片 断面三角形 縁縁部に調整	G10c5区4面	
Q148	石鏝	3.1	1.3	0.3	1.1	チャート	無葉 両面調整 縁縁部に微密な調整加工	G10b2区2面	PL120
Q149	石鏝	2.0	1.7	0.4	0.7	チャート	無葉 両面調整 縁縁部に微密な調整加工	G10c6区2面	PL120

(8) 遺構外出土遺物 (第592～594図)

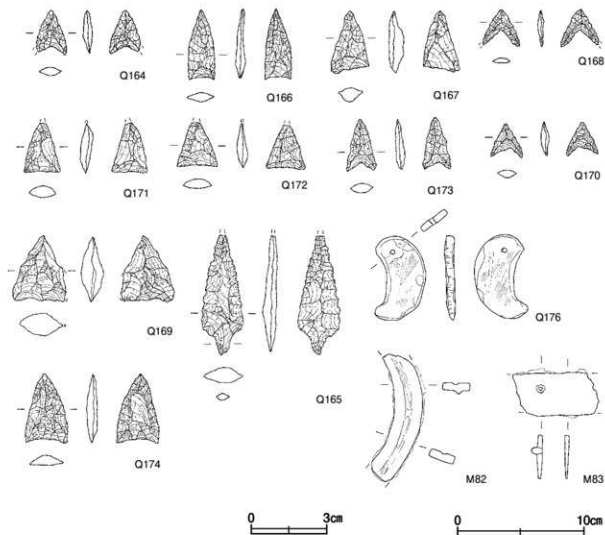
遺構に伴わない主な遺物については、実測図と出土遺物観察表で紹介した。



第592図 遺構外出土遺物実測図(1)



第593图 遺構外出土遺物実測図2)



第594図 遺構外出土遺物実測図(3)

遺構外出土遺物観察表 (第592～594図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1326	土師器	碗	[8.6]	(3.8)	3.4	赤母・赤色砂子	橙	普通	外面輪筋を残すナデ 内面丁寧なナデ 底面太直肌	SD245覆土中	25% 他に同器種4個体が出土
1327	土師器	ヒコキョウ土器	3.3	3.5	3.0	長石・石英・赤色砂子	橙	普通	内・外面顔面を残す丁寧なナデ	S85覆土中	95%
1328	土師器	ヒコキョウ土器	—	(1.6)	2.6	長石・石英	にぶい・黄陶	普通	内・外面ナデ	S85覆土中	70%
1329	須恵器	円皿	[12.8]	(2.9)	—	長石・石英	灰オリーブ	普通	縁部滑らか 側面ナデ 脚部に縦筋と方形彫	TM11覆土中	10%
1330	須恵器	甕	[36.9]	(12.7)	—	石英・雲母	靑灰	普通	口辺縁ナデ 体部外面斜位の縦筋 内面当て具肌 輪筋を残すナデ	SD28坑底	
1331	土師器土器	皿	7.7	1.9	—	赤色砂子	橙	普通	体部内・外面ナデ 底面丸底 底面ナデ調整	SD28覆土下層	90%
1332	土師器土器	皿	[8.0]	1.7	—	赤母・赤色砂子	橙	普通	体部内・外面ナデ 底面丸底 底面ナデ調整	SD28覆土中層	30%
1333	土師器土器	皿	[12.2]	3.0	—	黒色砂子	橙	普通	体部内・外面口タロナデ後内面ナデ 底面丸底	SD28覆土下層	35%
1334	土師器土器	皿	[14.4]	(4.3)	—	赤色砂子	橙	普通	体部内・外面口タロナデ後内面ナデ 底面丸底	SD28覆土下層	30%
1335	土師器土器	焙烙	[39.2]	3.1	[31.6]	長石・石英・赤色砂子・糠	黒陶	普通	内・外面ナデ	E1061～b6区トレンチ	
1336	陶器	甕	[38.6]	(4.4)	—	長石	暗灰黄	良好	口辺部片 内・外面横ナデ	SD47覆土中	常備系
1337	陶器	甕	[27.6]	(4.7)	—	長石・石英	にぶい・赤陶	良好	口辺部片 内・外面ナデ	SD245覆土中	常備系
1338	陶器	瓶	—	[10.7]	[9.4]	幽密 灰輪	灰白・灰オリーブ	良好	側り出し高台 ロクロ成形 外面に輪筋	SD245覆土中	10% 瀬戸・美濃系
1339	陶器	瓶	—	(8.2)	8.8	幽密 灰輪	灰白・明子グリーア灰	良好	体部下平から底部の破片 肩状 底部に凸名彫等 内・外面に輪筋	G8区	30% 瀬戸系
1340	陶器	天目茶碗	—	(4.0)	3.8	精良 輪輪	灰白・黒陶	良好	底部回転車切り底面り出し高台 底輪の後に輪筋を輪筋 器体に輪筋	底面	10% 瀬戸・美濃系

番号	種類	器種	口径	器高	口径	胎土・釉薬	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1341	青磁	皿	—	(24)	—	精良 青磁釉	灰白・浅黄	良好	輪花風の破片 口唇部内面に2条の沈線 表面に滑入	SI23甌土中	
1342	青磁	皿	—	(22)	—	精良 青磁釉	灰白・明緑釉	良好	輪花風の破片 口唇部内面にわずかに2条の沈線を施す 表面に貫入	L 4d2区	
1343	青磁	皿	—	(20)	50	精良 青磁釉	灰白・明緑釉	良好	破部破片 滑り出し高台 器口三角状 内面に文様 高台部は襷に施施	J 53d区	
1344	青磁	皿	—	(19)	(64)	精良 青磁釉	浅黄・灰青・灰青・アブルー	良好	底部破片 滑り出し高台 内・外面施施	K 4c2区	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP46	有孔円蓋*	(5.4)	(2.5)	0.9	(10.8)	土製	破片のため口径は不明 単脚縄文を施文	SD134甌土中	PL122
DP47	土版	(6.2)	7.5	2.1	(98.8)	土製	縁辺部に弧線区画 区画内刺突	SD134甌土中	安行3c式 PL122
DP48	挾状耳飾	(2.9)	3.0	1.0	(5.1)	土製	ナテ調整	K 4 d3区	PL122
DP53	泥団子	2.0	1.6	0.7	1.7	土製	ひよっこ面々 一部摩滅	L 3 g9区	

番号	器種	長さ	口径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP49	鉢鉢車	4.9	0.6	1.9	(54.5)	土製	側面取腹 全面ナテ 一部欠損	SD134甌土中	PL122
DP50	管状土鉢	(6.6)	1.2~1.4	3.7~3.9	(77.5)	土製	全面ナテ 50%ほどの破片々	SD209確認面	
DP51	球状土鉢	2.7	0.6~0.9	2.5~2.8	16.6	土製	全面ナテ 一部摩滅	H1045区	PL122
DP52	球状土鉢	1.7	0.3	1.5	(2.5)	土製	全面ナテ 一部欠損	H1045区	PL122

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q135	打製石斧	8.0	5.7	2.2	122.7	安山岩	分銅型 刃部摩滅	M 5 c1区	PL121
Q136	磨製石斧	9.5	4.3	2.5	183.4	安山岩	側面に擦痕	SK943甌土中	PL121
Q137	磨製石斧	4.6	1.7	0.8	(11.0)	滑石	模造品々 柄の部分にわずかな凹 柄の先端欠損	SI21甌土中	PL121
Q138	石砲	(4.1)	(5.3)	0.9	(11.7)	チャート	両端部欠損 両面に潤滑痕を残し、両側縁及び基部は両面から調整	SI27甌土中	
Q139	網片	3.3	2.0	0.8	1.9	硬質安山岩	縦長網片 両側縁部に潤滑調整	SI61甌土中	PL121
Q160	網片	6.2	1.8	1.0	4.1	珪質頁岩	縦長網片 網片刀形 背面中央に接せもつ	SI18甌土中	実測図なし PL121
Q161	網片	(7.0)	3.8	1.5	(23.0)	珪質頁岩	縦長網片 先端部欠損 両側縁部に潤滑調整	SI18甌土中	PL121
Q162	網片	(6.2)	4.2	1.4	(28.5)	珪質頁岩	縦長網片 先端部欠損 片側縁部に潤滑調整	G 5 05区	PL121
Q163	石核	7.2	5.2	3.7	113.7	珪質頁岩	打面 1面に擦痕を残す	PG63d	実測図なし PL121
Q164	石鏝	(1.7)	1.2	0.4	(0.5)	チャート	無基 片側部先端部欠損 両面調整 側片部に緻密な調整加工	SI15甌土中	PL120
Q165	石鏝	(4.7)	1.7	0.6	(3.3)	硬質頁岩	有基 先端部欠損 両面調整 側片部に緻密な調整加工	SI25甌土中	PL120
Q166	石鏝	2.8	1.1	0.4	1.0	チャート	無基 両面調整 側片部に緻密な調整加工	SI26甌土中	PL120
Q167	石鏝	2.5	1.4	0.6	1.9	硬質安山岩	無基 肥厚型 両面調整 側片部に緻密な調整加工	SI29甌土中	PL120
Q168	石鏝	1.5	1.5	0.2	(0.3)	チャート	無基 両面調整 側片部に緻密な調整加工 片側部先端部欠損	SI34甌土中	PL120
Q169	石鏝	2.6	2.1	0.9	(3.6)	硬質頁岩	無基 肥厚型 両面調整 側片部に緻密な調整加工	SI37甌土中	PL120
Q170	石鏝	1.4	1.3	0.3	0.3	チャート	無基 両面調整 側片部に緻密な調整加工	SI75甌土中	PL120
Q171	石鏝	(2.0)	1.5	0.6	(1.3)	麻織	無基 肥厚型 先端部欠損 両面調整 側片部に緻密な調整加工	SK703甌土中	
Q172	石鏝	(1.7)	1.6	0.4	(1.0)	チャート	無基 先端部欠損 両面調整 側片部に緻密な調整加工	SK703甌土中	PL120
Q173	石鏝	2.0	1.2	0.4	0.6	チャート	無基 両面調整 側片部に緻密な調整加工	SK1134甌土中	PL120
Q174	石鏝	2.7	1.7	0.4	2.0	チャート	無基 両面調整 側片部に緻密な調整加工	M 6 b1区	PL120
Q175	石鏝	(21.3)	(17.6)	8.2	(299.8)	安山岩	表面滑らか 表面1縁部と裏面底部に凹 門石転用々	SK780甌土中	実測図なし PL121
Q176	模造品	3.3	2.1	0.4	4.1	滑石	勾玉 一方から穿孔孔 孔φ0.2mm 全面磨削	SK1143甌土中	実測図なし PL121
Q177	磨製石斧	8.8	5.0	1.7	89.8	安山岩	表面滑らか 断面三角形 裏面に擦痕3小所	SI17甌土中	実測図なし PL121

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M82	陶跣	(10.2)	(4.0)	0.6~1.0	(63.1)	鉄	陶跣の一部 中央部に溝 釘孔跡により繋がる	SD227甌土中	PL123
M83	刀	(6.9)	3.4	0.4	(17.7)	鉄	基部のみ遺存	SD227甌土中	
M84	メダル	2.4	0.25	0.4	3.2	銅々	上部突起に線をかける孔 表「築東村」記号 裏面裏面が交差 左腕の腕 中央に十字記号 裏面から彫刻痕のもの々	表採	実測図なし PL123

第4節 ま と め

今回の調査で、上野古屋敷遺跡が旧石器時代から近世までの複合遺跡であることが確認された。ここでは、周辺遺跡との関連を踏まえて各時代ごとの様相の概要と、第1号墳の周溝内土壌1から出土した埴輪について述べ、まとめとする。

1 各時代の様相について

(1) 旧石器時代

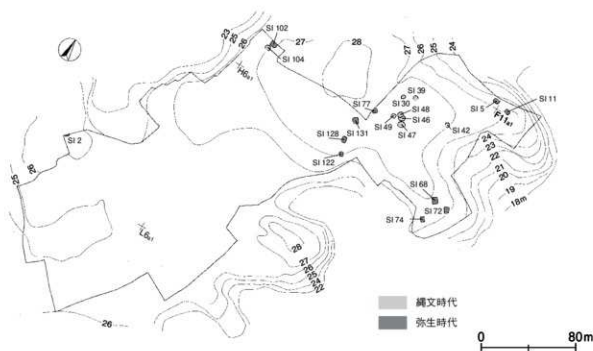
この時代の遺物は、ローム層が比較的厚く堆積している標高26～28mのやや標高の高い調査区北東部及び東部の遺構確認面と第1号石器出土地点から主に確認されている。石材は硬質安山岩と頁岩が中心で、調査区中央部の遺構確認面で珪質頁岩の石核1点が採集されているほかは、いずれも剥片である。石材の特徴は、谷を挟んで北西100mほどの地点に位置している上野陣場遺跡で確認されている石材の様相と同類である¹⁾。このことから、谷を挟んだ両台地上では、この時代の生活の痕跡が確認されている。

(2) 縄文時代 (第595図)

遺構は、竪穴住居跡8軒(前期前半7、中期後葉1)、土坑2基(早期後葉1、前期前半17、前期後半1、中期中葉3)が確認されている。第104号住居跡が調査区西部の北端部に確認されている以外は、いずれも調査区北東部の標高27～28mの範囲から確認されている。確認された遺構は削平などの擾乱を受けて遺存状況が不良なため、住居跡の傾向や集落の特徴付けは困難である。出土した遺物は、早期中葉～後葉、前期前葉～前期後葉、中期中葉～中期後葉の3期に大別される。遺物は当該期の遺物のほか、第1号遺物包含層や表面採集、さらに後世の遺構からも早期後葉から前期前半にかけての土器を中心に磨石・石鏃・石斧などが確認され、後世の擾乱が激しかったことが推測される。遺構は確認されなかったが、早期中葉の土器が第1号遺物包含層を中心に数多く出土していることから、この時期には小規模な集落が形成され、遺構数や遺物の出土量から前期前半頃には小規模ながら集落が展開していたと想定される。そして中期には、当遺跡の北側に隣接する上野天神遺跡が中心的な遺跡に比定されていることから、当遺跡を含めた集落が前期に比べ、北側の台地縁辺部に移動して展開していたと推察される。上野陣場遺跡でも、同時代の竪穴住居跡8軒(前期前半6、前期後半1、中期後半1)、土坑8基(前期前半3、前期後半1、中期中葉2、後期前半1、縄文期1)と幅広い期間で遺構と遺物が確認されている²⁾ことから、谷を挟んだ台地上にも小規模な集落が点在していたと考えられる。さらに、当遺跡の南東に近在縄文土器片の散布が確認されている上境作ノ内遺跡や南東方向約1kmの地点に所在している中・後期を主体とした上境旭台貝塚と中根中谷津遺跡を合わせて、長期間に台地縁辺部を中心として集落が展開していたことが窺える³⁾。

(3) 弥生時代 (第595図)

弥生時代には後期の竪穴住居跡11軒が確認され、集落が沖積低地と谷津により近い台地縁辺部に形成されていたことが判明した。小規模な住居跡は方形、大型の住居跡は隅丸長方形を呈し、ほぼ中央部に炉を構築している。第2号住居跡が調査区南部西端の調査区域外との境、また第102号住居跡が調査区西部北端の調査区域外との境に確認されている以外は、調査区北東部と中央部の北寄りと東寄りに2～4軒で単位集団を形成している。これらは、第5・11号住居跡、第68・72・74号住居跡、第77・122・128・131号住居跡でまとめられる集団である。これらの中で第68号住居跡は、炉の作り替えによる移設が確認されている。なお、第5号住居跡を除いて、出土土器は少量である。



第595図 変遷図1（縄文・弥生時代）

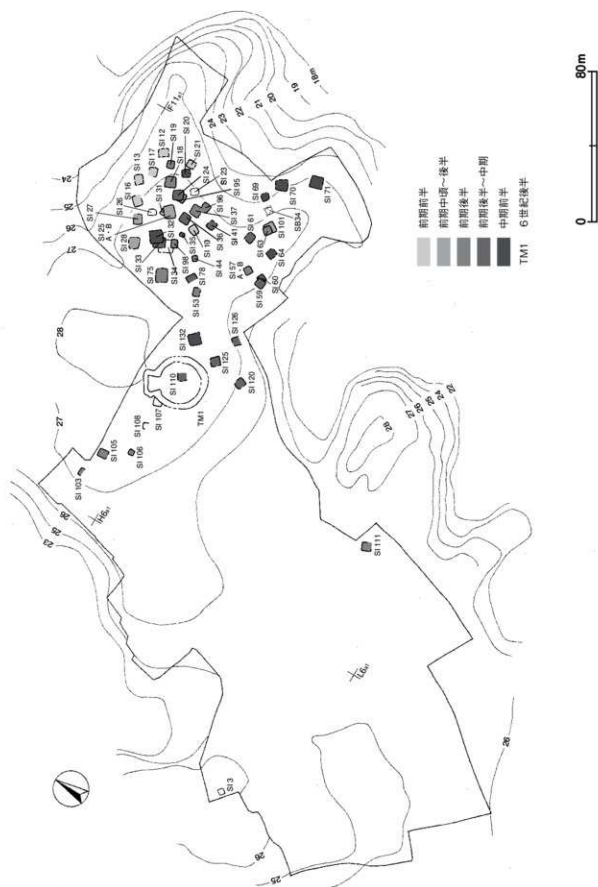
この時期も、上野陣場遺跡では後期後半の時期に比定されている竪穴住居跡5軒、土坑1基と数は多くはないが確認されており⁴⁾、縄文時代と同様に当遺跡との密接な関係が想定される。このほか、当遺跡が位置している台地上の北方1.5kmにも同時期の住居跡が検出された玉取遺跡・玉取向山遺跡が所在し⁵⁾、当遺跡の南東側に近在している上境作ノ内遺跡でも弥生土器の散布が確認されている⁶⁾。いずれの遺跡も小規模の集落と想定され、当遺跡と同様に台地の縁辺部、谷津を利用できる台地上に位置している。この時期、台地に入り込んだ低湿地の谷部は、谷津田として開発されていたものと推測される。

(4) 古墳時代（第596図）

当該期の遺構は、竪穴住居跡54軒、掘立柱建物跡1棟、古墳1基、古墳周溝内土壘2基、土坑2基が確認されている。弥生時代の集落との継続性については不明であるが、集落は大規模化して前期前半から中期前半頃までの期間で展開していたことが認められる。その様相は前時代と比べ、台地の縁辺部から標高27m以上のやや内側に入り込んだ地域を中心に密に展開している。ただ、この時代の遺構も耕作による削平や重複による擾乱などを受け、遺存状況が不良の遺構が多い。そのため、遺構の特徴を捉えることが困難であるが、住居跡を時期・単位集団ごとに大別して集落の変遷を述べていきたい。

住居跡を時期ごとに区分すると前期前半7軒（SI10・12・13・16・17・21・31）、前期中頃から後半にかけて5軒（SI25A・25B・27・28・101）、前期後半16軒（SI18・19・37・44・53・57A・57B・63・75・95・96・98・103・105・106・111）、前期後半から中期にかけて13軒（SI24・33・35・36・41・59～61・78・110・120・125・126）、中期前半7軒（SI20・32・64・69～71・132）であり、資料が乏しいため不明確であるが、第23・26・34・107・108号住居跡が前期、第3号住居跡は前期または中期と推測される。今回の報告する調査範囲の中で、縄文時代から平安時代までの集落の変遷において古墳時代前期が軒数と規模から盛期と言える。

前期前半の7軒は、調査区北東部中央にまとまって展開しており、住居間が4～8mと狭いものの住居跡の形態や遺物から第13・16・17号住居跡と第12・21・31号住居跡の単位集団にまとまると考えられ、



第596図 変遷図2 (古墳時代)

第10号住居跡は伊が確認されておらず、倉庫的な性格が指摘されている。遺存状況が不良なために前期に比定されている第34号住居跡は、配置的に第12・21・31号住居跡と同じ単位集団に属していた可能性が考えられる。前期中頃では、第25A・25B号住居跡は建て替えであるため実質1軒と考えることが妥当で、第27・28号住居跡と合わせて3軒である。第101号住居跡は単独で確認されているため、単位集団については不明確である。第25A号住居跡は建て替えされ、当遺跡で唯一ベッド状施設が確認されており、配置と出土遺物からも集団の中心となる住居跡と考えられる。古墳時代第3期にあたる前期後半は、最多の16軒の住居跡が確認されている。この時期に前後して存在するものと考えられるが、第18・19号住居跡、第37・95号住居跡、第44・53・75・98号住居跡、第103・105・106号住居跡、第57A・57B・63号住居跡の6つの単位集団にまとめることができる。しかし、第111号住居跡は、南東部の調査区域外に接する地点で単独で確認されているため不明確である。また、単独の第96号住居跡は出土土器が多く、東海系の上御器壺(136・137・140)が出土しており、当遺跡では特異である。第4期は、前期後半から中期前半にかけて13軒が相当する。第24・33号住居跡、第35・36・41号住居跡、第59・61号住居跡や、距離的に建て替えられた可能性が考えられる第110・120・125・126号住居跡などが、単位集団を形成していたものと推測される。第60・78号住居跡は遺存状況が不良のため、同じ集団の可能性が想定されるが不明確である。最終段階の第5期は中期前半で、相当するのは7軒である。第20・32号住居跡は単位集団と考えられ、第64・69～71号住居跡で1つまたは2つの単位集団を形成していたものと想定される。大きな集団からやや距離をおく第132号住居跡は、調査区域外を挟んで単独で確認されている。

遺物を見ると、炉器台が1点ずつ第13・16・44号住居跡から出土している。同型の類似するものは、下総・印旛地方に多く見られるもので異形器台とも呼ばれている⁷⁾。また、当遺跡としては、台付壺・S字口縁甕が少ないことが1つの特徴である。

当遺跡を含む台地周辺で確認されている古墳は数多く、同時期に展開していたであろう集落も古墳に相当した規模と数が存在したと考えられる。当遺跡の南東側に隣接する上境作ノ内遺跡(縄文・弥生・古墳時代)も複合遺跡とされているが、当集落との関連が想定される。しかし、古墳時代前期から中期にかけての集落の調査は、当遺跡周辺を含めた桜川流域右岸ではあまり調査されておらず、今後の調査と資料の蓄積を待ちたい。

当遺跡内では、6世紀後半に比定される第1号墳が築造されているが、集落跡は確認されていないことから、上野陣場遺跡周辺域が居住域ではないかと推測される。上野陣場遺跡では前期5軒、中期1軒の住居跡が確認されているが、古墳時代後期、特に6世紀後半に入ってから堅住居跡が飛躍的に増え、7世紀後半には減少するものの6世紀代から7世紀代にかけて74軒が調査され、掘立柱建物跡3棟、土坑1基を含めた集落跡が確認されている⁸⁾。上野陣場遺跡の調査範囲が、遺跡全体の4分の1ほどの範囲であることから、大集落であったと想定される。この上野陣場遺跡のほかにも、北西や西方1kmの地点に、同時期の柴崎遺跡・大山遺跡・大山西遺跡等が調査・確認されている⁹⁾ことから、いくつかの大集落が存在していたものと推測され、近接する古墳の規模と数とともに、当該台地上が盛期となる時期と言える。

(5) 奈良時代(第597図)

8世紀代になると、当該域は河内郡菅田郷に属し、筑波郡栗原郷に接する¹⁰⁾。南方2kmの地点には河内郡都衛(金田西・金田西坪B遺跡)、その西側に郡寺(九重東園庵寺)、さらにその西側には都衛と密接に関連する集落(東園中原遺跡)が位置している。当遺跡において当該期の堅住居跡は7軒確認されており、

8世紀前葉3軒(SI55・112・118)、中葉2軒(SI29・121)、後葉2軒(SI115・116)と小規模の集落が継続的に展開していたことが看取できる。後葉の第115号住居跡と第116号住居跡は25mほどの距離があるが、単位集団と考えることができる。前葉・中葉の同時期の住居跡は70m以上の距離があるため、単位集団と認めるのは困難である。また、集団を構成していた住居跡は攪乱のため確認できなかったが、調査区域外に所在している可能性も推測できる。8世紀前葉の住居跡3軒は、いずれも一辺が4mを超える規模の住居跡であるが、中葉以降は規模が縮小し、第116号住居跡を除いて一辺が3mほどとなっている。また、いずれの住居跡も遺物の遺存率が不良で小片が多く、第55・118号住居跡を除いて、いずれの住居跡も破片数は110点以下で、須恵器片が少ないことが特徴的である。第116号住居跡の須恵器片(遺物番号262)の内面には墨痕が確認できる。

上野陣場遺跡における奈良時代の遺構は、堅穴住居跡15軒、大形円形土坑3基が確認されている¹¹⁾。住居跡の規模は、一辺が4m前後が主体で、当遺跡との差はそれほどでもない。また、主軸方向も8世紀前葉は北西方向に傾き、中葉以降は北から北東方向に傾くものが多いが、規格性は認められず、当遺跡や柴崎遺跡と共通する傾向である。遺物では、8世紀前葉に比定される住居跡から円面硯1点、8世紀中葉に比定されている第1号大型土坑から50点を超す灰軸陶器と10点の緑軸陶器が出土しており、出土物から遺跡の中心は、上野陣場遺跡または柴崎遺跡周辺に移っていると推測される¹²⁾。当遺跡では、東岡中原遺跡や島名熊の山遺跡で確認されている規則性のある住居跡や掘立柱建物跡群は確認されていないが、当然ながら律令体制の一部に組み入れられていたと考えられる¹³⁾。

(6) 平安時代(第597図)

当該期の遺構は、堅穴住居跡27軒、掘立柱建物跡2棟、溝跡2条、土坑2基が確認されている。この時代も、奈良時代に引き続いて小規模の集落が継続的に10世紀中葉頃まで展開していたことが認められる。9世紀前葉または前半に比定できる住居跡は7軒(SI56・58A・58B・76・113・114・119)である。第58A・58B号住居跡は建て替えられ、1軒と捉えると3軒ずつ2単位の単位集団とすることができる。1つは第56・58A(58B)・76号住居跡で、他方は第113・114・119号住居跡である。9世紀中葉では第50・66・73号住居跡の1つの単位集団が確認されている。9世紀後葉に比定できるのは7軒で、2つの単位集団が確認できる。1つは第124・127・130号住居跡で、他方は第45・52・123号住居跡である。第124・127・130号住居跡の単位集団は、第45・52・123号住居跡の単位集団より先行していたと考えられる。東甕を有している第62号住居跡は、時間的に第124号住居跡の集団と近いと推測されるが、出土資料も限られているため詳細は不明である。

9世紀後葉から10世紀前葉にかけては、第15・54・65・129号住居跡の4軒が挙げられる。このうち、単位集団と認められるものは第54・65・129号住居跡で、いずれも東甕である。10世紀中葉では、第22・38・51号住居跡の3軒が、単位集団を形成していたものと考えられる。その他、調査区の端部に確認された第1・4・117号住居跡は、出土資料に乏しいため9～10世紀の時期と推測することにとどめる。また、柱穴の規模等から頼福などの一時的な貯蔵を目的とした簡易な倉庫と考えられる第33・35号掘立柱建物跡も、資料に乏しいため時期を明確にすることはできなかった。

住居跡の規模をみると長・短軸とも4mを超える住居跡は3軒のみ(9世紀前葉2・9世紀中葉1)で、他は一辺4m以下と小規模である。この傾向は、上野陣場遺跡や柴崎遺跡の住居跡群も同様であり、上野陣場遺跡では堅穴住居跡55軒、掘立柱建物跡1棟、土坑8基が確認されて、奈良時代同様に調査面積あたりの遺構数は、当遺跡に比べ密である。また、当該期当遺跡で確認されている灰軸陶器は1点、



第597図 変遷図3 (奈良・平安時代)

墨書土器は皆無であるのに対し、上野陣場遺跡では灰釉陶器39点、墨書土器5点、さらに腰帯具3点(鉸具、巡方、鉈尾)等が出土しており、集落は9世紀から10世紀後葉頃まで隆盛であったことが報告されている¹⁶⁾。

当遺跡で特出される遺物は、有耳壺2点が第124号住居跡(9世紀後半)、灰釉陶器1点(短頸壺)が第62号住居跡(9世紀後葉)からそれぞれ出土し、円面硯2点は遺構外から確認されている。また、両遺跡で確認されている須恵器坏は10世紀前葉まで使用が確認されている。その理由としては、当該地が新治須恵器窯跡群まで直線10kmの範囲に所在していることがあげられる。製品としては、東岡中原遺跡等で出土している土器に比べて良質のものとは言えず、一住居跡あたりの個体数も少なめである¹⁵⁾。

(7) 中世(第598・599図)

これまで当周辺域で中世の集落跡が確認されているのは柴崎遺跡だけであり、90軒の方形竪穴状の遺構が確認されている¹⁶⁾。当遺跡域で集落が再び営まれるのは、室町時代後半(戦国時代)に入ってからである。中世遺構と考えられるのは、掘立柱建物跡44棟、欄路3列、ビット群48か所、溝跡200条、道路跡11条、井戸跡47基、水溜遺構21基、廃棄土坑1基、方形竪穴遺構12基、地下式坑15基、墓坑27基、火葬土坑6基、土坑110基、土坑群2か所である。15世紀後半の時期と考えられる井戸跡、方形竪穴遺構、地下式坑、土坑や、15世紀後半から16世紀代の建物跡と推測されるビット群が確認されていることから、墓域を伴う集落が15世紀末には成立していたと考えられる。また、集落は16世紀代に入り拡大し、17世紀初頭には現在の上野地区の集落がある桜川寄りの緩斜面部に移動したと推察される。ここでは、集落跡について概観をして中世のまとめとした。

ア 集落の立地と土地の利用について

集落跡は、樹枝状に入り込んだ谷津に開析された馬の背状の台地上に位置している。台地の標高は、24～28mと高低差があり、谷部との標高差は8～10mで縁辺部のため北・東・西方向は斜面である。現在の集落は、桜川に向かった斜面に50数軒で形成され¹⁷⁾、台地に入り込んだ谷津は、谷頭からの湧水を

利用した水田であったが、現在は休耕田や荒地となっている。水の管理や耕地の拡大を考えると、湧水は重要であり、現在の上野地区や南に隣接する上境地区では、昔はこの湧水を生用水にも活用しており、現在でも、台地斜面部などからの湧水を利用して池州を設置している屋敷が認められる。湧水は谷部の農業には欠かせないものであり、上野陣場と上野古屋敷地区の境には、現在でも、人工の溜め池の上野池が地元の人々によって管理されている。隣の上境地区でも体見神社の周りに溜め池が認められるほか、この連続する台地縁辺部の谷部には現在でも溜め池が点在している。また、当遺跡周辺では、台地部の山林や畑地には墓が点在し、その数は10を超える。当遺跡の調査区中央部東側にある鹿島神社の入り口手前は、江戸時代後半の墓石が多数残る墓域となっている。谷部は谷津田、台地斜面部は宅地と畑地、斜面部の畑地から桜川の堤防までの沖積地は水田、沖積地の微高地は畑と宅地である。台地上は畑地が中心で、ローム層が薄く水の浸透や排水が悪い調査区の中央部南から南部は芝畑や陸稲畑、かつての桑畑で、北東部の傾斜は元桑畑の荒地である。表土（耕作土）が比較的薄い地区は耕作に適さず、一時期栗畑や葡萄畑に転作されていた。また斜面部は傾斜がきついため、土地の有効利用と土砂の流出を防ぐために、雑木林・杉林・竹林・笹竹の叢となっている。以上のことから、集落跡地としては、それほど農地に適した地所とはいえないが、台地のほぼ先端部にあることから防衛しやすい地区であったと考えられる。

調査区中央部の南から南部にかけては水が溜まりやすいため調査は困難な区域であったが、溝などが掘り進められていくうちに次第に水はけの良い土地となったと考えられる。この台地上から排水された水は、当時も灌漑用として利用されていたと想定され、耕地を拡大して、生産の安定を図る上で有用であったと推測される。

イ 集落の成立

15世紀後半頃、墓域と考えられる第1号土坑群や井戸跡（SE10・12・14～17・22・24・26～28・38・39・41・43・44）、方形竪穴遺構（SP1～3・6・7）、地下式坑（UP1・8～10）、墓坑（ST10・17・23）などの遺構が調査区全体に点在するように確認されていることから、散村的な小集落が成立していたのではないかと推測される。遺物は、土師質土器を中心に15世紀後半と考えられる遺構から出土しているほか、16世紀代の遺構からも確認されている。

ウ 集落の拡大

掘立柱建物跡の時期が16世紀代または16世紀後半に比定できることから、16世紀中頃には、軒数が増加して墓域を伴った集落へと展開したものと考えられる。16世紀中頃から後半にかけては、溝の掘り替えや掘り返し、木橋の付設（SD135・185・198・207・326・335）などが行われ、障子堀（SD123B・226A・306・325）などの防衛性のある溝に再構築していったと考えられる。

エ 集落の廃絶と移動

掘り方の断面形が逆台形の中規模以上の溝跡は、一部を除いてほとんどが人為的に埋め戻されており、その埋土の中には多量の土師質土器が廃棄されている。それらの中の第20・134・189・199A・300・306・325号溝跡等が代表的なものとしてあげられ、溝が埋められた時期が、当集落の廃絶期と考えることが妥当である。また、埋土に含有されている多量の粘土は、溝を掘削したときの土であり、それらの土は溝に沿って積み上げられ土塁や住居の壁土等に利用されていたものと推測される。廃絶と移動の時期は、小田氏が佐竹氏に降伏する1583（天正11）年以降、佐竹氏配下の梶原政景が入城し、1590（天正18）年小田氏氏が小田城奪回に失敗した頃と考えられる。廃絶と移動の理由としては、支配が小田氏から佐竹氏に

変わったことであり小田家支配下の土豪層は帰農したと考えられ、防御の必要性がなくなったことや戸数の増加などで耕地を増やし農業生産力を高める必要性などがあげられる¹⁸⁾。

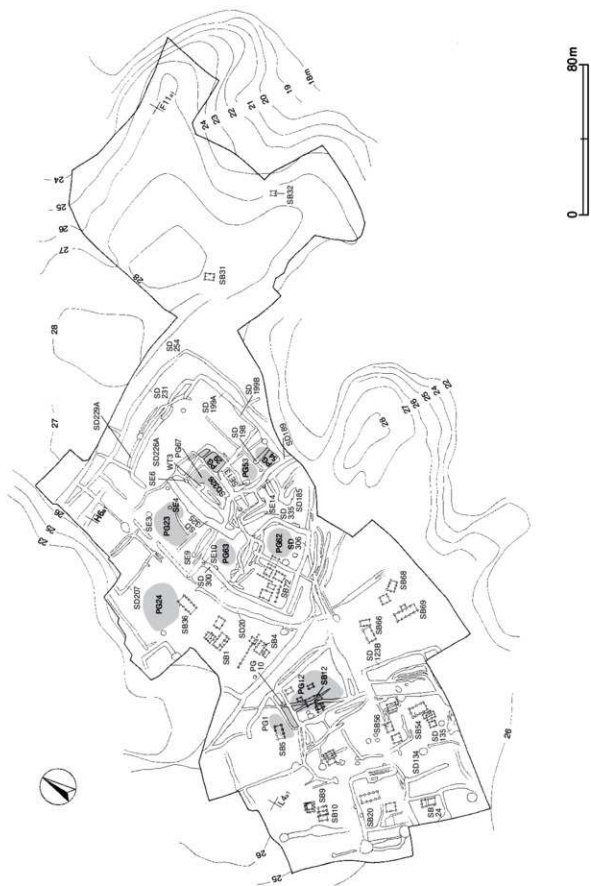
オ 集落の性格について

当集落を一般農民層の集落と想定するよりは、国人層（在地領主）よりやや身分が下で、小田城主と関係する武力を有した半武士・半農民の土豪層（有力農民層）を中心とした集落跡と想定される。その根拠の1つとして、防御を意識した集落の構成があげられる。それら集落の立地場所とクリーク状に掘削された溝、また「古屋敷」の小字名の調査区中央部を二重、三重にL字状に区画している溝区画、さらに障子堀、木橋の付設などである。さらに、埋葬形態や墓域から類推すると、北東部の第1号遺物包含層を中心に確認されている円礫は集石遺構のものかは明確ではないが、笹生衛氏の言う国人的な武士層の存在や、火葬土坑や五輪塔・宝篋印塔などの出土は、武士階級の存在を暗示する資料である¹⁹⁾。また、狭い範囲で見れば、上層農民主導型墓域や農民層屋敷・垣内墓型墓域が存在した可能性も想定できる。出土遺物では、威信財と考えられる鉄軸の瓶子、青磁碗、青磁皿、青磁壺、白磁皿、白磁杯や飲茶の習慣を示す天目茶碗や茶釜、茶白などの出土もその根拠となる。また、確認された鉄製品類の数は極少数であるが、検出された砥石の数は溝跡からだけでも129点と極めて多く、鍛冶を想定できる羽口や鉄鋸も出土しており、鉄製品を豊富に保持していたと考えられる。

次に地名から類推すると、小字名「古屋敷」が現在に残るほか、隣接する小字名には「堂ノ前」・「石塔」・「欄ノ内」・「作ノ内」・「勢至前」、近隣には「陣場」と言った小字名が残っている。「堂ノ前」や「勢至前」は仏堂の存在が想定でき、「欄ノ内」は欄の内外の区画、「石塔」は石塔が並ぶ参り幕の存在、「陣場」は人馬を揃える陣場の存在など、相互に関連する施設が存在が想定される。立地の観点から見ると、桜川の低地に面する台地上に位置しており、同じ台地の縁辺部の南方約2kmに位置している小田家の有力家臣沼尻家の金田城との関連も想定される²⁰⁾。また、当集落は小田城まで6kmほどであり、金田城と小田城を直線に結ぶ線上に位置し、小田家配下の田土部館や斗利出（元は磐）城が桜川を挟んだ対岸に所在している。当集落からは小田城の動静は容易に確認することが可能であり、小田家の家臣で、小田家滅亡後帰農したと伝えられる太塚家は、当台地から北方1.5kmほどにある低地集落に屋敷を構えている²¹⁾。また小田家と関係の深い北斗寺は、太塚家北側の集落北辺に位置しており²²⁾、16世紀末の集落廃絶と移動は、小田氏が佐竹氏によって駆逐された時期とほぼ重なると考えられる。当集落出土の皿類は、小田城発掘調査の第1面（最上遺構面）で確認されている土師質土器（皿類）と極めて類似点が多く認められる²³⁾。

カ 屋敷域について

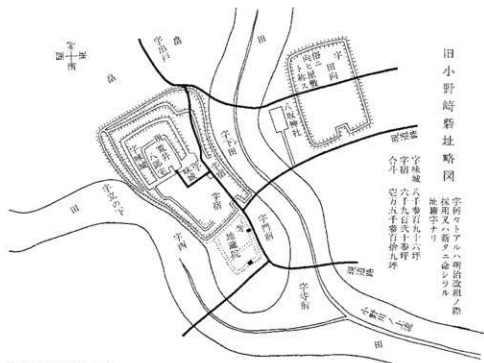
一単位の居住区としての屋敷域には、居宅とそれに付随する納屋的な倉庫または副屋等の建物、井戸、そして、近くには当遺跡としては特徴的な洗い場的な作業場があったものと想定される。居宅と考えられる建物跡は、小規模のものが桁行2間、梁行1間で、最大のものが第36・69号掘立柱建物跡で桁行5間、梁行1間である。屋敷域を区画する溝があるが、方形や長方形に囲まられた溝は見あたらず、多くはL字状に配置した溝を組み合わせて区画していたと考えられる。かつて、調査時に伺った古老の話では「16世紀の終わり頃は16軒ほどの集落で、順次現在のところへ移り住んだ」ということである。溝による区画を手がかりに井戸を備えた居宅の数を数えると、建て替えを除いておよそ13単位の大きなまとまりが確認できる。すなわち、第1号掘立柱建物跡を中心とした単位のほか、第4号掘立柱建物跡、5号掘立柱建物跡、第9・10号掘立柱建物跡、第12号掘立柱建物跡、第19号掘立柱建物跡、第20号掘立柱建物跡、第24号



第598図 変遷図4（中世）

掘立柱建物跡、第36号掘立柱建物跡、第54号掘立柱建物跡、第56号掘立柱建物跡、第66・68・69号掘立柱建物跡、第71・72号掘立柱建物跡をそれぞれ中心とした単位である。第5号掘立柱建物跡は単独であるが、重複や隣接が見られる第1・10号ピット群域に関連する施設があったと推測され、第36号掘立柱建物跡も第24号ピット群域に関連する施設があったと推測される。前述した13のまとまりのほか、倉庫または副屋的な建物跡と考えられる第13～18号掘立柱建物跡の所在する第12号ピット群域、第3・4・9号井戸跡と重複している第23号ピット群域、第6号井戸跡・第3号水溜遺構と重複している第67号ピット群域、第13・17号井戸跡と重複する第53・54号ピット群域にも、居宅に相当する建物が存在して屋敷域を形成していたと思われる。なお、単独で倉庫または副屋的な建物跡として確認されている第31・32号掘立柱建物跡については、資料が乏しいため不鮮明である。

屋敷域として詳細な検討ができず、集落の時期ごとの明確な変遷については言及できないが、溝の形状や規模、または出土している遺物の量と性格から考えると、明らかに「古屋敷」の小字名が残る調査区中央部がこの集落の中心域と考えることができる。特に、中心部と考えられる部分に確認されている第29・53・54・67号ピット群付近は、掘立柱建物跡は確認されていないものの、北側に大きく三重（外からSD254、SD231・254、SD199A・199B・226A・229A）に溝が巡っており、第599図の館跡と比較しても、それに匹敵するような屋敷域の存在が推定される²⁴⁾。



第599図 旧小野崎砦跡略図

(8) 近世以降

17世紀以降は耕地となり、畑地となっている台地上の一部は座棺の墓坑が20基検出されていることから、墓地として利用されたことが認められる。近代になって墓地の一部は集落のある斜面や低地へと移動していったものの、畑地や山林の中に墓地が点在し、その景観が現代まで残り、中世後半の溝跡や道路跡の一部もそのまま地籍の境となっている。また、桜川下流域は土浦城を守る氾濫原となったことから、河

川改修や堤防の整備に伴い、移動先である集落が面する低地は新田として開発が進んだものと考えられる。一方、上野陣場遺跡も、中世遺構の火葬施設1基や近世の埋葬の墓坑4基などが確認されている²⁹⁾ことから、当遺跡と対峙する上野陣場遺跡の中・近世は、主に畑地・墓域として土地利用されていたと考えられる。

2 埴輪棺について

第1号墳の周溝を掘り込んでいる周溝内土壌1から、2個体の円筒埴輪を使用した埴輪棺が確認されている。埴輪棺については、埴輪棺の埋設場所や構成、そして副葬品等を検証することで、被葬者の階層や被葬墳の主体者との関係を想定することができる。しかしながら、被葬者の年齢差や、洗骨葬か拾骨葬であったかなどの埋葬方法によって、明らかにされない部分が多い。また、転用棺は、群集墳の中で検出される例が多く、複数検出されることもあることから、階級的な側面や土師氏のような専門職種の工人集団との関係も推測されている³⁰⁾。ここでは、茨城県で確認されている埴輪棺について集成してまとめとする。

語屋政得氏は、埴輪棺を以下のように分類している²⁷⁾。氏の分類に従って、県内の事例を列記する。

(1) 埴輪棺の2分類

- ① 形や質は埴輪によく似ているが、はじめから棺として作ったもの
- ② 円筒埴輪をそのまま利用したもの。その他の埴輪棺があてはまると考えられる

(2) 棺の構成の3分類

- ① 棺の主体部が1個の円筒であって、前後の両口を土器片や笠状の器でおおったもの
- ② 棺の主体部が2個の円筒からなり、あるものは挿入式、合口式になっているもの
- ③ 棺が埴輪円筒をそのまま利用しているもの

(3) 埋葬場所についての2分類

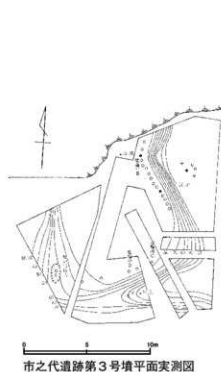
- ① 棺自体が主体部として埋葬されたもの
- ② 前方後円墳の前方部あるいはくびれ部などの中心を離れた場所、または墳丘の裾部や外堤部などの周辺部に埋葬されたもの。陪葬といわれる状態

以上の分類基準から、県内で周知されている例をまとめると下記の表となる。

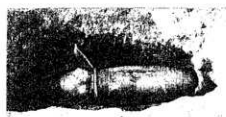
	(1) 埴輪棺の2分類	(2) 棺の構成の3分類	(3) 埋葬場所についての2分類
①	髭釜遺跡出土棺 舟塚山古墳出土棺	髭釜遺跡出土棺	髭釜遺跡出土棺
②	高崎山古墳群墳出土棺 貝塚古墳付近出土棺 市之台遺跡出土棺 松延古墳群出土棺 東山稲荷古墳出土棺 北条中台遺跡出土棺 実穀寺子古墳群出土棺 上野古屋敷遺跡出土棺	舟塚山古墳出土棺 高崎山古墳群墳出土棺 貝塚古墳付近出土棺 市之台遺跡出土棺 松延古墳群出土棺 東山稲荷古墳出土棺 北条中台遺跡出土棺 上野古屋敷遺跡出土棺	舟塚山古墳出土棺 高崎山古墳群墳出土棺 貝塚古墳付近出土棺 市之台遺跡出土棺 松延古墳群出土棺 東山稲荷古墳出土棺 北条中台遺跡出土棺 実穀寺子古墳群出土棺 上野古屋敷遺跡出土棺
③		実穀寺子古墳群出土棺	

髭釜遺跡第4号方形周溝墓例は主体部と考えられ、副葬品として34個の白玉を伴い、他の埴輪棺と性格が異なることが認識でき、時期は古墳時代前期である。舟塚山古墳例は、大形円筒の特別製の棺であり、埴輪裾部から出土しており、葬墓の被葬者と関係のある人物を追葬したものと考えられる。埴輪の時期は、5世紀末から6世紀初頭である。そのほかの埴輪棺は円筒埴輪の転用棺で、時期も6世紀代である。実穀寺子古墳群第8号墳例は、主体部の可能性があることが報告されているが、やや小さめの朝顔形円筒埴輪1個体を転用して埴輪裾部に埋葬したもので、追葬したものと考えられる。古谷毅氏は、「5世紀前半までの埴輪棺は棺用の特別な埴輪棺を使用していることが多く、髭釜遺跡の埴輪棺はその例の一つで、副葬品も重要である。この時期以降からは転用棺が多くなる。リーダー（葬墓の被葬者）は特製棺を使用し、主体部に埋葬される。一方、陪葬者層のものは転用棺を使用し、埴輪の裾部等に埋葬される。これは5世紀半ば以降に見られる傾向である。」とし、「埴輪棺の設置（埋置）の仕方もある必要がある。主軸方向については古墳と同じであるか、周溝と同じであるか、棺を埴輪や土器の破片によってふさいでいるか、意図的に割った形跡があるか、棺として手を加えた形跡があるか。それらを見極めないと、不必要な復元をしてしまい、情報を消すことになる。出土した土坑の底面に粘土が張ってある場合もあり、調査時の観察と記録が大切である。」と指摘している²⁹。

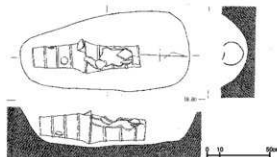
当遺跡内で確認された埴輪棺は、2個体の円筒埴輪をそのまま利用したもので、合口式である。この例は、外堤部などの周辺部（周溝内土壌）に埋葬された分類であり、陪葬といわれる状態である。以上のことから、この埴輪棺は、陪葬者層を埋葬したものと考えられる。このほか、周溝内土壌1に対して縦に配列した周溝内土壌1基も確認されている。これら周溝内の土壌内に棺材などは確認されておらず、追葬・陪葬遺構として埴輪裾部や周溝内を掘り込んだ土坑²⁹や主体部と同じ主軸方向の周溝外土坑が確認されている例も、近年報告されている³⁰。埴輪棺との比較検討からも、今後の事例の増加を待ちたい。



市之代遺跡第3号墳平面実測図

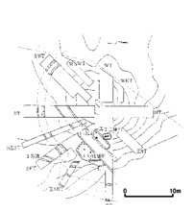


髭釜遺跡第4号方形周溝墓埴輪棺出土状況

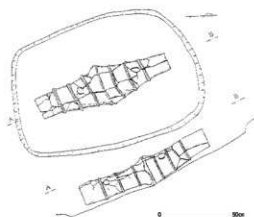


市之代遺跡第3号墳埴輪棺出土状況

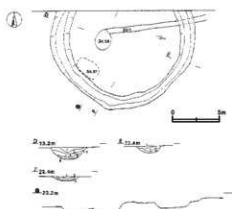
第600図 埴輪棺出土状況実測図(1)



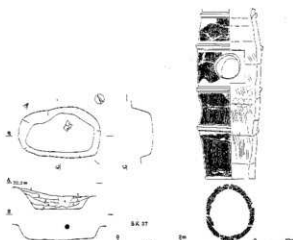
松延古墳群第4号墳平面実測図



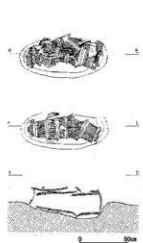
松延古墳群第4号墳埴輪棺出土状況実測図



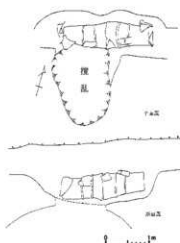
実穀寺古墳群第8号墳平面実測図



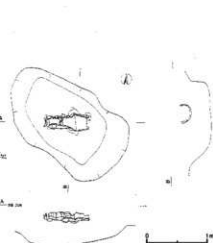
実穀寺古墳群第8号墳, 第37号土坑・出土埴輪実測図



東山稲荷古墳埴輪棺出土状況実測図



貝塚古墳付近発見の埴輪棺出土状況実測図



北条中台遺跡第61号墳埴輪棺出土状況実測図

第601図 埴輪棺出土状況実測図(2)

表41 茨城県内出土の埴輪箱一覧表

番号	遺跡・古墳名	所在地	埋没場所	土壌の風化	箱 身		遺物	その他の特徴	備 考
					構成	全長			
1	高城山古墳群小内墳	新治郡新治村	円墳 墳丘の裾部	不明	円筒2	不明	—	円筒は長さ60cm程度、3段の突起を持つ	(古墳・埴輪等の設置、調査年、調査者) 表長15cm、高さ12cmの小円筒 昭和52～53年度調査 (国史館 新治町史) 新治町史編纂委員会 1986年1月
2	秋葉遺跡 第4号方形周溝墓	茨城県那珂大洗町	第4号方形周溝墓 墳丘・主体部	長径11m、前部2m、後部2mの四方形、深さ不明	朝鮮半円筒1 (特異形)	88cm	白玉 3個	土壌は溝底面を10cm掘り込みで採取した。断面は厚さ約3cm、3段の突起と2段の凹部に覆われ、前口部は凹部と突起の差部を埋め、後口部は突起と凹部の差部で埋められている。前口部方向はS-30°Wと若干。	方形周溝墓は古墳調査 昭和53年度調査 表まのり(注2)より 昭和65年年度調査
3	鼻塚山古墳	石岡市高須	前方後円墳 前方部 墳丘の高麗形部	陣中に変見、南側深さ不明	大型円筒1 (特異形)	不明	—	高麗形は1m、断面は厚さ約3cm、3段の突起と2段の凹部に覆われ、前口部は凹部と突起の差部を埋め、後口部は突起と凹部の差部で埋められている。前口部方向はS-30°Wと若干。	古墳の風化は5世紀末～6世紀初期と推定(平嶋正彦「茨城県鼻塚山古墳の調査」『古代(159/60号)(1976年)』) まのり方法(注2)より
4	貝塚古墳群近 第3号墳	水戸市市原町	貝塚古墳群 第3号墳の北東部 高さ1.50cmの土壌から	【長径約6m、幅約1m】の45°傾斜内溝の土壌から	円筒2	96cm(全長) 187cm	—	2段の突起、中間に一段の窪みあり	6期周溝中層と推定 吉田浩一郎「貝塚古墳群」『水戸市史』1974年2月(水戸市教育委員会) 水戸遺跡発掘調査委員会 1983年3月 昭和61年度調査
5	北之代遺跡 第3号墳	取手市市之代	円墳 墳丘の裾部	長径122m、幅約536m 深さ0.21m	円筒2	84cm	—	長輪はほぼ南北に一致し、墳丘輪郭、車輪内輪とも一致する	6期周溝中層 昭和62年度調査 表まのり(注2)より 昭和60年度調査
6	松尾古墳群 第3号墳 単式古墳(石室)	かすみがら市志城	墳丘・第2主体部	長輪12cm、幅輪約92mの楕円長方形 深さ0.68m	円筒2	90cm	—	認め約5cm、口径約21cm、断面中径約15cm、壁厚約11cm、断面厚1cm	昭和62年度調査、昭和63年度調査、昭和64年度調査、昭和65年度調査、昭和66年度調査、昭和67年度調査、昭和68年度調査、昭和69年度調査、昭和70年度調査、昭和71年度調査、昭和72年度調査、昭和73年度調査、昭和74年度調査、昭和75年度調査、昭和76年度調査、昭和77年度調査、昭和78年度調査、昭和79年度調査、昭和80年度調査、昭和81年度調査、昭和82年度調査、昭和83年度調査、昭和84年度調査、昭和85年度調査、昭和86年度調査、昭和87年度調査、昭和88年度調査、昭和89年度調査、昭和90年度調査、昭和91年度調査、昭和92年度調査、昭和93年度調査、昭和94年度調査、昭和95年度調査、昭和96年度調査、昭和97年度調査、昭和98年度調査、昭和99年度調査、平成元年度調査、平成2年度調査、平成3年度調査、平成4年度調査、平成5年度調査、平成6年度調査、平成7年度調査、平成8年度調査、平成9年度調査、平成10年度調査、平成11年度調査、平成12年度調査、平成13年度調査、平成14年度調査、平成15年度調査、平成16年度調査、平成17年度調査、平成18年度調査、平成19年度調査、平成20年度調査、平成21年度調査、平成22年度調査、平成23年度調査、平成24年度調査、平成25年度調査、平成26年度調査、平成27年度調査、平成28年度調査、平成29年度調査、平成30年度調査、平成31年度調査、平成32年度調査、平成33年度調査、平成34年度調査、平成35年度調査、平成36年度調査、平成37年度調査、平成38年度調査、平成39年度調査、平成40年度調査、平成41年度調査、平成42年度調査、平成43年度調査、平成44年度調査、平成45年度調査、平成46年度調査、平成47年度調査、平成48年度調査、平成49年度調査、平成50年度調査、平成51年度調査、平成52年度調査、平成53年度調査、平成54年度調査、平成55年度調査、平成56年度調査、平成57年度調査、平成58年度調査、平成59年度調査、平成60年度調査、平成61年度調査、平成62年度調査、平成63年度調査、平成64年度調査、平成65年度調査、平成66年度調査、平成67年度調査、平成68年度調査、平成69年度調査、平成70年度調査、平成71年度調査、平成72年度調査、平成73年度調査、平成74年度調査、平成75年度調査、平成76年度調査、平成77年度調査、平成78年度調査、平成79年度調査、平成80年度調査、平成81年度調査、平成82年度調査、平成83年度調査、平成84年度調査、平成85年度調査、平成86年度調査、平成87年度調査、平成88年度調査、平成89年度調査、平成90年度調査、平成91年度調査、平成92年度調査、平成93年度調査、平成94年度調査、平成95年度調査、平成96年度調査、平成97年度調査、平成98年度調査、平成99年度調査、令和元年度調査、令和2年度調査、令和3年度調査、令和4年度調査、令和5年度調査、令和6年度調査、令和7年度調査、令和8年度調査、令和9年度調査、令和10年度調査、令和11年度調査、令和12年度調査、令和13年度調査、令和14年度調査、令和15年度調査、令和16年度調査、令和17年度調査、令和18年度調査、令和19年度調査、令和20年度調査、令和21年度調査、令和22年度調査、令和23年度調査、令和24年度調査、令和25年度調査、令和26年度調査、令和27年度調査、令和28年度調査、令和29年度調査、令和30年度調査、令和31年度調査、令和32年度調査、令和33年度調査、令和34年度調査、令和35年度調査、令和36年度調査、令和37年度調査、令和38年度調査、令和39年度調査、令和40年度調査、令和41年度調査、令和42年度調査、令和43年度調査、令和44年度調査、令和45年度調査、令和46年度調査、令和47年度調査、令和48年度調査、令和49年度調査、令和50年度調査、令和51年度調査、令和52年度調査、令和53年度調査、令和54年度調査、令和55年度調査、令和56年度調査、令和57年度調査、令和58年度調査、令和59年度調査、令和60年度調査、令和61年度調査、令和62年度調査、令和63年度調査、令和64年度調査、令和65年度調査、令和66年度調査、令和67年度調査、令和68年度調査、令和69年度調査、令和70年度調査、令和71年度調査、令和72年度調査、令和73年度調査、令和74年度調査、令和75年度調査、令和76年度調査、令和77年度調査、令和78年度調査、令和79年度調査、令和80年度調査、令和81年度調査、令和82年度調査、令和83年度調査、令和84年度調査、令和85年度調査、令和86年度調査、令和87年度調査、令和88年度調査、令和89年度調査、令和90年度調査、令和91年度調査、令和92年度調査、令和93年度調査、令和94年度調査、令和95年度調査、令和96年度調査、令和97年度調査、令和98年度調査、令和99年度調査、令和100年度調査
7	東山古墳群 第3号墳	茨城県茨城町下土	円筒4分の1前方後円墳 内輪部	長径634cm、幅約643cmの楕円形 深さ0.17m	円筒3	約78cm	—	車輪に変形部、西側に口部部一体部の突起部を置き、中央で車輪の口部部と挿入している	昭和65年12月一層調査 井上義安は小田嶋清(茨城町)と共同調査(昭和65年) 5人委員会 1965年11月 昭和61年度調査
8	鼻塚山古墳群 第3号墳	つくば市北条	墳丘・主体部	長輪22cm、幅輪12cmの楕円長方形 深さ0.45m	円筒2	75cm	最少量の骨片	知識を伴わないタイプの古墳	昭和62年度調査、昭和63年度調査、昭和64年度調査、昭和65年度調査、昭和66年度調査、昭和67年度調査、昭和68年度調査、昭和69年度調査、昭和70年度調査、昭和71年度調査、昭和72年度調査、昭和73年度調査、昭和74年度調査、昭和75年度調査、昭和76年度調査、昭和77年度調査、昭和78年度調査、昭和79年度調査、昭和80年度調査、昭和81年度調査、昭和82年度調査、昭和83年度調査、昭和84年度調査、昭和85年度調査、昭和86年度調査、昭和87年度調査、昭和88年度調査、昭和89年度調査、昭和90年度調査、昭和91年度調査、昭和92年度調査、昭和93年度調査、昭和94年度調査、昭和95年度調査、昭和96年度調査、昭和97年度調査、昭和98年度調査、昭和99年度調査、令和元年度調査、令和2年度調査、令和3年度調査、令和4年度調査、令和5年度調査、令和6年度調査、令和7年度調査、令和8年度調査、令和9年度調査、令和10年度調査、令和11年度調査、令和12年度調査、令和13年度調査、令和14年度調査、令和15年度調査、令和16年度調査、令和17年度調査、令和18年度調査、令和19年度調査、令和20年度調査、令和21年度調査、令和22年度調査、令和23年度調査、令和24年度調査、令和25年度調査、令和26年度調査、令和27年度調査、令和28年度調査、令和29年度調査、令和30年度調査、令和31年度調査、令和32年度調査、令和33年度調査、令和34年度調査、令和35年度調査、令和36年度調査、令和37年度調査、令和38年度調査、令和39年度調査、令和40年度調査、令和41年度調査、令和42年度調査、令和43年度調査、令和44年度調査、令和45年度調査、令和46年度調査、令和47年度調査、令和48年度調査、令和49年度調査、令和50年度調査、令和51年度調査、令和52年度調査、令和53年度調査、令和54年度調査、令和55年度調査、令和56年度調査、令和57年度調査、令和58年度調査、令和59年度調査、令和60年度調査、令和61年度調査、令和62年度調査、令和63年度調査、令和64年度調査、令和65年度調査、令和66年度調査、令和67年度調査、令和68年度調査、令和69年度調査、令和70年度調査、令和71年度調査、令和72年度調査、令和73年度調査、令和74年度調査、令和75年度調査、令和76年度調査、令和77年度調査、令和78年度調査、令和79年度調査、令和80年度調査、令和81年度調査、令和82年度調査、令和83年度調査、令和84年度調査、令和85年度調査、令和86年度調査、令和87年度調査、令和88年度調査、令和89年度調査、令和90年度調査、令和91年度調査、令和92年度調査、令和93年度調査、令和94年度調査、令和95年度調査、令和96年度調査、令和97年度調査、令和98年度調査、令和99年度調査、令和100年度調査
9	茨城寺古墳群 第3号墳	鹿嶋市阿見町実成寺	円墳 墳丘裾部・第2号墳	長径245cm、幅約160cmの楕円形 深さ0.45m	朝鮮半円筒1	95cm(全長) 155cm	—	墳丘の半径約120cmの円筒 周縁は上層約9～24cm、下層約14～09cm、深さ0.92～0.97m	6世紀後半、平成7～9年度調査 表まのり(注5)より 昭和61年度調査
10	上野古墳群 第1号墳	つくば市上野	単式古墳の前方後円墳 内輪部	【長径約6m、幅約1m】の45°傾斜内溝の土壌から	円筒2	84cm	—	長径約15cm、口径約15cm、断面厚約1.6cm、断面中径約1.6cmの2個体	6世紀後半 平成13年度調査 本巻P154～156に記載

3 小結にかえて

上野古屋敷地区を中心とした台地上は、縄文時代から中世まで断続的に集落が営まれ、旧石器時代から近世までの複合遺跡であることが判明した。今回の調査によって、古の人々の生活痕跡の一部を明らかにすることができたが、検討が不十分のため、その様相を明確にすることができなかったことも多く残っている。今後も当遺跡を含めた周辺域の調査や整理が継続されることから、当地区の様相が明らかになると考えられ、さらなる研究の進展を期待したい。

註

- 1) 川上直登・長谷川聡・大塚雅昭「上野陣場遺跡 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書V」『茨城県教育財団文化財調査報告』第182集 2002年3月
- 2) 前掲1)
- 3) a 茨城県つくば市教育委員会「つくば市遺跡分布調査報告書 - 谷田部地区・桜地区 -」2001年3月
b 川村満博「中谷津遺跡1 (仮称) 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第139集 1998年9月
- 4) 前掲1)
- 5) a 石橋克・関口友紀「玉取遺跡-火葬場建設に伴う発掘調査報告」つくば市教育委員会 2000年3月
b 奥沢哲也「玉取向山遺跡 県立つくば養護学校 (仮称) 整備事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第263集 2006年3月
- 6) 前掲3 a)
- 7) 高木宏行「印旛地域における古墳時代開始期の土器様相」『印旛都市文化財センター研究紀要』2 2001年3月
- 8) a 前掲1)
b つくば市教育委員会「つくば市内遺跡 - 平成12年度発掘調査報告 - 2001年3月 上境作ノ内遺跡内に所在している上境作ノ内古墳群第1号墳は平成12年度に調査され、当遺跡で調査されている第1号墳と同形態の軌立貝式の前方後円墳であり、括弧のほは中央部東寄りに主体部である石棺が検出されている。時期は同時期の6世紀後半と比定されている。また、当遺跡の第1号墳と同様に墳丘上には現代の墓域が所在しており前地権者が調査開始まで長年墓地として墓碑をたてて供養してきたことである。なお、本年度の調査区(中央部北側)で6世紀前葉に比定されている住居跡が確認されている。
- 9) 前掲3 a) では、近在している上境作ノ内遺跡(縄文・弥生・古墳時代に比定)、上野陣場遺跡と支管を挟んで隣接している大山遺跡(古墳、奈良・平安、中世に比定)・大山西遺跡(奈良・平安、中・近世に比定)は当遺跡と同様、周辺に古墳・古墳群が所在し、奈良・平安時代の遺物の散布が確認されている。
- 10) 桜村教育委員会「桜村の文化財」1983年3月 奈良の正倉院宝庫には「常陸国筑波郡栗原郷戸多治比口(里々)戸多比部家主輪瀧浦布台端一略…天平宝字七年十月」明記の献上された白布が現存している。前掲3 a) では、遺物の散布の状況と位置から栗原中台遺跡周辺が当時の栗原郷ではないかと想定している。
- 11) 前掲1)
- 12) a 土生朗治「研究学園都市計画桜葉崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ) 桜崎遺跡Ⅲ区」『茨城県教育財団文化財調査報告』第72集 1992年3月
b 前掲3 a) によると、上野陣場遺跡は隣接している上野中塚遺跡(昭和63年県教育財団による発掘調査、縄文、奈良・平安時代の遺跡)と一連の遺跡と考えられている。
- 13) 白田正子「常陸国河内郡内の律令期集落について」『領域の研究』阿久津久先生追悼記念事業実行委員会 2003年4月
- 14) 前掲1)

- 15) 白田正子・高野節夫・仲村浩一郎・島田和宏「中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 中原道跡3」「茨城県教育財団文化財調査報告」第170集 2001年3月
- 16) 前掲12a)
- 17) a 上野地区はテクノパーク桜(築崎道跡調査範囲)と接するところにも、1つのまとった集落があるが、ここでは、台地斜面部に所在する世帯数で、平成13年には55軒ほどであった。
- 18) a 茨城県県西地区文化財研究協議会「茨城県県西地区文化財研究協議会活動報告書」2005年3月 中世後半期の集落の移動の事例は数多く、代表的なものとして下妻市村岡(本屋敷道跡・仲道道跡 旧千代川村)、下妻市菅業(菅業道跡内字「古屋敷」・「本屋敷」旧千代川村)等があげられる。下妻市村岡地区・同市菅業地区の事例では、「新興農民層の台頭(村岡地区)・増加する農家のため屋敷地が手狭になったことや、村の西側にある共有地の林地(敷地)が他村の者の侵入を受け、雑木・竹などが盛まっていること(菅業地区、領主への願書による)などの理由があげられている。
- b 「菅業道跡発掘調査報告書」「千代川村埋蔵文化財発掘調査報告書」第9集 千代川村教育委員会 2003年3月
- c 前掲3)では、現在の土境地区は、上野地区と同様に台地縁辺に沿うように台地の斜面部から低地に沿って集落を形成しているが、上野地区が台地に沿って集落を営んでいたことに対して、板川奇りの沖積地の微高地に7軒ほどで集落を形成していたと言われている(現土境古屋敷道跡範囲)。
- 19) a 笹生衛「東国における中世墓地の諸相―形態の事例を中心に―」『研究紀要』16号 千葉県文化財センター 1995年 笹生衛氏は次のような類型化をしている。A 類型：武士層型墓域＝「蔵骨器を付随する火葬墓で集石造構と石塔や板碑を伴う」。B 類型：供養塔・寺院型墓域＝「大型板碑・供養塔の周辺もしくは寺院内境内に蔵骨器を有する火葬墓を中心として土壇突台墓・土壇墓で構成され、被葬者は僧侶層やそれに類した武士層で多くの板碑を伴う」。C 類型：土豪層主薄型墓域＝「少数の火葬土塔もあるが多数の土壇墓に地下式竈が付随し、多数の石塔・板碑を伴う」。D 類型：上層農民主導型墓域＝「多数の土壇墓を中心に火葬土塔・地下式竈を伴うが板碑が極端に少ない」。E 類型：農民層居墓・垣内墓型墓域＝「小規模で土壇墓の数が少なく板碑も極端に少ない」。
- b 当道跡で、六地藏石輪(轉身)が確認されている。六地藏宝輪とも言い、中世に盛んに作られた。つくば市内では栄小中学校(桜地区)前の道路側に、石なげ地蔵として置かれている。大穂地区では、吉沼インドク共同墓地・覚心寺・大拝寺に各1基ずつ確認されている。筑波地区では、小田龍勝寺に1基、平沢八幡神社に1基、また、県立歴史館にもつくば市の個人蔵の1基が設置されている。六地藏というのは、一般に墓地や寺の入り口、辻等に立つ一休もしくは六体の地蔵である。六地藏石輪は、六面の轉身に地蔵を配している(桜村教育委員会『桜村の民俗』1985年3月、大穂町史編纂委員会『大穂町史』つくば市大穂地区教育事務所 1989年3月、筑波町史編纂委員会『筑波町石造資料集』上巻 1983年3月、茨城県教育委員会『茨城の文化財』第43集 2005年3月より)。
- 20) 桜村史編さん委員会『桜村史 上巻』桜村教育委員会 1982年3月によると、強清水城とも言われ、金田官衙道跡の北方200mの台地縁辺部に所在している。小田氏滅亡後、城主沼尻又五郎は帰農したと言われ、子孫が金田集落に現存する。
- 21) 太塚家は江戸時代栗原地区の名主であり、祖先は太田道灌の系図を引くとも語られ、「太塚」ではなく、「太塚」と称している。『小田家風紀』には、別家と思われるが惣役の中に栗原大塚右衛門(五千二百石)の名が出ている。現存する太塚家住宅は18世紀前半のもので、国指定文化財になっている。
- 22) 茨城県教育委員会『茨城の文化財』第43集 2005年3月、桜村教育委員会『桜村の文化財』1983年3月によると、創建は弘仁12年(821年)と言われ、県指定文化財5点(いずれも中世、絵画3、書跡2)と小田城主小田氏治の肖像画を所蔵している。
- 23) a 広瀬季一郎『史跡小田城跡』―第50次調査(本丸跡確認調査Ⅴ)概要報告― つくば市教育委員会 2005年3月
- b 前掲20)によると、「土器塚」という地名は、小田氏支配時に土器作りの工人5人が居住したために、この地名がついたとされ、細地では土器片の散布が確認できる。また、近世前半の土師質土器の窯跡が、旧筑波町に所在している筑波銀首下道跡内で確認されており(『筑波古代地域史の研究』筑波大学 1981年)、小田城近辺には複数の窯跡があったものと推測される。

- 24) a 谷田部町史編さん委員会『谷田部町史 谷田部町教育委員会 1975年3月 第599回の「旧小野崎砦跡」はつくば市小野崎に所在し、戦国時代小田家家臣の荒井氏の館跡である。荒井氏は、小田氏滅亡後この地に帰農した。
- b 斎藤弘・進藤敏雄「北関東における中世集落について」『研究紀要』第3号（財）栃木県文化振興事業団埋蔵文化センター 1995年 本書の分類の在地領主層と有力農民層のはば中間にあてはまると推測される。
- 25) 前掲1)
- 26) 水沼貞浩「栃木県内発見の埴輪棺について」『栃木の考古学』埴輪夫先生古希記念論文集刊行会 2003年
本書では、塚山古墳群から11例の埴輪棺の出土例について。また、「広報ふじいでら」第327号では、大阪府藤井寺市から羽曳野市にまたがる古市古墳群内から80例を超える埴輪棺の出土について記載されている。
- 27) a 諸星政得・宮内良隆『市之代古墳群第3号墳調査報告』茨城県取手市教育委員会 1978年3月
b 藤井裕紀枝『第4号方形周溝墓』『ひいがま（長釜道跡調査報告書）Ⅲ ひいがま道跡発掘調査団 1976年3月
- 28) 2005年11月 茨城県教育財団整理第一課課内研修において、講師である古谷毅氏（独立行政法人「東京国立博物館」保存修復室主任研究員）に御指導を頂いた。
- 29) 浅野和久「実穀古墳群 実穀寺子道跡1 荒川本郷地区特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」『茨城県教育財団文化財報告』第144集 1999年3月
- 30) 本橋弘己「沢田古墳群 国道125号大谷バイパス建設事業に係る埋蔵文化財報告書Ⅰ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第276集 2007年3月

* 06600・601は、表41の備考に記載した文献から引用した。

茨城県教育財団文化財調査報告第285集

上野古屋敷遺跡 1

中根・金田台特定土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅹ

中 巻

平成19(2007)年3月19日 印刷
平成19(2007)年3月23日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL. 029-225-6587

印刷 富士オフセット印刷株式会社
〒310-0067 水戸市根本3丁目1534-2
TEL. 029-231-4241/0



付図 上野古屋敷遺跡1 遺構全体図
[茨城県教育財団文化財調査報告第285集]